令 和 5 年 度

授　業　概　要

（シラバス）

家政学部　家政学科

東 北 生 活 文 化 大 学

シラバス使用の手引き

シラバスは本年度開講されている科目の授業内容や年間授業計画などを，担当者ごとに説明しているものです。履修登録する科目を決める際や，受講に際しての準備や確認のために役立ててください。

【記 載 例】

① 科目名	⑦【科目ナンバリング】
② 単位（総授業時間＋自習時間）：	
③ 対象学科：	
④ 授業形態：　　学期：　　必・選：	
⑤ 履修科目：	
⑥ 担当者：	

◆ 授業の概要
◆ 授業の到達目票
◆ 学位授与の方針との関連
◆ 授業計画の内容
◆ 自習（事前・事後学習の内容）
◆ 履修上の注意
◆ 成績評価方法・基準
◆ 教科書
◆ 参考書
◆ 備考

【科目情報の見かた】

① **科目名**：授業科目名を記載しています。
② **単位（総授業時間＋自習時間）**：単位数，授業で学ぶ時間数と授業外で自習が求められる時間数を記載しています。
③ **対象学科**：対象の学科・専攻，学年を記載しています。
④ **授業形態／学期／必・選**：授業科目の形態を演習，講義，実験，実習，実技，集中で区分／授業科目の開講期間を前期，後期，通年で区分／必修科目，選択科目で区分し記載しています。
⑤ **履修科目**：大学共通教養科目，基幹科目，学科専攻科目，教職に関する科目，博物館に関する科目で区分し記載しています。
⑥ **担当者**：科目担当者の氏名を記載しています。
⑦ **科目ナンバリング**：各科目の学問上の分類やその科目が位置する学修の段階，順序等をあらわします。

大分類	中分類	小分類	科目番号	レベル	学年
A	1	a	01	1	1

大分類：学科・専攻の区分　　中分類：科目の区分　　小分類：科目群

A・・服飾文化専攻
B・・健康栄養学専攻
K・・大学共通

１・・大学共通教養科目
２・・基幹科目
３・・専攻科目
４・・教職に関する科目
５・・博物館に関する科目

項　　目	内　　容
授業の概要	授業全体の内容を記載しています。
授業の到達目標	カリキュラム全体における当該科目の位置づけと，授業の到達目標，授業のねらいは何で，受講生が何を修得し何ができるようになることを目指しているのかを示しています。 **※学位授与の方針との関連：次のページを参照ください。**
授業計画	到達目標を達成するために，具体的に何を学ぶのか，受講生が事前に内容を把握して授業に臨めるように，毎回の授業内容を記載しています。
自習（事前・事後学習）	事前：授業時間外の予習について記載しています。 事後：授業時間外の復習について記載しています。
履修上の注意	事前に獲得しておくべき知識・技能，履修した方がよい関係科目，或いは求められる受講姿勢について記載しています。
成績評価の方法・基準	最終的に成績評価がどのような形で行われるか，加味される要素を具体的に記載しています。 **ただし，総授業回数の１／３を超えて欠席した場合は，その時点で不合格となりますので注意してください。**
教科書および参考書	授業で使用するため，受講生が必ず購入しなければならないものを記載しています。 参考書籍がある場合，記載しています。

卒業認定・学位授与の方針（DP）

家政学部家政学科　服飾文化専攻

＜知識・理解＞

１．基礎的な知識・学習能力を身につけること。
２．社会人として幅広い教養と専門的な知識を身につけること。
３．家政学の体系を理解するとともに，被服分野における高度な専門知識を身につけ，その知識体系の意義と社会生活を関連付けて服飾文化を理解できること。

＜汎用的技能＞

４．社会に貢献できる専門的技能・コミュニケーション能力・論理的思考力を身につけること。
５．主に服飾産業における様々な分野で活躍するために必要となる技能・コミュニケーション能力・論理的思考力を身につけること。

＜態度・主体性＞

６．社会で自律的に活動するために必要な自己教育力・倫理観・責任感・生涯学習力を身につけること。
７．演習・実習・実験等の実践的授業を通して，主体性をもって社会で自律的に活動するために必要な倫理観・責任感・生涯学習力，チームワーク力を身につけること。

＜統合的な学習経験と創造的思考力＞

８．これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し，社会で自律的に活動できる能力を身につけること。
９．これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用し，自らが立てた新たな課題にそれらを適用し，その課題を解決する能力を身につけること。

家政学部家政学科　健康栄養学専攻

＜知識・理解＞

１．基礎的な知識・学習能力を身につけること。
２．社会人としての幅広い教養と専門的な知識を身につけること。
３．家政学の体系を理解するとともに,健康･栄養･食物分野における高度な専門知識を身につけ,その知識体系の意義と社会生活とを関連付けて理解できること。

＜汎用的技能＞

４．社会に貢献できる専門的技能・コミュニケーション能力・論理的思考力を身につけること。
５．医療･福祉領域における管理栄養士又は食品業界における健康･栄養の専門家として活躍するために必要な技能・コミュニケーション能力・論理的思考力を身につけること。

＜態度・主体性＞

６．社会で自律的に活動するために必要な自己管理能力・倫理観・責任感・生涯学習能力を身につけること。
７．演習・実習・実験等の実践的授業を通して，主体性をもって社会で自律的に活動するために必要な倫理観・責任感・生涯学習力，チームワーク力を身につけること。

＜統合的な学習経験と創造的思考力＞

８．これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し，社会で自律的に活動できる能力を身につけること。
９．これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用し，自らが立てた新たな課題にそれらを適用し，その課題を解決する能力を身につけること。

『実務経験のある教員による授業科目』一覧

〈家政学部家政学科　服飾文化専攻〉

科目名	担当者	科目名	担当者
キャリア開発Ⅰ	水谷　浩	被服学	菊地　紗代
キャリア開発Ⅱ	水谷　浩	スタートアップソーイング	菊地　紗代
キャリア開発Ⅳ	水谷　浩	アパレル製図法Ⅰ（平面）	菊地　紗代
消費生活論	水谷　浩	アパレル製図法Ⅱ（応用）	菊地　紗代
消費者調査法	水谷　浩	被服造形実習Ⅰ	菊地　紗代
ファッションビジネス実務実習	水谷　浩	被服造形実習Ⅱ	菊地　紗代
マーケティング論	水谷　浩	被服造形実習Ⅲ	菊地　紗代
起業・会社経営論	水谷　浩	アパレル生産実習	菊地　紗代
店舗運営論	水谷　浩	専門研究Ⅰ	菊地　紗代
情報処理Ⅰ	水谷　浩	キャリア開発Ⅲ	内海　陽子
情報処理Ⅱ	水谷　浩	色彩学	内海　陽子
家政特別演習（研修旅行）	水谷　浩	ファッションビジネス論	内海　陽子
服飾ビジネス特別演習	水谷　浩	ファッション販売論	内海　陽子
専門研究Ⅰ	水谷　浩	コーディネート論	内海　陽子
アパレルＣＡＤⅠ	佐藤　理恵	住居デザイン	山本　佳美
アパレルＣＡＤⅡ	佐藤　理恵		

〈家政学部家政学科　健康栄養学専攻〉

科目名	担当者	科目名	担当者
環境学	黒川　優子	臨床栄養学Ⅰ	髙橋　　文
微生物学	黒川　優子	臨床栄養学Ⅱ	髙橋　　文
食品衛生学	黒川　優子	臨床栄養指導論Ⅰ	髙橋　　文
栄養教育論	小野　真実	臨床栄養指導論Ⅱ	髙橋　　文
健康栄養学総合演習Ⅰ	髙橋　文 鴫原美智子	臨床栄養学実習Ⅰ	髙橋　　文
健康栄養学総合演習Ⅱ	髙橋　文 鴫原美智子	臨床栄養学実習Ⅱ	髙橋　　文
健康栄養学総合演習Ⅲ	髙橋　文 鴫原美智子	臨床栄養学臨地実習Ⅰ	髙橋　　文
給食経営学	鴫原　美智子	臨床栄養学臨地実習Ⅱ	髙橋　　文
給食管理実習Ⅰ	鴫原　美智子	家政特別講義Ⅲ	髙橋　　文 他
給食管理実習Ⅱ	鴫原　美智子	家政特別講義Ⅳ	髙橋　　文 他
給食管理臨地実習Ⅰ	鴫原　美智子	課題研究	髙橋　文 鴫原美智子
給食管理臨地実習Ⅱ	鴫原　美智子	給食管理学	鴫原　美智子
解剖生理学Ⅰ	中尾　真理	学校栄養指導論	鴫原　美智子
解剖生理学Ⅱ	中尾　真理	学校食育概論	鴫原　美智子
病理学	中尾　真理	家政特別講義Ⅱ	鴫原　美智子
臨床医学概論Ⅰ	中尾　真理	家政特別講義Ⅲ	鴫原　美智子
臨床医学概論Ⅱ	中尾　真理	栄養指導論実習	髙橋　睦子

2023年度　シラバス科目情報一覧

家政学部　家政学科　大学共通教養科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目	学期	対象学科	教　　員	授業形態	学年	単位	コード
K-1-a-01-1	化学Ⅰ	前期	服専1	菅　野　修　一	講義	1	2	11001
K-1-a-01-1	化学Ⅰ　必修	前期	健専1	鈴　木　裕　行	講義	1	2	11002
K-1-a-02-2	化学Ⅱ	後期	服専1	菅　野　修　一	講義	1	2	11003
K-1-a-02-2	化学Ⅱ　必修	前期	健専1	鈴　木　裕　行	講義	1	2	11004
K-1-a-03-1	有機化学Ⅰ	後期	服専1	菅　野　修　一	講義	1	2	11005
K-1-a-03-1	有機化学Ⅰ　必修	後期	健専1	菅　野　修　一	講義	1	2	11006
K-1-a-04-2	有機化学Ⅱ	前期	服専2	菅　野　修　一	講義	2	2	11007
K-1-a-04-2	有機化学Ⅱ　必修	前期	健専2	菅　野　修　一	講義	2	2	11008
K-1-a-05-1	生物学Ⅰ	前期	服専1・健専1	堀　江　佐知子	講義	1	2	11009
K-1-a-06-2	生物学Ⅱ	後期	服専4・健専1	堀　江　佐知子	講義	4･1	2	11010
K-1-a-07-1	環境学	後期	服専3・健専4	黒　川　優　子	講義	3･4	2	11011
K-1-a-08-1	統計学	後期	服専4・健専1	池　田　展　敏	講義	4･1	2	11012
K-1-a-09-2	数学	前期	服専1・健専1	池　田　展　敏	講義	1	2	11013
K-1-b-01-1	経済学	前期	服専1・健専4	星　　雅　博	講義	1･4	2	11014
K-1-b-02-1	社会学Ⅰ	前期	服専4・健専4	庄　司　一　平	講義	4	2	11015
K-1-b-03-2	社会学Ⅱ	後期	服専4・健専4	庄　司　一　平	講義	4	2	11016
K-1-b-04-1	歴史Ⅰ	前期	服専1・健専4	栗　原　伸一郎	講義	1･4	2	11017
K-1-b-05-2	歴史Ⅱ	後期	服専1・健専4	栗　原　伸一郎	講義	1･4	2	11018
K-1-b-06-1	日本国憲法　必修	前期	服専1・健専1	横　田　尚　昌	講義	1	2	11019
K-1-b-07-2	法学概説	後期	服専1・健専4	横　田　尚　昌	講義	1･4	2	11020
K-1-c-01-1	哲学Ⅰ	前期	服専4・健専4	徳　田　幸　雄	講義	4	2	11021
K-1-c-02-2	哲学Ⅱ	後期	服専4・健専4	徳　田　幸　雄	講義	4	2	11022
K-1-c-03-2	心理学Ⅰ	前期	服専1・健専1	植　松　公　威	講義	1	2	11023
K-1-c-04-2	心理学Ⅱ	後期	服専1・健専1	植　松　公　威	講義	1	2	11024
K-1-c-05-1	美術	後期	服専4	北　折　　整	講義	4	2	11025
K-1-c-06-1	生活文化論	前期	服専1	杉　井　　信	講義	1	2	11026
K-1-d-01-1	英語Ⅰ　必修	前期	服専1・健専1	ブシャー　シルベ	演習	1	1	11027
K-1-d-02-2	英語Ⅱ	後期	服専1・健専1	ブシャー　シルベ	演習	1	1	11028
K-1-d-03-1	英会話Ⅰ　必修	前期	服専1・健専1	上之原　博　子	演習	1	1	11029
K-1-d-04-2	英会話Ⅱ	後期	服専1・健専1	上之原　博　子	演習	1	1	11030
K-1-d-05-1	仏語Ⅰ	前期	服専4・健専1	村　山　　茂	演習	4･1	1	11031
K-1-d-06-2	仏語Ⅱ	後期	服専4・健専4	村　山　　茂	演習	4	1	11032
K-1-d-07-1	中国語	前期	服専4・健専1	清　水　浩一郎	演習	4･1	1	11033
K-1-d-08-1	日本語基礎	前期	服専1・健専1	菅　原　　秀	講義	1	2	11034
K-1-d-09-2	国語表現法	後期	服専1・健専1	菅　原　　秀	講義	1	2	11035
K-1-d-10-1	情報基礎学　必修	前期	服専1・健専1	松　尾　　広	講義	1	2	11036
K-1-e-01-1	スポーツ	通年	服専1	池　田　信　文	実技	1	2	11037
				酒　井　正　彦				
K-1-e-01-1	スポーツ	通年	健専1	池　田　信　文	実技	1	2	11038
				酒　井　正　彦				
K-1-f-01-1	スタディスキルズ　必修	前期	服専1	植　松　公　威	演習	1	1	11040
				教職員				
K-1-f-01-1	スタディスキルズ　必修	前期	健専1	八　巻　美智子	演習	1	1	11041
				ブシャー　シルベ				
				教職員				
K-1-f-02-2	ライフデザイン　必修	後期	服専1・健専1	佐々木　　晃	演習	1	1	11042
A-1-f-03-1	キャリア開発Ⅰ	後期	服専1	水　谷　　浩	講義	1	1	11043
B-1-f-03-1	キャリア開発Ⅰ	前期	健専1	鈴　木　裕　行	演習	1	1	11044
A-1-f-04-2	キャリア開発Ⅱ	後期	服専2	水　谷　　浩	演習	2	1	11045
B-1-f-04-2	キャリア開発Ⅱ	前期	健専2	川　俣　幸　一	講義	2	1	11046

2023年度　シラバス科目情報一覧

家政学部　家政学科　大学共通教養科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目	学期	対象学科	教　　員	授業形態	学年	単位	コード
A-1-f-05-3	キャリア開発Ⅲ	前期	服専3	内　海　陽　子	講義	3	1	11047
B-1-f-05-3	キャリア開発Ⅲ	前期	健専3	栗　山　孝　雄	演習	3	1	11048
				川　俣　幸　一				
				健康栄養学専攻全教員				
A-1-f-06-4	キャリア開発Ⅳ	後期	服専3	水　谷　　浩	講義	3	1	11049
B-1-f-06-4	キャリア開発Ⅳ	前期	健専4	栗　山　孝　雄	演習	4	1	11050
				川　俣　幸　一				
				健康栄養学専攻全教員				
K-1-f-07-1	キャリアサポートⅠ	通年	服専3・健専3	鈴　木　　専	演習	3	1	11051
				教職員				
K-1-f-08-2	キャリアサポートⅡ	前期	服専4・健専4	鈴　木　　専	演習	4	1	11052
				教職員				

2023年度　シラバス科目情報一覧

家政学部　家政学科　基幹科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目	学期	対象学科	教　　員	授業形態	学年	単位	コード
K-2-a-01-1	家政学原論　　必修	前期	服専1・健専1	八　巻　美智子	講義	1	2	11091
K-2-a-02-1	家族関係学	後期	服専1・健専1	八　巻　美智子	講義	1	2	11092
K-2-a-03-1	家庭経営学（家庭経済学を含む。）	前期	服専1・健専1	前　田　修　也	講義	1	2	11093

2023年度　シラバス科目情報一覧

家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目	学期	対象学科	教　　員	授業形態	学年	単位	コード
A-3-a-01-1-2	消費生活論　必修	前期	服専2	水　谷　　浩	講義	2	2	11101
A-3-a-02-1-4	社会福祉論	後期	服専4	伊　藤　常　久	講義	4	2	11102
A-3-a-03-1-1	地域文化論	後期	服専1	栗　原　伸一郎	講義	1	2	11103
A-3-a-04-2-1	美術史Ⅰ	前期	服専1	瀬　戸　典　彦	講義	1	2	11104
A-3-a-05-3-1	美術史Ⅱ	後期	服専1	瀬　戸　典　彦	講義	1	2	11105
A-3-b-01-1-1	被服学　必修	前期	服専1	菊　地　紗　代	講義	1	2	11106
A-3-b-02-1-2	色彩学	後期	服専2	内　海　陽　子	講義	2	2	11107
A-3-b-03-1-2	日本服装史	前期	服専2	川　又　勝　子	講義	2	2	11108
A-3-b-04-1-1	西洋服装史	前期	服専1	何　　水　蘭	講義	1	2	11109
A-3-b-05-2-4	染織文化史	後期	服専4	川　又　勝　子	講義	4	2	11110
A-3-b-06-2-4	染織文化演習	前期	服専4	川　又　勝　子	演習	4	1	11111
A-3-c-01-1-1	被服機構・衛生学　必修	後期	服専1	久　慈　るみ子	講義	1	2	11112
A-3-c-02-1-1	スタートアップソーイング　必修	前期	服専1	菊　地　紗　代	演習	1	1	11113
A-3-c-03-1-1	アパレル製図法Ⅰ（平面）　必修	前期	服専1	菊　地　紗　代	演習	1	1	11114
A-3-c-04-2-1	アパレル製図法Ⅱ（応用）　必修	後期	服専1	菊　地　紗　代	演習	1	1	11115
A-3-c-05-2-2	被服造形実習Ⅰ	前期	服専2	菊　地　紗　代	実習	2	1	11116
A-3-c-06-3-2	被服造形実習Ⅱ	後期	服専2	菊　地　紗　代	実習	2	1	11117
A-3-c-07-4-3	被服造形実習Ⅲ	通年	服専3	菊　地　紗　代	実習	3	2	11118
A-3-c-08-1-3	被服平面造形学　必修	前期	服専3	川　又　勝　子	講義	3	2	11119
A-3-c-09-2-3	被服平面造形実習Ⅰ	後期	服専3	川　又　勝　子	実習	3	1	11120
A-3-c-10-3-4	被服平面造形実習Ⅱ	前期	服専4	川　又　勝　子	実習	4	1	11121
A-3-c-12-1-1	ファッションデザイン画	後期	服専1	何　　水　蘭	演習	1	1	11122
A-3-c-12-2-2	ファッションデザイン画	前期	服専2	何　　水　蘭	演習	2	1	11123
A-3-c-13-2-2	ファッションデザイン演習	後期	服専2	何　　水　蘭	演習	2	2	11124
A-3-c-14-2-2	アパレル設計論	後期	服専2	玉　田　真　紀	講義	2	2	11125
A-3-c-15-3-3	アパレル生産実習	前期	服専3	菊　地　紗　代	実習	3	1	11126
A-3-c-16-2-2	アパレルＣＡＤⅠ　必修	後期	服専2	佐　藤　理　恵	演習	2	1	11127
A-3-c-17-3-3	アパレルＣＡＤⅡ	前期	服専3	佐　藤　理　恵	講義	3	1	11128
A-3-c-18-3-2	服飾工芸・造形（服飾手芸）Ⅰ	前期	服専2	横　田　美　和	実習	2	1	11129
A-3-c-19-3-2	服飾工芸・造形（服飾手芸）Ⅱ	後期	服専2	横　田　美　和	実習	2	1	11130
A-3-c-20-3-4	服飾工芸・造形（織物）Ⅲ	前期	服専4	横　田　美　和	実習	4	1	11131
A-3-d-01-1-1	被服繊維学　必修	前期	服専1	菅　野　修　一	講義	1	2	11132
A-3-d-02-1-1	被服繊維学実験　必修	後期	服専1	井　上　美　紀	実験	1	1	11133
A-3-d-03-2-1	被服材料学　必修	後期	服専1	菅　野　修　一	講義	1	2	11134
A-3-d-04-2-2	被服材料学実験　必修	前期	服専2	井　上　美　紀	実験	2	1	11135
A-3-d-05-2-2	被服整理学　必修	前期	服専2	井　上　美　紀	講義	2	2	11136
A-3-d-06-3-2	被服整理学実験　必修	後期	服専2	井　上　美　紀	実験	2	1	11137
A-3-d-07-2-2	染色加工学	後期	服専2	井　上　美　紀	講義	2	2	11138
A-3-d-08-3-3	染色加工学実験	前期	服専3	井　上　美　紀	実験	3	1	11139
A-3-d-09-3-3	染色学実習	通年	服専3	川　又　勝　子	実習	3	2	11140
A-3-d-10-2-3	テキスタイルデザインⅠ	後期	服専3	川　又　勝　子	実習	3	1	11141
				横　田　美　和				
A-3-d-11-3-4	テキスタイルデザインⅡ	後期	服専4	川　又　勝　子	実習	4	1	11142
A-3-e-01-1-2	ファッションビジネス論	前期	服専2	内　海　陽　子	講義	2	2	11143
A-3-e-02-4-3	アパレル品質管理論　必修	後期	服専3	井　上　美　紀	講義	3	1	11144
A-3-e-03-3-3	アパレル消費科学	後期	服専3	井　上　美　紀	講義	3	1	11145
A-3-e-04-3-4	消費者調査法	前期	服専4	水　谷　　浩	演習	4	1	11146
A-3-e-05-1-2	ファッション販売論	後期	服専2	内　海　陽　子	講義	2	2	11147
A-3-e-06-2-3	コーディネート論	前期	服専3	内　海　陽　子	講義	3	2	11148
A-3-e-07-1-1	ファッションビジネス実務実習	通年	服専1	水　谷　　浩	実習	1	1	11149

2023年度　シラバス科目情報一覧

家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目	学期	対象学科	教　　員	授業形態	学年	単位	コード
A-3-e-08-2-2	マーケティング論	前期	服専2	水　谷　　浩	講義	2	2	11150
A-3-e-09-3-3	起業・会社経営論	後期	服専3	水　谷　　浩	講義	3	2	11151
A-3-e-10-3-4	店舗運営論	後期	服専4	水　谷　　浩	講義	4	2	11152
A-3-e-11-2-2	情報処理Ⅰ　　必修	後期	服専2	水　谷　　浩	講義	2	2	11153
A-3-e-12-3-3	情報処理Ⅱ	前期	服専3	水　谷　　浩	演習	3	1	11154
A-3-f-01-2-2	食品学総論	前期	服専2	八　巻　美智子	講義	2	2	11155
A-3-f-02-2-4	食品学各論	前期	服専4	佐　藤　靖　子	講義	4	2	11156
A-3-f-03-1-2	基礎栄養学	後期	服専2	鈴　木　裕　行	講義	2	2	11157
A-3-f-04-1-1	基礎調理学実習Ⅰ	前期	服専1	宮　地　洋　子	実習	1	1	11158
A-3-f-05-1-1	基礎調理学実習Ⅱ	後期	服専1	宮　地　洋　子	実習	1	1	11159
A-3-f-06-2-4	食文化論	後期	服専4	宮　地　洋　子	講義	4	2	11160
A-3-f-07-1-2	食生活論	後期	服専2		講義	2	2	11161
A-3-f-08-1-3	住居学（製図を含む。）	前期	服専3	﨑　山　俊　雄	講義	3	2	11162
A-3-f-09-1-4	住居デザイン	後期	服専4	山　本　佳　美	講義	4	2	11163
A-3-f-10-1-4	住文化論	前期	服専4	﨑　山　俊　雄	講義	4	2	11164
A-3-f-11-1-3	保育学（実習及び家庭看護を含む。）	後期	服専3	高　橋　恵　美	講義	3	2	11165
A-3-f-12-1-3	家庭電気・機械	前期	服専3	佐　野　正　則	講義	3	2	11166
A-3-f-13-4-4	家庭科教材研究	後期	服専4	植　松　公　威	演習	4	1	11167
A-3-g-02-4-4	家政特別講義Ⅱ	前期	服専4	植　松　公　威	講義	4	2	11169
A-3-g-03-2-2	家政特別演習（研修旅行）　　必修	通年	服専2	植　松　公　威	演習	2	2	11188
A-3-g-03-2-2	家政特別演習（研修旅行）　　必修	通年	服専3	水　谷　　浩	演習	3	2	11170
A-3-g-04-3-3	服飾ビジネス特別演習	通年	服専3	水　谷　　浩	演習	3	2	11171
A-3-g-05-3-3	服飾生活特別演習	通年	服専3	何　　水　蘭	演習	3	2	11172
A-3-g-06-4-3	専門研究Ⅰ　　必修	通年	服専3	菅　野　修　一	演習	3	4	11173
A-3-g-06-4-3	専門研究Ⅰ　　必修	通年	服専3	植　松　公　威	演習	3	4	11174
A-3-g-06-4-3	専門研究Ⅰ　　必修	通年	服専3	川　又　勝　子	演習	3	4	11176
A-3-g-06-4-3	専門研究Ⅰ　　必修	通年	服専3	水　谷　　浩	演習	3	4	11177
A-3-g-06-4-3	専門研究Ⅰ　　必修	通年	服専3	宮　前　　理	演習	3	4	11178
A-3-g-06-4-3	専門研究Ⅰ　　必修	通年	服専3	何　　水　蘭	演習	3	4	11179
A-3-g-06-4-3	専門研究Ⅰ　　必修	通年	服専3	菊　地　紗　代	演習	3	4	11186
A-3-g-07-5-4	専門研究Ⅱ	通年	服専4	菅　野　修　一	演習	4	4	11180
A-3-g-07-5-4	専門研究Ⅱ	通年	服専4	植　松　公　威	演習	4	4	11181
A-3-g-07-5-4	専門研究Ⅱ	通年	服専4	井　上　美　紀	演習	4	4	11182
A-3-g-07-5-4	専門研究Ⅱ	通年	服専4	川　又　勝　子	演習	4	4	11183
A-3-g-07-5-4	専門研究Ⅱ	通年	服専4	宮　前　　理	演習	4	4	11184
A-3-g-07-5-4	専門研究Ⅱ	通年	服専4	水　谷　　浩	演習	4	4	11187
A-3-g-07-5-4	専門研究Ⅱ	通年	服専4	何　　水　蘭	演習	4	4	11185

2023年度　シラバス科目情報一覧

家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授業科目		学期	対象学科	教員	授業形態	学年	単位	コード
B-3-a-01-1-1	社会福祉論	必修	後期	健専1	伊藤常久	講義	1	2	11201
B-3-a-02-2-3	公衆衛生学Ⅰ	必修	前期	健専3	伊藤常久	講義	3	2	11202
B-3-a-03-3-3	公衆衛生学Ⅱ		後期	健専3	伊藤常久	講義	3	2	11203
B-3-a-04-2-1	健康管理概論	必修	前期	健専1	伊藤常久	講義	1	2	11204
B-3-b-01-3-1	解剖生理学Ⅰ	必修	後期	健専1	中尾真理	講義	1	2	11205
B-3-b-02-3-2	解剖生理学Ⅱ		前期	健専2	中尾真理	講義	2	2	11206
B-3-b-03-3-2	運動生理学	必修	前期	健専2	川俣幸一	講義	2	2	11207
B-3-b-04-1-2	微生物学	必修	前期	健専2	黒川優子	講義	2	2	11208
B-3-b-05-1-1	生化学Ⅰ	必修	後期	健専1	鈴木裕行	講義	1	2	11209
B-3-b-06-2-2	生化学Ⅱ	必修	前期	健専2	鈴木裕行	講義	2	2	11210
B-3-b-07-3-2	病理学		後期	健専2	中尾真理	講義	2	2	11211
B-3-b-08-3-3	解剖生理学実験		後期	健専3	川俣幸一	実験	3	1	11212
B-3-b-09-3-3	生化学実験		前期	健専3	鈴木裕行	実験	3	1	11213
B-3-b-10-3-3	臨床医学概論Ⅰ		前期	健専3	中尾真理	講義	3	2	11214
B-3-b-11-3-3	臨床医学概論Ⅱ		後期	健専3	中尾真理	講義	3	2	11215
B-3-b-11-3-3	臨床医学概論Ⅱ		前期	健専4	中尾真理	講義	4	2	11286
B-3-c-01-2-2	食品学総論	必修	前期	健専2	八巻美智子	講義	2	2	11216
B-3-c-02-2-2	食品学各論	必修	後期	健専2	佐藤靖子	講義	2	2	11217
B-3-c-03-1-1	食品学実験Ⅰ	必修	前期	健専1	八巻美智子	実験	1	1	11218
B-3-c-04-2-1	食品学実験Ⅱ	必修	後期	健専1	八巻美智子	実験	1	1	11219
B-3-c-05-3-3	食品機能学		後期	健専3	永塚貴弘	講義	3	2	11220
B-3-c-06-3-3	食品加工学	必修	前期	健専3	佐藤靖子	講義	3	2	11221
B-3-c-07-3-3	食品加工実習	必修	後期	健専3	佐藤靖子	実習	3	1	11222
B-3-c-08-1-3	食品衛生学	必修	前期	健専3	黒川優子	講義	3	2	11223
B-3-c-09-2-3	食品衛生学実験		後期	健専3	鈴木裕行	実験	3	1	11224
B-3-c-10-2-2	調理科学論	必修	後期	健専2	佐藤靖子	講義	2	2	11225
B-3-c-11-2-3	調理科学実験		前期	健専3	佐藤靖子	実験	3	1	11226
B-3-c-12-1-1	基礎調理学実習Ⅰ	必修	前期	健専1	平本福子	実習	1	1	11227
B-3-c-13-2-1	基礎調理学実習Ⅱ	必修	後期	健専1	平本福子	実習	1	1	11228
B-3-c-14-3-2	応用調理学実習Ⅰ		前期	健専2	宮地洋子	実習	2	1	11229
B-3-c-15-4-2	応用調理学実習Ⅱ		後期	健専2	宮地洋子	実習	2	1	11230
B-3-c-16-3-2	食文化論	必修	後期	健専2	宮地洋子	講義	2	2	11231
B-3-d-01-1-1	基礎栄養学	必修	後期	健専1	鈴木裕行	講義	1	2	11232
B-3-d-02-1-2	栄養生化学	必修	後期	健専2	鈴木裕行	講義	2	2	11233
B-3-d-03-1-2	栄養学実験		前期	健専2	鈴木裕行	実験	2	1	11234
B-3-e-01-2-2	応用栄養学Ⅰ	必修	前期	健専2	川俣幸一	講義	2	2	11235
B-3-e-02-2-2	応用栄養学Ⅱ	必修	後期	健専2	川俣幸一	講義	2	2	11236
B-3-e-03-2-2	栄養管理論	必修	後期	健専2	川俣幸一	講義	2	2	11237
B-3-e-04-2-2	応用栄養学実習Ⅰ		前期	健専2	川俣幸一	実習	2	1	11238
B-3-e-05-2-2	応用栄養学実習Ⅱ		後期	健専2	川俣幸一	実習	2	1	11239
B-3-f-01-1-1	食生活論	必修	後期	健専1		講義	1	2	11240
B-3-f-02-2-2	栄養教育論	必修	前期	健専2	小野真実	講義	2	2	11241
B-3-f-03-2-2	栄養指導論	必修	後期	健専2		講義	2	2	11242
B-3-f-04-1-3	保健栄養学	必修	後期	健専3	栗山孝雄	講義	3	2	11243
B-3-f-05-3-2	栄養情報処理演習	必修	後期	健専2		演習	2	1	11244
B-3-f-06-3-3	栄養指導論実習	必修	前期	健専3	髙橋睦子	実習	3	1	11245
B-3-g-01-3-2	臨床栄養学Ⅰ	必修	前期	健専2	髙橋文	講義	2	2	11246
B-3-g-02-3-2	臨床栄養学Ⅱ		後期	健専2	髙橋文	講義	2	2	11247
B-3-g-03-3-3	臨床栄養指導論Ⅰ		前期	健専3	髙橋文	講義	3	2	11248
B-3-g-04-4-3	臨床栄養指導論Ⅱ		後期	健専3	髙橋文	講義	3	2	11249

2023年度　シラバス科目情報一覧

家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目	学期	対象学科	教　　員	授業形態	学年	単位	コード
B-3-g-05-1-3	臨床栄養学実習Ⅰ	前期	健専3	髙　橋　　文	実習	3	1	11250
B-3-g-06-2-3	臨床栄養学実習Ⅱ	後期	健専3	髙　橋　　文	実習	3	1	11251
B-3-h-01-2-3	公衆栄養学　　必修	前期	健専3	栗　山　孝　雄	講義	3	2	11252
B-3-h-02-3-3	公衆栄養学実習	後期	健専3	栗　山　孝　雄	実習	3	1	11253
B-3-h-03-2-4	地域栄養活動演習Ⅰ	前期	健専4	栗　山　孝　雄	演習	4	1	11254
B-3-h-04-2-4	地域栄養活動演習Ⅱ	後期	健専4	栗　山　孝　雄	演習	4	1	11255
B-3-i-01-1-2	給食管理学　　必修	前期	健専2	鴫　原　美智子	講義	2	2	11256
B-3-i-02-1-4	給食経営学	前期	健専4	鴫　原　美智子	講義	4	2	11257
B-3-i-03-2-2	給食管理実習Ⅰ　　必修	後期	健専2	鴫　原　美智子	実習	2	1	11258
B-3-i-04-3-2	給食管理実習Ⅱ	後期	健専2	鴫　原　美智子	実習	2	1	11259
B-3-j-01-1-3	健康栄養学総合演習Ⅰ	前期	健専3	鴫　原　美智子	演習	3	1	11260
				栗　山　孝　雄				
				髙　橋　　文				
B-3-j-02-2-3	健康栄養学総合演習Ⅱ	後期	健専3	栗　山　孝　雄	演習	3	1	11261
				川　俣　幸　一				
				髙　橋　　文				
				鴫　原　美智子				
B-3-j-03-2-4	健康栄養学総合演習Ⅲ	後期	健専4	栗　山　孝　雄	演習	4	1	11262
				川　俣　幸　一				
				髙　橋　　文				
				鴫　原　美智子				
B-3-k-01-5-3	給食管理臨地実習Ⅰ	通年	健専3	鴫　原　美智子	実習	3	1	11263
B-3-k-02-5-3	給食管理臨地実習Ⅱ	通年	健専3	鴫　原　美智子	実習	3	1	11264
B-3-k-03-5-4	臨床栄養学臨地実習Ⅰ	通年	健専4	髙　橋　　文	実習	4	1	11265
B-3-k-04-5-4	臨床栄養学臨地実習Ⅱ	通年	健専4	髙　橋　　文	実習	4	1	11266
B-3-k-05-5-4	公衆栄養学臨地実習Ⅰ	通年	健専4	栗　山　孝　雄	実習	4	1	11267
B-3-k-06-5-4	公衆栄養学臨地実習Ⅱ	通年	健専4	栗　山　孝　雄	実習	4	1	11268
B-3-l-01-4-3	学校栄養指導論	前期	健専3	鴫　原　美智子	講義	3	2	11269
B-3-l-02-1-3	学校食育概論	前期	健専3	鴫　原　美智子	講義	3	2	11270
B-3-m-01-3-3	セミナーⅠ	後期	健専3	栗　山　孝　雄	演習	3	1	11271
				川　俣　幸　一				
				健康栄養学専攻教員				
B-3-m-02-4-4	セミナーⅡ	後期	健専4	栗　山　孝　雄	演習	4	1	11272
				健康栄養学専攻教員				
B-3-m-03-1-1	家政特別講義Ⅰ	通年	健専1	八　巻　美智子	講義	1	2	11273
				ブシャー　シルベ				
B-3-m-04-2-2	家政特別講義Ⅱ	後期	健専2	栗　山　孝　雄	講義	2	2	11274
				鴫　原　美智子				
B-3-m-05-3-3	家政特別講義Ⅲ	後期	健専3	鴫　原　美智子	講義	3	2	11275
				栗　山　孝　雄				
				髙　橋　　文				
B-3-m-06-4-4	家政特別講義Ⅳ	前期	健専4	栗　山　孝　雄	講義	4	2	11276
				髙　橋　　文				
B-3-m-07-5	課題研究　令和2年度入学生	通年	健専4・健専3	鈴　木　裕　行	演習	4･3	6	11277
B-3-m-07-5	課題研究　令和2年度入学生	通年	健専4・健専3	佐　藤　靖　子	演習	4･3	6	11278
B-3-m-07-5	課題研究　令和2年度入学生	通年	健専4・健専3	栗　山　孝　雄	演習	4･3	6	11280
B-3-m-07-5	課題研究　令和2年度入学生	通年	健専4・健専3	川　俣　幸　一	演習	4･3	6	11281
B-3-m-07-5	課題研究　令和2年度入学生	通年	健専4・健専3	八　巻　美智子	演習	4･3	6	11282
B-3-m-07-5	課題研究　令和2年度入学生	通年	健専4・健専3	髙　橋　　文	演習	4･3	6	11283
B-3-m-07-5	課題研究　令和2年度入学生	通年	健専4・健専3	伊　藤　常　久	演習	4･3	6	11284

2023年度　シラバス科目情報一覧

家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目	学期	対象学科	教　　員	授業形態	学年	単位	コード
B-3-m-07-5	課題研究 令和2年度入学生	通年	健専4・健専3	鴫　原　美智子	演習	4･3	6	11285

2023年度　シラバス科目情報一覧

教職に関する科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目	学期	対象学科	教　　員	授業形態	学年	単位	コード
K-4-a-01-1	教育原理	前期	服専1・服専2・健専2・健専1・美表2・美表1	山　口　刀　也	講義	1･2	2	19801
				山　沢　智　樹				
K-4-a-02-1	教職概論	後期	服専1・健専1・美表1	大　迫　章　史	講義	1	2	19802
				吉　田　　実				
K-4-a-03-3	教育制度論	前期	服専3・健専3・美表3	山　口　刀　也	講義	3	2	19803
				山　沢　智　樹				
K-4-a-04-2	教育心理学	前期	服専2・健専2・美表2	宮　前　　理	講義	2	2	19804
K-4-a-05-2	特別支援教育	後期	服専3・健専3・美表3	大瀬戸　美　紀	講義	3	1	19805
K-4-a-06-2	教育課程論	後期	服専2・健専2・美表2	山　沢　智　樹	講義	2	2	19806
K-4-b-01-2	道徳教育の指導法	前期	服専3・健専3・美表3	後　藤　　篤	講義	3	2	19807
K-4-b-02-2	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	前期	服専2・健専2・美表2	須　藤　由　子	講義	2	2	19808
K-4-b-03-3	教育方法論（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。）	後期	服専2・健専2・美表2	清　水　禎　文	講義	2	2	19809
				松　尾　　広				
K-4-b-04-3	生徒指導の理論と方法A（進路指導の理論及び方法を含む。）	後期	服専3・美表3	福　島　朋　子	講義	3	2	19810
				佐々木　　晃				
K-4-b-05-2	教育相談	後期	服専3・健専3・美表3	宮　前　　理	講義	3	2	19811
K-4-c-01-5	教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む。）	通年	服専4・美表4	宮　前　　理	実習	4	5	19820
				山　口　刀　也				
				山　沢　智　樹				
K-4-c-02-5	教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む。）	通年	服専4・美表4	宮　前　　理	実習	4	3	19821
				山　口　刀　也				
				山　沢　智　樹				
K-4-c-03-5	教職実践演習（中・高）	後期	服専4・美表4	宮　前　　理	講義	4	2	19812
				山　口　刀　也				
				山　沢　智　樹				
B-4-b-04-3	生徒指導の理論と方法B	前期	健専3	福　島　朋　子	講義	3	2	19813
				佐々木　　晃				
B-4-c-01-5	栄養教育実習事前事後指導	通年（前）	健専4	宮　前　　理	講義	4	1	19822
				山　口　刀　也				
				山　沢　智　樹				
B-4-c-02-5	栄養教育実習	通年	健専4	宮　前　　理	実習	4	1	19823
				山　口　刀　也				
				山　沢　智　樹				
B-4-c-03-5	教職実践演習（栄養教諭）	後期	健専4	宮　前　　理	講義	4	2	19814
				山　口　刀　也				
				山　沢　智　樹				
A-4-d-01-3	家庭科教育法Ⅰ	通年	服専3	佐　藤　郷　美	講義	3	4	19815
				石　川　り　か				
A-4-d-02-4	家庭科教育法Ⅱ	通年	服専4	石　川　り　か	講義	4	4	19816
D-4-d-01-3	美術科教育法Ⅰ	通年	美表3	横　山　美喜子	講義	3	4	19817
D-4-d-02-4	美術科教育法Ⅱ	通年	美表4	横　山　美喜子	講義	4	4	19818
D-4-d-03-3	工芸科教育法	通年	美表3	瀬　戸　典　彦	講義	3	4	19819

2023年度　シラバス科目情報一覧

博物館に関する科目

ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞ	授　業　科　目	学期	対象学科	教　　員	授業形態	学年	単位	コード
K-5-a-01-2	生涯学習概論	後期	服専1・美表1	伊　藤　　優	講義	1	2	19901
K-5-a-02-2	博物館概論	前期	服専1・美表1	伊　藤　　優	講義	1	2	19902
K-5-a-03-4	博物館経営論	前期	服専3・美表3	笠　原　信　男	講義	3	2	19903
K-5-a-04-3	博物館資料論	後期	服専2・美表2	菊　地　逸　夫	講義	2	2	19904
K-5-a-05-3	博物館資料保存論	前期	服専2・美表2	及　川　　規	講義	2	2	19905
K-5-a-06-4	博物館展示論	後期	服専3・美表3	笠　原　信　男	講義	3	2	19906
K-5-a-07-3	博物館情報・メディア論	後期	服専2・美表2	清　水　　有	講義	2	2	19907
K-5-a-08-2	博物館教育論	後期	服専1・美表1	伊　藤　　優	講義	1	2	19908
K-5-a-09-5	博物館実習Ⅰ（学内・見学実習を含む。）	通年（前）	服専3・美表3	菊　地　逸　夫	演習	3	2	19909
K-5-a-09-5	博物館実習Ⅰ（学内・見学実習を含む。）	通年（後）	服専3・美表3	落　合　里　麻	演習	3		19910

大 学 共 通 教 養 科 目

化学Ⅰ

(11001)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 15）
対象学科：服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
菅　野　修　一

■ 授業の概要
私たちの衣・食・住すべてに化学物質が関与しており、化学の知識なくしては現代の快適な生活はあり得ない。化学Ⅰでは、生活全般に密接に結び付いた化学の基礎的な内容を紹介する。さらに、身の回りを化学の目で見る習慣が身につくよう、化学の面白さや興味深さについても紹介する。さらには、原始時代から今日に至るまでの人間生活の進歩が、化学の発展の歴史と明確にリンクしていることをの理解を深めることで、今日の日常生活の奥深さを認識させ、その一つのベースとなっている化学の幅の広さについても繰り返し説明する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・物質についての基本的理解（原子・分子の本質）	0.6	0.1	0.1		0.1				0.1
・生活と化学の関係の理解									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　科学と化学の関係	教科書指定ページの熟読。
第２回　物質とは何か、物質を粒子としてみる	教科書指定ページの熟読。
第３回　元素の周期表と原子の構造	教科書指定ページの熟読。
第４回　量子力学の歴史と基本的な概念	教科書指定ページの熟読。
第５回　電子と化学結合	講義ノートの総まとめ（1回目）
第６回　身の回りの物質、無機物と有機物	教科書指定ページの熟読。
第７回　身の回りの物質、混合物と化合物	教科書指定ページの熟読。
第８回　混合物と化合物	教科書指定ページの熟読。
第９回　原子・分子の世界におけるモルの概念	教科書指定ページの熟読。
第10回　物質の状態と温度、状態変化とエネルギー	講義ノートの総まとめ（2回目）
第11回　化学反応と電子	教科書指定ページの熟読。
第12回　電子の不思議（粒子としての電子・波としての電子）	教科書指定ページの熟読。
第13回　水の化学	課題を指定。
第14回　環境と化学、分析化学の紹介	教科書指定ページの熟読。
第15回　身の回りの高分子化合物	講義ノートの総まとめ（3回目）

■ 履修上の注意
教科書の指定ページを熟読し、予習・復習をしっかり行うこと。尚、教科書の指定ページについては、その講義毎に理解度を考慮の上、指示する。

■ 成績評価方法・基準
小テスト30%、平常点・受講態度（発言・質問）30%、課題ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ又はレポート40%を総合的に評価する。小テスト・課題ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝについてはフィードバックを行う。

■ 教科書
[教養としての化学入門] [Kimberley Waldron] [化学同人] [3000円]

■ 参考書
必要に応じて個別に紹介する。

■ 備考
質問に関してオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

化学Ⅰ

(11002)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要

健康栄養学専攻の管理栄養士養成課程で履修する栄養学・生化学・食品学分野の専門科目の学修は、栄養素／食品成分の構造・性質・機能を理解することが基本であり、そのためには「物質の構造・性質と変化」を取り扱う学問である化学の基礎知識が不可欠である。この授業では、各受講者の化学についてのこれまでの履修状況・理解度に合わせて、ごく基礎的な事項の復習から講義し、説明と問題演習を繰り返して、今後の専門科目の理解に必要な基礎力の向上を図る。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1. 化学一般の基礎的な事項を理解できるようにする。	0.6　　0.4
・2. 関連する練習問題を解答できるようにする。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　健康・栄養・食品と化学	教科書「まえがき」、「はじめに」、「1・1」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第２回　物質を構成する粒子	教科書「1・1」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第３回　元素の周期律と周期表	教科書「1・1」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第４回　原子の構造	教科書「1・1」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第５回　イオンと分子	教科書「1・2～3」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第６回　イオン性化合物～化学式の書き方	教科書「1・4～5」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第７回　物質量：原子量・分子量・モルとは	教科書「2.1～2」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第８回　〔中間試験〕、物質量：原子量・分子量・モルの計算	教科書「2.2」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。試験でできなかったところをよく復習する。
第９回　試験の解説、原子価と電子式	教科書「3・1～3」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。試験でできなかったところをよく復習する。
第10回　化学反応と反応式のつくり方	教科書「1・6」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第11回　化学反応式を用いた計算	教科書「2.4」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第12回　化学結合と分子構造：　共有結合・イオン結合・水素結合	教科書「3・4～5」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題

	の解法をよく理解する。
第13回　化学結合と電気陰性度	教科書「3・5～6」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第14回　酸と塩基	教科書「1・7」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第15回　〔期末試験〕、中和反応	教科書「1・7」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。試験でできなかったところをよく復習する。
第16回　試験の解説、中和反応と塩の生成	教科書「1・7」「2・3」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。試験でできなかったところをよく復習する。

■ 履修上の注意

今後の専門科目学修の一番の基礎なので、理解不十分なところをそのままにしないこと。

■ 成績評価方法・基準

中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組み等、提出物で評価）・・・10%

■ 教科書

ゼロからはじめる化学、立屋敷　哲、丸善(株)出版事業部、2，200円＋税

■ 参考書

無し

■ 備考

「キャリア開発Ⅰ」がこの授業に関連した問題演習の授業なので、併せて履修することが強く望まれる。試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

化学Ⅱ

(11003)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 15）
対象学科：服専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
菅　野　修　一

■ 授業の概要
化学Ⅰで学んだ基礎をもとに、我々の生活を支える多くの化学物質、生命を支える食料としての物質、エネルギーに関する物質、さらに地球のこれまでの進化と環境に関連する大気や水や土壌に関連する化学について述べ、その反応と諸現象との関連を講義する。合わせて、暮らしを豊かにしてくれる化学について概観する。一方、原始時代から今日に至るまでの人間生活の進歩が、化学の発展の歴史と明確にリンクしていることの理解を深めることで、今日の日常生活の奥深さを認識させ、その一つのベースとなっている化学の幅の広さについても繰り返し説明する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・自然界と化学の関係の理解	0.6	0.1		0.1				0.1	0.1
・生活と化学の関係の理解									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　気体の圧力と沸騰	教科書指定ページの熟読
第２回　蒸発と沸騰、気化熱	教科書指定ページの熟読
第３回　水に溶けるものと油に溶けるものの違い	教科書指定ページの熟読
第４回　過冷却、融解熱の実験	教科書指定ページの熟読
第５回　化学反応熱などの熱とエネルギー	講義ノートの総まとめ（1回目）
第６回　塩析と生体の機能	教科書指定ページの熟読
第７回　酸と塩基、水素イオン濃度、酸塩基の強さ、中和反応	教科書指定ページの熟読
第８回　酸化数、身の回りの酸化剤、還元剤	教科書指定ページの熟読
第９回　角砂糖の燃焼と生体エネルギー	教科書指定ページの熟読
第10回　酸化と還元、活性酸素	講義ノートの総まとめ（2回目）
第11回　電子の移動と電池、燃料電池など各種電池	教科書指定ページの熟読
第12回　太陽エネルギーと光合成	教科書指定ページの熟読
第13回　光、波と粒子としての性質、電波と光	課題を指定
第14回　物質の色、炎色反応	教科書指定ページの熟読
第15回　高分子化合物、酸素の性質	講義ノートの総まとめ（3回目）

■ 履修上の注意
教科書の指定ページを熟読し、予習・復習をしっかり行うこと。尚、教科書の指定ページについては、その講義毎に理解度を考慮の上、指示する。

■ 成績評価方法・基準
小テスト30%、平常点・受講態度（発言・質問）30%、課題ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ又はレポート40%を総合的に評価する。小テスト・課題ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝについてはフィードバックを行う。

■ 教科書
[教養としての化学入門] [Kimberley Waldron] [化学同人] [3000円]

■ 参考書
必要に応じて個別に紹介する。

■ 備考
質問に関してオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

化学Ⅱ

(11004)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要
健康栄養学専攻の管理栄養士養成課程で履修する栄養学・生化学・食品学分野の専門科目の学修は、栄養素／食品成分の構造・性質・機能を理解することが基本であり、そのためには「物質の構造・性質と変化」を取り扱う学問である化学の基礎知識が不可欠である。この授業では、化学Ⅰに引続き各受講者の化学についてのこれまでの履修状況・理解度に合わせて、ごく基礎的な事項の復習から講義し、説明と問題演習を繰り返して、今後の専門科目の理解に必要な基礎力の向上を図る。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・化学一般の基礎的な事項を理解し、化学的なものの見方ができるようにする。	0.6		0.4						
・関連する計算問題を解答できるようにする。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　中和反応と濃度計算	教科書「2・3」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第２回　水素イオン濃度とｐＨ	教科書「2・6」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第３回　酸化と還元	教科書「1・8」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第４回　酸化数と酸化還元反応	教科書「1・8」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第５回　酸化剤・還元剤	教科書「1・8」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第６回　金属元素のイオン化列と電池	教科書「1.8」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第７回　物質の三態、気体の性質、気体の法則	教科書「付録1・1～3」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加えて、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第８回　〔中間試験〕気体の状態方程式	教科書「付録1・3」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加えて、試験でできなかったところをよく復習する。
第９回　試験の解説、気体の計算	教科書「付録1・3」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加えて、試験でできなかったところをよく復習する。
第10回　溶液の性質	教科書「付録1・4」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第11回　浸透圧、化学反応と熱・熱化学方程式	教科書「付録1・4～2・1」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第12回　熱量変化の計算	教科書「2・1」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解

	法をよく理解する。
第13回　有機化合物の基礎：構造式の書き方	教科書「4・1～2」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第14回　有機化合物の種類	教科書「4.3～5」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加えて、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第15回　〔期末試験〕、生体の有機化合物	教科書「4・5」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加えて、試験でできなかったところをよく復習する。
第16回　試験の解説、有機化合物の反応	教科書「4・9」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加えて、試験でできなかったところをよく復習する。

■ 履修上の注意

今後の専門科目学修の一番の基礎なので、理解不十分なところをそのままにしないこと。

■ 成績評価方法・基準

中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組み等、提出物で評価）・・・10%

■ 教科書

ゼロからはじめる化学、立屋敷　哲、丸善(株)出版事業部、2，200円＋税

■ 参考書

無し

■ 備考

「キャリア開発Ⅰ」がこの授業に関連した問題演習の授業なので、併せて履修することが強く望まれる。　試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

有機化学Ⅰ

(11005)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 15）
対象学科：服専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
菅　野　修　一

■ 授業の概要
有機化学の基礎として、各原子の電子配置から解説する。特に炭素原子のsp・sp2・sp3の各混成軌道をはじめとする電子軌道の形が、分子の形に直接影響することを認識させ、それをベースに様々な基本となる有機化合物を紹介する。さらには、有機化合物の構造式から読み取れる様々な情報を読み取れるようにし、高分子化合物を含むより複雑な化合物の理解にまでつなげる。講義の適切な個所では、繰り返し有機電子論に触れ、有機化学反応と電子の関係に触れ、有機化学の奥深さも伝える。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・原子と電子配置について理解	0.6	0.1	0.1	0.1					0.1
・有機化合物の分子レベルでの理解									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　日常生活における有機化学の重要性の認識について	教科書指定ページの熟読
第２回　元素の周期表、元素記号、必須元素、同族元素	教科書指定ページの熟読
第３回　アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン元素、希ガス	教科書指定ページの熟読
第４回　分子模型を用いての立体化学、炭素の結合手	教科書指定ページの熟読
第５回　原子番号と電子の配列、イオン結合の復習	講義ノートの総まとめ（1回目）
第６回　原子の構造、同位体、放射性同位元素の生化学における利用	教科書指定ページの熟読
第７回　分子式、組成式、示性式、有機化合物の異性体	教科書指定ページの熟読
第８回　中間試験、分子量、式量、構造式、炭素の正四面体構造	教科書指定ページの熟読
第９回　炭素の二重結合、三重結合、種々の分子式	教科書指定ページの熟読
第10回　飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質	講義ノートの総まとめ（2回目）
第11回　不飽和炭化水素、共有結合（電子対結合）、電子対	教科書指定ページの熟読
第12回　非共有電子対、配合結合、金属結合、不対電子	教科書指定ページの熟読
第13回　メタン分子、軌道電子の昇位、混成軌道、δ結合、π結合	課題を指定
第14回　直鎖の飽和炭化水素とその命名法、数詞、アルキル基	教科書指定ページの熟読
第15回　分岐炭化水素とその命名法、慣用名	講義ノートの総まとめ（3回目）

■ 履修上の注意
教科書の指定ページを熟読し、予習・復習をしっかり行うこと。尚、教科書の指定ページについては、その講義毎に理解度を考慮の上、指示する。

■ 成績評価方法・基準
毎回行う小テスト30%、平常点・受講態度（発言・質問）30%、試験またはレポート40%を基準として総合的に評価する。
小テストは毎回添削。

■ 教科書
［有機化学基礎の基礎］［立屋敷哲］［丸善株式会社］［2，700円］

■ 参考書
必要に応じて個別に紹介する。

■ 備考
質問に関してオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

有機化学Ⅰ

(11006)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 15）
対象学科：健専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
菅　野　修　一

■ 授業の概要
生命現象を分子レベルで理解するため、生体を構成している物質の分子構造、およびそれを組み立てている結合のしくみを知る事は必須である。化学Ⅰ・Ⅱで学んだことをもとに有機化学の基本概念を述べ、それらの分子の反応性を化学結合、とりわけ共有結合の電子の配置から説明し、それをもとに官能基の性質について講義する。一方、講義の適切な個所では、化学の基本となる量子論の考え方にも触れ、有機化学の奥深さも伝える。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・生体構成物質を理解する基礎となる簡単な有機化合物の理解。	0.1	0.4	0.1	0.1	0.1	0.1			0.1
・化学結合と電子の関係の理解。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　健康栄養学における有機化学の重要性の認識について	教科書指定ページの熟読。
第２回　元素の周期表、元素記号、必須元素、同族元素	教科書指定ページの熟読。
第３回　アルカリ金属、アルカリ土類金属、ハロゲン元素、希ガス	教科書指定ページの熟読。
第４回　分子模型を用いての立体化学、炭素の結合手	教科書指定ページの熟読。
第５回　原子番号と電子の配列、イオン結合の復習	講義ノートの総まとめ（1回目）。
第６回　原子の構造、同位体、放射性同位元素の生化学における利用	教科書指定ページの熟読。
第７回　分子式、組成式、示性式、有機化合物の異性体	教科書指定ページの熟読。
第８回　中間試験、分子量、式量、構造式、炭素の正四面体構造	教科書指定ページの熟読。
第９回　炭素の二重結合、三重結合、様々な分子式	教科書指定ページの熟読。
第10回　飽和炭化水素、アルカンの構造、アルカンの性質	講義ノートの総まとめ（2回目）。
第11回　不飽和炭化水素、共有結合（電子対結合）、電子対	教科書指定ページの熟読。
第12回　非共有電子対、配合結合、金属結合、不対電子	教科書指定ページの熟読。
第13回　メタン分子、軌道電子の昇位、混成軌道、δ結合、π結合	課題を指定。
第14回　直鎖の飽和炭化水素とその命名法、数詞、アルキル基	教科書指定ページの熟読。
第15回　分岐炭化水素とその命名法、慣用名	講義ノートの総まとめ（3回目）。

■ 履修上の注意
教科書の指定ページを熟読し、予習・復習をしっかり行うこと。尚、教科書の指定ページについては、その講義毎に理解度を考慮の上、指示する。

■ 成績評価方法・基準
毎回行う小テスト30%、平常点・受講態度（発言・質問）30%、試験またはレポート40%を基準として総合的に評価する。
小テストは毎回添削。

■ 教科書
［有機化学基礎の基礎］［立屋敷哲］［丸善株式会社］［2，700円］

■ 参考書
必要に応じて個別に紹介する。

■ 備考
質問に関してオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

有機化学Ⅱ

(11007)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 15）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
菅　野　修　一

■ 授業の概要
有機化学Ⅰの講義を理解していることをベースに、有機化学の基礎として知っておく必要のある典型的な有機化合物を個別に解説していく。ここでは繰り返し化合物をボンドラインフォーミュラ・ダッシュフォーミュラ・コンデンスドフォーミュラで書けるよう説明し、さらには構造式から読み取れる化合物の性質を理解できるようにする。さらに、講義の適切な個所では、化学の基本となる量子論の考え方にも触れ、有機化学の奥深さも伝える。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・基本的有機化合物の理解。	0.6	0.1	0.1		0.1				0.1
・有機化学反応の基礎の理解。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　有機化合物の官能基、化合物の名称	教科書指定ページの熟読。
第２回　アルコール、エーテル、エステルの一般的性質	教科書指定ページの熟読。
第３回　アンモニア、アミン、アミノ酸の構造と性質	教科書指定ページの熟読。
第４回　ケトン、カルボン酸の構造と性質、その関連性	教科書指定ページの熟読。
第５回　アルデヒドの構造、還元性としての性質、アルコールとの関係	講義ノートの総まとめ（1回目）。
第６回　生体内のケトン体としての構造とその存在の意味付け	教科書指定ページの熟読。
第７回　芳香族炭化水素、アロマの語源、ナフタリン	教科書指定ページの熟読。
第８回　中間試験、アルカンの誘導体、ハロアルカン、トリハロメタン	教科書指定ページの熟読。
第９回　共有結合の分極、フロンガスとオゾン層の破壊	教科書指定ページの熟読。
第10回　求核的置換反応、脱離反応	講義ノートの総まとめ（2回目）。
第11回　アミンの分類と性質、アンモニアの塩基性の意味	教科書指定ページの熟読。
第12回　第二級アミンと亜硝酸からニトロソアミンの生成およびその意味	教科書指定ページの熟読。
第13回　アルコールの構造、多価アルコール、トリアシルグリセロール	課題を指定。
第14回　不飽和有機化合物の性質と反応性	教科書指定ページの熟読。
第15回　共鳴と共鳴構造、酸の強弱との関係	講義ノートの総まとめ（3回目）。

■ 履修上の注意
教科書の指定ページを熟読し、予習・復習をしっかり行うこと。尚、教科書の指定ページについては、その講義毎に理解度を考慮の上、指示する。

■ 成績評価方法・基準
毎回行う小テスト30%、平常点・受講態度（発言・質問）30%、試験またはレポート40%を基準として総合的に評価する。
小テストは毎回添削。

■ 教科書
［有機化学基礎の基礎］［立屋敷哲］［丸善株式会社］［2，700円］

■ 参考書
必要に応じて個別に紹介する。

■ 備考
質問はオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

有機化学Ⅱ

(11008)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 15）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
菅　野　修　一

■ 授業の概要

人間の生命維持に関連する現象は体内のタンパク質・糖質・脂質などが関連する代謝、つまりは複雑な化学反応によりもたらされる。生体の主構成物質の有機化合物の化学構造を理解し、さらにはその基本的有機化学反応について説明する。有機化合物の構造式から読み取れる様々な情報を読み取れるようにし、高分子化合物を含むより複雑な化合物の理解にまでつなげる。代謝に関する詳しい学習は生化学に譲るが、生化学の講義を理解するためには、この講義を理解することが前提となる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・有機化学反応の基礎の理解	0.1	0.5	0.1	0.1	0.1				0.1
・基礎となる有機化合物の理解									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　有機化合物の官能基、化合物の名称	教科書指定ページの熟読
第２回　アルコール、エーテル、エステルの一般的性質	教科書指定ページの熟読
第３回　アンモニア、アミン、アミノ酸の構造と性質	教科書指定ページの熟読
第４回　ケトン、カルボン酸の構造と性質、その関連性	教科書指定ページの熟読
第５回　アルデヒドの構造、還元性としての性質、アルコールとの関係	講義ノートの総まとめ（1回目）。
第６回　生体内のケトン体としての構造とその存在の意味付け	教科書指定ページの熟読
第７回　芳香族炭化水素、アロマの語源、ナフタリン	教科書指定ページの熟読
第８回　中間試験、アルカンの誘導体、ハロアルカン、トリハロメタン	教科書指定ページの熟読
第９回　共有結合の分極、フロンガスとオゾン層の破壊	教科書指定ページの熟読
第10回　求核的置換反応、脱離反応	講義ノートの総まとめ（2回目）。
第11回　アミンの分類と性質、アンモニアの塩基性の意味	教科書指定ページの熟読
第12回　第二級アミンと亜硝酸からニトロソアミンの生成およびその意味	教科書指定ページの熟読
第13回　アルコールの構造、多価アルコール、トリアシルグリセロール	課題を指定。
第14回　不飽和有機化合物の性質と反応性	教科書指定ページの熟読
第15回　共鳴と共鳴構造、酸の強弱との関係	講義ノートの総まとめ（3回目）。

■ 履修上の注意

教科書の指定ページを熟読し、予習・復習をしっかり行うこと。尚、教科書の指定ページについては、その講義毎に理解度を考慮の上、指示する。

■ 成績評価方法・基準

毎回行う小テスト30%、平常点・受講態度（発言・質問）30%、試験またはレポート40%を基準として総合的に評価する。
小テストは毎回添削。

■ 教科書

［有機化学基礎の基礎］［立屋敷哲］［丸善株式会社］［2，700円］

■ 参考書

必要なプリント配布

■ 備考

質問に関してオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

生物学Ⅰ

(11009)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
堀　江　佐知子

■ 授業の概要
生き物の不思議さは、長い進化の歴史を経て生まれたものであり、脈々と生命が受け継がれてきた結果である。そして、その不思議さが進化した背景には、何らかの合理的な理由があると考えられる。
地球が誕生し、その地球上で生命が受け継がれてきた道筋を学ぶことで、生き物の不思議さが進化してきた理由を探る講義であり、今までと違う新たな視点で生き物の不思議さを見ることができるようになること、「生物」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目指す講義である。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を身につける。	0.5					0.25		0.25	
・学習した情報を整理・要約することができる技術を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　講義内容および進め方や評価方法の説明	生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。
第２回　原始地球の誕生	地球の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第３回　地球と生命の誕生と進化	生命の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第４回　魚の進化	魚の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第５回　植物の進化（植物の誕生）	植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第６回　植物の進化（裸子植物の進化）	裸子植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第７回　植物の進化（被子植物の進化）	被子植物の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第８回　哺乳類の誕生	哺乳類の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第９回　哺乳類の進化	哺乳類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第10回　鳥の進化	鳥の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第11回　昆虫の進化（昆虫の誕生）	昆虫の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第12回　昆虫の進化（昆虫の情報戦略）	昆虫の情報戦略について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第13回　昆虫の進化（昆虫の共進化）	昆虫の共進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第14回　人類の進化	人類の進化について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第15回　講義のまとめ	講義内容をまとめる。
第16回　試験	

■ 履修上の注意
特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。

■ 成績評価方法・基準
課題、レポート及び学期末の試験（50%）、受講態度（50%：講義への参加状況及び小テストの結果等で総合的に判断する）により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う。

■ 教科書
無し

■ 参考書
無し

■ 備考
質問等については、講義の終了時に受付ける。

生物学Ⅱ

(11010)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
堀　江　佐知子

■ 授業の概要
生物学は生物や生命現象を学ぶ自然科学である。本講義で扱う対象は細胞内の分子のようなミクロレベルから生物圏の現象のようなマクロレベルまで様々な生命現象を対象とする。本講義では、生命誕生から生物の一種として、ヒトの生物学的特徴を分子遺伝学や生理学、生態学等様々な視点から学んで行くことを通して、ヒトの普遍性や特殊性を学び、我々ヒトの生物学的特徴の理解を通じて、生物学を多様な視点からとらえ、「生命」や「環境」などを総合的に考えられるようになることを目指し講義を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・生物学を学習する上で基礎的な知識・学習能力を身につける。	0.5					0.25		0.25	
・学習した情報を整理・要約することができる技術を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　講義内容および進め方や評価方法の説明	生物に関する話題を新聞や書籍等から見つけておくこと。
第２回　生命の誕生	生命の誕生について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第３回　ヒトの設計図、遺伝子	遺伝子について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第４回　骨・筋肉	骨や筋肉について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第５回　肝臓	肝臓について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第６回　胃・腸	胃や腸について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第７回　心臓・血管	心臓や血管について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第８回　免疫	免疫について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第９回　脳と心（知覚）	脳（知覚）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第10回　脳と心（記憶）	脳（記憶）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第11回　脳と心（こころの進化）	脳（こころの進化）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第12回　遺伝子（日本人のルーツ）	遺伝子について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第13回　遺伝子（精神の設計図）	遺伝子（精神の設計図）について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第14回　生物多様性と保全	生物多様性について疑問や興味を持ったことについて自ら調べて理解に努めること。
第15回　講義のまとめ	講義内容をまとめる。
第16回　試験	

■ 履修上の注意
特に教科書等は使わず、プリント等で進める。予習復習を行い、理解に努めること。

■ 成績評価方法・基準
課題、レポート及び学期末の試験（50%）、受講態度（50%：講義への参加状況及び小テストの結果等で総合的に判断する）により評価する。課題について、講義中にフィードバックを行う。

■ 教科書
無し

■ 参考書
無し

■ 備考
質問等については、講義の終了時に受付ける。

環境学

(11011)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年・服専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
黒　川　優　子

■ 授業の概要

日本各地で公害問題が多発した1960～1970年代の高度経済成長期から約半世紀が経過した今日では、法的な規制、汚染物質の浄化技術の発達、そして人々の環境に関する意識の向上のため、見た目の環境はかなり良くなったが、地球温暖化をはじめ、地球レベルで対策を講じなければならない課題も少なくない。したがって、環境問題に関する基礎的な知識を習得し、「環境を保全、修復するために何をすべきか」について理解を深めることが大切であり、これまでに取り組んできた調査・研究の成果を紹介しながら講義を進める。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・環境に関する基礎的知識を身につける。	
・環境との関わり方の大切さについて理解を深める。	
・環境に関する正しい情報を選択できる力を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　地球環境学とは	事後：授業内容の復習。
第２回　人間活動と環境とのかかわり	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第３回　水俣病	事後：授業内容の復習。 関連内容について情報を収集し、 自分の意見をまとめる。
第４回　飲料水と食品に関する今後の課題	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第５回　中村　哲医師：アフガンとの約束	事後：授業内容の復習。 関連内容について情報を収集し、 自分の意見をまとめる。
第６回　環境変化に伴う異変	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第７回　外来種問題	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第８回　環境DNA	事後：授業内容の復習。 関連内容について情報を収集し、 自分の意見をまとめる。
第９回　化学物質汚染研究の基礎	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第10回　大気汚染・水質汚染・土壌汚染	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第11回　化学物質による汚染	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第12回　内分泌撹乱物質	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第13回　エコチル調査	事後：授業内容の復習。 関連内容について情報を収集し、 自分の意見をまとめる。
第14回　環境活動の実践と環境倫理	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第15回　環境教育	事後：授業内容の復習。 関連内容について情報を収集し、 自分の意見をまとめる。
第16回　試験	授業で学んだこと総復習して試験に臨むこと。

■ 履修上の注意

・日頃から環境に関心・興味を持ち、新聞、テレビ、インターネット、書籍、文献等で環境に関する情報について調べるよう心がけてください。

■ 成績評価方法・基準
・平常点・受講態度（授業への参加状況［発言、質問等］、ミニットペーパーへの取り組み状況、予習・復習の状況等で総合的に判断する）（60%）、期末試験（40%）で評価します。
・提出された課題については、後日、添削して返却します。

■ 教科書
・「環境科学入門　第2版－地球と人類の未来のために」川合真一郎・張野宏也・山本義和（化学同人）〔2，300円〕
・必要に応じて資料を配布します。

■ 参考書
・〔環境ホルモンと水生生物〕〔川合真一郎〕〔成山堂書店〕〔1，600円〕
・〔沈黙の春〕〔レイチェル・カーソン著、青樹簗一訳〕〔新潮社〕〔766円〕
・〔新装版　苦海浄土（くがいじょうど）　わが水俣病〕〔石牟礼道子〕〔講談社〕〔690円〕
・〔森は海の恋人〕〔畠山重篤〕〔文芸春秋〕〔640円〕
・〔牡蠣の森と生きる「森は海の恋人」の30年〕〔畠山重篤〕〔中央公論新社〕〔1，430円〕.
・〔人は愛するに足り、真心は信ずるに足る　アフガンとの約束〕〔中村　哲、澤地久枝（聞き手）〕〔岩波書店〕〔2，310円〕
・〔脱プラスチックへの挑戦　持続可能な地球と世界ビジネスの潮流〕〔堅達京子〕〔山と渓谷社〕〔1，650円〕
・〔環境再興史〕〔石　弘之〕〔角川新書〕〔990円〕
・〔データでわかる2030年地球のすがた〕〔夫馬賢治〕〔日経プレミアシリーズ〕〔990円〕
・〔売り渡される食の安全〕〔山田正彦〕〔角川新書〕〔946円〕
・〔世界を驚かせた頭のいい江戸のエコ生活〕〔菅野俊輔〕〔青春出版社〕〔922円〕
・〔ハチドリのひとしずく〕〔監修・辻　信一〕〔光文社〕〔1，143円〕
・その他、授業時間内に適宜、参考書を紹介します。

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

統計学

(11012)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
池　田　展　敏

■ 授業の概要
前半では、集団の性質を大局的にとらえるための基礎となる記述統計（度数分布、代表値、散布度、特に標準偏差、相関係数など）の初歩的事項について解説し、簡単な例で計算練習する。中盤では、統計学の応用のために不可欠な確率と確率分布（正規分布、t分布、カイ二乗分布など）について説明する。後半では、確率論の応用として推定や検定など推測統計の考え方ついて説明する。特に、疫学研究に欠かせないクロス表集計の考え方について言及する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・平均、標準偏差、相関係数などの意味と定義を理解し、その計算ができるようになる。	0.5		0.5						
・就職試験に出題されるような、簡単な確率や数え上げの問題が解けるようになること。									
・確率分布の種類について理解し、区間推定に応用できる。									
・統計的検定の考え方を理解し、特定の例題が解ける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、統計学のイメージと概要（記述と推測）	教科書1章１－１，１－２を読む。
第２回　資料の整理（データの種類と度数分布）	教科書1章1-3を読む。配布プリントの復習。
第３回　資料の整理（ヒストグラム、データの代表値）	教科書1章1-3および章末問題、3章。配布プリントの復習。
第４回　資料の整理（散布度、偏差、分散）	教科書3章章末問題と4章。授業の計算例の確認。
第５回　資料の整理（標準偏差、データの標準化）	教科書4章。計算例の確認。
第６回　資料の整理（散布図、共分散、相関係数）	教科書2章と5章、提出課題（記述統計編）に取り組む。
第７回　離散型確率変数	教科書6章の復習。
第８回　確率の計算例。確率変数と確率分布。例：2項分布	教科書6章6-1-2周辺。授業の計算例の確認。教科書6章6-2、7章（例題など）。
第９回　離散型確率変数の期待値と分散	教科書8章。
第10回　連続型確率分布表の使い方（標準正規分布、t分布）、%点	教科書9章。確率分布表の使い方確認。提出課題（確率編）に取り組む。
第11回　なぜ正規分布が必要か。カイ2乗分布が重要な理由	教科書10章。提出課題（確率編）に取り組む。 教科書11章
第12回　平均値の区間推定	教科書12～15章。ノートの復習。配布プリントの復習。
第13回　区間推定の演習問題	教科書12～15章。ノートの復習。特に14章の章末練習問題に取り組む。配布プリントの復習。
第14回　検定の考え方と平均値に関する検定	教科書16章～17章を読む。配布プリントの復習。特に17章の章末練習問題と16章の章末練習問題。
第15回　クロス表集計とカイ二乗検定（独立性の検定）	教科書20章。配布プリントの復習。
第16回　期末試験	提出課題を復習して臨むこと。

■ 履修上の注意
電卓が必要な時があるので持参すること。

■ 成績評価方法・基準
期末テスト（60%）。問題レポート（40%）
問題レポートは解答を見て各自自己採点したものを提出。添削して返却する。試験は試験後に解答例を配布する。

■ 教科書
らくらく統計学　統計学教育研究会編　ムイスリ出版　2350円

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

数学

(11013)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
池　田　展　敏

■ 授業の概要
数学は自然科学だけでなく、文系の分野でも幅広く利用される道具としての意味もある。授業では、集合論、代数学、解析学、幾何学など数学の体系を説明する。特に、集合と写像が数学理論の出発点となり、２項演算の導入により代数学が、変換群の考え方により幾何学が発展することを述べていく。加えて、微分・積分が現代社会において欠かせないツールになっていることも説明する。また、数学の理論と中学・高校で教えられる基礎的数学の関連性を、演習問題を通じ学習するようにする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・数学に関する教養（歴史、分野、応用など）を修得する。	0.5　0.5
・集合の記法、写像の概念、関数のグラフ化、方程式の作り方や解き方、微分や積分とは何かを理解する。	
・就職試験などで出題されるレベルの数学に慣れ、解ける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：数学の歴史と構成	板書の復習
第２回　集合と写像：集合の元の個数を比べるために集合から集合への写像を考える。	配布プリントの復習
第３回　無限集合の元の個数を比べること。	配布プリントの復習
第４回　集合に関する記法等の基礎事項	配布プリントの復習
第５回　数と数直線。整数、有理数、無理数、実数	配布プリントの復習。集合と数の演習問題を解く。
第６回　移動と回転で幾何学模様を分類する。	配布プリントの復習。対称性の演習問題を解く。
第７回　回転操作と演算表。群の定義（代数学入門）	配布プリントの復習
第８回　2項演算と代数学。方程式が解けるために必要なこと。	配布プリントの復習。命題と論理に関する演習問題を解く。
第９回　一次方程式を作ったり解いたりする演習	配布プリントの復習。方程式に関する演習問題
第10回　速さと時間、距離。グラフを書く練習	配布プリントの復習
第11回　微分の定義	配布プリントの復習
第12回　数列と簡単な関数（１次関数、2次関数）の演習	配布プリントの復習。関数に関する演習問題
第13回　積分の意味	配布プリントの復習
第14回　図形の面積、立体の体積	配布プリントの復習。幾何学に関する演習問題
第15回　いろいろな幾何学。同じ図形とは何なのか考える。ユークリッド幾何、射影幾何、トポロジー	配布プリントの復習。全体レポートの提出
第16回　期末試験	

■ 履修上の注意
数学に関する先入観を捨てて、自由な発想で臨んでほしいです。グーグルのクラスルームも活用します。

■ 成績評価方法・基準
テーマごとに出す宿題の提出（40%）。授業に関するレポート（40%）。試験(20%)。プリントは後日添削して返却し、一部を授業中に解説する。レポートは、後日解答例を配布する。

■ 教科書
パワーポイントの資料を配布する。

■ 参考書
なし（授業で紹介することはあります）

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付けます。

経済学

(11014)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年・服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
星　　雅　博

■ 授業の概要
日本は、戦後奇跡的な経済成長を遂げ、経済大国となった。だが、近年、近隣諸国の経済成長に伴い相対的に日本の国際的な経済力が低下してきており、国際的、多角的な視点で経済の動きを読める能力がますます求められてきている。また、日本は世界の中で最も早く高齢化が進んでいる国でもあり、生産人口の減少による経済成長率の鈍化が懸念されている。このような、内外の経済問題に対応するための知識を一国経済と国民の日常生活との関わりを通じて、講義では、経済学の基礎知識をもとに解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・経済学を学習する上で必要な基礎知識を身につける。	0.6　0.4
・社会人としての専門的な知識を身につける、	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（経済学とは何か。）	経済学の考え方をまとめ次回提出する。
第２回　社会の変容と経済理論の変遷、需要と供給	需要と供給の内容を次回提出する。
第３回　消費者の選択と消費需要の決定	消費者選択の過程を次回提出する。
第４回　企業の生産行動	生産行動の過程を次回提出する。
第５回　余剰、企業の集中、市場の失敗	市場の失敗の具体例を次回提出する。
第６回　国民所得とは	国民所得の定義をまとめ次回提出する。
第７回　景気	景気の種類をまとめ次回提出する。
第８回　財政	財政のしくみを次回提出する。
第９回　金融	金融のしくみを次回提出する。
第10回　財政・金融政策	財政・金融政策の効果を次回提出する。
第11回　国際収支統計、国際通貨制度、貿易に関する基礎理論	国際通貨制度のしくみを次回提出する。
第12回　国際経済機構と地域経済連携、ＥＰＡとＯＤＡ	機構と連携の社会への影響を次回提出。
第13回　戦後の国際経済制度	国際経済制度の変遷を次回提出する。
第14回　日本経済の変遷	日本経済の変遷を次回提出する。
第15回　経済史と経済学史	歴史から学ぶこれからの経済を提出。

■ 履修上の注意
常に、新聞（経済・社会）に目を通し、現実の経済動向が講義の内容のどこに関連するかを意識する。

■ 成績評価方法・基準
平常点８０％（平常点は、授業への参加状況およびミニットペーパー等で総合的に判断する。）レポート２０％（必ず提出すること。未提出の場合評価の対象外とする。）
ミニットペーパー、レポートについては授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書
事前にプリントを配布します。

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については、授業終了時に受付けます。

社会学Ⅰ

(11015)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年・服専４年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
庄　司　一　平

■ 授業の概要

各回1つのテーマについて、根本から考えなおす社会学入門。社会と個人の関係に関する知識社会学の考え方を参考にしつつ、各トピックについて概説する。時代の変化という縦軸と、社会の多様性という横軸とを組み合わせながら、近現代におけるさまざまな社会現象の歴史的因果関係と構造的特性を考える。基礎知識の習得だけでなく、〈社会学的なものの見方〉を用いることにより、自己と現代社会に対して批判的・多面的な問いかけ行うことを目的とする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・社会に関する幅広い教養を身につける	
・社会学的なものの見方をふまえた思考力・判断力を身につける	
・社会的コミュニケーション論をふまえた表現力を身につける	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　イントロダクション	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 「社会」という言葉～起源と類型～
第２回　「わたし」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 アイデンティティ、社会化、役割理論
第３回　「家族」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 ヒトとサル、結婚と性、日本のイエ制度
第４回　「共同体」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 社会集団の類型、生活空間と境界・異界
第５回　「国家」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 イデオロギーと教育、ナショナリズム
第６回　「ことば」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 記号と象徴、コミュニケーション、聖典
第７回　「あそび」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 遊びと学び、儀礼と反復、ゲーム理論
第８回　「あたりまえ」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 常識の生成、制度・規範・統制・階層
第９回　「思い込み」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 知識と信念、呪術・科学・宗教
第10回　「連帯」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 ネットワーク、人間関係資本、団結と対立
第11回　「仕事」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 贈与と交換、社会的分業、職業倫理
第12回　「善悪」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 道徳、倫理、法と秩序
第13回　「正義」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出

	人権の思想、自由・平等・政治的公正
第14回　「不安」の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 恐怖と不安、不安の構造、不安への対処
第15回　まとめ	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 全体の振り返り

■ 履修上の注意

マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用し、時事問題や身近に起こった出来事、人々との関わりに普段から注意を向けておくこと。

■ 成績評価方法・基準

①授業の理解度（ミニットペーパー）［50%］、②期末レポート［50%］により総合的に評価する。授業中に適宜振り返りを行う。

■ 教科書

使用しない。プリントを配布する。

■ 参考書

①ピーター・L・バーガー『社会学への招待』ちくま学芸文庫、1，200円＋税。

②ピーター・L・バーガー／トーマス・ルックマン『現実の社会的構成―知識社会学論考』新曜社、2，900円＋税。その他授業中に適宜紹介する。

■ 備考

質問等は授業終業時に受け付ける。

社会学Ⅱ

(11016)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年・服専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
庄　司　一　平

■ 授業の概要

人生と生活の「時間」を社会学的に考える。どの社会においても、「人生儀礼」や「年中行事」は必ず執り行われる。「年齢」とともに変化する人生の諸段階や、「暦」にもとづいた生活のリズムについて、伝統社会（民俗社会）と現代社会（市民社会）を対比しつつ解説する。人々のさまざまな行動様式や価値観を客観的に理解し、「生きることと死ぬこと」「一年の暮らし」をめぐる諸問題について、身近な事例をもとに解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・社会に関する幅広い教養を身につける	
・社会学的想像力をふまえた思考力・判断力を身につける	
・社会学的想像力をふまえた表現力を身につける	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　イントロダクション	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 人生の時間と儀礼、生活の時間と行事
第２回　年齢と人生の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 年齢という制度・規範、年祝いと厄年
第３回　誕生の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 名づけ、初宮詣、初誕生
第４回　こどもと若者の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 七五三、成年式、通過儀礼と「一人前」
第５回　おとなの社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 縁結び、結婚と出産、家事と育児
第６回　老いの社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 老いと文化、終末期への備え、ポックリ願望
第７回　病気の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 あいまいな「病気」と「健康」、病気なおし
第８回　医療の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 医療化、代替医療、生命倫理、QOL
第９回　ケアの社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 キュアとケア、緩和ケア、心のケア
第10回　死の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 さまざまな死、死の受容、看取り
第11回　死後の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 「あの世」の比較文化
第12回　暦と行事の社会学	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 さまざまな暦法と祝日、日の吉凶
第13回　まつりの社会学（１）～春・夏～	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出

	正月、初午、夏まつり
第14回　まつりの社会学（２）～秋・冬～	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 七夕・お盆、年越し
第15回　まとめ	事前学修：次回のキーワードを調べておく 事後学修：配布資料の見直し・課題提出 全体の振り返り

■ 履修上の注意

マス・メディアやソーシャル・メディアを積極的に活用すること。身近な行事や儀礼、季節の変化や人々の時間の過ごし方に普段から注意を向けておくこと。

■ 成績評価方法・基準

①授業の理解度（ミニットペーパー）［50%］、②期末レポート［50%］により総合的に評価する。授業中に適宜、振り返りを行う。

■ 教科書

使用しない。プリントを配布する。

■ 参考書

新谷尚紀・湯川洋司・波平恵美子（編）『暮らしの中の民俗学』1～3（吉川弘文館、2003年）、各2，600円＋税。その他授業中に適宜紹介する。

■ 備考

質問等は授業終業時に受け付ける。

歴史Ⅰ

(11017)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年・服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
栗　原　伸一郎

■ 授業の概要

史料は、過去にあった出来事を明らかにし、考えるための材料や根拠になるものである。本講義では、伊達政宗といった仙台ゆかりの人物に関する史料をはじめ、仙台に関するさまざまな史料を取り上げて、そこから明らかになる内容について説明する。その際、史料の特徴、作成された時代的背景や作成者の意図などに注目することで、史料を読解するポイントや歴史を考える方法について講義する（単純な事項の暗記ではない）。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・①歴史に親しみ、さまざまな史料があることを理解する。	0.4	0.2				0.2		0.2	
・②史料の性格を考え、そこから読み取ることができる内容を理解する。									
・③史料から歴史的事実を明らかにするための方法や留意点を理解する。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス～講義の概要～	配布プリントを再読し、授業の方向性について理解を深める。
第２回　史料に親しむ①手紙（1）	配布プリントを再読し、『仙台市史』（資料編）などの書籍で政宗の手紙について調べる。
第３回　史料に親しむ②編纂記録	これまでの配布プリントを通読し、一次史料と編纂史料について整理する。
第４回　史料に親しむ③地図（1）	配布プリントを再読し、古地図に描かれた場所に足を運ぶ。
第５回　史料に親しむ④地図（2）	配布プリントを再読し、古地図に描かれた場所に足を運ぶ。
第６回　史料に親しむ⑤新聞	配布プリントを再読し、過去の新聞について理解を深める。
第７回　史料を読み解く①公文書	宮城県公文書館に出向き、実際に公文書について調べる。
第８回　史料を読み解く②石碑	配布プリントを再読し、身の周りに残る石碑について調べる。
第９回　史料を読み解く③日記	配布プリントを再読し、紹介した史料の時代的な特徴について理解を深める。
第10回　史料を読み解く④手紙（2）	これまでの配布プリントを通読し、読解のポイントを整理する。
第11回　史料と人物像①伊達政宗と伝記	これまでの配布プリントを通読し、人物の伝記に目を通す。
第12回　史料と人物像②伊達政宗と位	これまでの配布プリントを通読し、紹介した史料の背景について理解を深める。
第13回　史料と人物像③伊達政宗と祭	これまでの配布プリントを通読し、近代における政宗の捉え方について理解を深める。
第14回　史料と人物像④伊達政宗と現代	これまでの配布プリントを通読し、インターネットで政宗がどのように取り上げられているのか確認する。
第15回　補論と総括～史料を考える～	これまでの配布プリントを通読し、史料を利用する際の留意点を考えてみる。
第16回　試験	試験問題は事前に発表するので、準備をしておくこと。

■ 履修上の注意

歴史Ⅱを受講する場合は、この講義を受講することが望ましい。地域文化論は、この講義を理解する上で参考になる。なお、講義の進展によっては、内容を一部変更する場合がある。

■ 成績評価方法・基準
平常点（毎回記入するミニットペーパーの内容で受講の姿勢や理解度を判断する）40%
期末試験（論述形式、課題は事前に発表する）60%
ミニットペーパーで示された有用な意見や質問、模範的な記入例などについては、適宜講義で取り上げて解説する。

■ 教科書
毎回プリントを配布する。

■ 参考書
講義中に紹介する。

■ 備考
質問等は授業終了時に受け付ける。試験はレポートになる場合がある。

歴史Ⅱ

(11018)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年・服専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
栗　原　伸一郎

■ 授業の概要

歴史的事実の捉え方や評価は固定されているものではなく、同じ出来事や人物であっても、多様な解釈や叙述が可能であり、様々な歴史像を描くことができる。本講義では、日本における変革期である幕末維新期に注目して、それが明治時代から現代までどのように認識され、語られてきたのかについて説明する。その際、人物像の時代的な変化について取り上げ、地域の視点・視座でも歴史を捉えることで、多様な歴史像や、歴史を考える方法について講義する（単純な事項の暗記ではない）。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・①歴史事象は多様な解釈ができることを理解する。	0.3	0.2	0.1			0.2		0.2	
・②歴史像が形成される過程や背景を理解する。									
・③歴史事象を多角的に捉え、考える能力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス～講義の内容～	配布プリントを再読し、授業の方向性について理解を深める。
第２回　幕末維新の歴史像①時代劇	配布プリントを再読し、幕末維新に関する時代劇を観賞する。
第３回　幕末維新の歴史像②教科書(1)	配布プリントを再読し、高校の教科書や参考書などに目を通す。
第４回　幕末維新の歴史像③教科書(2)	配布プリントを再読し、高校の教科書や参考書などに目を通す。
第５回　幕末維新の歴史像④一般書	配布プリントを再読し、現在どのような一般書が発行されているか確認する。
第６回　歴史像の形成①明治時代	配布プリントを再読し、明治政府の方針について理解を深める。
第７回　歴史像の形成②昭和戦前戦後	配布プリントを再読し、歴史観の変遷についてまとめる。
第８回　歴史像の形成③近代の東北地方	配布プリントを再読し、地域の歴史書に目を通す。
第９回　幕末維新の人物像①白虎隊	配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、白虎隊がどのように取り上げられているのか調べる。
第10回　幕末維新の人物像②新選組	配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、新選組がどのように取り上げられているのか調べる。
第11回　幕末維新の人物像③坂本龍馬	配布プリントを再読し、書籍やインターネットなどで、坂本龍馬がどのように取り上げられているのか調べる。
第12回　東北地方と幕末維新①幕末の政争と仙台藩	配布プリントを再読し、『仙台市史』などの書籍で、仙台藩について理解を深める。
第13回　東北地方と幕末維新②戊辰戦争	配布プリントを再読し、書籍などで戊辰戦争に至る大まかな流れを確認する。
第14回　東北地方と幕末維新③戦場の人々	配布プリントを再読し、戦争の実態などについて理解を深める。
第15回　補論と総括～さまざまな歴史像～	初回からの配布プリントを再読し、歴史像が形成された背景を再確認し、歴史を捉える際の留意点について考えてみる。
第16回　試験	試験問題は事前に発表するので、準備をしておくこと。

■ 履修上の注意
メディア等で幕末維新期がどのように取り上げられているのか関心を持ち、高校で日本史を学んでいる場合は教科書を再読すること。受講する場合は、歴史Ⅰを受講することが望ましい。また、地域文化論は、この講義を理解する上で参考になる。なお、講義の進展によっては、内容を一部変更する場合がある。

■ 成績評価方法・基準
平常点（毎回記入するミニットペーパーの内容で受講の姿勢や理解度を判断する）40%
期末試験（論述形式、課題は事前に発表する）60%
ミニットペーパーで示された有用な意見や質問、模範的な記入例などについては、適宜講義で取り上げて解説する。

■ 教科書
毎回プリントを配布する。

■ 参考書
『仙台市史』（通史編）。その他は講義中に紹介する。

■ 備考
質問等は授業終了時に受け付ける。試験はレポートになる場合がある。

日本国憲法

(11019)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
横　田　尚　昌

■ 授業の概要

憲法は、国家の根本的な組織と作用のあり方を定めた法であり、国民ではなく、国家権力を拘束するルールである。それは、他の一切の国内法に優位する最高の効力を有する法であり、日本国憲法とは我が国における統治の基本ルールと基本的人権を定めたものである。この講義では、その日本国憲法が規定している統治機構の個々の機関の権限や運営方法について説明したうえで、この憲法に規定されている国民の権利及び義務（基本的人権）について判例の事案と裁判所の判断をみながら解説していきたい。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・日本国憲法の基礎的な知識を修得し、その全体像を説明することができる。 ・憲法上の権利の各分野において、いかなる問題があるかを知り、それに対する判決や学説の考え方が理解できる。 ・憲法に関する報道に接したとき、その問題のかなめとなる憲法上の論点が解説されるのを理解できる。	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨ 0.6　0.4

■ 授業計画		自習（事前・事後学修の内容）
第１回	概説（立憲主義、実質的意味の憲法、形式的意味の憲法、近代的意味の憲法、憲法の法源および権力分立について解説する。）	近代立憲主義の基本原理が日本国憲法のなかにどのように生きているのかを確認する。
第２回	天皇制と平和主義（国民主権、象徴天皇制、皇室典範、国事行為、公的行為、平和的生存権および戦争放棄について解説する。）	日本国憲法における天皇制の内容と平和主義の意義について確認する（歴史的観点からの天皇の権限、国際的観点からの平和的生存権、戦争放棄などについて把握しておく。）
第３回	選挙制度（多数代表制、少数代表制、比例代表制、並立制、政党国家および党籍変更議員の失職制度について解説する。）	選挙制度や政党制度は、国民・市民と国の政治をつなぐ重要な制度であるが、それには様々な種類があることを認識しておく。そして、現行の選挙制度の問題点や政党の在り方について把握しておく。
第４回	国会（国会中心立法の原則、国会単独立法の原則、立法過程、会期不継続の原則、二院制およびねじれ国会について解説する。）	国家とは、「国権の最高機関」であると同時に「唯一の立法機関」でもあることについて認識するとともに、その憲法上の地位・組織および権限ならびに議員の地位や立法過程について把握する。
第５回	内閣（議院内閣制、均衡本質説、責任本質説、国民内閣制、内閣総理大臣および衆議院の解散について解説する。）	政府の形態のいくつかの類型があること、日本国憲法は議院内閣制を採用していることを認識し、内閣の組織・権能、内閣総理大臣の地位などについて把握しておく。
第６回	裁判所（警察予備隊違憲訴訟、司法権、法律上の争訟、最高裁判所、下級裁判所および裁判員裁判について解説する。）	裁判所の組織と権限、裁判員制度などを把握し、人権保障のあり方と密接に関わっている違憲審査制の理論と実際について理解する。
第７回	地方自治（地方自治の本旨、地方分権、制度的保障論、地方公共団体、道州制、上乗せ条例および住民投票条例について解説する。）	地方自治の本旨の意味をしっかりと理解する。地方自治体の組織と権限、国と自治体の関係、法律と条例の関係などについて把握する。
第８回	人権とは（1789年人権宣言、ワイマール憲法、第三世代の人権、人権の享有主体、法人の人権、外国人の人権および未成年者の人権について解説する。）	そもそも「人権」とはいかなる概念なのかについて確認したうえで、日本国憲法における人権保障のありようを理解する。
第９回	人権の適用範囲（私人間効力、社会的権力、特別の法律関係、公務員の政治的活動および人権の分類について解説する。）	憲法で保障されている人権は、どのような場合にどのような制限を受けるのか、またその根拠は何かを把握する
第10回	幸福追求権と法の下の平等（幸福追求権、人格的利益説、一般的自由説、プライバシーの権利、自己決定権および合理的区別の概念について解説する。）	幸福追求権と平等権にかかわる裁判事例の概要を把握することを通じて、その保障の実態について把握する。

第11回	内心の自由（思想・良心の自由、信教の自由、政教分離原則、目的効果基準、学問の自由および大学の自治について解説する。）	思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由などの精神的自由権の内容について把握する
第12回	表現の自由（集会の自由、結社の自由、表現の自由、知る権利、検閲の禁止および名誉毀損〔きそん〕について解説する。）	表現の自由、集会・結社の自由などの精神的自由権の内容について把握する。
第13回	経済的自由権（職業選択の自由、許可制、適正配置規制、規制目的二分論、財産権の保障および国家からの正当な補償の在り方について解説する。）	職業選択の自由と財産権の保障のありようをみることを通して日本国憲法の下での経済的自由権の保障とその制約について把握する。
第14回	生存権（生存権、プログラム規定説、併給禁止規定、堀木訴訟、教育権の所在、旭川学力テスト事件および環境権について解説する。）	福祉国家理念を採用する日本国憲法の下で、社会権（生存権および教育権）がいかように保障されているのか、またその限界について把握する。
第15回	参政権、国務請求権（選挙権、被選挙権、在宅投票制度、議員定数不均衡、事情判決の法理および国務請求権について解説する。）	参政権とは何か、国務請求権とは何か（選挙権・被選挙権、請願権、裁判を受ける権利の内容）について把握する。

■ 履修上の注意

身近なところで、憲法にかかわる問題が日々生じていることを念頭に授業を進めますので、みなさんもニュースを継続的に見るように心がけてください。５回を超えて欠席（６回以上欠席）した場合は、理由のいかんを問わず単位修得ができないので注意すること。

■ 成績評価方法・基準

平常点４０％（平常点は、授業時間中の勉学姿勢や小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート６０％（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。

■ 教科書

特になし（毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する。）

■ 参考書

授業中に指示する。

■ 備考

オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の14:00過ぎから4校時開始時刻前までの間とする。

法学概説

(11020)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年・服専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
横　田　尚　昌

■ 授業の概要

この講義は、１年生を対象として様々な法分野のごく基本的な知識を提供することを目指すものです。我が国は法治国家といわれますが、実際にいかなる法令がどのように私たちをそして社会を規律しているのかについて詳らかに知ることは困難です。ただ、そうした中にあっても、生活していくうえで、ちょっと知っておくと役立つ法律の知識というものがあります。そうしたことを、この講義では各回ごとに最初に事例を掲げて、みなさんと問題意識を共有しながら解説していきます。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・法学一般の考え方が身についている。 ・社会問題を法学という視点から考えることができる。 ・さまざまな紛争をルールによって解決しようとする際に生ずる問題点について説明できる。	0.6　0.4

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	
第２回　みんなの法とわたしの法?	公法と私法の違いを把握したうえで、公法、私法それぞれの基本理念を整理し理解する。
第３回　どうして約束は守らないといけないの?	自分の意思と相手方の信頼との関係を念頭におきつつ「約束を守らなければならない理由」を議論する理由を考える。
第４回　電車が遅れても切符の料金は戻ってこないの?	附合契約とは何かを把握したうえで、約款による契約を締結する際の注意点を整理する。
第５回　どうして事故を起こしたら責任を負わされるの?	過失責任とは何かについて把握したうえで、無過失責任を設けるべき理由について考える。
第６回　子どものしつけと虐待はどこが違うの?	「しつけ」と「児童虐待」の違いを把握し、児童虐待があった場合の法的措置について理解する。
第７回　校長先生の決定には従わないといけないの?	日本国憲法が保障する信教の自由の意義について理解する。
第８回　８．マンガやアニメを規制してもいいの?	青少年条例と憲法が保障する言論の自由との関係性を考える。
第９回　どうして悪いことをした人に権利があるの?	被疑者や被告人に黙秘権が認められる理由について説明できるようにする。
第10回　ギャンブルってやっちゃいけないの？	賭博(とばく)のような被害者なき犯罪を処罰する理由を整理する。
第11回　仕事ができないとクビにされるの?	解雇権濫用法理が問題となる場面を考えながら解雇規制について整理し理解する。
第12回　手で掴めないものにも権利があるの?	著作権の意義を理解し、私的複製に対する法的規制の在り方を把握する。
第13回　損害保険と生命保険のちがいって何？	わずかな保険料（掛け金）を支払うだけで、保険事故を被ったときに多額の保険金を受け取ることが何故できるのかを整理し、保険の種類とそれぞれのしくみについて理解しておく
第14回　自動車保険のしくみ	自賠責保険と任意保険の関係と、任意保険には様々な保障が用意されていることを把握する。
第15回　株式会社って何？	株式会社の法的構造の基本となるところ、土台となるところを把握する。

■ 履修上の注意

私たちの生活のどのようなところで、どのような法規制がどのような効果をもたらしているかを、日頃から気を付けてみておいてください。欠席数が明らかに多いと認められる者には単位を与えない。

■ 成績評価方法・基準
平常点４０％（平常点は、授業時間中の勉学姿勢や小テストの結果等で総合的に判断する。）、レポート６０％（レポートのテーマと提出方法は学期の終わり頃の授業中に指示する。）。なお、小テストについては随時、レポートについては最終回の授業においてフィードバックをする。

■ 教科書
特になし（毎回の授業前にプリントを配布し、それに沿って講義する。）

■ 参考書
授業中に指示する。

■ 備考
オフィスアワーは、非常勤講師室において毎週金曜日の14:00過ぎから4校時開始時刻前までの間とする。

哲学Ⅰ

(11021)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年・服専４年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
徳　田　幸　雄

■ 授業の概要

人間は何のために生きるのか？死んだらどうなるのか？無になってしまうのか、それともあの世で生き続けるのか？人間にとって幸福とは何なのか？愛とは何か？善とは何か悪とは何か？これからは、これまで人類が問い続け、そして今なお問い続けている諸問題でもある。本授業では、古代ギリシャを代表する哲学者たち（ソクラテス・プラトン・アリストテレス）がこれらの根本的な問いについてどのように考えたのかを、当時の時代的・社会的背景および彼らのライフヒストリーもふまえつつ概説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・死生観についての基本的な知識を身につける	
・人生観についての考察を深める	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	要しない
第２回　古代ギリシャの時代背景―アテネとスパルタ―	チェックテスト①を見直す
第３回　ソクラテス①『ソクラテスの弁明』より	チェックテスト②を見直す
第４回　ソクラテス②『クリトン』より	チェックテスト③を見直す
第５回　ソクラテス③『パイドン』より	チェックテスト④を見直す
第６回　プラトン①　プラトンの生涯	チェックテスト⑤を見直す
第７回　プラトン②　イデア論	チェックテスト⑥を見直す
第８回　プラトン③　想起説	チェックテスト⑦を見直す
第９回　プラトン④　愛と美について	チェックテスト⑧を見直す
第10回　プラトン⑤　徳と善について	チェックテスト⑨を見直す
第11回　アリストテレス①　アリストテレスの生涯	チェックテスト⑩を見直す
第12回　アリストテレス②　三原理と四原因説	チェックテスト⑪を見直す
第13回　アリストテレス③　自然観、神観	チェックテスト⑫を見直す
第14回　アリストテレス④　霊魂観、倫理観	チェックテスト⑬を見直す
第15回　まとめ	チェックテスト①～⑬を見直す

■ 履修上の注意

公欠を除いて、６回以上欠席した場合は受験資格を失う。

■ 成績評価方法・基準

毎授業時のチェックテスト（５０％）チェックテストについては次回の授業冒頭でフィードバックする。
学期末の試験（５０％）

■ 教科書

使用しない。授業時にプリントを配布する。

■ 参考書

無し

■ 備考

質問等については、授業終了時に受け付ける。

哲学Ⅱ

(11022)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年・服専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
徳　田　幸　雄

■ 授業の概要

「人間とは何か？」この問いは、近代以降の価値観の多様化・多元化に伴い、改めて問い直されるようになった根本的な問いである。本授業では、この問いについて、中世の主役とも言える世界三大宗教（キリスト教、イスラーム、仏教）を中心とする諸宗教においてどのように捉えられていたかを概説した上で、近代以降に人類が直面している生命倫理の諸問題（脳死や中絶など）について、その基本的な議論を解説し、さらに深い考察を促してゆく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・幅広い人間観を身につける。	
・諸宗教の基本的な知識を身につける。	
・生命倫理の問題に関する知識を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	要しない
第２回　ユダヤ教の人間観	チェックテスト①を見直す
第３回　キリスト教の人間観①　原罪とは？	チェックテスト②を見直す
第４回　キリスト教の人間観②　キリスト教史	チェックテスト③を見直す
第５回　イスラームの人間観①　六信より	チェックテスト④を見直す
第６回　イスラームの人間観②　五行より	チェックテスト⑤を見直す
第７回　インドの諸宗教における人間観	チェックテスト⑥を見直す
第８回　仏教の人間観①　四諦より	チェックテスト⑦を見直す
第９回　仏教の人間観②　日本仏教より	チェックテスト⑧を見直す
第10回　神道における人間観	チェックテスト⑨を見直す
第11回　近代人と死―エリアーデ宗教学より―	チェックテスト⑩を見直す
第12回　臓器移植と脳死について	チェックテスト⑪を見直す
第13回　優生思想について	チェックテスト⑫を見直す
第14回　人工妊娠中絶について	チェックテスト⑬を見直す
第15回　総括	チェックテスト①～⑬を見直す
第16回　試験	要しない

■ 履修上の注意

公欠を除いて、６回以上欠席した場合は受験資格を失う。

■ 成績評価方法・基準

毎授業時のチェックテスト（５０％）チェックテストについては次回の授業冒頭でフィードバックする。
学期末の試験（５０％）

■ 教科書

使用しない。授業時にプリントを配布する。

■ 参考書

無し

■ 備考

質問等については、授業終了時に受け付ける。

心理学Ⅰ

(11023)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
植　松　公　威

■ 授業の概要
心理学では経験的事実の観察や実験によって仮説の検証を行い，心のメカニズムを明らかにしようとしている。講義の前半では心理学が目指している目標や研究のプロセス，とりわけ条件操作的な仮説検証プロセスの意義について，実際の研究事例を紹介しながら解説する。後半では現代の心理学の背景として，行動主義心理学や社会的学習理論，精神分析などを取り上げ，それぞれの理論を説明する。また，記憶の実験を体験することを通して記憶のメカニズムについて考える。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1. 条件操作的な実験による仮説検証プロセスがこころの理解にとって不可欠であることを説明できるようになる。 ・2.　行動主義心理学，社会的学習理論，精神分析の各理論の人物名とキーワードを理解する。 ・3. 記憶のメカニズムについて感覚的記憶，短期記憶，長期記憶の関係を理解し，説明できるようになる。	0.8　0.2

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（教授内容と教育目標）－見る、聞くとはどういうことかー	シラバスを熟読すること。
第２回　条件操作的な実験の重要性についてー「利口な馬ハンス」の話などー	資料を熟読し，要点をまとめること。
第３回　心理学の目標と研究のプロセス	資料やノートを復習し，要点をまとめること。
第４回　説得における「一面（片面）提示」と「二面（両面）提示」の効果	実験の結果を理解し，考察ついてまとめること。
第５回　「心理学を勉強すれば人の心がわかるようになる」という考え方について	「人の心などわかるはずがない」という文章を読み、心理学についてよく考えること。
第６回　現代の心理学の背景① 行動主義心理学（ワトソンの理論）	レスポンダント条件づけについて調べること。
第７回　現代の心理学の背景② 行動主義心理学（スキナーの理論）	オペラント条件づけについて調べること。
第８回　現代の心理学の背景③ 社会的学習理論（バンデュラの理論）	「観察学習」について調べること。
第９回　現代の心理学の背景④ 精神分析（フロイトの理論）	無意識や抑圧について調べること。
第10回　精神分析における自我防衛のメカニズム	資料を熟読し，専門用語を理解すること。
第11回　自我防衛のメカニズムに関する練習問題と解説	資料を熟読し，練習問題に取り組むこと。
第12回　まとめの小テスト	あらかじめ復習してテストに臨むこと。
第13回　記憶の実験　－系列位置曲線と系列位置効果－	実験結果の考察を考え，レポートすること。
第14回　記憶のしくみ　－感覚的記憶・短期記憶・長期記憶－	ノートを見直し，専門用語を理解すること。
第15回　エビングハウスの忘却曲線について	資料とノートを見直し，感想をまとまること。
第16回　試験	試験対策の学習をすること。

■ 履修上の注意
毎回，ミニットペーパーに感想やわかったこと，わからなかったことなどを書いて提出すること。

■ 成績評価方法・基準
レポート課題20%，試験80%
レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。
各回の授業でのミニットペーパーについては，次回の授業内でフィードバックを行う予定である。
授業内で行う小テストについてもフィードバックを行う。

■ 教科書
授業の中で資料（プリント）を配布する。

■ 参考書
授業の中で適宜，紹介する。

■ 備考

質問等については，ミニットペーパーを通して次の授業の中で取り上げ，説明します。また，授業終了時あるいはオフィスアワーを利用して，質疑応答をすることも可能です。

心理学Ⅱ

(11024)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
植　松　公　威

■ 授業の概要
性格はどのようにして測定されるか、性格は変えることができるか、というテーマについて講義する。とりわけ、性格検査（心理テスト）の種類とそれぞれの長所、短所について講義する。また、性格検査を使わずに他者の性格を推測するときに注意すべきことや陥りやすい誤った判断について解説する。性格を変えるための認知療法や交流分析といった心理療法については実習形式で学べるようにする。講義を通して心理学には性格に関する唯一絶対の理論はなく、様々な理論や方法があることを学べるようにする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・質問紙法、作業検査法、投影法それぞれの長所と短所を理解できるようになる。 ・認知療法の「７つのコラム法」が気分(感情）の改善に効果があるのはなぜか、説明できるようになる。 ・交流分析における「エゴグラム」を作成し、その意味について理解し、自己の性格をどのように改善していけばよいか、分析できるようになる。	0.8　0.2

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（教授内容と教育目標）	シラバスを熟読すること。
第２回　質問紙法の性格検査（YG性格検査）の測定方法	YG性格検査の測定方法を調べること。
第３回　質問紙法の性格検査（YG性格検査）の問題点	YG性格検査の問題点を理解すること。
第４回　作業検査法（内田クレペリン検査）の特色と問題点	内田クレペリン検査の測定方法を調べること。
第５回　投影法の種類	投影法の種類と特徴を調べること。
第６回　他者の性格を推論するときに注意すべきことー認知のゆがみー	資料とノートを復習し、専門用語を理解すること。
第７回　性格とは何かービッグファイブと年齢による変化ー	資料をよく読み、要点をレポートすること。
第８回　認知療法の基本的な考え方（人間観）	思考と感情と行動の関係を理解すること。
第９回　認知療法の「７つのコラム」の作成方法について	「７つのコラム」の要点をまとめること。
第10回　「私の７つのコラム」の作成	「７つのコラム」を実際に作成し、感想をまとめること。
第11回　交流分析における基本的な考え方（人間観）－５つの自我状態についてー	５つの自我状態について調べること。
第12回　交流分析におけるエゴグラムの作成	自分のエゴグラムについて分析してみること。
第13回　自分と他者に対する構え（人生に対する構え）	自分のエゴグラムの結果について分析を深めること。
第14回　交流分析における基本的な考え方（人間観）－人間関係についてー	自分はどのようにしてストロークを得ているか分析すること。
第15回　全体のまとめ	わかったこと、わからなかったことを整理しておくこと。
第16回　試験	対策の学習をすること。

■ 履修上の注意
毎回、ミニットペーパーに感想、わかったこと、わからなかったことなどを書いて提出すること。

■ 成績評価方法・基準
レポート課題２０％、試験８０％。
レポートは必ず提出すること。未提出の場合は評価の対象としない。
各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業でフィードバックを行う予定である。

■ 教科書
授業の中で資料（プリント）を配布する。

■ 参考書
授業の中で適宜、紹介する。

■ 備考
質問等については、ミニットペーパーを通して次の授業で取り上げ、説明します。また、授業終了時、あるいはオフィスアワーを利用して質疑応答することも可能です。

美術

(11025)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
北　折　　整

■ 授業の概要

美術が生活文化の重要な構成要素であることへの理解を促し、日常目にするありふれたものや事柄に対して、美術的な視座を与える。さらに各人の新たな美術的な価値観の構築を支援する。具体的には、従来行われてきた基礎的な美術表現について、作品とその方法を映像等で紹介し、そこに表現されたコンセプトを平易に説明する。また、各授業時に独自の教材による簡単な演習を指導し、制作を通して、美術作品が取り扱う問題点や日常性との関連等についての理解を深めさせる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

・美術が生活文化の一つであることを理解できるようになる。
・美術表現の基礎的な方法を理解できるようになる。
・多様な美術的な価値観を受容する力を身に着ける。

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　授業の導入：科目の概要・授業の方針・成績評価方法の説明	アンケートの記入、次回課題「扉」についての調査
第２回　「扉」：出入口をテーマに扱った美術の説明	課題ノート「扉」の作成及び次回課題「壁」についての調査
第３回　「壁」：壁を意識した美術の説明	課題ノート「壁」の作成及び次回課題「梱包」についての調査
第４回　「梱包」：梱包を施した美術の説明	課題ノート「梱包」の作成及び次回課題「集合」についての調査
第５回　「集合」：集合・収集を手法とした美術の説明	課題ノート「集合」の作成及び次回課題「つなぐ」についての調査
第６回　「つなぐ」：連結した形態を扱った美術の説明	課題ノート「つなぐ」の作成及び次回課題「夢」についての調査
第７回　「夢」：夢の世界を扱った美術の説明	課題ノート「夢」の作成及び次回課題「オブジェ」についての調査
第８回　「オブジェ」：環境を意識した美術の説明	課題ノート「オブジェ」の作成及び次回課題「コラージュ」についての調査
第９回　「コラージュ」：配置転換を手法とした美術の説明	課題ノート「コラージュ」の作成及び次回課題「空」についての調査
第10回　「空」：空の表現からみえる美術史の説明	課題ノート「空」の作成及び次回課題「蛇口」についての調査
第11回　「蛇口」：蛇口を扱った美術の説明	課題ノート「蛇口」の作成及び共同制作のテーマについての検討
第12回　「リレー式絵画(テーマの設定)」：共同制作による美術の説明	課題ノート「リレー式絵画(テーマ)」の作成及び共同制作の展開についての検討
第13回　「リレー式絵画(展開)」：共同制作による美術の説明	課題ノート「リレー式絵画(展開)」の作成及び共同制作の結びについての検討
第14回　「リレー式絵画(結び)」：共同制作による美術の説明	課題ノート「リレー式絵画(結び)」の作成
第15回　授業の総括：全テーマに係るまとめ	課題ノート「まとめ」の作成

■ 履修上の注意

・課題ノートは、授業毎の「振り返り」及び次回授業に関する調査等を記入し、適宜提出を求める。
・簡単な演習に対応する色鉛筆等の画材を各自準備する。

■ 成績評価方法・基準

・「課題ノート」(テーマ・課題・授業内容への理解)･･･80%
・授業態度(質疑応答、協働して課題解決していく態度)･･･20%
・「課題ノート」については授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書
特に指定しない。

■ 参考書
特に指定しない。

■ 備考
・ルーブリック評価について第1回目の授業で説明する。
・授業の進行および理解状況により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワーで受け付ける。

生活文化論

(11026)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
杉　井　　信

■ 授業の概要

文化人類学は、各々の文化がもつ「当たり前の日常」が、その文化のなかでしか「当たり前」ではないということを、比較を通して具体的に明らかにする学問です。身体は、そのための格好の研究対象とされてきました。この授業では、人間の心と身体の諸側面・属性をいくつか取り上げ、我々が当たり前だと思っている身体理解がいかに文化ごとに異なるか、身体に対する我々と異文化の想像力はどう違うのかを、文化人類学の視点で、主にアジア・アフリカ・太平洋・南米に目を向けつつ学んでいきます。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・文化人類学という学問の性格や、文化人類学的な考え方、諸概念についての基礎知識が獲得できる。 ・心と身体の理解のしかたが文化によって大きく異なることが具体的に理解できるようになる。	0.7　0.3

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　導入	説明内容を復習する。
第２回　文化人類学の特色	文化人類学について調べてみる。
第３回　文化とは	文化の概念について調べてみる。
第４回　民族とは	人種と民族について調べてみる。
第５回　音声言語と身体言語	身振りや合図について調べてみる。
第６回　身体技法	姿勢や動作について調べてみる。
第７回　様々な身体変工	自分の身体変工について考えてみる。
第８回　女子割礼	撲滅運動や反発について調べてみる。
第９回　血の観念	異文化での観念について調べてみる。
第10回　血縁	異文化での関係性について調べてみる。
第11回　羞恥心	自分の羞恥心について考えてみる。
第12回　痛み	自分の感じる痛みについて考えてみる。
第13回　インセスト・タブー	タブーの理由を自分でも考えてみる。
第14回　葬られる身体	自分が知っていることをまとめてみる。
第15回　まとめと試験	学んできたことを復習する。

■ 履修上の注意

世界各地の身体にかかわる習慣に触れたドキュメンタリーやニュースなどの短い映像を多く見ます。楽しい映像とは言いがたいものが殆どですが、毎回、しっかり見てもらい、講義内容も踏まえ、各自で考察してもらおうと思います。

■ 成績評価方法・基準

期末試験の結果で評価点を出しますが、欠席回数に応じて減点します。

■ 教科書

教科書は特に指定しません。毎回プリントを配布します。

■ 参考書

『文化人類学を学ぶ人のために』『人類学のコモンセンス』など、文化人類学の入門書（なんでも構いません。）

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

英語Ⅰ

(11027)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (30 + 15)
対象学科：健専1年・服専1年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
ブシャー　シルベ

■ 授業の概要
英語でコミュニケーションを行うための基礎的な英語の技能と語彙を養う。各テーマをテキストに沿って進め、 基本的な文法事項をおさえながら解説し、 英文読解と英作文の技能を身に着けさせる。 簡易な英文であれば理解することができ、 身近な話題であれば自分の意見を表現できるように英語力の向上を図りながら、 異文化への理解を深めさせる。 英語ⅠではUnit　1～6を取り上げる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・英語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。 ・世界の文化を学びながら異文化理解を深め、社会人としての知識と教養を身につける。	0.4 0.6

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回 Class overview: Learning goals and strategies (Unit zero)	学習内容について確認する。Duolingo、Google Classroom、Loilo Noteなどのアカウントを作成や確認する。
第2回 Meeting people - introductions (Unit 1)	Unit 1 解説及び activities
第3回 Meeting people - asking about others (Unit 1)	Unit 1 解説及び activities
第4回 Describing clothing - items and patterns (Unit 2)	Unit 2 解説及び activities
第5回 Describing fashion preferences (Unit 2)	Unit 2 解説及び activities
第6回 Review, mini-test: Units 1 & 2 + fluency expansion	復習、テスト、流暢性を高める
第7回 Health and happiness - giving advice (Unit 3)	Unit 3 解説及び activities
第8回 Health and happiness - personal ideas (Unit 3)	Unit 3 解説及び activities
第9回 Giving and following directions (Unit 4)	Unit 4 解説及び activities
第10回 Talking about locations (Unit 4)	Unit 4 解説及び activities
第11回 Review, mini-test: Units 3 & 4 + fluency expansion	復習、テスト、流暢性を高める
第12回 Describing objects (Unit 5)	Unit 5 解説及び activities
第13回 Talking about future plans (Unit 6)	Unit 6 解説及び activities
第14回 Review, mini-test: Units 5 & 6 + fluency expansion	復習、テスト、流暢性を高める
第15回 Describing plans and dreams (Unit 6)	Unit 6 解説及び activities

■ 履修上の注意
積極的に授業に参加すること。必ず辞書（スマホ、携帯は可)、テキスト、ノート、ファイルを持参して授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準
平常点40%（授業への参加状況および毎時の小テスト、ノート等で総合的に判断する。）
学期末試験60%
小テストおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。

■ 教科書
〔ENGLISH FIRSTHAND (5E) SUCCESS〕〔Marc Hegelsen, John Wiltshier, Steven Brown著〕〔Pearson〕〔3, 498円（税込）〕

■ 参考書
なし

■ 備考
必修
Duolingo、Google Classroom、Loilo Note、My Mobile Worldなどというアプリを使用する予定。
質問等は授業終了時、オフィスアワーで、あるいはGoogle Classroomで受け付ける。

英語Ⅱ

(11028)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（30 + 15）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
ブシャー　シルベ

■ 授業の概要
英語でコミュニケーションを行うための基礎的な英語の技能と語彙を養う。各テーマをテキストに沿って進め、 基本的な文法事項をおさえながら解説し、 英文読解と英作文の技能を身に着けさせる。 簡易な英文であれば理解することができ、 身近な話題であれば自分の意見を表現できるように英語力の向上を図りながら、 異文化への理解を深めさせる。 英語IIではUnit　７～１２を取り上げる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・英語でコミュニケーションを行うための基礎的な技能と語彙を身につける。 ・世界の文化を学びながら異文化理解を深め、社会人としての知識と教養を身につける。	0.4 0.6

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　Talking about experiences (Unit 7)	Unit 7 解説及び activities
第２回　Describing past positive events (Unit 7)	Unit 7 解説及び activities
第３回　Comparing animals and nature (Unit 8)	Unit 8 解説及び activities
第４回　Describing a personal experience with an animal (Unit 8)	Unit 8 解説及び activities
第５回　Review,　mini-test: Units 7 & 8 + fluency expansion	復習、テスト、流暢性を高める
第６回　Describing and demonstrating abilities (Unit 9)	Unit 9 解説及び activities
第７回　Evaluating school/class activities (Unit 9)	Unit 9 解説及び activities
第８回　Talking about likes and dislikes (Unit 10)	Unit 10 解説及び activities
第９回　Talking about routine activities (Unit 10)	Unit 10 解説及び activities
第10回　Review,　mini-test: Units 9 & 10 + fluency expansion	復習、テスト、流暢性を高める
第11回　Talking about rules and requirements (Unit 11)	Unit 11 解説及び activities
第12回　Talking about obligation and preference (Unit 11)	Unit 11 解説及び activities
第13回　Describing past events (Unit 12)	Unit 12 解説及び activities
第14回　Review,　mini-test: Units 11 & 12 + fluency expansion	復習、テスト、流暢性を高める
第15回　Storytelling (Unit 12)	Unit 12 解説及び activities

■ 履修上の注意
積極的に授業に参加すること。必ず辞書（スマホ、携帯は可)、テキスト、ノート、ファイルを持参して授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準
平常点40%（授業への参加状況および毎時の小テスト、ノート等で総合的に判断する。）
学期末試験60%
小テストおよび試験は授業時間等で解答・解説し、フィードバックする。

■ 教科書
〔ENGLISH FIRSTHAND (5E) SUCCESS〕〔Marc Hegelsen,　John Wiltshier,　Steven Brown著〕〔Pearson〕〔3, 498円（税込）〕

■ 参考書
なし

■ 備考
Duolingo、Google Classroom、Loilo Note、My Mobile Worldなどというアプリを使用する予定。
質問等は授業終了時、オフィスアワーで、あるいはGoogle Classroomで受け付ける。

英会話Ⅰ

(11029)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（30 + 15）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
上之原　博　子

■ 授業の概要

中学、高校で学んだ英語を基礎にして、簡単な挨拶、自己紹介等ができるように繰り返し指導する。テキストを用い、読む、書く、聞く、話す能力を身につけ、英語で楽しくコミュニケーションがとれるようにします。グループワークとして、ロールプレイ、さらには実際に英語の会話文を作り、英語を楽しみながら学ぶことを目指します。また、授業を通して異文化を理解するよう指導します。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・１．基礎的な会話で他者とのコミュニケーションがはかれる。	0.2			0.3		0.1	0.4		
・２．自分自身に関する事柄について説明できる。									
・３．グループ活動を通して、責任感、自己管理能力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス。挨拶と自己紹介。Unit1自分の事を英語で話す。	自己紹介文を考えてくる。
第２回　自分の日常生活を友人に話す。	Unit1の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第３回　自分の好きなことを話す。	Unit2の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第４回　様々な場所について話す。	Unit3の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第５回　道案内をする。	Unit4の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第６回　買い物をする。	Unit5の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第７回　１～６の復習。	Unit6の復習プリント提出。
第８回　身の回りに起きたことを話す。	Personal presentationの原稿を提出。
第９回　家族や友人について話す。	Unit8の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第10回　好きなことについて話す。	Unit9の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第11回　バケーションの過ごし方について話す。	Unit10の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第12回　人生について話す。	Unit11の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第13回　自分の希望や目標について話す。	Unit12の復習プリント提出。Real life exchangeの暗記。
第14回　７～１３の復習。	自分の希望や目標について話せるように準備する。
第15回　これまで学んだことを使い、自分の事をより詳しく表現する。	これまで習った事を踏まえ、英語で自己紹介文を書き提出する。

■ 履修上の注意

授業には積極的に参加し英語を話す事と、クラスメイトや講師とのコミュニケーションには積極的な態度で取り組むこと。
授業ごとの復習プリントは、必ず次の授業で提出する事。課題文は暗記する事。

■ 成績評価方法・基準

毎回の課題や試験についてはフィードバックを行います。
授業態度(ペアワーク、グループワーク積極的に参加する)３０％、毎回の課題提出30%、学期末の試験（英語の会話文の発表）40%で評価します。

■ 教科書

書名：[Breakthrough Plus 1(Level 1) Student Book]　著者：[Miles Craven]　出版社：[Macmillan Language House c][3，212円（税込）]

■ 参考書
特になし。

■ 備考
質問等については、授業終了時に受付けます。

英会話Ⅱ

(11030)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（30 + 15）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
上之原　博　子

■ 授業の概要

前期で身につけた英語力を使って、外国人に簡単な英語で対応する基本的な表現を学び、会話できるように指導します。
また、日本文化を見直し、英語での説明の仕方を解説します。演習を通して学習した事が、実際に使えるように何度も練習します。自己紹介や身近なトピック、興味のある事、また自分のふるさと等は簡単な英語で話せるように、さらに学期末には自分の考えを英語で言えるようになるよう指導します。授業は学生の学習進捗状況により進めていきます。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・１．他者とのコミュニケーション能力を身につける。	0.3	0.1		0.1	0.1	0.1		0.3	
・２．様々な分野で活躍するために自分の意見をまとめて、話せるようになる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　交通案内：様々な交通機関について外国人への説明の仕方を学ぶ。 会話での質問の仕方、答え方を学び練習する。	英語での交通案内を暗記する。
第２回　日本の旅館について説明する。（入浴の仕方等） 自分の好きな事を話す。(ペアワーク)	旅館の特徴を考える。 温泉での規則、マナーを暗記する。
第３回　観光地について学ぶ。 自分の1日の過ごし方を話す。（ペアワーク）	自分の身近な観光地を調べる。好きな場所を考えてみる。自分の好きな場所を考えてくる。
第４回　街歩きのための道案内ができるようにする。	お勧めの場所を考える。道案内を練習してくる。
第５回　日本の年中行事を紹介する。 自分のふるさとの行事を紹介する。 英語で日本の年中行事を説明する。	紹介したい年中行事を調べる。ふるさとの行事を調べる。故郷の行事を英語で書いてくる。
第６回　日本食の紹介①代表的な日本料理。自分の好きな日本食を紹介する。 日本食を英語で説明する。	代表的な日本料理を調べる。好きな日本食を考える。課題の和食を英語で言えるように練習してくる。
第７回　日本食の紹介②気軽に楽しめる日本料理　郷土料理を紹介する。 これまで学んだ事を復習する。	気軽に楽しめる日本食を調べる。好きな郷土料理を考える。
第８回　国内旅行をアレンジする。自分の好きな場所を話す。（ペアワーク）	国内旅行をアレンジして、提出する。
第９回　英語の絵本に親しむ。英語の絵本の読み聞かせにチャレンジする。	興味のある絵本を調べてくる。
第10回　日本の伝統文化やポップカルチャーを紹介する。 自分が好きな日本文化を説明する。	紹介したい行事やポップカルチャーを調べてくる。
第11回　自分の日本文化体験を紹介する。自分が体験した日本文化を英語で説明する。	体験した日本文化について英文で書いてくる。
第12回　日本のお土産を紹介する。日本のお土産を英語で説明する。	日本のお土産を考える。日本の良いところを考える。課題文の練習。
第13回　ケガや病気の対応について。	病名や気分を表す単語を調べる。
第14回　今学期学んだことを、オリジナルのテキストにする。	必要な単語、フレーズなどをまとめる。
第15回　学期を振り返る。	これまで学習した事を、英語で自由に話す。

■ 履修上の注意

積極的に授業に参加することを求める。ペアワーク、説明は英語で行う。

■ 成績評価方法・基準

平常点３０％（ペアワークの参加態度）課題の提出　３０％　学期末試験４０％
提出した原稿は回収し、後日添削して返却する。

■ 教科書

配布するプリントを使用する。

■ 参考書
特になし。

■ 備考
質問等については、授業終了時に受付けます。

仏語 I

(11031)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (30 + 15)
対象学科：健専1年・服専4年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
村　山　　茂

■ 授業の概要

発音の基礎から始め、簡単なあいさつや自己紹介はもちろん、初級文法に則った読み、書き、聞き、話す能力が身につくよう指導する。さらにフランスにまつわる様々な情報を盛り込み、多方面からのフランス語理解に努める。外国語を学ぶということは、単に異国の言語や文化に触れるだけでなく、自国の言語と文化を見直し、自身の言語感覚と教養をみがくことになるのだということを理解してもらう。授業中の積極的挙手や練習問題の正答率はポイントとして成績に反映する。受講生全体のレベルに合わせて進行する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・初級フランス語入門レベルの文を理解し、表現できるようになる。	0.4	0.2				0.2		0.2	
・フランスの文化に触れ、国際的視野が身につく。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　授業方針。アルファベ。	アルファベの復習が必要。
第2回　アルファベ復習。発音の規則1。	P78の復習が必要。
第3回　発音の規則2。	P79の復習が必要。
第4回　発音の規則小テスト。フランスについて。数字1。	事前に小テスト準備、数字の復習が必要。
第5回　数字2。簡単なあいさつの表現。	P5の復習が必要。
第6回　パリに着いた!1.解説と会話文。	P8の復習が必要。
第7回　パリに着いた!2.文法。	P9の復習が必要。
第8回　パリに着いた!3.練習問題。	P10～P11の予習、復習が必要。
第9回　ホテルの予約は1.解説と会話文。	P14の復習が必要。
第10回　ホテルの予約は2.文法。	P15の復習が必要。
第11回　ホテルの予約は3.練習問題。	P16～P17の予習、復習が必要。
第12回　アロー、アロー1.解説と会話文。	P20の復習が必要。
第13回　アロー、アロー2.文法。	P21の復習が必要。
第14回　アロー、アロー3.練習問題。	P22～P23の予習、復習が必要。
第15回　まとめの講義	事後に最終試験のための準備が必要。
第16回　試験	

■ 履修上の注意

私語を慎み、積極的に授業に参加すること。辞書については初回、教室にて指示する。

■ 成績評価方法・基準

最終回に行う確認のための筆記試験（70～80%）に20～30%の平常点（積極性などのポイント）を加えて算出し、評価する。試験答案は、添削して後日返却する。

■ 教科書

〔新はじめてのパリ－映像付き－〕〔大津、瀧川、藤井著〕〔朝日出版社〕〔2，500円〕

■ 参考書

特にないが、必要に応じてプリントを配布する。

■ 備考

教科書が大幅に改訂されたので、中古で購入しないこと。
質問等については、授業終了時または電子メールにて受け付ける。

仏語Ⅱ

(11032)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：健専４年・服専４年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
村　山　　茂

■ 授業の概要

初級文法に則った読み、書き、聞き、話す能力が身につくよう指導する。フランスにまつわる様々な情報を盛り込み、フランス映画などをも教材に取り入れて、多方面からのフランス語理解に努める。外国語を学ぶということは、単に異国の言語や文化に触れるだけではなく、自国の言語と文化を見直し、自身の言語感覚と教養をみがくことになるのだということを理解してもらう。授業中の積極的挙手や練習問題の正答率はポイントとして成績に反映する。仏語Ⅰを引き継ぐ形で進めてゆく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・仏語Ⅰを引き継ぎ、初級フランス語の基礎を固め、より一層の理解と表現が可能になる ・引き続きフランスの文化に触れることで、国際的視野が広がる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テラスでお茶を1.解説と会話文。	P.26の復習が必要。
第２回　テラスでお茶を2.文法。	P.27の復習が必要。
第３回　テラスでお茶を3.練習問題。	P.28～P.29の予習、復習が必要。
第４回　メトロに乗って1.解説と会話文。	P.32の復習が必要。
第５回　メトロに乗って2.文法。	P.33の復習が必要。
第６回　メトロに乗って3.練習問題。	P.34～P.35の予習、復習が必要。
第７回　名所を巡れば1.解説と会話文。	P.38の復習が必要。
第８回　名所を巡れば2.文法。	P.39の復習が必要。
第９回　名所を巡れば3.練習問題。	P.40～P.41の予習、復習が必要。
第10回　DVDによる学習	事後に疑問点を整理しておくこと。
第11回　街歩きで買い物を1.解説と会話文。	P.44の復習が必要。
第12回　街歩きで買い物を2.文法。	P.45の復習が必要。
第13回　街歩きで買い物を3.練習問題。	P.46～P.47の予習、復習が必要。
第14回　まとめの講義1。	事後に最終試験のための準備が必要。
第15回　まとめの講義2。（補足を含む）	事後に最終試験のための準備が必要。
第16回　試験	

■ 履修上の注意

初心を忘れず、根気良く継続すること。

■ 成績評価方法・基準

最終回に行なう確認のための筆記試験（70～80%）に20～30%の平常点（積極性などのポイント）を加えて算出し、評価する。試験答案は後日返却可能。

■ 教科書

〔新はじめてのパリー映像付きー〕〔大津、瀧川、藤井著〕〔朝日出版社〕〔2，500円〕

■ 参考書

特になし。

■ 備考

質問等については、授業終了時または電子メールにて受け付ける。

中国語

(11033)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（30 + 15）
対象学科：健専１年・服専４年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
清　水　浩一郎

■ 授業の概要

この授業の目標は、中国語でコミュニケーションを取る際に必要とされる基礎的な事項を身につけることにあります。中国語には日本語にない発音や発声の抑揚があります。まずは発声練習をおこない、これらを正しく身につけましょう。次に、会話の練習や練習問題に取り組み、これらを通じて自己紹介や挨拶、簡単な日常会話などを習得しましょう。また、中国の文化や習慣、旅行で役立つ情報なども、随時紹介いたします。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・正確な中国語の発音が身につく	0.8　0.2
・中国語で簡単な会話ができるようになる	
・中国の文化や習俗についての知識が身につく	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンスおよび、中国語の発音記号・単母音の練習 教科書12～16頁	教科書を購入して目を通す。
第２回　複合母音の発音練習 教科書19・20・23～26頁	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第３回　子音の発音練習 教科書17～18・21～22頁	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第４回　要注意な発音と声調変化の練習 教科書27～31頁	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第５回　第一課：お名前は？（発声練習・練習問題） 教科書32～35頁 “是“の用法／人称代名詞／“なに？”と“だれ？”	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第６回　第二課：忙しいですか？（発声練習・練習問題） 教科書36～39頁 文末の疑問詞／形容詞述語文／指示代名詞（1）	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第７回　第三課：誕生日はいつですか？（発声練習・練習問題） 教科書40～43頁 数の数え方	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第８回　第四課：何を食べますか？（発声練習・練習問題） 教科書44～49頁 動詞述語文／反復疑問文	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第９回　第五課：家はどこですか？（発声練習・練習問題） 教科書50～55頁 “どこ？”／“在”の用法①／“有”の用法／指示代名詞（2）	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第10回　第六課：どこへ行くの？①（発声練習） 教科書58～61頁 連動文／“どのように？”	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第11回　第六課：どこへ行くの？②（練習問題）／第七課：ご職業は何ですか？①（発声練習） 教科書62～65頁 第六課の練習問題／会話練習／第七課の発音練習	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第12回　第七課：ご職業は何ですか？②（練習問題） 教科書66～70頁 “在”の用法②／動詞の重ね型／時刻や年月日の表し方	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第13回　第八課：自己紹介①（発声練習） 教科書72～75頁	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。

	会話の練習	事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第14回	第八課：自己紹介②（練習問題） 教科書76～79頁 年齢のたずね方／名詞述語文／“跟”の用法／主語述語文	事前：教科書に目を通し、音声ファイルをダウンロードして発声練習をする。 事後：音声を聴きながら発声練習をする。
第15回	第一課～第八課のまとめ	学習した部分を全体的に復習する。
第16回	文法のテスト	テストの準備をする。

■ 履修上の注意

発音の練習が非常に大切です。そのため、発音練習ではしっかりと声を出してください。また、進行状況によっては、授業計画の通りに進まない場合があります。

■ 成績評価方法・基準

平常点50%（授業への参加状況や発声練習の様子などを総合的に評価します）
文法テスト50%

■ 教科書

〔新・学漢語1〕〔日中学院教材研究チーム編著〕〔白帝社〕〔2，500円+税〕〔ISBN：9784863984493〕

■ 参考書

なし

■ 備考

質問等については、授業終了後に受け付けます。

日本語基礎

(11034)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
菅　原　　秀

■ 授業の概要

大学では試験だけでなくレポートなどを提出する機会が多くなる。自己の考えを日本語で的確な表現を身につけさせる。

高等学校までに国語の授業などを通じて身に着けてきた能力を再確認しながら、大学で学ぶ上で必要な日本語の基礎的な運用方法について幅広く講義する。語（言葉）、語句、文節、文、文章と、誤りやすい表現に注意しながら、誤りのない、コミュニケーションの上でも効果的で正しい表現について検討しながら解説する。また自分の考えを誤解されないように的確に伝えるための方法を、文章の構成を中心に解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・日本語の特徴を理解し正しく運用するための基礎知識を得る。	0.7　0.3
・将来社会人として役立つ教養と知識を身につける。	
・自己の考えを構築して表現できる能力を身につける。	
・自己の理解状況を把握し継続的に学習する能力を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス　講義内容の説明　ワークシート資料の配布 表現練習１「言葉でないものを言葉にしてみよう」	次回のワークシートを予習
第２回　表現練習２「言葉でないものを説明してみよう」 謝りやすい語句①　同音・同訓	ワークシート１を復習
第３回　表現練習３「日本語を正しく発音してみよう」 謝りやすい語句②　類義語・慣用表現	ワークシート２およびその他資料を復習
第４回　敬語の概説と演習	ワークシート３を復習
第５回　仮名遣い・送り仮名・句読点・区切り符号の使い方 文体の相違	ワークシート４を復習および配布資料の予習
第６回　あいまいな文章表現や文の乱れをなくす　　文を適切に区切る	ワークシート５を復習
第７回　表現を工夫　　比喩表現、接続語句と指示語　　悪文を修正する	ワークシート６を復習および配布資料を予習
第８回　主題をまとめる　　組み立てを考える　　段落を分けて書く	ワークシート７およびその他資料を復習
第９回　要約文の書き方	次回提出の課題「要約」を仕上げる
第10回　自分の意見を構築する　　自分の意見を文章にする	次回提出の課題「意見の構築」を仕上げる
第11回　意見の伝え方「プレゼンテーションの方法」 討論　意見のまとめ	配付資料の予習
第12回　説明文の書き方　　意見文・小論文の書き方	ワークシート８と９を予習
第13回　意見文を書く　主張と理由	次回提出の意見文課題を仕上げる
第14回　小論文を書く①　テーマ別	次回提出の小論文①「テーマ別」課題を仕上げる
第15回　小論文を書く②　資料分析	次回提出の小論文②「文章と資料」を仕上げる
第16回　期末試験	試験後模範解答をもとに復習

■ 履修上の注意

授業で配布されるワークシート（プリント）を整理保管して試験に備えること。
指示された課題は指定期日までに提出すること。

■ 成績評価方法・基準

期末試験（４０％）、課題やレポート（３０％）、授業内での理解度確認ペーパーの内容や受講姿勢（３０％）を目安として総合的に判断する。

試験は終了後に模範解答を配布し自己の理解度を確認する。課題やレポートは講義内で自己の達成度を指標に基づき確認後に提出となる。理解度確認ペーパーは次回講義で解説しフィードバックする。

■ 教科書

講義内でワークシート（プリント）を配布する。

■ 参考書

講義内で適宜指示する。

■ 備考
受講者の理解状況や学習状況に応じて、授業の内容や進度及び評価方法を若干変更する場合がある。
質問や相談は、講義開始前及び終了後に受け付ける。

国語表現法

(11035)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
菅　原　　秀

■ 授業の概要

大学でのレポートなどを書くためはもちろん、さらに実生活で必要な文書や手紙類など将来社会に出て必要な日本語運用の知識やその方法について、より実践的な形で講義する。

文章の内容を正確に把握し、資料などを的確に分析し、その特徴を理解するための基本的な方法について解説する。テーマについてや、文章の内容を正確に把握するための方法や、グラフや表などの統計資料を的確に分析し、その特徴や傾向などを把握する方法を解説する。根拠のある考えの構築方法や、自己の考えを文章化する際の注意点や効果的な方法を解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・将来社会人として役立つ教養と知識を身につける。	0.7　0.3
・実社会で必要な日本語コミュニケーション能力を身につける。	
・自己の考えを構築して表現できる能力を身につける。	
・自己の理解状況を把握し継続的に学習する能力を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス　講義内容の説明　ワークシートと資料の説明 表現練習「抽象的なものを言葉で説明してみよう」	次回のワークシート１を予習
第２回　レポートの書き方　わかりやすい報告	ワークシート２およびその他資料を復習
第３回　調査内容を報告する　　批評を通じてより良い方法を考える	次回提出の課題を仕上げる
第４回　実用的な手紙の書き方①　はがきと封書 依頼状　招待状　詫び状　礼状	ワークシート３を復習 次回提出の課題を仕上げる
第５回　実用的な手紙文の書き方②　実用的な敬語表現	ワークシート４を復習
第６回　プレゼンテーションの方法　日常的テーマ	ワークシート５およびその他資料を復習
第７回　プレゼンテーションの方法　社会的テーマ	ワークシート６の復習と資料の作成
第８回　プレゼンテーションの実践	ワークシート７およびその他資料を復習
第９回　意見文から小論文へ	参考資料を利用した復習と予習
第10回　小論文の書き方①　問題提起のための疑問文	ワークシート８を復習
第11回　小論文の書き方②　主張を支える根拠と具体例	ワークシート９およびその他資料を復習
第12回　小論文を書く①　テーマ設定型	次回提出の課題１「テーマ型」を仕上げる
第13回　小論文を書く②　文章読解型	次回提出の課題２「文章読解型」を仕上げる
第14回　小論文を書く③　資料分析型	次回提出の課題３「資料分析型」を仕上げる
第15回　小論文を書く　総合演習	次回提出の課題４「総合」を仕上げる
第16回　期末試験	模範解答で成果を確認し今後に活用する

■ 履修上の注意

授業で配布されるワークシート（プリント）を保管整理して学習すること。
指示された課題は指定期日までに提出すること。

■ 成績評価方法・基準

期末試験（４０％）、課題やレポート（３０％）、授業内での理解度確認ペーパーの内容や受講姿勢（３０％）を目安として総合的に判断する。

試験は終了後に模範解答を配布し自己の理解度を確認する。課題やレポートは講義内で自己の達成度を指標に基づき確認後に提出となる。理解度確認ペーパーは次回講義で解説しフィードバックする。

■ 教科書

講義内でワークシート（プリント）を配布する。

■ 参考書

講義内で適宜指示する。

■ 備考

受講者の理解状況や学習状況に応じて、授業の内容や進度及び評価方法を若干変更する場合がある。
質問や相談は、講義開始前及び終了後に受け付ける。

情報基礎学

(11036)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
松　尾　　広

■ 授業の概要
データの集計・加工、グラフ作成、それらを組み合わせて体裁の整った文書を作成したり、プレゼンテーションしたりできることを目標に、文書作成、表計算、プレゼンテーション、情報検索などのコンピュータリテラシーについて解説する。またデータを整理、蓄積、利用する方法として簡単なデータベースの作成やほかのアプリケーションとの連携方法、データ処理の方法を論理的に考えることを目的としたプログラミングについての演習を行うことで、情報処理技術の理解を深め、ステップアップを図る。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・Word、Excel、PowerPointを使って体裁が整った文書を作成できる。 ・情報を処理するアルゴリズムを理解し、プログラムで表現できる。	1

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	学習する内容を確認する。
第２回　Google Workspaceの使い方（1）	Gmail、Classroomの基本的な使い方を理解する。
第３回　Google Workspaceの使い方（2）	ドライブの基本的な使い方とWindowsのファイルシステムとの違いを理解する。
第４回　Wordによる文書作成（ビジネス文書作成、表の作成）	ビジネス文書の様式、表の操作を理解する。
第５回　Wordによる文書作成（図形の扱い）	図の挿入、編集方法を理解する。
第６回　Wordによる文書作成（レポート作成に向けて）	図表番号、文献の管理、ページ数挿入、目次作成について理解する。
第７回　Wordによる文書作成（練習問題）	Wordによる文書作成についての学習内容を確認し、反復する。
第８回　Excelによる表計算（計算式、関数）	計算式の表現方法を理解する。
第９回　Excelによる表計算（データの加工、グラフの作成）	グラフの特徴と作図方法を理解する。
第10回　Excelによる表計算（データベース、差し込み印刷）	データベースの操作とWordとの連携について理解する。
第11回　Excelによる表計算（練習問題）	Excelによる表計算についての学習内容を確認し、反復する。
第12回　PowerPointによるプレゼンテーション（シンプルなスライドの作成）	プレゼンテーションのデザインやレイアウトについて理解する。
第13回　PowerPointによるプレゼンテーション（アニメーションの利用）	画面切り替え効果やアニメーションについて理解する。
第14回　PowerPointによるプレゼンテーション（練習問題）	PowerPointによるプレゼンテーション作成についての学習内容を確認し、反復する。
第15回　プログラミング（アニメーション、タートルグラフィックス）	アルゴリズムとScratchでのプログラミングについて理解する。
第16回　まとめと実技試験	学習内容を振り返りと試験

■ 履修上の注意
資料、課題等はGoogle Classroomに掲示します。

■ 成績評価方法・基準
受講態度（毎回の授業で提出するファイル等で評価）40%、実技試験60%
提出されたファイルは授業中にフィードバックします。

■ 教科書
資料は配布（Google Classroomに掲示）

■ 参考書
なし

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

スポーツ

(11037)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（60 + 30）
対象学科：服専１年
授業形態：実技　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
池　田　信　文　　酒　井　正　彦

■ 授業の概要

年間を通して複数のスポーツ・運動を実施する。団体競技の場合には、受講者を戦力がほぼ均等になるよう偶数チームに班分けをし、リーグ戦等を行う。団体競技の面白みとチームワークの大切さ等を学ばせる。また、勝利チームや各人の競技中における課題達成度または所属チームへの貢献度等に応じて加点する方法も取り入れ、各人に奮起を促す。個人競技においては、個々人の基礎的運動能力の向上ならびにその運動・スポーツ特有の技術習得に向け努力することの大切さを学ばせる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・スポーツ・運動実践を通し、体力づくりの重要性に気づく。	0.6	0.1		0.1		0.1		0.1	
・団体・個人競技を通し礼儀や協働の大切さ等を身につける。									
・今後共にスポーツ・運動を実践していける人材に成長する。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（個人票作成等）	スポーツの説明および今後の自身の目標を設定する
第２回　バスケットボール１（池田） 歴史・ルール・パス	2回目の予習・復習、及び技術の向上
第３回　バスケットボール２（池田） パス・ドリブル・シュートの練習	3回目の予習・復習、及び技術の向上
第４回　バスケットボール３（池田） パス・ドリブル・シュート・フリースローのテスト	4回目の予習・復習、及び技術の向上
第５回　バスケットボール４（池田） パス・シュート・ゲーム	5回目の予習・復習、及び技術の向上
第６回　バスケットボール５（池田） ゲーム	6回目の予習、及び技術の向上
第７回　ソフトボール１（池田） キャッチボール・バッティング	7回目の予習・復習、及び技術の向上
第８回　ソフトボール２（池田） 試合	8回目の予習・復習、及び技術の向上
第９回　フットサル（池田） パス・シュートの練習・試合	9回目の予習、及び技術の向上
第10回　バレーボール１（池田） 歴史・ルール・パス	10回目の予習・復習、及び技術の向上
第11回　バレーボール２（池田） パス・サーブ・スパイク	11回目の予習・復習、及び技術の向上
第12回　バレーボール３（池田） パス・サーブ・ゲーム	12回目の予習・復習、及び技術の向上
第13回　バレーボール４（池田） パス・ゲーム	13回目の予習・復習、及び技術の向上
第14回　バレーボール５（池田） ゲーム	14回目の予習、及び技術の向上
第15回　まとめ及びレポート作成	本授業に関するまとめ、レポート作成
第16回　ターゲットバードゴルフ１（酒井） ルール・スイング・打ち方	16回目の予習・復習、及び技術の向上
第17回　ターゲットバードゴルフ２（酒井） 打ち方・距離を飛ばす	17回目の予習・復習、及び技術の向上
第18回　ターゲットバードゴルフ３（酒井） 打ち方・ホールを狙う	18回目の予習・復習、及び技術の向上
第19回　ターゲットバードゴルフ４（酒井） コース作り・ゲーム	19回目の予習・復習、及び技術の向上

第20回	ターゲットバードゴルフ５（酒井） ゲーム	20回目の予習、及び技術の向上
第21回	バドミントン１（酒井） 歴史・ルール・シャトル・ラケットに慣れる	21回目の予習・復習、及び技術の向上
第22回	バドミントン２（酒井） サーブ・ストローク練習	22回目の予習・復習、及び技術の向上
第23回	バドミントン３（酒井） ストローク練習・組み合わせ練習	23回目の予習・復習、及び技術の向上
第24回	バドミントン４（酒井） 組み合わせ練習・ルール・ゲーム	24回目の予習・復習、及び技術の向上
第25回	バドミントン５（酒井） ゲーム	25回目の予習、及び技術の向上
第26回	卓球１（酒井） ルール説明・練習	26回目の予習・復習、及び技術の向上
第27回	卓球２（酒井） 練習	27回目の予習・復習、及び技術の向上
第28回	卓球３（酒井） ゲーム	28回目の予習、及び技術の向上
第29回	まとめ及びレポート作成１ （バレーボール）	本授業に関するまとめ、レポート作成
第30回	まとめ及びレポート作成２ （バドミントン）	本授業に関するまとめ、レポート作成

■ 履修上の注意

・毎回、運動のできる服装（ウエアー）とシューズ等を完備した上で授業に臨むこと。
・正当な理由無き「連続欠席」は厳禁とする。
・遅刻3回で欠席1回と見なすので注意すること。
・レポート・課題等については、授業内でフィードバックする。

■ 成績評価方法・基準

個人の運動能力・技術は勿論のこと、授業に取り組む姿勢や随時課すレポートの内容等を基に総合的に評価する。その内訳は、受講態度20%、レポート20%、実技試験等60%とする。

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

・当日の天候等により、シラバス通りの運動ができないこともあります。
・質問等については、授業終了時に受付けます。

スポーツ

(11038)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（60 + 30）
対象学科：健専１年
授業形態：実技　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
池　田　信　文　　酒　井　正　彦

■ 授業の概要

年間を通して複数のスポーツ・運動を実施する。団体競技の場合には、受講者を戦力がほぼ均等になるよう偶数チームに班分けをし、リーグ戦等を行う。団体競技の面白みとチームワークの大切さ等を学ばせる。また、勝利チームや各人の競技中における課題達成度または所属チームへの貢献度等に応じて加点する方法も取り入れ、各人に奮起を促す。個人競技においては、個々人の基礎的運動能力の向上ならびにその運動・スポーツ特有の技術習得に向け努力することの大切さを学ばせる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・スポーツ・運動実践を通し、体力づくりの重要性に気づく。	0.6	0.1		0.1		0.1		0.1	
・団体・個人競技を通し礼儀や協働の大切さ等を身につける。									
・今後共にスポーツ・運動を実践していける人材に成長する。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（個人票作成等）	スポーツの説明および今後の自身の目標を設定する
第２回　ターゲットバードゴルフ１（酒井） ルール・スイング・打ち方	2回目の予習・復習、及び技術の向上
第３回　ターゲットバードゴルフ２（酒井） 打ち方・距離を飛ばす	3回目の予習・復習、及び技術の向上
第４回　ターゲットバードゴルフ３（酒井） 打ち方・ホールを狙う	4回目の予習・復習、及び技術の向上
第５回　ターゲットバードゴルフ４（酒井） コース作り・ゲーム	5回目の予習・復習、及び技術の向上
第６回　ターゲットバードゴルフ５（酒井） ゲーム	6回目の予習、及び技術の向上
第７回　バドミントン１（酒井） 歴史・ルール・シャトル・ラケットに慣れる	7回目の予習・復習、及び技術の向上
第８回　バドミントン２（酒井） サーブ・ストローク練習	8回目の予習・復習、及び技術の向上
第９回　バドミントン３（酒井） ストローク練習・組み合わせ練習	9回目の予習・復習、及び技術の向上
第10回　バドミントン４（酒井） 組み合わせ練習・ルール・ゲーム	10回目の予習・復習、及び技術の向上
第11回　バドミントン５（酒井） ゲーム	11回目の予習、及び技術の向上
第12回　卓球１（酒井） ルール説明・練習	12回目の予習・復習、及び技術の向上
第13回　卓球２（酒井） 練習	13回目の予習・復習、及び技術の向上
第14回　卓球３（酒井） ゲーム	14回目の予習、及び技術の向上
第15回　まとめ及びレポート作成	本授業に関するまとめ、レポート作成
第16回　バレーボール１（池田） 歴史・ルール・パス	16回目の予習・復習、及び技術の向上
第17回　バレーボール２（池田） パス・サーブ・スパイク	17回目の予習・復習、及び技術の向上
第18回　バレーボール３（池田） パス・サーブ・ゲーム	18回目の予習・復習、及び技術の向上
第19回　バレーボール４（池田） パス・ゲーム	19回目の予習・復習、及び技術の向上

第20回	バレーボール５（池田） ゲーム	20回目の予習、及び技術の向上
第21回	ソフトボール１（池田） キャッチボール・バッティング	21回目の予習・復習、及び技術の向上
第22回	ソフトボール２（池田） 試合	22回目の予習・復習、及び技術の向上
第23回	フットサル（池田） パス・シュートの練習・試合	23回目の予習、及び技術の向上
第24回	バスケットボール１（池田） 歴史・ルール・パス	24回目の予習・復習、及び技術の向上
第25回	バスケットボール２（池田） パス・ドリブル・シュートの練習	25回目の予習・復習、及び技術の向上
第26回	バスケットボール３（池田） パス・ドリブル・シュート・フリースローのテスト	26回目の予習・復習、及び技術の向上
第27回	バスケットボール４（池田） パス・シュート・ゲーム	27回目の予習・復習、及び技術の向上
第28回	バスケットボール５（池田） ゲーム	28回目の予習、及び技術の向上
第29回	まとめ及びレポート作成１ （バレーボール）	ルール等の予習、及び技術の向上
第30回	まとめ及びレポート作成２ （バドミントン）	本授業に関するまとめ、レポート作成

■ 履修上の注意

・毎回、運動のできる服装（ウエアー）とシューズ等を完備した上で授業に臨むこと。
・正当な理由無き「連続欠席」は厳禁とする。
・遅刻3回で欠席1回と見なすので注意すること。
・レポート・課題等については、授業内でフィードバックする。

■ 成績評価方法・基準

個人の運動能力・技術は勿論のこと、授業に取り組む姿勢や随時課すレポートの内容等を基に総合的に評価する。その内訳は、受講態度20%、レポート20%、実技試験等60%とする。

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

・当日の天候等により、シラバス通りの運動ができないこともあります。
・質問等については、授業終了時に受付けます。

スタディスキルズ

(11040)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：服専1年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
植　松　公　威　　教職員

■ 授業の概要
本科目では大学の教育内容、大学での学びの基本的な姿勢について教授する。主な授業内容は、以下の通りである。
①大学での学習の土台となる「基礎学力」の定着を目指す。具体的にはプレイスメントテストによる基礎学力の把握、入学前に取り組んだe-learningの復習など、基礎学力の定着、ならびに学修した内容の理解の向上を目指した演習を行う。
②「学修ポートフォリオ」を用いて、各自の学習目標、学習への取り組みについて助言する。
③学内の施設を活用した学習方法について教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・大学での学習方法を身につける ・自宅で学習する習慣を身につける ・大学生として必要な基礎学力を身につける	1

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　本学の歴史・教学の指針（鈴木家政学部長）	オリエンテーションで実施。本学の歴史より、本学の研究教育で行ってきたことを把握する。教学の指針より、本学の教育形態を理解し、今後の学修に生かすことを意識する。
第2回　プレイスメントテスト（実力テスト）①国語、英語（植松）	国語、英語の基礎学力を確認する。試験でできなかった内容の復習を行う。
第3回　プレイスメントテスト（実力テスト）②数学（植松）	数学の基礎学力を確認する。試験でできなかった内容の復習を行う。
第4回　大学で学ぶということ（佐藤学長）	本学ホームページ、大学案内、入学式の学長挨拶を確認する。講義を通じて、大学での学びに必要な点を確認する。
第5回　短い文章を表現する（「たほいや」ということば遊びを通して仲間づくりをする）（植松）	広辞苑を開き、ことばの意味の表現方法、内容について見ておくこと
第6回　学修ポートフォリオの作成（栗山）	前回までの授業を復習し、自分の学修目標を考える。講義を通じて卒業までの学修の流れを理解し、1年次での学修計画を確認する。
第7回　「学ぶとはどういうことか」（植松）	学びとは受身的な情報の受け取りではなく、能動的、主体的に知識の構造を構成するプロセスであることを理解する。
第8回　研究倫理について（栗山）	復習し、研究や教育における倫理について理解する。今後の大学生活において、研究倫理を守ることを意識する。
第9回　図書館の活用（村山）	ガイダンスでの図書館の利用方法について確認する。講義後、図書館を利用し、授業で扱った内容の確認を行う。
第10回　学修ポートフォリオ　中間評価（植松）	これまでの学修状況を振り返り、学修目標の達成度合いを点検する。目標が達成できていない点については、改善すべき方法を考える。
第11回　基礎学力向上　e-learning①基礎学力の確認[新OA室]（植松）	入学前学習で行ったe-learningの進捗状況を確認する。授業を通じて、理解不十分の点を確認し、学修を進める。
第12回　基礎学力向上　e-learning②基礎学力の向上［新OA室］（植松）	これまでのe-learningで学修した内容を確認する。授業を通じて、学修が進んだ点、不十分な点を確認し、基礎学力の向上を目指して学修を進める。
第13回　人の話を聴くとは（傾聴のすすめ）（植松）	友人や職場でのコミュニケーションに生かすことを目的に、人の話を聴く技術、方法を理解し、実

	践する。
第14回　文章の作成能力を身につける（栗山）	授業を通じて、文章を作成する際のポイントを確認する。学修した内容を今後のレポート作成などで活用する。
第15回　まとめ（植松）	15回の授業を振り返り、今後の学修に必要な点を確認する。

■ 履修上の注意
●毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席がないように注意すること。
●事情により、担当教員の変更、授業順序の変更が生じることがある。その場合は掲示板で連絡する。

■ 成績評価方法・基準
授業の取り組みに対する意欲と姿勢（30%）、ミニットペーパーや課題などの提出物の記載内容（70%）により総合的に評価する。
提出物については後日、フィードバックを行う。

■ 教科書
担当教員がプリント等を用意し、配布する。
入学前課題学習記録ノート（e-learningの教材）：入学前に配布済み

■ 参考書
特になし。授業の中で各担当の教員が指示する。

■ 備考
質問等については各授業の担当教員において授業終了時、あるいはオフィスアワー（曜日と時間は掲示等で確認すること）で受け付ける。

スタディスキルズ

(11041)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：健専1年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
八　巻　美智子　　ブシャー　シルベ　　教職員

■ 授業の概要
本科目では、本学の教育内容、大学での学びの基本的な姿勢について教授する。主な授業内容は、以下の通りである。
①大学での学習の土台となる「基礎学力」の定着を目指す。具体的には、プレイスメントテストによる基礎学力の把握、入学前に取り組んだ“e-learning”の復習など、基礎学力の定着、ならびに学修した内容の理解の向上を目指した演習を行う。
②「学修ポートフォリオ」を用いて、各自の学習目標、学習への取り組みについて助言する。
③情報処理教育センターや図書館など、学内の施設を活用した学習方法について教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・大学での学習方法を身につける。 ・自宅で学習する習慣を身につける。 ・大学生として必要な基礎学力を身につける。	1

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　本学の歴史・教学の指針（鈴木家政学部長）	オリエンテーションで実施。本学の歴史より、本学の研究教育で行ってきたことを把握する。教学の指針より、本学の教育形態を理解し、今後の学習に生かすことを意識する。
第2回　プレイスメントテスト①国語、英語（栗山）	国語、英語の基礎学力を確認する。試験でできなかった内容の復習を行う。
第3回　プレイスメントテスト②数学（栗山）	数学の基礎学力を確認する。試験でできなかった内容の復習を行う。
第4回　大学で学ぶということ（佐藤学長）	本学ホームページ、大学案内、入学式の学長挨拶を確認する。講義を通じて、大学での学びに必要な点を確認する。
第5回　専攻での学びについて（栗山）	本学ホームページ、大学案内より、専攻での学習内容を確認する。講義を通じて、専攻での学びに必要な点を確認する。
第6回　学修ポートフォリオの作成（栗山）	前回までの授業を復習し、自分の学修目標を考える。講義を通じて、卒業までの学習の流れを理解し、1年次での学習計画を確認する。
第7回　大学での授業の受け方について（栗山）	授業は教室に来て受講することで出席となる。授業の受け方、教科書の読み方、ノートやメモの取り方を確認する。
第8回　図書館の活用（村山）	ガイダンスでの図書館の利用方法について確認する。講義後、図書館を利用し、授業で扱った内容の確認を行う。
第9回　研究倫理について（栗山）	復習し、研究や教育における倫理について理解する。今後の大学生活において、研究倫理を守ることを意識する。
第10回　基礎学力向上 e-learning①基礎学力の確認［新OA室］（栗山）	入学前学習で行ったe-learningの進捗状況を確認する。授業を通じて、理解不十分の点を確認し、学修を進める。
第11回　学修ポートフォリオ　中間評価（栗山）	これまでの学修状況を振り返り、学修目標の達成度合いを点検する。目標が達成できていない点については、改善すべき方法を考える。
第12回　基礎学力向上 文章の読解力を身につける（栗山）	授業を通じて、文章を読解する際のポイントを確認する。学習した内容を、今後の学習の際に活用する。
第13回　基礎学力向上 e-learning②基礎学力の向上［新OA室］（栗山）	これまでのe-learningで学修した内容を確認する

	。授業を通じて、学習が進んだ点、不十分な点を確認し、基礎学力の向上を目指して学習を進める。
第14回　基礎学力向上 文章の作成能力を身につける（栗山）	授業を通じて、文章を作成する際のポイントを確認する。学習した内容を、今後のレポート作成などで活用する。
第15回　まとめ（栗山）	15回の授業を振り返り、今後の学習に必要な点を確認する。

■ 履修上の注意
・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席がないように注意すること。
・都合により、担当教員の変更、授業順序の変更が生じることがある。その場合は掲示等で連絡する。

■ 成績評価方法・基準
提出物（ミニットペーパー、課題）の提出状況と記載内容（70%）、受講態度（発言、質問など）（30%）、を総合的に評価する。
提出物については、後日フィードバックを行う。

■ 教科書
担当教員がプリント等を用意する。
〔入学前課題学習記録ノート（e-learningの教材）〕〔入学前に配布済み〕

■ 参考書
なし。授業の中で各担当の教員が指示する。

■ 備考
質問等については、各授業の担当教員の授業終了時、あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で受付ける。

ライフデザイン

(11042)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（30 + 15）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
佐々木　　晃

■ 授業の概要

自分の今後の将来設計を描くにあたって、新しい生活様式、アフターコロナの働き方改革も踏まえて確かな勤労観を持ち、有為な社会人として活躍できる基本的な資質・能力を身に付ける。本学の開学理念である「人間生活を科学し、より良い生活へ」の具現化・体現化を目指して、現在の大学生活を振り返り、今後の大学生活を充実させるための手立て、見直すべき点をノートにまとめ、具体的なライフプランを実現させるための方法、それらをグループで学びあい、集団討議させることでより確かなライフデザインを描けるようにする。知力、実践力、提案力、コミュニケーション力を兼ね備えた人間力を培う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・ライフデザインを学修する上で必要な基礎知識を身に付ける	0.2	0.15				0.5		0.15	
・学修した情報を整理・要約できる技術を身に付ける									
・学修した知識・技能・態度を社会で総合的に活用できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、ライフデザインを学ぶ意義の説明	より良い生活のために何が必要か考える
第２回　自分史作成　～自己を知る～	自らの埋もれた価値を見出す視点を学ぶ
第３回　自己分析・自己理解・自己管理	各種の分析を用いて人間性を科学する
第４回　学生生活のデザイン	生活を見直しより豊かな生活を見通す
第５回　時事問題理解力、思考力、表現力	情報を取捨選択して活用する能力を培う
第６回　社会人に求められるもの	社会で必要な行動・思考・協働を学ぶ
第７回　社会で働くための資質・能力	採用担当が重視する社会人基礎力を学ぶ
第８回　業界・企業研究	最新の経済動向を踏まえた学びを深める
第９回　課題発見能力・協調性・提案力	現状に満足せず次を考える学びを深める
第10回　ビジョン構築力	自分や組織の本来的使命を理解する
第11回　ライフステージとライフイベント	人生の節目にどんな役割があるかを学ぶ
第12回　ライフデザインとライフプラン	両者の概念の違いを予習し把握する
第13回　ライフデザインの作成	表現内容を簡潔にまとめる工夫を行う
第14回　ライフデザインの発表	内容を平易に伝えるための工夫を行う
第15回　キャリア開発に向けて	学修全体を振り返り今後に役立てる

■ 履修上の注意

本学キャリア教育の1年次としての自覚を持ち受講すること。

■ 成績評価方法・基準

平常点３０％（平常点は、授業への参加状況および小テストの結果等で総合的に判断する）レポート７０％
（必ず提出すること。未提出がある場合は、評価の対象としないことがある。）
・提出されたレポートは次回の授業内でフィードバックを行う。

■ 教科書

〔静かな人の戦略書〕〔ジル・チャン著〕〔ダイヤモンド社〕〔1，650円（税込）〕

■ 参考書

なし

■ 備考

・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。
・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

キャリア開発Ⅰ

(11043)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：服専1年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

昨今，SNS(Social Networking Service)で発信力のある個人（インフルエンサー）の情報は，消費者の購買行動や企業のコミュニケーション戦略のなかで最も注目されている。とりわけ，ファッション業界では，情報の分かりやすさ（伝わりやすさ）に関しての知識や技能が求められる。

本授業では，消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』や『UC（ユニバーサルカラー）アドバイザー』としての経歴を活かし，色彩検定協会主催『色彩検定UC級』の試験対策を教授するとともに「視覚情報のユニバーサルデザイン」に関する基礎知識の修得をめざしている。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1)「視覚情報のユニバーサルデザイン」の重要性を認識できる	0.1	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1			
・2)多様な見え方に配慮した色づかいについて理解できる									
・3)見えづらい例を示し，改善点を分かりやすく説明できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　テーマ：オリエンテーション(多様な見え方を知る) 概　要：色のユニバーサルデザインについて学ぶ	授業計画や事前配布資料などを参考にして予習すること。 講義ノートを読み直し，学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第2回　テーマ：「光と色の関係は？」 概　要：色が見えるしくみを学ぶ	同上
第3回　テーマ：「色を表すには？」 概　要：①色相・明度・彩度，②色相とトーンについて学ぶ	同上
第4回　テーマ：「多様な見え方と色覚特性を知る」 概　要：色覚特性と混同しやすい色，色覚検査法を学ぶ	同上
第5回　テーマ：「高齢者の見え方を知る」 概　要：加齢と見え方の変化について学ぶ	同上
第6回　テーマ：「誰もが見やすい配慮を知る」 概　要：視覚情報のユニバーサルデザインについて学ぶ	同上
第7回　テーマ：色のユニバーサルデザインを実践例(1) 概　要：視覚情報のユニバーサルデザイン(修正)に関しての出題事例を学ぶ	同上
第8回　テーマ：色のユニバーサルデザインを実践例(2) 概　要：視覚情報のユニバーサルデザイン(修正)に関しての出題事例を学ぶ	同上
第9回　テーマ：色のユニバーサルデザインを実践例(3) 概　要：視覚情報のユニバーサルデザイン(修正)に関しての出題事例を学ぶ	同上
第10回　テーマ：検定試験対策(1) 概　要：色彩検定UC級の模擬試験(過去問題)	過去問題で間違えたところを確認し，試験対策を怠らないこと。
第11回　テーマ：検定試験対策(2) 概　要：色彩検定UC級の模擬試験(過去問題)	過去問題で間違えたところを確認し，試験対策を怠らないこと。
第12回　テーマ：検定試験対策(3) 概　要：色彩検定UC級の模擬試験(過去問題)	過去問題で間違えたところを確認し，試験対策を怠らないこと。
第13回　テーマ：検定試験対策(4) 概　要：色彩検定UC級の模擬試験(過去問題)	過去問題で間違えたところを確認し，試験対策を怠らないこと。
第14回　テーマ：検定試験対策(5) 概　要：色彩検定UC級の模擬試験(過去問題)	過去問題で間違えたところを確認し，試験対策を怠らないこと。
第15回　テーマ：まとめ 概　要：色彩検定UC級の振り返り	検定試験後，解答解説を踏まえ，自己採点を行うこと。

■ 履修上の注意

受講にあたり「色彩検定UC級」の受験申し込み（自己負担:1，500円）が必要です。

3/4以上の出席もしくは課題提出がない場合には，単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(40%)+課題の提出状況(35%)+検定試験の結果(25%)にもとづき評価します。

成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問，グループワークでのリーダーシップなど]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。

なお，課題については，次回の授業内にフィードバックします。

※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔色彩検定UC級公式テキスト〕〔？色彩検定協会〕〔？色彩検定協会〕〔2300円〕

■ 参考書

必要に応じて紹介します。

■ 備考

【事後もしくは同時に受講して欲しい講義】

「色彩学」

【質問・相談など】

質問や相談などは，授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。

【重要事項説明】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，オンデマンドやハイブリッド型授業などの代替措置を講じるほか，授業の順番や内容を変更することがありますので，ご承知おき下さい。

キャリア開発Ⅰ

(11044)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（30 + 15）
対象学科：健専１年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要
化学Ⅰ・Ⅱの授業で取り扱った内容に関連する基礎的な問題の演習を主とし、個々の学生の理解度に合わせて、解法を担当教員および学習支援員（学生）により個別に指導する。また授業で出題された練習問題についての解説を行う。さらに将来にむけて管理栄養士の業務の実際についての説明、および４年次に受験する予定の管理栄養士国家試験の概要と対策について、また学習している化学との関連についても解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・化学の練習問題を解けるようにする。	0.6		0.4						
・管理栄養士の業務の概要を理解する。									
・管理栄養士国家試験の概要と、化学の学習との関連を理解する。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　物質の構成に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第２回　周期表に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第３回　原子・イオン・分子に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第４回　化学式に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第５回　物質量：原子量・分子量の計算に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第６回　管理栄養士の仕事について、モルの計算に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解するとともに、管理栄養士の仕事についての説明をまとめレポートを作成する。
第７回　化学反応式に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第８回　化学結合に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第９回　酸・塩基、中和に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第10回　水素イオン濃度とｐHに関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第11回　管理栄養士国家試験について、酸化と還元に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解するとともに、管理栄養士国家試験の概要を理解して今後の取り組みを考えてレポートを作成する。
第12回　酸化数と酸化還元反応に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第13回　気体の性質に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第14回　溶液の性質に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。
第15回　化学反応と熱に関連する問題演習と解説	授業で扱った練習問題の解法を復習し確実に理解する。

■ 履修上の注意
特に教員・学習支援員（SA)に積極的に質問して不明な点を極力残さないような取り組みを求める。

■ 成績評価方法・基準

平常点（試問・課題）・・・80%、レポート提出・・・20%

■ 教科書
ゼロからはじめる化学、立屋敷　哲、丸善(株)出版事業部、2，200円＋税

■ 参考書
無し

■ 備考
選択科目であるが、化学の学力向上を目指したもので、化学Ⅰ・Ⅱの授業と特に関連が深く、かつ管理栄養士関連の情報提供も行うので履修することが望ましい。提出物へのフィードバックとして、コメントを後日提示する。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

キャリア開発Ⅱ

(11045)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：服専２年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

私たちは，さまざまな商品やサービスを購入し，それらを利活用（消費）しながら，日々暮らしいる。
そうしたなか「消費者が経済的に効率良く，かつ地球環境にも配慮した消費生活を営むには，合理的な意思決定を行うための智慧（消費者力）が不可欠となる。
本講義では，消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かして「現代社会を生きていくために知っておくべきこと，暮らしに役立つこと」という視点から，一般財団法人日本消費者協会主催の『消費者力検定』試験対策を教授するとともに，賢い消費者としての実践力の修得をめざしている。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1)全ての人に関わる知識として消費者力を認識，理解できる	0.1	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1			
・2)消費者行政の役割や消費者トラブルについて理解できる									
・3)日常生活に役立つ消費者情報について説明できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テーマ：消費者力検定の概要説明，衣生活分野 概　要：衣服の機能・表示・管理，繊維と布地の種類などを学ぶ	教科書（ワークブック）と講義ノートの内容を読み直し，学習内容の振り返りを行う。また，事前配布の資料は，授業前に読んでおくこと。
第２回　テーマ：食生活分野 概　要：食品加工と保存，食品安全行政，食品の表示などを学ぶ	同上
第３回　テーマ：住生活分野 概　要：住生活基本法，住まいの取得・賃貸契約などを学ぶ	同上
第４回　テーマ：消費者契約と法律分野 概　要：民法，消費者契約法，特定商取引法などを学ぶ	同上
第５回　テーマ：契約と消費者トラブル分野 概　要：消費生活相談の実態や悪質商法などを学ぶ	同上
第６回　テーマ：環境分野 概　要：環境問題や環境に配慮した消費行動などを学ぶ	同上
第７回　テーマ：サービス 概　要：インターネット取引やそのトラブル事例などを学ぶ	同上
第８回　テーマ：検定試験対策(1) 概　要：消費者力検定(基礎コース)の模擬試験(過去問題)の実施	過去問題で間違えたところを確認し，試験対策を怠らないこと。
第９回　テーマ：検定試験対策(2) 概　要：消費者力検定(基礎コース)の模擬試験(過去問題)の実施	過去問題で間違えたところを確認し，試験対策を怠らないこと。
第10回　テーマ：検定試験対策(3) 概　要：消費者力検定(基礎コース)の模擬試験(過去問題)の実施	過去問題で間違えたところを確認し，試験対策を怠らないこと。
第11回　テーマ：検定試験対策(4) 概　要：消費者力検定(基礎コース)の模擬試験(過去問題)の実施	過去問題で間違えたところを確認し，試験対策を怠らないこと。
第12回　テーマ：検定試験対策(5) 概　要：消費者力検定(基礎コース)の模擬試験(過去問題)の実施	過去問題で間違えたところを確認し，試験対策を怠らないこと。
第13回　テーマ：検定試験対策(6) 概　要：消費者力検定(基礎コース)の模擬試験(過去問題)の実施	過去問題で間違えたところを確認し，試験対策を怠らないこと。
第14回　テーマ：検定試験 概　要：消費者力検定の学内実施	模擬試験の結果(苦手な問題)を何度も解くことで，試験の直前対策を怠らないこと。
第15回　テーマ：まとめ 概　要：消費者力検定の振り返り	試験後，解答解説を踏まえ，自己採点を行うこと。

■ 履修上の注意

受講にあたり「消費者力検定（基礎コース）」の受験申し込み（自己負担:950円）が必要となります。
3/4以上の出席がない場合には，単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・授業への参加態度(50%)+検定試験の結果(50%)にもとづき評価する。

成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問，グループワークでのリーダーシップなど]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。

なお，課題については，次回の授業内にフィードバックをします。

※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔消費者力検定ワークブック〕〔(財)日本消費者協会〕〔(財)日本消費者協会〕〔756円〕

■ 参考書

授業中にプリントを配布します。

■ 備考

【事前もしくは同時に受講して欲しい講義】

「消費生活論」

【質問・相談など】

質問や相談などは，授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。

【重要事項説明】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，オンデマンドやハイブリッド型授業などの代替措置を講じるほか，授業の順番や内容を変更することがありますので，ご承知おき下さい。

キャリア開発Ⅱ

(11046)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
川　俣　幸　一

■ 授業の概要

2017年1月よりセルフメディケーション税制が開始され、今後は症状の軽い病気（生活習慣病を含む）は病院ではなく市販薬対応として世の中がシフトしていくと考えられている。また2018年11月の内閣府の経済財政諮問会議で薬剤師と管理栄養士の融合が話題となる中で、これからは薬局に勤務できるような薬に詳しい管理栄養士のニーズが高まるものと想定される（薬局管理栄養士）。
登録販売者とは薬の知識を生かし薬局などで医薬品の販売を行うことのできる国家資格である。この授業では薬に詳しい管理栄養士を目指すため、8月下旬に実施される登録販売者試験の合格を目標とした試験対策講座を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・基本的なOTC医薬品の作用機序について理解できる	0.6		0.2		0.2				
・薬局栄養士についての職務内容・将来性が理解できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　概要／人体の構造と働き・薬の働く仕組み	事前学習としてテキストの目次を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第２回　医薬品の基本的な知識・副作用	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第３回　薬の作用を知るための重要なポイント① （アドレナリン様作用、抗コリン作用など）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第４回　薬の作用を知るための重要なポイント② （抗ヒスタミン作用、プロスタグランジンの作用など）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第５回　OTC医薬品① （風邪薬、アレルギー薬、催眠鎮静薬など）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第６回　OTC医薬品② （鎮暈薬、痔疾用薬など）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第７回　OTC医薬品③ （胃腸薬・滋養強壮保健薬など）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第８回　OTC医薬品④ （皮膚薬、毛髪薬など）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第９回　OTC医薬品⑤ （目薬、歯痛薬など）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第10回　OTC医薬品⑥ （一般用検査薬、公衆衛生用薬）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第11回　OTC医薬品⑦ （生薬成分と漢方処方）	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第12回　薬事関係法規	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第13回　医薬品の販売制度	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作

	成。
第14回　医薬品の適正使用	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。 事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。
第15回　医薬品の安全対策	事前学習としてテキストの該当箇所を一読する。 事後学習として解いた過去問の復習、単語帳の作成。

■ 履修上の注意
登録販売者試験の日程に合わせて日程や時間割を調整する事がある。

■ 成績評価方法・基準
課題レポート・・・90%
受講態度・・・10%

■ 教科書
7日間でうかる！登録販売者テキスト＆問題集2022年度版［堀美智子著］［日本経済新聞出版社］［1980円］

■ 参考書
なし（適宜プリントを配布する）

■ 備考
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。

キャリア開発Ⅲ

(11047)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（15 + 30）
対象学科：服専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
内　海　陽　子

■ 授業の概要

本講義では、AFT色彩検定2級の試験対策講座を行う。色彩は、被服をはじめとする日常生活のあらゆる分野に関連する。特に、ファッション業界やインテリア業界、グラフィック業界、企業のデザイン・宣伝部門など、幅広い分野で活用される「色」についての専門知識について取り上げることで、知識の深化を図り、色彩を活用するための実践力を養う。これらの専門知識を身につけながら、AFT色彩能力検定2級を目指す。当講義では、大手アパレルメーカーで、年間３０億円以上の商品バイイングマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在も、ファッション業界で多岐に渡って、活動している講師が担当する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・色彩についての基礎知識を身につける。	
・色彩を活用し実践するための専門知識を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　生活と色、光と色	第1回講義内容を復習し、過去問に取り組む
第２回　色の表示	第1回～2回内容を復習し、過去問に取り組む
第３回　色彩調和、配色イメージ	第1回～3回内容を復習し、過去問に取り組む
第４回　ｳﾞｨｼﾞｭｱﾙﾃﾞｻﾞｲﾝと色彩、ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄﾃﾞｻﾞｲﾝと色彩	第1回～4回内容を復習し、過去問に取り組む
第５回　ファッションと配色	第1回～5回内容を復習し、過去問に取り組む
第６回　インテリアデザインと色彩	第1回～6回内容を復習し、過去問に取り組む
第７回　エクステリアデザインと色彩	第1回～7回内容を復習し、過去問に取り組む
第８回　AFT色彩検定の試験対策	第1回～8回内容を総復習し、過去問に取り組む

■ 履修上の注意

AFT色彩検定3級の内容を十分に復習して授業に臨むこと。事前に教科書を熟読し、配布する練習問題を十分に学習してくること。AFT色彩検定2級を受験すること。

■ 成績評価方法・基準

課題レポート（50%）、事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）で総合評価。
提出された課題レポートは後日フィードバックする。

■ 教科書

〔色彩検定 公式テキスト 2級編〕〔公益社団法人　色彩検定協会〕〔2，970円〕

■ 参考書

使用せず

■ 備考

質問等については、授業終了後受け付ける。

キャリア開発Ⅲ

(11048)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：健専３年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
栗　山　孝　雄　　川　俣　幸　一　　健康栄養学専攻全教員

■ 授業の概要
管理栄養士として働くためには、栄養士免許の取得と管理栄養士国家試験に合格することが必要条件である。特に、管理栄養士国家試験に合格するためには、出題内容を把握した上での継続的な学習が不可欠である。本科目は、管理栄養士国家試験の受験対策として、以下の内容を扱う。
①管理栄養士国家試験の出題分野（科目）の過去問を題材に、修得の必要がある点を教授する。
②出題分野（科目）ごとに出題範囲、頻出事項について解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・国家試験受験に必要な知識を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（鈴木、栗山） 基礎栄養学（鈴木）①基礎栄養学	各自、学習目標を確認する。そのうえで科目ごとの進捗状況を把握する。基礎栄養学に関する内容；予習：基礎栄養学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第２回　基礎栄養学（鈴木）②栄養生化学	予習：栄養生化学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第３回　基礎栄養学（鈴木）③まとめ	予習：前回までの授業で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第４回　応用栄養学（川俣）①応用栄養学	予習：応用栄養学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第５回　応用栄養学（川俣）②栄養管理論	予習：栄養管理論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第６回　応用栄養学（川俣）③まとめ	予習：応用栄養学①～②の授業で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第７回　食べ物と健康（八巻）①食品学総論	予習：食品学総論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第８回　食べ物と健康（八巻）②食生活と健康	予習：食生活と健康に関する内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第９回　食べ物と健康（佐藤（靖））③食品学各論	予習：食品学各論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。

第10回　食べ物と健康（佐藤（靖））④食品加工学	予習：食品加工学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第11回　食べ物と健康（佐藤（靖））⑤調理科学論	予習：調理科学論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第12回　食べ物と健康（佐藤（靖）、八巻）⑥まとめ	予習：食べ物と健康①～⑤の授業で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第13回　公衆栄養学（栗山）①栄養政策	予習：栄養政策に関する内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第14回　公衆栄養学（栗山）②公衆栄養マネジメント	予習：公衆栄養マネジメントに関する内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第15回　公衆栄養学（栗山）③まとめ	予習：公衆栄養学①～②の授業で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第16回　試験	学習した内容全体を復習する。

■ 履修上の注意
・管理栄養士国家試験受験を希望する者は履修すること。
・本科目とセミナーⅠ（後期開講）で、管理栄養士国家試験の出題科目を扱う。
・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席や遅刻がないように注意すること。
・都合により、授業科目、授業担当教員、授業の内容や順序が変更となる場合もある。
（※）授業で扱う内容については、担当教員からの指示をもとに予習、復習を行う。

■ 成績評価方法・基準
・平常点40%（平常点は、ミニットペーパーや課題等の提出および学習の進捗状況などを総合的に判断する）、試験60%の結果で評価する。
・提出物や試験は、後日フィードバックを行う。

■ 教科書
〔管理栄養士国家試験　問題集〕（大学より配布予定）
〔クエスチョンバンク2024〕〔メディックメディア〕（7月発売予定）
授業担当の教員が担当した科目の教科書（掲示等で伝える）

■ 参考書
授業担当の教員が適宜紹介する。

■ 備考
質問等は、各授業の担当教員が授業終了時やオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で対応する。

キャリア開発Ⅳ

(11049)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（30 + 15）
対象学科：服専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

昨今，H&M，GAP，ZARA，ユニクロなどのファストファッション，そしてWEBサイトでの販売を展開するZOZOTOWNなどの新興勢力が台頭し，ファッション・ビジネスは新たな局面を迎えている。

とりわけ，SNS(Social Networking Service)の普及は，ファッション関連分野の可能性を多彩に広げ，個々の働き方も大きく変容・拡大しつつある。

本授業では，消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かし「将来，服飾関連分野で働く」という視点から，将来のキャリア形成に向けて，具体的な目標設定（エントリーシートの作成）を指導するとともに『ニュース時事能力検定２級』試験対策の教授により，社会人基礎力のひとつ「課題発見力」や「状況把握力」などの修得をめざしている。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1)「課題発見力」「状況把握力」の重要性を認識，実践できる	
・2)多様な人々と協力し，働くために必要な能力を理解できる	
・3)将来のキャリア形成にむけて，具体的な目標を説明できる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テーマ：オリエンテーション（授業の進め方・評価など） 概　要：就職活動に不可欠な時事問題の傾向と対策を学ぶ	授業計画や事前配布資料などを参考にして，予習すること。 また『ニュース時事能力検定2級』対策として，毎日，新聞の記事や社説，コラムから題材を１つ選び，その題材についてコメントや見出しを書き，さらに要約すること。 これらのワークシートは，ノートにまとめ，最終授業時に提出すること。
第２回　テーマ：業界研究 概　要：ファッション関連分野の現状と新たな可能性を学ぶ	同上
第３回　テーマ：企業・職種研究 概　要：世界的に代表的な企業や仕事の内容などを学ぶ	同上
第４回　テーマ：履歴書（エントリーシート）作成 概　要：「自分を知る。相手を知る」を学ぶ	同上
第５回　テーマ：With/Postコロナ時代のアパレル・ファッション業界① 概　要：今、最も注目されている企業やファッションを学ぶ	同上
第６回　テーマ：With/Postコロナ時代のアパレル・ファッション業界② 概　要：今、最も注目されている企業やファッションを学ぶ	同上
第７回　テーマ：With/Postコロナ時代のアパレル・ファッション業界③ 概　要：今、最も注目されている企業やファッションを学ぶ	同上
第８回　テーマ：With/Postコロナ時代の経済･社会① 概　要：最新の経済・社会の動向を学ぶ	同上
第９回　テーマ：With/Postコロナ時代の経済･社会② 概　要：最新の経済・社会の動向を学ぶ	同上
第10回　テーマ：With/Postコロナ時代の経済･社会③ 概　要：最新の経済・社会の動向を学ぶ	同上
第11回　テーマ：ニュース時事能力検定対策① 概　要：小学校・中学校社会科「地理」や「歴史」の振り返り	同上
第12回　テーマ：ニュース時事能力検定対策② 概　要：高校の「現代社会」や「政治・経済」の振り返り	同上
第13回　テーマ：ニュース時事能力検定対策③ 概　要：世界的・歴史的な視点で現代社会を見る目を学ぶ	同上
第14回　テーマ：模擬試験 概　要：「ニュース時事能力検定2級」模擬試験の実施	テレビや新聞などの「時事問題の解説」を何度も確認し，直前の試験対策を怠らないこと。

第15回　テーマ：まとめ 概　要：模擬試験の振り返り	模擬試験後，解答解説を踏まえ，自己採点を行うこと。

■ 履修上の注意

3/4以上の出席がない場合には，単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・授業への参加態度(50%)+課題の提出状況(25%)+模擬試験の結果(25%)にもとづき評価する。

成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問，グループワークでのリーダーシップなど]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。

なお，課題については，次回の授業内にフィードバックします。

※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔2021年度版ニュース検定公式テキスト発展編〕〔日本ニュース時事能力検定協会監修〕〔毎日新聞出版〕〔1650円〕

■ 参考書

必要に応じて紹介します。

■ 備考

【事前もしくは同時に受講して欲しい講義】

「キャリアサポートⅠ」「キャリア開発Ⅰ」「消費生活論」「経済学」「歴史Ⅰ」

【質問・相談など】

質問や相談などは，授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。

【重要事項説明】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，オンデマンドやハイブリッド型授業などの代替措置を講じるほか，授業の順番や内容を変更することがありますので，ご承知おき下さい。

キャリア開発Ⅳ

(11050)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：健専４年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
栗　山　孝　雄　　川　俣　幸　一　　健康栄養学専攻全教員

■ 授業の概要
本科目は、4年次の管理栄養士国家試験対策の一環として開講する。これまでに修得した管理栄養士国家試験を突破するために必要な知識を基本に、模擬試験の受験を通じて、修得した知識の確認と弱点の把握を目指す。具体的には、以下の内容を扱う。
①管理栄養士国家試験の出題分野（科目）の過去問を題材に、修得の必要がある点を教授する。
②応用問題のように、出題分野（科目）を横断する内容の問題について、特徴や要点を説明する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・国家試験受験に必要な知識を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（鈴木、栗山）	各自、学習目標を確認する。そのうえで科目ごとの進捗授業、弱点の把握と克服を行う。
第２回　模擬試験①（栗山、川俣）	出題科目ごとの知識の修得状況を把握する。点数が取れていない分野については、誤った点を確認し、弱点を克服する。
第３回　基礎栄養学　問題解説（鈴木）	予習：基礎栄養学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と克服を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第４回　応用栄養学　問題解説（川俣）	予習：応用栄養学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と克服を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第５回　臨床医学　問題解説（中尾）	予習：臨床医学に関する内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と克服を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第６回　生化学　問題解説（外部講師）	予習：生化学に関する内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と克服を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第７回　模擬試験②（栗山、川俣）	出題科目ごとの知識の修得状況を把握する。点数が取れていない分野については、誤った点を確認し、弱点を克服する。
第８回　食品学　問題解説（八巻）	予習：食品学に関する内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と克服を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第９回　食品加工学　問題解説（佐藤）	予習：食品加工学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と克服を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第10回　給食経営管理論　問題解説（鴫原）	予習：給食経営管理論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と克服を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第11回　公衆衛生学　問題解説（伊藤）	予習：公衆衛生学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と克服を行う。なお、具体的な内容については「

	履修上の注意」（※）を参照のこと。
第12回　模擬試験③（栗山、川俣）	出題科目ごとの知識の修得状況を把握する。点数が取れていない分野については、誤った点を確認し、弱点を克服する。
第13回　応用力問題（外部講師）	予習：応用力問題の学修状況を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と克服を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第14回　公衆栄養学　問題解説（栗山）	予習：公衆栄養学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と克服を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第15回　栄養生化学　問題解説（外部講師）	予習：栄養生化学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と克服を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。

■ 履修上の注意
・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席がないように注意すること。
・模擬試験の開催日時、問題解説の内容については、掲示で連絡する。
・都合により、授業担当教員や授業の順序が変更となる場合もある。
（※）授業で扱う内容については、担当教員からの指示をもとに予習、復習を行う。

■ 成績評価方法・基準
・平常点50%（ミニットペーパーや課題等の提出および学習の進捗状況などを総合的に判断する）、模擬試験の結果50%で評価する。
・提出物や模擬試験は、後日フィードバックを行う。

■ 教科書
〔管理栄養士国家試験　問題集〕※3年次に配布済み
〔クエスチョンバンク2023〕〔メディックメディア〕※3年次に購入済み
授業担当の教員が担当した科目の教科書（掲示などで伝える）

■ 参考書
授業担当の教員が適宜紹介する。

■ 備考
質問等は、各授業の担当教員が授業終了時やオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で対応する。

キャリアサポートⅠ

(11051)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（45 + 45）
対象学科：健専３年・服専３年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
鈴　木　　専　　教職員

■ 授業の概要
学生のキャリア形成支援活動に関する文部科学省、経済産業省、厚生労働省間の三省合意改正により、2026年3月卒の学生からインターンシップの在り方が大きく変化し、夏から始まるインターンシップが企業等の採用選考活動開始となる等社会経済情勢が大きく変化している。この様な中における学生の就職活動を支援するため、従来の自己分析や企業研究の手法、エントリーシートの書き方、ＳＰＩ等の知識とスキルの修得に加え、早期内定者や講師陣による最新の就職活動に関する情報提供を行い進路決定するまで指導していく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・就職活動に関する最新の知識を修得し、幅広い視野で自らの進路を選択決定する力を身に付ける ・業界・企業を比較研究する知識とスキルを身に付ける ・就職試験を突破する力を身に付ける	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　就活準備スタートアップセミナー （授業ガイダンス・就活の流れ等）	就職活動の流れを知り、これからやるべきことを理解すること
第２回　業界・企業研究基礎セミナー	業界と企業に関する知識を広げることによって進路の選択肢が広がることを理解すること
第３回　早期内定学生による「就職活動準備期の何でも相談セミナー」	早期内定学生が、就職活動準備期における不安や悩みに応える
第４回　企業比較研究法セミナー	選択肢を広げる企業研究手法を身に付けること
第５回　映像で理解する「インターンシップセミナー」	今年から大きく変化するインターンシップの目的を理解すること
第６回　インターンシップ合同企業説明会の活用セミナー	インターンシップ合同企業説明会が情報収集の貴重な情報源であることを理解し、活用すること
第７回　採用する側の内部事情を知るセミナー	採用する側の課題と求める人物像を理解する
第８回　インターンシップ何でも相談セミナー	就職活動がスタートする夏季インターンシップ直前期の不安や悩みに応える
第９回　ＷＥＢマーケティング企業の経営者から学ぶ「ＷＥＢマーケティングセミナー」	YouTube等のSNSを活用したＷＥＢマーケティングの基礎を学び、自分自身の価値を上げること
第10回　ＳＰＩ基礎セミナー	多くの企業や地方公務員試験で出題されるＳＰＩの試験形式を知り、克服する方策を考える
第11回　ＳＰＩ非言語対策セミナー①（割合、損益算） ※理解度等状況に応じて柔軟に内容を変更	配布資料を繰り返し復習し、短い時間内で確実に正解できる実力を身に付けること
第12回　ＳＰＩ非言語対策セミナー②（速さ、確率） ※理解度等状況に応じて柔軟に内容を変更	配布資料を繰り返し復習し、短い時間内で確実に正解できる実力を身に付けること
第13回　ＳＰＩ非言語対策セミナー③（仕事算、比率） ※理解度等状況に応じて柔軟に内容を変更	配布資料を繰り返し復習し、短い時間内で確実に正解できる実力を身に付けること
第14回　ＳＰＩ非言語対策セミナー④（順列・組合せ、集合） ※理解度等状況に応じて柔軟に内容を変更	配布資料を繰り返し復習し、短い時間内で確実に正解できる実力を身に付けること
第15回　就活準備前半振返りセミナー	前半を振り返り、これからやるべきことを理解して実践すること
第16回　ＳＰＩ模擬試験	模試で弱点を把握しその克服に努めること
第17回　小論文対策セミナー① （論文、小論文、作文の違いとは）	論文、小論文、作文との違いを理解すること
第18回　小論文対策セミナー② （実際に小論文を書いてみる）	簡潔で分かり易い文章の書き方を理解すること
第19回　ＳＰＩ模擬試験振返りセミナー （模試結果の振返りと復習）	確実に正解できる問題を増やすこと
第20回　就活準備中間振返りセミナー	現時点における就職環境を理解し、本番の選考に

（現時点の就職環境の理解と自己ＰＲのブラッシュアップ）	備え自己ＰＲのブラッシュアップを行うこと
第21回　就活本番用エントリーシート対策セミナー①	宿題のエントリーシートを書く際の注意点を理解し、自力で書く努力をすること
第22回　就活本番用エントリーシート対策セミナー② （授業終了後宿題提出すること）	自力でエントリーシートを書くことの難しさを理解し、就職活動本番に向けて準備を怠らないこと
第23回　面接試験対策セミナー①	宿題の総評と面接試験における注意点をよく理解すること
第24回　面接試験対策セミナー② （ロールプレイ）	ロールプレイを体験することで相手に分かり易く伝えることの難しさを理解し、就職活動本番に向けて準備を怠らないこと
第25回　企業の人事担当者のホンネを訊くセミナー	学生が感じる疑問や質問に対する企業の人事担当者のホンネを訊く
第26回　内定学生が就職活動直前期の不安や悩みに応える 「就職活動直通期の何でも相談セミナー」	内定学生が就職活動直前期における不安や悩みに応える
第27回　労働法基礎セミナー	労働法の基礎と求人票の見方及び就活ハラスメントへの対処法を理解すること
第28回　～就活は第一印象が大きく影響する～ ビジネスマナーセミナー	社会で働く上で必要なビジネスマナーを理解すること
第29回　就活準備振返りセミナー （就職活動の流れの再確認と就職環境）	就職活動の流れの再確認と就職環境を理解し、就職活動本番に備えること
第30回　就活生応援セミナー	社会で活躍するキャリアウーマンが贈る「就活生応援メッセージ」

■ 履修上の注意

夏期インターンシップが就職活動のスタートであることを理解すること
エントリーシートの出来が就職試験の結果に大きな影響を与えることを理解すること
学んだことを繰り返し復習し身に付けること。また、ミニットペーパーを活用して文章力向上に努めること
良好な授業環境の実現とコロナウイルス対策のため全員指定された座席に着席すること
課外で行うセミナーにも積極的に参加して実力向上に努めること

■ 成績評価方法・基準

宿題のエントリーシートに対する取り組み姿勢（40%）ミニットペーパーによる授業の理解度（40%）積極的な質問や真剣な目で受講しているか（20%）

■ 教科書

授業の際に資料を配布する

■ 参考書

業界地図　東洋経済新報社　1，300円　　会社四季報　東洋経済新報社　2，091円
就職四季報総合版　東洋経済新報社　1，900円　就職四季報女子版　東洋経済新報社　1，900円
キャリアをつくる独学力　著者：髙橋俊介　東洋経済新報社　1，870円　※いずれも税抜

■ 備考

オフィスアワー
原則として、毎週木曜日の各午後３時～午後６時以外の時間に質問を受け付ける

キャリアサポートⅡ

(11052)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（23 + 23）
対象学科：健専４年・服専４年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　大学共通教養科目
鈴　木　　専　　教職員

■ 授業の概要
学生が就職活動をする上で、一人ひとりが抱える課題解決の糸口を掴むことが出来る授業展開に努め、各自が希望する進路選択が実現できるよう指導していく。具体的には、第1回目の授業の中でアンケート調査を行い、一人ひとりが感じている就職活動に関する課題や不安、悩み等の聞き取りを行う。そして、集計したアンケート調査結果を講師陣と共有し、学生一人ひとりの課題解決に資する授業展開に努め、各自の希望する進路選択が実現できるよう指導並びに支援を行っていく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・現在の就職環境をよく理解すること ・企業の人事担当者の本音を訊き、内定を得るために必要な知識とスキルを学ぶこと ・グループディスカッションを経験し傾聴の大切さを理解すること ・学内単独会社説明会に積極的に参加し情報収集を怠らないこと	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　就職活動復習セミナー （授業終了後アンケートを提出）	就職活動の流れを再確認するとともに、現在の就職環境を理解し企業の採用選考に臨むこと
第２回　企業の人事担当者「何でも相談セミナー」① 学生の素朴な疑問に本音で応える	企業の人事担当者の本音を訊く
第３回　企業の人事担当者「何でも相談セミナー」① 学生の素朴な疑問に本音で応える	企業の人事担当者の本音を訊く
第４回　グループディスカッションセミナー①【基礎編】	グループディスカッションの基本を学ぶ
第５回　グループディスカッションセミナー②【実践編】	グループディスカッションのコツを理解すること
第６回　小論文復習セミナー① （一人ひとりの小論文の課題に応える）	各自が抱える小論文に関する課題解決の糸口を掴み、学んだことを実践して結果を出すこと
第７回　小論文復習セミナー② （実際に小論文を書いてみる）	各自が抱える小論文に関する課題解決の糸口を掴み、学んだことを実践して結果を出すこと
第８回　学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択することに必要な情報を収集すること
第９回　学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択することに必要な情報を収集すること
第10回　学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択することに必要な情報を収集すること
第11回　学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択することに必要な情報を収集すること
第12回　学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択することに必要な情報を収集すること
第13回　学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択することに必要な情報を収集すること
第14回　学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択することに必要な情報を収集すること
第15回　学内会社説明会（会社名は後日発表）	進路選択することに必要な情報を収集すること

■ 履修上の注意
学んだことを実際の就職活動に活かし、自ら選択した進路実現に向かって努力すること

■ 成績評価方法・基準
ミニットペーパーによる授業の理解度（50%）積極的な質問や態度で受講しているか（50%）

■ 教科書
授業の際に資料を配布する

■ 参考書
業界地図　東洋経済新報社　1，300円　　会社四季報　東洋経済新報社　2，091円
就職四季報総合版　東洋経済新報社　1，900円　就職四季報女子版　東洋経済新報社　1，900円
キャリアをつくる独学力　著者：髙橋俊介　東洋経済新報社　1870円　※税抜価格

■ 備考

オフィスアワー
原則として、毎週木曜日午後３時～午後６時以外の時間に質問を受け付ける

家 政 学 部 基 幹 科 目

家政学原論

(11091)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　基幹科目
八　巻　美智子

■ 授業の概要
「家政学とは何か」について学ぶ。近代以降家政学がどのように扱われてきたか、また現在、私たちが抱えている生活の問題点について概説する。家政学部で各自が所属する学科で専攻科目を学びながら人間生活と生活に関わる家政学の独自性に気づきその根本について説明する。さらに、実際に生活する上でいかに家政学が重要かを理解するとともに、各自が自立しよりよく生きるための力を身につけることの重要性を理解できるように詳説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・家政学の独自性に気づき、その根本について理解する事。	0.5	0.2				0.1		0.2	
・実際に生活する上でいかに家政学が重要かを理解する。									
・自立しよりよく生きるための力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	日頃から生活の諸問題に対し自分の意見を持ち行動する事。テキスト第1章を読む。
第２回　家政学とは・家政学原論とは何か	家政学とは何か理解し学ぶ大切さを実感すること。テキスト第2章を読む。
第３回　家政学をなぜ学ぶのか	家政学をなぜ学ぶのかを理解し、重要性に気が付くこと。テキスト第1章と第2章を再度読む。
第４回　家政学の特質、研究対象、研究方法、研究目的	家政学の対象の広さを知り、身近な学問と理解する事。テキスト第2章を読む。
第５回　家政学史　本学の歴史について	家政学の歴史などについて自分なりに調べる。テキスト（第4章）を読む。
第６回　我が国の家政学史(1) 学制以前～	家政学の歴史などについて自分なりに調べてレポートまたは発表する。テキスト第4章を読む。
第７回　家政学史　(2) 昭和時代～	テキストなどを読みながら復習する。（第1章～第4章）
第８回　世界の家政学について（アメリカなど）	これまでの授業を振り返り要点をまとめる。テキスト（第3章）などを読みながら復習し憶える。
第９回　世界の家政学について　（ヨーロッパなど）	これまでの授業を振り返り要点をまとめる。テキスト（第1章～第4章）などを読みながら復習し憶える。
第10回　ここまでのまとめ　（テスト）	これまでの授業をまとめる。テストの振り返り（内容確認）。
第11回　現代社会における家政学の普及・社会貢献 家政学と教育	講義で学んだことを生かしレポートする題目を決める。テキストを読む（第5章・第6章）
第12回　現代社会の生活者と家政学 サスティナブル（持続可能）な社会の創造	SDGsについて調べる。関連する教科書のページを読む。また、レポートする題目を決め、内容について調べる。
第13回　生活上の諸問題 （衣生活、食生活、住生活環境、消費生活、家庭生活、福祉、高齢化社会）	レポートする内容について調べる。
第14回　課題発表会　プレゼンテーション	レポートをまとめる。各自で発表練習をする。
第15回　まとめ　今後の家政学	レポートしたことを発表するための準備と事後の振り返り。

■ 履修上の注意
出席を重視。私語は厳禁。教科書は必ず購入し持参するようにして下さい。

■ 成績評価方法・基準
テスト40%、レポート・発表30%、授業態度など（提出物やその内容、教員の指示に対応しているか）30%

テスト、レポート等については授業中にフィードバックをします。解答例を配布する場合もあります。

■ 教科書
やさしい家政学原論　（一社）日本家政学会家政学原論部会編　建帛社　2500円+税

■ 参考書
講義時に指示します

■ 備考
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。講義の順番や内容は前後または変更する可能性があります。

家族関係学

(11092)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　基幹科目
八　巻　美智子

■ 授業の概要
「家族とは何か」について概説する。これまでの家族やその在り方、現在や今後の家族やその在り方について解説する。身近な存在である家族は特に成長過程において、大切な存在であることを理解させる。また、家族をめぐる諸問題やその背景にある社会の変化について、いろいろなデータも取り入れて講義する。そのデータを客観的に科学的に考察することで、さまざまな諸問題に対し自発的に解決できる能力を養うことの重要性を理解できるように詳説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・さまざまな家族について理解する事。	0.4	0.2				0.2		0.2	
・家族を取り巻く諸問題について客観的に理解を深める事。									
・変化する社会と家族について問題点を見つけ改善していく能力を身に付ける事。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	事後：家族について考える テキストの目次を読む。どのような内容が記載されているか確認する。
第２回　家族とは.家族の種類と分類	家族の存在について考える。テキストの中で関心のある所を各自読んでくくる。
第３回　家族関係学を学ぶにあたって	行事と家族について考える。これまでの内容を復習し、テキスト序章を読む。
第４回　生まれる・育つ	行事と家族について考える。これまでの内容を復習し、テキスト第1章を読む。
第５回　子どもが直面している問題 これまでのまとめ（小テスト）	小テストに向けて学修する。これまでの内容を復習し、ノートを整理をしながらテキスト（第序章～第1章）を読む。
第６回　パートナーの選択と結婚	家族や結婚に関するデータを調べて、発表する。テキスト第2章を読む。
第７回　現代日本の結婚状況	家族関係と法律について理解を深める。テキスト第3章～第5章を読む。
第８回　夫婦関係の諸相	家族に関するデータを調べて、発表する。テキスト第3章～第5章を読む。
第９回　役割構造からみた夫婦関係	家族に関するデータを調べて、発表する。テキスト第6章を読む。レポート課題に取り組む。
第10回　新しい生命の誕生と家族	生命の誕生と家族のかかわりについて理解を深める。テキスト第4章を読む。
第11回　ワーク・ライフ・バランス	さまざまな環境下で育つ子どもについて理解する。これまでの内容を復習し、ノート整理をしながらテキスト第6章を読む。
第12回　親のケアに関わるということ	レポート課題に取り組む。これまでの内容を復習し、テキスト第9章を読む。
第13回　これまでのまとめ	レポート課題に取り組む。これまでの内容を復習し、ノート整理をしながらテキスト序章～第9章の内容を確認する。
第14回　これからの家族　社会の変化・家族の変化	図表を見て客観的に理解する。これまでの内容を復習し、ノート整理をしながらテキスト序章～終章の内容を確認する。
第15回　まとめの講義	図表を見て客観的に理解する。これまでの内容を復習し、ノート整理をしながらテキスト序章～終章の内容を確認する。

■ 履修上の注意
出席を重視。私語は厳禁。指定されたテキストは講義で使用しますので必ず購入し持参してください。

■ 成績評価方法・基準
授業参加状況：提出物、授業態度（持ち物）、積極的に参加しているかなど：30%、小テスト：40%、レポート課題：30%
テスト、レポート等については授業中にフィードバックをします。解答例を配布する場合もあります。

■ 教科書
改訂　新しい家族関係学　　建帛社　　定価2300円+税

■ 参考書
講義時に指示する

■ 備考
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。
講義の順番や内容は前後する場合や変更する可能性があります。

家庭経営学（家庭経済学を含む。）

(11093)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　基幹科目
前　田　修　也

■ 授業の概要

家庭生活を取り巻く環境は大きく変化している。社会のあらゆる面における国際化、少子・高齢化、情報化などである。本講義では、このような変化に対応した家庭経営のあり方を、「家計」という視点から解説する。その中で、現代の日本経済が直面している諸問題を社会保障制度などの基礎知識を織り交ぜながら、国民経済の中の家庭経済の位置と役割や家庭経済の基礎である世帯の変化など家政学の基本的視点を講義する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・現代の日本経済が直面している諸問題を理解することができる	0.4　0.6
・社会保障制度などの基礎的知識を獲得することができる	
・家政学の基本的視点を理解することができる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：講義内容についての概要の説明	1回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第２回　家庭経済とは何か①（家庭の経済活動）	2回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第３回　家庭経済とは何か②（家庭経済の特質）	3回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第４回　国民経済の中の家庭経済①（家庭経済と国民経済との関係）	4回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第５回　国民経済の中の家庭経済②（国民経済における家庭経済の収支）	5回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第６回　国民経済の中の家庭経済③（家庭経済の経済活動と国民経済）	6回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第７回　家庭経済の基礎としての世帯①（世帯規模と世帯構造の変動）	7回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第８回　家庭経済の基礎としての世帯②（核家族化）	8回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第９回　家庭経済の基礎としての世帯③（少子高齢化）	9回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第10回　収支と支出①（世帯の所得）	10回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第11回　収支と支出②（世帯の消費構造）	11回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第12回　収支と支出③（消費支出に影響を与える要因）	12回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第13回　物価①（物価とは何か）	13回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後

	）
第14回　物価②（消費者物価指数の見方）	14回目の授業内容に関して教科書をよく読んでおく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）
第15回　振り返り	振返りの授業内容に関してノートを中心にまとめておく（事前）ノートを充実させる工夫をする（事後）

■ 履修上の注意
私語を慎み、授業への積極的な参加を望みます。

■ 成績評価方法・基準
おおむね、振り返り（40%）、ノートの内容（30%）とレポートの内容（30%）で評価します。それぞれフィードバックを行います。

■ 教科書
〔一番わかりやすい日本経済入門〕〔塚崎公義〕〔河出書房新社〕〔902円〕

■ 参考書
毎回授業で提示します

■ 備考
オフィスアワーに関しては、開講時に話します。

服 飾 文 化 専 攻 科 目

消費生活論

(11101)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

私たちは，誰もが「消費者」である。さまざまな商品やサービスを購入し，それらを利用（消費）し，暮らしている。そうしたなか「経済的に効率良く，地球環境にも配慮し，暮らしていくためには，合理的な意思決定を行うための智慧（消費者力）が求められる。

本講義では，消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かし，消費者問題の歴史的変遷を解説するともに，消費者・行政・企業の事例研究を通じて「現代社会を生きていくために知っておくべきこと，暮らしに役立つこと（消費者力）」の修得をめざしている。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1)現代社会に欠かせない智慧として，消費者問題を理解できる	0.4　0.6
・2)全ての人に関わる問題と認識し，消費者問題を説明できる	
・3)今後の消費者・行政・企業のあるべき姿について説明できる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テーマ：授業のすすめ方・評価，消費者力の説明 概　要：現代社会を生きていくための智慧とは？	授業計画やテキストなどを参考にして，予習すること。 講義ノートを読み直し，学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第２回　テーマ：消費者政策の歴史 概　要：消費者保護基本法から消費者基本法へ転換した理由は？	同　上
第３回　テーマ：消費者政策の理念と歴史 概　要：消費者の４つの権利から6つの権利へ発展した理由は？	「消費者の４つの権利」と「消費者の6つの権利」についてA4用紙2枚（1，600字以上）のレポートにまとめ提出。
第４回　テーマ：消費者行政と消費者関係法 概　要：消費者に役立つ様々な法律を学ぶ	同　上
第５回　テーマ：消費生活の安全の確保 概　要：消費生活相談員の役割を学ぶ	同　上
第６回　テーマ：広告・表示の適正化 概　要：景品表示法関連法令と事例について学ぶ	インターネット取引における広告・表示規制について調べ，A4用紙2枚（1，600字以上）のレポートにまとめ提出。
第７回　テーマ：消費者契約の適正化 概　要：消費者契約法と重要説明事項を学ぶ	同　上
第８回　テーマ：企業と業界団体の責務 概　要：消費者・顧客志向の経営を学ぶ	同　上
第９回　テーマ：消費者対応部門の役割と機能 概　要：企業の消費者対応を学ぶ	東北地域の企業・業界団体の消費者対応を調べ，その概要をまとめるとともに，その取り組みに対する所感についてA4用紙2枚（1，600字以上）のレポートを作成し，提出。ただし，取り上げる企業・業界団体は3社以上とする。
第10回　テーマ：業界団体の消費者対応 概　要：通販110番や訪問販売110番などの事例について学ぶ	同　上
第11回　テーマ：消費者教育 概　要：国民生活センターや日本消費者協会を事例について学ぶ	「現代社会を生きていくために知っておくべきこと，暮らしに役立つこと」の視点から，これまでの授業のなかで，最も印象に残ったことについて要約し，考察を加え，A4用紙2枚（1，600字以上）のレポートにまとめ提出。
第12回　テーマ：消費生活における情報の重要性 概　要：合理的な意思決定とは?	同　上
第13回　テーマ：消費生活情報の現況Ⅰ 概　要：暮らしに役立つ情報を見極めるには?	同　上

第14回	テーマ：消費生活情報の現況Ⅱ 概　要：賢い消費行動の実践に向けて	同　上
第15回	テーマ：まとめ 概　要：消費者力検定の紹介	同　上

■ 履修上の注意

2/3以上の出席がない場合には，単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)に基づき評価する。

成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問，グループワークでのリーダーシップなど]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。

なお，課題については，授業中にフィードバックをします。

※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔消費生活論〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔1600円〕

■ 参考書

授業中に適宜指示します。

■ 備考

【事前もしくは同時に受講して欲しい講義】

「キャリアサポートⅠ」「キャリア開発Ⅱ」

【質問・相談など】

質問や相談などは，授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。

【重要事項説明】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，オンデマンドやハイブリッド型授業などの代替措置を講じるほか，授業の順番　や内容を変更することがありますので，ご承知おき下さい。

社会福祉論

(11102)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
伊　藤　常　久

■ 授業の概要
国民が健康で自立した安心できる生活を送ることができるよう支援することは、社会福祉の目的の一つである。講義では、日本や諸外国における社会福祉の歴史と発展について取り上げながら、社会福祉の理念や考え方について紹介する。また、少子高齢化が一層進みつつある我が国の高齢者や児童、障害者等に対する社会福祉の仕組み（法・制度）や現状と合わせ、現在生じているさまざまな課題等について、私たちの生活と関連付けて解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・社会福祉の理念や概念に関する知識を身につける。 ・社会福祉に関連する法・制度に関する知識を身につける。 ・社会福祉の現状や課題について考える力を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：授業の説明、アンケート、社会福祉とは	配布プリントをよく読み、この授業で学習内容をまとめておく（次回確認）。
第２回　日本における社会福祉の歴史と発展	配布プリントをよく読み、日本の社会福祉の歴史と主な制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第３回　諸外国における社会福祉の歴史	配布プリントをよく読み、諸外国における社会福祉の歴史と主な制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第４回　諸外国における社会福祉の現状とその制度（VTR）	社会福祉に関するVTRの内容をまとめ、感想と共に次回提出する。
第５回　社会福祉のニーズとは	配布プリントをよく読み、ニーズについて内容をまとめておく（次回確認）。
第６回　社会福祉に携わる専門職	配布プリントをよく読み、専門職について内容をまとめておく（次回確認）。
第７回　ボランティア	配布プリントをよく読み、ボランティアの概念や歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第８回　社会福祉援助技術	配布プリントをよく読み、援助技術の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第９回　障害者福祉①概念とその歴史	配布プリントをよく読み、障害者福祉の概念と歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回　障害者福祉②身体障害者補助犬法	配布プリントをよく読み、身体障害者補助犬法の経緯と現状について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回　高齢者福祉	配布プリントをよく読み、介護を含む高齢者福祉の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第12回　児童福祉	配布プリントをよく読み、児童福祉の歴史と枠組について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回　子どもの権利条約	配布プリントをよく読み、子どもの権利条約について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回　貧困問題と社会福祉	配布プリントをよく読み、貧困とその課題について内容をまとめておく（次回確認）。
第15回　これからの社会福祉、まとめ、授業評価アンケート	配布プリントをよく読み、社会福祉の展望及びこれまでの講義内容の振り返りを行う。
第16回　試験	筆記試験に向けた復習を行う。

■ 履修上の注意
・遅刻・欠席はしないこと。

・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準
・期末試験（70%）、平常点（30%）：受講態度（ミニットペーパーの回答内容並びに提出、授業での発言等）。
・ミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

■ 教科書
〔新 社会福祉とは何か〕〔大久保秀子著〕〔中央法規〕〔1650円〕

■ 参考書
・資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

地域文化論

(11103)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
栗　原　伸一郎

■ 授業の概要

本学が立地している仙台や東北といった地域に注目し、江戸時代から現代までの歴史・文化についてみていくことで、自分たちが立脚する地域の特徴や形成過程を確認する。具体的には、城下町・仙台および都市・仙台の成り立ちや、江戸時代の仙台人が認識した「日本」内外の政治・社会・文化の特徴、近世近代移行期の「東北」地方をめぐる地域内外の動き、などについて教授する。また、地域の歴史・文化を次代に継承していく方法や活動について紹介する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・①仙台や東北の歴史・文化について理解できる。	0.4	0.4							0.2
・②地域の歴史・文化を継承していく活動について理解できる。									
・③上記について関心を持ち、その意味を考える。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス～講義の概要～	配布プリントを再読し、授業の方向性について理解を深める。
第２回　仙台の歴史・文化①伊達政宗の生涯	配布プリントを再読し、書籍などで政宗について調べる。
第３回　仙台の歴史・文化②仙台城	配布プリントを再読し、仙台城址を見学する。
第４回　仙台の歴史・文化③城下町・仙台	配布プリントを再読し、旧仙台城下（市内中心部）を散策する。
第５回　仙台の歴史・文化④杜の都・仙台	配布プリントを再読し、『仙台市史』などの書籍に目を通す。
第６回　仙台藩士の異文化体験①蝦夷地	配布プリントを再読し、蝦夷地について書籍などで調べる。
第７回　仙台藩士の異文化体験②アメリカ	配布プリントを再読し、幕末期の対外関係について書籍などで調べる。
第８回　仙台藩士の異文化体験③アメリカと日本	配布プリントを再読し、『仙台市史』などの書籍に目を通す。
第９回　可変的な地域①江戸時代の東北	配布プリントを再読し、地元にあった藩を調べてみる。
第10回　可変的な地域②幕末維新期の東北	配布プリントを再読し、『仙台市史』などの書籍に目を通す。
第11回　可変的な地域③近代の東北・仙台	配布プリントを再読し、本学が立地する行政区域の変遷を調べる。
第12回　地域の歴史・文化の継承①歴史資料の現在	配布プリントを再読し、自分の出身地にある「歴史資料」「文化財」について調べてみる。
第13回　地域の歴史・文化の継承②ＮＰＯと資料保存	配布プリントを再読し、現在住んでいる地域にある「歴史資料」「文化財」について調べてみる。
第14回　地域の歴史・文化の継承③災害と資料保存	配布プリントを再読し、インターネットなどで、災害と資料保存をめぐる現状を調べる。
第15回　地域の歴史・文化の継承④公文書と資料保存	配布プリントを再読し、宮城県公文書館に出向き、実物を読んでみる。
第16回　試験	試験問題は事前に発表するので、準備をしておくこと。

■ 履修上の注意

歴史Ⅰと歴史Ⅱは、この講義と関連し、理解する上で参考になる。講義の進展状況等によっては、内容を一部変更する場合がある。

■ 成績評価方法・基準

平常点（毎回記入するミニットペーパーの内容で受講の姿勢や理解度を判断する）30%

期末試験（形式は事前に発表する）70%
ミニットペーパーで示された有用な意見や質問、模範的な記入例などについては、適宜講義で取り上げて解説する。

■ 教科書
毎回プリントを配布する。

■ 参考書
『仙台市史』（通史編）。その他は講義中に紹介する。

■ 備考
質問等は授業終了時に受け付ける。試験はレポートになる場合がある。

美術史Ⅰ

(11104)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
瀬　戸　典　彦

■ 授業の概要

①ヴィレンドルフのビーナスから近代に至る西洋美術史の過程に触れ、個々の作品の社会的背景及び作品間の関連性について教授する。②それぞれの受講生が穴埋めと補修によって完成させる「つくる美術史のテキスト」と「美術史脳を刺激する曖昧な絵-クイズ集」、「美術史脳を刺激する曖昧な絵-解答・解説集」を用い理解の深化を図る。③西洋の美術史おけるオリジナリティーと多様性の意味と価値について考察を促す。④作品と作品、美術家と美術家の関係性の中で歴史の脈絡が形成され、その流れの中で価値が構築されることを示唆する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・19世紀までの西洋美術史の脈絡について、自分の言葉で説明できる。	0.6 0.4
・作品間、美術家間の関係を説明できる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　美術史における「個人」について	「つくる美術史のテキスト」による予習
第２回　古代メソポタミア文明以前の美術	「クイズ集」、「解答・解説集」1~9復習
第３回　古代エジプト文明の美術	「クイズ集」、「解答・解説集」10~13復習
第４回　古代ギリシャ文明化からヘレニズム時代の美術	「クイズ集」、「解答・解説集」14~23復習
第５回　エトルリア美術から初期キリスト教美術	「クイズ集」、「解答・解説集」24~28復習
第６回　ビザンティン美術	「クイズ集」、「解答・解説集」29~31復習
第７回　初期中世美術	「クイズ集」、「解答・解説集」32~35復習
第８回　中間テスト	中間テストの復習
第９回　ロマネスク・ゴシックの美術	「クイズ集」、「解答・解説集」36~40復習
第10回　ルネッサンス	「クイズ集」、「解答・解説集」41~47復習
第11回　盛期ルネッサンスとベネチア派	クイズ集」、「解答・解説集」48~53復習
第12回　マニエリスムから北方ルネッサンス	「クイズ集」、「解答・解説集」54~59復習
第13回　バロック・ロココ	「クイズ集」、「解答・解説集」60~65復習
第14回　新古典主義・ロマン主義・写実主義の美術	「クイズ集」、「解答・解説集」66~69復習
第15回　産業革命と美術	「クイズ集」、「解答・解説集」70~74復習
第16回　試験	テキスト、参考書を用いて自己採点

■ 履修上の注意

毎回、クイズ／レポートを課す。
中間テスト、期末テストを行う。

■ 成績評価方法・基準

中間テスト：20%（フィードバックを行う。）　期末テスト：70%　　クイズ・レポート提出：10%（フィードバックを行う。）
期末テストでは、以下の得点調整を行う。
「つくる美術史のテキスト」を参照し受験した場合：得点の0.8倍とする。
参照なし受験の場合：得点の1.2倍とする。

■ 教科書

〔つくる美術史のテキスト〕〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕

■ 参考書

〔美術史脳を刺激する曖昧な絵-クイズ集〕〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕
〔美術史脳を刺激する曖昧な絵-解答・解説〕〔瀬戸典彦〕〔自費出版〕〔無料〕

■ 備考

オフィスアワー：2時間/１週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する）
コロナウィルス感染拡大等の影響により当該シラバスに沿った授業の継続が困難となった場合は、シラバスを変更する。

美術史Ⅱ

(11105)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
瀬　戸　典　彦

■ 授業の概要
①縄文土器から浮世絵に至る日本美術史の過程に触れ、個々の作品の社会的背景及び作品間の関連性について教授する。②仏教美術の概要に触れ、日本美術への影響について理解を促す。③釈迦の思想と仏教美術の関係に触れ、仏教思想の体現としての仏教美術のあり方について考察を促す。④それぞれの受講生が穴埋めと補修によって完成させるワークシートとクイズ、解答例を用い理解の深化を図る。⑤日本の美術史おける変化の背景について考察を促す。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・日本美術史の流れについて説明できる。	0.6	0.4							
・東洋美術史と日本美術史の関係について説明できる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション：縄文人が築いたもの　弥生人が築いたもの	ワークシート作成
第２回　縄文時代	クイズ（解答例）1から12復習
第３回　弥生時代・古墳時代の美術	クイズ（解答例）13から24復習
第４回　仏教、仏像について	クイズ（解答例）25から30復習
第５回　飛鳥時代の美術	クイズ（解答例）31から45復習
第６回　奈良（白凰）時代の美術	クイズ（解答例）46から52復習
第７回　奈良（天平）時代の美術１（塑像等）	クイズ（解答例）53から81復習
第８回　中間テスト	中間テスト復習
第９回　奈良（天平）時代の美術２（乾漆像等）	クイズ（解答例）82から103復習
第10回　密教美術1（仏像）	クイズ（解答例）104から116復習
第11回　密教美術2（曼荼羅）	クイズ（解答例）117から119復習
第12回　平安時代の美術（立体）	クイズ（解答例）120から132復習
第13回　平安時代の美術（平面）	クイズ（解答例）133から151復習
第14回　鎌倉時代・南北朝時代・室町時代の美術	クイズ（解答例）152から157復習
第15回　桃山・江戸時代以降の美術	クイズ（解答例）158から162復習
第16回　試験	ワークシート、配布資料を用いて自己採点

■ 履修上の注意
毎回、クイズを課す。（レポートについては3回）
中間テスト、期末テストを行う。

■ 成績評価方法・基準
中間テスト：20%（フィードバックを行う。）　期末テスト：70%　　クイズ・レポート提出：10%（フィードバックを行う。）
期末テストでは、以下の得点調整を行う。
「つくる美術史のテキスト」を参照し受験した場合：得点の0.8倍とする。
参照なし受験の場合：得点の1.2倍とする。

■ 教科書
〔つくる美術史のテキスト 日本・東洋編〕〔瀬戸典彦〕〔自費製作〕〔無料〕

■ 参考書
〔つくる美術史のテキスト-クイズ集　日本・東洋編〕〔瀬戸典彦〕〔自費製作〕〔無料〕

■ 備考
オフィスアワー：2時間/１週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する。）
コロナウィルス感染拡大等の影響により当該シラバスに沿った授業の継続が困難となった場合は、シラバスを変更する。

被服学

(11106)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
菊　地　紗　代

■ 授業の概要

被服は人間の生活に大きな役割を果たしてきた。私たちを取り巻く社会環境は変化していくため，対応できるように被服について考えていく必要がある。そこで本講義では，健康・安全・快適性をキーワードに衣生活について概説する。人間の着用を中心におきながら，社会性，素材，品質と管理について取り上げる。さらに，消費，環境についても触れ，これからの衣生活を向上させるために必要な知識を習得させ，実践能力が高められるよう指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・衣服の機能について理解できる。	0.2	0.2	0.4					0.1	0.1
・社会と被服の関係について理解できる。									
・環境に配慮した衣生活を送るために必要な知識を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　被服学とは，人はなぜ装うのか	装いの機能についてまとめる。
第２回　気候風土と装い	民族服についてまとめる。
第３回　衣服のかたちの変遷①洋装	洋装についてまとめる。
第４回　衣服のかたちの変遷②和装	和装についてまとめる。
第５回　装いと健康	快適性についてまとめる。
第６回　装いによる気候調節	温度調節についてまとめる。
第７回　動きやすさと衣服	動きやすさについてまとめる。
第８回　衣服の素材	素材についてまとめる。
第９回　衣服の加工，品質	性能・加工，表示についてまとめる。
第10回　衣服の管理	洗濯，管理についてまとめる。
第11回　人の成長とからだつき，アパレル産業と既製服	体型，既製服についてまとめる。
第12回　装いのコミュニケーション	色，流行，個性についてまとめる。
第13回　ユニバーサルデザインと装い	ユニバーサルデザインについてまとめる。
第14回　装いと生活環境	再利用についてまとめる。
第15回　まとめ	レポートを作成する。

■ 履修上の注意

遅刻・欠席をしないこと。日頃から被服に関することに興味関心を持つこと。

■ 成績評価方法・基準

提出物（ワークシート・レポート）60%，受講状況(ミニットペーパー等)40%で評価する。
未提出がある場合は評価対象としないことがある。）
課題・提出物は個別指導時、または後日添削してフィードバックする。

■ 教科書

〔ビジュアル衣生活論〕〔岡田宣子編著〕〔建帛社〕〔2，530円〕

■ 参考書

無し（適宜，プリントを配布する）

■ 備考

ルーブリック評価については，第一回目の授業で説明する。
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

色彩学

(11107)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
内　海　陽　子

■ 授業の概要
色彩の基本理論、知識を学び、色彩に関わる諸問題を調整・解決するための色のスペシャリスト
ファッションコーディネート色彩能力検定3級受験に対応できる理論の習得を目的としており、色彩の基礎知識を身につける。
アパレルを中心としたファッションビジネスシーンで活躍できる基礎知識を教授する。
当講義では、大手アパレルメーカーで、年間３０億円以上の商品バイイングマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在も、ファッション業界で多岐に渡って、活動している講師が担当する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・6月に行われるAFT色彩能力検定3級合格の実力をつける	0.2	0.2	0.4					0.1	0.1

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　光と色・色彩心理	教科書P10～30を熟読し練習問題を学習する
第２回　色の表示①　色の分類と三属性　PCCS 言葉による色表示	教科書P33～68を熟読し練習問題を学習する
第３回　色彩効果と生活・ファッションと色彩	教科書P104～115を熟読し練習問題を学習する
第４回　インテリアと色彩・色の見え方と色覚の仕組み	教科書P118～125を熟読し練習問題を学習する
第５回　色彩調和①配色の基本的な考え方　色相から配色を考える	教科書P70～83を熟読し練習問題を学習する
第６回　色彩調和②トーンから配色を考える	教科書P84～102を熟読し練習問題を学習する
第７回　AFTの色彩能力検定3級の試験対策	練習問題を学習する
第８回　AFTの色彩能力検定3級の試験対策　過去問題集	練習問題を学習する
第９回　さまざまな色覚タイプや高齢者の色の見え方	教科書P6～30を熟読し練習問題を学習する
第10回　色彩調和③配色カード演習　色相から調和を考える	教科書P70～83を熟読し配色演習を実施する
第11回　色彩調和④配色カード演習　トーンから調和を考える	教科書P84～102を熟読し配色演習を実施する
第12回　色彩調和⑤配色カード演習　アクセントカラー	教科書P92～102を熟読し配色演習に取り組む
第13回　色彩調和⑥配色カード演習　グラデーション	教科書P96～102を熟読し配色演習に取り組む
第14回　色彩の効果	配色演習に取り組む
第15回　色彩の応用	配色演習に取り組み

■ 履修上の注意
事前に教科書を熟読し、配布する練習問題を十分に学習してくること

■ 成績評価方法・基準
課題レポート（50%）事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）で総合評価
提出された課題レポートは後日フィードバックする。

■ 教科書
〔色彩検定　公式テキスト3級編〕〔公益社団法人　色彩検定協会〕〔2，420円〕

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については、授業終了後受け付ける。

日本服装史

(11108)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子

■ 授業の概要

縄文時代から近代までの日本人の生活と服装の変遷について概説する。その際、服飾関連資料だけでなく、絵画・彫刻・文学・法令等と関連付けて読み取ることで、それぞれの時代の日本人の装いについて理解を深められるようにする。また、美術館・博物館等での学外研修や、本学資料室所蔵資料を使っての学習、図書館での調査等を随時取り入れることで、歴史資料や服飾関連資料についての見る目を養い、それらについて考察する能力を身に付けさせる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・日本人の生活と服装の変遷について理解できる。	0.225 0.225 0.55
・図像資料や文字資料について考察できる能力を身につける。	
・日本文化について理解を深める。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション、原始衣服の時代1（縄文時代）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第２回　原始衣服の時代2（弥生時代）、胡服の時代1（古墳時代）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第３回　胡服の時代2（飛鳥時代）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第４回　唐風服飾時代（奈良時代）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第５回　唐風から国風の服装へ（平安時代）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第６回　貴族と武家の服装（中古・中世）	ワークシートの完成、学外研修の事前調査
第７回　学外研修：博物館・美術館等での研修	研修レポートの作成、次回キーワードの調査、教科書p. 8～p. 11、p. 16～p. 19を熟読
第８回　小袖の変遷（中古・中世）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査、教科書p. 12～p. 13、p. 26～p. 33を熟読
第９回　庶民の服飾（中世～近世初頭）	ワークシートの完成
第10回　クイズ	クイズの振り返り、次回キーワードの調査、教科書p. 34～p. 39、p. 105～p. 107を熟読
第11回　近世の服装1（安土桃山時代～江戸時代初期）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査、教科書p. 40～p. 53、p. 108、p. 122～p. 123を熟読
第12回　近世の服装2（小袖雛形と流行）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査、教科書p. 54～p. 75、p. 109を熟読
第13回　近世の服装3（身分と美意識）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査、教科書p. 14～p. 15、p. 20～p. 23、p. 76～87を熟読
第14回　近代の服装1（明治時代）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査、教科書p. 88～p. 103を熟読
第15回　近代の服装2（大正～昭和時代）	ワークシートの完成、試験の準備
第16回　試験	試験の振り返り、ワークシートまとめ

■ 履修上の注意

遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。学外研修の費用は自己負担とします。

■ 成績評価方法・基準

期末試験の評価を50%、研修レポートの評価を5%、履修状況（ミニットペーパー・参加状況等）による評価を45%として評価します。なおミニットペーパー・レポートを添削して後日返却することでフィードバックとします。

■ 教科書

〔ようこそきものの世界へ〕〔長崎巌〕〔東京美術〕〔2，420-〕

■ 参考書

〔日本服飾史辞典〕〔増田美子 他〕〔東京堂出版〕〔25，920-〕
〔日本の装束解剖図巻〕〔八条忠基〕〔エクスナレッジ〕〔1，760-〕

■ 備考

博物館・美術館等の展示内容・展示期間により、シラバスの順番が前後することがあります。また、質問等は、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）時に受け付けます。

西洋服装史

(11109)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 15）
対象学科：服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
何　　水　蘭

■ 授業の概要

服飾流行（ファッション）はその時代を生きる人々の社会・文化的背景を映す鏡であり、人類の進歩と共に変化し続けている。本講義は、各時代の基本的な着装などに関する知識と技術を教授する。歴史資料を使ってファッションデザインで表現できる能力を学生たちに身につける。さらに、現代の服飾文化のスタンダードである西洋式服飾文化の歴史的な背景を教授し、今日の服飾意識がどのように形成されてきたかを考えさせる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・西洋各時代の社会・文化背景とともに、服飾文化の変遷について理解する。 ・西洋各時代の図像資料や文字資料をもとに服飾文化の特徴を捉える。 ・西洋服飾史を学び、現代の社会・文化と服飾の関係について理解を深める。	0.3　0.2　0.5

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション、西洋服飾文化史の概要　－　服飾の起源	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第２回　古代の服飾　－　オリエント・ギリシャとローマの服飾	ワークシートの作成、次回キーワードの調査
第３回　中世後期の服飾　－　5～10世紀と11～12世紀の服飾	ワークシートの作成、次回キーワードの調査
第４回　13～15世紀の服飾　－　イタリア・ルネサンスの精華	ワークシートの作成、次回キーワードの調査
第５回　16世紀の服飾	ワークシートの作成、次回キーワードの調査
第６回　17世紀の服飾	ワークシートの作成、次回キーワードの調査
第７回　18世紀の服飾	ワークシートの作成、次回キーワードの調査
第８回　19世紀の服飾　－　1789年から1848年までの服飾	ワークシートの作成、次回キーワードの調査
第９回　19世紀の服飾　－　1848年から1900年までの服飾	ワークシートの作成、次回キーワードの調査
第10回　20世紀の服飾　－　1900年から1920年代の服飾	ワークシートの作成、次回キーワードの調査
第11回　20世紀の服飾　－　1930年から1945年までの服飾	ワークシートの作成、次回キーワードの調査
第12回　第二次世界大戦後　－　1945年から1970年代の服飾	ワークシートの作成、次回キーワードの調査
第13回　第二次世界大戦後　－　1970年から2000年代の服飾	ワークシートのまとめ
第14回　グループワーク（プレゼンテーション準備）	各自でプレゼン準備を進める、質問回答
第15回　試験：プレゼンテーション	プレゼンテーションの反省、ファイルまとめ

■ 履修上の注意

遅刻・欠席をしないこと。学外研修を実施することがあります。費用は自己負担とします。

■ 成績評価方法・基準

受講態度(授業への参加状況[発言、質問等])20%、単元ごとに提出する研究課題40%、プレゼンテーション・レポートによる評価を40%として評価する。

■ 教科書

授業前にプリントを配布します。

■ 参考書

課題内容に応じて紹介する。

■ 備考

質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

染織文化史

(11110)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子

■ 授業の概要

原始から現代までの日本における染織技術について、服飾関連資料・染織関連資料・絵画・文書等と関連付けて読み取りながら、日本が世界に誇る染織技術について概説する。さらに、東北地方の伝統的な染織技術や衣服素材、その歴史についても取り上げることで地域の服飾文化についても理解を促す。また、歴史資料や服飾・染織関連資料を目にするために、博物館・美術館・図書館・本学資料室における研修を随時取り入れることで、染織文化についての理解を深めさせる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・染織技法や染織品の変遷について理解できる。	
・図像資料や染織資料から衣生活やそれを作り出した技術を考察できる。	
・日本の文化について理解を深める。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　①オリエンテーション ②原始の染織	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第２回　上代の染織1（古墳時代～飛鳥時代）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第３回　上代の染織2（奈良時代）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第４回　中古の染織	ワークシートの完成、学外研修の事前調査
第５回　学外研修：博物館・美術館・関連企業等での研修 （コロナウイルス等、都合により行えない場合は学内での研修に変更します）	研修レポートの作成、次回キーワードの調査
第６回　中世の染織	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第７回　近世の染織1（安土桃山時代～江戸前期）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第８回　近世の染織2（江戸中期～江戸末期）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第９回　近代の伝統染織1（明治時代～大正時代）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第10回　近代の伝統染織2（昭和時代）	ワークシートの完成、学外研修の事前調査
第11回　学外研修：博物館・美術館・関連企業等での研修 （コロナウイルス等、都合により行えない場合は学内での研修に変更します）	研修レポートの作成、次回キーワードの調査
第12回　東北の伝統染織1（北東北の染織）	ワークシートの完成、次回キーワードの調査
第13回　東北の伝統染織2（南東北の染織）	ワークシートの完成、学内研修の事前準備
第14回　染織技法と文様の変遷のまとめ（図書館での研修）	研修レポートの作成、学内研修の事前準備
第15回　①本学資料室での研修 ②授業のまとめ	研修レポートの作成、これまでに提出したレポートの修正

■ 履修上の注意

遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。学外研修の費用は各自で負担していただきます。

■ 成績評価方法・基準

提出物（ワークシートやレポート等）による評価を55%、受講状況（ミニットペーパー・参加状況）を45%として評価します。なお、提出物やミニットペーパーは添削して後日返却します。

■ 教科書

〔きものと裂のことば案内〕〔長崎巌〕〔小学館〕〔1，944-〕

■ 参考書

〔日本服飾史辞典〕〔増田美子 他〕〔東京堂出版〕〔25，920-〕

■ 備考

博物館・美術館等の展示内容、関連企業の受け入れ状況により、シラバスの順番が前後することがあります。また、質問等は、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）時に受け付けます。

染織文化演習

(11111)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（15 + 30）
対象学科：服専４年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子

■ 授業の概要

日本の染織技術は、日本各地の風土や人々からの需要により発展したものであり、その繊細で高度な技術は世界に類を見ないものである。本演習では、古くから行われた伝統染織の基本的な方法について実習を取り入れながら概説する。特に、東北地方において行われた植物染料による染色・特徴的な文様染め・刺し子について取り上げることで、厳しい生活条件にありながらもできる限り美しいものを身につけようとしていた東北地方の先人達の知恵と工夫についても理解を深めさせる。また、伝統染色を現代に生かす方法についても考察する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・日本の伝統的染織文化（特に東北地方の伝統染織）について理解できる。 ・伝統的な染織技法の基礎を習得する。 ・伝統的な染織を現代の生活に応用できる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　①オリエンテーション ②藍染めについて、染色の準備	板書内容を復習し、配布プリントを熟読する
第２回　①藍と日本人 ②藍染めの方法	①板書内容の復習、藍についての文献調査 ②染色方法を理解する
第３回　藍染めによる小作品制作	制作ノートを記入し、レポートを作成する
第４回　仙台と染色（常盤紺型について）	板書内容の復習、文様についての文献調査
第５回　常盤紺型文様の小作品制作（型彫り）	制作ノートを記入し、型紙を完成させる
第６回　常盤紺型文様の小作品制作（抜染）	制作ノートを記入し、レポートを作成する
第７回　刺し子について	板書内容の復習、刺し子についての文献調査
第８回　刺し子による小作品制作①（準備を含む）	制作ノートを記入し、制作を進める
第９回　刺し子による小作品制作②（仕上げまで）	制作ノートを記入し、レポートを作成する
第10回　日本の赤	板書内容の復習、赤色系植物染料についての文献調査
第11回　茜染めの準備	制作ノートを記入し、染色方法を理解する
第12回　茜染めによる小作品制作	制作ノートを記入し、レポートを作成する
第13回　伝統染色を現代に生かす	板書内容の復習、伝統染色を現代に生かしたモノづくりについて考える
第14回　学外研修①：仙台市内の染色工場にて （コロナウイルス等、都合により行えない場合は学内での作品制作に変更）	研修レポートを作成する
第15回　学外研修②：仙台市内の染色工場にて （コロナウイルス等、都合により行えない場合は学内での作品制作に変更）	研修レポートを作成する
第16回　授業のまとめ	レポートの不備を修正する

■ 履修上の注意

染織文化史を履修することが望ましい。遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。時間内に進められなかった箇所は次回までに必ず行ってください。制作ノートはその都度きちんとまとめてください。材料費として2，000円程度を徴収します。学外研修の費用は各自で負担いただきます。

■ 成績評価方法・基準

学習成果を記したレポート・制作ノートによる評価を55%、提出作品による評価を45%として評価します。なお、レポートや制作ノートにコメントを付して後日返却することでフィードバックとします。

■ 教科書

プリントを配布します。

■ 参考書
その都度指示します。

■ 備考
　ルーブリックを授業初回に配布するので、学習目標としてください。染料の準備状況や受講生の進度、研修先の受け入れ状況によりシラバス内容が前後する事があります。質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

被服機構・衛生学

(11112)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
久　慈　るみ子

■ 授業の概要
衣服は常に人の皮膚表面を覆う最も身近な環境で、しかも皮膚と接触するものであることから、人の生理・心理・健康に大きな影響を及ぼす。そこで衣服のあり方を人体の生理衛生、運動機能の視点から理解し、健康に適した衣服とはどのような条件を備えたものであるか学修する。また機能性衣服についても、そのメカニズムを理解する。授業ではディスカッションやグループワークを交え日常生活に活かせる衣服の基礎から進化する衣服までを教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・人体の生理・運動機能の基礎知識を身につけることができる。	0.15		0.4	0.15	0.15			0.15	
・衣服素材・構造・機能性を理解し、的確な選択ができる。									
・ライフステージを考慮した選択と着装ができる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　環境としての被服	事前：シラバスに目を通し授業の概要を把握する。事後：ノートを整理する。
第２回　気候と体温、体熱産生と体熱放散	事前:資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第３回　暑さ・寒さと体温調節	事前:資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第４回　被服の気候調節能力：被服材料	事前:資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第５回　被服の気候調節能力：着衣の熱抵抗	事前:資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第６回　被服の気候調節能力：着衣の蒸発抵抗	事前:資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第７回　運動への適応：人体構造と動作機能	事前:資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第８回　運動への適応：衣服圧の発生要因と人体への影響	事前:資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第９回　運動への適応について、グループディスカッションを通して理解を深める	事前:これまでのノートを確認する。事後：ディスカッションの内容をまとめる。
第10回　皮膚の生理・衛生	事前:資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第11回　衣服の安全性（衣料障害）	事前:資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第12回　進化する衣服：寒冷対策・暑熱対策	事前:資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第13回　高齢社会における衣服	事前:資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第14回　子供服	事前:資料プリントを見て、わからないことを調べる。事後：ノートを整理し要点をまとめる。
第15回　衣生活と環境についてグループディスカッションを行う	事前:これまでのノートを確認する。事後：ディスカッションの内容をまとめる。
第16回　試験と解説	

■ 履修上の注意
配布された資料は毎回持参してください。

■ 成績評価方法・基準
健康で快適な衣服について理解し日常生活へ応用できること。それを自分の言葉で説明できることを評価の基準とします。
期末試験（70%）、授業、ディスカッションへの参加度（30%）。試験後、解説を行う。

■ 教科書
授業前にプリントを配布します。

■ 参考書
〔衣環境の科学〕〔田村照子編〕〔建帛社〕他、授業内で指示します。

■ 備考
授業終了後（オフィスアワー）。質問はミニッツペーパーに記入し、提出してください。次回授業の始めに解説します。
シラバスを変更する場合は、事前に説明する。

スタートアップソーイング (11113)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：服専1年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
菊　地　紗　代

■ 授業の概要

被服造形分野に不可欠な基礎知識と，縫製技術の基礎・基本を習得させる。縫製に使われる用具，布地の扱い方，手縫いの基礎，ミシン・アイロンの使い方などについて教授する。布地と副資材の選び方では，仙台市内の店舗にて学外研修を実施する。課題制作は基礎的事項を重視した内容であり，縫製方法を正しく習得させ，応用展開につながる技術と実践力を身に付けさせる。オーダー・お直し，服飾教育現場に携わった講師が教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・服飾造形分野の基礎的知識と技術，実践力を身につける。	0.1		0.1		0.6		0.2		
・自己管理能力，論理観，課題解決能力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　被服製作の基礎知識，用具確認，基礎縫い準備	教科書に目を通す。基礎縫いの準備。
第2回　基礎縫い：手縫い①（並縫い，しつけ）	指定箇所まで作業を終わらせる。
第3回　〃　②（まつり）	指定箇所まで作業を終わらせる。
第4回　〃　③（留め具付け）	課題を完成させ，提出する。
第5回　ミシン縫い①（直線ミシン使い方）	指定箇所まで作業を終わらせる。
第6回　〃　②（縫い代始末，ロックミシン使い方）	課題を完成させ，提出する。
第7回　課題制作：ハーフパンツ・定規ケース作図，用布の見積もり	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第8回　布地，副資材の選び方（学外研修）	研修内容を見直す。
第9回　課題制作：型紙カット，地直し	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第10回　裁断，印付け	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第11回　本縫い①ハーフパンツ：脇，裾	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第12回　②　〃　股ぐり	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第13回　③　〃　ウエスト	課題・制作ノートを完成させ，提出する。
第14回　④定規ケース　提出	課題・制作ノートを完成させ，提出する。
第15回　試着，発表	全行程を振り返る。

■ 履修上の注意

遅刻・欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は，必ず次回までに終わらせておくこと。
授業に必要な裁縫用具一式を毎回持参すること。
作品保管用にハンガーを各自準備すること。
課題制作の材料費は各自負担。

■ 成績評価方法・基準

提出物60%，受講状況（作業状況，制作ノート）を40%として評価する。
未提出がある場合は評価対象としないことがある。
課題・提出物は個別指導時、または後日添削してフィードバックする。

■ 教科書

〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座① 服飾造形の基礎 文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔2，850円〕

■ 参考書

〔アパレル設計実習 アパレル生産実習〕〔日本衣料管理協会〕〔2，750円〕
〔誌上・パターン塾 Vol.3パンツ編〕〔文化出版局〕〔1，700円〕

■ 備考

演習内容や課題は，作業の進行状況等により，変更する場合がある。
ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

アパレル製図法Ⅰ（平面）

(11114)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：服専1年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
菊　地　紗　代

■ 授業の概要

人体とパターンの関係を理解させ，身頃のパターンの作図と展開法の基本理論を解説する。原型の作図，シーチングモデルの製作，試着，補正を通し，各自のサイズに合った原型を製作させる。標準寸法原型を用い，ダーツの移動・操作，衿ぐり・衿，袖などパーツ別に学修させ，各種デザインにパターン展開ができることを教授する。また，男子の原型について取り上げる。オーダー・お直し，服飾教育現場に携わった講師が指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・身頃原型を作図することができる。	0.1		0.1		0.6		0.2		
・身頃原型のダーツ移動・操作により，パターン展開できる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　身頃原型：作図　女子標準寸法（1/4）①基本線	指定箇所まで作業を終わらせる。復習する。
第2回　②輪郭線	課題を完成させ，提出する。復習する。
第3回　③袖／採寸	課題を完成させ，提出する。復習する。
第4回　男子標準寸法（1/4）	課題を完成させ，提出する。復習する。
第5回　各自サイズ（実寸）	課題を完成させ，提出する。復習する。
第6回　パターンカット，シーチング準備	指定箇所まで作業を終わらせる。
第7回　シーチング裁断，印入れ	指定箇所まで作業を終わらせる。
第8回　仮縫い①ダーツ・前端	指定箇所まで作業を終わらせる。
第9回　仮縫い②背中心・脇・裾・肩	指定箇所まで作業を終わらせる。
第10回　試着	指定箇所まで作業を終わらせる。
第11回　補正	課題を完成させ，提出する。復習する。
第12回　小テスト：身頃原型作図　女子標準寸法（1/4） ダーツの移動と分散①後ろ（1/4）	小テスト対策の学習をする。
第13回　ダーツの移動と分散②前（1/4）	課題を完成させ，提出する。復習する。
第14回　ブラウス身頃・衿（1/4）	課題を完成させ，提出する。復習する。
第15回　〃　袖／袖展開	課題を完成させ，提出する。復習する。

■ 履修上の注意

授業に必要な用具一式を毎回持参すること（定規一式・裁縫用具）。
クリアファイル、シャープペンシル（0.3，0.5㎜／各HB），鉛筆（HB），電卓，ハンガーを各自準備すること。
遅刻・欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は，必ず次回までに終わらせておくこと。

■ 成績評価方法・基準

提出物60%，受講状況（作業状況）20%，小テスト20%として評価する。
未提出がある場合は評価対象としないことがある。
課題・提出物は個別指導時、または後日添削してフィードバックする。

■ 教科書

〔アパレル設計実習 アパレル生産実習〕〔日本衣料管理協会〕〔2，750円〕

■ 参考書

〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座① 服飾造形の基礎 〕〔文化出版局〕〔2，805円〕
〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座③ブラウス・ワンピース〕〔文化出版局〕〔1，870円〕
プリント配布〔文化ファッション大系服飾造形講座⑨メンズウエアⅠ 〕〔文化出版局〕〔2，805円〕より

■ 備考

演習内容や課題は，作業の進行状況等により，変更する場合がある。
ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

アパレル製図法Ⅱ（応用）

(11115)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：服専1年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
菊　地　紗　代

■ 授業の概要

アパレル製図法Ⅰの原型作図・操作を踏まえ，各アイテムの作図法を総体的に学び，応用展開できる製図法の習得を目指す。スカートは，原型を基に各種デザインスカートへの展開方法を習得させる。パンツ・ワンピース・ジャケットは基本形を学修させ，それぞれのデザインに適した作図法を教授する。また，身頃原型の立体裁断を取り上げ，平面裁断との違いについて実習を通して理解を深めさせる。オーダー・お直し，服飾教育現場に携わった講師が指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・スカート原型を作図し，パターン展開することができる。	0.1		0.1		0.6		0.1		0.1
・各アイテムの基本パターンを作図することができる。									
・立体裁断と平面裁断の違いを理解することができる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　スカート原型：作図　標準寸法（1/4）	課題を完成させ，提出する。復習する。
第2回　〃　　自分サイズ（実物大）①	課題を完成させ，提出する。復習する。
第3回　〃　　自分サイズ（実物大）②訂正・カット スカート展開（1/4）①フレア	課題を完成させ，提出する。復習する。
第4回　〃　　②ゴアード ③ヨークスカート	課題を完成させ，提出する。復習する。
第5回　パンツ（1/4）	課題を完成させ，提出する。復習する。
第6回　ワンピース（1/4）①身頃・衿	指定箇所まで課題を終わらせる。復習する。
第7回　〃　　②袖	課題を完成させ，提出する。復習する。
第8回　ジャケット（1/4）①身頃	指定箇所まで課題を終わらせる。復習する。
第9回　〃　　②衿	指定箇所まで課題を終わらせる。復習する。
第10回　〃　　③袖	課題を完成させ，提出する。復習する。
第11回　子供服について 立体裁断（身頃原型）：準備	指定箇所まで作業を終わらせる。復習する。
第12回　ドレーピング①前	指定箇所まで作業を終わらせる。復習する。
第13回　〃　　②後ろ	指定箇所まで作業を終わらせる。復習する。
第14回　トレース	課題を完成させ，提出する。
第15回　まとめ	全行程を振り返る。

■ 履修上の注意

授業に必要な用具一式を毎回持参すること（定規一式・裁縫用具）。
シャープペンシル（0.3，0.5㎜／各HB），鉛筆（HB），電卓も各自準備のこと。
遅刻・欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は，必ず次回までに終わらせておくこと。

■ 成績評価方法・基準

提出物60%，受講状況（作業状況）20%，小テスト20%として評価する。
未提出がある場合は評価対象としないことがある。
課題・提出物は個別指導時、または後日添削してフィードバックする。

■ 教科書

〔アパレル設計実習 アパレル生産実習〕〔日本衣料管理協会〕〔2，750円〕

■ 参考書

〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座② スカート・パンツ 〕〔文化出版局〕〔1，870円〕
〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座③ブラウス・ワンピース〕〔文化出版局〕〔1，870円〕
プリント配布〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座④ジャケット・ベスト〕〔文化出版局〕〔1，870円〕より

■ 備考

演習内容や課題は，作業の進行状況等により，変更する場合がある。

ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

被服造形実習 I

(11116)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 30）
対象学科：服専２年
授業形態：実習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
菊　地　紗　代

■ 授業の概要

服飾造形に関する基本的な縫製知識・技術の習得を目指し，製作を通して衣服の基本的構造の理解を深めさせる。課題として綿素材のシャツブラウスを製作する。製図は，身頃原型のダーツ移動・操作を復習し、衿付き，半袖とする。採寸，デザインに合った布地の選択，裁断，印つけ，仮縫い・補正，布地・副資材の取り扱い，縫製方法などについて教授する。オーダー・お直し，服飾教育現場に携わった講師が指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・ブラウスの製図ができる。			0.2		0.6		0.2		
・基本的な縫製知識・技術を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ブラウスについて，採寸，製図(実寸)：①身頃	製図の復習をしておく。製図の提出。制作ノート作成。
第２回　②衿，袖／用布の見積	製図を完成させ，提出する。制作ノート作成。材料の準備。
第３回　製図：合印付け，パターンカット，表地：地直し	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第４回　表地・芯：裁断，芯貼り，印入れ	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第５回　仮縫い	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第６回　試着	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第７回　補正	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第８回　縫い代整理，衿・ポケット裁断，縫製工程確認	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第９回　本縫い①ダーツ，ポケット作り・ポケット付け	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第10回　②肩，衿作り	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第11回　③衿付け	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第12回　④脇，裾，袖作り	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第13回　⑤袖付け	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第14回　⑥ボタンホール，ボタン付け，仕上げ	課題・制作ノート完成させ，提出する。
第15回　試着，発表	全行程を振り返る。

■ 履修上の注意

裁縫用具一式を毎回持参すること。
第一回目の授業時に自分の原型を準備すること。
遅刻・欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は，必ず次回までに終わらせておくこと。
材料費は各自負担。

■ 成績評価方法・基準

提出物60%，受講状況（作業状況，制作ノート）を40%として評価する。
未提出がある場合は評価対象としないことがある。
課題・提出物は個別指導時、または後日添削してフィードバックする。

■ 教科書
〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座③ ブラウス・ワンピース 文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔1，870円〕

■ 参考書
〔アパレル設計実習 アパレル生産実習〕〔日本衣料管理協会〕〔2，750円〕
〔誌上・パターン塾 Vol.1トップ編〕〔文化出版局〕〔1，667円〕

■ 備考
実習内容や課題は，作業の進行状況等により，変更する場合がある。
ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

被服造形実習Ⅱ

(11117)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 30）
対象学科：服専２年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
菊　地　紗　代

■ 授業の概要

衣服製作の一連の工程を通し，衣服の基本的構造，制作過程を学び，専門的な知識・技術の習得を目指す。課題として裏付きスカートを製作させる。パターンは基本のセミタイトとし，ウール素材のチェック柄を用いて柄合わせを学ばせる。採寸，裁断，仮縫い・補正，ウール生地の他，裏地などの副資材の取り扱い，ファスナー・ベルトの縫製方法などについて教授し，理解を深めさせる。また、小物制作を通してファスナー付けの技術を習得させる。オーダー・お直し，服飾教育現場に携わった講師が指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・スカートの製図ができる。			0.2		0.6		0.2		
・専門的な縫製知識・技術を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　スカートについて，採寸，製図，用布の見積	製図の復習をしておく。製図を完成させ，提出する。制作ノート作成。材料の準備。
第２回　パターンカット，表地：地直し，裁断，印付け	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第３回　仮縫い，シーチングベルト作製	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第４回　試着	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第５回　補正	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第６回　縫い代整理，裏地・ベルト裁断，縫製工程確認	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第７回　部分縫い①コンシールファスナー付け（表地）	部分縫いを完成させる。制作ノート作成。
第８回　本縫い①表地：ロックミシン，左脇，コンシールファスナー付け	部分縫いを完成させる。制作ノート作成。
第９回　②表地：ダーツ，右脇，裾始末 ③裏地：脇，裾	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第10回　部分縫い②コンシールファスナー付け（裏地）	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第11回　本縫い④裏地：コンシールファスナー付け ⑤表地・裏地：中綴じ，ウエスト始末	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第12回　⑥ベルト作り	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第13回　⑦ベルト付け，前カン付け，仕上げ	課題・制作ノートを完成させる。
第14回　小物制作（ポーチ）フラットニットファスナー付け	課題・制作ノートを完成させる。
第15回　スカート試着，発表	全行程を振り返る。

■ 履修上の注意

被服実習Ⅰを履修していること。
第一回目の授業時に自分のスカート原型（タイトスカートのパターン）を持参すること。
裁縫用具一式を毎回持参すること。遅刻・欠席をしないこと。
進度に遅れが出た場合は，必ず次回までに終わらせておくこと。
材料費は各自負担。

■ 成績評価方法・基準

提出物60%，受講状況（作業状況，制作ノート）を40%として評価する。
未提出がある場合は評価対象としないことがある。
課題については，授業中にフィードバック，又は後日添削して返却する。

■ 教科書
〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座② スカート・パンツ 文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔1，870円〕

■ 参考書
〔アパレル設計実習 アパレル生産実習〕〔日本衣料管理協会〕〔2，750円〕
〔ファッション造形　基礎〕〔実教出版〕

■ 備考
実習内容や課題は，作業の進行状況等により，変更する場合がある。
ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

被服造形実習Ⅲ

(11118)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（90 + 60）
対象学科：服専３年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
菊　地　紗　代

■ 授業の概要

これまで被服造形実習Ⅰ・Ⅱなどを履修して習得してきた知識や縫製技術をさらに向上させ，応用発展させることを目的とする。課題として，ウール地を用いた基本的な総裏付きジャケットを製作する。ジャケットの製図は，衿や見返し・裏地の展開についても取り組み，工業用（縫い代付き）パターンとする。表地・裏地・副資材の取り扱い，アイロンによるくせとり方法，二枚袖の縫製，各種ポケットの縫製方法などを教授し，より専門的な技術の習得を目指させる。オーダー・お直し，服飾教育現場に携わった講師が指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・ジャケットの製図，パターン展開ができる。 ・高度で専門的な縫製知識・技術を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ジャケットについて，採寸，　製図：①身頃	製図の復習をしておく。製図の提出。制作ノート作成。
第２回　②衿，袖	製図を完成させ，提出する。制作ノート作成。
第３回　パターン：パーツ別に写す，カット／シーチング準備	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第４回　シーチング：裁断，印付け	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第５回　仮縫い	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第６回　試着	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第７回　補正	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第８回　製図：見返し・衿パターン展開	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第９回　裏地・芯地用パターン展開，縫い代付け／用布の見積もり	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。材料の準備。
第10回　表地：地直し，裁断	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第11回　芯：裁断・接着、印付け	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第12回　裏地：裁断，印つけ，縫製工程確認	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第13回　部分縫い①パッチポケット	部分縫いを完成させる。制作ノート作成。
第14回　②箱ポケット	部分縫いを完成させる。制作ノート作成。
第15回　③フラップポケット	部分縫いを完成させる。制作ノート作成。ここまでのまとめ。
第16回　本縫い①表地：テープ貼り，くせとり，ダーツ，脇	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第17回　②ポケット裁断	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第18回　③ポケット付け	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第19回　④表地：背・後ろ脇・肩	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第20回　⑤裏地：ダーツ・脇・背・見返し・肩	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第21回　⑥衿付け	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成

	。
第22回　⑦見返し返し・衿中綴じ	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第23回　⑧袖作り	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第24回　⑨袖付け（表地）	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第25回　⑩袖付け（裏地）	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第26回　⑪パット付け，脇中綴じ	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第27回　⑫裾	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第28回　⑬ボタンホール，ボタン付け	指定箇所まで作業を終わらせる。制作ノート作成。
第29回　⑭仕上げ，提出	課題・制作ノートを完成させ，提出する。
第30回　試着，発表	全行程を振り返る。

■ 履修上の注意
被服実習Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。
第一回目の授業時に自分の原型を持参する事。
遅刻・欠席をしないこと。進度に遅れが出た場合は、必ず次回までに終わらせておくこと。
材料費は各自負担。

■ 成績評価方法・基準
提出物60%、受講状況（作業状況、制作ノート）を40%として評価する。
課題・提出物は個別指導時、または後日添削してフィードバックする。

■ 教科書
〔文化ファッション大系 改訂版・服飾造形講座④ ジャケット・ベスト〕〔文化出版局〕〔1，870円〕

■ 参考書
〔アパレル設計実習 アパレル生産実習〕〔日本衣料管理協会〕〔2，750円〕
〔誌上・パターン塾 Vol.1トップ編〕〔文化出版局〕〔1，667円〕

■ 備考
受講生の進度によりシラバス内容が前後することがある。
ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。
課題が未提出、実施されない場合には評価の対象としないことがある。
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

被服平面造形学

(11119)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子

■ 授業の概要

和服は江戸時代に完成された日本固有の衣服であり、日本人ならではの文化が凝縮された平面造形による衣服である。この講義では、現代に受け継がれ着用されている和服の基本について、①和服の構成上の特徴と各部の名称、②着装時の基本的約束事、③和裁の用具と布地、④和服縫製の基本的な技術 の観点から和服の基本について概説する。さらに、小裁単衣長着（産着仕立て）の製作を通して、和服縫製の基礎技術を指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・和服の構成上の特徴、着装の約束事について理解できる。	
・和服縫製技術の初歩を習得する。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　授業の進め方について、 手縫い服の特徴と運針	ワークシートの完成、運針練習
第２回　和服の基礎知識：和服の分類	ワークシートの完成、運針練習
第３回　〃　：伝統的な和服地とその産地、着装と季節	ワークシートの完成、運針練習
第４回　和服の構成と製作の基礎①：構成・材料・採寸、裁ち切り平面図・折り積り図、地直し	ワークシートの完成、運針練習
第５回　〃　②：子供の和服の種類と特徴（折り積り、裁断）	ワークシートの完成、運針練習
第６回　〃　③：和服の袖各種（袖標、袖縫い）	ワークシートの完成、袖縫い
第７回　〃　⑤：身頃の特徴と肩当て・居敷当ての役割（身頃標、肩当て・居敷当て）	ワークシートの完成、運針練習
第８回　〃　⑥：衽の役割（衽標、衿下始末）	ワークシートの完成、衿下始末
第９回　〃　⑦：衽の構成（衽付け）	ワークシートの完成、衽付け
第10回　〃　⑧：衿各種と共衿の役割（衿・共衿、衿先）	ワークシートの完成、衿地縫い
第11回　〃　⑨：紐けることの利点（衿本紐け、脇縫い）	ワークシートの完成、脇縫い、衿紐け
第12回　〃　⑩：単衣物の構成と縫い代の始末1（脇始末）	ワークシートの完成、脇始末
第13回　〃　⑪：単衣物の構成と縫い代の始末2（裾、褄角）	ワークシートの完成、裾紐け
第14回　〃　⑫：単衣物の構成と縫い代の始末3（袖付け）	ワークシートの完成、袖付け
第15回　〃　⑬：新生児用の産着の特徴（紐作り、紐付け）	ワークシートの完成、紐付け
第16回　授業のまとめ	ワークシートの完成

■ 履修上の注意

日本服装史を履修していることが望ましい。遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。時間内に進められなかった箇所は次回までに必ず行ってください。ワークシートもその都度きちんとまとめてください。実習費（道具・用布代）として4，000円程度を徴収します。

■ 成績評価方法・基準

提出物（ワークシートや製作品等）による評価を55%、受講状況（参加状況・ミニットペーパー）を45%として評価します。なお、提出物やミニットペーパーはコメントを付して後日返却することでフィードバックとします。

■ 教科書

〔和　裁〕〔斎藤輝子・細目しげ子・大塚　静子〕〔東北生活文化大学三島学園女子短期大学和裁研究室〕〔非売品〕（必要箇所を印刷して配布します）

■ 参考書

〔きものの基本 改訂版〕〔全日本きもの振興会 編〕〔ハースト婦人画報社〕〔2，200-〕

■ 備考

ルーブリックを授業初回に配布するので、学習目標としてください。受講生の進度によりシラバス内容が前後する事があります。質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

被服平面造形実習Ⅰ

(11120)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 45）
対象学科：服専３年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子

■ 授業の概要

日本固有の衣服である和服の製作方法について指導する。和服の素材や文様には日本の伝統文化が凝縮されていると言われているが、縫製方法にも伝統的技術が生かされている。この実習では、被服平面造形学で学んだ和服についての基礎知識と手縫いの基礎技術を発展させて、大裁女子単衣長着（ゆかた）の製作方法を指導する。この製作を通して、小裁単衣長着（一つ身）と女子用単衣長着の違いについて理解させるとともに、和服製作の知識・技術の向上をねらう。また、最終回には着装実習を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・和服の基本的な知識について理解できる。	
・女子用和服の構成を理解し、着装・帯結びができる。	
・和服縫製の基礎知識と基本的技術を習得する。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　基礎学習（構成・材料・採寸）	ワークシート完成、運針練習
第２回　裁ち切り平面図・折り積り図の作成、丸み型紙作り	ワークシート完成、運針練習、材料準備
第３回　柄合わせ、折り積り、裁断	ワークシート完成、運針練習
第４回　袖の標付け、袖縫い、袖口留め	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第５回　袂丸み、袖の始末と飾り躾	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第６回　身頃の標付け、背縫い、肩当て作り	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第７回　衽の標付け、衿下三つ折り絎け、肩当て付け、居敷当て作り	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第８回　居敷当て付け、衽付け、衽縫い代の始末	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第９回　衿・共衿付け準備、衿付け	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第10回　三つ衿芯、衿先、衿絎け	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第11回　共衿掛け、脇縫い	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第12回　脇縫い代始末、褄角作り	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第13回　裾の始末、袖付け	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第14回　袖縫い代の始末、肩当ての始末	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第15回　仕上げ	ワークシート完成、作品完成、着付け小物準備
第16回　授業のまとめと着装実習	着付けの復習、提出期限までに不備を修正

■ 履修上の注意

被服平面造形学の単位を取得していること。遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。時間内に進められなかった箇所は次回までに必ず行ってください。ワークシートもその都度きちんとまとめてください。反物・縫い糸については初回に説明するので、各自で準備してください。実習費（厚紙、晒布）として300円程度を徴収します。

■ 成績評価方法・基準

提出物（ワークシートや製作品等）による評価を55%、受講状況（参加状況・ミニットペーパー）を45%として評価します。なお、提出物やミニットペーパーはコメントを付して後日返却することでフィードバックとします。

■ 教科書
〔和　裁〕〔斎藤輝子・細目しげ子・大塚　静子〕〔東北生活文化大学三島学園女子短期大学和裁研究室〕〔非売品〕（必要箇所を印刷して配布します）

■ 参考書
なし（必要に応じて、プリントを配布します）

■ 備考
　ルーブリックを授業初回に配布するので、学習目標としてください。受講生の進度によりシラバス内容が前後する事があります。質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

被服平面造形実習Ⅱ

(11121)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 45）
対象学科：服専４年
授業形態：実習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子

■ 授業の概要

日本固有の衣服である和服の製作方法について指導する。和服の素材や文様には日本の伝統文化が凝集されていると言われているが、縫製方法にも伝統的技術が集約されている。この実習では、3年次後期の被服平面造形実習Ⅰで習得した和服についての基礎知識と手縫いの基礎技術を発展させて、大裁男子単衣長着製作方法を指導する。この製作を通して、男子用と女子用の長着の違いについて理解させるとともに、素材に適した仕立て方の違いについて理解させる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・和服の基本的な知識について理解できる。	
・男子用和服の構成を理解し、着装・帯結びができる。	
・和服縫製の基礎知識と基本的技術を習得する。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　基礎学習(構成・材料・採寸）、裁ち切り平面図・折り積り図の作成	ワークシート完成、運針練習、材料準備
第２回　裁断	ワークシート完成、運針練習
第３回　袖の標付け、袖縫い、袖口留め	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第４回　袂丸み、人形、袖口の始末	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第５回　後身頃・内揚げの標付け	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第６回　前身頃・衽の標付け、衿下三つ折り絎け	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第７回　背縫い、内揚げ縫い	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第８回　肩当て作り、肩当て付け、居敷当て付け	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第９回　衽付け、衽縫い代の始末	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第10回　共衿付け準備、衿付け、衿先布付け	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第11回　三つ衿芯、衿先、衿絎け	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第12回　共衿掛け、脇縫い	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第13回　脇縫い代始末、褄角作り	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第14回　裾の始末、袖付け留め、袖付け	ワークシート完成、終わらなかった作業を終わらせる
第15回　袖縫い代の始末、仕上げ	ワークシート完成、提出期限までに不備を訂正する
第16回　着装実習、授業のまとめ	提出期限までに不備を修正し、着付けを復習する

■ 履修上の注意

被服平面造形実習Ⅰの単位を修得していること。遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。時間内に進められなかった箇所は次回までに必ず行ってください。ワークシートもきちんとまとめてください。反物・縫い糸については初回に説明するので、各自で準備してください。実習費として300円程度を徴収します。

■ 成績評価方法・基準

提出物（ワークシートや製作品等）による評価を55%、受講状況（参加状況・ミニットペーパー）を45%として評価しま

す。なお、提出物やミニットペーパーはコメントを付して後日返却します。

■ 教科書
〔和　裁〕〔斎藤輝子・細目しげ子・大塚　静子〕〔東北生活文化大学三島学園女子短期大学和裁研究室〕〔非売品〕（必要箇所を印刷して配布します）

■ 参考書
なし（必要に応じて、プリント等を配布します）

■ 備考
　ルーブリックを授業初回に配布するので、学習目標としてください。受講生の進度によりシラバス内容が前後する事があります。質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

ファッションデザイン画

(11122)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：服専１年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
何　　水　蘭

■ 授業の概要

人の第一印象とは、視覚と感覚や物腰から得る印象であるが、衣服は瞬時にその人となりを判断する視覚ツールそのものである。授業では、ファッションは特別なものではなく自己表現の手段であり、ファッションが果たす役割とその効果を教授し、女性の服装史を通して、時代の政治や文化、気候風土など服装に与える多々の影響がファッションとなり世界に波及していく原理を学ばせる。 ファッションデザインワークの基礎として、デザインディテール名称と服飾用語、衣服のベーシックアイテムの種類と名称 を学ばせ、そのデザイン画の描き方を指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・衣服を通して様々なことに関心を持ち観察力をつける。	0.2		0.4	0.2			0.2		
・ファッションが持つ力を理解する。									
・デザインディテール名称と服飾用語を学ぶ。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　服飾デザイン（ファッションデザイン）の意義	ファッションについてレポートを書く
第２回　ファッションの発生と波及・その役割.について	研究課題-１
第３回　装飾審美（服装美）の造形表現	研究課題-２
第４回　造形三要素、８大感性	研究課題-３
第５回　シルエット（ライン）	デザインワーク
第６回　色彩と材質	デザインワーク
第７回　デザインの成立と構成	研究課題-４
第８回　衣服の分類・その仕分け方について	研究課題-５
第９回　スカートとパンツの各部名称	研究課題-６
第10回　スカートの名称とデザイン説明、描き方レッスン	作品を仕上げる
第11回　カラーの名称とディテール説明、描き方.レッスン	作品を仕上げる
第12回　袖（スリーブ）の名称とデザイン説明、描き方	作品を仕上げる
第13回　ディテールデザイン名称と描き方レッスン	作品を仕上げる
第14回　オリジナルデザイン作品　感性とデザインのマッチング	イメージするデザインを数点描いておく
第15回　オリジナルデザイン作品	仕上げ 仕上がらない場合は締切日までに提出

■ 履修上の注意

衣服のデザインや素材に関心を持つこと。作画に必要な定規・鉛筆など指定された用具を各自用意する。

■ 成績評価方法・基準

単元ごとに提出する研究課題とデザインワーク作品　100% それぞれの課題作品は採点・添削して、返却することでフィードバックとする。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する。

■ 参考書

なし

■ 備考

ファッションの流動性や、授業構成の都合でシラバス内容が前後する場合がある。
授業で理解できないところや質問は、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

ファッションデザイン画

(11123)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（30 + 15）
対象学科：服専２年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
何　　水　蘭

■ 授業の概要

本講義では、豊かな表現力を養い、頭に浮かんだデザインを的確に人に伝え、個々人の美意識の違いや異なった資質を“感性”として捉え、その“イメージ”を考察してデザイン画を描く表現技法と彩色テクニックを学ぶ事が目的とする。また服飾用語・シルエット・ディテール・テキスタイルなどの専門知識を習得する。実際のファッション業界で、アイディアから生産までの必要なデザイン図の描き方も教授する。最後、各自の個性を生かし、クリエイティブな作品を作成する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・ファッションデザイン画に関する基本的な技術を学ぶ。	0.2		0.4	0.2			0.2		
・イメージ・インスピレーションを作品（デザイン画）にする。									
・ファッション業界の生産用デザイン図を学ぶ。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　優秀作品鑑賞・人体のプロポーション	作品を仕上げて次授業時に提出
第２回　プロポーション・ポージングの描き方	作品を仕上げて次授業時に提出
第３回　顔、手、脚などの描き方	作品を仕上げて次授業時に提出
第４回　いろいろなポーズの描き方	作品を仕上げて次授業時に提出
第５回　布の材質表現と形状表現（ウール、ニット、レーズなど）	作品を仕上げて次授業時に提出
第６回　布の材質表現と形状表現（透ける布、光沢のある布、毛皮など）	作品を仕上げて次授業時に提出
第７回　スカート、パンツなどの描き方	作品を仕上げて次授業時に提出
第８回　スーツ、コートなどの描き方	作品を仕上げて次授業時に提出
第９回　ドレス、着物などの描き方	作品を仕上げて次授業時に提出
第10回　生産用ファッションデザイン図とアイテム図の描き方	作品を仕上げて次授業時に提出
第11回　インスピレーションボードの作り方	オリジナルインスピレーションボードを仕上げて次授業時に提出
第12回　インスピレーションボードからオリジナルファッションデザイン画作成	タイトル・デザイン決定のプロセスをまとめて描き出しておく
第13回　オリジナルファッションデザイン画作成（クリエイティブな作品）	作画表現で苦労した点を書き出しておく
第14回　オリジナルファッションデザイン画作成（販売用作品）	作画表現で苦労した点を書き出しておく
第15回　作品プレゼンテーション	

■ 履修上の注意

教科書、参考書は無いので、事前に調べる事柄や課題は怠ることのないようにする。
作画に必要な用具は各自持参する。

■ 成績評価方法・基準

プレゼンテーション２０％、課題作品８０％（バランス、ディテール描写、オリジナリティー、色彩表現、アピール力）として評価し、提出課題は後日、ポイント指導を書き入れ添削して返却することでフィードバックとする。

■ 教科書

授業前にプリントを配布する

■ 参考書

なし

■ 備考

ファッションは流動的である事と演習授業であるため、授業計画通りに進まない場合がある。
授業で理解できないところや質問は、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

ファッションデザイン演習

(11124)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（60 + 30）
対象学科：服専２年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
何　　水　蘭

■ 授業の概要

ファッションデザイン演習の授業の中では、ファッションデザイン画を描くだけでなく、収集したファッション情報を基に、来年の流行のファッションデザインを提案する。授業の流れは、最初に来年秋冬のファッション流行を意識したムードボード作成、デザイン画作成、パターン作成、縫製などを行う。次に作品をモデルに着させて、撮影する。最後に、課題に関した発表を行う。この流れを具体的にこなしていき、ファッションデザインの本来の意味を導き出す。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・ファッション流行情報収集の方法を学び、自分のデザインへの導き方を習得する。			0.5	0.25			0.25		
・具体的なファッションデザインにする方法として、パターン・縫製があることを理解する。									
・ファッション商品のアピール方法まで学び、ファッション産業をより深く理解できるようにする。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：授業概要、授業の進め方、課題の提示①	来年最新流行の調査、ムードボード写真収集
第２回　はじめに：授業概要、授業の進め方、課題の提示②	来年最新流行の調査、ムードボード写真収集
第３回　流行に基づいて、ムードボードを作成する①	ファッションデザイン画の準備
第４回　流行に基づいて、ムードボードを作成する②	ファッションデザイン画の準備
第５回　ファッションデザイン画の作成①	デザインパタンの仕上げとデザイン材料の準備
第６回　ファッションデザイン画の作成②	デザインパタンの仕上げとデザイン材料の準備
第７回　ファッションデザイン画の作成③	パタンとデザイン材料の準備
第８回　ファッションデザイン画の作成④	パタンとデザイン材料の準備
第９回　デザインパタンの作成①	デザインパタンの仕上げとデザイン材料の準備
第10回　デザインパタンの作成②	デザインパタンの仕上げとデザイン材料の準備
第11回　デザインパタンの作成③	デザインパタンの仕上げとデザイン材料の準備
第12回　デザインパタンの作成④	デザインパタンの仕上げとデザイン材料の準備
第13回　デザインパタンの作成⑤	デザイン材料の準備
第14回　デザインパタンの作成⑥	デザイン材料の準備
第15回　作品の制作①	作品の制作
第16回　作品の制作②	作品の制作
第17回　作品の制作③	作品の制作
第18回　作品の制作④	作品の制作
第19回　作品の制作⑤	作品の制作
第20回　作品の制作⑥	作品の制作
第21回　作品の制作⑦	作品の制作
第22回　作品の制作⑧	作品の制作
第23回　作品の制作⑨	作品の仕上げ
第24回　作品の制作⑩	作品の仕上げ
第25回　作品の制作⑪	作品撮影の準備
第26回　作品の制作⑫	作品撮影の準備
第27回　作品撮影①	撮影写真の仕上げ
第28回　作品撮影②	撮影写真の仕上げ
第29回　ファッションデザイン作品の発表①	全体を振り返り、今後の課題を見出す
第30回　ファッションデザイン作品の発表②	全体を振り返り、今後の課題を見出す

■ 履修上の注意

衣服の素材、作画に必要な定規・鉛筆など指定された用具を各自用意する。

■ 成績評価方法・基準
受講態度(20%)(授業への参加状況[発言、質問等]、提出課題(30%)、課題作品(30%)、プレゼンテーション(20%)、で総合的に判断する。

■ 教科書
授業前にプリントを配布する。

■ 参考書
なし

■ 備考
デザイン作成、作品撮影の都合でシラバス内容が前後する場合がある。
質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。
評価や進め方は1回目の授業で説明する。
課題が未提出、実施されない等の際には、評価の対象としない。

アパレル設計論

(11125)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
玉　田　真　紀

■ 授業の概要

アパレル産業とは、その歴史的変遷と商品分類を考えた上で、アパレル生産の２つの工程（注文服と既製服）について、商品企画・素材選定から生産段階まで、特徴と課題を解説する。さらに、アパレル設計に必要な人体形態（個体差）を把握するための計測方法と、既製服の設計に必要なJIS衣料サイズ規格について解説する。また、パターン設計を習得するための基礎である原型と様々な立体化技法への展開方法についても演習を通して解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・アパレル設計・生産の専門知識が身につく		0.2	0.2		0.4		0.2		
・アパレル業界で活躍するために必要な思考力が身につく									
・アパレル商品を客観的に見る力が身につく									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　アパレル産業とは：歴史的変遷とアパレルの商品分類	アパレルの類似語について調べる
第２回　アパレル生産の２つの工程（１）注文服の生産工程	注文服の生産工程の特徴をまとめる
第３回　アパレル生産の２つの工程（２）既製服の生産工程	既製服の生産工程の特徴をまとめる
第４回　注文服と既製服生産の比較	利点と問題点について考える
第５回　人体の構造と計測方法	人体各部の名称を復習する
第６回　衣服設計のための人体の採寸方法（１）成人女子	採寸方法を復習する
第７回　衣服設計のための人体の採寸方法（２）成人男子	採寸方法を復習する
第８回　衣料サイズ規格（１）体格調査の変遷（２）衣料サイズの種類	衣料サイズ表示を調べてみる
第９回　衣料サイズ規格（３）JIS成人男子と成人女子衣料サイズ	JIS衣料サイズの復習をする
第10回　衣服設計の基礎となる布地の立体化技法、動作性と設計	立体化技法が利用された例を探す
第11回　パターン設計（１）立体裁断と平面作図（２）原型とは	原型の種類と特徴を復習する
第12回　パターン設計（３）身頃原型の展開	原型からの展開を復習する
第13回　パターン設計（４）袖原型と動作性（５）袖原型の展開	袖原型と動作性を復習する
第14回　パターン設計（６）衿の種類（７）衿型紙の展開	衿のパターンを復習する
第15回　加齢に伴う体型変化とパターンの補正	体型変化と補正を復習する
第16回　試験	

■ 履修上の注意

遅刻3回で１回欠席扱い、1/3以上欠席者は原則として不合格にする。
講義には教科書を使用する。適宜、プリントを配布するのでファイルに整理する。
授業後に疑問点や質問事項を書くこと。できるだけ次回に解答するようにする。

■ 成績評価方法・基準

授業後の感想や質問の書き込み内容（15%）試験（85%）（試験は教科書、ノート、プリント全て持込み可）。
質問については授業中にフィードバック、試験の評価は後日フィードバックする。

■ 教科書

〔アパレル設計・生産論〕〔衣料管理協会〕〔2，300円〕

■ 参考書

授業前にプリントを配布する。参考書も回覧し紹介する。

■ 備考

質問があれば授業後に受け付けます。

アパレル生産実習

(11126)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（45 + 30）
対象学科：服専３年
授業形態：実習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
菊　地　紗　代

■ 授業の概要

アパレル製品における品質の良い製品を効率的に工業生産するための工業生産方式に関連する事項について教授する。特に実習では，工場生産に関わる工程の中で，工業用パターンメーキング，縫製仕様書の作成と縫製仕様書に従った作業等を行い，全体の仕組みと流れを教授する。生産工程では，検反から縫製作業・製品評価についての事項と技術も教授する。さらに，作業効率化のための工程分析やIOTなどの活用についても触れる。なお、縫製作業にはグループワークやディスカッションを取り入れる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・工業生産に必要な知識と技能，思考力を身につける。	
・課題解決能力を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション，縫製機器の理解と縫製見本の作成	縫製見本を完成させる。
第２回　パターンの作成	パターンを完成させる。
第３回　縫製仕様書の作成	工業用パターンを完成させる。
第４回　工業用パターンへの展開	グレーディングパターンを完成させる。
第５回　グレーディング，マーキング	縫製仕様書を完成させる。
第６回　生産工程と分析：作業工程分析とパターン分析，作業工程表作成	作業工程表を完成させる。
第７回　縫製作業工程分析表の作成①（工程分析を基に作成）	縫製作業工程分析表案を検討する。
第８回　〃　　②	縫製作業工程分析表を完成させる。
第９回　裁断・芯貼り、グループワーク	課題に取り組む。
第10回　縫製機器レイアウト	レイアウトを完成させる。
第11回　縫製作業①グループワーク	課題に取り組む。
第12回　縫製作業②グループワーク	課題に取り組む。
第13回　仕上げ、グループワーク	課題を完成させる。
第14回　製品の評価、グループワーク	プレゼンテーションの準備
第15回　プレゼンテーション、まとめ、ディスカッション	全範囲を振り返る

■ 履修上の注意

遅刻・欠席をせず，進度に遅れが出ないようにすること。
裁縫用具一式を毎回持参すること。

■ 成績評価方法・基準

提出物50%、受講状況（作業状況・進度など）を50%として評価する。
課題・提出物は個別指導時、または後日添削してフィードバックする。

■ 教科書

〔アパレル設計論 アパレル生産論〕〔日本衣料管理協会〕〔2，300円〕※1年次に購入済み

■ 参考書

〔アパレル設計実習 アパレル生産実習〕〔日本衣料管理協会〕〔2，750円〕

■ 備考

実習内容や課題は，作業の進行状況等により，変更する場合がある。
ルーブリック評価については第一回目の授業で説明する。
質問等は授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

アパレルＣＡＤⅠ

(11127)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（30 + 15）
対象学科：服専２年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
佐　藤　理　恵

■ 授業の概要

・数々の国内メーカーの型紙や縫製仕様、工業用パターン製作に携わった経験を、アパレルCADの講義及び実技演習を通じて教授する。
・アパレルCAD（パターンメーキング、工業用パターンメーキング、マーキング）とは何か。
・企業でのアパレルCADの役割（服作りとしての知識の把握、設計や生産工程の効率化等）。
・アパレルCADでどの様なことが出来るのか基本操作を中心に説明し、演習（身頃の原型、スカートの原型、パターン作成）を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・アパレルCADの基本操作ができる。	0.125	0.125	0.125	0.125	0.2	0.075	0.075	0.075	0.075
・アパレルCADでパターンを作成する技術を習得する。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	
第２回　基本操作①（CADソフトの起動・終了、直線、曲線、図形等）	基本操作の復習
第３回　基本操作②（回転、修正、等）	基本操作の復習②、原型作図を予習
第４回　作図①（身頃の原型作成：新文化式）	作図①の復習
第５回　作図②（身頃の原型作成に縫い代等を付ける）	作図②の復習
第６回　作図③（原型を利用しての展開）	作図③の復習
第７回　作図④（ブラウス作図①）	作図④の復習、衿や袖の作図を予習
第８回　作図⑤（ブラウス作図②）	作図⑤の復習、スカート基本形作図を予習
第９回　作図⑥（スカートの基本形作成）	作図⑥の復習
第10回　作図⑦（スカートの基本形から工業用パターンへと展開）	作図⑦の復習
第11回　作図⑧（スカートの展開）	作図⑧の復習
第12回　作図⑨（スカートの作図）	作図⑨の復習
第13回　マーキングとは何かを学ぶ	マーキングについて復習
第14回　まとめ	操作全般の総復習
第15回　試験	

■ 履修上の注意

遅刻、欠席をしないこと。
初回の講義で説明する履修上の注意を厳守すること。

■ 成績評価方法・基準

試験80%、平常点20%（平常点は授業への総合的な取り組みで判断する。）
試験は採点後、後日返却する。

■ 教科書

使用せず、必要に応じて授業前にプリントを配布

■ 参考書

〔CADパターンメーキング〕〔文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔2，754円〕

■ 備考

・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。
・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受付けます。

アパレルＣＡＤⅡ

(11128)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（30 + 15）
対象学科：服専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
佐　藤　理　恵

■ 授業の概要

・数々の国内メーカーの型紙や縫製仕様、工業用パターン製作に携わった経験を、アパレルCADの講義及び実技演習を通じて教授する。
・アパレルCAD（パターンメーキング、工業用パターンメーキング、マーキング、グレーディング）とは何か。
・企業でのアパレルCADの役割（服作りとしての知識の把握、設計や生産工程の効率化等）を教授する。
・アパレルCADでどの様なことが出来るのか基本操作及び応用について講義し、演習（身頃の原型、スカートの原型、ブラウスのパターン作成）を行う。
・自由作図（ワンピース・パンツ・ベスト・ジャケット・コート等のパターン作成）を行う。

■ 授業の到達目標　　学位授与の方針との関連

①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

・アパレルCADの基本操作からの応用技術を学ぶことができる。
・アパレルCADで多種多様なアイテムを作成し専門技術を身に着ける。

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	アパレルＣＡＤⅠの復習
第２回　基本操作の復習（CADソフトの起動・終了、直線、曲線、等）	基本操作の復習
第３回　作図①　原型を利用しての展開（ダーツーの展開、分散等）	展開等の復習
第４回　作図②　原型を使用してデザイン展開	作図②の復習、ブラウスパターンの予習
第５回　作図③（ブラウス作図）	作図③の復習
第６回　作図④（ブラウスパターンを工業用パターンへと展開）	作図④の復習
第７回　作図⑤（スカートパターンを作図してデザインパターンへ展開）	作図⑤の復習、スカートパターンの予習
第８回　作図⑥（スカートパターンを工業用パターンへと展開）	作図⑥の復習
第９回　スカートパターンを３Ｄで展開、グレーディングとは何か	３Ｄの復習、自由作図のレポート
第10回　作図⑦（自由作図）ワンピース等を作図する	作図⑦の復習
第11回　作図⑧（自由作図）同上	作図⑧の復習
第12回　作図⑨（自由作図）　同上	作図⑨の復習
第13回　作図⑩（自由作図）⑨で作図した型紙を用いて縫製仕様書を作成	作図⑩の復習
第14回　作図⑪（自由作図）作図した型紙を1/2サイズと実寸で印刷、	作図⑪の復習
第15回　まとめ、試験	

■ 履修上の注意

初回の講義で説明する履修上の注意を厳守すること。
アパレルCADⅠを選択していることが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

遅刻、欠席しないこと。
期末試験70%、課題（自由作図、レポート、縫製仕様書）30%、　試験、課題は採点後、後日返却する。

■ 教科書

使用せず、必要に応じて授業前にプリントを配布

■ 参考書

〔CADパターンメーキング〕〔文化服装学院編〕〔文化出版局〕〔2，754円〕

■ 備考

・ルーブリック評価については第1回目の授業で説明します。
・質問等については授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受付けます。

服飾工芸・造形（服飾手芸） Ⅰ

(11129)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（45 + 30）
対象学科：服専２年
授業形態：実習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
横　田　美　和

■ 授業の概要

刺繍とは生地に針と糸で装飾を施す手芸のひとつである。その中のフランス刺繍は基本のステッチが一通りできる刺繍の種類である。
前半では生地の扱い方や針や糸の扱い方、多様なステッチの技法を教授する。後半ではオリジナル作品（バックなどの小物）を制作する。その為のデザイン、材料選び等の準備を通して作業工程の理解を深め完成度を高めるための技術を身につけられるように教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・刺繍の基本ステッチの技法を身につける。					0.1		0.5		0.4
・習得した技法を応用作品に活かせる。									
・制作、用途に合わせた素材、技法の選び方を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　「授業内容と進め方」「用具と材料」の説明。 基本ステッチ①「布端裁ちかがり」「図案写し」	次回から基本ステッチができるように図案を写し終わっておく
第２回　基本ステッチ②「布の扱い方」「刺繍糸の扱い方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第３回　基本ステッチ③　№1から№6	時間内に終わらない時は終わらせておく
第４回　基本ステッチ④　№7から№11	時間内に終わらない時は終わらせておく
第５回　基本ステッチ⑤　№12から№17	時間内に終わらない時は終わらせておく
第６回　基本ステッチ⑥　№18から№22	時間内に終わらない時は終わらせておく
第７回　基本ステッチ⑦　№23から№28	時間内に終わらない時は終わらせておく
第８回　基本ステッチ⑧　№29から№31	時間内に終わらない時は終わらせておく
第９回　基本ステッチ⑨「布端の始末」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第10回　基本ステッチ⑩「仕上げの仕方」「提出」	仕上げをして提出する
第11回　オリジナル作品「デザイン」「布・糸の準備」	次回から使用する布と糸を準備する
第12回　オリジナル作品　基本ステッチから選んでステッチ	時間内に終わらない時は終わらせておく
第13回　オリジナル作品　基本ステッチから選んでステッチ	時間内に終わらない時は終わらせておく
第14回　オリジナル作品　基本ステッチから選んでステッチ	時間内に終わらない時は終わらせておく
第15回　オリジナル作品「縫製」「仕上げ」「提出」	仕上げをして提出する

■ 履修上の注意

材料費（布と糸）600円。丁寧な制作を心がけ、遅れた場合は次回までに終わらせておく。

■ 成績評価方法・基準

課題作品60%・受講態度40%
※課題が未提出の際には評価の対象としないことがあります。提出物は添削して後日返却します。
※受講態度はその時間の作業工程を理解・クリアしているかの状況をみて評価します。
※ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標としてください。

■ 教科書

授業前にプリントを配布

■ 参考書

無し

■ 備考

都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
質問等については授業終了後に受け付けます。

服飾工芸・造形（服飾手芸）Ⅱ

(11130)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 30）
対象学科：服専２年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
横　田　美　和

■ 授業の概要

編み物（手編み）の中には、複数の棒針を使って編む「棒針編み」と、鉤状のかぎ針1本を使って編む「かぎ針編み」がある。
前半では、かぎ針編みでコースターとミニドイリーを、後半では、2本の針を用いて棒針編みの基本の編み方でマフラーを制作する。制作しながら糸の種類や太さに合ったかぎ針、棒針の「道具の選び方」「編み目記号図の見方」「道具の使い方」「編み方」等の基礎を教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・編み物の「編み目記号」「記号図の見方」を身につける。					0.1		0.5		0.4
・「糸と針の使い方」「編み方」等の基礎を身につける。									
・制作に合わせた素材を選び編み物ができる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　「授業内容と進め方」「用具と材料」の説明。 かぎ針編み①「糸と針の持ち方」「作り目の作り方」	次回から使用するかぎ針と糸を各自準備する
第２回　かぎ針編み②コースター「記号図の見方と編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第３回　かぎ針編み③コースター「編み方」「仕上げ」「提出」	これまでの工程をまとめ、提出する
第４回　かぎ針編み④ミニドイリー「編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第５回　かぎ針編み⑤ミニドイリー「編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第６回　かぎ針編み⑥ミニドイリー「編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第７回　かぎ針編み⑦ミニドイリー モチーフを繋げて仕上げて提出	モチーフを繋げて提出する
第８回　棒針編み①「糸と針の持ち方」「作り目の作り方」	次回から使用する棒針と糸を各自準備する
第９回　棒針編み②マフラー「記号図の見方と編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第10回　棒針編み③マフラー「編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第11回　棒針編み④マフラー「編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第12回　棒針編み⑤マフラー「編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第13回　棒針編み⑥マフラー「編み方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第14回　棒針編み⑦マフラー「編み方」「目の止め方」	時間内に終わらない時は終わらせておく
第15回　棒針編み⑧マフラー フリンジを付けて仕上げて提出	フリンジを付けて提出する

■ 履修上の注意

材料（糸と針）は各自準備する。丁寧な制作を心がけ、遅れた場合は次回までに終わらせておく。

■ 成績評価方法・基準

課題作品60%・受講態度40%
※課題が未提出の際には評価の対象としないことがあります。提出物は添削して後日返却します。
※受講態度はその時間の作業工程を理解・クリアしているかの状況をみて評価します。
※ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標としてください。

■ 教科書

授業前にプリントを配布

■ 参考書

無し

■ 備考

都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
質問等については授業終了後に受け付けます。

服飾工芸・造形（織物）Ⅲ

(11131)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 30）
対象学科：服専４年
授業形態：実習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
横　田　美　和

■ 授業の概要
卓上織機を使用し織物を制作するための知識や技術を教授する。
前半はテキスタイルデザインⅠで学んだ作業工程と道具の使い方等を振り返る。また、織物の三原組織（平織、綾織、繻子織）の他にもある変化組織についても、組織図の見方・書き方を教授し制作につなげる。
後半ではオリジナル作品を制作する。そのためのデザイン・材料選び等の準備を通して、より作業工程の理解を深め更に織物製品としての完成度を高めるための技術を身につけられるように教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・織物に関する技術を身につける。	
・織物の組織についての知識を身につける。	
・織物制作を通して布製品の扱い方を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　「授業内容と進め方」の説明と織物組織・道具類の確認	三原組織・変化組織を調べておく
第２回　「設計表作り」と「整経」作業	時間内に終わらない時は完成させておく
第３回　「経巻」と「小拵え」作業	時間内に終わらない時は完成させておく
第４回　「織る」作業（前半）	時間内に終わらない時は完成させておく
第５回　「織る」作業（後半）	時間内に終わらない時は完成させておく
第６回　仕上げと講評	これまでの工程をまとめておく
第７回　オリジナル作品のデザインと設計表作り.	オリジナル作品のデザインを考えておく
第８回　「整経」作業	時間内に終わらない時は完成させておく
第９回　「経巻」作業	時間内に終わらない時は完成させておく
第10回　「小拵え」作業	時間内に終わらない時は完成させておく
第11回　「織る」作業（前半）	時間内に終わらない時は完成させておく
第12回　「織る」作業（中間）	時間内に終わらない時は完成させておく
第13回　「織る」作業（後半）	時間内に終わらない時は完成させておく
第14回　仕上げ	時間内に終わらない時は完成させておく
第15回　講評・まとめ	これまでの工程をまとめておく

■ 履修上の注意
オリジナル作品で使用する糸は各自で購入のこと。
講義一回で一工程進むため遅れた場合は次回までに終わらせておく。

■ 成績評価方法・基準
課題作品60%・受講態度40%
※課題が未提出の際には評価の対象としないことがあります。提出物は添削して後日返却します。
※受講態度はその時間の作業工程を理解・クリアしているかの状況をみて評価します。
※ルーブリックを授業中に配布するので、学習目標としてください。

■ 教科書
授業前に資料を配布する。

■ 参考書
無し

■ 備考
都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
質問等については授業終了後に受け付けます。

被服繊維学

(11132)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 15）
対象学科：服専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
菅　野　修　一

■ 授業の概要

被服繊維の観点から高分子化学について講述する。繊維の性質や製造法について理解を深めることをとおして、高分子化学に関する学問体系全体の概念に接することを重視するが、より具体的には、繊維の分子構造に由来する繊維特性について詳しく解説する。一方、原始時代から今日に至るまでの繊維の歴史が、科学技術発展の歴史と明確にリンクしていることをの理解を深めることで、日常なにげなく当たり前に使用している被服の奥深さを認識させ、そのベースとなっている学問の幅の広さについても繰り返し説明する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・高分子の概念の理解	0.6	0.1	0.1		0.1				0.1
・繊維の体系的な理解									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　高分子とは何か：高分子の特徴と分子量	教科書指定ページの熟読。
第２回　高分子とは何か：環境と高分子	教科書指定ページの熟読。
第３回　高分子鎖のかたち：コンホメーションとコンフィグレーション	教科書指定ページの熟読。
第４回　繊維としての高分子化合物	教科書指定ページの熟読。
第５回　天然繊維：植物繊維（種子毛繊維）	講義ノートの総まとめ（1回目）。
第６回　天然繊維：植物繊維（靭皮繊維と葉脈繊維）	教科書指定ページの熟読。
第７回　天然繊維：動物繊維（繭繊維）	教科書指定ページの熟読。
第８回　天然繊維：動物繊維（獣毛繊維）	教科書指定ページの熟読。
第９回　化学繊維：再生繊維・半合成繊維	教科書指定ページの熟読。
第10回　化学繊維：合成繊維	講義ノートの総まとめ（2回目）。
第11回　化学繊維：最新の合成繊維	教科書指定ページの熟読。
第12回　高分子の合成：　付加重合	教科書指定ページの熟読。
第13回　高分子の合成：　重縮合	課題を指定。
第14回　高分子の合成反応速度論	教科書指定ページの熟読。
第15回　機能性ポリマー：様々な最新のポリマー	講義ノートの総まとめ（3回目）。

■ 履修上の注意

理解をより深めるため、有機化学Ⅰ・Ⅱ及び化学Ⅰ・Ⅱの受講が望ましい。

■ 成績評価方法・基準

小テスト30%、平常点・受講態度30%、課題ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ又はレポート40%を総合的に評価する。レポートについてはフィードバックを行う。小テストは直後に答え合わせをする。

■ 教科書

［繊維製品の基礎知識シリーズ第1部］［日本衣料管理協会刊行委員会］［日本衣料管理協会］［1800円］

■ 参考書

必要なプリント配布

■ 備考

質問に関してオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

被服繊維学実験

(11133)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 30）
対象学科：服専１年
授業形態：実験　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
井　上　美　紀

■ 授業の概要

被服繊維学で学んだ知識について実験を通してさらに理解を深められるように、繊維の鑑別実験、繊維の製造実験、繊維の取出し実験、繊維から糸・糸から織物の制作実験、糸の番手・表示実験を主に教授する。特に繊維の鑑別実験では、各繊維の特徴をとらえることができるように実験方法と分析方法についても解説する。また、はじめての科学的な実験になるため、実験の進め方や器具の使い方、溶液の調整方法、レポートのまとめ方、実験データの考察の仕方についても教授する。
実験は全てグループワーク（以下GW）とする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・繊維、糸、織物等に関する高度な知識・技術を身につける。			0.3		0.5		0.2		
・実験を通じ、論理的思考力や倫理観等を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：概要、進め方、グループ構成、実験上の注意、器具の使い方、溶液の調整①　GW	器具の名称、溶液の調整方法を覚える。
第２回　溶液の調整②、試薬取り扱いの注意、レポート作成方法 鑑別実験①　外観・手触り　GW	試薬の取り扱い方とレポートの書式を覚える。テキストで次時実験項目に目を通す。
第３回　鑑別実験②-1　各種試薬に対する溶解性、判定表の作成　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。
第４回　鑑別実験②-2　各種試薬に対する溶解性、未知試料の鑑別　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第５回　鑑別実験③　燃焼特性　未知試料の鑑別　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第６回　鑑別実験④-1　顕微鏡による形態観察　観察試料の作成　GW	プリントに目を通す。
第７回　鑑別実験④-2　顕微鏡による形態観察　未知試料の鑑別　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第８回　鑑別実験⑤　染色性・呈色反応　未知試料の鑑別　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。
第９回　鑑別実験⑥　赤外線吸収スペクトル　GW	プリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第10回　鑑別実験のまとめ：未知試料の鑑別と応用課題　GW	これまでの内容を振り返り、各繊維の特徴を把握する。
第11回　繊維の製造　合成繊維　GW	プリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第12回　天然繊維の取り出し　絹・綿、紡績　GW	プリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第13回　糸に関する実験　番手・撚り・表示　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第14回　組織作成、織布の制作①　紡績作業と簡易織機での手織　GW	プリントに目を通す。撚糸の完成と整経作業を終わらせる。
第15回　織布の制作②　手織の続き　GW おわりに：実験のまとめ、レポート校正	プリントに目を通す。織作業を終わらせる。全範囲とレポート校正箇所を振り返る。

■ 履修上の注意

安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねて臨むこと。
必要に応じ電卓を持参する（携帯電話不可）。
レポートは、指定の実験ノートとファイルを使用する。実験毎にレポート提出を求めるので、指定期日まで提出すること。

■ 成績評価方法・基準

評価は、①実験が終了する毎に提出するレポートを適切にまとめ、考察することに対し50%
②事前準備をしてグループで協力しながら実験結果を出すことに対し50%とする。
ルーブリック評価は第1回の授業で説明します。レポートは後日添削して返却する。

■ 教科書

繊維製品の基礎知識シリーズ　第1部　日本衣料管理協会　入学時購入済

■ 参考書

授業前にプリントを配布する。

■ 備考

履修者の実験進捗状況等の都合により、授業計画の順番等を変更することがある。

質問は、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

評価と実験の進め方は1回目の授業で説明する。

5回を超えて欠席した者、レポートや課題が未提出の者、指定期限を過ぎての提出の者は、評価の対象としない。

※一部実験に変えて研修を実施する場合もある。（費用各自負担）

被服材料学

(11134)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 15）
対象学科：服専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
菅　野　修　一

■ 授業の概要
主にケミストリーの観点から被服材料について論述する。被服材料について科学的に理解を深めることをとおして、科学に関する学問体系全体の概念に接することに主眼をおく。より具体的には、関連物質を化学式で理解し、その特性との因果関係を解説する。さらには、原始時代から今日に至るまでの繊維の歴史が、科学技術発展の歴史と明確にリンクしていることをの理解を深めることで、日常なにげなく当たり前に使用している被服の奥深さを認識させ、そのベースとなっている学問の幅の広さについても繰り返し説明する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・被服材料及び関連物質を化学式で理解	0.5	0.1	0.1	0.1	0.1				0.1
・織物と編物の基礎知識の習得									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　被服材料としての繊維の歴史	教科書指定ページの熟読。
第２回　被服材料としての繊維とは何か	教科書指定ページの熟読。
第３回　セルロースと植物繊維	教科書指定ページの熟読。
第４回　タンパク質と動物繊維	教科書指定ページの熟読。
第５回　原油と合成繊維	講義ノートの総まとめ（1回目）。
第６回　糸の分類	教科書指定ページの熟読。
第７回　糸の製造プロセス	教科書指定ページの熟読。
第８回　糸の構造と性質	教科書指定ページの熟読。
第９回　織物の分類と製造法	教科書指定ページの熟読。
第10回　織物の組織	講義ノートの総まとめ（2回目）。
第11回　織物の構造と性質	教科書指定ページの熟読。
第12回　編物の分類と製造法	教科書指定ページの熟読。
第13回　編物の組織	課題を指定。
第14回　編物の構造と性質	教科書指定ページの熟読。
第15回　環境保全の観点からの繊維のリサイクルについて	講義ノートの総まとめ（3回目）。

■ 履修上の注意
理解をより深めるため、有機化学Ⅰ・Ⅱ及び化学Ⅰ・Ⅱの受講が望ましい。

■ 成績評価方法・基準
小テスト30%、平常点・受講態度30%、課題ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ又はレポート40%を総合的に評価する。レポートについてはフィードバックを行う。小テストは直後に答え合わせをする。

■ 教科書
［繊維製品の基礎知識シリーズ第1部］［日本衣料管理協会刊行委員会］［日本衣料管理協会］［1800円］

■ 参考書
必要なプリント配布

■ 備考
質問に関してオフィスアワーはもちろん、授業終了後に申し出てもらうことで時間を調整し常時受けつける。

被服材料学実験

(11135)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（45 + 15）
対象学科：服専２年
授業形態：実験　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
井　上　美　紀

■ 授業の概要

被服材料学で学んだ知識について、実験を通してさらに理解を深められるように、織物・編物の構造分析、被服材料の性能に関わる消費性能試験を主に教授する。織物の基本構造と分析では、織布の作成方法と様々な織物への展開方法を教授する。布の消費性能試験では、各種強度、風合い、快適性に関わる実験の測定方法について教授し、さらに試験結果のまとめ方、分析方法、評価についても教授する。実験は全てグループワーク（以下GW）とする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・被服材料に関する高度な知識・技術を身につける。			0.3		0.5		0.2		
・実験を通じ、論理的思考力や倫理観等を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：概要、グループ構成　織物・編物の基本構造と展開　GW	織物と編物の基本組織を見直す。
第２回　織機と編機での布の作製　GW	プリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。レポートと布を完成させる。
第３回　試料緒元　GW	レポートを完成させる。プリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第４回　消費性能試験①　消費性能試験の進め方、吸水性・撥水性等　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第５回　消費性能試験②　通気性、保温性等　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第６回　消費性能試験③　引張強伸度、引裂強度　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第７回　消費性能試験④　摩耗・破裂強度　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第８回　消費性能試験⑤　剪断特性・曲げ剛性　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第９回　消費性能試験⑥　防しわ性、剛軟性１　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第10回　消費性能試験⑦　剛軟性2、ドレープ性　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時実験項目に目を通す。
第11回　消費性能試験⑧　熱的性能　GW、消費性能試験のまとめ	レポートを作成しプリントに目を通す。これまでの実験を振り返る。
第12回　消費性能と造形性①　試料作成、測定　GW	プリントに目を通す。
第13回　消費性能と造形性②　試料作成と測定の続き　GW	プリントに目を通す。
第14回　消費性能と造形性③　解析　GW	レポートを作成する。
第15回　おわりに：本実験のまとめ、レポート校正	全範囲とレポートの校正箇所を振り返る。

■ 履修上の注意

安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねて臨むこと。
電卓（携帯電話不可）と定規を持参する。
レポートは、指定の実験ノートとファイルを使用する。実験毎にレポート提出を求めるので、指定の期日まで提出すること。

■ 成績評価方法・基準

評価は、①実験が終了する毎に提出するレポートを適切にまとめ、考察することに対し50%
②事前準備をしてグループで協力しながら実験結果を出すことに対し50%とする。
ルーブリック評価は第1回の授業で説明します。レポートは後日添削してフィードバッグする。

■ 教科書

繊維製品の基礎知識シリーズ第1部　日本衣料管理協会　入学時購入済

■ 参考書

授業時にプリントを配布する。

■ 備考

消費性能試験①-⑧、消費性能と造形性①-③は、機器台数の関係で、班ごとに授業順番が変わる。進捗を各グループで確認して
実験に臨むこと。

履修者の実験進捗状況等の都合により、授業計画の順番等を変更することがある。

質問は、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

評価と実験の進め方は1回目の授業で説明する。

5回を超えて欠席した者、レポートや課題が未提出の者、指定期限を過ぎての提出の者は、評価の対象としない。

※一部実験に変えて研修を実施する場合もある。（費用各自負担）

被服整理学

(11136)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
井　上　美　紀

■ 授業の概要

衣生活の消費段階に行われる被服整理について教授する。特に洗濯用洗剤の主成分である界面活性剤、ビルダーと添加剤の作用、洗浄理論、各種繊維製品に適した洗濯方法、仕上げ方法、保管方法ついて主に教授する。表示では、取扱い表示の基本を教授するとともに、各製品に対する最適な表示の選択についても解説する。洗濯では、家庭洗濯と商業洗濯の実際について教授する。さらに被服の適切な取扱い方法や被服整理の環境との関連性、安全性についても触れる。一部グループワーク（ＧＷ）を実施する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・被服整理に関する基礎的な知識を身につける。			0.7		0.3				

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：被服の汚れ、汚れの付着機構、被服整理の意義	テキスト1章を読む。 市販の洗濯用洗剤の動向を調べる。
第２回　洗浄の型、洗剤の種類と成分・用途	テキスト2章を読む。ミニットペーパーを見直す。 各自が所有する洗剤成分と用途を調べる。
第３回　界面活性剤の分類、製法と作用①陰イオン	テキスト3章を読む。ミニットペーパーを見直す。
第４回　界面活性剤の分類、製法と作用②非イオン	テキスト3章を読む。ミニットペーパーを見直す。 各自が所有する洗剤に含まれる界面活性剤のイオン性を調べる。
第５回　中間テスト①、洗浄理論①洗浄作用　GW	テキスト2章、中間テストを見直す。
第６回　洗浄理論②油汚れ・固体汚れの除去、洗濯用水と影響	テキスト2章を読む。ミニットペーパーを見直す。
第７回　ビルダー・添加剤の機能	テキスト3章を読む。ミニットペーパーを見直す。 各自が所有する洗剤に含まれるビルダーと添加剤を調べる。
第８回　洗浄方式、洗濯機	テキスト4.6.7章を読む，ミニットペーパーを見直す。 各自が所有する洗濯機の種類を調べる。
第９回　漂白・増白	テキスト8章を読む。ミニットペーパーを見直す。 市販漂白剤の動向を調べる。
第10回　柔軟加工・糊加工・仕上げ加工、中間テスト②	テキスト10章を読む。中間テストを見直す。 市販柔軟剤と糊剤の動向を調べる。
第11回　家庭洗濯の実際	テキスト5章を読む。ミニットペーパーを見直す。
第12回　商業洗濯の分類と方法	テキスト12章を読む。ミニットペーパーを見直す。 クリーニングの種類を調べる。
第13回　表示、適切な取り扱い　ＧＷ	テキスト13章を読む。ミニットペーパーを見直す。 新旧のJIS表示を振り返る。
第14回　保存と管理、中間テスト③	テキスト11章を読む。中間テストを見直す。 市販の防虫剤・防湿剤の動向を調べる。
第15回　被服整理の課題、おわりに：本講義のまとめ	全範囲を振り返る。
第16回　本試験	全範囲を振り返る。

■ 履修上の注意

毎時間ミニットペーパーを、単元毎に中間テストを行うので振返りを大切にする。

被服整理に関わる洗濯洗剤、洗濯機、クリーニング等に目を向け、事前事後には指定のテキスト範囲に目を通すこと。

■ 成績評価方法・基準

ミニットペーパーと中間テスト、試験は後日添削してフィードバッグする。

評価：①ミニットペーパーと中間テスト等の受講態度に対し50%、②本試験50%とする。（本試験は持ち込み不可とする）

5回を超えて欠席した者は評価対象としない。

■ 教科書

被服整理学　日本衣料管理協会　1200円

■ 参考書

繊維製品の基礎知識ｼﾘｰｽﾞ日本衣料管理協会　入学時購入済

必要に応じて授業前にプリントを配布する。

参考となるURL　消費者庁ホームページ（https://www.caa.go.jp/）

■ 備考

質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

評価やミニットペーパー、中間テスト等は1回目の授業で説明する。

都合により、授業計画の順番等を変更することがある。

被服整理学実験

(11137)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（45 + 30）
対象学科：服専２年
授業形態：実験　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
井　上　美　紀

■ 授業の概要

被服整理学で学んだ基礎的な理論について実験を通してさらに理解を深められるように、洗濯用洗剤の主成分である界面活性剤に関する実験、ビルダーや添加剤に関する実験、洗濯用水に関する実験、洗浄実験、漂白・増白実験、柔軟加工・糊加工・仕上げ加工実験について主に教授する。特に界面活性剤に関する実験では、製造方法、用途、洗浄作用についても取り上げ教授する。実験は全てグループワーク（以下GW）とする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・被服整理に関する高度な知識・技術を身につける。			0.3		0.5		0.2		
・実験を通じ、論理的思考力や倫理観等を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：概要、実験上の注意、器具の使い方、界面活性剤の性質と汚れの除去作用実験　GW	実験器具の使い方を見直す。
第２回　界面活性剤の製造①　陰イオン系合成界面活性剤　GW	被服整理学の内容について見直す。プリントに目を通す。
第３回　界面活性剤の製造②　石けん　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。次時の項目について被服整理学テキストとノートに目を通す。
第４回　界面活性剤の分類と用途　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。次時の項目について被服整理学テキストとノートに目を通す。
第５回　表面張力の測定、臨界ミセル濃度の推定　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。次時の項目について被服整理学テキストとノートに目を通す。
第６回　洗濯用水の硬度、ビルダーと添加剤の作用　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。次時の項目について被服整理学テキストとノートに目を通す。
第７回　洗浄実験①　洗浄準備、洗浄　GW	プリントに目を通す。
第８回　洗浄実験②　洗浄力の測定、洗浄による被洗物への影響　GW	プリントに目を通す。
第９回　洗浄実験③　データの整理と解析　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。次時の項目について被服整理学テキストとノートに目を通す。
第10回　漂白実験①　漂白剤の型の分類と用途　GW	プリントに目を通す。
第11回　漂白実験②　漂白による被洗物への影響　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。次時の項目について被服整理学テキストとノートに目を通す。
第12回　漂白実験③　漂白力の測定 商業洗濯　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。次時の項目について被服整理学テキストとノートに目を通す。
第13回　仕上げ加工①　柔軟加工、糊加工　GW	プリントに目を通す。
第14回　仕上げ加工②　アイロン仕上げ　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。
第15回　おわりに：実験のまとめ、レポート校正	全範囲と、レポート校正箇所を振り返る。

■ 履修上の注意

安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねて臨むこと。
必要に応じ電卓を持参する。（携帯電話は不可）
レポートは、指定の実験ノートとファイルを使用する。実験毎にレポート提出を求めるので、指定期日まで提出すること。

■ 成績評価方法・基準

評価：①実験が終了する毎に提出するレポートを適切にまとめ、考察することに対し50%
②事前準備をして安全に作業し、グループで協力しながら実験結果を出す受講態度に対し50%
ルーブリック評価は第1回の授業で説明する。レポートは後日添削してフィードバッグする。

■ 教科書
被服整理学　日本衣料管理協会　1200円（2年前期購入済）

■ 参考書
必要に応じて紹介する。授業前にプリントを配布する

■ 備考
履修者の実験進捗状況等の都合により、授業計画の順番や内容を変更することがある。
質問は、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。
評価と実験の進め方は1回目の授業で説明する。
5回を超えて欠席した者、レポートや課題が未提出の者、指定期限を過ぎての提出の者は、評価の対象としない。
※一部実験に変えて研修を実施する場合もある。（費用各自負担）

染色加工学

(11138)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
井　上　美　紀

■ 授業の概要

繊維製品に関する染色加工について主に教授する。染色では染色理論、天然染料、合成染料、測色と表色、染色堅牢度、染色加工における事故等について解説する。加工では、外観風合い改良、機能性付与・性能向上を目的とする加工等、様々な加工方法を教授する。さらに、染色加工に関連する安全性や環境への影響についても教授する。一部グループワーク(以下GW）を実施する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・染色・加工に関する基礎的な知識を身につける。			0.7		0.3				

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：生活の中の色、色材、染色加工の歴史	テキスト第1章と3章に目を通す。 色材について調べる。
第２回　染色プロセス	ミニットペーパー、第2章と5章に目を通す。 繊維～製品に至る生産工程を振り返る。
第３回　染色理論　染着機構	ミニットペーパー、第5章と4章に目を通す。
第４回　染料①　合成染料	ミニットペーパー、第4章に目を通す。 洋裁店等で入手可能な合成染料を調べる。
第５回　代表的な合成染料と各種繊維の染色方法、染色条件	ミニットペーパー、第4章と7章に目を通す。
第６回　染料②　天然染料、代表的な天然染料と染色方法	ミニットペーパー、第7章に目を通す。これまでの学習内容を振り返る。身近な天然染料を調べる。
第７回　伝統的な染法・文様、中間テスト①	中間テストの内容を振り返る。 伝統文様の意味を調べる。
第８回　工業染色技術、染色機	ミニットペーパー、第6章と8章に目を通す。
第９回　捺染、捺染染色機	ミニットペーパー、第6章に目を通す。 染色品のいくつかについてその技法を調べる。
第10回　測色、染色堅牢度①　試験項目と試験方法	ミニットペーパー、第8章と9章に目を通す。 第一部のテキストで測色について調べる。
第11回　染色堅牢度②　評価　ＧＷ	ミニットペーパー、第10章に目を通す。
第12回　事故事例品の原因追及と対策　ＧＷ	ミニットペーパー、第12章に目を通す。 提示した事故事例品の原因～対策までを検討する。
第13回　加工①　外観・風合い加工等	ミニットペーパー、第12章に目を通す。これまでの学習内容を振り返る。
第14回　加工②　機能性付与加工等、中間テスト②	中間テストの内容を振り返り、第11章に目を通す。 アイテムのいくつかについてその加工方法を調べる。
第15回　染色加工と安全性、おわりに：本講義のまとめ	これまでの学習内容を振り返る。
第16回　本試験	全範囲を振り返る。

■ 履修上の注意

授業終了時にミニットペーパー、単元毎に中間テストを行うので振返りを大切にする。
身の回りの染色品に目を向ける。事前事後には指定のテキスト範囲に目を通すこと。
選択科目であるがTA取得希望者は必ず履修する。
√機能付電卓（携帯電話不可）を用意する。持参回は授業時に指示する。

■ 成績評価方法・基準

評価：①ミニットペーパー、中間テスト等の受講態度に対し50％
②本試験に対し50％（指定教科書、配布プリントとノート（自筆のもの）を持ち込み可とする）

ミニットペーパーと中間テスト、試験は後日添削してフィードバッグする。
5回を超えて欠席した者は評価対象としない。

■ 教科書
染色加工学　日本衣料管理協会　（2200円）

■ 参考書
繊維製品の基礎知識シリーズ第1部　日本衣料管理協会　入学時購入済

■ 備考
質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。
評価は1回目の授業で説明する。
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。

染色加工学実験

(11139)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（45 + 30）
対象学科：服専３年
授業形態：実験　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
井　上　美　紀

■ 授業の概要

染色加工学で学んだ知識をさらに理解を深められるように、また工業的な視点で、染色実験、染色堅牢度試験、加工実験を主に教授する。染色実験では、染料の合成、天然染料による染色方法、合成染料による染色方法、測色、染着率の測定方法について教授する。また染色堅牢度試験では、染色堅牢度の測定方法とその評価方法について、加工実験では風合い改善、性能向上等、繊維の特性に応じた加工方法について教授する。実験は全てグループワーク（以下GW）とする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・染色加工に関する高度な知識・技術を身につける。	
・実験を通じ、論理的思考力や倫理観等を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：実験の進め方、グループ構成、染料の合成実験　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時の実験項目に目を通す。
第２回　天然染料による染色①　染料の抽出と染色・媒染　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時の実験項目に目を通す。
第３回　天然染料による染色②　特殊な方法での染色①　GW	プリントに目を通す。
第４回　天然染料による染色③　特殊な方法での染色②　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時の実験項目に目を通す。
第５回　合成染料による染色①-1　各種繊維の染色性、染色条件　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時の実験項目に目を通す。
第６回　合成染料による染色①-2　染着率の測定　GW	プリントに目を通す。
第７回　合成染料による染色②　代表的な染料と染色、染色見本作成　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時の実験項目に目を通す。
第８回　合成染料による染色③　②の続き、測色　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時の実験項目に目を通す。
第９回　染色堅牢度試験①　試料の準備　GW	プリントに目を通す。第11回のデザイン案を検討する。
第10回　染色堅牢度試験②　測定と評価　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時の実験項目に目を通す。第11回のデザイン案を完成させる。
第11回　捺染実験①　製版、印捺　GW	プリントに目を通す。
第12回　捺染実験②　印捺続き、製品への展開　GW	製品を完成させる。テキストで次時の実験項目に目を通す。
第13回　加工実験①　繊維の溶解性を利用した加工　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時の実験項目に目を通す。
第14回　加工実験②　繊維の特性を生かした加工　GW	レポートを作成しプリントに目を通す。テキストで次時の実験項目に目を通す。
第15回　おわりに：実験のまとめ、レポート校正	全範囲とレポート校正箇所を振り返る。

■ 履修上の注意

安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねて臨むこと。
必要に応じ電卓を持参する（√機能付電卓、携帯電話不可）。
レポートは、指定の実験ノートとファイルを使用する。実験レポートは指定期日まで提出すること。
選択科目ではあるが、TA資格取得希望者は必ず履修すること。

■ 成績評価方法・基準

実験が終了する毎に提出するレポートを適切にまとめ、考察することに対し50%
事前準備をしてグループで協力しながら実験結果を出すことに対し50%
ルーブリック評価は第1回の授業で説明する。レポートは後日添削してフィードバッグする。

■ 教科書

染色加工学、日本衣料管理協会　(2年次に購入済)

■ 参考書

繊維製品の基礎知識シリーズ第1部　日本衣料管理協会　入学時購入済

授業時にプリントを配布する。

■ 備考

実験作業状況等により、授業計画の順番等を変更することがある。

質問は、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

評価と実験の進め方は1回目の授業で説明する。

5回を超えて欠席した者、レポートや課題が未提出の者、指定期限を過ぎての提出の者は、評価の対象としない。

※一部実験に変えて研修を実施する場合もある。（費用各自負担）

染色学実習

(11140)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（90 + 30）
対象学科：服専３年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子

■ 授業の概要

日本の伝統的染色技法は、世界的にみても類のない繊細で巧みな技術が駆使されているものである。本実習では、各種の伝統的染色技法の中から、絞り染め・ろうけつ染め・友禅染・型染め・描き更紗・藍染めを取り上げ、染色作品制作の基礎を指導する。これまでに習得した繊維や染料についての知識を生かしながら、前期は主に浸染の技法、後期は捺染の技法を行うことで、それぞれの染色技法の特徴を理解させ、伝統工芸への理解を深めさせる。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

・日本の伝統的染色技法の基本的技法を習得する。
・伝統工芸への理解を深める。
・これまでに習得した繊維や染料に関する知識を応用できる。

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　①ガイダンス、②伝統的染色技法、③染色用具・染料・助剤、④図案	板書内容を復習する、絞り染め基礎作品の下絵作成
第２回　工芸染色① 浸染―絞り染めの基礎（縫い絞り）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第３回　〃　〃　（直接染料による浸染）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第４回　〃　〃　（仕上げ）、有松絞りDVD鑑賞	ファイルまとめ、絞り染め応用作品の下絵作成
第５回　工芸染色② 絞り染め応用作品制作（縫う）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第６回　〃　〃　（絞る）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第７回　〃　〃　（反応染料による浸染）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第８回　〃　〃　（仕上げ）	ファイルまとめ、ろうけつ染め基礎作品の下絵作成
第９回　工芸染色③ 浸染―ろうけつ染めの基礎（防染）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第10回　〃　〃　（建染染料による浸染）	ファイルまとめ、ろうけつ染め応用作品の下絵作成
第11回　工芸染色④ ろうけつ染め応用作品制作（ろう描き）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第12回　〃　〃　（反応染料による彩色）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第13回　〃　〃　（ろう伏せ）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第14回　〃　〃　（建染染料による浸染）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第15回　〃　〃　（脱ろう・仕上げ）	ファイルまとめ
第16回　工芸染色⑤ 捺染―友禅染の基礎・京友禅DVD鑑賞・下絵	レポート作成、友禅染作品の下絵作成
第17回　〃　手描き友禅作品制作　（青花・糸目糊）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第18回　〃　〃　（彩色）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第19回　〃　〃　（糊伏せ）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第20回　〃　〃　（地染め）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる

第21回	〃　（蒸し・水元・仕上げ）・型染めDVD鑑賞	ファイルまとめ、レポート作成
第22回	工芸染色⑥ 捺染―型染の基礎・下絵	制作ノート記入、型染めの下絵作成
第23回	〃　型染作品制作　（型彫り）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第24回	〃　型染作品制作　（型彫りつづき）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第25回	〃　〃　（紗張り・型置き）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第26回	〃　〃　（彩色・糊伏せ）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第27回	〃　〃　（引き染）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第28回	〃　（蒸し・水元・仕上げ）、更紗の作品鑑賞	ファイルまとめ、描き更紗作品の下絵作成
第29回	工芸染色⑦ 捺染―描き更紗作品制作　（彩色）	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第30回	〃　〃　（蒸し・水元・仕上げ）	制作ノート記入、ファイルまとめ
第31回	各種染色技法と繊維製品の取り扱い・授業のまとめ	ファイルまとめ

■ 履修上の注意

染色加工学の単位を修得していることが望ましい。遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。時間内に進められなかった箇所は次回までに必ず行ってください。制作ノートはその都度きちんとまとめてください。材料費として2，000円程度を徴収します。

■ 成績評価方法・基準

提出物（制作品・ファイル）による評価を55%、受講状況（制作ノート・参加状況）を45%として評価します。なお、提出物や制作ノートはコメントを付して後日返却することで、フィードバックとします。

■ 教科書

なし

■ 参考書

〔きもののたのしみ〕〔全日本きもの振興会 編〕〔世界文化社〕〔2，200-〕
〔ようこそきものの世界へ〕〔長崎　巌〕〔東京美術〕〔2，420-〕

■ 備考

ルーブリックを授業初回に配布するので、学習目標としてください。受講生の進度によりシラバス内容が前後する事があります。質問等はオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

テキスタイルデザインⅠ

(11141)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（45 + 15）
対象学科：服専３年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子　　横　田　美　和

■ 授業の概要

衣服の企画・設計にあたっては、使用目的や用途にあった物性・風合い･色柄を備えたテキスタイルを適切に設計・選択できる能力が不可欠である。そこで本実習では、被服繊維学・被服材料学・色彩学・染色加工学等で習得したテキスタイルに関する基礎知識をもとに、パソコン・布帛用インクジェットプリンタを用いたテキスタイルデザイン実習と、卓上手織り機による織布実習を通して、目的・用途に応じた織物および色柄の形成方法について指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・用途や目的に合った物性・風合い・色柄を備えたテキスタイルを適切に設計・選択するための知識と技術を身に付ける。 ・これまでに習得した基礎知識をテキスタイルに応用できる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テキスタイルデザインの概要　(川又)	配布プリントを熟読する
第２回　繊維素材とテキスタイルデザイン、ドローソフトの基本操作（川又)	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第３回　織編と編物、ドローソフトによる基本的なリピート柄作成（川又)	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第４回　布地の風合い、フォトレタッチソフトによる織柄表現(川又)	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第５回　代表的な織物の名称と組織(専用ｿﾌﾄ使用)（川又)	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第６回　テキスタイルデザイン専用ｿﾌﾄによる布帛の企画（川又)	制作ノート記入、終わらなかった作業を終わらせる
第７回　布帛用インクジェットプリンタによる布帛の捺染（川又)	制作ノート、プレス処理を行う
第８回　縫製・仕上げ（川又)	製作ノート完成、作品完成
第９回　テーブルセンター制作：デザイン・織物計画（横田)	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる
第10回　テーブルセンター制作：糸密度・糸の太さと織物の関係、糸巻き（横田)	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる
第11回　〃　：糸の種類・組織と風合いの関係、整経（横田)	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる
第12回　〃　：筬通し（横田)	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる
第13回　〃　：綜絖通し・張力調整（横田)	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる
第14回　〃　：織り(平織り)（横田)	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる
第15回　〃　：織り(綾織)（横田)	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる
第16回　〃　：仕上げ（横田)	プリント記入、終わらなかった作業を終わらせる

■ 履修上の注意

遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。実習費として実費(1，000円程度)を徴収します。宿題がある場合や、時間内に進められなかった箇所は必ず次回までに行ってください。

■ 成績評価方法・基準

提出物（制作品等）による評価を55%、受講状況（制作ノート・プリント）を45%として評価します。なお、提出物や制作ノートは添削して後日返却することでフィードバックとします。

■ 教科書

授業時にプリントを配布する

■ 参考書

〔ﾃｷｽﾀｲﾙ用語辞典〕〔成田典子〕〔ﾃｷｽﾀｲﾙﾂﾘｰ〕〔3，600円〕

■ 備考

ルーブリックを配布するので、学習目標としてください。受講生の習熟度によりシラバス内容を変更する事があります。なお、質問等については、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

テキスタイルデザインⅡ

(11142)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（45 + 30）
対象学科：服専４年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子

■ 授業の概要

衣服の企画・設計にあたっては、使用目的や用途にあった物性・風合い･色柄を備えたテキスタイルを適切に設計・選択できる能力が不可欠である。そこで本実習では、テキスタイルデザインⅠで習得したテキスタイルデザインに関する基礎知識と基本的な技術を発展させるために、主にコンピュータグラフィックスによる手法を取り上げ、使用目的に応じたテキスタイルを企画・製作する方法、デジタルデータを活かした布地のデザイン方法について指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・用途や目的に合った物性・風合い・色柄を備えたテキスタイルを適切に設計・選択するための知識と技術を身に付ける。 ・これまでに習得した基礎知識をテキスタイルに応用できる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　授業の進め方、テキスタイルの製作方法	配布プリントを熟読する。ワークシートをまとめる。
第２回　リピート柄の基本	制作ノートを記入し、終わらなかった作業を終わらせる。
第３回　課題製作①（汎用ソフトによるリピート柄作成）	制作ノートを記入し、終わらなかった作業を終わらせる。
第４回　課題製作②（テキスタイル専用ソフトによるリピート柄作成）	制作ノートを記入し、終わらなかった作業を終わらせる。
第５回　課題製作③（用布の出力：インクジェット昇華転写捺染）	制作ノートを記入し、終わらなかった作業を終わらせる。
第６回　課題製作④（ファブリックパネル製作）	制作ノートを記入し、期日までに作品を完成させる。
第７回　課題製作⑤（シャツ型紙の準備）	事前に、ｱﾊﾟﾚﾙCADで作成したシャツ型紙をEPS形式で保存したデータを準備しておく。制作ノート記入。
第８回　課題製作⑥（オリジナルパターンのデザイン）	制作ノートを記入し、終わらなかった作業を終わらせる。
第９回　課題製作⑦（オリジナルパターンの送り付け）	制作ノートを記入し、終わらなかった作業を終わらせる。
第10回　課題製作⑧（マッピング）	制作ノートを記入し、終わらなかった作業を終わらせる。
第11回　課題製作⑨（用布の出力：ダイレクトインクジェット捺染）	制作ノート記入。副資材準備。
第12回　課題製作⑩（熱処理、裁断）	制作ノートを記入し、終わらなかった作業を終わらせる。
第13回　課題製作⑩（縫製：前立て、ヨーク）	制作ノート記入し、、終わらなかった作業を終わらせる。
第14回　課題製作⑩（縫製：衿、袖）	制作ノート記入し、、終わらなかった作業を終わらせる。
第15回　課題製作⑩（縫製：脇、裾、留め具）	制作ノート記入し、期日までに作品を完成させる。

■ 履修上の注意

テキスタイルデザインⅠの単位を取得していること。遅刻・欠席をしないこと。他の人に迷惑をかけないこと。実習費として実費（2，500円程度）を徴収します。宿題がある場合や、時間内に進められなかった箇所は必ず次回までに行ってください。

■ 成績評価方法・基準

提出物（作品等）による評価を55%、受講状況（ミニットペーパー・制作ノート等）を45%として評価します。なお、提出

物や制作ノートはコメントを付して後日返却することでフィードバックとします。

■ 教科書
プリントを配布する。

■ 参考書
〔ﾃｷｽﾀｲﾙ用語辞典〕〔成田典子〕〔ﾃｷｽﾀｲﾙﾂﾘｰ〕〔3, 600円〕
〔Digital Textile Design 2nd Edition〕〔M.Bowles & C.Isaac〕〔Laurence King Publishing〕〔5, 638円〕

■ 備考
初回にルーブリックに配布するので、学習目標としてください。受講生の習熟度によりシラバス内容を変更する事があります。なお、質問等については、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

ファッションビジネス論

(11143)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
内　海　陽　子

■ 授業の概要
アパレルを中心としたファッションビジネスシーンで活躍できる基礎知識を教授する。
ファッションビジネスの特性と歴史、その構成産業の構造を理解し、アパレルメーカーとアパレル小売業の現状と問題点を国内外から分析し、今後の展望を考察する。
当講義では、大手アパレルメーカーで、年間３０億円以上の商品バイイングマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在も、ファッション業界で多岐に渡って、活動している講師が担当する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・ファッションビジネスの特性、構造について理解でき、また考察することが出来る。			0.2		0.4		0.2		0.2
・アパレルメーカー・アパレル小売業の現状について理解でき、考察することが出来る。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ファッションビジネスの特性（企業戦略）	指定された店舗に行き観察する
第２回　ファッションビジネスの特性（消費行動）	指定された店舗に行き観察する
第３回　ファッション史　①（海外ブランド）	海外ブランドについて調べる
第４回　ファッション史　②（日本ブランド）	国内ブランドについて調べる
第５回　ファッション史　③（日本ブランド）	国内ブランドについて調べる
第６回　ファッションビジネスの職種　①（マーケティング）	講義内容を復習する
第７回　ファッションビジネスの職種　②（マーチャンダイジング）	講義内容を復習する
第８回　ファッションビジネスの職種　③（営業・ロジスティック）	講義内容を復習する
第９回　ファッション素材産業の概要	講義内容を復習する
第10回　アパレル産業の概要　①（海外ブランド）	指定された店舗に行き観察する
第11回　アパレル産業の概要　②（国内大手ブランド）	指定された店舗に行き観察する
第12回　アパレル産業の概要　③（SPA）	指定された店舗に行き観察する
第13回　アパレル産業流通の仕組み　①（ＳＰＡ）	講義内容を復習する
第14回　アパレル産業流通の仕組み　②（インターネット通販）	講義内容を復習する
第15回　日本のファッションビジネス環境の課題と展望	講義内容を復習する

■ 履修上の注意
ファッションビジネスは日々変化しています。実社会において即実践できる内容で講義を構成しているので講義で学んだことを常に意識しつつ感性を磨き続けること。

■ 成績評価方法・基準
課題レポート（50%）事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）で総合評価
提出された課題レポートは後日フィードバックする。

■ 教科書
〔ファッションビジネスの基礎知識〕〔日本衣料管理協会〕〔2，200円〕

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については、授業終了後受け付ける。

アパレル品質管理論

(11144)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（15 + 30）
対象学科：服専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
井　上　美　紀

■ 授業の概要

繊維製品に関する品質管理について主に教授する。品質管理の基本、品質管理に使う様々な道具と使い方、繊維製品に関連する法令についても解説する。また、繊維製品についての品質管理は、企画設計から流通に至る各工程で行われるため、工程管理の手法や、製品検査についても解説する。さらに授業では、事例を通して原因究明、解決のための手順、問題や苦情発生の未然防止策などについても教授する。一部グループワーク（以下GW）を含む。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・品質管理に関する高度な専門知識を身につける。 ・論理的思考力やコミュニケーション能力、倫理観、責任感等を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：品質とは　GW 繊維製品に関連する法令、近年の法令改正	テキスト第3部6章に目を通す。 JISを中心とした法令改正を調べる。
第２回　品質管理 品質管理の実際①　管理の基本	ミニットペーパーを振り返る。3部6章、第1部2章に目を通す。
第３回　品質管理の実際②　管理の進め方	ミニットペーパーを振り返る。テキスト第3部6章に目を通す。
第４回　品質管理の実際③　QCの7つ道具　GW	ミニットペーパーを振り返る。QCの7つ道具を練習する。テキスト第3部6章に目を通す。
第５回　品質管理の実際④　新QCの7つ道具　GW	ミニットペーパーを振り返る。新QCの7つ道具を練習する。
第６回　品質管理の実際⑤　繊維製品における手法・検査　GW	ミニットペーパーを振り返る。検査手法を練習する。
第７回　繊維製品に関連する事例研究、品質保証	ミニットペーパーを振り返る。テキスト第3部6章とこれまでの学習内容を振り返る。
第８回　おわりに：本講義のまとめ、最終試験	これまでの学習内容と試験内容を振り返る。

■ 履修上の注意

テキストに目を通して授業に臨むこと。ミニットペーパーを毎時間行う。
√機能付電卓（携帯電話不可）、定規、色ペン、メジャー、衣服（上下）を用意する。持参回は掲示にて指示する。

■ 成績評価方法・基準

評価：①ミニットペーパー・課題の取組み状況等、受講態度に対し50％
②最終試験に対し50％
（最終試験は√付電卓（携帯不可）、テキスト、配布プリントとノート（自筆のもの）を持ち込み可とする）
評価、ミニットペーパー、課題は1回目の授業で説明する。ミニットペーパーと課題、試験は添削し後日フィードバッグする。

■ 教科書

繊維製品の基礎知識シリーズ　3冊セット　日本衣料管理協会　入学時購入済

■ 参考書

補足資料としてプリントを配布する。

■ 備考

質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。
都合により授業計画の順番を変更することがある。
2回を超えて欠席した者、課題が未提出の者、指定期限を過ぎての提出の者は、評価の対象としない。

アパレル消費科学

(11145)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（15 + 30）
対象学科：服専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
井　上　美　紀

■ 授業の概要

アパレル消費科学では、衣生活の課題やその対応、今後の衣生活のあり方について主に教授する。特に、衣生活を通して循環型社会の構築や持続可能な社会の構築を目指し、現在私たちが直面している衣生活の課題を把握し、これからの衣生活での消費行動を考察できるようにする。衣生活の課題では、SDGs、地球環境と被服整理、環境配慮型の繊維製品、製品エコロジーと消費、災害時の消費行動・防災等を取り上げ解説する。さらに各自が衣生活の課題を設定し解決や対策方法を立案するまでの手段についても教授する。一部グループワーク（以下GW、ディスカッション、プレゼン）を含む。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・アパレル消費科学に関する知識を身につける。 ・コミュニケーション能力、論理的思考力、倫理観、責任感を身につける。	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに、消費と消費科学 循環型社会・持続可能な衣生活、SDGs　GW	循環型社会・持続可能な衣生活、SDGsについて調べる。
第２回　最終課題の提示 衣生活の課題と消費のあり方①　地球環境と被服整理	被服整理の課題を調べる。ミニットペーパーを振り返る。
第３回　衣生活の課題と消費のあり方②　地球環境配慮型の繊維製品	環境配慮型製品を調べる。ミニットペーパーを振り返る。
第４回　衣生活の課題と消費のあり方③　製品エコロジーと消費	環境配慮型製品と5Rについて調べる。ミニットペーパーを振り返る。
第５回　衣生活の課題と消費のあり方④　災害時の消費行動・防災　GW （一部、被服整理学・染色加工学実験に移動して実施）	災害に関連する配布資料に目を通す。
第６回　衣生活の課題と消費のあり方④　防災 〃　⑤　その他の課題　GW	ミニットペーパーを振り返る。
第７回　衣生活の課題とSDGs　解決までのプロセス　GW	これまでの課題とSDGsの関連性を調べる。最終課題の項目とプレゼン内容を検討する。
第８回　衣生活における課題の解決策　GW（プレゼンとディスカッション） おわりに：授業の振り返りとまとめ	これまでの学習内容を振り返る。

■ 履修上の注意

遅刻・欠席をせず、課題は計画通りに進めて次時の授業に臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

評価：①ミニットペーパー、課題の進行状況等の受講態度に対し50%、
②最終課題（プレゼンとディスカッション）に対し50%
ルーブリック評価は第1回の授業で説明する。ミニットペーパーや課題は後日添削して返却しフィードバッグする。

■ 教科書

繊維製品の基礎知識シリーズ　1部と2部　日本衣料管理協会　入学時購入済

■ 参考書

取り組む課題に応じて紹介する。
補足資料としてプリントを配布する。
参考となるURL　環境省ホームページ（https://www.env.go.jp/index.html）

■ 備考

質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。
評価や提出物等は1回目の授業で説明する。

都合により、授業計画の順番、取り上げる衣生活の課題項目等を変更することがある。
2回を超えて欠席した者、課題が未提出の者、指定期限を過ぎての提出の者は、評価の対象としない。

消費者調査法

(11146)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（30 + 15）
対象学科：服専４年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

消費者調査法では，消費者の購買行動やファッション・トレンドなどの調査を実施し，その結果を正しく理解するための手法について学びます。

本講義では，消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かし「地域の産業として，ファッション関連分野で働くヒト，消費（購入）するヒトの幸せな暮らしを実現していくための消費者調査」という視点から，統計調査に求められる基礎的な知識を教授し，ポスト・コロナ時代の消費者の行動変容を読み解くための統計分析力の修得をめざしている。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1)消費者調査の手法を理解し，統計処理ができる	
・2)消費者調査の結果を正しく理解・考察することができる	
・3)プライバシー保護の重要性を理解し，説明できる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テーマ：消費者調査とは？ 概　要：授業のすすめ方・評価など	授業計画の内容やテキストなどを参考にして，予習すること。 講義ノートを読み直し，学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第２回　テーマ：消費者調査の種類と方法Ⅰ 概　要：各種分類体系（利用目的・情報の種類・量と質）を学ぶ	同　上
第３回　テーマ：消費者調査の種類と方法Ⅱ 概　要：質問紙調査・観察法，動機調査を学ぶ	同　上
第４回　テーマ：質問票の作成Ⅰ 概　要：質問紙調査法の手順について学ぶ	各自課題に取り組む
第５回　テーマ：質問票の作成Ⅱ 概　要：質問票作成の手順と作成方法について学ぶ	同　上
第６回　テーマ：調査対象者の選び方Ⅰ 概　要：全数調査・標本調査，母集団と標本の違いを学ぶ	同　上
第７回　テーマ：調査対象者の選び方Ⅱ 概　要：標本抽出法を学ぶ	授業計画の内容やテキストなどを参考にして，予習すること。 講義ノートを読み直し，学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第８回　テーマ：調査対象者の選び方Ⅲ 概　要：標本誤差と標本数を学ぶ	同　上
第９回　テーマ：集計と分析Ⅰ 概　要：調査データの集計を学ぶ	同　上
第10回　テーマ：集計と分析Ⅱ 概　要：集計結果の分析手法を学ぶ	同　上
第11回　テーマ：衣料の消費実態調査Ⅰ 概　要：調査概要を説明するときの基本を学ぶ	同　上
第12回　テーマ：衣料の消費実態調査Ⅱ 概　要：消費実態調査・トピックス調査の事例を学ぶ	同　上
第13回　テーマ：総合演習（質問紙調査法）Ⅰ 概　要：調査企画，調査票の作成を実践する	各自課題に取り組む
第14回　テーマ：総合演習（質問紙調査法）Ⅱ 概　要：調査の実施，データ集計・分析を実践する	同　上
第15回　テーマ：総合演習（質問紙調査法）Ⅲ 概　要：各自の調査結果を発表し，他者の発表を講評する	所定時間内に調査結果を簡潔に発表する。 また，他の発表者の調査結果について講評する。

■ 履修上の注意

2/3以上の出席がない場合には，単位を取得することはできない。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)に基づき評価する。

成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問，グループワークでのリーダーシップなど]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。

なお，課題については，授業中にフィードバックをします。

※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔新版 消費者調査法〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔1260円〕

〔ファッションビジネスの基礎知識〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔2200円〕

■ 参考書

授業中に適宜指示する。

■ 備考

【事前もしくは同時に受講して欲しい講義】

「マーケティング論」

【質問・相談など】

質問や相談などは，授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。

【重要事項説明】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，オンデマンドやハイブリッド型授業などの代替措置を講じるほか，授業の順番　や内容を変更することがありますので，ご承知おき下さい。

ファッション販売論

(11147)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
内　海　陽　子

■ 授業の概要
アパレルを中心としたファッションビジネスシーンで活躍できる基礎知識を教授する。
前期で学んだ「ファッションビジネス論」を基本に応用範囲を広げ、商品の仕入れから販売までの流れを学び、ファッション小売業の現状と課題を読み取り、今後の展望を考察する。
当講義では、大手アパレルメーカーで、年間３０億円以上の商品バイイングマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在も、ファッション業界で多岐に渡って、活動している講師が担当する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・商品の仕入れから販売までの基礎知識を身につける。			0.2		0.4		0.2		0.2
・ファッション小売業の現状と課題を読み取り、今後の展望を考察する。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ファッション小売業の役割と歴史	講義内容を復習する
第２回　ファッション小売業の構造①（百貨店と量販店）	指定された店舗に行き観察する
第３回　ファッション小売業の構造②（ショッピングセンター）	指定された店舗に行き観察する
第４回　ファッション小売業の構造③（SPA，セレクトショップ）	指定された店舗に行き観察する
第５回　ファッション小売業の構造④（無店舗販売）	講義内容を復習する
第６回　ファッション小売業の職種	講義内容を復習する
第７回　ファッション小売業の経営戦略①（事業計画と出店戦略）	講義内容を復習する
第８回　ファッション小売業の経営戦略②（マーケティング）	講義内容を復習する
第９回　ファッション小売業の販売①（販売の基礎）	指定された店舗に行き観察する
第10回　ファッション小売業の販売②（販売の技術）	指定された店舗に行き観察する
第11回　ファッション小売業の売り場演出①（VMDの基礎）	指定された店舗に行き観察する
第12回　ファッション小売業の売り場演出②（VMDの基礎）	指定された店舗に行き観察する
第13回　ファッション小売業の売り場演出③（VMDの応用）	指定された店舗に行き観察する
第14回　ファッション小売業の仕入れと計数	講義内容を復習する
第15回　ファッション小売業の商品開発とプロモーション戦略	講義内容を復習する

■ 履修上の注意
ファッションビジネスは日々変化しています。実社会において即実践できる内容で講義を構成しているので講義で学んだことを常に意識しつつ感性を磨き続けること。

■ 成績評価方法・基準
課題レポート（50%）事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）で総合評価
提出された課題レポートは後日フィードバックする。

■ 教科書
〔ファッション販売3　ファッション販売能力検定試験3級公式テキスト〕〔日本ファッション教育振興協会〕〔2，310円〕

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については、授業終了後受け付ける。

コーディネート論

(11148)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
内　海　陽　子

■ 授業の概要
アパレルを中心としたファッションビジネスシーンで活躍できる基礎知識を教授する。
ファッションコーディネートとはあらゆるモノの組み合わせに伴う調整・調和などの技術提案でありファッションコーディネートに必要な基本的な知識と技術を学び、コーディネートプランを作成する。
当講義では、大手アパレルメーカーで、年間３０億円以上の商品バイイングマーケティング戦略、人財・店舗開発に携わり、現在も、ファッション業界で多岐に渡って、活動している講師が担当する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・ファッションコーディネートの基礎知識を学ぶ ・ファッションコーディネートの基礎的な技術を学び、実際にコーディネートプランを作成する	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ファッションコーディネートとは	講義内容を復習する
第２回　ファッションコーディネート　スペシャリストの特性	講義内容を復習する
第３回　ファッションと流行	トレンドについてリサーチする
第４回　ファッショントレンドサイクル	トレンドについてリサーチする
第５回　ファッション情報①　ファッション情報の種類	講義内容を復習する
第６回　ファッション情報②　時系列フロー	講義内容を復習する
第７回　ファッション情報③　発信機関　イベント	講義内容を復習する
第８回　ファッション情報④　20世紀のファッション史	講義内容を復習する
第９回　コーディネートの基本的な知識と技術	講義内容を復習する
第10回　イメージに視点を置いたコーディネート	講義内容を復習する
第11回　素材に視点を置いたコーディネート	講義内容を復習する
第12回　ライフスタイルに視点を置いたコーディネート	講義内容を復習する
第13回　色彩に視点を置いたコーディネート	講義内容を復習する
第14回　アクセサリー・体型カバーに視点を置いたコーディネート	講義内容を復習する
第15回　ファッションコーディネートのまとめ	講義内容を復習する

■ 履修上の注意
ファッションビジネスは日々変化しています。実社会において即実践できる内容で講義を構成しているので講義で学んだことを常に意識しつつ感性を磨き続けること。

■ 成績評価方法・基準
課題レポート（50%）事前・事後学習を含む授業姿勢（50%）で総合評価
提出された課題レポートは後日フィードバックする。

■ 教科書
〔コーディネートテクニック　演出篇〕〔文化服装学院編〕〔学校法人文化学園文化出版局〕〔2，805円〕

■ 参考書
なし

■ 備考
質問等については、授業終了後受け付ける。

ファッションビジネス実務実習

(11149)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 60）
対象学科：服専1年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

ファッションビジネスは，私たちの暮らしや社会と深く関わりながら存在する。今後，この業界で働くためには，現場（仕事）で必要な能力を理解していくことが求められる。

本授業では，消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かし，①事前指導・②5日間程度の学外研修（講義＋職場見学，就業体験）・③事後指導を通じて，職場や地域社会で多様な人々と働くために必要な基礎的な力（社会人基礎力）」のなかでも，1)前に踏み出す力，2)考え抜く力，3)チームで働く力という3つの実践力を身につけさせる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1)前に踏み出す力を理解，実践できる			0.25		0.5		0.125		0.125
・2)考え抜く力の必要性を認識，実践できる									
・3)チームで働くことの重要性を認識，実践できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　テーマ：インターンシップとは？ 概　要：実習の概要・評価などの説明	事前に，業界や研修先事業所の情報を収集しておく。 なお，研修後には，講義や事業所見学の内容について，A4用紙2枚（1，600字）程度のレポートにまとめ，提出。
第2回　テーマ：事業所研修Ⅰ（令和3年8月上旬予定） 概　要：講義を通じて「ファッションビジネスの実際」を学ぶ	同　上
第3回　テーマ：事業所研修Ⅱ（令和3年8月上旬予定） 概　要：職場見学を通じて「現場のナマの声」を学ぶ	同　上
第4回　テーマ：履歴書作成Ⅰ 概　要：作成上の留意点を学ぶ	自己分析や企業研究を踏まえ，履歴書に必要事項を記入し，提出。
第5回　テーマ：履歴書作成Ⅱ 概　要：自己分析，企業研究（情報収集分析・店舗調査）を学ぶ	同　上
第6回　テーマ：事前指導 概　要：実習ノートの書き方・心構え・マナーを学ぶ	講義ノートを読み直し，学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第7回　テーマ：就業体験Ⅰ 概　要：3つの実践力を学ぶ	就業体験を通じて「学んだこと・気づいたこと」について実習ノートに毎日記入して，事業所(担当者の方)に提出。
第8回　テーマ：就業体験Ⅱ 概　要：3つの実践力を学ぶ	同　上
第9回　テーマ：就業体験Ⅲ 概　要：3つの実践力を学ぶ	同　上
第10回　テーマ：就業体験Ⅳ 概　要：3つの実践力を学ぶ	同　上
第11回　テーマ：就業体験Ⅴ 概　要：3つの実践力を学ぶ	同　上
第12回　テーマ：就業体験Ⅵ 概　要：3つの実践力を学ぶ	同　上
第13回　テーマ：就業体験Ⅶ 概　要：3つの実践力を学ぶ	同　上
第14回　テーマ：就業体験の振り返り・礼状作成 概　要：実践の振り返りと課題の整理	受入先企業への礼状および報告会の発表用資料を作成し，提出。
第15回　テーマ：まとめ 概　要：報告会の実施	発表を通じて，全体の振り返りを行う。

■ 履修上の注意

原則的に全出席（ただし，課題の未提出，実習中の態度不良や遅刻・欠席した場合，単位を取得できない）
事業所までの移動手段は，公共交通機関を利用し，交通費をはじめ諸経費は自己負担となります。
≪事業所での就業体験について≫
①期　間：令和4年2 ～ 3月予定 ※受入先事業所の指定日時
②内　容：接客販売，品質管理など
③注意点：受入先企業の面談結果によっては，受入可否の条件や事前事後指導などが追加されます。

■ 成績評価方法・基準
事業所研修・課題(30%) + 就業体験・実習ノート(50%) + 報告会(20%)にもとづき評価します。
成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問，グループワークでのリーダーシップなど]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。
※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書
〔ファッションビジネスの基礎知識〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔2200円〕

■ 参考書
必要に応じて紹介します。

■ 備考
【集中講義】
　開講日時は，掲示にて指示します。課題や実習ノートは，授業中あるいは後日添削し，返却します。
【質問・相談など】
　質問や相談などは，授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。
【重要事項説明】
　現時点において，新型コロナウイルス感染症の影響により，事業所でのインターンシップの受け入れが困難な状況が続いております。そのため，オンデマンドやハイブリッド型授業などの代替措置を講じるほか，授業の順番や内容を変更することがありますので，ご承知おき下さい。

マーケティング論

(11150)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

マーケティング論では，社会・経済の変化，消費者の購買行動やファッション・トレンドなどを調査・分析し，それらの結果をビジネスに活かすための考え方や手法などについて学びます。

本講義では，消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かし「顧客との関係に，価値を創造し，〈コミュニケーションにより〉価値を伝え，価値を届ける」という観点から，アパレル・ビジネス分野のマーケティング活動に求められる基礎的な知識の教授を通じて，ポスト・コロナ時代のビジネス感覚の修得をめざしています。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1)マーケティングの仕組みを理解し，説明できる			0.5		0.3		0.2		
・2)新たな時代の価値創造の担い手としての役割を理解できる									
・3)今後のアパレル・ビジネスのあるべき姿を説明できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テーマ：マーケティングとは？ 概　要：授業のすすめ方・評価など	授業計画の内容やテキストなどを参考にして，予習すること。 講義ノートを読み直し，学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第２回　テーマ：アパレル・ビジネスの仕組み 概　要：アパレル・ビジネスの特徴（業種・業態）を学ぶ	同　上
第３回　テーマ：アパレルとマーケティング 概　要：マーケティングの歴史的変遷を学ぶ	同　上
第４回　テーマ：マーケティング戦略 概　要：なぜ，市場創造から顧客価値の重視に転換した理由は？	同　上
第５回　テーマ：市場変化とその予測 概　要：日本のアパレル・ビジネスの盛衰に学ぶ	自分の好きなファッション・ブランドの出店戦略についてA4用紙2枚（1，600字以上）のレポートにまとめ提出。
第６回　テーマ：小売店出店戦略 概　要：他店舗戦略と限定出店戦略の違いを学ぶ	同　上
第７回　テーマ：価値の創造 概　要：対象顧客の重要性について学ぶ	インターネットを利用し，今年の秋・冬のファッション・トレンドについて調べ，A4用紙2枚（1，600字以上）のレポートにまとめ提出。
第８回　テーマ：商品企画 概　要：新商品の企画について，その必要性を学ぶ	同　上
第９回　テーマ：店舗の品揃え 概　要：商品構成とコーディネートの汎用性を学ぶ	自分の好きなファッション・ブランドの実店舗の品揃え・プライスゾーンを調べ，その取り組みに対する所感についてA4用紙2枚（1，600字）のレポートを作成し，提出。
第10回　テーマ：顧客満足と品揃え 概　要：プライスゾーンとプライスラインを学ぶ	同　上
第11回　テーマ：情報収集・分析と品揃え 概　要：情報収集・分析に基づく品揃えの重要性について学ぶ	同　上
第12回　テーマ：価値のコミュニケーション 概　要：企業のコミュニケーションについて学ぶ	「新たな時代の価値創造の担い手」という視点から，これまでの授業のなかで，最も印象に残ったことについて要約し，自らの考察を加えた上で，A4用紙2枚（1，600字以上）のレポートにまとめて提出。
第13回　テーマ：価値のデリバリー 概　要：イメージ価値の創造と伝達とは?	同　上
第14回　テーマ：ビジュアルマーチャンダイジング（VMD）戦略	同　上

	概　要：売り場づくりの工夫について学ぶ	
第15回	テーマ：まとめ	同　上
	概　要：顧客満足とクレーム対応	

■ 履修上の注意

2/3以上の出席がない場合には，単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)に基づき評価する。

成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問，グループワークでのリーダーシップなど]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。

なお，課題については，授業中にフィードバックをします。

※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔ファッションビジネスの基礎知識〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔2200円〕

■ 参考書

授業中に適宜指示します。

■ 備考

事前もしくは同時に受講して欲しい講義】

「キャリア開発Ⅳ」「消費者調査法」

【質問・相談など】

質問や相談などは，授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。

【重要事項説明】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，オンデマンドやハイブリッド型授業などの代替措置を講じるほか，授業の順番　や内容を変更することがありますので，ご承知おき下さい。

起業・会社経営論

(11151)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

起業・会社経営論では，環境問題や地域再生をはじめ，社会的課題を解決するための手段のひとつとして，ソーシャルビジネスの考え方や手法などについて学びます。

本講義では，消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かし「より良い社会づくりのためのマネジメント」という観点から，様々な事例研究を通じて，起業や会社経営に求められる基礎的な知識の教授を通じて，ビジネス（時代）感覚の修得をめざしています。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1)会社経営の仕組みを理解し，説明できる ・2)新たな時代の価値創造の担い手としての起業を理解できる ・3)今後の起業や会社経営のあるべき姿を説明できる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テーマ：社会的起業とは？ 概　要：授業のすすめ方・評価などの説明	授業計画やテキストを参考にして，予習すること。 講義ノートを読み直し，学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第２回　テーマ：ソーシャルビジネスとは？ 概　要：ソーシャルビジネスの活動領域や歴史・社会的背景を学ぶ	同　上
第３回　テーマ：ソーシャルビジネスの担い手Ⅰ 概　要：NPOの概要や意義について学ぶ	同　上
第４回　テーマ：ソーシャルビジネスの担い手Ⅱ 概　要：NPOの歴史や特徴について学ぶ	同　上
第５回　テーマ：ソーシャルビジネスの担い手Ⅲ 概　要：社会的企業や社会起業家について学ぶ	同　上
第６回　テーマ：ソーシャルビジネスのマネジメントⅠ 概　要：仕事の達成感(やりがい)重視の人的資源について学ぶ	自分自身にとって，身近な社会的課題を１つ選び，それを解決するためのNPO活動やソーシャルビジネスを構想し， A4用紙2枚（1，600字）のレポートにまとめて提出。
第７回　テーマ：ソーシャルビジネスのマネジメントⅡ 概　要：財源（資金のやりくり）について学ぶ	同　上
第８回　テーマ：ソーシャルビジネスのマネジメントⅢ 概　要：資金調達（クラウドファンディング）について学ぶ	同　上
第９回　テーマ：ソーシャルビジネスのマネジメントⅣ 概　要：NPO・企業・行政・大学との協働について学ぶ	同　上
第10回　テーマ：ソーシャルビジネスのマネジメントⅤ 概　要：プライスゾーンとプライスラインを学ぶ	同　上
第11回　テーマ：ソーシャルビジネスを支える社会の仕組み 概　要：特定非営利活動促進法(NPO法)や諸制度について学ぶ	同　上
第12回　テーマ：ソーシャルビジネスを創るⅠ 概　要：環境分野での先進事例ついて学ぶ	「これからの時代の地域創造の担い手」という視点から，この授業で，最も印象に残ったことについて要約し，自らの考察を加えた上で，A4用紙2枚（1，600字以上）のレポートにまとめて提出。
第13回　テーマ：ソーシャルビジネスを創るⅡ 概　要：医療・福祉分野での先進事例について学ぶ	同　上
第14回　テーマ：ソーシャルビジネスを創るⅢ 概　要：地域再生分野での先進事例について学ぶ	同　上
第15回　テーマ：まとめ 概　要：ソーシャルビジネスのあるべき姿	同　上

■ 履修上の注意
2/3以上の出席がない場合には，単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準
平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)に基づき評価します。
成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問，グループワークでのリーダーシップなど]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。
なお，課題については，授業中にフィードバックをします。
※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書
〔社会を変えたい人のためのソーシャルビジネス入門〕〔駒崎弘樹著〕〔PHP出版〕〔902円〕
〔ファッションビジネスの基礎知識〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔2200円〕

■ 参考書
授業中に適宜指示します。

■ 備考
事前もしくは同時に受講して欲しい講義】
「キャリア開発Ⅳ」
【質問・相談など】
質問や相談などは，授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。
【重要事項説明】
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，オンデマンドやハイブリッド型授業などの代替措置を講じるほか，授業の順番　や内容を変更することがありますので，ご承知おき下さい。

店舗運営論

(11152)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

店舗運営論では，ファッション関連産業・小売業の現状と問題点などを踏まえ，ポスト・コロナ時代のアパレル小売業（実店舗・オンライン店舗）の運営について学びます。

本講義では，消費生活協同組合での実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』としての経歴を活かして「東北（地元）に根差したお店が拠点となり，地域の人々にファッションの魅力を知ってもらい，消費してもらう」という視点から，ファッション関連小売業の基礎的な知識の教授を通じて，新たな時代のビジネス（時代）感覚の修得をめざしています。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1)ファッション関連小売業の仕組みを理解し，説明できる ・2)新たな時代のファッション価値創造の担い手としての役割を理解できる ・3)今後のファッション関連小売業のあるべき姿を説明できる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テーマ：ファッション関連小売業（店舗運営）とは？ 概　要：授業のすすめ方・評価など	授業計画やテキストなどを参考にして，予習すること。 講義ノートを読み直し，学習内容の振り返り（復習）を行うこと。
第２回　テーマ：ファッション関連産業・小売業の仕組み 概　要：アパレル業界全体の特徴（業種・業態）を学ぶ	同　上
第３回　テーマ：ファッション関連小売業のマネジメントⅠ 概　要：業態別の組織体制を学ぶ	同　上
第４回　テーマ：ファッション関連小売業のマネジメントⅡ 概　要：実店舗の職務体系を学ぶ	同　上
第５回　テーマ：ファッション関連小売業のマネジメントⅢ 概　要：オンライン店舗の職務体系を学ぶ	同　上
第６回　テーマ：店舗運営の仕組みⅠ 概　要：業態別に異なるマーケティング戦略を学ぶ	自分の好きなファッション・ブランドの小売店について，お店の商品構成や特徴など，A4用紙2枚（1，600字以上）のレポートにまとめ提出。
第７回　テーマ：店舗運営の仕組みⅡ 概　要：ブランドとショップコンセプトについて学ぶ	インターネットを利用し，最新のファッション・トレンドと店づくりについて調べ，A4用紙2枚（1，600字以上）のレポートにまとめ提出。
第８回　テーマ：店舗運営の仕組みⅢ 概　要：ブランドとショップコンセプトを学ぶ	同　上
第９回　テーマ：店舗運営の仕組みⅣ 概　要：対象顧客層と専門店における販売を学ぶ	自分の好きなファッション・ブランドの実店舗の立地や客層を調べ，その所感について，A4用紙2枚（1，600字）のレポートを作成し，提出。
第10回　テーマ：店舗運営の仕組みⅤ 概　要：対象顧客層と量販店における販売を学ぶ	同　上
第11回　テーマ：店舗運営の仕組みⅥ 概　要：対象顧客層とオンライン店舗における販売を学ぶ①	自分の好きなファッション・ブランドのオンライン店舗について，実店舗との比較から，その違いを調べ，A4用紙2枚（1，600字）のレポートを作成し，提出。
第12回　テーマ：店舗運営の仕組みⅦ 概　要：対象顧客層とオンライン店舗における販売を学ぶ②	同　上
第13回　テーマ：店舗運営の仕組みⅧ 概　要：店舗における販売スタッフとバイヤーの役割を学ぶ	アパレル小売業の求人・採用情報を調べ，求められる人材の特徴について，A4用紙2枚（1，600字以上）のレポートにまとめ提出。
第14回　テーマ：ポスト・コロナ時代の新たな小売戦略Ⅰ 概　要：売り場づくりの工夫について学ぶ	「ポスト・コロナ時代のアパレル小売業」という視点から，これまでの授業のなかで，最も印象に

	残ったことについて要約し，自らの考察を加えた上で，A4用紙2枚（1，600字以上）のレポートにまとめて提出。
第15回　テーマ：ポスト・コロナ時代の新たな小売戦略Ⅱ 概　要：ファッション関連小売業の課題と展望	同　上

■ 履修上の注意

2/3以上の出席がない場合には，単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+レポート試験の成績(35%)に基づき評価します。

成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問，グループワークでのリーダーシップなど]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。

なお，課題については，授業中にフィードバックをします。

※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔ファッションビジネスの基礎知識〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔2200円〕

■ 参考書

授業中に適宜指示します。

■ 備考

事前もしくは同時に受講して欲しい講義】

「マーケティング論」

【質問・相談など】

質問や相談などは，授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。

【重要事項説明】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，オンデマンドやハイブリッド型授業などの代替措置を講じるほか，授業の順番　や内容を変更することがありますので，ご承知おき下さい。

情報処理Ⅰ

(11153)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 15）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

近年，情報通信技術（ICT：Information and Communication Technology）の進展にともなって，ファッション・ビジネスに求められる知識や技能は大きく変わりつつある。とりわけ，SNS(Social Networking Service)で発信力のある個人(influencer)のファッション情報は，消費者の購買行動や企業のコミュニケーション戦略で最も注目されている。

本授業では，民間シンクタンクの研究員や情報システム担当者としての実務経験を活かして，ビジネス文書作成や統計処理，プレゼンテーション技法を教授することにより，最先端のファッション・ビジネスに欠かせない情報リテラシーの修得をめざしています。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1)ソフトウェアを利・活用し，文章表現や統計計算ができる				0.5	0.25	0.25			
・2)情報倫理に配慮し，情報の収集・加工・表現・発信ができる									
・3)ICTの仕組みと原理を理解し，説明できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テーマ：情報倫理とは？ 概　要：授業のすすめ方・評価の説明，情報倫理について学ぶ	学生便覧の「ソーシャルメディア利用のガイドライン」および「OA実習室・OA教室利用案内」を必ず熟読しておくこと。
第２回　テーマ：日本語文書処理Ⅰ 概　要：Microsoft Wordの基本（入力・書式変更）を学ぶ	同　上
第３回　テーマ：日本語文書処理Ⅱ 概　要：Microsoft Wordの応用①（見やすい文書作成）を学ぶ	授業計画の内容やテキストを参考にして，Wordの諸機能を確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し，Wordの諸機能について振り返り（復習）を行うこと。
第４回　テーマ：日本語文書処理Ⅲ 概　要：Microsoft Wordの応用②（画像・グラフ挿入）を学ぶ	同　上
第５回　テーマ：日本語文書処理Ⅳ 概　要：Microsoft Wordの応用③（描画機能）を学ぶ	同　上
第６回　テーマ：日本語文書処理Ⅴ 概　要：これまでの授業の振り返り（課題作成）	同　上
第７回　テーマ：表計算Ⅰ 概　要：Microsoft Excelの基本（表・グラフの作成）を学ぶ	授業計画の内容やテキストを参考にして，Excelの諸機能を確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し，Excelの諸機能について振り返り（復習）を行うこと。
第８回　テーマ：表計算Ⅱ 概　要：Microsoft Excelの応用①（表・グラフの加工）を学ぶ	同　上
第９回　テーマ：表計算Ⅲ 概　要：Microsoft Excelの応用②（データベース機能）を学ぶ	同　上
第10回　テーマ：表計算Ⅳ 概　要：Microsoft Excelの応用③（関数の使い方）を学ぶ	同　上
第11回　テーマ：表計算Ⅴ 概　要：これまでの授業の振り返り（課題作成）	同　上
第12回　テーマ：プレゼンテーションⅠ 概　要：Microsoft PowerPointの基本（スライド作成）を学ぶ	授業計画の内容やテキストを参考にして，Power Pointの各種機能について確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し，Power Pointの各種機能について，各自で振り返り（復習）を行うこと。
第13回　テーマ：プレゼンテーションⅡ 概　要：Microsoft PowerPoint応用（オブジェクト作成）を学ぶ	同　上
第14回　テーマ：プレゼンテーションⅢ	同　上

	概　要：これまでの授業の振り返り（課題作成）を行う	
第15回	テーマ：まとめ	5分以内に発表できるように練習する
	概　要：課題発表	

■ 履修上の注意

2/3以上の出席がない場合には，単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+課題発表(35%)にもとづき評価します。

成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問，グループワークでのリーダーシップなど]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。

なお，課題については，授業中にフィードバックをします。また，実習費（1000円）を徴収します。

※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

〔Windows10・Office2016による情報処理入門〕〔高橋敏夫監修〕〔実教出版〕〔2200円〕

■ 参考書

授業中に適宜指示します。

■ 備考

【質問・相談など】

質問や相談などは，授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。

【重要事項説明】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，オンデマンドやハイブリッド型授業などの代替措置を講じるほか，授業の順番　や内容を変更することがありますので，ご承知おき下さい。

情報処理Ⅱ

(11154)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：服専３年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

本授業では，民間シンクタンクでの研究員や情報システム担当者としての実務経験を活かし「ビジュアル・マーチャンダイジング（Visual Merchandising）戦略に不可欠な企画・演出などのための資料作成」という視点から，グラフィックソフト（Illustrator，Photoshop）の設定や操作方法などを教授し，ファッション関連の出版・広告，売場づくりや商品ディスプレイの効果的なレイアウトや配色など，視覚伝達の基本の修得をめざしています。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・1)ソフトウェアを利活用し，グラフィック画像を制作できる	
・2)情報倫理に配慮し，情報の収集・加工・表現・発信ができる	
・3)視覚伝達の基本を理解し，説明できる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テーマ：情報を分かりやすく伝えるとは？ 概　要：授業のすすめ方・評価，視覚伝達の基本）	学生便覧「OA実習室・OA教室利用　　案内」を必ず熟読しておくこと。
第２回　テーマ：ベクトル系ソフトⅠ 概　要：Illustrator基本①（図形や線を描く方法）を学ぶ	授業計画の内容やテキストを参考にして，Illustratorの操作や設定，諸機能などについて確認（予習）すること。 テキストや講義ノートを読み直し，Illustratorの諸機能の振り返り（復習）を行うこと。
第３回　テーマ：ベクトル系ソフトⅡ 概　要：Illustrator基本②（オブジェクト選択と変形）を学ぶ	同　上
第４回　テーマ：ベクトル系ソフトⅢ 概　要：Illustrator基本③（色と透明度の設定）を学ぶ	同　上
第５回　テーマ：ベクトル系ソフトⅣ 概　要：Illustrator基本④（オブジェクトの編集と合成）を学ぶ	同　上
第６回　テーマ：ベクトル系ソフトⅤ 概　要：Illustrator基本⑤（線と文字の設定）を学ぶ	同　上
第７回　テーマ：ベクトル系ソフトⅥ 概　要：Illustratorの振り返り（覚えておきたい機能と課題作成）	提出期限内に課題を完成させること。
第８回　テーマ：ラスター系ソフトⅠ 概　要：Photoshop基本①（レイヤー操作と色調補正）を学ぶ	授業計画の内容やテキストを参考にして，Photoshopの操作や設定，諸機能などについて確認(予習)すること。 テキストや講義ノートを読み直し，Photoshopの諸機能の振り返り（復習）を行うこと。
第９回　テーマ：ラスター系ソフトⅡ 概　要：Photoshop基本②（選択範囲の作成と色の設定）を学ぶ	同　上
第10回　テーマ：ラスター系ソフトⅢ 概　要：Photoshop基本③（レイヤーマスクを使う）を学ぶ	同　上
第11回　テーマ：ラスター系ソフトⅣ 概　要：Photoshop基本④（文字・パス・シェイプ）を学ぶ	同　上
第12回　テーマ：ラスター系ソフトⅤ 概　要：Photoshop基本⑤（画像の修正・加工）を学ぶ	同　上
第13回　テーマ：ラスター系ソフトⅥ 概　要：Photoshop基本⑥（フィルターとレイヤースタイル）を学ぶ	同　上
第14回　テーマ：ラスター系ソフトⅦ 概　要：Photoshopの振り返り（覚えておきたい機能と課題作成）	提出期限内に課題を完成させること。

第15回　テーマ：まとめ　　授業で分からなかったことを確認する
　　概　要：授業全体の振り返り

■ 履修上の注意
2/3以上の出席がない場合には，単位を取得することはできません。

■ 成績評価方法・基準
平常点・受講態度(35%)+課題の提出状況(30%)+課題作品(35%)にもとづき評価します。
成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問，グループワークでのリーダーシップなど]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。
なお，課題については，授業中にフィードバックをします。また，実習費（1，000円）を徴収します。
※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書
〔これからはじめる Illustrator&Photoshopの本〕〔黒野明子〕〔技術評論社〕〔2280円〕

■ 参考書
授業中に適宜指示します。

■ 備考
【質問・相談など】
質問や相談などは，授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。
【重要事項説明】
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，オンデマンドやハイブリッド型授業などの代替措置を講じるほか，授業の順番　や内容を変更することがありますので，ご承知おき下さい。

食品学総論

(11155)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
八　巻　美智子

■ 授業の概要
食品はヒトの生活にとって必須のものであり、食品について正しい情報を持つことは食品を利用するうえで重要である。そこで、化学、生化学、基礎栄養学などの知識を基礎として、食品を構成する各成分の化学的特性と食品における役割、栄養と健康とのかかわりついて講義する。また、それらの特性が食品の調理や保存、加工などにどのように関係するのか解説する。食品学を学ぶことで関連する他分野への興味関心も高められる重要性を詳説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・食品を構成する各種成分について理解する	0.6	0.2				0.2			
・食品の各成分の栄養特性と物理特性についての知識を習得する									
・美味しく栄養バランスのとれた食事について科学的に考える力を身に付ける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　食品の定義および分類、食品の成分と機能、食品と環境	事前：教科書にて授業計画内容に記された内容を概覧しておく。（以下の回も同様）
第２回　水分　水の構造と性質、食品中での役割、食品成分表について	事後：教科書、ノートを見直して講義内容を理解し、理解が不十分な点については教員に質問するなどして問題点を解決する。（以下の回も同様）
第３回　炭水化物　糖の構造と種類	1回目、2回目の内容と同様。主に炭水化物について
第４回　炭水化物　糖の性質、糖の反応と炭水化物としての糖	1回目、2回目の内容と同様。主に炭水化物について
第５回　脂質　脂肪酸の構造と性質	小テストに向けて学修する。小テストの復習。
第６回　脂質　油脂の酸化、油脂の栄養	1回目、2回目の内容と同様。主に脂質について
第７回　タンパク質　タンパク質の構造と構成アミノ酸	1回目、2回目の内容と同様。主にタンパク質について
第８回　タンパク質　タンパク質の性質と栄養価	小テストに向けて学修する。小テストの復習。
第９回　脂溶性ビタミン	1回目、2回目の内容と同様。主にビタミンについて
第10回　水溶性ビタミン	1回目、2回目の内容と同様。主にビタミンについて
第11回　ミネラル	1回目、2回目の内容と同様。主にミネラルについて
第12回　食品の呈味成分、色素、香気成分	小テストに向けて学修する。小テストの復習。
第13回　食品の官能評価	1回目、2回目の内容と同様。主に食品の呈味成分、色素、香気成分について
第14回　食品の機能性成分、食品の物性と美味しさ	試験に向けて学修する。1回目、2回目の内容と同様。1回目～14回目の授業内容について
第15回　これまでのまとめ	試験に向けて学修する。1回目、2回目の内容と同様。1回目～15回目の授業内容について
第16回　試験	試験に向けて学修する

■ 履修上の注意
遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、ノートを作製する。予習で生じた疑問点について解決できるようにする。テキストは購入してください。詳細は初回に説明します。

■ 成績評価方法・基準
受講態度（ミニットペーパーの内容・提出など）、小テストの成績等（20%）、試験（80%）の割合で評価する。
小テスト、試験については解答例を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書
〔食品学総論〕〔著者名：森田潤司、成田宏史　編〕〔化学同人〕〔価格：2800円+税〕

■ 参考書
講義時に指示する

■ 備考
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。
講義の順番や内容は前後または変更する可能性があります。

食品学各論

(11156)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専４年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
佐　藤　靖　子

■ 授業の概要

食品材料である植物性食品、動物性食品その他食品について、食品材料の生産上および生物学上の特徴による分類、食材に含まれる成分および旬による成分変化等についての基礎知識を学修する。さらに、図鑑活用による食品の詳細な分類また、写真等の資料は、実物投影機やパワーポイントを用いることにより、食品の外観および内部構造の特徴を視覚的に理解しやすいようにする。食品に対する選択能力を高めるとともに、食生活と健康との関連を習得できるようにする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・1. 食品材料の特徴を知る	
・2. 食品材料の分類ができる	
・3. 食品の選択能力を身につける	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス　食品の分類・スローフードについて	授業の進め方、ノートのまとめ方を知る
第２回　植物性食品の特徴	説明をよく聞き授業に臨む
第３回　穀類：コメ、コムギの特徴・成分	授業内容をスライド・配布資料で確認する
第４回　穀類：トウモロコシ、ソバの特徴・成分	授業内容をスライド・配布資料で確認する
第５回　イモ類の種類と特徴・成分	授業内容をスライド・配布資料で確認する
第６回　マメ類：乾燥豆および野菜としての種類と特徴・成分	授業内容をスライド・配布資料で確認する
第７回　野菜類：葉菜類の種類と特徴・成分	授業内容をスライド・配布資料で確認する
第８回　野菜類：茎菜類の種類と特徴・成分	授業内容をスライド・配布資料で確認する
第９回　野菜類：根菜類の種類と特徴・成分	授業内容をスライド・配布資料で確認する
第10回　野菜類：果菜類・花菜類の種類と特徴・成分	授業内容をスライド・配布資料で確認する
第11回　果実類：種類と特徴・成分	授業内容をスライド・配布資料で確認する
第12回　動物性食品の特徴	教科書をよく読み授業に臨む
第13回　魚介類の種類と特徴・成分	授業内容をスライド・配布資料で確認する
第14回　畜肉類の種類と特徴・成分	授業内容をスライド・配布資料で確認する
第15回　その他の食品について	説明を理解して分類・特徴を把握する
第16回　試験	

■ 履修上の注意

出席点呼開始後に入室した学生は、遅刻扱いとなる。遅刻は3回で１回の欠席とする
ミニットペーパーを課した場合は、提出確認後返却して加点対象とする。
資料は、授業前に配布する

■ 成績評価方法・基準

期末試験70%、受講態度(質問等授業の理解に向けた姿勢など)・提出物30%
提出物への評価は次回授業時に行う。
試験問題は、教科書およびノートからの出題です。解答は掲示にて行う。

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

配布プリントは、講義ノートに張り付けるか転載しておくこと。
都合（出張等）により授業計画が変更されることがある。
質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける。

基礎栄養学

(11157)

単位：２
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要

ヒトをはじめ生物が外界の物質を体内に取り入れ、それをエネルギー源や体構成の材料として利用する「栄養」という現象は生命維持に不可欠である。ヒトの食欲を調節するしくみ、摂取した食物の消化と栄養素の吸収に携わる消化器官系の各臓器の構造と機能、消化（食品成分の分解反応）・吸収の機構、また、栄養素の種類と各栄養素の化学構造・性質、体内での代謝・機能と欠乏症・過剰症、および栄養素同士の関わりについて説明する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・健康の保持・増進における栄養の役割を説明できる ・消化・吸収における各消化器官の役割を説明できる ・各栄養素の代謝とその生理的意義を説明できる	0.1　0.3　0.6

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　栄養とは、遺伝形質と栄養	教科書の「1章」を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第２回　食欲の調節、食事のタイミング	教科書の「2章」を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第３回　消化器の構造	教科書の「3章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第４回　消化器の機能	教科書の「3章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第５回　消化吸収率、たんぱく質の消化吸収	教科書の「3章」および「4章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第６回　たんぱく質・アミノ酸の体内代謝	教科書の「4章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第７回　たんぱく質の量と質の評価	教科書の「4章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第８回　［中間試験］、糖質の消化吸収、糖質代謝の概要	教科書の「5章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第９回　試験の解説、食後・食間の糖質代謝	教科書の「5章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第10回　血糖の調節、エネルギー源としての作用	教科書の「5章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第11回　脂質の消化吸収、脂質代謝の概要	教科書の「6章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第12回　脂質のエネルギー代謝、コレステロール代謝	教科書の「6章」該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解

	法をよく理解する。
第13回　脂質の量と質の評価	教科書の「6章」該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第14回　ビタミンの分類・構造と機能	教科書の「7章」を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第15回　［期末試験］、ミネラルの種類と体内分布	教科書の「8章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第16回　試験の解説、ミネラルの機能	教科書の「8章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。

■ 履修上の注意
他の関連科目と学習内容を対比して理解を深めること。

■ 成績評価方法・基準
中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組みを提出物で評価する）・・・10%

■ 教科書
基礎栄養学、駒井三千夫　他、アイ・ケイコーポレーション、2，400円＋税

■ 参考書
なし

■ 備考
試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

基礎調理学実習Ⅰ

(11158)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 15）
対象学科：服専1年
授業形態：実習　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
宮　地　洋　子

■ 授業の概要
「調理科学論」の調理理論、その他の授業で学んだ知識をもとにして、日本料理・西洋料理・中国料理の日常食の献立実習を通して、基本的な調理の知識や技術、すなわち計量、切り方、だしの取り方、非加熱調理操作、加熱調理操作、調味パーセント、盛り付け、配膳等を指導する。さらに、春・夏を旬とする食材の扱い方を理解し、適切な調理ができるように指導する。また、これらの食事様式をふまえた日常食の食事計画を理解し、嗜好を配慮し且つ栄養バランスを考慮した献立構成のあり方を指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・基礎的技術および通年・春・夏季節の各種食材の適切な扱い方ができる。	0.15		0.15		0.4	0.15			0.15
・非加熱及び各加熱法の原理を理解し、食材や料理等にあった適切な調理操作ができる。									
・調味料の調味パーセントを活用して、標準的な調味の説明ができる。									
・日本料理・西洋料理・中国料理の様式をふまえ、日常食の食事計画と献立構成ができる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　講義：授業の進め方、実習の基本事項、安全と衛生対策、調味パーセント、調理手順表・実習ノートの書き方	教科書88～89p、249ｐを読んでおくこと。
第2回　調理操作の基礎①計量、基本的切り方、包丁の取り扱い方、廃棄率の測定	教科書91～94pを読んでおくこと。
第3回　日本料理①：調理操作（炊飯の基礎、煮だし汁の取り方、塩分濃度の調整、即席漬け、煎茶の入れ方など）	日本料理①の実習プリントを読み、調理手順を確認しておくこと。
第4回　西洋料理①：調理操作（バターライスの炊き方、サラダの作り方、紅茶の入れ方など）	西洋料理①の実習プリントを読み、調理手順を確認しておくこと。
第5回　中国料理①：調理操作（炒飯の作り方、魚介すり身団子の成形、寒天の溶解・凝固）	中国料理①の実習プリントを読み、調理手順を確認しておくこと。
第6回　日本料理②：調理操作（豚肉の下処理・焼き方、青菜の茹で方・和えものなど）	日本料理②の実習プリントを読み、調理手順を確認しておくこと。
第7回　講義：日常食の食事計画、適切な献立構成、実技確認について	教科書245～248ｐ、8ｐ、配布資料を読んでおくこと。
第8回　西洋料理②：調理操作（牛バラ肉の煮込み料理、ブラウンルウの加熱温度、生野菜の扱い方、紅茶の入れ方）	西洋料理②の実習プリントを読み、調理手順を確認してえておくこと。実習ノートの提出①
第9回　エスニック料理①調理操作（エスニック料理食材の使用法、軟炸と油の温度、龍茶の入れ方など）	エスニック料理①の実習プリントを読み、調理手順を確認しておくこと。
第10回　日本料理③：調理操作（炊き込み飯の作り方、魚の下処理・煮付け、薄くず汁の作り方、三杯酢の調製など）	日本料理③の実習プリントを読み、調理手順を確認しておくこと。
第11回　西洋料理③：調理操作（魚の下処理、ムニエルの作り方、小麦粉中濃ソースの調製、砂糖の加熱・カラメルソースの調製）	西洋料理③実習プリントを読み、調理手順を確認しておくこと。
第12回　中国料理②：調理操作(米粉麺の戻し方・炒菜の火加減、卵の膨化調理など)	中国料理③の実習プリントを読み、調理手順を確認しておくこと。
第13回　日本料理④：調理操作(麺のゆで方、つけ汁の配合、魚・野菜の揚げ温度、わらびでんぷんの糊化・凝固など)	日本料理④の実習プリントを読み、調理手順を確認しておくこと。
第14回　実技確認と評価、使用食材を用いた調理	課題について各自が準備しておくこと。実習ノートの提出②
第15回　まとめ、調理器具の整理	

■ 履修上の注意
計量器と電卓は各自で準備してください。
材料の入荷状況によって、授業計画の順序や料理を変更する場合があります。

実習後は毎回の実習内容を実習ノートに整理しておき、指示に従って提出して貰います。実習献立のプリントを配布するので、よく読み調理手順を確認して授業に臨んでください。

■ 成績評価方法・基準
試験40%、実習ノート30%（ルーブリック評価）、実技評価20%、受講態度10%（調理手順表の提出状況。積極性）等総合的に評価します。
試験については問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックします。実習ノートは後日添削して返却します。

■ 教科書
〔改訂新版調理学実習おいしさと健康〕〔早坂千枝子監修〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3，300円〕

■ 参考書
〔調理のためのベーシックデータ第５版〕〔女子栄養大学出版部〕〔1，800円〕
〔日本食品成分表2022　８訂〕〔医歯薬出版〕〔1，650円〕

■ 備考
質問等については、授業終了時に受け付けます。

基礎調理学実習Ⅱ

(11159)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（45 + 15）
対象学科：服専１年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
宮　地　洋　子

■ 授業の概要
「調理科学論」及び「基礎調理学実習Ⅰ」で学んだ知識・技術をもとに日本料理・西洋料理・中国料理の応用した調理ができることを目的とする。秋・冬に出回る食材の適切な取り扱いやより品質の良い調理ができるように、調理のポイントを指示し指導する。また、日常食の他、季節および地域の食材を取り入れた供応食、行事食、郷土料理等について実習献立を通して学修し、行事食等の献立構成，食事の整え方，食事の提供の仕方，食事作法について日本料理を中心に指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・秋・冬の季節を旬とする魚介類や野菜類の種類や調理特性を理解し、適切な扱い方ができる。 ・日本料理・西洋料理・中国料理の応用的な調理技術や調理方法を理解し調理ができる。 ・各行事の意味をふまえ、彼岸、正月料理等の行事食、郷土料理等の献立構成を理解し調理ができる。 ・日本料理の献立構成、食卓作法を理解し供食時に実践できる。	0.15		0.15		0.4	0.15			0.15

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　講義：授業の進め方、切り方の復習、日本料理の特徴、献立構成、食卓作法、実技確認について	教科書3～8p、33p、139～150pを読んでおくこと。
第２回　日本料理①：秋彼岸の献立：米の湯炊き法によるおはぎ作り（小豆あん、ずんだあん）、吸い物（菊花豆腐）	日本料理①の実習プリントを読み調理手順を確認する。/実習ノートの整理
第３回　日本料理②：秋の献立：しょう油味炊き込み飯、魚（幽庵焼き）・野菜の料理	日本料理②の実習プリントを読み調理手順を確認する。実習ノートの整理
第４回　西洋料理①：朝食メニュー：ヨーロッパスタイルの献立、ジャムの調製（糖度計）	西洋料理①の実習プリントを読み調理手順を確認する。実習ノートの整理
第５回　中国料理①：飲茶献立：甜点心と鹹点心	中国料理①の実習プリントを読み調理手順を確認する。実習ノートの整理
第６回　西洋料理②：秋の献立：肉および根菜の料理、りんごの焼き菓子	西洋料理②の実習プリントを読み調理手順を確認する。実習ノートの整理
第７回　講義：行事食の献立構成、郷土料理の献立作成	教科書3～7pを読んでおくこと。
第８回　中国料理②：秋の献立：拌菜、拌菜、点心の献立構成による調理	中国料理②の実習プリントを読み調理手順を確認する。/実習ノートの整理
第９回　郷土料理の献立①（青森県、秋田県、岩手県）各県の郷土料理の由来、特徴等の発表	139～150pを読んでおくこと。担当した郷土料理の発表の準備
第10回　郷土料理の献立②（宮城県、山形県、福島県）各県の郷土料理の由来、特徴等の発表	担当した郷土料理の発表の準備
第11回　西洋料理③：クリスマスディナーメニュー	西洋料理③の実習プリントを読み調理手順を確認する。/実習ノートの整理
第12回　日本料理③：：正月料理：重詰め料理の献立	日本料理③の実習プリントを読み調理操作手順を確認する。/実習ノートの整理
第13回　災害食献立　：保存食や加工食品を用いた調理	災害食献立の実習プリントを読み調理手順を確認する。実習ノートの整理
第14回　実技確認と評価、使用食材を用いた調理	課題について各自が準備しておくこと。 実習ノートの提出②
第15回　まとめ、調理器具の整理	

■ 履修上の注意
計量器と電卓は各自で準備してください。
材料の入荷状況によって、授業計画の順序や料理を変更する場合があります。
実習後は毎回の実習内容を実習ノートに整理しておき、指示に従って提出して貰います。評価はルーブリックで行います。
実習献立のプリントを配布するので、よく読み調理手順を確認して授業に臨んでください。

時間厳守、遅刻3回で1回欠席とします。

■ 成績評価方法・基準
期末試験30%、実習ノート30%（ルーブリック評価）、実技評価15%、課題（郷土料理献立）15%、受講態度10%等総合的に評価します。試験については問題と解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックします。実習ノートは後日添削して返却します。

■ 教科書
改定新版調理学実習おいしさと健康〕〔早坂千枝子監修〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3，300円〕
〔日本食品成分表2022　8訂〕〔医歯薬出版〕〔1，650円〕

■ 参考書
〔調理のためのベーシックデータ第５版〕〔女子栄養大学出版部〕〔1，800円〕

■ 備考
質問等については、授業終了時に受け付けます。

食文化論

(11160)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
宮　地　洋　子

■ 授業の概要

「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されてから、「和食」や日本の食文化に対する関心が増している。本講義では、日本の自然環境と社会環境の中で形成されてきた食文化について、古代から現代までどのように変遷してきたかを説明する。また、各時代の食文化の特徴と大陸、南蛮、欧米などの異文化と係わり、どのように取り入れて日本独特の食文化を形成し、発展したかを説明する。さらに、年中行事や通過儀礼食及び郷土料理の学修を通じて食文化の伝承と次世代に伝えるために、家庭・学校等における食育の大切さを教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・食文化の定義およびその変遷を理解できる。 ・各時代の特徴と異文化との係わりを理解できる。 ・行事食・儀礼食を理解し各自の食体験を整理できる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　「和食」：日本人の伝統的な食文化	p1～p9を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第２回　食文化の定義、食に関する思想	p11～p19を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第３回　世界の食文化形成 ①世界の食文化類型とその特徴	p21～p25を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第４回　世界の食文化形成 ②粉食文化と粒食文化	p26～p28を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第５回　日本の食文化形成と展開	p41～p49を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第６回　異文化接触と受容	p102～p105をよんでおくこと/ミニットペーパーの提出
第７回　主食の文化①木の実といも類、米	p51～p55を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第８回　主食の文化②大麦と小麦、雑穀	p56～p59を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第９回　副食の文化	p61～p68を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第10回　行事と地域の食文化　課題「五節句と食事」についての説明	P141～p149を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第11回　日本料理の形成と発展①日本料理の系譜と本膳料理 和食のマナー(DVD)	p91～p95を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出 /小テスト
第12回　日本料理の形成と発展②懐石料理、会席料理、精進料理	p96～p99を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第13回　台所、食器、食卓の文化　洋食のマナー(DVD)	p101～p109を読んでおくこと/小テスト
第14回　日常の食 調味料	p111～p119を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第15回　非常の食　災害食(DVD)　まとめ	p121～p128を読んでおくこと/小テスト/課題の提出

■ 履修上の注意

1.事前に講義予定の教科書内容を熟読して受講してください。
2.教科書及びスライドで提示された専門用語のうち、わからないものについては調べておいてください。
3.課題については提出期限を守ってください。

■ 成績評価方法・基準

試験（40%）、小テスト（20%）、課題(30%)、受講態度（10%：ミニットペーパーの提出状況、質問等の積極性）
課題・小テストは添削して返却します。ミニットペーパーは次回の授業内でフィードバックします。試験は問題と解答例をまとめたレジュメを配布し、フィードバックとします。

■ 教科書
〔新版　日本の食文化「和食」の継承と食育〕〔江原絢子・石川尚子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2，500円+税別〕
授業前にプリントを配布します。

■ 参考書
〔食文化入門〕〔石毛直道〕〔講談社〕〔2，000円+税別〕
〔近現代の食文化〕〔石川寛子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2，400円+税別〕
〔日本から見た世界の食文化〕〔鈴木志保子〕〔第1出版〕〔3，850円〕

■ 備考
毎回、講義終了後にオフィスアワーを用意します。

食生活論

(11161)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目

■ 授業の概要
労働者の健康（疾病予防・疾病）管理業務における個別・集団栄養教育活動の実務経験を生かした授業を行う。
家庭科教諭等，栄養・食に関わる専門職になるための専門教科を学修することに先だち，食の成り立ち，健康的な食生活（食生活と健康の関連），食育の推進，食と環境の関わり，食生活の歴史や文化など，その多様かつ広範な側面について，（科学的）根拠に基づき理解を深めることをねらいとする。また，それらを通じ，栄養・食に関わる専門職の役割や重要性の理解とともに，自身の健康的な食生活を営む基礎的知識・能力について教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・食生活と健康の関連について理解できる。	0.2	0.4		0.2		0.2			
・自身の食生活を見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を身につける。									
・食生活の歴史や文化とともに現状の課題について理解できる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス，食生活の概念	事前学習は教科書の食生活の概念の該当箇所を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第２回　健康的な食生活とは	事前学習は国が普及する「健康な食事」についての情報収集を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第３回　“食生活指針”の概要	事前学習は国が策定した“食生活指針”について情報収集を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第４回　“食生活指針”による自身の食生活の見直し	事前学習は自身の日ごろの食生活について振り返りを行ってくること。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第５回　食生活と健康を考える（子ども）	事前学習は教科書の子どもの食生活に関する該当箇所(2.1)を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第６回　食生活と健康を考える（思春期・若年期）	事前学習は教科書の（思春期・若年期における）ボディイメージに関する該当箇所(2.2)を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第７回　食生活と健康を考える（成人期①“成人病”の時代まで）	事前学習は教科書の生活習慣病の概念に関する該当箇所(2.3A)を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第８回　食生活と健康を考える（成人期②生活習慣病の時代）	事前学習は教科書の糖尿病など疾病と栄養・食生活に関する該当箇所(2.3B～D)を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第９回　食生活と健康を考える（社会環境からの取り組み）	事前学習は教科書の生活習慣病の予防の取り組みに関する該当箇所(2.3E)を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第10回　食生活と健康を考える（社会環境における食環境整備）	事前学習は自身を取り巻く食環境に関する情報収集を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第11回　食生活と安全	事前学習は教科書の食生活と安全情報に関する該当箇所(5.3～4) を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。

第12回　健康・食情報を読み解くポイント	事前学習は身近に流れる健康情報について情報収集を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第13回　日本の食文化	事前学習は日本の食文化に関する情報収集を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第14回　食物の階層構造と食事バランスガイド	事前学習は食事バランスガイドに関する（復習）確認を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第15回　食品群と食品成分表による食事評価	事前学習はこれまで学んだ食品群に関する知識の確認を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。

■ 履修上の注意
・日頃から健康・栄養情報を収集し、積極的に知識を深めること。
・遅刻，早退は慎むこと。遅刻３回で欠席３回とみなす。遅刻30分以上は欠席とみなす。
・印刷に使用する用紙やUSBメモリーなどは各自用意すること。

■ 成績評価方法・基準
・期末レポート（40%），課題・ミニットペーパー等（40%），受講態度（授業への参加状況・課題提出状況など：20%）で評価する。
・授業内での課題等は当日，もしくは後日の授業内でフィードバックする。

■ 教科書
栄養科学シリーズNEXT「食育・食生活論　社会・環境と健康」（山本茂，他）講談社サイエンティフィック（2，640円）
その他，適宜資料を配布する。

■ 参考書
「八訂食品成分表2023」（香川明夫）女子栄養大学出版部（1，760円）

■ 備考
・都合により授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については，授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

住居学（製図を含む。）

(11162)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
崎　山　俊　雄

■ 授業の概要

住居は、人間生活の基本的な容器であると同時に、社会環境や生活様式、それが建つ地域の風土や文化とも密接に関係している。本講義では、住居や住生活に関する基礎知識を修得し、文化的・社会的観点から、住宅や住生活についての理解を深める。前半は、住まいについて、風土・機能・空間・生活などの観点を設定して論じ、後半は、前半で身につけた考え方を応用して、独立住宅を設計する。後半の設計演習は、学生の考えや理解度を確認しながら対話型の形式で進めていく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・住居や住生活を考える上で必要な基礎知識を修得する。 ・よりよい住空間について自ら考え、表現し、自分の考えを他者に説明できるようになる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　授業内容と進め方、評価方法の説明、住まいに関する概説	事前学習：住居や建築の役割について考える 事後学習：住居の多様な役割を再確認する
第２回　くらしと住まい	事前学習：配布された用紙に、自宅の間取りを描く 事後学習：自宅の間取りを、くらしの観点から分析する
第３回　自然環境と住まい	事前学習：日本の住居と外国の住居を比較する 事後学習：身近な建築を、気候や環境の観点から分析する
第４回　住空間の計画（1）間取り・動線	事前学習：自宅の間取りを、動線の観点から見直す 事後学習：独立住宅の事例を収集し、自分の理想像を構想する
第５回　住空間の計画（2）寸法・空間	事前学習：自宅の部屋や家具の寸法を測る 事後学習：台所の詳細図を描く
第６回　図面表現	事前学習：平面図・立面図・断面図の概念を理解する 事後学習：配布資料を参考にして、図面表現を練習する
第７回　住宅の計画（1）周辺環境の把握	事前学習：これまでの学習内容を復習する 事後学習：配置計画（ゾーニング）を練る
第８回　住宅の計画（2）必要な室と広さ	事前学習：配布された用紙に設計案（間取り）を描く 事後学習：授業を踏まえて、設計案を改良する
第９回　住宅の計画（3）室の配置と動線計画	事前学習：配布された用紙に改良設計案を描く 事後学習：授業を踏まえて、設計案を改良する
第10回　住宅の計画（4）寸法計画	同上
第11回　住宅の計画（5）空間構成	同上
第12回　製図（1）配置図・平面図	事前学習：図面表現を再確認する 事後学習：配置図・平面図を完成させる
第13回　製図（2）立面図	事前学習：図面表現を再確認する 事後学習：立面図を完成させる
第14回　課題の提出、プレゼンテーションと講評	事前学習：発表内容をまとめる 事後学習：発表内容と講評を振り返る
第15回　まとめ（これからの住まい）	事前学習：これまでの学習内容を総復習する 事後学習：授業を通して得た成果をまとめる

■ 履修上の注意

・講義中の指示にしたがい、必要な予習・復習を確実に行って、知識の定着に努めること。
・後半の設計演習では、毎回、設計案を持参すること。

■ 成績評価方法・基準
・制作物（60%）、プレゼンテーション（20%）、および受講態度（ミニットペーパーの内容、授業への参加態度、提出物、20%）により評価する。
・持参した設計案や提出物、プレゼンテーションに対しては、授業中にフィードバックする。

■ 教科書
・必要に応じて資料を配布する。

■ 参考書
・授業の中で紹介する。

■ 備考
・オフィスアワー：授業終了後

住居デザイン

(11163)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
山　本　佳　美

■ 授業の概要

私たちがあたりまえに住まう住居。住居を構成する環境や材料についての基礎を理解し学んでほしい。
講義内容については住居を構成する内装材、窓、建具、設備、インテリアを構成する照明、窓装飾、
家具等の日常生活に必要な構成材の基本的な特徴を学び、空間に対する寸法感覚を養い、インテリアデザインの独創性を身につける。デザイン会社でインテリアデザインに携わっている経験を活かし、インテリアプレゼンテーションの方法についてパース、作図方法、平面プランニング等の技法を解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・住居を構成するインテリアの基礎知識を身につける。 ・住居・インテリア空間の寸法について寸法感覚を養う。 ・インテリアデザインについての技法を身に着ける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　インテリアデザインの種類、インテリアスタイルの種類を学ぶ	自習：課題内容について作品を制作にあたり事前に資料等準備する事。 講義を受講後内容の復習を行い、次の講義へ向けての予習を行う。
第２回　建築家のデザインを紹介し世の中にあふれるデザインを学ぶ	自習：課題内容について作品を制作にあたり事前に資料等準備する事。 講義を受講後内容の復習を行い、次の講義へ向けての予習を行う。
第３回　インテリアの歴史①西洋インテリアと家具を学ぶ	自習：課題内容について作品を制作にあたり事前に資料等準備する事。 講義を受講後内容の復習を行い、次の講義へ向けての予習を行う。
第４回　インテリアの歴史②日本のインテリアと家具を学ぶ	自習：課題内容について作品を制作にあたり事前に資料等準備する事。 講義を受講後内容の復習を行い、次の講義へ向けての予習を行う。
第５回　インテリアの構成①内装	インテリアの構成①～⑤で行う内容に沿った課題を与え、プランニングボードを作成するにあたり、授業で学んだ成果を課題で表現する。
第６回　インテリアの構成②窓装飾	インテリアの構成①～⑤で行う内容に沿った課題を与え、プランニングボードを作成するにあたり、授業で学んだ成果を課題で表現する。
第７回　インテリアの構成③照明	インテリアの構成①～⑤で行う内容に沿った課題を与え、プランニングボードを作成するにあたり、授業で学んだ成果を課題で表現する。
第８回　インテリアの構成④家具	インテリアの構成①～⑤で行う内容に沿った課題を与え、プランニングボードを作成するにあたり、授業で学んだ成果を課題で表現する。
第９回　インテリアの構成⑤設備・その他	インテリアの構成①～⑤で行う内容に沿った課題を与え、プランニングボードを作成するにあたり、授業で学んだ成果を課題で表現する。
第10回　部屋別インテリアのスタイルとポイント	
第11回　インテリアレイアウト	
第12回　インテリアカラー	
第13回　課題：私の好きなインテリア　コラージュ	
第14回　インテリアコーディネート演習	
第15回　プレゼンテーション	

■ 履修上の注意
インテリアに興味を持とう！

■ 成績評価方法・基準
課題提出。提出された課題に対し、授業で学んだポイントに沿った内容となっているか確認し、内容によっては再提出といたします。

■ 教科書
プリント使用。カタログ配布。

■ 参考書
なし

■ 備考
質問については授業中、または授業終了時に受付いたします。

住文化論

(11164)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専４年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
崎　山　俊　雄

■ 授業の概要
わが国の住文化の特質を理解するためには、わが国の建築が、どのようにして生まれ、どのように変遷してきたのかを理解する必要がある。本講義では、日本の先史時代から近現代までの各時代における建築の特徴を、具体的な事例を取り上げて解説する。わが国の住文化について理解するための基礎的な力を涵養するとともに、先人の営為を未来に伝える「文化財」という考え方についても紹介する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・古代から近現代に至るわが国の建築の歴史を流れ（ストーリー）として理解できるようになる。 ・歴史的な建築に接したときに、それらの存在の意味を考えられるようになるための基礎知識を修得する。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　授業内容と進め方、評価方法の説明、住文化に関する概説	事前学習：日本にある世界文化遺産を把握する 事後学習：日本建築の基本的な流れを再確認する
第２回　先史時代の生活と建築	事前学習：三内丸山遺跡について調べる 事後学習：先史時代の遺跡の建築的特徴をまとめる
第３回　仏教と寺院建築の伝来	事前学習：寺院と神社の違いを理解する 事後学習：授業で紹介した寺院の建築的特徴をまとめる
第４回　神社の成立とその形式	事前学習：伊勢神宮について調べる 事後学習：寺院と神社の建築の違いをまとめる（課題①）
第５回　古代の都市	事前学習：平安京について調べる 事後学習：古代の多賀城について調べる
第６回　平安時代の住宅（寝殿造）	事前学習：源氏物語について調べる 事後学習：寝殿造の建築的特徴をまとめる
第７回　新様式の伝来と在来建築の変容	事前学習：禅宗について調べる 事後学習：禅宗が日本文化に与えた影響をまとめる
第８回　鎌倉時代・室町時代の住宅	事前学習：金閣と銀閣について調べる 事後学習：慈照寺東求堂同仁斎の図面を模写する（課題②）
第９回　城郭と城下町	事前学習：姫路城について調べる 事後学習：城郭と城下町の建築的特徴をまとめる
第10回　近世の住宅（主殿、広間、書院）	事前学習：二条城二の丸御殿について調べる 事後学習：書院造の建築的特徴をまとめる
第11回　茶室と数寄屋	事前学習：千利休について調べる 事後学習：国宝茶室と桂離宮の建築的特徴をまとめる
第12回　近世民家	事前学習：東北地方の重要伝統的建造物群保存地区を調べる 事後学習：仙台城と城下町についてまとめる（課題③）
第13回　近代の住宅（1）欧米文化の流入	事前学習：擬洋風建築という概念について調べる 事後学習：西洋建築文化の流入過程をまとめる
第14回　近代の住宅（2）近代和風	事前学習：近代和風建築という概念について調べる 事後学習：身近な近代和風建築についてまとめる

第15回　歴史的建造物の保存と活用　　事前学習：東北地方の国宝建造物を調べる
事後学習：授業を通して得た成果をまとめる

■ 履修上の注意
・毎回、歴史用語や建築の専門用語が多数出てくるので、その都度覚えること。

■ 成績評価方法・基準
・提出課題（第4回・第8回・第12回の授業時に出題し2週間後に提出する。各25%）および受講態度（ミニットペーパーの内容、授業への参加態度、提出物、25%）により評価する。
・提出物は後日添削して返却する。

■ 教科書
・必要に応じて資料を配布する。

■ 参考書
・授業の中で紹介する。

■ 備考
・オフィスアワー：授業終了後

保育学（実習及び家庭看護を含む。）

(11165)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
高　橋　恵　美

■ 授業の概要
家庭科技術も身に着けられるよう、幼稚園教諭・保育士としての経験を生かして具体的な実践方法を伝える。また、実習を通して、子どもの遊びや表現活動に関する実際の活動や子育て支援についての学びを深め、専門的知識と技術の習得を目指す。

■ 授業の到達目標

・「保育基礎」科目指導に必要とされる基本的な知識や技能を習得する。
・家庭科教育の観点から家族の役割、園での保育、地域の役割について学ぶ。
・子どもの発達や、子育て支援に寄与する能力と態度を身につける。

学位授与の方針との関連
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション　・　子どもをとりまく現状	子どもに関する身近なニュースを調べる。 配布プリントを読み自分の考えをまとめる。
第２回　保育の環境	SDGｓについて調べる。 配布プリントを読み自分の考えをまとめる。
第３回　保育の意義と方法	保育の意義と方法について配布プリントを読み概要を把握する。
第４回　保育内容の歴史的変遷	保育内容の歴史的変遷について配布プリントを読み概要を把握する。
第５回　児童福祉の理念と制度	保育所・幼稚園・認定こども園の違いを調べる。 児童福祉の理念と福祉について配布プリントを読み概要を把握する。
第６回　愛着と自立	児童虐待に関するニュースを調べる。 演習課題について取り組む。
第７回　子どもの生活	子どもの衣食住について調べる。 配布プリントを読み自分の考えをまとめる。
第８回　健康と安全	感染症について調べる。演習課題に取り組む。応急手当法を確認する。
第９回　子どもと文化	自分が子どもの頃の遊びを調べる。 社会の変化と子どもの文化についてまとめる。
第10回　保育の活動計画	活動案を考える。 課題の見直しと振り返りを行う。
第11回　子どもの表現活動①造形表現	造形活動に活用できる素材を調べる。
第12回　子どもの表現活動②言語表現	自分が子どもの頃に好きだった絵本を読む。 言葉遊びの応用を考える。
第13回　子どもの表現活動③音楽表現	童謡について情報機器を用いて調べる。 子どもの表現活動についてまとめる。
第14回　体験学習（学外実習）	実習で使用する視覚教材を準備する。 実習の振り返りをシートにまとめる。
第15回　情報機器を活用した保育・まとめ	授業の中で特に関心を持った内容について調べる。 これまでの学習をまとめる。
第16回　期末試験・レポート	

■ 履修上の注意
家庭科教諭免許取得のための必修科目であるため、積極的に授業に取り組むこと。

■ 成績評価方法・基準
・平常点60%（レポート、リアクションペーパー、参加態度・グループワークでのリーダーシップ等）、期末試験40%　に

より総合的に評価する。
・提出課題は添削し、後日返却する。
・期末試験は、試験終了後に解説をする。
・欠席が1/3以上のものには単位を認定しない。

■ 教科書
授業内でプリントを配布する。

■ 参考書
授業内で適宜紹介する。

■ 備考
質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日、時間は掲示で確認）に受け付けます。

家庭電気・機械

(11166)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
佐　野　正　則

■ 授業の概要
日常生活では多種多様な家庭電気機器が利用されている。そして、これらの機械的しくみ及び電気回路、制御方法などを理解し、合理的、創造的な生活態度を身につけることが現代人にとって不可欠となっている。本講義では家庭電気・機械の理解に必要な機械工学（機械の動くしくみであるリンク機構やカム機構、また代表的な機械要素であるねじや歯車など）と電気工学（電気回路や電子回路、制御回路など）の基礎的事項を学ぶとともに、身の回りの家庭電気・機械の保守点検等についても解説・実習を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・機械工学の基礎知識を身につける。	
・電気工学の基礎知識を身につける。	
・家庭電気機器の簡単な保守・点検ができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　私たちの生活とエネルギー変換	エネルギーの利用，エネルギー資源について
第２回　電気エネルギーの利用	送電・配電の仕組み，電池の種類と安全な使い方
第３回　電気回路の基礎：回路図の見方，かき方	電気回路図，図記号について
第４回　家庭電気機器のしくみ	熱・光・動力へ変換する電気機器のしくみと利用例
第５回　電気機器の安全な利用，事故防止	電気機器の定格，事故防止のための安全点検
第６回　電気機器の保守点検	テスターの使い方，簡単な修理実習
第７回　簡単な電気機器の製作	テーブルタップの製作
第８回　自然災害と電気の安全，簡単な電気回路の作製①	雷などの自然災害時の事故防止，基板を使った電気回路作製①（抵抗器，LEDを使った回路）
第９回　簡単な電気回路の作製②	基板を使った電気回路作製②（トランジスタ，コンデンサを使った回路）
第10回　機械の定義・構成	機械の定義と歴史，機械を構成する部品（ねじや歯車などの共通部品等）
第11回　動力伝達のしくみ：歯車，ベルト，チェーン	動力伝達の種類，トルク，ギア比について
第12回　運動を変化させるしくみ：リンク機構，カム機構	生活の中で用いられるリンク機構，カム機構
第13回　機械部品：共通部品の規格，工具の種類と身近な機械の保守点検	ねじやばねなどの共通部品と工具の使い方。自転車等の身近な機械の保守点検のしかた
第14回　エネルギー変換と社会・環境とのかかわり	これからのエネルギー変換に関する技術とSDGsを考慮した環境とのかかわり
第15回　試験	

■ 履修上の注意
毎回，小テストを実施します。

■ 成績評価方法・基準
期末試験（60%），小テスト（20%），事前・事後学習を含む授業姿勢（20%）
提出された課題は，後日添削して返却します。
実習は，ルーブリックを授業中に配布するので，学習目標として参照してください。

■ 教科書
授業時にプリントを配布します。

■ 参考書
〔技術・家庭〕〔技術分野〕〔開隆堂〕〔価格〕

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付けます。

家庭科教材研究

(11167)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（30 + 15）
対象学科：服専４年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
植　松　公　威

■ 授業の概要
実際に家庭科の教材づくりを通して，学習者にわかりやすく，学習者の理解を促進できる教材の内容と授業の方法について検討する。まず，この授業を履修する学生は教授者としてではなく，学習者として家庭科の単元を学ぶ必要がある。「学ぶ」とは受身的に情報を受け取ることではなく，学習者が主体的に，自らがもっている知識，経験を新しい情報と統合させながら知識を構成し直すことである。こうしたアクティブな「学び」をベースにして，納得するまで知識を探究できるように教材研究を指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・アクティブな「学び」について理解する ・学習者の理解を促進できるような教材づくりを目指すことができる ・自らの教育活動について分析や評価ができるようになる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　「学ぶ」とは何かー構成主義によるアクティブラーニングの考え方ー	従来の暗記中心の見方と新しい考え方，見方を比べて理解すること。
第２回　「評価」とは何か	「評価」の意味について理解すること。
第３回　家庭科の教科書を開くー指定した単元について理解するー	どんな小さな疑問点でも指摘すること。
第４回　わからない点，疑問点について情報を集める	図書館などを利用して資料を集める。
第５回　わからない点，疑問点について問題解決を図る	納得できるまで調べ，問題や疑問を解決できるように努力する。
第６回　実際に家庭科の教材を作る（パート１）	教育目標を立て，評価課題を作成する。
第７回　実際に家庭科の教材を作る（パート２）	教科書には書かれていない重要な情報を調べ，わかりやすい内容になりように心がける。
第８回　実際に家庭科の教材を作る（パート３）	学習者の視点に立って，認知的葛藤を起こしたり，認知的葛藤を解決する情報の提示を目指す。
第９回　実際に家庭科の教材を作る（パート４）	問題解決型のわかりやすい教材ができているか，全体を確認する。
第10回　作成した教材を発表し，議論する	教材を人数分，印刷して，全体で討論する。
第11回　作成した教材を批判的に検討し，問題点を出す	わかりにくい表現，構成になっているところを指摘し，改善する。
第12回　実際に作成した教材を読み，課題を解く	課題に正答できるようになっているかを検討する。
第13回　「誤った知識」のリバウンドとは何か	リバウンドの意味について理解し，どのように防ぐことができるか，考える。
第14回　リバウンドが起きないような教材構成になっているか検討する	認知的葛藤が起きるようになっているか，提示ルールはわかりやすく問題解決型の内容になっているか，点検する。
第15回　まとめ	感想，意見，今後の課題などを出して，話し合う。

■ 履修上の注意
チームで教材研究するため，無断で休まないこと。

■ 成績評価方法・基準
授業への取り組み40%，まとめとしてのレポート課題60%（レポートの内容についてはフィードバックする）。

■ 教科書
授業前に中学校，高校の家庭科教科書を配布する。

■ 参考書

授業の中で紹介する。

■ 備考
相談や質問等については各回の授業中，終了後，あるいはオフィスアワーで受け付ける。

家政特別講義Ⅱ

(11169)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専４年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
植　松　公　威

■ 授業の概要
家政学や服飾文化に関する学習の成果，つまりは四年間の集大成として，これまでに履修している家政学部共通教養科目，同基幹科目，服飾文化専攻科目で修得した知識や技術を生かすことのできる様々な具体的な課題解決に取り組む。この課題解決に取り組む過程で，新しいスキルを身につけることはもちろん，チームディスカッションをくり返し，組織の一員としての自分自身の役割分担や人間関係も身をもって学ぶ。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・与えられたテーマを解決する力を身につける	
・チームで取り組む力を身につける	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	目的、内容、何を目指して学ぶのか、理解する。
第２回　課題に応じた内容について，指示する	自分で問題を見つける。
第３回　仮説を立てる	問題に対する仮の答えを出す。
第４回　条件操作的な実験の計画を立てる	誰に、何のために、どのような条件で、何を実施するのか検討する。
第５回　質問紙、教材を作成する	選んだテーマについて詳しく教材研究する。
第６回　評価問題を作成する	暗記、再生の課題だけでなく、応用、発展的課題を作成する。
第７回　実験を行う	お願いの文書を渡す、課題の解答を渡して実験の目的を知らせる。
第８回　データの集計、結果の表示	エクセルを使ってデータを分析する。
第９回　結果を見て、考察を立てる	何をどんな目的で実験したのか、結果を見て、どのようなことがわかったのか考える。
第10回　仮説が支持されたかどうか検討する	結果を見て、分析をして、仮説が支持されたのかどうかを考える。
第11回　研究発表をする	役割を決めて、研究報告をする。
第12回　他のグループの発表を聞いて、質問をしたり、意見を述べたりする	議論に参加する。
第13回　取り組んだ研究の論文を作成する（目的、方法、結果）	論文をていねいに、詳しくわかりやすく作成する。
第14回　取り組んだ研究の論文を作成する（考察、今後の課題、討論）	論文を論理的に、わかりやすく作成する。
第15回　活動のまとめ	この授業での活動を自己評価する。

■ 履修上の注意
人頼みではなく，積極的かつ自主的に課題に向き合うこと。また，今後の学習や課外活動，就職活動等に生かせるように，各自で取り組みの概要や成果についてこまめにまとめておくこと。

■ 成績評価方法・基準
参加状況（60%：積極性・協力して取り組んでいるかなどの総合評価）と成果（40%）で評価する。

■ 教科書
テーマ別に必要に応じてその都度，指示する。

■ 参考書
テーマ別に必要に応じてその都度，指示する。

■ 備考
質問については各セッションの中で，または終了時，オフィスアワーに受け付ける。

家政特別演習（研修旅行）

(11188)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
植　松　公　威

■ 授業の概要

服飾をはじめ家政学、美術・工芸に関わる博物館、企業、工場などの施設を見学し、授業で学んだ知識や技能を基にして、服飾や家政学に関する実際的な知識を体験的に習得できるように指導する。あらかじめ、事前学習により知りたいこと、疑問に思うことなどを明確にした上で、現地で説明を聞いたり、展示物を見たりすることによって問題解決を図ることができるように指導する。研修で学んだことは、その後の学習や進路選択、就職活動に生かせるように、この授業の意義を伝える。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・生産、流通に関わる企業の活動に対する理解を深める。 ・博物館や企業の資料館の展示物を見ることにより、歴史的、文化的、社会貢献に関する知識を深める。 ・将来の進路（職業選択）を考えるための基礎的な体験学習を行う。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	研修先とスケジュールの確認。
第２回　事前学習（研修先である博物館、資料館、企業、工場などに関する説明と各自の事前での調査）	訪問する施設についての情報を詳しく調べること。
第３回　事前学習（各施設に関して調べたいこと、知りたいこと、見たいものなどを明確化する）	あらかじめ疑問点や学びたいこと、研修の目的などを明確にして、記録すること。
第４回　事前学習（上記２回と３回で学んだことの整理、発表、共有）	研修で何を学ぶのかを皆の前で発表し、学習への意識を高めるとともに、研修の目的を確立させること。
第５回　研修旅行（３泊４日）	事故や怪我がないように慎重に行動すること。
第６回　レポートの作成	施設の資料や写真やメモ（記録）を参考に、見たこと、聞いたこと、わかったこと、わからなかったことを振り返り、整理し、レポートすること。
第７回　研修のまとめ	皆で感想を共有すること。

■ 履修上の注意

研修先では社会人としてふさわしい言動、規律ある行動をするように留意すること。コロナウイルスに感染することのないように、常に気を引き締めて、慎んだ行動をとること。感染症対策をしっかり行うこと。

事前にしっかりとした研修計画を立て、何を学ぶのかという目的を明確化することが実りある研修につながるので、事前の学習に力を入れるようにすること。

■ 成績評価方法・基準

事前学習での調査状況20%、研修中の活動状況50%、研修レポートの内容30%で評価する。

■ 教科書

使用しない。

■ 参考書

研修施設に応じて指示する。

■ 備考

質問、相談は各授業の中で、または授業終了時、オフィスアワーで受け付けるが、随時来室（不在のときあり）してコミュニケーションしてもよい。

感染症の状況等により研修計画、研修形式を変更する場合があります。

家政特別演習（研修旅行）

(11170)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 15）
対象学科：服専３年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

服飾（家政学）や美術・工芸への学びを深めるため，様々な企業・工場や消費者団体，そして博物館・資料館の見学を通じて，実学的な知識・技能を教授する。

なお，事前学習(業界研究)では，より知りたいこと、疑問点などを明確にし，実際の研修を通じて，課題解決に取り組む。さらに，本研修で学んだことは，その後の学習や進路選択の参考にしていくことをめざす。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・博物館や資料館などの展示物を見て，触れることにより，歴史・文化 ・社会貢献に関する知識を深めることができる ・生産，流通などの企業活動に対する理解を深めることができる ・将来の進路（職業選択）を考える基礎を身につける	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	研修先，スケジュールの確認
第２回　事前学習（研修先である博物館や資料館，企業，工場などに関する説明と各自の事前の調査）	説明をよく聞き，訪問する施設についての情報を調べること
第３回　事前学習（各施設で調べたいこと，知りたいこと，見たいものなどを明確化する）	あらかじめ，疑問点や学びたいこと，目的などを明確にして，記録しておくこと
第４回　事前学習（上記３の整理と発表・共有）	研修で何を学ぶのか，皆の前で発表し，意識を高めるとともに，研修の目的を確立させること
第５回　研修旅行（３泊４日）	事故やけががないように慎重に行動すること
第６回　レポートの作成	施設の資料や写真やメモ（記録）を参考に，見たこと，聞いたこと，わかったこと，わからなかったことを振り返り，整理し，レポートすること
第７回　研修のまとめ	皆で感想を共有すること

■ 履修上の注意

・有意義な研修を実現するため，研修先の事前調査を十分に行うこと。
・事前調査の結果や研修において収集した情報・資料などは，分類整理を行った上で，研修報告書を作成すること。
・研修にあたり，東北生活文化大学の学生として，相応の言動や規律ある行動をとるように留意すること。
・新型コロナウイルス感染症の予防対策を入念に実施し，病気やケガ，事故に合わないよう十分に留意すること。

■ 成績評価方法・基準

事前学習(20%)、研修時の取り組み(50%)、プレゼンテーション・研修報告書(30%)で評価します。

成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問，グループワークでのリーダーシップなど]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。

報告書には，コメントを付して返却することにより，フィードバックとする。

■ 教科書

なし。

■ 参考書

必要に応じて指示する。

■ 備考

【質問・相談など】

質問や相談などは，授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。

【重要事項説明】

日本政府の観光・旅行施策を遵守し，新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，オンデマンドやハイブリッド型授業などの代替措置を講じるほか，授業の順番や内容を変更することがありますので，ご承知おき下さい。

服飾ビジネス特別演習 (11171)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（60 + 30）
対象学科：服専３年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

服飾ビジネスは，私たちの暮らしや社会の情報化と深く関わりながら存在する。本授業では，東北の地域産業として，これらの業界で働くヒト，消費するヒトの双方にとって幸せな暮らしを支える「服飾ビジネス」について学びます。

とりわけ，民間シンクタンクでの研究員や情報システム担当者としての実務経験を活かし，服飾ビジネスの事例研究や課題制作をはじめ，学生自らが社会的課題を見出し，学びと経験を深められる「課題解決型授業」の展開により『学生がつなぎ，発信する東北の魅力づくり』に必要な基礎的な知識や技能を教授する。

また，必要に応じて，より実践的な知識を学ぶため，外部講師の招聘を予定している。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・1)服飾ビジネスで求められる知識や技能を理解，実践できる	
・2)新たな時代の価値創造の担い手としての服飾ビジネスを理解できる	
・3)今後の服飾ビジネスのあるべき姿を説明できる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　テーマ：服飾関連のビジネスとは？ 概　要：授業の進め方・評価など	学生便覧の「ソーシャルメディア利用のガイドライン」と「OA実習室･OA教室利用案内」を必ず熟読しておくこと。
第２回　テーマ：服飾関連分野の新たなビジネス動向Ⅰ 概　要：社会的課題の情報収集	各自課題について，インターネットや文献などの情報収集を行う。
第３回　テーマ：服飾関連分野の新たなビジネス動向Ⅱ 概　要：社会的課題の情報分析	同　上
第４回　テーマ：服飾関連分野の新たなビジネス動向Ⅲ 概　要：社会的課題の解決に向けたビジネス提案①	各自課題に取り組む
第５回　テーマ：服飾関連分野の新たなビジネス動向Ⅲ 概　要：社会的課題の解決に向けたビジネス提案②	同　上
第６回　テーマ：ビジネス提案に向けた計画策定Ⅰ 概　要：課題解決のため事業計画づくり①	同　上
第７回　テーマ：ビジネス提案に向けた計画策定Ⅱ 概　要：課題解決のため事業計画づくり②	同　上
第８回　テーマ：フィールドワークⅠ（場合により、学外での活動あり） 概　要：課題の内容に応じた取り組み①	事業計画に沿って，各自課題に取り組む。
第９回　テーマ：フィールドワークⅡ（場合により、学外での活動あり） 概　要：課題の内容に応じた取り組み②	同　上
第10回　テーマ：フィールドワークⅢ（場合により、学外での活動あり） 概　要：課題の内容に応じた取り組み③	同　上
第11回　テーマ：フィールドワークⅣ（場合により、学外での活動あり） 概　要：課題の内容に応じた取り組み④	同　上
第12回　テーマ：フィールドワークⅤ（場合により、学外での活動あり） 概　要：課題の内容に応じた取り組み⑤	同　上
第13回　テーマ：フィールドワークⅥ（場合により、学外での活動あり） 概　要：課題の内容に応じた取り組み⑥	同　上
第14回　テーマ：フィールドワークⅦ（場合により、学外での活動あり） 概　要：課題の内容に応じた取り組み⑦	同　上
第15回　テーマ：前期の振り返り 概　要：後期に向けての課題の進捗状況を確認する	前期を振り返り，後期に向けた課題を見出す。
第16回　テーマ：情報集積 概　要：ファッションデザインについての知見を広げる。 （外部講師・水谷）	各自，課題について情報収集を行う。
第17回　テーマ：実践・ワークショップ（ファッションモデリング） 概　要：テキスタイルを活かす創造的造形	各自，課題制作に取り組む。

	(外部講師・水谷)	
第18回	テーマ：ファッションデザインのまとめ 概　要：シューティング、プレゼンテーション、講評	授業内容の振り返りを行う。
	(外部講師・水谷)	
第19回	テーマ：地域ビジネスの基礎(1) 概　要：地域に根差したビジネスについて学ぶ	地域特性を理解する。
第20回	テーマ：地域ビジネスの基礎(2) 概　要：復興支援とビジネスの関係について学ぶ	東日本大震災の復興支援について理解する。
第21回	テーマ：クラウドファンディングの事例研究(1) 概　要：成功事例から，地域ビジネスに必要な条件を学ぶ。	クラウドファンディングを理解する。
第22回	テーマ：クラウドファンディングの事例研究(2) 概　要：失敗事例から，地域ビジネスに必要な条件を学ぶ。	同　上
第23回	テーマ：購入型クラウドファンディングの基本(1) 概　要：商品の選定／企画・開発について学ぶ	各自計画に沿って課題に取り組む。また，各授業中に学んだことの要点は，必ず講義ノートに記録すること。
第24回	テーマ：購入型クラウドファンディングの基本(2) 概　要：ﾌﾟﾗｯﾄﾌｫｰﾏへの申請について学ぶ	同　上
第25回	テーマ：購入型クラウドファンディングの基本(3) 概　要：クラウドファンディングの実施(受注)の仕組みを学ぶ	同　上
第26回	テーマ：購入型クラウドファンディングの基本(4) 概　要：材料調達・商品生産について学ぶ	同　上
第27回	テーマ：購入型クラウドファンディングの基本(5) 概　要：支援者の購入動機を分析する手法を学ぶ	同　上
第28回	テーマ：購入型クラウドファンディングの基本(5) 概　要：支援者の購入動機から社会的意義を学ぶ	同　上
第29回	テーマ：購入型クラウドファンディングの基本(6) 概　要：マーケティングの必要性を学ぶ	同　上
第30回	テーマ：まとめ 概　要：商品購入(支援)が社会的価値の実現につながったか？ 各自の考察をまとめる。	各自の研究成果を発表する

■ 履修上の注意

原則的に全出席（また，課題の未提出，実習中の態度不良や遅刻・欠席した場合，単位を取得できない）

毎日最低1時間以上，文献・資料調査，もしくは課題制作など，予習・復習をすること。

なお，WordPressは設定や操作が複雑です。システムの不具合が発生したとき，それを解決するまで，あきらめず何度も挑戦する学習姿勢が求められます。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(35%)+レポート(30%)+課題作品(35%)にもとづき評価します。

成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問，グループワークでのリーダーシップなど]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。

なお，課題のフィードバックについては，授業中に適宜行います。

※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

授業中に適宜指示します。

■ 参考書

〔ファッションビジネスの基礎知識〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔(社)日本衣料管理協会〕〔2200円〕

■ 備考

【通常授業＋集中講義】

外部講師による授業の場合は、集中講義期間に実施する。

フィールド調査は，授業の空き時間や休日に実施することがあります。また，課題制作費は自己負担となります。

【質問・相談など】

質問や相談などは，授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。

【重要事項説明】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，オンデマンドやハイブリッド型授業などの代替措置を講じるほか，授業の順番　や内容を変更することがありますので，ご承知おき下さい。

服飾生活特別演習

(11172)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（60 + 30）
対象学科：服専３年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
何　　水　蘭

■ 授業の概要

当たり前の日常となっている家族、衣・食・住、消費生活等について自らが興味・関心を持つことを分析し、服飾生活の課題を見出し、情報収集と分析を行う。研究を進める際には、グループワーク（以下ＧＷ）やディスカッションを交えて進める。解決策や対応策として実際に資料を作成し、課題内容に応じて取り組むため、必要な知識や手法も習得する。さらにそこから得られた結果や知見を研究成果として、実際の制作物の制作案を組み立て、制作物を作成する能力とアピール力を養成する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・課題解決のために必要な知識や手法を身につける。 ・課題解決のための実践力、社会人として必要な基礎力・倫理観を身につける。 ・課題解決できる制作物を作成する能力を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：授業概要、授業の進め方、課題の提示	課題について情報収集する
第２回　服飾生活の課題を提出―生活実態（１）自らの生活体験の分析	課題について情報収集する
第３回　服飾生活の課題を提出―生活実態（２）論文や文献について調査	文献資料を収集する
第４回　課題をまとめ、研究方法の検討　ＧＷ	課題に取り組む。事業計画案を検討する
第５回　事業計画の策定①　素案　ＧＷ	課題に取り組む。試料の入手手段を検討する
第６回　事業計画の策定②　本案、試料準備　ＧＷ	課題に取り組む。進行計画を検討する
第７回　事業計画の策定③　役割分担、進行計画の策定　ＧＷ	課題に取り組む。詳細な作業計画を検討する
第８回　課題に応じた取り組み①　（試料入手等　ＧＷ、学外の場合有）	課題に取り組む。不足の試料がないかを確認する
第９回　課題内容に応じた取り組み②（制作や資料作成等ＧＷ）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む。遅れた分は次時までに終わらせる
第10回　課題内容に応じた取り組み③（制作や資料作成等ＧＷ）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む。遅れた分は次時までに終わらせる
第11回　課題内容に応じた取り組み④（制作や資料作成等ＧＷ）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む。遅れた分は次時までに終わらせる
第12回　課題内容に応じた取り組み⑤（制作や資料作成等ＧＷ）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む。遅れた分は次時までに終わらせる
第13回　課題内容に応じた取り組み⑥（制作や資料作成等ＧＷ）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む。遅れた分は次時までに終わらせる
第14回　課題内容に応じた取り組み⑦（制作や資料作成等ＧＷ）	課題を完成させる。前期での課題を検討する
第15回　前期の総括、後期に向けての課題の整理、進行計画の修正	全範囲を振り返り、後期の進行計画案を検討する
第16回　取り組み内容と後期の進行計画の確認	詳細な作業計画を検討する
第17回　課題内容に応じた取り組み⑧（制作や資料作成等ＧＷ）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む
第18回　課題内容に応じた取り組み⑨（制作や資料作成等ＧＷ）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む
第19回　課題内容に応じた取り組み⑩（制作や資料作成等ＧＷ）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む
第20回　課題内容に応じた取り組み⑪（制作や資料作成等ＧＷ）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む
第21回　課題内容に応じた取り組み⑫（制作や資料作成等ＧＷ）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む
第22回　課題内容に応じた取り組み⑬（制作や資料作成等ＧＷ）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む
第23回　課題内容に応じた取り組み⑭（制作や資料作成等ＧＷ）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む
第24回　課題内容に応じた取り組み⑮（制作や資料作成等ＧＷ）	履修者で協力し、計画に沿って課題に取り組む
第25回　課題内容に応じた取り組み⑯（制作物と資料内容の最終確認ＧＷ）	課題を完成させる。成果報告案を検討する
第26回　課題内容に応じた取り組み⑰（制作物と資料内容の最終確認ＧＷ）	課題を完成させる。成果報告案を検討する
第27回　準備・成果報告　ＧＷ	成果報告の準備を終わらせる
第28回　成果報告　ＧＷ　（外部で実施の場合有）	成果報告の振り返りをはかる
第29回　成果報告・検討会　ＧＷ	成果報告の振り返りをはかる

第30回　おわりに：取り組みの評価、本演習のまとめ	全体を振り返り、今後の課題を見出す

■ 履修上の注意

服飾生活コースの選択学生は必ず履修すること。

授業では、履修者同士で協力して取り組むことが多いので、社会人としてのマナーを心掛け協調して積極的にとり組むこと。遅刻・欠席せず、課題を計画通り進めて次時の授業に臨むこと。授業に必要な道具は事前に準備して持参すること。

■ 成績評価方法・基準

事前準備をし、協力して積極的に課題に取組んでいるかに対し50%、課題の内容・成果50%

課題が未提出、未実施等の際には、評価の対象としない。

ルーブリック評価は第1回の授業で説明する。課題は授業内でフィードバッグする。

■ 教科書

授業前にプリントを配布します。

■ 参考書

課題内容に応じて紹介する

■ 備考

質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。

評価や演習の進め方、事業での連携内容は1回目の授業で説明する。

作業状況等の都合により、授業計画の順番や内容、時間等を変更することがある。

試料入手や情報発信等、課題内容に応じて外部で授業を行う場合もある。時間を変更して実施する。（交通費は各自負担）

専門研究Ⅰ

(11173)

単位（総授業時間数＋自習時間）：４（120 + 60）
対象学科：服専３年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
菅　野　修　一

■ 授業の概要

大学生活の集大成としてポリマーケミストリーの観点からテーマを選定し、現象に対する科学的に理解を深めることをとおして、科学に関する学問体系の一端を教授する。より具体的には、参考文献の収集・実験技術の習得・実験データのまとめ方・論文作成の手法・研究発表の手法に関する基礎を習得できる。

具体的テーマは各個人の単位履修状況及び興味などを考慮して決定する。研究のペースも、各個人の単位履修状況を考慮して進める。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・研究目的を理解し、深い専門知識を身につける。	
・研究成果を発表し、論文としてまとめることが出来る。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：専門研究の進め方	（三年生担任の水谷先生） 過去の専門研究の内容を振り返る。
第２回　研究室の割り振り・研究倫理	（三年生担任の水谷先生）
第３回　文献調査	指定文献の熟読。
第４回　文献調査	指定文献の熟読。
第５回　文献調査	指定文献の熟読。
第６回　文献調査	指定文献の熟読。
第７回　精製実験	データを見直す。
第８回　精製実験	データを見直す。
第９回　合成実験	データを見直す。
第10回　合成実験	データを見直す。
第11回　合成実験	データを見直す。
第12回　合成実験	データを見直す。
第13回　合成実験	データを見直す。
第14回　合成実験	データを見直す。
第15回　精製実験	データを見直す。
第16回　精製実験	データを見直す。
第17回　合成実験	データを見直す。
第18回　合成実験	データを見直す。
第19回　合成実験	データを見直す。
第20回　合成実験	データを見直す。
第21回　分析実験	データを見直す。
第22回　分析実験	データを見直す。
第23回　分析実験	データを見直す。
第24回　分析実験	データを見直す。
第25回　データ整理（学会発表準備・学内口頭発表準備）	論文作成
第26回　データ整理（学会発表準備・学内口頭発表準備）	論文作成
第27回　データ整理（学会発表準備・学内口頭発表準備）	論文作成
第28回　データ整理（学会発表準備・学内口頭発表準備）	論文作成。
第29回　データ整理（学会発表準備・学内口頭発表準備）	論文作成
第30回　.課題研究Ⅰ発表会	論文作成

■ 履修上の注意

理解をより深めるため、有機化学Ⅰ・Ⅱ及び化学Ⅰ・Ⅱの受講が望ましい。

■ 成績評価方法・基準

実験などの平常点・受講態度50%、得られたデータを論文としてまとめプレゼンテーションをおこなうことに対して50%を基準として総合的に評価する。論文は繰り返しフィードバックして指導する。

■ 教科書
多くの参考文献や専門書は必要に応じて配布あるいは貸し出す。

■ 参考書
必要なプリント配布

■ 備考
質問はオフィスアワーはもちろん、常時受けつける。

専門研究 I

(11174)

単位（総授業時間数＋自習時間）：４（60 + 120）
対象学科：服専３年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
植　松　公　威

■ 授業の概要
この授業では「教授学習心理学」の分野の研究活動に取り組む。目標としては，「教授学習心理学」に関する研究テーマを先行研究から選び，追試研究を行うことを目指す。選んだ先行研究をよく理解した上で，先行研究の実験方法などを模倣する形で新たな実験を準備，実施し，データを集計し，論文を作成する。特に，複数の要因に関して表や図を作成したり，結果を読み取ったりする訓練を行う。一連の活動を通して研究に必要なリテラシーやプレゼンテーション力を習得できるように教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・1　ワードやエクセルを用いてデータの集計と図表の作成，読み取りが行えるようになる ・２　教授学習心理学の研究に必要な基礎的なリテラシー（読み書き能力）を身につける ・３　教授学習心理学の研究に興味をもち，今後の課題を見つけ，新たな仮説を立てられるようになる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：専門研究の進め方（３年担任：川又） 過去の専門研究の内容を振り返る	シラバスを熟読すること。
第２回　研究室の割り振り・研究倫理（３年担任：川又）	あらかじめ質問内容を考えておくこと。
第３回　過去の研究テーマの調査（以下、全コマ植松担当）	教授学習心理学の研究テーマを自主的に調べる。
第４回　研究テーマの選定	興味のある研究テーマをいくつかに絞る。
第５回　研究論文の構成について学ぶ	論文の構成とそれぞれの意味について理解する。
第６回　先行研究の内容についてまとめる	興味のある先行研究を選び，レポートする。
第７回　先行研究の内容について報告し，討論する	選んだ先行研究についてレジュメを作成する。
第８回　実験の準備（質問紙，教材，課題などの作成）	選んだ先行研究に基づいて実験計画を立てる。
第９回　実験の準備（実験で使う冊子の内容について構想を立てる）	実験で使う冊子を作成する。
第10回　実験の準備（実験で使う冊子の作成）	実験で使う冊子を作成し，点検する。
第11回　実験の準備（実験で使う冊子のチェックと印刷）	実験で使う冊子を作成し，必要な部数印刷する。
第12回　実験の実施	いつ，どこで，誰に実験を行うのか計画する。
第13回　実験の実施	実施の同意書を作成する。
第14回　実験の実施	必要な部数を配布し，回収する。
第15回　分析対象者を決める	記入済みの冊子を回収し，群ごとに分ける。
第16回　エクセルにデータを入力する	記入済みの冊子を回収し，データを入力する。
第17回　エクセルを使ってデータを集計する	平均値や正答者数（率）を算出する。
第18回　エクセルを使ってデータを分析する	平均値や正答者数（率）の比較を行う。
第19回　エクセルを使って表や図を作成する	平均値や正答者数（率）の図表を作る。
第20回　エクセルを使って表や図を作成する	平均値や正答者数（率）の図表を作る。
第21回　ワードによる研究論文の作成（問題と目的）	仮説について書く。
第22回　ワードによる研究論文の作成（方法）	方法について書く。
第23回　ワードによる研究論文の作成（結果）	結果について書く。
第24回　ワードによる研究論文の作成（考察）	考察について書く。
第25回　ワードによる研究論文の作成（まとめ）	今後の課題について書く。
第26回　発表の準備（パワーポイントの画像の作成）	パワーポイントの画像を作成する。
第27回　発表の準備（発表原稿の作成）	口頭発表の原稿を作成する。
第28回　発表の準備（パワーポイントの画像，発表原稿の作成）	口頭発表の原稿とパソコンの画像を照合する。
第29回　発表の準備（リハーサル）	事前に発表のリハーサルを行う。
第30回　研究発表	大きな声で自信をもって発表する。

■ 履修上の注意
毎回，休まず出席すること。欠席する場合は必ず連絡を入れること。先行研究を熟読し，積極的に学び，作業を自主的に進

めること。わからない点は相談すること。報告・連絡・相談を忘れずに。必修であるための義務感から取り組むのではなく，指導教官との共同研究として，お互いに議論や意見交換しながら，熱心に取り組むこと。とりわけ日本における学校教育のあり方を少しでも良いものに改善するための実証的研究を目指して取り組むこと。

■ 成績評価方法・基準
研究に対する取り組み30%，論文の内容30%，研究発表の準備と当日のパフォーマンス40%。取り組みや論文については，その都度フィードバックしながら指導します。

■ 教科書
必要に応じて授業前に資料（プリント）を配布する。

■ 参考書
研究課題に応じて指示する。

■ 備考
質問等については，いつでもお答えします。各セッションの中で，または終了時に，あるいはオフィスアワーを利用して，質疑応答をすることも可能です。

専門研究 Ⅰ

(11176)

単位（総授業時間数＋自習時間）：４（120 + 60）
対象学科：服専３年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子

■ 授業の概要

2年次までに習得した服飾文化に関する知識や技術の中から、特に、日本服装史、染織文化史、染色学実習に関する知識・技術をもとに、各種資料についての調査研究を行う。研究対象は、本学をはじめとする東北地方に残されている染織関連資料とする。各自が設定したテーマに合わせて、研究計画を立て、調査・分析方法について指導する。さらに、研究の成果をまとめるレポート作成と専門研究発表会に向けてのプレゼンテーション法についても指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

・文献調査や資料調査など研究の進め方の基本を身につける
・これまでに習得した知識・技術を応用できるようになる
・計画的に研究を進める能力を身につける
・レポートやプレゼンテーション資料作成の基本を身につける

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：専門研究の進め方　（3年担任：水谷）	過去の専門研究の内容を振り返る
第２回　研究室の割り振り・研究倫理　（3年担任：水谷）	過去の専門研究の内容を振り返る
第３回　専門研究の設定（以下全コマ、川又）	専門研究の課題について考える
第４回　テーマの決定	配布資料を熟読し、研究テーマについて検討
第５回　文献の調べ方	図書館等で文献検索を行う
第６回　文献調査：各自で文献の収集と調査 ①	図書館等で文献検索を行う
第７回　〃　：各自で文献の収集と調査 ②	図書館等で文献検索を行い、文献を読み進める
第８回　〃　：文献調査のまとめ ①	文献を読み進める
第９回　〃　：文献調査のまとめ ②	文献を読み進める
第10回　〃　：文献調査のまとめ ③	収集した文献をまとめ、報告資料を作成する
第11回　〃　：文献調査の報告	報告資料の修正、研究計画について検討する
第12回　今後の計画策定	研究計画を修正し、研究計画書を完成させる
第13回　研究指導：個別に調査等の指導 ①	時間内に終わらなかった調査等を進める
第14回　〃　：個別に調査等の指導 ②	時間内に終わらなかった調査等を進める
第15回　〃　：個別に調査等の指導 ③	時間内に終わらなかった調査等を進める
第16回　〃　：個別に調査等の指導 ④	時間内に終わらなかった調査等を進める
第17回　〃　：個別に調査等の指導 ⑤	時間内に終わらなかった調査等を進める
第18回　レポート指導：レポートの書き方	これまでの成果をまとめたレポート作成する
第19回　〃　：個別にレポート作成の指導 ①	レポート作成を進める
第20回　〃　：個別にレポート作成の指導 ②	レポート作成を進める
第21回　〃　：個別にレポート作成の指導 ③	レポート作成を進める
第22回　〃　：個別にレポート作成の指導 ④	レポート作成を進める
第23回　抄録作成指導：抄録の書き方	抄録を書く
第24回　〃　：個別に抄録原稿の修正	抄録を完成させ、プレゼンテーション資料の素案を作る
第25回　発表資料作成指導：プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション資料を作成する
第26回　〃　：個別にプレゼン資料の作成指導	プレゼンテーション資料を作成する
第27回　〃　：個別にプレゼン資料の作成指導と発表練習	プレゼンテーション資料を完成させる
第28回　研究室内での発表練習会	プレゼンテーション資料の修正と自主トレ
第29回　専門研究発表会	発表内容について省みる
第30回　専門研究発表会の反省、レポート完成	発表会での指摘内容をレポートに反映させる

■ 履修上の注意

日頃から伝統染織に関しての情報を収集するように心掛けてください。文献や資料の調査、レポート作成などについては、各自で積極的に進め、意欲的に取り組んでください。

■ 成績評価方法・基準

平常の取り組みによる評価（研究ノート等）を50%とし、調査の成果・レポート・発表会でのプレゼンテーションを50%として評価します。研究ノートや作成資料については個別指導時に添削・指導します。

■ 教科書

各自のテーマに沿って指示する。

■ 参考書

各自のテーマに沿って指示する。

■ 備考

質問等は、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）時にも受け付けます。

専門研究 Ⅰ

(11177)

単位（総授業時間数＋自習時間）：４（60 + 30）
対象学科：服専３年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

本演習は，消費生活協同組合や民間シンクタンクなどでの実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』の経歴を踏まえ「身体の不自由なヒトの生活の質と衣生活」という視点から，フィールド調査および商品特性に関する研究を指導する。また，専門的な学びを深めるため『色彩検定UC級』の資格取得を推奨します。

具体的には，①身体の不自由なヒトの身体的・感覚的・認知的特性を学び②彼らの衣生活に関してのフィールド調査，③アクセシブルデザイン（Accessible Design:身体の不自由なヒトの更衣動作への工夫や配慮）について研究を通じて，人間中心設計（Human Centered Design:HCD）の考え方に基づく，被服観の修得をめざします。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・1)商品学的視点で，被服の商品特性を理解できる	
・2)身体の不自由なヒトの困難さについて共感的に理解できる	
・3)アクセシブルデザインの意義を理解し，説明できる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：専門研究の進め方（3年担任：水谷）	過去の専門研究の内容を振り返る。
第２回　研究室の割り振り・研究倫理　（3年担任：水谷）	同　上
第３回　テーマ：研究課題の設定にむけて 概　要：研究の社会的意義を踏まえ，問題意識を明らかにする （以下　全コマの水谷担当）	研究の社会的意義（問題意識）を明確にした上で，自らの仮説にもとづき，それらを解決するための先行研究や統計調査をすすめる。
第４回　テーマ：身体の不自由なヒトたちの暮らしⅠ 概　要：色覚特性の理解を通じて，色づかいの学びを深める	同　上
第５回　テーマ：身体の不自由なヒトたちの暮らしⅡ 概　要：高齢者の見え方を理解し，色づかいの学びを深める	同　上
第６回　テーマ：視覚情報のユニバーサルデザインⅠ 概　要：「誰もが見やすい配慮」について学ぶ	同　上
第７回　テーマ：視覚情報のユニバーサルデザインⅡ 概　要：「誰もが見やすい工夫」について学ぶ	同　上
第８回　テーマ：研究の企画・立案 概　要：先行研究を調査し，新たな課題（テーマ）を見つける	同　上
第９回　テーマ：研究Ⅰ(個別テーマ) 概　要：研究目的を明確化し，基礎統計資料を収集・分析する	同　上
第10回　テーマ：研究Ⅱ(個別テーマ) 概　要：仮説(調査内容)を検討する	同　上
第11回　テーマ：研究Ⅲ(個別テーマ) 概　要：フィールド調査(アンケート・インタビュー)を実施する	フィールド調査を実施し，そこから得られたデータを整理・図表化することにより，これらデータの意味について考察する。
第12回　テーマ：研究Ⅳ(個別テーマ) 概　要：フィールド調査の集計を実施する	同　上
第13回　テーマ：研究Ⅴ(個別テーマ) 概　要：フィールド調査の集計結果を分析する	同　上
第14回　テーマ：課題制作の計画策定 概　要：課題制作に向けて，準備に着手する	同　上
第15回　テーマ：前期のまとめ 概　要：課題制作のコンセプトを決定する	フィールド調査の結果から，コンセプトを設定し，課題制作の準備をすすめる。
第16回　テーマ：課題制作Ⅰ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	計画に沿って，課題制作に取り組む。
第17回　テーマ：課題制作Ⅱ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第18回　テーマ：課題制作Ⅲ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上

第19回	テーマ：課題制作Ⅳ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第20回	テーマ：課題制作Ⅴ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第21回	テーマ：課題制作Ⅵ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第22回	テーマ：課題制作Ⅶ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第23回	テーマ：課題制作Ⅷ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第24回	テーマ：課題制作Ⅸ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第25回	テーマ：課題制作Ⅹ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第26回	テーマ：実証実験 概　要：実証実験を通じて，課題発見力を学ぶ	実証実験や改善・改良などを経て，商品特性への知見を深める。
第27回	テーマ：課題制作Ⅱ（改良・改善） 概　要：改善改良を通じて，問題解決力を学ぶ	同　上
第28回	テーマ：論文執筆 概　要：研究成果を論文にまとめる	フィールド調査および課題制作の結果を論文にまとめ，それらを簡潔に説明するための発表資料を作成する。
第29回	テーマ：報告会準備 概　要：報告会のための発表資料をまとめる	同　上
第30回	テーマ：報告会 概　要：これまでの研究成果を発表する	所定時間内に研究成果を簡潔に発表する。

■ 履修上の注意

自主的な調査・研究には，知識と経験の積み重ねが不可欠となります。
毎日最低1時間以上，文献・資料調査，もしくは課題の制作など，予習・復習を継続すること。
なお，2/3以上の出席がない場合には，単位取得できません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(10%)+制作物・論文(50%)+報告会での研究発表(40%)にもとづき評価します。
成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問，グループワークでのリーダーシップなど]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。
なお，制作物・論文・発表資料のフィードバックについては，適宜行います。
※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

各自の研究テーマや専門分野に応じて指示します。

■ 参考書

授業中に適宜指示します。

■ 備考

【望ましい学生】
「消費生活研究室（水谷ゼミ）」希望者は，以下の条件を満たすことが求められます。
①「消費者力検定」や「色彩検定UC級」の有資格者もしくは資格取得に意欲的な学生を望みます。
②フィールド調査は，授業の空き時間や休日に実施します。また，課題制作費は自己負担となります。
【質問・相談など】
質問や相談などは，授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。
【重要事項説明】
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，オンデマンドやハイブリッド型授業などの代替措置を講じるほか，授業の順番　や内容を変更することがありますので，ご承知おき下さい。

専門研究 I

(11178)

単位（総授業時間数＋自習時間）：４（60 + 60）
対象学科：服専３年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
宮　前　　理

■ 授業の概要
臨床心理学では「心の病」に対する心理アセスメントや心理療法などの心理的支援を通して、人間の心身の健康について研究する。人間にとって幸せとは何か、人間とはそもそも如何なる存在かという問いと出会う研究領域でもある。この領域の中から学生自身が関心を持ったテーマに関する心理学諸学会で発表された研究論文や研究著書を精読し発表を積み重ねていく。臨床心理学の基本的考え方と研究方法を教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・臨床心理学の研究方法と目的を理解した上で文献購読ができる。	
・研究成果をまとめ論文として発表できるようになる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　（以下数字は授業計画数を示す） １　はじめに：専門研究の進め方（3年担任　川又） ２　研究室の割り振り　研究倫理（3年担任　川又）	過去の専門研究の内容を振り返る。 〃
第２回　３．４．５．６　研究課題の設定（以下全コマ　宮前担当）	文献検索を進め研究領域を理解する。研究課題を策定する。
第３回　７．８．９　臨床心理学領域の研究論文１を読み発表する。	研究論文１を熟読する。
第４回　１０．１１．１２　臨床心理学領域の研究論文２を読み発表する。	研究論文２を熟読する。
第５回　１３．１４　文献講読の総合的なまとめと発表	研究論文１．２を総合的に理解する。
第６回　１５．１６．臨床心理学の研究書１を読み発表する。前半	研究書１を章ごとに理解する。
第７回　１７．１８．　臨床心理学の研究書１を読み発表する。後半	研究書１を章ごとに理解する。
第８回　１９．２０　臨床心理学の研究書２を読み発表する。前半	研究書２を章ごとに理解する。
第９回　２１．２２　臨床心理学の研究書２を読み発表する。後半	研究書２を章ごとに理解する。
第10回　２３．２４　研究書１、２の総合的な理解と抄録作成	研究課題に合わせて研究書を総合的に考察する。
第11回　２５　研究課題に関する論文の作成１　素案	研究論文と研究書の理解と考察。
第12回　２６　研究課題に関する論文の作成２　加筆修正	研究論文と研究書の理解と考察。
第13回　２７　研究課題に関する論文の作成３　完成	研究論文と研究書の理解と考察。
第14回　２８　研究課題に関する抄録の作成	
第15回　２９．３０　専門研究発表	

■ 履修上の注意
研究課題の選定は受講者の希望と相談しながら決める予定です。
研究論文、研究書は受講者の研究課題に合わせて選択します。
自主的な研究姿勢を持って参加してください。

■ 成績評価方法・基準
資料の事前の熟読と発表資料の準備３０％、毎回の発表３０％、最終論文と専門研究発表会４０％とします。課題発表と論文作成に当たっては毎回フィードバックを行います。

■ 教科書
演習の中で決めます。

■ 参考書
演習の中で決めます。

■ 備考
質問は演習時やオフィスアワーで受付けます。オフィスアワーでの質問等は事前にメール予約してください。
受講人数などによって授業計画の修正を行う場合があります。

専門研究 I

(11179)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4（60 + 30）
対象学科：服専３年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
何　　水　蘭

■ 授業の概要

専門研究とは、大学生に研究能力を身につけるための授業の1つである。専門研究の過程は、①研究テーマの選定、②これまでの先行研究を調べ、テーマの目的や独自性を明確にする。次に、③研究を具体的に進めるための実験方法、調査手法などを考える。④実験や調査の結果を指導教員などと討論しまとめていく。さらに⑤研究結果にまとめ、応用方法も検討し、作品を作る。最後に⑥学内では専門研究発表会、また学外において学会等で発表する機会を得て発表することもあり得る。専門研究を実践するなかでテーマの選定、種々の調査方法、研究の進め方、結果に対する討論や考察、発表の仕方などを具体的に教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・研究問題の所在を見出し解決すべき課題を設定できる。 ・研究文献資料・データの収集・分析を通じて問題を解決することができる。 ・得られた結論を論理的に整理し文章にまとめることができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：専門研究の進め方　（3年担任：川又）	過去の専門研究の内容を振り返る
第２回　研究室の割り振り・研究倫理　（3年担任：川又）	研究倫理の重要事項を確認する
第３回　専門研究の進め方と年間スケジュールの説明　（以下、全コマ何担当）	研究課題案を検討する
第４回　研究テーマに対する問題意識の具体化および明確化のための文献収集	テーマに関連する一次資料と二次資料の整理と分析
第５回　文献調査①　文献調査と整理	研究手法の種類と方法論の検討
第６回　文献調査②　文献の整理	仮アウトラインの作成と専門研究進行予定の立案
第７回　文献調査③　まとめ	調査した結果を整理し文章にまとめる、予備実験作業計画を検討する
第８回　予備実験データ・調査資料・製作試料などの具体的な収集（抽出）方法の検討	計画に沿って進める
第９回　予備実験①　課題に応じた内容	計画に沿って進める
第10回　予備実験②　課題に応じた内容	研究手法の妥当性の検討
第11回　本実験・本調査・本製作実施のための研究デザインの確認と実施	研究手法の確定
第12回　本実験①　課題に応じた内容	実施経過報告および研究手法の再確認
第13回　本実験②　課題に応じた内容	実施経過報告およびディスカッション
第14回　本実験③　課題に応じた内容	実施経過報告およびデータ処理方法・製作方法等の検討
第15回　本実験実施経過報告およびデータ処理途中結果・製作途中結果からの考察	本実験の実験内容を振り返る
第16回　前期までの進捗状況の確認	後期の専門研究スケジュールの確認
第17回　作品制作①	実物制作の方法と計画を立てる
第18回　作品制作②	実物制作を実施する
第19回　作品制作③	実物制作を実施する
第20回　作品制作④	実物制作を実施する
第21回　作品制作⑤	作品の点検を行う
第22回　論文執筆指導① 論文の組み立て（最終アウトライン）と目次の作成	研究テーマとの整合性の確認
第23回　論文執筆指導②	序文執筆のための研究動機・背景・目的の整理
第24回　論文執筆指導③	執筆のためのデータ処理方法および資料の整理の仕方と考え方
第25回　論文執筆指導④	実験・調査・製作等に対する結果の分析と組み立て
第26回　論文執筆指導⑤	実験・調査・製作などの結果に対する考察の展開

	と組み立て
第27回　論文執筆指導⑥	論文の最終校正・点検・完成
第28回　プレゼンテーション①　プレゼン資料作成、発表練習GW	研究成果を基にしたまとめ資料の作成と点検
第29回　プレゼンテーション②　専門研究Ⅰ発表会	卒業研究の成果発表、作品展示および評価
第30回　おわりに　課題研究のまとめ、今後の課題	全体を振り返り、今後の課題を見出す

■ 履修上の注意

作品作成と論文作成の選定は受講者の希望と相談しながら決める。
作品の種類、論文の種類は受講者の研究課題に合わせて決める。
自主的な研究姿勢を持って参加してください。

■ 成績評価方法・基準

事前準備をし、実験やディスカッションに取組みデータを適切にまとめている事に対し50%
作品・論文・プレゼンテーションに対し50%
課題、提出物は後日添削してフィードバッグする。

■ 教科書

研究課題に応じて指示する。

■ 参考書

研究課題に応じて紹介する。

■ 備考

実験内容、作業状況等の都合により、授業計画の順番や内容、時間の変更と延長等を行う場合がある。
質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。
評価や進め方は1回目の授業で説明する。
課題が未提出、実施されない等の際には、評価の対象としない。

専門研究Ⅰ

(11186)

単位（総授業時間数＋自習時間）：4（120 + 60）
対象学科：服専３年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：必修
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
菊　地　紗　代

■ 授業の概要

「被服造形」いわゆる「洋裁」に関する分野を研究課題として主体的に取り組ませ、このための研究手法を教授する。研究テーマの決定から文献調査・縫製方法立案・制作・論文まとめ・発表までの一連のプロセスに沿って個別に指導する。1・2年次に習得した基礎・基本的な縫製知識と技術を応用・発展させていく。進める際には研究室内でグループワークやディスカッションを取り入れる。課題に対する成果は論文にまとめ、専門研究Ⅰの発表会でプレゼンテーションするとともに、専門研究Ⅱへの土台作りを行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・主体的に課題を進め、解決する能力を身につけることができる。	
・縫製に関する知識・技術を向上することができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：専門研究の進め方　(3年担任：水谷)	過去の専門研究の内容を振り返る。
第２回　研究室の割り振り・研究倫理　(3年担任：水谷)	過去の専門研究の内容を振り返る。
第３回　課題研究の設定（以下全コマ、菊地）	課題研究案を検討する。以下制作ノートの作成。
第４回　研究計画立案	研究の計画案を検討する。
第５回　文献調査①収集	課題を進める。
第６回　文献調査②熟読	課題を進める。
第７回　文献調査③まとめ、グループワーク	課題をまとめる。
第８回　研究方法計画案	研究方法を検討する。
第９回　材料検討①調査	課題を進める。
第10回　材料検討②準備	材料を揃える。
第11回　縫製方法①調査	課題を進める。
第12回　縫製方法②検討、グループワーク	課題を進める。
第13回　縫製方法③決定、グループワーク	課題をまとめる。
第14回　パターン制作①	課題を進める。
第15回　パターン制作②	課題を完成させる。
第16回　部分縫い・試作①	課題を進める。
第17回　部分縫い・試作②	課題を進める。
第18回　部分縫い・試作③	課題を進める。
第19回　部分縫い・試作④まとめ、グループワーク	課題を進める。
第20回　部分縫い・試作⑤整理・分析、グループワーク	課題を完成させる。
第21回　論文作成①	課題を進める。
第22回　論文作成②	課題を進める。
第23回　論文作成③	論文を完成させる。
第24回　抄録作成①	課題を進める。
第25回　抄録作成②	抄録を完成させる。
第26回　発表準備①資料作成	課題を進める。
第27回　発表準備②資料作成・まとめ、グループワーク	資料を完成させる。
第28回　発表準備③練習	資料を修正する。
第29回　専門研究発表会	発表内容を振り返る。
第30回　専門研究発表反省・まとめ	全体を振り返り、まとめる。

■ 履修上の注意

被服造形実習Ⅰ～Ⅲ、CADⅠ・Ⅱを履修していることが望ましい。
専門研究Ⅱも継続して履修することが望ましい。
作品制作をする場合は各自材料費負担。

■ 成績評価方法・基準

日頃の取り組み・制作ノートを50%、作品（部分縫い・試作）・論文・発表を50%として評価する。

課題・提出物は個別指導時、または後日添削してフィードバックする。

■ 教科書
研究テーマに沿って指示する。

■ 参考書
研究テーマに沿って指示する。

■ 備考
受講生の研究課題内容・作業状況により、シラバスの内容が変更することがある。また、時間変更や延長をする場合がある。
課題が未提出、実施されない場合には評価の対象としないことがある。
質問等は時間終了時またはオフィスアワー（曜日・時間は掲示で確認）で受け付ける。

専門研究Ⅱ

(11180)

単位（総授業時間数＋自習時間）：４（120 + 60）
対象学科：服専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
菅　野　修　一

■ 授業の概要

大学生活の集大成としてポリマーケミストリーの観点からテーマを選定し、現象に対する科学的に理解を深めることをとおして、科学に関する学問体系の一端を教授する。より具体的には、参考文献の収集・実験技術の習得・実験データのまとめ方・論文作成の手法・研究発表の手法に関する基礎を習得できる。

具体的テーマは各個人の単位履修状況及び興味などを考慮して決定する。研究のペースも、各個人の単位履修状況を考慮して進める。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・研究目的を理解し、深い専門知識を身につける。	
・研究成果を発表し、論文としてまとめることが出来る。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　文献調査	指定文献の熟読
第２回　文献調査	指定文献の熟読
第３回　文献調査	指定文献の熟読
第４回　文献調査	指定文献の熟読
第５回　精製実験	データを見直す。
第６回　精製実験	データを見直す。
第７回　精製実験	データを見直す。
第８回　精製実験	データを見直す。
第９回　合成実験	データを見直す。
第10回　合成実験	データを見直す。
第11回　合成実験	データを見直す。
第12回　合成実験	データを見直す。
第13回　合成実験	データを見直す。
第14回　合成実験	データを見直す。
第15回　合成実験	データを見直す。
第16回　合成実験	データを見直す。
第17回　合成実験	データを見直す。
第18回　合成実験	データを見直す。
第19回　合成実験	データを見直す。
第20回　合成実験	データを見直す。
第21回　分析実験	データを見直す。
第22回　分析実験	データを見直す。
第23回　分析実験	データを見直す。
第24回　分析実験	データを見直す。
第25回　分析実験	データを見直す。
第26回　データ整理（学会発表準備・学内口頭発表準備）	論文作成
第27回　データ整理（学会発表準備・学内口頭発表準備）	論文作成
第28回　データ整理（学会発表準備・学内口頭発表準備）	論文作成
第29回　データ整理（学会発表準備・学内口頭発表準備）	論文作成
第30回　課題研究Ⅱ発表会	論文作成

■ 履修上の注意

理解をより深めるため、有機化学Ⅰ・Ⅱ及び化学Ⅰ・Ⅱの受講が望ましい。

■ 成績評価方法・基準

実験などの平常点・受講態度50%、文献を調べ得られたデータを論文としてまとめプレゼンテーションをおこなうことに対して50%を基準として総合的に評価する。論文は繰り返しフィードバックして指導する。

■ 教科書
多くの参考文献や専門書は必要に応じて配布あるいは貸し出す。

■ 参考書
必要なプリント配布

■ 備考
質問はオフィスアワーはもちろん、常時受けつける。

専門研究Ⅱ

(11181)

単位（総授業時間数＋自習時間）：４（60 + 120）
対象学科：服専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
植　松　公　威

■ 授業の概要

「教授学習心理学」に関する研究に取り組む。「教える」、「学ぶ」に関する心理学的な問題に取り組む。学習者の理解や認識や課題解決が改善されるように、援助や促進の方法について考えをめぐらし、実験を通して、実証的な考察を行う。前年度の「専門研究Ⅰ」の発展、改善につながるよう、自分で計画を立て、先行研究を踏まえて、新しい知見の発見を目指して研究を行う。成果は、論文にまとめ、学会で発表したり、学術誌に投稿したりできるよう、時間をかけて、熱心に取り組めるように指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・ワードやエクセルを用いてデータの集計と図表の作成，読み取りが独力で行えるようになる ・教授学習心理学の研究に必要な高いレベルのリテラシー（読み書き能力）を身につける ・教授学習心理学の研究に興味をもち、今後の課題を見つけ、新たな仮説を立てられるようになる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（専門研究Ⅱの進め方）	シラバスを読んでおくこと。
第２回　昨年度の振り返り	反省、改善点を話し合う。
第３回　研究テーマについて	興味のあるテーマを出し合う。
第４回　先行研究を入手する	図書館、インターネットを利用する。
第５回　先行研究を要約する	論文の一部にする。
第６回　先行研究について、意見や疑問を出し合う	先行研究を深く理解する。
第７回　実験の準備（仮説を立てる）	実験の構想を立てる。
第８回　実験の準備（教材、評価課題について考える）	自由に意見を述べる。
第９回　実験の準備（冊子をワードで作成する）	分担して取り組む。
第10回　必要な関連する文献を探す	文献を手に入れる。
第11回　実験の準備（冊子の確認と印刷）	実験で使う冊子を作成し、確認する。
第12回　印刷	皆で協力する。
第13回　実験の実施	いつ、どこで、誰に実験をするのか計画する。
第14回　実験の実施	必要な部数を配布し回収する。
第15回　エクセルにデータを入力する	トピック（項目）ごとに入力する。
第16回　エクセルにデータを入力する	群ごとにデータを入力する。
第17回　エクセルを使ってデータを分析する	エクセルを操作し、計算値を求める。
第18回　エクセルを使って表、図を作成する	エクセルを操作し、図表を作る。
第19回　ワードによる論文の作成（目的）	内容について意見を出し合う。
第20回　ワードによる論文の作成（方法）	わかりやすく作成する。
第21回　ワードによる論文の作成（結果）	図表と文章を対応させる。
第22回　ワードによる論文の作成（考察）	全体を振り返り、結果をまとめ、仮説が支持されたかどうか検討し、今後の課題を提示する。
第23回　引用文献、参考文献の記入、確認	本文と対応させて文献リストにまとめる。
第24回　学内での発表の準備（目的、方法）	パワーポイントを使って準備する。
第25回　学内での発表の準備（結果、考察）	パワーポイントを使って準備する。
第26回　学内での発表の準備（発表原稿の作成）	学術的意義の高い内容になるよう心がける。
第27回　学内での発表の準備（予行練習）	時間内に収まるか調べる。
第28回　ワードによる提出論文の作成（表紙、抄録など）	抜け落ちている箇所がないか点検する。
第29回　学内での発表に向けて	分担を決める。
第30回　学内での発表と振り返り	自由に感想を述べ合う。

■ 履修上の注意

毎回，休まず出席すること。欠席する場合は必ず連絡を入れること。先行研究を熟読し，積極的に学び，作業を自主的に進

めること。わからない点は相談すること。報告・連絡・相談を忘れずに。必修であるための義務感から取り組むのではなく，指導教官との共同研究として，お互いに議論や意見交換しながら，熱心に取り組むこと。とりわけ日本における学校教育のあり方を少しでも良いものに改善するための実証的研究を目指して取り組むこと。

■ 成績評価方法・基準
研究に対する取り組み30%，論文の内容30%，研究発表の準備と当日のパフォーマンス40%。取り組みや論文については、その都度フィードバックしながら指導します。

■ 教科書
必要に応じて資料（プリント）や文献，論文のコピーを配布する。

■ 参考書
研究課題に応じて指示する。

■ 備考
質問等については，いつでもお答えします。各セッションの中で，または終了時に，あるいはオフィスアワーを利用して，質疑応答をすることも可能です。

専門研究Ⅱ

(11182)

単位（総授業時間数＋自習時間）：４（120 + 60）
対象学科：服専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
井　上　美　紀

■ 授業の概要

被服科学分野では、専門研究Ⅰから引き続き、家政学を基本として被服整理・染色加工・被服材料に関連する分野の研究課題を設定して取り組む。授業では、課題に応じて文献調査と実験を行う。さらに課題に対する成果は論文にまとめ、発表（課題研究発表会でのプレゼンテーション、課題研究展でのポスター展示）する。このための研究課題の設定、文献調査の手法、実験方法、論文のまとめ方、発表方法等、研究の手法を教授する。研究を進める際には、教員と同研究室学生でのグループワーク(以下GW、ディスカッションとプレゼン等）を取り入れる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・研究手法、課題解決能力、応用力、自己管理能力、倫理観等を身につける。	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：専門研究Ⅱの進め方、研究倫理 GW	取り組み内容、研究倫理の重要事項を確認する。
第２回　研究計画Ⅰでの成果と課題、研究計画 GW	専門研究Ⅰの内容を振り返り、研究計画案を検討する。
第３回　文献調査①　文献検索と整理	文献調査を進める。
第４回　文献調査②　文献の整理	文献調査を進める。
第５回　文献調査③　まとめ　GW	調査した結果を報告し、実験作業計画を検討する。
第６回　実験試料の準備、実験作業計画	計画に沿って進める。
第７回　実験①　課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第８回　実験②　課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第９回　実験③　課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第10回　実験④　課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第11回　実験⑤　課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第12回　実験⑥　課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第13回　実験⑦　課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第14回　実験データの整理と考察①	全体のデータを整理し考察を深める、課題を見出す。
第15回　研究成果の報告①　GW、今後の課題と作業計画立案	後期の実験計画案を検討する。
第16回　後期の実験作業計画、実験試料の準備 GW	前期の実験内容を振り返る。
第17回　実験⑧　課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第18回　実験⑨　課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第19回　実験⑩　課題に応じた内容	計画に沿って進める。実験毎にデータを整理する。
第20回　実験データの整理と考察②	全体のデータを整理し考察を深める。
第21回　研究成果の報告②　GW	データの考察を深める。
第22回　論文作成①　論文構成、論文作成	計画に沿って進める。
第23回　論文作成②　論文作成	計画に沿って進める。
第24回　論文作成③　最終校正	完成させる。
第25回　研究成果の発表方法、抄録作成 GW	プレゼン内容を検討する。

第26回	プレゼンテーション①　抄録作成、プレゼン資料作成	計画に沿って進める。
第27回	プレゼンテーション②　プレゼン資料作成、発表練習GW	計画に沿って進める。発表練習を行う。
第28回	プレゼンテーション③　専門研究Ⅱ発表会	プレゼン内容を振り返る。
第29回	ポスターセッション資料の作成	完成させ、専門研究展で展示する。
第30回	おわりに　専門研究Ⅰ・Ⅱのまとめ GW	全体を振り返り、今後の課題を見出す。 実験試料やデータ資料の整理をする。

■ 履修上の注意

実験は安全に配慮し薬品や火気に注意を怠らない。白衣着用・髪を束ねる。
専門研究Ⅰと同じ、指定の実験ノートを準備する。
実験計画に沿って積極的に進める。

■ 成績評価方法・基準

評価：①事前準備、実験やディスカッションへの取り組み、各回の実験データ整理等、受講態度に対し50%
②論文・プレゼンテーション・ポスター発表に対し50%
課題や論文は、後日添削してフィードバッグする。

■ 教科書

研究課題に応じて指示する。

■ 参考書

研究課題に応じて紹介する。

■ 備考

実験内容や作業状況等の都合により、授業計画の順番や内容、時間の変更と延長等を行う場合がある。
質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。
評価や進め方は1回目の授業で説明する。
欠席が1/3を超える、課題が未提出、計画した実験を実施し指定期日まで終了しない等の際には、評価の対象としない。

専門研究Ⅱ

(11183)

単位（総授業時間数＋自習時間）：４（120 + 60）
対象学科：服専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
川　又　勝　子

■ 授業の概要

専門研究Ⅰでまとめたレポートを基に、より詳細な文献調査や染色資料調査、作品の制作等を行うことで染色学に関する知見を深めさせる。研究対象は、本学をはじめとする東北地方に残されている染織関連資料とし、各自が設定したテーマに合わせて研究計画を立て、調査・分析方法について指導するが、進捗状況をみて個別指導を行う。さらに、研究の成果をまとめる論文作成と専門研究発表会に向けての効果的なプレゼンテーション資料作成についても指導する。

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連

①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

・文献調査や資料調査など研究の進め方の基本を身につける。
・これまでに習得した知識・技術を応用できるようになる。
・計画的に研究を進める能力を身につける。
・レポートやプレゼンテーション資料作成の基本を身につける。

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：専門研究Ⅱの説明	専門研究Ⅰの復習
第２回　テーマの確認と今後の進め方	専門研究Ⅰの復習
第３回　文献・資料等の収集 ①	図書館等での文献収集
第４回　文献・資料等の収集 ②	図書館等での文献調査
第５回　文献・資料等の調査 ①	文献を読み進める
第６回　文献・資料等の調査 ②	文献を読み進める
第７回　個別に制作・調査等の指導 ①	時間内に終わらなかった調査等を進める
第８回　個別に制作・調査等の指導 ②	時間内に終わらなかった調査等を進める
第９回　個別に制作・調査等の指導 ③	時間内に終わらなかった調査等を進める
第10回　個別に制作・調査等の指導 ④	時間内に終わらなかった調査等を進める
第11回　個別に制作・調査等の指導 ⑤	時間内に終わらなかった調査等を進める
第12回　個別に制作・調査等の指導 ⑥	時間内に終わらなかった調査等を進める
第13回　個別に制作・調査等の指導 ⑦	時間内に終わらなかった調査等を進める
第14回　個別に制作・調査等の指導 ⑧	制作・調査についての簡単なプレゼン資料を作成する
第15回　制作・調査の結果まとめ（研究室内発表会）	レポートの修正
第16回　個別に制作・調査等の指導 ⑨	時間内に終わらなかった調査等を進める
第17回　個別に制作・調査等の指導 ⑩	時間内に終わらなかった調査等を進める
第18回　個別に制作・調査等の指導 ⑪	時間内に終わらなかった調査等を進める
第19回　論文作成の指導 ①	論文作成を進める
第20回　論文作成の指導 ②	論文作成を進める
第21回　論文作成の指導 ③	論文作成を進める
第22回　論文作成の指導 ④	論文作成を進める
第23回　論文作成の指導 ⑤	論文作成を進め、抄録の原案を書く
第24回　抄録原稿作成指導	抄録を修正し、プレゼンテーション資料を作成する
第25回　プレゼンテーション資料作成指導	プレゼンテーション資料を修正する
第26回　発表練習	指摘箇所に注意して発表の練習をする
第27回　専門研究発表会	発表会での指摘内容を論文に反映させる
第28回　ポスター作成 ①	ポスター原稿作成
第29回　ポスター作成 ②	ポスター作りを完成させる
第30回　専門研究展でのポスターセッション	ポスターセッションの内容を振り返る

■ 履修上の注意

日頃から伝統染織に関しての情報を収集するように心掛けてください。就職活動等で忙しいこともあると思いますが、シラバスの進度を守るよう努力してください。

■ 成績評価方法・基準

平常の取り組みによる評価（研究ノート等）を50%とし、調査の成果・制作品・論文・発表会でのプレゼンテーションを50%として評価します。研究ノートや資料については個別指導時に添削・指導します。

■ 教科書

各自のテーマに沿って指示する。

■ 参考書

各自のテーマに沿って指示する。

■ 備考

文献や資料の調査、作品制作、論文作成などについては、各自で積極的に進め、意欲的に取り組んでください。研究指導の曜日時間は各人と相談し決定します。あわせて、オフィスアワーも活用してください。

専門研究Ⅱ

(11184)

単位（総授業時間数＋自習時間）：４（60 + 60）
対象学科：服専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
宮　前　　理

■ 授業の概要

専門研究1で「心の病」に対する心理アセスメントや心理療法などの心理的支援の基本的理論と方法について学び、自ら選んだテーマについて論文作成および発表をした。専門研究Ⅱでは、人間にとって幸せとは何か、人間とはそもそも如何なる存在かという問いも含めてさらに理解を深める。この分野の研究論文や著書の精読と発表をさらに積み重ね論文作成と発表をする。人のこころをより深く理解する臨床心理学の理論と研究方法を教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・専門研究Ｉの成果を踏まえてより深い文献購読ができる。 ・研究成果を多角的にまとめ高い次元の論文として発表できるようになる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　（以下の数字は授業回数を示す） １．２　専門研究Ｉの再考	残されていた課題について吟味する。
第２回　３．４　文献１の講読	研究課題に関する文献１を熟読する
第３回　５．６　文献１の発表	研究課題に関する文献１を熟読する
第４回　７．８　文献２の講読	研究課題に関する文献２を熟読する
第５回　９．１０文献２の発表	研究課題に関する文献２を熟読する
第６回　１１．１２　研究書を購読しその要約発表する（１）	研究書を熟読し章ごとに発表する
第７回　１３．１４　研究書を購読しその要約発表する（２）	研究書を熟読し章ごとに発表する
第８回　１５．１６　研究書を購読しその要約発表する（３）	研究書を熟読し章ごとに発表する
第９回　１７．１８　研究書を購読しその要約発表する（４）	研究書を熟読し章ごとに発表する
第10回　１９．２０　研究書を購読しその要約発表する（５）	研究書を熟読し章ごとに発表する
第11回　２１．２２　研究書を購読しその要約発表する（６）	研究書を熟読し章ごとに発表する
第12回　２３．２４　研究文献と研究書を参考に論文の作成　素案作り	執筆と校正
第13回　２５．２６　研究文献と研究書を参考に論文の作成　加筆修正	執筆と校正
第14回　２７．２８　研究文献と研究書を参考に論文の作成　完成	執筆と校正
第15回　２９．３０　専門研究Ⅱの成果発表の準備	

■ 履修上の注意

研究課題の選定は受講者の希望と相談しながら決める予定です。
研究論文、研究書は受講者の研究課題に合わせて選択します。
自主的な研究姿勢を持って参加してください。

■ 成績評価方法・基準

資料の事前の熟読と発表資料の準備３０％、毎回の発表３０％、最終論文と専門研究発表会４０％とします。課題発表と論文作成に当たっては毎回フィードバックを行います。

■ 教科書

演習の中で決めます。

■ 参考書

演習の中で決めます。

■ 備考

質問は演習時やオフィスアワーで受付けます。オフィスアワーでの質問等は事前にメール予約してください。
受講人数などによって授業計画の修正を行う場合があります。

専門研究Ⅱ

(11187)

単位（総授業時間数＋自習時間）：４（60 + 30）
対象学科：服専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
水　谷　　浩

■ 授業の概要

本演習は，消費生活協同組合や民間シンクタンクなどでの実務経験や『消費生活コンサルタント（第46期）』の経歴を踏まえ「身体の不自由なヒトの生活の質と衣生活」という視点から，フィールド調査および商品特性に関する研究を指導する。また，専門的な学びを深めるため『色彩検定UC級』の資格取得を推奨します。

具体的には「専門研究Ⅰ」での調査研究を深化させることにより①身体の不自由なヒトの身体的・感覚的・認知的特性を学び②彼らの衣生活に関してのフィールド調査，③アクセシブルデザイン（Accessible Design:身体の不自由なヒトの更衣動作への工夫や配慮）について研究を通じて，人間中心設計（Human Centered Design:HCD）の考え方に基づく，被服観の修得をめざします。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1)商品学的視点で，被服の商品特性を理解できる	
・2)身体の不自由なヒトの困難さについて共感的に理解できる	
・3)アクセシブルデザインの意義を理解し，説明できる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　専門研究Ⅰの振り返り(1) 概要：専門研究Ⅰの研究内容から今後の課題を確認	専門研究Ⅰの内容を振り返る。
第２回　専門研究Ⅰの振り返り(2) 概要：専門研究Ⅰの検討課題を分類・整理	同　上
第３回　テーマ：研究課題の設定にむけて 概　要：研究の社会的意義を踏まえ，問題意識を明らかにする （以下　全コマ水谷担当）	研究の社会的意義（問題意識）を明確にした上で，自らの仮説にもとづき，それらを解決するための先行研究や統計調査をすすめる。
第４回　テーマ：身体の不自由なヒトたちの暮らしⅠ 概　要：色覚特性の理解を通じて，色づかいの学びを深める	同　上
第５回　テーマ：身体の不自由なヒトたちの暮らしⅡ 概　要：高齢者の見え方を理解し，色づかいの学びを深める	同　上
第６回　テーマ：視覚情報のユニバーサルデザインⅠ 概　要：「誰もが見やすい配慮」について学ぶ	同　上
第７回　テーマ：視覚情報のユニバーサルデザインⅡ 概　要：「誰もが見やすい工夫」について学ぶ	同　上
第８回　テーマ：研究の企画・立案 概　要：先行研究を調査し，新たな課題（テーマ）を見つける	同　上
第９回　テーマ：研究Ⅰ(個別テーマ) 概　要：研究目的を明確化し，基礎統計資料を収集・分析する	同　上
第10回　テーマ：研究Ⅱ(個別テーマ) 概　要：仮説(調査内容)を検討する	同　上
第11回　テーマ：研究Ⅲ(個別テーマ) 概　要：フィールド調査(アンケート・インタビュー)を実施する	フィールド調査を実施し，そこから得られたデータを整理・図表化することにより，これらデータの意味について考察する。
第12回　テーマ：研究Ⅳ(個別テーマ) 概　要：フィールド調査の集計を実施する	同　上
第13回　テーマ：研究Ⅴ(個別テーマ) 概　要：フィールド調査の集計結果を分析する	同　上
第14回　テーマ：課題制作の計画策定 概　要：課題制作に向けて，準備に着手する	同　上
第15回　テーマ：前期のまとめ 概　要：課題制作のコンセプトを決定する	フィールド調査の結果から，コンセプトを設定し，課題制作の準備をすすめる。
第16回　テーマ：課題制作Ⅰ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	計画に沿って，課題制作に取り組む。
第17回　テーマ：課題制作Ⅱ（試作）	同　上

	概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	
第18回	テーマ：課題制作Ⅲ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第19回	テーマ：課題制作Ⅳ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第20回	テーマ：課題制作Ⅴ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第21回	テーマ：課題制作Ⅵ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第22回	テーマ：課題制作Ⅶ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第23回	テーマ：課題制作Ⅷ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第24回	テーマ：課題制作Ⅸ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第25回	テーマ：課題制作Ⅹ（試作） 概　要：課題制作を通じて，被服の商品特性への知見を深める	同　上
第26回	テーマ：実証実験 概　要：実証実験を通じて，課題発見力を学ぶ	実証実験や改善・改良などを経て，商品特性への知見を深める。
第27回	テーマ：課題制作Ⅱ（改良・改善） 概　要：改善改良を通じて，問題解決力を学ぶ	同　上
第28回	テーマ：論文執筆 概　要：研究成果を論文にまとめる	フィールド調査および課題制作の結果を論文にまとめ，それらを簡潔に説明するための発表資料を作成する。
第29回	テーマ：報告会準備 概　要：報告会のための発表資料をまとめる	同　上
第30回	テーマ：報告会 概　要：これまでの研究成果を発表する	所定時間内に研究成果を簡潔に発表する。

■ 履修上の注意

自主的な調査・研究には，知識と経験の積み重ねが不可欠となります。
毎日最低1時間以上，文献・資料調査，もしくは課題の制作など，予習・復習を継続すること。
なお，2/3以上の出席がない場合には，単位取得できません。

■ 成績評価方法・基準

平常点・受講態度(10%)+制作物・論文(50%)+報告会での研究発表(40%)にもとづき評価します。
成績評価にあたっては，授業への参加状況[発言，質問，グループワークでのリーダーシップなど]およびミニットペーパーや小テストの結果にもとづき，総合的に判断します。
なお，制作物・論文・発表資料のフィードバックについては，適宜行います。
※ルーブリック評価については，第1回目の授業で説明します。

■ 教科書

各自の研究テーマや専門分野に応じて指示します。

■ 参考書

授業中に適宜指示します。

■ 備考

【望ましい学生】
「消費生活研究室（水谷ゼミ）」希望者は，以下の条件を満たすことが求められます。
①「消費者力検定」や「色彩検定UC級」の有資格者もしくは資格取得に意欲的な学生を望みます。
②フィールド調査は，授業の空き時間や休日に実施します。また，課題制作費は自己負担となります。
【質問・相談など】
質問や相談などは，授業時間やオフィスアワー（日時は掲示で確認のこと）そしてメールにて対応します。

専門研究Ⅱ

(11185)

単位（総授業時間数＋自習時間）：４（60 + 30）
対象学科：服専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　服飾文化専攻科目
何　　水　蘭

■ 授業の概要

「専門研究Ⅱ」に関する研究は作品制作と論文作成二つの研究方向に分ける。前年度の「専門研究Ⅰ」で見つかった問題点を整理し、さらに理解や認識を深めて、課題解決が改善されるように、方法を考えて、実証的な考察を行う。作品制作を行う学生たちは、デザイン画、パタンメーキング、縫製などの方法を通じて、研究の成果を自分の作品の中に取り組む、さらに実証的な考察を行う。論文作成を行う学生たちは、自分で計画を立て、先行研究を基づいて、独自な研究を目指して、研究を行う。ファッションデザインの中の問題をよく解決するための理論知識と研究方法を教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・研究問題の所在を見出し解決すべき課題を設定できる。 ・研究文献資料・データの収集・分析を通じて問題を解決することができる。 ・得られた結論を論理的に整理し文章にまとめることができる。または、得られた結論を論理的に整理し、作品に取り込むことができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに：専門研究Ⅱの進め方、専門研究Ⅰの振り返り	専門研究Ⅰに問題意識に関わる文献をさらに選定し、精読した上で、問題点をまとめてくる
第２回　文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジュメにまとめ、報告する。
第３回　文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジュメにまとめ、報告する。
第４回　文献・論文の選定、読解、資料収集	問題意識に関連する資料を収集、読解、分析し、レジュメにまとめ、報告する。
第５回　研究テーマ決定、構成の草案	研究手法の種類と方法論の検討
第６回　制作行う学生たちはムードボード作成/実験を行う学生は予備実験データ・調査資料・製作試料などの具体的な収集（抽出）方法の検討	制作行う学生たちはムードボード作成資料収集、実験を行う学生たちは予備実験の資料を収集する
第７回　ムードボード作成/実験１準備	作品１パタン準備/実験１研究手法の確定
第８回　作品１パタン準備/実験１準備	作品１パタン準備/実験１研究手法の確定
第９回　作品１パタン準備/実験１準備	作品１パタン準備/実験１研究手法の確定
第10回　作品１パタン準備/実験１準備	作品１材料準備/実験１実験準備
第11回　作品１縫製/実験１	作品１縫製/実験１
第12回　作品１縫製/実験１	作品１縫製/実験１
第13回　作品１縫製/実験１	作品１縫製/実験１
第14回　作品１仕上げ/実験１結果統計	作品１仕上げ/実験１結果統計
第15回　作品１発表/実験１結果発表	作品展示および評価/研究の成果発表
第16回　前期までの進捗状況の確認	後期の専門研究スケジュールの確認 夏季休暇中の課題報告
第17回　作品２パタン準備/実験２準備	作品２パタン準備/実験２研究手法の確定
第18回　作品２パタン準備/実験２準備	作品２パタン準備/実験２研究手法の確定
第19回　作品２縫製/実験２	作品２縫製/実験２
第20回　作品２縫製/実験２	作品２縫製/実験２
第21回　作品２仕上げ/実験２結果統計	作品２仕上げ/実験２結果統計
第22回　論文執筆指導①	執筆のためのデータ処理方法および資料の整理の仕方と考え方
第23回　論文執筆指導②	執筆のためのデータ処理方法および資料の整理の仕方と考え方
第24回　論文執筆指導③	執筆のためのデータ処理方法および資料の整理の仕方と考え方
第25回　論文執筆指導④	執筆のためのデータ処理方法および資料の整理の

	仕方と考え方
第26回　論文執筆指導⑤	執筆のためのデータ処理方法および資料の整理の仕方と考え方
第27回　論文執筆指導⑥	論文の最終校正・点検・完成
第28回　プレゼンテーション①　プレゼン資料作成、発表練習GW	研究成果を基にしたまとめ資料の作成と点検
第29回　プレゼンテーション②　専門研究Ⅱ発表会	卒業研究の成果発表、作品展示および評価
第30回　おわりに　課題研究のまとめ、今後の課題	全体を振り返り、今後の課題を見出す

■ 履修上の注意

作品作成と論文作成の選定は受講者の希望と相談しながら決める。
作品の種類、論文の種類は受講者の研究課題に合わせて決める。
自主的な研究姿勢を持って参加してください。

■ 成績評価方法・基準

事前準備をし、実験やディスカッションに取組みデータを適切にまとめている事に対し50%
作品・論文・プレゼンテーションに対し50%
課題、提出物は後日添削してフィードバッグする。

■ 教科書

研究課題に応じて指示する。

■ 参考書

研究課題に応じて紹介する。

■ 備考

実験内容、作業状況等の都合により、授業計画の順番や内容、時間の変更と延長等を行う場合がある。
質問などは、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）で受け付ける。
評価や進め方は1回目の授業で説明する。
課題が未提出、実施されない等の際には、評価の対象としない。

健 康 栄 養 学 専 攻 科 目

社会福祉論

(11201)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
伊　藤　常　久

■ 授業の概要
国民が健康で自立した安心できる生活を送ることができるよう支援することは、社会福祉の目的の一つである。講義では、日本や諸外国における社会福祉の歴史と発展について取り上げながら、社会福祉の理念や考え方について紹介する。また、少子高齢化が一層進みつつある我が国の高齢者や児童、障害者等に対する社会福祉の仕組み（法・制度）や現状と合わせ、現在生じているさまざまな課題等について、私たちの生活と関連付けて解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・社会福祉の理念や概念に関する知識を身につける。		0.3	0.4		0.3				
・社会福祉に関連する法・制度に関する知識を身につける。									
・社会福祉の現状や課題について考える力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：授業の説明、アンケート、社会福祉とは	配布プリントをよく読み、この授業で学習内容をまとめておく（次回確認）。
第２回　日本における社会福祉の歴史と発展	配布プリントをよく読み、日本の社会福祉の歴史と主な制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第３回　諸外国における社会福祉の歴史	配布プリントをよく読み、諸外国における社会福祉の歴史と主な制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第４回　諸外国における社会福祉の現状とその制度（VTR）	社会福祉に関するVTRの内容をまとめ、感想と共に次回提出する。
第５回　社会福祉のニーズとは	配布プリントをよく読み、ニーズについて内容をまとめておく（次回確認）。
第６回　社会福祉に携わる専門職	配布プリントをよく読み、専門職について内容をまとめておく（次回確認）。
第７回　ボランティア	配布プリントをよく読み、ボランティアの概念や歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第８回　社会福祉援助技術	配布プリントをよく読み、援助技術の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第９回　障害者福祉①概念とその歴史	配布プリントをよく読み、障害者福祉の概念と歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回　障害者福祉②身体障害者補助犬法	配布プリントをよく読み、身体障害者補助犬法の経緯と現状について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回　高齢者福祉	配布プリントをよく読み、介護を含む高齢者福祉の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第12回　児童福祉	配布プリントをよく読み、児童福祉の歴史と枠組について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回　子どもの権利条約	配布プリントをよく読み、子どもの権利条約について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回　貧困問題と社会福祉	配布プリントをよく読み、貧困とその課題について内容をまとめておく（次回確認）。
第15回　これからの社会福祉、まとめ、授業評価アンケート	配布プリントをよく読み、社会福祉の展望及びこれまでの講義内容の振り返りを行う。
第16回　試験	筆記試験に向けた復習を行う。

■ 履修上の注意
・遅刻・欠席はしないこと。

・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準
・期末試験（70%）、平常点（30%）：受講態度（ミニットペーパーの回答内容並びに提出、授業での発言等）。
・ミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

■ 教科書
〔新 社会福祉とは何か〕〔大久保秀子著〕〔中央法規〕〔1650円〕

■ 参考書
・資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

公衆衛生学Ⅰ

(11202)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
伊　藤　常　久

■ 授業の概要

生活における健康をどのように捉え、どう考えるのか、健康の保持・増進や疾病予防の活動とその仕組みはどうなっているのかを科学的な角度から紹介する。公衆衛生学Ⅰでは、主に公衆衛生の概念や歴史といった概要の他、疾病と予防対策、保健衛生統計等の意義と役割、及び社会と健康について概説する。また、医学や疫学をはじめとする諸科学と公衆衛生との関係、そして各ライフステージにおける公衆衛生活動とその現状ついても合わせて説明する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・公衆衛生の概念や歴史に関する知識を身につける。	
・ライフステージ・分野毎の公衆衛生活動に関する知識を身につける。	
・公衆衛生の状況や課題を把握する力を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、公衆衛生概要：健康の概念	教科書をよく読み、この授業で扱う内容についてまとめておく（次回確認）。
第２回　公衆衛生概要：公衆衛生の概念と歴史	教科書をよく読み、公衆衛生の歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第３回　主要疾患の疫学と予防対策：生活習慣病の概念	教科書をよく読み、生活習慣病の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第４回　主要疾患の疫学と予防対策：主要部位のがん、その他	教科書をよく読み、悪性腫瘍や循環器系疾患等について内容をまとめておく（次回確認）。
第５回　公衆衛生に関する統計資料：保健統計	教科書をよく読み、保健統計の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第６回　公衆衛生に関する統計資料：人口動態統計、その他	教科書をよく読み、人口動態統計等について内容をまとめておく（次回確認）。
第７回　健康・疾病の測定と評価：疫学の概念	教科書をよく読み、疫学の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第８回　健康・疾病の測定と評価：疫学の応用	教科書をよく読み、疫学の応用について内容をまとめておく（次回確認）。
第９回　環境と健康：生態系と人間生活	教科書をよく読み、人間の生活と生態学の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回　環境と健康：環境汚染と健康	教科書をよく読み、環境汚染や公害について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回　国民健康づくり対策	教科書をよく読み、健康づくり運動について内容をまとめておく（次回確認）。
第12回　学校保健	教科書をよく読み、学校保健行政の概要について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回　母子保健	教科書をよく読み、母子保健行政の概要について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回　産業保健	教科書をよく読み、産業保健の概要について内容をまとめておく（次回確認）。
第15回　高齢者保健、まとめ	教科書をよく読み、高齢者保健及びこれまでに取り上げた講義内容の振り返りを行う。
第16回　試験	筆記試験に向けた復習を行う。

■ 履修上の注意

・遅刻・欠席はしないこと。
・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準

・期末試験（70%）、平常点（30%）：受講態度（ミニットペーパーの回答内容並びに提出、授業での発言等）。

・ミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

■ 教科書
〔衛生・公衆衛生学 2023年版〕〔山本玲子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3024円〕

■ 参考書
・資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

公衆衛生学Ⅱ

(11203)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
伊　藤　常　久

■ 授業の概要

生活における健康をどのように捉え、どう考えるのか、健康の保持・増進や疾病予防の活動とその仕組みはどうなっているのかを科学的な角度から紹介する。公衆衛生学Ⅱでは、健康状態・疾病の測定の評価をはじめ、生活習慣の現状とその対策、保健・医療・福祉・介護等の制度、日本や海外の公衆衛生の取り組み、そして、国際的な健康戦略であるヘルスプロモーションの概念等について説明を行う。また、生命と安全に関わる防災対策と公衆衛生との関連についても概説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・公衆衛生に関する法・制度に関する知識を身につける。	
・公衆衛生行政・事業と人々の健康状態に関する知識を身につける。	
・公衆衛生の状況や課題を把握し、考える力を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　健康・疾病の測定と評価：疫学調査・デザインの解釈	教科書をよく読み、疫学調査とデザインについて内容をまとめておく（次回確認）。
第２回　健康・疾病の測定と評価：リスクアナリシス	教科書をよく読み、リスクアナリシスについて内容をまとめておく（次回確認）。
第３回　健康・疾病の測定と評価：疫学研究と倫理	教科書をよく読み、疫学の倫理綱領について内容をまとめておく（次回確認）。
第４回　生活習慣の現状と対策：保健行動の概念とモデル	教科書をよく読み、保健行動の種類について内容をまとめておく（次回確認）。
第５回　生活習慣の現状と対策：保健行動のグループワーク	教科書をよく読み、グループワークの結果について内容をまとめておく（次回確認）。
第６回　公衆衛生の法規・制度（衛生行政）	教科書をよく読み、衛生行政について内容をまとめておく（次回確認）。
第７回　保健と医療：社会保障の概念	教科書をよく読み、現在までの社会保障について内容をまとめておく（次回確認）。
第８回　保健と医療：医療制度と保健	教科書をよく読み、現在までの医療制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第９回　福祉と介護：介護保険制度	教科書をよく読み、介護保険制度の経緯と現状について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回　福祉と介護：保健・医療・福祉・介護の連携	教科書をよく読み、保健医療福祉の連携について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回　環境保健、国際保健	教科書をよく読み、環境保健と国際保健のそれぞれの概念とシステムについて内容をまとめておく（次回確認）。
第12回　精神保健	教科書をよく読み、精神保健の歴史と現在の制度について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回　災害と公衆衛生	教科書をよく読み、災害と公衆衛生活動について内容をまとめておく（次回確認）。
第14回　ヘルスプロモーション	教科書をよく読み、ヘルスプロモーションの概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第15回　まとめ	教科書をよく読み、公衆衛生活動と制度について、これまで学んだ内容をまとめておく。
第16回　試験	重要箇所を中心に筆記試験に向けて復習する。

■ 履修上の注意

・遅刻・欠席はしないこと。
・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準

・期末試験（70%）、平常点（30%）：受講態度（ミニットペーパーの回答内容並びに提出、授業での発言等）。
・各回の授業でのミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

■ 教科書
〔衛生・公衆衛生学　2023年度〕〔山本玲子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3024円〕

■ 参考書
・資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

健康管理概論

(11204)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
伊　藤　常　久

■ 授業の概要
現在の日本が世界的にもトップクラスの長寿国となった実情を踏まえ、今後の健康管理のあり方について教授する。具体的には、これまでの日本における疾病構造の変遷について学習すると共に、特に近年における悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、糖尿病、肥満といったいわゆる非感染性疾患（生活習慣病）が増加している現実及びその主な要因等について解説する。また、各種疾病を含む健康現象についても概説し、私たちの健康度を維持増進させるための学習と実践の意義について述べる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・「健康とは何か」を説明できる基礎的知識を身につける。	0.25	0.25	0.4		0.1				
・平均寿命より健康寿命こそが重要であることを認識する。									
・健康寿命の延伸には自助努力が重要であることを認識する。									
・健康情報の利用・管理法等についても学び、専門的職業人になるための実力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　「健康管理概論」概説（ガイダンス）	資料をよく読み、この授業の学習内容についてまとめておく（次回確認）。
第２回　「健康的痩身方法についての実証的研究」について	資料をよく読み、ダイエットについて内容をまとめておく（次回確認）。
第３回　「日本人の平均寿命延長の主な要因」について	資料をよく読み、平均寿命の変遷について内容をまとめておく（次回確認）。
第４回　「少子高齢化の日本の姿」について	資料をよく読み、少子高齢社会の経緯と現状について内容をまとめておく（次回確認）。
第５回　「現代の日本における健康の姿」について	資料をよく読み、健康の概念と現状について内容をまとめておく（次回確認）。
第６回　「日本人に多い疾病及び死因の今昔」について	資料をよく読み、日本の死因と罹患の歴史について内容をまとめておく（次回確認）。
第７回　「ライフスタイルの現状と課題」について	資料をよく読み、ライフスタイルについて内容をまとめておく（次回確認）。
第８回　「メタボリックシンドロームとその予防」について	資料をよく読み、メタボリックシンドロームの概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第９回　「ロコモティブシンドロームとその予防」について	資料をよく読み、ロコモティブシンドロームの概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第10回　「転ばぬ先の杖（骨）づくり」について	資料をよく読み、骨粗鬆症について内容をまとめておく（次回確認）。
第11回　「総合保健活動としての第一次～第三次予防」について	資料をよく読み、公衆衛生や保健における予防の概念について内容をまとめておく（次回確認）。
第12回　「性と健康」（STD及びHIV／AIDS等を含む）について	資料をよく読み、感染症全般について内容をまとめておく（次回確認）。
第13回　「冬場に多いヒートショックとその予防」について	資料をよく読み、ヒートショックの仕組みについて内容をまとめておく（次回確認）。
第14回　「今後の栄養・運動・休養」について	資料をよく読み、栄養・運動・休養について内容をまとめておく（次回確認）。
第15回　まとめ	資料をよく読み、これまで学んだ内容についてまとめておく（次回試験）。
第16回　試験、試験問題の解説	重要箇所を中心に筆記試験に向けて復習を行い、受験後は解説を踏まえて自己評価を行う。

■ 履修上の注意
・遅刻・欠席はしないこと。

・講義の妨げ、あるいは講義と関係のない行為が見られた場合、平常点は評価外とする。

■ 成績評価方法・基準
・期末試験（70%）、平常点（30%）：受講態度（ミニットペーパーの回答内容並びに提出、授業での発言等）。
・ミニットペーパーについては、次回の授業内でフィードバックを行う。
・試験については問題と解答例をまとめたレジュメを掲示することでフィードバックとする。

■ 教科書
〔衛生・公衆衛生学　2023年版〕〔山本玲子編著〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔3024円〕

■ 参考書
資料（プリント等）を準備するので事前に配布する。

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

解剖生理学Ⅰ

(11205)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
中　尾　真　理

■ 授業の概要
生命現象をなすヒトの体の構造（解剖学）と機能（生理学）とは表裏一体である。つまり生命現象を理解するには、解剖学と生理学を統合的に関連付けて学習する事が望ましい。この授業では臨床医としての経験から、実践的な医療現場での事例や最新医学の話題なども紹介して、健康と栄養に関連する基礎的な知識の修得を目指す。管理栄養士が必ず遭遇する嚥下（飲み込み）の仕組みについても講義する。解剖生理学は領域が広範であるため、１年後期の解剖生理学Ⅰと２年前期の解剖生理学Ⅱに分けてある。解剖生理学Ⅰでは総論、嚥下の仕組み、感覚器系、運動器系、神経系、尿路・生殖器系について解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・解剖生理学の基本的知識を学び身につける。	0.2		0.4	0.2		0.2			
・人体の構造と機能が破綻した病気との関連を理解できる。									
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション 嚥下（飲み込み）の仕組み	参考書第1章を読み不明点を質問
第２回　人体の基本構造・栄養と解剖生理学	教科書「はじめに」を読み、不明点は質問
第３回　人体の基本構造（細胞・組織など）	教科書第1章を読み、不明点は質問
第４回　感覚器系（総論・各論）	教科書第12章1-2を読み、不明点は質問
第５回　感覚器系（各論）	教科書第12章3-5を読み、不明点は質問
第６回　感覚器系（各論）	教科書第12章6-7を読み、不明点は質問
第７回　骨格系（総論、骨格など）	教科書第8章1-3を読み、不明点は質問
第８回　骨格系・筋肉系と運動機能	教科書第8章4第9章1を読み不明点は質問
第９回　運動器系（構造と機能、赤筋と白筋）	教科書第9章2-3を読み、不明点は質問
第10回　神経系（総論、中枢神経）	教科書第11章1-2を読み、不明点は質問
第11回　神経系（末梢神経　脳の血管支配、ニューロン）	教科書第11章3-5を読み、不明点は質問
第12回　神経系（感覚神経・運動神経・自律神経）	教科書第11章6-8を読み、不明点は質問
第13回　腎・尿路系（総論）	教科書第6章を読み不明点は質問
第14回　生殖器系（各生殖器など）	教科書第7章1-3を読み不明点は質問
第15回　生殖器系（女性の性周期、妊娠と分娩）	教科書第7章4-5を読み、不明点は質問
第16回　筆記試験	講義の復習および誤答箇所の事後学修

■ 履修上の注意
解剖生理学の学習のためには生物学の知識が重要である。
事前に生物学の知識を十分に整理しておくことが望ましい。

■ 成績評価方法・基準
期末試験（90%程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10%程度）で評価する。また試験・レポート等についてはフィードバックを行う。

■ 教科書
〔栄養科学イラストレイテッド　解剖生理学　第３版　人体の構造と機能〕〔志村二三夫、岡純、山田和彦編〕〔羊土社〕〔3，190円〕

■ 参考書
〔見える！わかる！摂食嚥下のすべて　改訂第２版〕〔上羽瑠美著〕〔学研プラス〕〔3，960円〕

■ 備考
必修
都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。

質問等は授業終了時・オフィスアワーもしくは電子メールで受け付ける。

解剖生理学Ⅱ

(11206)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
中　尾　真　理

■ 授業の概要
生命現象をなすヒトの体の構造（解剖学）と機能（生理学）とは表裏一体である。つまり生命現象を理解するには、解剖学と生理学を統合的に関連付けて学習する事が望ましい。この授業では臨床医師としての経験から医療現場での事例なども紹介し、健康と栄養に関連する基礎的な知識の修得を目指す。授業では過去の国試の出題例にも言及する。解剖生理学は領域が広範であり解剖生理学Ⅰと解剖生理学Ⅱに分けてある。管理栄養士が臨床で必要とする嚥下についての知識と共に、解剖生理学Ⅱは循環器系、呼吸器系、消化器系、腎・尿路系、血液・免疫系、内分泌系などを解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・解剖生理学の基本的知識を学び身につける。	0.15 0.15 0.7
・人体の構造と機能が破綻した「病気」との関連を理解できる。	
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション嚥下とそれに必要な器官I	参考書第1章を読み、不明点は質問
第２回　循環器系（循環、心臓、血管系、血圧調節）	教科書第２章A～Dを読み不明点は質問
第３回　循環器系（血圧調整、リンパ管系、微小循環）	教科書第２章EFGを読み不明点は質問
第４回　呼吸器系（総論・呼吸器系の構造）	教科書第３章A～Dを読み不明点は質問
第５回　呼吸器系（呼吸器系の機能など）	教科書第３章E～Gを読み不明点は質問
第６回　消化器系（総論、口、咽頭、食道）	教科書第４章ABを読み不明点は質問
第７回　消化器系（胃、小腸、大腸）	教科書第４章Bを読み不明点は質問
第８回　消化器系（肝臓、胆嚢、膵臓など）	教科書第４章CDを読み不明点は質問
第９回　腎・尿路系（総論、腎臓の構造）	教科書第５章Aを読み不明点は質問
第10回　腎・尿路系（腎臓の機能）	教科書第５章Bを読み不明点は質問
第11回　血液（血液総論、血漿、血液細胞など）	教科書第６章A～Eを読み不明点は質問
第12回　血液・免疫系（自然免疫、獲得免疫など）	教科書第６章FGを読み不明点は質問
第13回　内分泌系（総論）	教科書第７章Cを読み不明点は質問
第14回　内分泌系（各論）	教科書第７章Dを読み不明点は質問
第15回　嚥下とそれに必要な器官II・管理栄養士としての関わり	参考書第2章第6章を読み不明点は質問
第16回　筆記試験	講義の復習および誤答箇所の事後学修

■ 履修上の注意
解剖生理学の学習のためには生物学の知識が重要である。
事前に生物学の知識を十分に整理しておくことが望ましい。

■ 成績評価方法・基準
期末試験（90%程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10%程度）で評価する。
また試験・レポート等についてはフィードバックを行う。

■ 教科書
〔なるほどなっとく！解剖生理学 改訂２版〕〔多久和典子 多久和 陽 著〕〔南山堂〕〔3，200円〕

■ 参考書
〔見える！わかる！摂食嚥下のすべて　改訂第２版〕〔上羽瑠美著〕〔学研プラス〕〔3，960円〕

■ 備考
都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。
質問等は授業終了時・オフィスアワーもしくは電子メールで受け付ける。

運動生理学

(11207)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
川　俣　幸　一

■ 授業の概要

本授業では、運動に伴う生理的な諸現象について学習すると共に、現代人の多くが罹患する可能性がある各種生活習慣病の予防及び要介護予防等に必要な運動処方を作成するための基礎的知識について教授する。そして、対象者（運動実施者）の身体的特性等に応じた適切な運動処方を作成できるまでの能力を身につけさせる。加えて受講者個々人に対しても、自分に合った運動やスポーツを積極的・継続的に実践していく人材に成長していけるよう指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・「運動生理学」についての基礎的知識を理解する	0.2	0.2	0.5		0.1				
・今後の健康・体力の維持増進への意欲と実践力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　概論／暑熱環境①（気温・汗）	熱中症について予習しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。ルーブリックを配付する。
第２回　暑熱環境②（水分補給）	スポーツ飲料について予習しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第３回　運動とエネルギー代謝	ATPについて予習しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第４回　呼吸循環器系と持久力①（理論）	心臓や肺について予習しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第５回　呼吸循環器系と持久力②（実際）	同上
第６回　骨格筋の種類と筋力①（理論）	筋肉や骨について予習しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第７回　骨格筋の種類と筋力②（実際）	同上
第８回　前半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、前半部分の内容の見直しを行っておくこと
第９回　健康づくりのための身体活動基準2013	身体活動基準は厚生労働省のHPで生の資料がみられるので予習しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第10回　スポーツと栄養学①（理論）	五大栄養素について予習しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第11回　スポーツと栄養学②（実際）	同上
第12回　糖尿病の運動療法	GLUT4について予習しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第13回　ライフステージ別の運動①（幼児期～成人期）	世代別の栄養問題について予習しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第14回　ライフステージ別の運動②（高齢期）	同上
第15回　後半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、後半部分の内容の見直しを行っておくこと

■ 履修上の注意

応用栄養学、基礎栄養学、生化学、解剖生理学、課題研究等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。なお授業中に許可なく携帯電話を触る、無断退出をする、他の教科の勉強をする、教員の指示に従わないなどの不道徳行為が判明した学生は受講態度（ルーブリック）を一律0%としますので、単位の認定を行うことが難しくなります。

■ 成績評価方法・基準

ミニテストやレポート等・・・70%
受講態度（ルーブリック）・・・30%（例外を除き六割を原点とした加点法とする）
成績はミニテストやレポートの結果ならびに受講態度により総合的に判断します。

■ 教科書
［スポーツ栄養学］［岩田純編著］［アイ・ケイ　コーポレーション］［2530円］

■ 参考書
なし

■ 備考
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。フィードバックとして、小テストは採点をして返却する。

微生物学

(11208)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
黒　川　優　子

■ 授業の概要

私たちの身の回りには病原性の細菌やウイルスが存在し、日常の生活に有害な作用を示すが、その一方で、味噌、納豆、酒類など私たちの日常生活に役立つ微生物も少なくない。人間と微生物の関わりを理解するために、微生物の種類と特徴、微生物による疾患、微生物を用いた食品などについて学ぶ。さらに、病原性微生物の場合、感染および発症機構や免疫機構等についても理解を深める。また、環境中の微生物の単離方法、合成化学物質の微生物分解等、これまでの実務経験（環境調査、環境教育、食育など）を反映させた講義を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・微生物の基礎的な特徴について理解する。	0.1	0.2	0.6		0.1				
・微生物と人間との関わり方について把握する。									
・身の回りの微生物について理解を深める。									

■ 授業計画		自習（事前・事後学修の内容）
第１回　微生物学の歴史①	微生物とは 新型コロナウイルスについて	事後：授業内容の復習。
第２回　微生物学の歴史②	人間と微生物の関わり パンデミック（病気の世界的流行） ワクチン、化学療法 新興感染症、再興感染症、感染症法	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。 練習問題を解く。
第３回　微生物学の基礎①	微生物の種類と性質 微生物の分類、大きさ、性質	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。
第４回　微生物学の基礎②	原虫・寄生虫（１） 原虫・寄生虫とは 構造、種類、性質	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。
第５回　微生物学の基礎③	原虫・寄生虫（２） 主な原虫・寄生虫 原虫・寄生虫とヒトとの関わり	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。 配布された練習問題を解く。
第６回　微生物学の基礎④	真菌 真菌とは 構造、種類、性質 真菌とヒトとの関わり	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。 配布された練習問題を解く。
第７回　微生物学の基礎⑤	細菌（１） 細菌とは 構造、種類、性質	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。
第８回　微生物学の基礎⑥	細菌（２） 細菌とヒトとの関わり	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。
第９回　微生物学の基礎⑦	ウイルス・プリオン ウイルス・プリオンとは 構造、種類、性質 ウイルス・プリオンとヒトとの関わり	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。 配布された練習問題を解く。
第10回　微生物学の基礎⑧	細菌の生理（１） 増殖、栄養要求、培養、細菌数の測定 増殖因子（酸素）	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。
第11回　微生物学の基礎⑨	細菌の生理（２） 増殖因子（温度、pH、水分活性）	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。
第12回　微生物学の基礎⑩	細菌の生理（３）	事前：教科書の該当ページを読む。

	増殖因子（浸透圧、光線、薬物） 滅菌・消毒	事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。
第13回　食品微生物学①	微生物と食品 発酵と腐敗 土壌微生物、空中微生物、水中微生物、 動物腸管内微生物	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。
第14回　食品微生物学②	食品の腐敗・変敗・保存 微生物を利用した食品（１） 発酵調味料、農産発酵食品	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を次の授業で質問できるようにしておく。
第15回　食品微生物学③	微生物を利用した食品（２） 水産発酵食品、畜産発酵食品	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容を復習し、疑問点を質問できるようにしておく。 興味ある発酵食品について調べる。
第16回　試験		授業で学んだことを総復習して試験に臨むこと。

■ 履修上の注意

・微生物の理解には生物学の知識が必要となるので、高等学校での生物科目を復習して授業に臨んでください。

■ 成績評価方法・基準

・平常点・受講態度（授業への参加状況［発言、質問等］、ミニットペーパーおよび小テストの結果、予習・復習の状況等で総合的に判断する）（60%）、期末試験（40%）で評価します。

・提出された課題については、後日、添削して返却します。

■ 教科書

・〔新スタンダード栄養・食物シリーズ16　食品微生物学〕〔村田容常・渋井達郎編〕〔東京化学同人〕〔2，500円〕

・必要に応じて資料を配布します。

■ 参考書

・〔食品微生物学の基礎〕〔藤井建夫編著〕〔講談社〕〔2，800円〕

・〔トコトンやさしい微生物の本〕〔中島春紫著〕〔日刊工業新聞社〕〔1，500円〕

・〔休み時間の微生物学　第２版〕〔北元憲利著〕〔講談社〕〔2，200円〕

・その他、授業時間内に適宜、参考書を紹介します。

■ 備考

・都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。

・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

生化学Ⅰ

(11209)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要

ヒトの生体を構成する、細胞の構造と細胞内に存在する細胞内小器官の種類と機能について説明する。また、生体構成分子であるとともに食品の主たる構成成分で主要栄養素でもあるタンパク質・糖質・脂質の構造と化学的性質について詳説する。さらに、生体内の物質変化であり、栄養素の体内での機能発現の機構である代謝を理解する最初の段階として、代謝反応を司る酵素とはどのようなものであるか、また、酵素の種類・性質と機能について説明する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・細胞の構成の概要を説明できるようにする	0.2　0.2　0.6
・タンパク質・脂質・糖質等の種類、構造と化学的性質を説明できるようにする	
・酵素とは何か、およびその性質を説明できるようにする	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　生化学とは、細胞の構造	教科書の第１章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第２回　細胞内小器官の機能、生体構成成分	教科書の第１章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第３回　アミノ酸とは、アミノ酸の種類	教科書の第２章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第４回　アミノ酸の性質、タンパク質とは	教科書の第２章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第５回　タンパク質の高次構造、タンパク質の種類	教科書の第２章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第６回　糖質とは	教科書の第４章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第７回　単糖類・オリゴ糖類の種類と性質	教科書の第４章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第８回　〔中間試験〕、多糖類の種類・構造と性質	教科書の第４章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第９回　試験の解説、脂質とは、脂質の種類	教科書の第４章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第10回　脂肪酸の特徴と種類、単純脂質の種類・構造と性質	教科書の第４章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第11回　複合脂質の種類・構造と性質	教科書の第４章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第12回　誘導脂質の種類・構造と性質	教科書の第４章の該当箇所を事前に読み、授業後

	にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第13回　酵素とは	教科書の第３章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第14回　酵素の補因子	教科書の第３章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第15回　〔期末試験〕、酵素の分類と性質	教科書の第３章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第16回　試験の解説、酵素活性の調節	教科書の第３章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。

■ 履修上の注意
基礎栄養学の内容と関連が深いので、学習内容を対比して理解を深めること。

■ 成績評価方法・基準
中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組み等、提出物で評価）・・・10%
試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。

■ 教科書
わかりやすい生化学、林寛　他、三共出版、2，400円＋税

■ 参考書
なし

■ 備考
オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

生化学Ⅱ

(11210)

単位：２
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要
生化学Ⅰでの学習内容を基礎として、糖質・脂質・アミノ酸のヒト体内での様々な代謝を、エネルギー代謝を中心に詳説する。さらに、これらの物質から生体で利用できるエネルギーを取り出す機構について説明する。また、様々な生命現象の基本となる遺伝情報を担う情報高分子の構造と機能および遺伝情報の発現の仕組みについて説明する。加えて、ヒトの身体の生理機能の維持の基本となる生体内の情報伝達と恒常性維持の機構について説明する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・糖質･脂質･タンパク質の代謝および生体エネルギーの利用の仕組みを説明できる。 ・情報高分子の構造と機能を説明できる。 ・生体内の情報伝達と生体の恒常性を説明できる。	0.2	0.2	0.6						

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　解糖系	教科書の第６章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第２回　クエン酸回路	教科書の第６章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第３回　グリコーゲン合成経路、ペントースリン酸経路	教科書の第６章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第４回　生体内の酸化還元反応とエネルギー	教科書の第５章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第５回　電子伝達系	教科書の第５章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第６回　脂肪酸のβ酸化、ケトン体の生成	教科書の第７章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第７回　脂肪酸生合成、TG・リン脂質の合成	教科書の第７章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第８回　〔中間試験〕、コレステロール代謝	教科書の第７章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第９回　試験の解説、血漿リポタンパク質	教科書の第７章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第10回　アミノ酸代謝の概要、尿素サイクル	教科書の第８章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第11回　アミノ酸代謝各論	教科書の第８章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第12回　エネルギー分子の代謝の相互関係	教科書の第８章の該当箇所を事前に読み、授業後

	にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第13回　核酸と遺伝子	教科書の第９章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第14回　タンパク質の生合成	教科書の第９章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第15回　〔期末試験〕、細胞間・細胞内の情報伝達	教科書の第10章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第16回　試験の解説、生体内の恒常性の維持	教科書の第10章の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。

■ 履修上の注意
基礎栄養学の内容と関連が深いので、学習内容を対比して理解を深めること。

■ 成績評価方法・基準
中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組み等、提出物で評価）・・・10%
試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。

■ 教科書
わかりやすい生化学、林寛　他、三共出版、2，400円＋税

■ 参考書
なし

■ 備考
オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

病理学

(11211)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
中　尾　真　理

■ 授業の概要
病理学は医学を正しく理解するために、基本となる重要な学問である。現代医療が専門化・細分化する中、次年度に履修する臨床医学概論をより深く理解するために、病理学を学習して大局的に疾病の全体像を把握する事が求められる。主に病理学の総論としての病因、細胞の異常、嚥下障害、循環障害、代謝異常、感染症、免疫、炎症、腫瘍について、ヒトの病気の成り立ちに興味を持ちながら、体系立てて理解できることを目指す。管理栄養士が必ず遭遇する嚥下障害についての基礎知識とともに、臨床医師の経験から実際の臨床現場での事例も交え、幅広く学習し、健康と栄養に関連する専門的な基礎知識を修得できるように講義を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・病理学の基本的知識を学び身につける。		0.2	0.5				0.3		
・ヒトの病気の成り立ちを体系的に理解できるようになる。									
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション、病気と病理学（内因、外因）	教科書第１章を読み、不明点は質問
第２回　嚥下障害について	参考書第1章第3章を読んで、不明点は質問
第３回　細胞の異常（細胞構造と細胞傷害、新陳代謝）	教科書第２章ABを読み、不明点は質問
第４回　細胞の異常（正常細胞の新陳代謝、再生・修復など）	教科書第２章CDを読み、不明点は質問
第５回　循環器系の働き・循環障害と主な疾患	教科書第４章ABCを読み、不明点は質問
第６回　代謝異常（総論、糖尿病）	教科書第５章A～Cを読み、不明点は質問
第７回　代謝異常（脂質・核酸・蛋白など）	教科書第５章D～Hを読み、不明点は質問
第８回　感染（原因となる病原体、感染防御能など）	教科書第７章A～Cを読み、不明点は質問
第９回　感染発症（感染源、感染経路、日和見感染・院内感染）	教科書第７章Dを読み、不明点は質問
第10回　免疫（免疫機構、免疫監視機構、免疫のしくみと働き）	教科書第８章Aを読み、不明点は質問
第11回　免疫異常（アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全など）	教科書第８章B～Fを読み、不明点は質問
第12回　炎症（炎症の正体、原因、基本病変、分類など）	教科書第９章A～Cを読み、不明点は質問
第13回　炎症（全身反応）、腫瘍（癌の正体、分類）	教科書第９章D第10章ABを読み、質問
第14回　腫瘍（癌の特性、癌の診断）	教科書第１０章CDを読み、不明点は質問
第15回　腫瘍（癌の治療）、先天異常、老化など	教科書第１０章E、第3・6章を読み質問
第16回　筆記試験	講義の復習および誤答箇所の事後学修

■ 履修上の注意
以前に学習した生物学、解剖生理学に関連する分野を復習しておくことが望ましい。
授業は教科書に沿って講義を進める。

■ 成績評価方法・基準
期末試験（90%程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10%程度）で評価する。試験・レポート等についてはフィードバックを行う。

■ 教科書
［なるほどなっとく！病理学 改訂２版］〔小林正伸　著〕〔南山堂〕〔2，200円＋税〕

■ 参考書
〔見える！わかる！摂食嚥下のすべて　改訂第２版〕〔上羽瑠美著〕〔学研プラス〕〔3，960円〕

■ 備考
都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。
質問等は授業終了時・オフィスアワーもしくは電子メールで受け付ける。

解剖生理学実験

(11212)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（30 + 15）
対象学科：健専３年
授業形態：実験　学期：後期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
川　俣　幸　一

■ 授業の概要
解剖生理学や栄養学で学んだ知識を基に、確認・体験する事を目的とする。具体的には、身体計測、尿・血液に関する実験、味覚に関する実験について説明し、基本的な実験手技を取得できるように指導する。尿・血液の健康に関する指標や、栄養素の代謝に関する指標を測定する事により、病態時と健康時の指標を理解させる。また、人体の解剖生理に関して、循環器系や消化器系をはじめとして、身体を構成する組織の構造・機能を説明し、理解させる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・身体のしくみについての理解を深める ・実験の基本的な手技を習得する	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに／人体スケッチの実験	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの概論回の予習。事後学習としてレポート作成。ルーブリックを配付し、成績評価について説明する。
第２回　脳・神経・感覚に関する実験	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの脳・神経回の予習。事後学習としてレポート作成。
第３回　味覚に関する実験	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの味覚回の予習。事後学習としてレポート作成。
第４回　体表面積・基礎代謝に関する実験	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの体表面積回の予習。事後学習としてレポート作成。
第５回　呼吸・循環器に関する実験	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの呼吸循環器回の予習。事後学習としてレポート作成。
第６回　運動器に関する実験	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの運動器回の予習。事後学習としてレポート作成。
第７回　体温・疲労に関する実験	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの体温回の予習。事後学習としてレポート作成。
第８回　血液に関する実験	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの血液回の予習。事後学習としてレポート作成。
第９回　尿に関する実験①（定性試験）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの腎臓回の予習。事後学習としてレポート作成。
第10回　尿に関する実験②（クレアチニンの定量）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの腎臓回の予習。事後学習としてレポート作成。
第11回　尿に関する実験③（尿酸の定量）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの腎臓回の予習。事後学習としてレポート作成。
第12回　組織（筋肉など）に関する実験①（生体内ビタミンの局在）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの組織回の予習。事後学習としてレポート作成。
第13回　組織（筋肉など）に関する実験②（生体内グリコーゲンの局在）	事前学習は解剖生理学ⅠⅡの組織回の予習。事後学習としてレポート作成。
第14回　人体の解剖生理1　消化器系：DVD等を供覧し、レポートを作成	解剖生理学ⅠⅡを復習し、授業時の記録ノートから詳細なレポートを作成する
第15回　人体の解剖生理2　免疫系：DVD等を供覧し、レポートを作成	解剖生理学ⅠⅡを復習し、授業時の記録ノートから詳細なレポートを作成する

■ 履修上の注意
実験のため、出席して体験し、実験記録（ノート）を取ること。

■ 成績評価方法・基準
課題レポート・・・90%
受講態度・・・10%（班活動の積極性）
成績はレポートの結果ならびに受講態度により総合的に判断します。

■ 教科書
適宜プリントを配布する

■ 参考書
なし

■ 備考
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。

生化学実験

(11213)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（45 + 15）
対象学科：健専３年
授業形態：実験　学期：前期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要
生体情報高分子であるタンパク質と核酸の性質・機能を理解させるため、牛乳に含まれる各種タンパク質の分離・分析実験を通して、タンパク質の精製法・分析法の基礎を指導する。また、酵素アミラーゼの諸性質の解析および酵素の反応速度解析の基礎的な手法を指導する。さらに生体試料からのゲノムDNAの抽出法とPCRによる遺伝子増幅を用いた遺伝子多型の解析法や、大腸菌を用いた基礎的な遺伝子組換え（形質転換）実験の手法を指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・タンパク質の精製・分離の基本的方法を習得する ・酵素活性の測定と反応速度の解析法を習得する ・生体試料からのDNA抽出と遺伝子解析の基礎を習得する	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　実験の概要説明	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。
第２回　牛乳中のカゼイン・乳清タンパク質の分離：等電点沈殿	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「タンパク質実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第３回　牛乳中のカゼイン・乳清タンパク質の分離：硫安分画	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「タンパク質実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第４回　SDSポリアクリルアミドゲル電気泳動：ゲル作製・泳動	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「タンパク質実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第５回　電気泳動パターンの解析	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「タンパク質実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第６回　アミラーゼ活性の測定	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「酵素実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第７回　酵素反応の最適pHの決定	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「酵素実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第８回　基質濃度と反応速度の解析	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「酵素実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第９回　遺伝子実験の概要説明・DNAの基本的性質	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復

	習し、実験データを整理し、「酵素実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第10回　植物試料からのゲノムDNAの抽出	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「遺伝子実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第11回　ヒトゲノムDNAの抽出	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「遺伝子実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第12回　PCRでの遺伝子増幅	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「遺伝子実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第13回　PCRによる遺伝子多型の解析	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「遺伝子実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第14回　プラスミドDNA導入による大腸菌の形質転換	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「遺伝子実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第15回　大腸菌の形質転換の評価	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「遺伝子実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。

■ 履修上の注意
グループワークで授業を実施するので、班員とよく連携して作業に当たること。実験レポート作成に備え、実験記録をできるだけ綿密に取り、班員間のデータ共有を徹底すること。

■ 成績評価方法・基準
実験レポート（80%）および平常点（受講状況・実施状況；20%）・・・詳細はルーブリック参照
成績評価に関しては、授業はじめにルーブリックを提示する。レポートへのフィードバックとして後日コメントを提示する。

■ 教科書
無し（資料プリントを配布）

■ 参考書
生化学、食品学総論・各論の教科書

■ 備考
オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

臨床医学概論Ⅰ

(11214)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
中　尾　真　理

■ 授業の概要
栄養学の専門家として求められるのは種々の患者の栄養治療だけでなく、一次予防を中心とした健康増進・疾病予防まで多岐にわたってきている。そのため、臨床医学概論の授業では疾患診断・治療などの基礎知識を学び主要疾患の知識を身につける必要がある。臨床医学の領域は広範であり、前期の臨床医学概論Ⅰと後期の臨床医学概論Ⅱに分ける。臨床医学概論Ⅰでは、疾患診断・検査・治療及び栄養・代謝障害、消化器疾患、循環器疾患系などの基礎知識を修得し、臨床現場で健康管理における栄養学的な指導が可能となる事を目指す。関連する国試の過去の出題内容も言及する。管理栄養士が臨床で必要とする嚥下・嚥下障害についての知識と共に、臨床医としての経験から医療現場で行われている事例などを紹介し、最新医学の話題を解説しながら講義を行なう。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・主要疾患それぞれの基礎知識を学び身につける。	
・疾患の成因、病態から診断、治療まで体系的に理解できる。	
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション、嚥下と嚥下障害について	参考書第1章第3章を読み不明点は質問
第２回　疾患診断の概要（問診・診察）	教科書第１章-1-2を読み、不明点は質問
第３回　疾患診断の概要（主な症状）	教科書第１章-3-4を読み、不明点は質問
第４回　疾患診断の概要（臨床検査）	教科書第１章-5-14を読み不明点は質問
第５回　疾患治療の概要（総論）	教科書第３章-1-2を読み、不明点は質問
第６回　疾患治療の概要（治療方法）	教科書第３章 3を読み、不明点は質問
第７回　栄養障害と代謝疾患（栄養障害・糖尿病・脂質異常・肥満）	教科書第４章　1-4を読み不明点は質問
第８回　栄養障害と代謝疾患（痛風～アシドーシス）	教科書第４章　5-9を読み不明点は質問
第９回　消化器系-消化管疾患（口腔・上部）	教科書第6章1-2参考書p49-63を読み、不明点は質問
第10回　消化器系-消化管疾患（下部）	教科書第６章3を読み、不明点は質問
第11回　消化器系-肝胆膵疾患	教科書第７章を読み、不明点は質問
第12回　循環器系（心不全、動脈硬化）	教科書第8章1-2を読み、不明点は質問
第13回　循環器系（虚血性心疾患・高血圧）	教科書第8章3-4を読み、不明点は質問
第14回　循環器系（不整脈・静脈血栓塞栓症・脳血管障害）	教科書第8章5-7を読み、不明点は質問
第15回　加齢・疾患に伴う変化、固体の死	教科書第２章を読み、不明点は質問
第16回　筆記試験	講義の復習および誤答箇所の事後学修

■ 履修上の注意
臨床医学の学習のためには解剖生理学、病理学の知識が重要である。
事前にこれらの知識を十分に整理しておくことが望ましい。

■ 成績評価方法・基準
期末試験（70%程度）とミニットペーパー／小テスト提出等の受講状況（30%程度）で評価する。また試験・レポート等についてはフィードバックを行う。

■ 教科書
〔臨床医学-疾病の成り立ち　栄養科学イラストレイテッド　第３版〕〔田中明・藤岡由夫　編〕〔羊土社〕〔3，190円＋税〕

■ 参考書
〔見える！わかる！摂食嚥下のすべて　改訂第２版〕〔上羽瑠美著〕〔学研プラス〕〔3，960円〕

■ 備考
都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。質問等は授業終了時・オフィスアワーもしくは電子メールで受け

付ける。今年度から教科書が変更になるので、注意すること。

臨床医学概論Ⅱ

(11215)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
中　尾　真　理

■ 授業の概要

医学の進歩が著しい現代において、栄養学の専門家として求められるのは種々の患者の栄養管理だけでなく、一次予防を中心とした健康増進・疾病予防まで多岐にわたってきている。臨床医学概論の授業では、疾患の診断・治療の基礎知識を学び、主要疾患の知識の修得が求められる。後期の臨床医学概論Ⅱでは前期に引き続いて、腎・尿路系、内分泌系、神経精神系、呼吸器系、運動器系、血液系、免疫・アレルギー、感染症、悪性腫瘍の基礎知識を修得し、臨床現場で栄養学的な指導が可能となる事を目指す。国試の過去の出題内容にも言及する。管理栄養士が臨床で必要とする嚥下・嚥下障害についての知識と共に、臨床医師としての経験から実践的な健康管理や医療現場で行われている事例などを紹介し、最新医学の話題などを解説しながら講義を行なう。

■ 授業の到達目標　　学位授与の方針との関連

①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

・主要疾患それぞれの基礎知識を学び身につける。
・疾患の成因、病態から診断、治療まで体系的に理解できる。
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション　嚥下と嚥下障害について	参考書第1章第3章を読み不明点は質問
第２回　内分泌系疾患（特徴・調整システム、脳下垂体異常）	教科書第5章1-2を読み、不明点は質問
第３回　内分泌系疾患（甲状腺・副甲状腺・副腎）	教科書第5章 3-5を読み不明点は質問
第４回　腎・尿路系（腎・尿路の構造～ネフローゼなど）	教科書第９章-1-6を読み不明点は質問
第５回　腎・尿路系（糖尿病性腎症、CKD、透析など）	教科書第９章7-11を読み不明点は質問
第６回　神経・精神系疾患	教科書第10章を読み不明点は質問
第７回　呼吸器系疾患	教科書第11章を読み不明点は質問
第８回　血液系疾患	教科書第12章を読み、不明点は質問
第９回　運動器（骨格系）疾患：カルシウム代謝・骨関節疾患	教科書第13章1-3を読み不明点は質問
第10回　運動器（骨格系）疾患：フレイルサルコペニアロコモ	教科書第13章4-6を読み不明点は質問
第11回　皮膚系疾患	教科書第14章を読み、不明点は質問
第12回　免疫・アレルギー系疾患	教科書第15章1-3を読み不明点は質問
第13回　免疫・アレルギー系疾患（食物アレルギーを含む）	教科書第15章4以降を読み不明点は質問
第14回　婦人科疾患	教科書第16章を読み、不明点は質問
第15回　感染症	教科書第17章を読み、不明点は質問
第16回　筆記試験	講義の復習及び誤答箇所の事後学修

■ 履修上の注意

臨床医学の学習のためには解剖生理学、病理学の知識が重要である。
事前にこれらの知識を十分に整理しておくことが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

期末試験（70%程度）とミニットペーパー／小テスト提出等の受講状況（30%程度）で評価する。また試験・レポート等についてはフィードバックを行う。

■ 教科書

〔臨床医学-疾病の成り立ち　栄養科学イラストレイテッド　第３版〕〔田中明・藤岡由夫　編〕〔羊土社〕〔3，190円＋税〕

■ 参考書

〔見える！わかる！摂食嚥下のすべて　改訂第２版〕〔上羽瑠美著〕〔学研〕〔3，960円〕

■ 備考

都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。
質問等は授業終了時・オフィスアワーもしくは電子メールで受け付ける。

臨床医学概論Ⅱ

(11286)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
中　尾　真　理

■ 授業の概要

医学の進歩が著しい現代において、栄養学の専門家として求められるのは種々の患者の栄養管理だけでなく、一次予防を中心とした健康増進・疾病予防まで多岐にわたってきている。臨床医学概論の授業では、疾患の診断・治療の基礎知識を学び、主要疾患の知識の修得が求められる。後期の臨床医学概論Ⅱでは前期に引き続いて、腎・尿路系、内分泌系、神経精神系、呼吸器系、運動器系、血液系、免疫・アレルギー、感染症、悪性腫瘍の基礎知識を修得し、臨床現場や健康管理における栄養学的な指導が可能となる事を目指す。また過去の国試の出題内容にも言及する。管理栄養士が臨床で必要とする嚥下・嚥下障害についての知識と共に、臨床医師としての経験から医療現場で行われている事例などを紹介し、最新医学の話題などを解説しながら講義を行なう。

■ 授業の到達目標　　学位授与の方針との関連

①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

・主要疾患それぞれの基礎知識を学び身につける。
・疾患の成因、病態から診断、治療まで体系的に理解できる。
・講義で得た知識を社会で活用する能力を身につける。

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション　嚥下と嚥下障害について	参考書第1章第3章を読み、不明点は質問
第２回　腎・尿路系（腎・尿路の構造～ネフローゼなど）	教科書７章-ABを読み、不明点は質問
第３回　腎・尿路系（糖尿病性腎症、CKD、透析など）	教科書７章-Bを読み、不明点は質問
第４回　内分泌系（総論）	教科書８章-ABを読み、不明点は質問
第５回　内分泌系（各論）	教科書８章-ABを読み、不明点は質問
第６回　神経・精神系	教科書９章-ABCを読み、不明点は質問
第７回　呼吸器系（総論）	教科書10章-ABを読み、不明点は質問
第８回　呼吸器系（各論）	教科書10章-ABを読み、不明点は質問
第９回　運動器系	教科書11章-ABを読み、不明点は質問
第10回　血液（総論）	教科書13章-ABを読み、不明点は質問
第11回　血液（各論）	教科書13章-ABを読み、不明点は質問
第12回　免疫・アレルギー（総論）	教科書14章-ABを読み、不明点は質問
第13回　免疫・アレルギー（各論）	教科書14章-ABを読み、不明点は質問
第14回　感染症	教科書15章を読み、不明点は質問
第15回　生殖器系、悪性腫瘍	教科書12章16章を読み不明点は質問
第16回　筆記試験	講義の復習および誤答箇所の事後学修

■ 履修上の注意

臨床医学の学習のためには解剖生理学、病理学の知識が重要である。
事前にこれらの知識を十分に整理しておくことが望ましい。

■ 成績評価方法・基準

期末試験（90%程度）とミニットペーパー提出等の受講状況（10%程度）で評価する。また試験・レポート等についてはフィードバックを行う。

■ 教科書

〔臨床医学-人体の構造と機能及び疾病の成り立ち〕〔医薬基盤・健康・栄養研究所 監修〕〔南江堂〕〔3，100円＋税〕

■ 参考書

〔見える！わかる！摂食嚥下のすべて　改訂第２版〕〔上羽瑠美著〕〔学研プラス〕〔3，960円〕

■ 備考

都合により、授業計画の順番等が変更されることがある。
質問等は授業終了時・オフィスアワーもしくは電子メールで受け付ける。

食品学総論

(11216)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
八　巻　美智子

■ 授業の概要
食品はヒトの生活にとって必須のものであり、食品について正しい情報を持つことは食品を利用するうえで重要である。そこで、化学、生化学、基礎栄養学などの知識を基礎として、食品を構成する各成分の化学的特性と食品における役割、栄養と健康とのかかわりついて講義する。また、それらの特性が食品の調理や保存、加工などにどのように関係するのか解説する。食品学を学ぶことで関連する他分野への興味関心も高められる重要性を詳説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・食品を構成する各種成分について理解する	0.1	0.1	0.7			0.1			
・食品の各成分の栄養特性と物理特性についての知識を習得する									
・美味しく栄養バランスのとれた食事について科学的に考える力を身に付ける。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　食品の定義および分類、食品の成分と機能、食品と環境	事前：教科書にて授業計画内容に記された内容を概覧しておく。（以下の回も同様）
第２回　水分　水の構造と性質、食品中での役割、食品成分表について	事後：教科書、ノートを見直して講義内容を理解し、理解が不十分な点については教員に質問するなどして問題点を解決する。（以下の回も同様）
第３回　炭水化物　糖の構造と種類	1回目、2回目の内容と同様。主に炭水化物について
第４回　炭水化物　糖の性質、糖の反応と炭水化物としての糖	1回目、2回目の内容と同様。主に炭水化物について
第５回　脂質　脂肪酸の構造と性質	小テストに向けて学修する。小テストの復習。
第６回　脂質　油脂の酸化、油脂の栄養	1回目、2回目の内容と同様。主に脂質について
第７回　タンパク質　タンパク質の構造と構成アミノ酸	1回目、2回目の内容と同様。主にタンパク質について
第８回　タンパク質　タンパク質の性質と栄養価	小テストに向けて学修する。小テストの復習。
第９回　脂溶性ビタミン	1回目、2回目の内容と同様。主にビタミンについて
第10回　水溶性ビタミン	1回目、2回目の内容と同様。主にビタミンについて
第11回　ミネラル	1回目、2回目の内容と同様。主にミネラルについて
第12回　食品の呈味成分、色素、香気成分	小テストに向けて学修する。小テストの復習。
第13回　食品の官能評価	1回目、2回目の内容と同様。主に食品の呈味成分、色素、香気成分について
第14回　食品の機能性成分、食品の物性と美味しさ	試験に向けて学修する。1回目、2回目の内容と同様。1回目から14回目までの授業内容について
第15回　これまでのまとめ	試験に向けて学修する。1回目、2回目の内容と同様。1回目から15回目までの授業内容について
第16回　試験	試験に向けて学修する。

■ 履修上の注意
遅刻、欠席は厳禁。講義に集中し、ノートを作製する。予習で生じた疑問点について解決できるようにする。テキストは購入してください。詳細は初回に説明します。

■ 成績評価方法・基準
受講態度（ミニットペーパーの内容・提出など）、小テストの成績等（20%）、試験（80%）の割合で評価する。
小テスト、試験については解答例を配布などすることでフィードバックとする。

■ 教科書
〔食品学総論〕〔著者名：森田潤司、成田宏史　編〕〔化学同人〕〔価格：2800円+税〕

■ 参考書
講義時に指示する

■ 備考
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。
講義の順番や内容は前後または変更する可能性があります。

食品学各論

(11217)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
佐　藤　靖　子

■ 授業の概要

食品材料である植物性食品、動物性食品その他食品について、食品材料の生産上および生物学上の特徴による分類、食材に含まれる成分および旬による成分変化等についての基礎知識を学修する。さらに、図鑑活用による食品の詳細な分類また、写真等の資料は、実物投影機やパワーポイントを用いることにより、食品の外観および内部構造の特徴を視覚的に理解しやすいよう教授する。食品に対する選択能力を高めるとともに、食生活と健康との関連を習得できるよう教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1. 食品材料の特徴を知る	0.2	0.2	0.4			0.2			
・2. 食品材料の分類ができる									
・3. 食品の選択能力を身につける									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス　食品の分類・スローフードについて	授業の進め方、ノートのまとめ方を知る
第２回　植物性食品の特徴	教科書をよく読み授業に臨む
第３回　穀類：コメ、コムギの特徴・成分	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第４回　穀類：トウモロコシ、ソバの特徴・成分	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第５回　イモ類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第６回　マメ類：乾燥豆および野菜としての種類と特徴・成分	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第７回　野菜類：葉菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第８回　野菜類：茎菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第９回　野菜類：根菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第10回　野菜類：果菜類・花菜類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第11回　果実類：種類と特徴・成分	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第12回　動物性食品の特徴	教科書をよく読み授業に臨む
第13回　魚介類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第14回　畜肉類の種類と特徴・成分	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第15回　その他の食品について	教科書をよく読み分類・特徴を把握する
第16回　試験	

■ 履修上の注意

出席点呼開始後に入室した学生は、遅刻扱いとなる。遅刻は3回で１回の欠席とする
ミニットペーパーを課した場合は、提出確認後返却して加点対象とする。
資料は、授業前に配布する

■ 成績評価方法・基準

期末試験70%、受講態度(質問等授業の理解に向けた姿勢など)・提出物30%
提出物への評価は次回授業時に行う。
試験問題は、教科書およびノートからの出題です。解答は掲示にて行う。

■ 教科書

書名：食品学各論　著者名：瀬口正晴・八田　一　出版社：化学同人　価格2，400円

■ 参考書

書名：原色食品図鑑　著者名：井上四郎・菅原龍吉　出版社名：建帛社　価格：2，900円

■ 備考

配布プリントは、講義ノートに張り付けるか転載しておくこと。
都合（出張等）により授業計画が変更されることがある。
質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける。

食品学実験Ⅰ

(11218)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 30）
対象学科：健専1年
授業形態：実験　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
八　巻　美智子

■ 授業の概要
食品学実験では、さまざまな食品からそれぞれの栄養素を分離しその特性を理解するとともに、化学実験を行うにあたっての基本的な認識、態度や基礎的な知識、技術を教授する。すなわち、器具の取り扱い方、測定器具の使用方法、データのまとめ方、レポートの書き方について指導する。管理栄養士養成課程に設置されている実験科目を習得する上での基礎的な技術と心がまえを説明する。また、実験を通して食品を分子レベルで把握する思考を養い、食生活のさまざまな場面において、定量的な考えが応用できるように詳説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・化学実験を行うにあたっての基本的な態度や基礎的な技術を習得する ・データのまとめ方、レポートの書き方について科学的視点から考察する力を習得する ・食物を分子レベルで把握する思考を養い、食生活のさまざまな場面において、定量的な考えが応用できることを目標とする	0.15		0.15		0.5		0.15	0.05	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　授業の概要、実験実施上の注意	事前：実験書を読んでくる．事後：実験書を読む
第2回　じゃがいもからデンプンの分離	事前：実験書などを読んでくる．　事後：ノート整理
第3回　光学顕微鏡によるデンプン粒の観察	実験書などを読みノート整理、結果をまとめレポート作成
第4回　糖質の定性反応1：原理、呈色反応	事前：糖の定性実験についてテキストを読んでくる．　事後：ノート整理
第5回　糖質の定性反応2：呈色反応、還元反応	実験書などを読みノート整理、結果をまとめレポート作成
第6回　小麦粉からグルテンの分離	小麦粉からグルテンの分離について実験書を読む
第7回　グルテンからグリアジンの分離など	グルテンとグリアジンについて理解を深める、実験書などを読む
第8回　蛋白質の定性反応	タンパク質の定性実験について実験書などを読んでくる
第9回　蛋白質の加水分解	実験書などを読みノート整理、結果をまとめレポート作成
第10回　アミノ酸の定性反応	実験書などを読みノート整理、結果をまとめレポート作成
第11回　油脂のケン化と脂肪酸とグリセリンの分離	事前に実験書を読む、事後にノート整理、レポート作成
第12回　脂肪酸のエステル化（ｶﾞｽｸﾛﾏﾄの前処理）	事前に実験書を読む、事後にノート整理、レポート作成
第13回　ガスクロマトグラフによる脂肪酸の測定	実験書などを読みノート整理、結果をまとめレポート作成
第14回　中和滴定1：食酢中の酢酸の定量（原理、ビュレットの使い方等）	実験書などを読みノート整理、結果をまとめレポート作成
第15回　中和滴定2：食酢中の酢酸の定量（試料の測定、計算等）	実験の総括とレポート作成

■ 履修上の注意
白衣を着用し踵の低いスニーカー系を着用。グループで協力し、安全に注意して行うこと（特に薬品や火気の使用）。実験室には不必要なものは持ち込まないこと。長髪の人は髪を束ねること（詳細はプリント配布）。

■ 成績評価方法・基準
授業参加状況（50%、積極性、協力性、ミニットペーパー等）とレポート・小試験（50%）で総合的に評価する。第1回目の授業時にルーブリックの説明をする。レポート等については授業中にフィードバックを実施。履修上の注意が守れない場

合は減点（詳細はプリント配布）。

■ 教科書
［新しい食品学実験］［三共出版］［2，300円］

■ 参考書
必要に応じて随時プリント配布

■ 備考
講義の順番や内容は前後する場合や変更する可能性があります。
質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

食品学実験Ⅱ

(11219)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1 (45 + 30)
対象学科：健専1年
授業形態：実験　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
八　巻　美智子

■ 授業の概要

食品学実験Ⅰで修得した化学実験における基本的手法をもとに様々な食品からそれぞれの栄養素を分離しその特性を説明する。日本食品成分表に記載されている食品中の栄養素の数値の算出方法を理解する為、水分、灰分、脂質、タンパク質等の各成分を抽出して定量分析する方法を教授する。この中で測定器具の使用方法、化学実験における実験の原理、データのまとめ方、レポートの書き方について指導する。管理栄養士養成課程に設置されている実験科目を習得する上での基礎的な技術と心がまえを身につけ、食生活のさまざまな場面において定量的な考えが応用できるように詳説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・化学実験を行うにあたっての基本的な態度や基礎的な技術を習得する。特に定量分析の基本操作と理論を理解する。 ・データのまとめ方、レポートの書き方について科学的視点から考察する力を習得する ・食品成分表に記載されているデータについて測定方法や原理について理解し食物を分子レベルで把握する思考を養い、食生活のさまざまな場面で、定量的な考えが応用できることを目標とする	0.15 0.15 0.5 0.15 0.05

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　食品中の一般栄養成分分析の説明、濃度計算などの小テスト	事前：一般成分分析について実験書などを読む. 小テストに向けて学修。事後：ノート整理、テキストを読む
第2回　恒量測定、ケルダール法　（タンパク質の酸分解）	事前：実験書（授業計画に記載の箇所や授業内で指示された箇所）を読んでくる.　事後：ノート整理
第3回　水分の定量、灰分の定量	事前：実験書（授業計画に記載の箇所や授業内で指示された箇所）を読んでくる.　事後：ノート整理
第4回　脂質の定量：ソックスレー法による脂質の抽出	事前：実験書（授業計画に記載の箇所や授業内で指示された箇所）を読んでくる。　事後：ノート整理
第5回　脂質の定量：ソックスレー法による脂質の抽出後、乾燥、重量測定）	実験書やレポートの書き方のプリントよく読みノートに結果をまとめて整理しレポートを作成する
第6回　水蒸気蒸留の説明とブランク値の測定	実験書やレポートの書き方のプリントよく読みノートに結果をまとめて整理しレポートを作成する
第7回　水蒸気蒸留（試料中の窒素分析）	実験書やレポートの書き方のプリントよく読みノートに結果をまとめて整理しレポートを作成する
第8回　これまでのまとめ計算方法など	事前：実験書（授業計画に記載の箇所や授業内で指示された箇所）を読んでくる。　事後：ノート整理、実験書を読む。
第9回　原子吸光分析1：無機質の測定　方法、原理について	実験書やレポートの書き方のプリントよく読みノートに結果をまとめて整理しレポートを作成する
第10回　原子吸光分析2：　無機質の測定	事前：実験書（授業計画に記載の箇所や授業内で指示された箇所）を読んでくる。　事後：ノート整理、実験書等を読む。
第11回　炭水化物の定量 食物繊維算出方法	実験書やレポートの書き方のプリントよく読みノートに結果をまとめて整理しレポートを作成する
第12回　食品による味覚の変化（官能評価）	事前：実験書（授業計画に記載の箇所や授業内で指示された箇所）を読んでくる。　事後：ノート整理、実験書を読む。
第13回　嗜好成分の定量　（原理、試料調製など）	実験書やレポートの書き方のプリントよく読みノートに結果をまとめて整理しレポートを作成する

第14回　嗜好成分の定量　（測定、結果まとめ等）	実験書やレポートの書き方のプリントよく読みノートに結果をまとめて整理しレポートを作成する
第15回　GC-MSによる食品中の臭気物質の検出	実験の総括とレポート作成

■ 履修上の注意

白衣を着用し踵の低いスニーカー系を着用。グループで協力し、安全に注意して行うこと（特に薬品や火気の使用）。実験室には不必要なものは持ち込まないこと。長髪の人は髪を束ねること（詳細はプリント配布）。

■ 成績評価方法・基準

授業参加状況（50%、積極性、協力性、ミニットペーパー等）とレポート・小試験（50%）で総合的に評価する。第1回目の授業時にルーブリックの説明をする。レポート等については授業中にフィードバックを実施。履修上の注意が守れない場合は減点（詳細はプリント配布）。

■ 教科書

[新しい食品学実験] [三共出版] [2, 300円]

■ 参考書

必要に応じて随時プリント配布

■ 備考

講義の順番や内容は前後する場合や変更する可能性があります。実験の内容により並行して行う場合もあります。質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

食品機能学

(11220)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
永　塚　貴　弘

■ 授業の概要
食品は私たちの身体と生命を支えるうえで、最も基本となる環境要素の一つである。
日本は世界でも類を見ない超高齢社会に突入しているため、健康寿命の延伸と医療費削減が喫緊の課題となっている。
このような背景から、食品の機能性研究が活発に展開され、数多くの保健機能食品が開発されてきた。
本講義では、食品成分の化学構造と健康機能の基礎知識を教授し、保健機能食品制度について詳説するとともに、食品機能成分を活用した産業展開について説明する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・健康維持・疾病予防に関わる食品成分の基礎知識を身につける。 ・食品機能に関する情報を科学的に評価する能力を習得する。 ・学習した知識を食環境の向上に応用する力を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　食品機能学の概要紹介	配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第２回　保健機能食品１：特定保健用食品・栄養機能食品・機能性表示食品	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第３回　保健機能食品２：ヒト試験とデータの解釈	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第４回　脂質の化学と健康機能	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第５回　脂質の酸化反応と疾病との関わりについて	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第６回　米由来ビタミンEによるがん抑制効果	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第７回　食品脂質の特徴と機能：こめ油について	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第８回　カロテノイドによる生体膜脂質の抗酸化作用	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第９回　プラズマローゲンによる認知機能改善効果	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第10回　食品機能に関するトピックス１：時間栄養学について	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第11回　食品機能に関するトピックス２：中鎖脂肪酸について	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第12回　日本食の健康有益性	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。配布プリントを見直して講義内容を復習する。
第13回　保健機能食品３：トクホの関与成分・有効性・作用機構	参考書の該当箇所を事前に閲覧する。プレゼンテーションを準備する。講義内容を復習する。
第14回　保健機能食品４：トクホの効能に関するプレゼンテーション	プレゼンテーションを準備する。講義内容を復習する。
第15回　食品機能学のまとめ	配布プリントを見直して講義内容を復習する。試験に向けて学修する。
第16回　試験	試験に向けて学修する。

■ 履修上の注意
講義内容の理解には栄養学・食品学・生化学で学習した内容が基盤となるため、それらの科目を事前に復習すること。

■ 成績評価方法・基準
期末試験（70%）、プレゼンテーション（30%）の割合で評価する。
試験については解答例を配布してフィードバックする。

■ 教科書
講義前にプリントを配布。

■ 参考書
〔食品の機能化学〕〔著者：宮澤陽夫・五十嵐脩〕〔出版社：アイ・ケイコーポレーション〕〔価格：2，500円＋税〕

■ 備考
質問等は講義終了時、もしくは下記のメールアドレスで受付ける。
東北大学大学院農学研究科　永塚貴弘
E-mail: takahiro.eitsuka.a1@tohoku.ac.jp

食品加工学

(11221)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
佐　藤　靖　子

■ 授業の概要

加工食品は、安全性、貯蔵性、嗜好性、嗜好性等の付与により、生活の利便性や経済性の向上に関与するものであり、食品の加工方法、保存方法の学修により、加工原理に対する理解を深めるよう詳説する。食品が製品化されるまでの食品成分の変化（物性的、化学的、栄養学的）に対する基礎知識を身につけるよう説明する。加工された食品の規格、表示および包装に関する学修を通して商品化される要因を理解する。食品の加工について総合的な理解力が深まるように教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・1. 食品の物理的、化学的、生物的加工方法が理解できる	
・2. 食品加工の規格、表示が理解できる	
・3. 食品の製品化に伴う加工工程が理解できる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　食品加工の目的	目的を教科書・配布資料で確認する
第２回　食品加工方法：物理的加工：粉砕、濃縮、ろ過等	物理的方法を確認する
第３回　食品加工方法：物理的加工：乾燥、冷凍等	教科書・配布資料を読み返す
第４回　食品加工方法：化学的加工	化学的方法を確認する
第５回　食品加工方法：生物的加工	生物的方法を確認する
第６回　食品保存方法：水分活性等	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第７回　食品保存方法：CA貯蔵等	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第８回　食品保存方法：浸透圧利用等	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第９回　食品保存方法：加熱、冷蔵等	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第10回　食品の包装：材料	包装の素材について確認する
第11回　食品の包装：特徴	教科書・配布資料を読み返す
第12回　食品の規格	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第13回　食品の表示	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第14回　農産食品の加工	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第15回　畜産・水産食品の加工	授業内容を教科書・配布資料で確認する
第16回　試験	

■ 履修上の注意

出席点呼開始後に入室した学生は、遅刻扱いとなる。遅刻は3回で１回の欠席とする。
ミニットペーパーを課した場合は、提出確認後に返却し加点対象とする。

■ 成績評価方法・基準

期末試験70%、受講態度30%
ミニットペーパーを課した場合は、授業態度の範囲で加点する。
試験問題は、教科書およびノートからの出題です。試験後解答例を掲示する。

■ 教科書

〔書名：食品加工学〕〔著者名：西村公雄、松井徳光〕〔出版社名：化学同人〕〔価格：2，100円〕

■ 参考書

なし

■ 備考

食品学各論の内容を復習しておく。
質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける。

食品加工実習

(11222)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 90）
対象学科：健専３年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
佐　藤　靖　子

■ 授業の概要
食品材料を物理的、化学的、生物的方法により変化させて、加工工程を経て製品を製造し、素材から製品までの過程について説明する。加工工程による食品の様々な変化を良く観察させるとともに、それらの現象を文献の活用により科学的に考察できる能力の向上を図る。製品の貯蔵中の変化を経時的に観察させ貯蔵・保蔵の理解を深める。加工した製品については、保存に適した容器を選択、安全に留意した保存、消費期限・賞味期限について修得できるよう教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1. 食品の加工目的を原理が理解できる	
・2. 食品の加工方法を身につける	
・3. 食品の加工工程と貯蔵・保蔵が理解できる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　前半ガイダンス　安全・衛生、レポート作成など	実習の事前準備や容器等を確認する
第２回　グミ	レポート作成・提出
第３回　トリ味噌	レポート作成・提出
第４回　ショートパスタ	レポート作成・提出
第５回　ラーメン	レポート作成・提出
第６回　きな粉飴	レポート作成・提出
第７回　コンニャク	レポート作成・提出
第８回　後半ガイダンス	実習準備や容器等を確認する
第９回　佃煮	レポート作成・提出
第10回　豆腐	レポート作成・提出
第11回　甘酒	レポート作成・提出
第12回　液体調味料	レポート作成・提出
第13回　パン	レポート作成・提出
第14回　ジャム	レポート作成・提出
第15回　ラムネ	レポート作成・提出
第16回　まとめ	

■ 履修上の注意
レポートは次回の授業開始前までに指定の場所へ提出すること。遅れた場合は遅刻提出となり1点減点とする。
身支度が整わない学生の入室はできない（欠席扱い）。実習中の安全・衛生に十分注意すること。
資料は、1回目の授業もしくは前週の授業終了後に配布する。

■ 成績評価方法・基準
レポート提出85%（実習回数で割った積み重ね点とする）、授業態度（身支度を含む）15%。
身支度に不備があった場合は、2点減点とする。
提出されたレポートは確認後返却する。未提出のレポートがある場合は、評価なしとする。
他者と同内容のレポートが提出された場合は、評価なしとする。提出されたレポートは後日返却する。
ルーブリックについて1回目の授業で説明する。

■ 教科書
配布プリント使用

■ 参考書
食品学各論、食品加工学、調理科学、イラスト調理Book等

■ 備考
学生の校外実習または材料の入手状況により授業計画の順番・内容が変更することがある。
学外実習で欠席する場合のレポート提出は、ガイダンスにて説明する。

質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける。

食品衛生学

(11223)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
黒　川　優　子

■ 授業の概要

近年、食品の安全性について多くの問題が社会的に注目されており、消費者の関心も高まっている。ここでは食品の腐敗や食中毒、寄生虫とその疾患、食品添加物、さらに身の回りに存在する各種合成化学物質や重金属などによる食品や水の汚染が健康にどのような影響を及ぼすかについて学び、食品の安全性確保に関する法律と安全性確保のための具体的な方法を解説する。また、飲料水や食品中に含まれる農薬などの合成化学物質の分析方法、天然および養殖魚介類における寄生虫の検査方法等、これまでの実務経験（環境調査、環境教育、食育など）を反映させた講義を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・食品の安全性を脅かすものについて学ぶ。	
・食品の安全性確保に関する基礎知識を身につける。	
・身の回りの食品衛生に関する事象について理解を深める。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　食品衛生とは、食品衛生と法規	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第２回　食品と微生物	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
第３回　食中毒の定義と概要・食中毒の発生状況	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第４回　微生物性食中毒①　細菌性食中毒 サルモネラ、腸炎ビブリオ、 カンピロバクター、腸管出血性大腸菌、 その他の病原大腸菌、黄色ブドウ球菌	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第５回　微生物性食中毒②　細菌性食中毒 ボツリヌス菌、ウェルシュ菌、 セレウス菌、リステリア菌、赤痢菌	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第６回　微生物性食中毒③　ウイルス性食中毒 プリオン	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第７回　微生物性食中毒④　微生物性食中毒のまとめ	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第８回　自然毒食中毒・マイコトキシン食中毒	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第９回　寄生虫性食中毒①　野菜・飲料水・魚介類からの感染	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第10回　寄生虫性食中毒②　食肉類からの感染	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第11回　化学性食中毒①　有害元素 水銀・カドミウム・ヒ素　etc.	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第12回　化学性食中毒②　農薬・有機塩素化合物・カビ毒・ アレルギー様食中毒・油脂の変敗	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第13回　食品添加物　基本的考え方・手続き・分類・規格基準・用途・	事前：教科書の該当ページを読む。

		種類・表示方法・違反食品添加物	事後：授業内容の復習。 管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第14回	食品の器具・容器包装	材料、規格、包装技術、識別表示、 リサイクル法	事前：教科書の該当ページを読む。 事後：授業内容の復習。
	食品衛生対策	食品の腐敗、食品の微生物制御	管理栄養士国家試験の過去問題を解く。
第15回	食品の安全にかかわるその他の話題	エコチル調査 マイクロプラスチック問題　etc.	関連内容について情報を収集し、自分の意見をまとめる。授業内容の復習。
第16回	試験		授業内容および管理栄養士国家試験の食品衛生に関連する過去問題を総復習して試験に臨むこと。

■ 履修上の注意

・他の食品に関する学科目と関連性が高いので、履修済みの科目をよく理解して講義に臨んでください。また、身近な食品に関する事項が多いので、日頃から食品に対して関心・興味を持つことが講義内容の理解につながります。

■ 成績評価方法・基準

・平常点・受講態度（授業への参加状況［発言、質問等］、ミニットペーパーおよび小テストの結果、予習・復習の状況等で総合的に判断する）（60%）、期末試験（40%）で評価します。
・提出された課題については、後日、添削して返却します。

■ 教科書

・〔新スタンダード栄養・食物シリーズ8　食品衛生学　第２版〕〔一色賢司淳編〕〔東京化学同人〕〔2，500円〕
・必要に応じて資料を配布します。

■ 参考書

・〔解いて学ぶ！食品安全・衛生　テキスト＆問題集　第２版〕〔藤井建夫・塩見一雄著〕〔講談社〕〔2，600円〕
・〔新・食品衛生学　第３版〕〔藤井建夫・塩見一雄著〕〔恒星社厚生閣〕〔2，800円〕
・その他、授業時間内に適宜、参考書を紹介します。

■ 備考

・都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。
・質問等については、授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

食品衛生学実験

(11224)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（45 + 15）
対象学科：健専３年
授業形態：実験　学期：後期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要

管理栄養士の業務において重要な、食品安全性の重要性の認識と衛生管理方法の理解のために、代表的な微生物の性質を説明するとともに微生物の基本的な培養・観察の方法を指導する。それを基にして食品の細菌汚染検査、手指やふきん等の衛生試験の手技を指導する。また、市販の各種の加工食品を試料として、使用されている保存料・着色料・発色剤といった食品添加物の検出試験の手技を指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・食中毒原因菌の性質を理解しその検査方法を習得する ・食品中の食品添加物の役割を理解し分析方法を習得する	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　実験の概要説明・微生物実験の基礎知識と基本操作	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。
第２回　微生物の取扱い・植菌操作	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「微生物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第３回　コロニーの観察・グラム染色法	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「微生物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第４回　細菌の顕微鏡観察	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「微生物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第５回　細菌の顕微鏡観察（つづき）	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「微生物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第６回　手洗いの効果、各種衛生試験①：菌の採取・段階希釈法	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「微生物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第７回　手洗いの効果、各種衛生試験②：菌数計測・菌体観察	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「微生物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第８回　手洗いの効果、各種衛生試験③：菌体観察	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「微生物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第９回　食品中の生菌数の測定①：段階希釈法での生菌数測定	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操

	作法を復習し、実験データを整理し、「微生物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第10回　食品中の生菌数の測定②：食品中の細菌の観察	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「微生物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第11回　保存料の検出①：試料からのソルビン酸の抽出	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「食品添加物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第12回　保存料の検出②：ソルビン酸の定量	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「食品添加物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第13回　着色料の検出：食品中のタール色素の検出	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「食品添加物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第14回　発色剤の検出①：試料からの亜硝酸塩の抽出	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「食品添加物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第15回　発色剤の検出②：亜硝酸の定量	教科書・配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。授業終了後は、学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「食品添加物実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。

■ 履修上の注意

グループワークで授業を実施するので、班員同士の連携をよく図ること。実験レポート作成に備え、実験記録をできるだけ綿密に取り、班員間でのデータ共有を徹底すること。

■ 成績評価方法・基準

実験レポート（80%）および平常点（受講状況・実施状況；20%）・・・詳細はルーブリック参照
成績評価に関しては、授業はじめにルーブリックを提示する。レポートへのフィードバックとして後日コメントを提示する。

■ 教科書

新版　明解食品衛生学実験、加納碩雄　他、三共出版、2，300円＋税

■ 参考書

ウイルス・細菌の図鑑―感染症がよくわかる重要微生物ガイド(知りたい!サイエンス)、北里英郎他、技術評論社、2，180円＋税

■ 備考

オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

調理科学論

(11225)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
佐　藤　靖　子

■ 授業の概要
食品材料は、生食および加熱など様々な調理操作を経て食される。調理操作の種類や方法の確認を行いながら、食品素材の色調変化、組織の軟化、香りの発現などについて基礎的な知識を学習するよう説明する。さらに基本的な調理方法の役割および食品の物理的・化学的変化について科学的視点を身につけるよう教授する。また、主菜・副菜の調理で使用される香辛料や香草については、可能な限り実物を用意して風味を学修する機会を与え、利用性について理解できるように詳説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・1基本的調理操作を理解できる	0.3	0.3	0.4						
・2調味料の種類と特徴を理解できる									
・3食品の調理特性を科学的に理解する能力を身につける									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、調理科学の定義	教科書をよく読み授業に臨む
第２回　調理と嗜好性	教科書をよく読み授業に臨む
第３回　調理操作　非加熱調理	授業内容を教科書・ノートで確認する
第４回　〃　　加熱調理　煮る・蒸す	授業内容を教科書・ノートで確認する
第５回　〃　　加熱調理　揚げる・焼く	授業内容を教科書・ノートで確認する
第６回　調味料の種類と特徴	授業内容を教科書・ノートで確認する
第７回　炭水化物質性食品の調理特性	授業内容を教科書・ノートで確認する
第８回　タンパク質性食品の調理特性：食肉、魚介	授業内容を教科書・ノートで確認する。
第９回　：卵、牛乳	授業内容を教科書・ノートで確認する。
第10回　油脂・油脂性食品の調理特性	授業内容を教科書・ノートで確認する。
第11回　香辛料の種類と特徴類	授業内容を教科書・ノートで確認する。
第12回　ハーブおよび食塩の風味を体験する	第15回の授業開始までにスパイス、ハーブに関する献立のレポートを提出する
第13回　スパイスの風味を体験する	第15回の授業開始までにスパイス、ハーブに関する献立のレポートを提出する
第14回　成分抽出性食品の調理特性：デンプン	授業内容を教科書・ノートで確認する。
第15回　〃　　：ゼラチン、寒天その他	授業内容を教科書・ノートで確認する。
第16回　試験	

■ 履修上の注意
出席点呼開始後に入室した学生は、遅刻扱いとなる。遅刻は3回で１回の欠席とする
ミニットペーパーを課した場合は、採点後に返却し加点対象とする。

■ 成績評価方法・基準
期末試験65%、ハーブ・スパイスに関するレポート提出20%、受講態度15%
レポートの返却は行わない
試験問題は、教科書およびノートからの出題です。試験終了後解答を掲示する

■ 教科書
調理科学　　著者名：森高初恵、佐藤恵美子　出版社：建帛社　価格：2500円

■ 参考書
調理のためのベーシックデータ（他の授業で購入済み）

■ 備考
出張等の都合により授業計画が変更されることがある
質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける

調理科学実験

(11226)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（45 + 90）
対象学科：健専３年
授業形態：実験　学期：前期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
佐　藤　靖　子

■ 授業の概要
食品素材は、切る・潰すなどの調理操作により形態が変化して、調味料等の浸透性が異なり風味に影響することを説明する。また、様々な焼く、炒める、蒸すなどの加熱方法により、食品は色調の変化、組織の軟化、香りの発現などその状態が変化して嗜好性や消化性に影響することを教授する。さらに調理操作による食品材料の物理的・化学的変化については、十分な観察を通して、目的、方法、結果および考察をまとめ、レポート作成の能力を身につけさせるよう詳説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1実験方法に従って進めることができる	
・2食品の調理による変化を観察する	
・3調理による食品の変化を科学的に理解することができる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：安全・衛生・レポート作成など	レポート作成方法を図書館で確認する
第２回　講義：食品の重量・容量、炊飯	授業内容を良くまとめて班で話し合う
第３回　食品の重量と容量に関する実験	レポート作成・提出
第４回　炊飯に関する実験	レポート作成・提出
第５回　講義：出汁の材料、卵	授業内容を良くまとめて班で話し合う
第６回　出汁に関する実験	レポート作成・提出
第７回　卵に関する実験	レポート作成・提出
第８回　講義：砂糖、飲み物	授業内容を良くまとめて班で話し合う
第９回　砂糖に関する実験	レポート作成・提出
第10回　飲み物に関する実験	レポート作成・提出
第11回　講義：小麦、野菜	授業内容を良くまとめて班で話し合う
第12回　小麦に関する実験	レポート作成・提出
第13回　野菜に関する実験	レポート作成・提出
第14回　講義：動物性食品	授業内容を良くまとめて班で話し合う
第15回　ハンバーグに関するの実験	レポート作成・提出
第16回　まとめ	

■ 履修上の注意
レポートは次回の授業開始前までに指定の場所へ提出すること。遅れた場合は遅刻提出となり評価が1段階下がる。
身支度が整わない学生の入室はできない（欠席扱い）。実験中の安全・衛生に十分注意すること。

■ 成績評価方法・基準
レポート提出85%、授業態度（身支度を含む）15%
身支度に不備（爪が不衛生、帽子やシューズの忘れなど）があった場合は、不備ごとに2点減点とする。
提出されたレポートは後日返却する。やむを得ない欠席によるレポート作成については、ガイダンスで説明する。
ルーブリック評価については1回目のガイダンスにて説明する。

■ 教科書
〔書名：イラスト調理Book〕〔著者名：安部サト他〕〔出版社名：実教出版〕〔価格：770円〕

■ 参考書
成分表など

■ 備考
学生の校外実習、出張等の都合により授業計画の順番・内容が変更することがある
郊外実習で欠席する場合のレポート提出は、ガイダンスにて説明する
質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける

基礎調理学実習Ⅰ

(11227)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 15）
対象学科：健専1年
授業形態：実習　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
平　本　福　子

■ 授業の概要

1．基礎調理技術（食材や調理法についての知識を整理し、調理操作のポイントを科学的に理解する能力とそれらの知識を活用して実際に調理ができる技術を教授する。
2．栄養、試行、食文化、食環境などの多様な側面から、食べる人にとって望ましい食事を計画し、実際に食事として作りあげる技術を教授する。
3．授業で習得した調理の知識や技術を自分の生活の中で実践するための力を養った上で、実際に行い、振り返り、自己評価と課題を整理し、考察する方法を指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・食材や調理法についての基礎的な知識を修得する。	0.7			0.3					
・修得した知識をもとに、実際の調理技術を習得する。									
・食事構成の要点を理解し、献立を立てることができる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　オリエンテーション　計量、調味パーセントの基礎	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第2回　基礎調理技術（1）　切る	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第3回　基礎調理技術（2）　だしをとる、汁を仕立てる	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第4回　基礎調理技術（3）　焼く、炒める	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第5回　基礎調理技術（4）　煮る	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第6回　基礎調理技術　実技試験	課題の練習と振り返りを行い、レポート提出。
第7回　食事計画の基礎	実際に献立を作成する。
第8回　献立調理（食事単位での調理技術）（1）卵を主菜に	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第9回　献立調理（食事単位での調理技術）（2）肉を主菜に	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第10回　献立調理（食事単位での調理技術）（3）魚を主菜に	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第11回　献立調理（食事単位での調理技術）（4）豆腐を主菜に	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第12回　献立調理（食事単位での調理技術）（5）麺を主食に	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第13回　献立調理　実技試験（献立作成から調理まで）	課題の練習と振り返りを行い、レポート提出。
第14回　調理技術に関する知識の確認（筆記試験）	教科書をよく読み、課題を整理する。
第15回　生活実習（実生活での応用）	課題を確認し、実践した上でレポートを提出。
第16回　フィードバック（実技試験・筆記試験を振り返り）	ポートフォリオ評価表を記入する。

■ 履修上の注意

実習なので出席することが重要である。また、調理技術の習得のためには授業時間だけでなく、自宅などでの実践が必要である。

■ 成績評価方法・基準

基礎点（授業に取り組む態度と実際の行動）60点（具体的には、15分前に集合する。配布されたプリントはよく読み予習して実習に臨む。調理室の使い方の約束を守り、自分で考えて積極的に動き、わからないことは質問する。班員と協力し声を掛け合って実習を行う、掃除や後片付けなど責任をもって行う等）、実技試験25点、筆記試験15点を基準として評価する。試験のフィードバックについては、実技試験では結果の講評と今後の課題について説明する。また、筆記試験では回答例を提示するとともに、口頭でも説明する。

■ 教科書

〔調理学（健康・栄養・調理）〕〔柳沢幸江・柴田圭子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2700円〕
〔調理のためのベーシックデータ第5版〕〔松本仲子監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1800円〕

■ 参考書

〔7訂食品成分表2023〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1400円〕

■ 備考

都合により、授業計画の順番などが変更する時がある。ルーブリック評価については第1回の授業で説明する。質問等は授業終了時に受け付ける。

基礎調理学実習Ⅱ

(11228)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 15）
対象学科：健専1年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
平　本　福　子

■ 授業の概要

1．調理器具や加工食品などの調理の簡便化、食事の食塩量・エネルギー量を調理方法により調節するなど、現代の食生活における課題解決に向けての知識と技術を教授する。
2．栄養教育のツールとして、人々に1食分の適量や栄養バランスを伝えるための方法（3・1・2弁当箱法）についての知識と技術を教授する。
3．食文化の観点から、和洋華の食事様式、行事食、郷土食などについての知識や技術を教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・調理の簡便化、調理による栄養量についての知識を修得する。			0.2	0.2	0.4	0.1	0.1		
・食事を用いた栄養教育についての知識と技術を習得する。									
・栄養面、食文化面も含めて、献立を立てることができる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第1回　生活実習報告会、3・1・2弁当箱法についての講義	配布プリントをよく読む。レポート提出。
第2回　栄養教育ツール（3・1・2弁当箱法）の実習	配布プリントをよく読む。レポート提出。
第3回　調理の簡便化①（調理器具） 切る、蒸す ※調理時間、食味などをまとめて発表する。	配布プリントをよく読む。レポート提出。
第4回　調理の簡便化②（加工食品） 主食（五目ごはん）、主菜（真麻婆豆腐） ※調理時間、食味などをまとめて発表する。	配布プリントをよく読む。レポート提出。
第5回　調理の簡便化③（加工食品） 合わせ調味料　胡麻和え ※調理時間、食味等の結果をまとめ、発表する。	配布プリントをよく読む。レポート提出。
第6回　様式別料理（日本料理） 赤飯、サバの竜田揚げ、ほうれん草のくるみ和え、茶わん蒸し	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第7回　様式別料理（西洋料理） パン、ビーフビーフシチュー、サラダ、スポンジケーキ	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第8回　様式別料理（中華料理） 白飯、糖醋肉、白菜丸子湯、杏仁酥	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第9回　郷土食 東北6県に分かれて、各県の郷土食を調べ、作り、伝統を伝える方法等について発表する。	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第10回　行事食（クリスマス） 前菜、パン、ローストチキン、コーンチャウダー、プラムケーキ	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第11回　行事食（正月） 南蛮漬け、筑前煮、すまし仕立て雑煮	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第12回　調理による塩分量の変化 料理レベル、食事レベルでの減塩について	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第13回　調理によるエネルギー量の変化 エネルギー量を増減させる調理法について	配布プリントをよく読み、実際に作ってみる。
第14回　実技試験	課題の練習と振り返りを行い、レポート提出。
第15回　筆記試験	教科書をよく読み、課題を整理する。
第16回　フィードバック（実技試験・筆記試験の振返り）	ポートフォリオ評価表を記入してくる。

■ 履修上の注意

実習なので出席することが重要である。また、調理技術の習得のためには授業時間だけでなく、自宅などでの実践が必要である。

■ 成績評価方法・基準

基礎点（授業に取り組む態度と実際の行動）60点（具体的には、15分前に集合する。配布されたプリントはよく読み予習して実習に臨む。調理室の使い方の約束を守り、自分で考えて積極的に動き、わからないことは質問する。班員と協力し声を掛け合って実習を行う、掃除や後片付けなど責任をもって行う等）、実技試験25点、筆記試験15点を基準として評価する。試験のフィードバックについては、実技試験では結果の講評と今後の課題について説明する。また、筆記試験では回答例を提示するとともに、口頭でも説明する。

■ 教科書
※調理学実習Ⅰで使用したもの
〔調理学（健康・栄養・調理）〕〔柳沢幸江・柴田圭子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2700円〕
〔調理のためのベーシックデータ第5版〕〔松本仲子監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1800円〕

■ 参考書
〔7訂食品成分表2021〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1400円〕
〔食品の栄養とカロリー事典　改訂版〕〔女子栄養大学出版部〕〔1500円〕

■ 備考
都合により、授業計画の順番などが変更する時がある。ルーブリック評価については第1回の授業で説明する。質問等は授業終了時に受け付ける。

応用調理学実習Ⅰ

(11229)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 15）
対象学科：健専２年
授業形態：実習　学期：前期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
宮　地　洋　子

■ 授業の概要

基礎調理学の知識をもとに、18～29歳の食事摂取基準を食品構成に展開できるよう、食事摂取基準を活用し、一食単位および一日単位で食事設計（献立作成、調理操作手順）ができるように、春・夏の出盛りの食材を理解し、季節感のある行事食や郷土料理も取り入れた具体的な実習献立を通して教授する。献立一食あたりの食品の使用量を学び、一食単位および一日単位で食事設計（献立作成、調理操作手順）ができるよう指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・修得した知識をもとに、一日の摂取カロリーから食品構成を展開することが理解できる。 ・グループで話し合い、献立一食あたりの食品の使用量が理解でき、献立を立てる技術を習得する。 ・グループで話し合い、一日（朝・昼・夕）の献立を立てる技術を習得する。 ・修得した調理技術をもとに、さまざまな野菜の切り方を習得する。	0.15	0.15	0.15		0.4		0.15		

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション　食事摂取基準、食品構成から献立作成について	教科書（p22～p44）を読んで予習しておくこと。
第２回　春の献立　西洋料理①	実習のまとめレポートを3回目に提出。
第３回　春の献立　日本料理	実習のまとめレポートを4回目に提出。
第４回　春の献立　中国料理	実習のまとめレポートを5回目に提出。
第５回　春の献立　西洋料理②	実習のまとめレポートを6回目に提出。
第６回　夏の献立　西洋料理	実習のまとめレポートを7回目に提出。
第７回　夏の献立　中国料理	実習のまとめレポートを8回目に提出。
第８回　行事食・七夕献立	実習のまとめレポートを9回目に提出。
第９回　演習・食品構成を考えた夏の献立（1）日本料理の献立作成	作成した献立を10回目までに提出
第10回　演習・食品構成を考えた夏の献立（2）日本料理の栄養価計算	作成した献立の栄養価計算、食材の購入表の提出。
第11回　食品構成を考えた夏の献立（3）日本料理の実習	実習のまとめレポートを12回目に提出。
第12回　演習・食品構成を考えた夏の献立（1）西洋料理の献立作成 実技試験について説明する	作成した献立を13回目までに提出
第13回　演習・食品構成を考えた夏の献立（2）西洋料理の栄養価計算	作成した献立の栄養価計算、食材の購入表の提出。
第14回　食品構成を考えた夏の献立（3）西洋料理の実習	実習のまとめレポートを15回目に提出。
第15回　実技試験、前期まとめ	前期に学んだ内容を復習する。
第16回　筆記試験	

■ 履修上の注意

前日に爪を切る、清潔な実習着、帽子、マスク、フェイスシールドを身に着ける。調理室内ではボールペン使用。調理室に入室したら手洗い消毒を済ませ、配布資料をファイルに保管する。出席することが重要である。調理技術の習得のためには、自宅で実践する。

■ 成績評価方法・基準

筆記試験40点、実習レポート提出30点、実技試験20点、授業態度10点（早めに集合する、メモを取る、グループでの協調性、熱心さ等）で評価する。提出されたレポートは後日添削して返却する。試験は問題と解答例をまとめたレジュメを配布しフィードバックとする。

■ 教科書

〔調理学（健康・栄養・調理）〕〔柳沢幸江・柴田圭子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2，700円〕
〔調理のためのベーシックデータ第5版〕〔松本仲子監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1，800円〕

〔調理・献立作成の基礎〕〔坂本裕子、森美奈子〕〔化学同人〕〔1，650円〕
〔8訂食品成分表2022〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1，760円〕

■ 参考書
＊必要だと思う人は参考にしてください。
〔人気のおかず８３０品〕〔飯田順子他編著〕〔学研プラス〕〔1，429円〕
〔家庭料理技能検定公式ガイド3級〕〔家庭料理技能検定専門委員会編〕〔女子栄養大学出版部〕〔2，400円〕

■ 備考
講義の際に授業内容のプリントを配布し、参考文献、資料を提示する。
・季節の材料調達等の都合により、授業計画の順番、料理等を変更することがある。
・ルーブリックを授業中に配布するので、学修目標として参照する。
・質問等については授業終了時に受付ける。

応用調理学実習Ⅱ

(11230)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（45 + 15）
対象学科：健専２年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
宮　地　洋　子

■ 授業の概要

基礎調理学の知識をもとに、18～29歳の食事摂取基準を食品構成に展開できるよう、食事摂取基準を活用し、一食単位および一日単位で食事設計（献立作成、調理操作手順）ができるように、秋・冬の出盛りの食材を理解し、季節感のある行事食や郷土料理も取り入れた具体的な実習献立を通して教授する。グループ活動を通して、献立一食あたりの食品の使用量を学び、一食単位および一日単位で食事設計（献立作成、調理操作手順）ができるよう指導する。さらに、和食のテーブルマナーを通して、和食の供応食献立や食事作法を学修する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・修得した知識をもとに、一日の摂取カロリーから食品構成を展開することが理解できる。 ・グループで話し合い、献立一食あたりの食品の使用量が理解でき、献立を立てる技術を習得する。 ・グループで話し合い、一日（朝・昼・夕）の献立を立てる技術を習得する。 ・修得した調理技術をもとに、さまざまな野菜の切り方を習得する。	0.15	0.15	0.15		0.4		0.15		

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　講義：授業の進め方、献立作成について、秋・冬の食材について、圧力鍋の使用法、調味%の計算	調理・献立作成の基礎（教科書ｐ49～ｐ58）を読んで予習しておく。
第２回　演習・食品構成を考えた秋のもてなしの献立①もてなしの献立作成	献立を3回目までに提出。
第３回　演習・食品構成を考えた秋のもてなしの献立①もてなしの献立の栄養価計算	栄養価計算、食材の購入表の提出。
第４回　演習・食品構成を考えた秋のもてなしの献立①もてなしの献立実習	実習の感想と考察を6回目に提出。
第５回　和食のテーブルマナー（校外授業）	テーブルマナーのレポートを6回目に提出。
第６回　演習・食品構成を考えた秋の郷土料理②東北地方の郷土料理の献立作成	献立を7回目までに提出。
第７回　演習・食品構成を考えた秋の郷土料理②東北地方の郷土料理の献立の栄養価計算	栄養価計算、食材の購入表の提出。
第８回　演習・食品構成を考えた秋の郷土料理②東北地方の郷土料理の献立実習	実習の感想と考察を9回目に提出。
第９回　演習・食品構成を考えた行事食の献立③クリスマス料理の献立作成	献立を10回目までに提出。
第10回　演習・食品構成を考えた行事食の献立③クリスマス料理の献立の栄養価計算	栄養価計算、食材の購入表の提出。
第11回　演習・食品構成を考えた行事食の献立③クリスマス料理の献立実習	実習の感想と考察を12回目に提出。
第12回　演習・食品構成を考えた行事食の献立④お正月料理の献立作成 実技試験の説明	献立を13回目までに提出。
第13回　演習・食品構成を考えた行事食の献立④お正月料理の栄養価計算	栄養価計算、食材の購入表の提出。
第14回　演習・食品構成を考えた行事食の献立④お正月料理の献立実習	実習の感想と考察を15回目に提出。
第15回　実技試験、後期まとめ	後期に学んだ内容を復習する。
第16回　筆記試験	

■ 履修上の注意

前日に爪を切る、清潔な実習着、帽子を準備する。調理室内ではボールペン使用。調理室に入室したら手洗い消毒を済ませ、配布資料をファイルに保管する。出席することが重要である。調理技術の習得のためには、自宅で実践する。

■ 成績評価方法・基準

筆記試験40点、実習レポート提出30点、実技試験20点、授業態度10点（早めに集合する、メモを取る、グループでの協調性、熱心さ等）で評価する。提出されたレポートは後日添削して返却する。試験は問題と解答例をまとめたレジュメを配布しフィードバックとする。

■ 教科書

調理学（健康・栄養・調理）〕〔柳沢幸江・柴田圭子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2，700円〕
〔調理のためのベーシックデータ第5版〕〔松本仲子監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1，800円〕
〔調理・献立作成の基礎〕〔坂本裕子、森美奈子〕〔化学同人〕〔1，650円〕
〔8訂食品成分表2022〕〔香川明夫監修〕〔女子栄養大学出版部〕〔1，760円〕

■ 参考書

＊必要だと思う人は参考にしてください。
〔人気のおかず830品〕〔飯田順子他編著〕〔学研プラス〕〔1，492円〕
〔家庭料理技能検定公式ガイド3級〕〔家庭料理技能検定専門委員会編〕〔女子栄養大学出版部〕〔2，400円〕

■ 備考

・講義の際に授業内容のプリントを配布し、参考文献、資料を提示する。
・季節の材料調達等の都合により、授業計画の順番、料理等を変更することがある。
・ルーブリックを授業中に配布するので、学修目標として参照する。
・質問等については授業終了時に受付ける。

食文化論

(11231)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
宮　地　洋　子

■ 授業の概要

「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録されてから、「和食」や日本の食文化に対する関心が増している。本講義では、日本の自然環境と社会環境の中で形成されてきた食文化について、古代から現代までどのように変遷してきたかを説明する。また、各時代の食文化の特徴と大陸、南蛮、欧米などの異文化と係わり、どのように取り入れて日本独特の食文化を形成し、発展したかを説明する。さらに、年中行事や通過儀礼食及び郷土料理の学修を通じて食文化の伝承と次世代に伝えるために、家庭・学校等における食育の大切さを教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・食文化の定義およびその変遷を理解できる。		0.25	0.2		0.3				0.25
・各時代の特徴と異文化との係わりを理解できる。									
・行事食・儀礼食を理解し各自の食体験を整理できる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　「和食」：日本人の伝統的な食文化	p1～p9を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第２回　食文化の定義、食に関する思想	p11～p19を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第３回　世界の食文化形成 ①世界の食文化類型とその特徴	p21～p25を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第４回　世界の食文化形成 ②粉食文化と粒食文化	p26～p28を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第５回　日本の食文化形成と展開	p41～p49を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第６回　異文化接触と受容	p102～p105をよんでおくこと/ミニットペーパーの提出
第７回　主食の文化①木の実といも類、米	p51～p55を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第８回　主食の文化②大麦と小麦、雑穀	p56～p59を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第９回　副食の文化	p61～p68を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第10回　行事と地域の食文化　課題「五節句と食事」についての説明	P141～p149を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第11回　日本料理の形成と発展①日本料理の系譜と本膳料理 和食のマナー(DVD)	p91～p95を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出 /小テスト
第12回　日本料理の形成と発展②懐石料理、会席料理、精進料理	p96～p99を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第13回　台所、食器、食卓の文化　洋食のマナー(DVD)	p101～p109を読んでおくこと/小テスト
第14回　日常の食 調味料	p111～p119を読んでおくこと/ミニットペーパーの提出
第15回　非常の食　災害食(DVD)　まとめ	p121～p128を読んでおくこと/小テスト/課題の提出

■ 履修上の注意

1.事前に講義予定の教科書内容を熟読して受講してください。
2.教科書及びスライドで提示された専門用語のうち、わからないものについては調べておいてください。
3.課題については提出期限を守ってください。

■ 成績評価方法・基準

試験（40%）、小テスト（20%）、課題(30%)、受講態度（10%：ミニットペーパーの提出状況、質問等の積極性）
課題・小テストは添削して返却します。ミニットペーパーは次回の授業内でフィードバックします。試験は問題と解答例をまとめたレジュメを配布し、フィードバックとします。

■ 教科書
〔新版　日本の食文化「和食」の継承と食育〕〔江原絢子・石川尚子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2，500円+税別〕
授業前にプリントを配布します。

■ 参考書
〔食文化入門〕〔石毛直道〕〔講談社〕〔2，000円+税別〕
〔近現代の食文化〕〔石川寛子〕〔アイ・ケイコーポレーション〕〔2，400円+税別〕
〔日本から見た世界の食文化〕〔鈴木志保子〕〔第1出版〕〔3，850円〕

■ 備考
毎回、講義終了後にオフィスアワーを用意します。

基礎栄養学

(11232)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要
ヒトをはじめ生物が外界の物質を体内に取り入れ、それをエネルギー源や体構成の材料として利用する「栄養」という現象は生命維持に不可欠である。ヒトの食欲を調節するしくみ、摂取した食物の消化と栄養素の吸収に携わる消化器官系の各臓器の構造と機能、消化（食品成分の分解反応）・吸収の機構、また、栄養素の種類と各栄養素の化学構造・性質、体内での代謝・機能と欠乏症・過剰症、および栄養素同士の関わりについて説明する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・健康の保持・増進における栄養の役割を説明できる	0.1　0.3　0.6
・消化・吸収における各消化器官の役割を説明できる	
・各栄養素の代謝とその生理的意義を説明できる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　栄養とは、遺伝形質と栄養	教科書の「1章」を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第２回　食欲の調節、食事のタイミング	教科書の「2章」を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第３回　消化器の構造	教科書の「3章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第４回　消化器の機能	教科書の「3章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第５回　消化吸収率、たんぱく質の消化吸収	教科書の「3章」および「4章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第６回　たんぱく質・アミノ酸の体内代謝	教科書の「4章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第７回　たんぱく質の量と質の評価	教科書の「4章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第８回　［中間試験］、糖質の消化吸収、糖質代謝の概要	教科書の「5章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第９回　試験の解説、食後・食間の糖質代謝	教科書の「5章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第10回　血糖の調節、エネルギー源としての作用	教科書の「5章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第11回　脂質の消化吸収、脂質代謝の概要	教科書の「6章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第12回　脂質のエネルギー代謝、コレステロール代謝	教科書の「6章」該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解

	法をよく理解する。
第13回　脂質の量と質の評価	教科書の「6章」該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第14回　ビタミンの分類・構造と機能	教科書の「7章」を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、これまでの授業内容（練習問題）を全て復習する。
第15回　［期末試験］、ミネラルの種類と体内分布	教科書の「8章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第16回　試験の解説、ミネラルの機能	教科書の「8章」の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。

■ 履修上の注意
他の関連科目と学習内容を対比して理解を深めること。

■ 成績評価方法・基準
中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組みを提出物で評価する）・・・10%

■ 教科書
基礎栄養学、駒井三千夫　他、アイ・ケイコーポレーション、2，400円＋税

■ 参考書
なし

■ 備考
試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

栄養生化学

(11233)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要
メタボリック・シンドロームはその患者数の多さから現代の社会問題とも言えるが、いずれもその発症と進行に食生活が大きく関与する疾患群である。それに含まれる肥満症・糖尿病・脂質異常症・高血圧症・骨粗鬆症・および癌といった各疾患について、発症や病態の背景となる各種栄養素（特にエネルギー分子）の代謝とその調節機構、および発症と症状の進行の分子生物学的・細胞生物学的機構について講義する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・メタボリック・シンドロームの病態を生化学的に説明できる	0.2　0.2　0.6
・メタボリック・シンドロームの予防・治療への栄養に役割を説明できる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　メタボリック・シンドロームとは、疾患とビタミン	資料・教科書（７章）を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、る。
第２回　疾患とビタミン・ミネラル	資料・教科書(7・8章）を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、復習問題に取り組む。
第３回　疾患とミネラル	資料・教科書（8章）を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、復習問題に取り組む。
第４回　肥満症、脂肪細胞の機能	資料・教科書（6章）の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第５回　肥満遺伝子	資料・教科書（1・2章）の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、復習問題に取り組む。
第６回　血糖調節機構と糖尿病の分類	資料・教科書（5章）の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第７回　糖尿病の発症機序と代謝	資料・教科書（5章）の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第８回　糖尿病関連遺伝子、糖尿病の治療・食事療法	資料・教科書（5章）の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、これまでの授業内容（復習問題）を全て復習する。
第９回　［中間試験］、リポタンパク質とその受容体	資料・教科書（6章）の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第10回　試験の解説、動脈硬化症の発症機序と代謝	資料・教科書（6章）の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第11回　動脈硬化症の治療・食事療法と関連遺伝子	資料・教科書（6章）の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、復習問題に取り組む。
第12回　血圧調節機構	資料・教科書（8章）の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、扱った問題の解法をよく理解する。
第13回　高血圧症の発症機序、治療・食事療法	資料・教科書（8章）の該当箇所を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習し、復習問題に取り組む。
第14回　骨粗鬆症の発症機序、治療・食事療法とカルシウム代謝	資料・教科書（8章）の該当箇所を事前に読み、

	授業後にはノートを見て内容を復習するのに加え、これまでの授業内容（復習問題）を全て復習する。
第15回　［期末試験］、発癌の分子機構	資料を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。
第16回　試験の解説、発癌と食事	資料を事前に読み、授業後にはノートを見て内容を復習するのに加え、試験でできなかったところをよく復習する。

■ 履修上の注意
他の関連科目と学習内容を対比して理解を深めること。

■ 成績評価方法・基準
中間試験・・・45%、期末試験・・・45%、平常点（授業への取り組みを提出物で評価する）・・・10%

■ 教科書
基礎栄養学、駒井三千夫　他、アイ・ケイコーポレーション、2，400円＋税　および配布資料

■ 参考書
なし

■ 備考
試験実施後のフィードバックとして次の時間に答案を返却して解説を行う。オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

栄養学実験

(11234)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（45 + 15）
対象学科：健専２年
授業形態：実験　学期：前期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要
糖質・脂肪・たんぱく質のそれぞれの消化酵素による消化実験を行い、それぞれの消化酵素の性質や酵素活性の測定法、脂肪の消化における胆汁酸の機能等を説明する。また、食品に含まれるビタミンB１およびビタミンCの定量法を指導する。さらに、ダグラスバッグを用いて収集した呼気のガス分析を行い、間接法によるエネルギー消費量の測定を指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・各栄養素の消化の仕組みを説明できる	0.1	0.15	0.15	0.15	0.3		0.15		
・食品中のビタミンが定量できる									
・呼気分析によりエネルギー消費量が測定できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　授業の概要説明・実験実施上の注意	配布資料を読んで、実験操作の概要を把握する。
第２回　糖質の消化実験①吸光度分析法	配布資料を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「糖質の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第３回　糖質の消化実験②マルトースの定量	配布資料を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「糖質の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第４回　糖質の消化実験③唾液アミラーゼによるデンプンの消化	配布資料、参考書（3章）を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「糖質の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第５回　糖質の消化実験④酵素活性の求め方（タンパク質定量）	配布資料、参考書（3章）を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「糖質の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第６回　たんぱく質の消化実験①プロテアーゼによるたんぱく質の消化	配布資料、参考書（3章）を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「たんぱく質の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第７回　たんぱく質の消化実験②アミノ酸の検出	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「たんぱく質の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第８回　脂肪の消化実験①リパーゼによる脂肪の消化	学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「脂肪の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第９回　脂肪の消化実験②酸度の滴定	配布資料、参考書（3章）を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「脂肪の消化実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第10回　ビタミンB1の定量①：試料調製	配布資料、参考書（7章）を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「ビタミンの定量実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第11回　ビタミンB1の定量②：測定	配布資料、参考書（7章）を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実

	験データを整理し、「ビタミンの定量実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第12回　ビタミンCの定量①：試料調製	配布資料、参考書（7章）を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「ビタミンの定量実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第13回　ビタミンCの定量②：測定	配布資料、参考書（7章）を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「ビタミンの定量実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第14回　エネルギー消費量の測定①：測定の原理	配布資料、参考書（10章）を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「エネルギー消費量の測定実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。
第15回　エネルギー消費量の測定②：測定・計算	配布資料、参考書（10章）を事前に読み、授業終了後は学んだ実験法の原理、操作法を復習し、実験データを整理し、「エネルギー消費量の測定実験」としてレポートを、ルーブリックを参考にして作成する。

■ 履修上の注意
グループワークで授業を行うので、班員同士の連携を図ること。実験データは綿密に記録し、班員同士で確実に共有し、レポート作成に反映させること。

■ 成績評価方法・基準
実験レポート（80%）および平常点（20%；受講状況・実施状況）・・・詳細はルーブリック参照
成績評価に関しては、授業はじめにルーブリックを提示する。レポートへのフィードバックとして後日コメントを提示する。

■ 教科書
無し（資料を配布）

■ 参考書
基礎栄養学（駒井三千夫　編著：アイ・ケイコーポレーション；1年次の授業の教科書）

■ 備考
オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

応用栄養学Ⅰ

(11235)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
川　俣　幸　一

■ 授業の概要

各ライフステージにおける栄養状態や心身機能に応じた栄養管理の基本的な考え方を基準に、食事摂取基準への当てはめ方や、栄養マネジメントの方法について理解する。

具体的な内容としては、栄養マネジメントではスクリーニング・アセスメント・栄養ケアプラン・実行・モニタリング・評価からなる6項目を、基本的な概念理解を中心に学習する。ライフステージ別の栄養管理の分野では、妊娠期、授乳期、新生児期、乳児期、幼児期の5分野を取り扱う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・各ライフステージの栄養状態や心身機能、ケアすべき問題点を理解することができるようになる。 ・栄養マネジメントを各世代ごとに体系的に考えることができるようになる。	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨ 0.4　0.6

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　概要／栄養マネジメント	予習として教科書の栄養マネジメントの回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。ルーブリックを配付する。
第２回　食事摂取基準	予習として教科書の食事摂取基準の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第３回　妊娠期①：生理的特徴	予習として教科書の妊娠期の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第４回　妊娠期②：栄養アセスメント	同上
第５回　妊娠期③：栄養ケア	同上
第６回　授乳期①：生理的特徴	予習として教科書の授乳期の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第７回　授乳期②：栄養アセスメント	同上
第８回　授乳期③：栄養ケア	同上
第９回　前半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、前半部分の内容の見直しを行っておくこと
第10回　新生児期・乳児期①：生理的特徴	予習として教科書の新生児期・乳児期の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第11回　新生児期・乳児期②：栄養アセスメント	同上
第12回　新生児期・乳児期③：栄養ケア	同上
第13回　幼児期①：生理的特徴	予習として教科書の幼児期の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第14回　幼児期②：栄養アセスメント・栄養ケア	同上
第15回　後半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、後半部分の内容の見直しを行っておくこと

■ 履修上の注意

応用栄養学実習、基礎栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、課題研究等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。なお授業中に許可なく携帯電話を触る、無断退出をする、他の教科の勉強をする、教員の指示に従わないなどの不道徳行為が判明した学生は受講態度（ルーブリック）を一律0%としますので、単位の認定を行うことが難しくなります。

■ 成績評価方法・基準
ミニテストやレポート等・・・70%
受講態度（ルーブリック）・・・30%（例外を除き六割を原点とした加点法とする）
成績はミニテストやレポートの結果ならびに受講態度により総合的に判断します。

■ 教科書
〔応用栄養学　改訂第７版〕〔渡邊令子・他〕〔南江堂〕〔3，456円〕

■ 参考書
なし

■ 備考
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。フィードバックとして、小テストは採点をして返却する。

応用栄養学Ⅱ

(11236)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
川　俣　幸　一

■ 授業の概要
応用栄養学Ⅰに引き続き、各ライフステージにおける栄養状態や心身機能に応じた栄養管理の基本的な考え方を基準に、食事摂取基準への当てはめ方や、それぞれ特徴的な栄養マネジメントの方法（スクリーニング・アセスメント・栄養ケアプラン・実行・モニタリング・評価）について理解する。具体的な内容としては、ライフステージ別の栄養管理の分野では、学童期、思春期、成人期、高齢期、運動・スポーツ期と栄養、ストレス・特殊環境と栄養の6分野を取り扱う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・各ライフステージの栄養状態や心身機能、ケアすべき問題点を理解することができるようになる。 ・栄養マネジメントを各世代ごとに体系的に考えることができるようになる。	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨ 0.4　0.6

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　学童期・思春期①：生理的特徴	予習として教科書の学童期・思春期の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。ルーブリックを配付する。
第２回　学童期・思春期②：栄養アセスメント	同上
第３回　学童期・思春期③：栄養ケア	同上
第４回　成人期①：生理的特徴	予習として教科書の成人期の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第５回　成人期②：栄養アセスメント	同上
第６回　成人期③：栄養ケア	同上
第７回　前半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、前半部分の内容の見直しを行っておくこと
第８回　高齢期①：生理的特徴	予習として教科書の高齢期の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第９回　高齢期②：栄養アセスメント	同上
第10回　高齢期③：栄養ケア	同上
第11回　運動・スポーツと栄養	予習として教科書の運動・スポーツと栄養の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第12回　ストレスと栄養	予習として教科書のストレスと栄養の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第13回　特殊環境と栄養	予習として教科書の特殊環境と栄養の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第14回　災害時の栄養	予習として教科書の災害時の栄養の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第15回　後半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、後半部分の内容の見直しを行っておくこと

■ 履修上の注意
応用栄養学実習、基礎栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、課題研究等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。なお授業中に許可なく携帯電話を触る、無断退出をする、他の教科の勉強をする、教員の指示に従わないなどの不道徳行為が判明した学生は受講態度（ルーブリック）を一律0%としますので、単位の認定を行うことが難しくなります。

■ 成績評価方法・基準
ミニテストやレポート等・・・70％
受講態度（ルーブリック）・・・30％（例外を除き六割を原点とした加点法とする）
成績はミニテストやレポートの結果ならびに受講態度により総合的に判断します。

■ 教科書
〔応用栄養学　改訂第７版〕〔渡邊令子・他〕〔南江堂〕〔3，456円〕

■ 参考書
なし

■ 備考
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。フィードバックとして、小テストは採点をして返却する。

栄養管理論

(11237)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
川　俣　幸　一

■ 授業の概要

主として健康な人間を対象とした栄養管理業務において基本となる日本人の食事摂取基準について、その基本的な考え方、科学的根拠ならびに活用の方法を教授する。食事摂取基準を用いた栄養管理を理解できるようになるため、具体的には成人期を基準としたそれぞれの栄養素（34種類）についての考え方を学び、それをライフステージ別（妊婦、授乳婦、乳児、小児、高齢者、軽度生活習慣病患者など）に当てはめて考えていく作法を学ぶ。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・日本人の食事摂取基準（2020年版）の数値や科学的根拠を理解できるようになる。	0.4　0.6
・食事摂取基準を用いた栄養管理の考え方と方法を理解できるようになる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　概論 ／ 食事摂取基準について	予習として食事摂取基準の総論（策定）の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。ルーブリックを配付する。
第２回　食事摂取基準の各指標について	予習として食事摂取基準の総論（活用）の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第３回　エネルギー（算定の科学的根拠・BMIとの関係）	予習として食事摂取基準のエネルギーの回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第４回　たんぱく質（算定の科学的根拠）	予習として食事摂取基準のたんぱく質の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第５回　脂質（算定の科学的根拠）	予習として食事摂取基準の脂質の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第６回　水溶性ビタミン（算定の科学的根拠）	予習として食事摂取基準の水溶性ビタミンの回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第７回　脂溶性ビタミン（算定の科学的根拠）	予習として食事摂取基準の脂溶性ビタミンの回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第８回　前半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、前半部分の内容の見直しを行っておくこと
第９回　多量ミネラル（算定の科学的根拠）	予習として食事摂取基準の多量ミネラルの回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第10回　微量ミネラル（算定の科学的根拠）	予習として食事摂取基準の微量ミネラルの回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第11回　ライフステージ別の栄養管理①（妊婦・授乳婦）	予習として食事摂取基準の妊婦・授乳婦の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第12回　ライフステージ別の栄養管理②（乳児・小児）	予習として食事摂取基準の乳児・小児の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第13回　ライフステージ別の栄養管理③（高齢者）	予習として食事摂取基準の高齢者の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。

第14回　生活習慣病とエネルギー・栄養素との関連	予習として食事摂取基準の生活習慣病の回を一読しておくと良い。当日の内容は復習をし、自分の知識とすること。
第15回　後半のまとめ回	ノートや配布資料を整理し、後半部分の内容の見直しを行っておくこと

■ 履修上の注意
応用栄養学実習、基礎栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、課題研究等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。なお授業中に許可なく携帯電話を触る、無断退出をする、他の教科の勉強をする、教員の指示に従わないなどの不道徳行為が判明した学生は受講態度（ルーブリック）を一律0%としますので、単位の認定を行うことが難しくなります。

■ 成績評価方法・基準
ミニテストやレポート等・・・70%
受講態度（ルーブリック）・・・30%（例外を除き六割を原点とした加点法とする）
成績はミニテストやレポートの結果ならびに受講態度により総合的に判断します。

■ 教科書
〔日本人の食事摂取基準2020年版〕〔菱田明・他〕〔第一出版〕〔2，916円〕

■ 参考書
なし

■ 備考
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。フィードバックとして、小テストは採点をして返却する。

応用栄養学実習Ⅰ

(11238)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：健専２年
授業形態：実習　学期：前期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
川　俣　幸　一

■ 授業の概要

各自の身体状況、食物摂取状況の調査などを通じて、自分の食生活状況をアセスメントする。自分自身に適した推定エネルギー必要量の算出や食事摂取基準の設定を行い、それらの結果を基に栄養診断を行う。最終的に栄養ケアプランやモニタリングシートを作成する。更には食品構成から献立作成までの実践的な栄養管理能力の取得を目指す。本実習での対象は自分自身（18-29歳女性or男性）も含まれるが、基本を学びそれ以外の世代においても対応できるように教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・自分の食生活の現状についてアセスメントを行う能力を身につける		0.2			0.4		0.2	0.2	
・自分の身体に合う食事についての栄養管理法を総合的に理解できるようになる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス／スクリーニング	事前学習は配布プリントのスクリーニング回の予習。事後学習としてレポート作成。ルーブリックを配付し、成績評価について説明する。
第２回　身体活動量の計算	事前学習は配布プリントの身体活動量回の予習。事後学習としてレポート作成。
第３回　体格測定	事前学習は教科書の体格測定回の予習。事後学習としてレポート作成。
第４回　食事調査（練習）	事前学習は教科書の食事調査回の予習。事後学習としてレポート作成。
第５回　栄養価計算（練習）	事前学習はこれまでの栄養価計算法の復習。事後学習としてレポート作成。
第６回　食事調査（3日間の食事記録法）	事前学習として3日間の食事記録法の課題レポートが出ます。事後学習として食事記録を完成させてください。
第７回　栄養価計算（3日間の食事記録法）	事前学習として3日間の食事記録法の課題レポートが出ます。事後学習として栄養価計算を完成させてください。
第８回　アセスメントシートの作成	事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。
第９回　栄養ケア計画の作成①（問題点の抽出）	事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。
第10回　栄養ケア計画の作成②（栄養診断、栄養目標量の設定）	事前学習は配布プリントの食事摂取基準回の予習。事後学習としてレポート作成。
第11回　栄養ケア計画の作成③（食品構成）	事前学習は配布プリントの食品構成回の予習。事後学習としてレポート作成。
第12回　栄養ケア計画の作成④（献立作成）	事前学習は配布プリントの献立作成回の予習。事後学習としてレポート作成。
第13回　モニタリング①（チェックシートの作成）	事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。
第14回　モニタリング②（再計画について）	事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。
第15回　評価（構造評価・経過評価・総合評価）／まとめ	事前学習は配布プリントを参照。事後学習としてレポート作成。

■ 履修上の注意

応用栄養学・基礎栄養学・栄養教育論・臨床栄養学・公衆栄養学等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。

■ 成績評価方法・基準
課題レポート・・・90%、受講態度・・・10%（班活動の積極性）
成績はレポートの結果ならびに受講態度により総合的に判断します。

■ 教科書
〔応用栄養学　改訂第７版〕〔渡邊令子・他〕〔南江堂〕〔3，456円〕
その他、適宜プリントを配布する

■ 参考書
〔食品成分表〕〔女子栄養大学出版部〕〔1，512円〕
〔調理のためのベーシックデータ〕〔女子栄養大学出版部〕〔1，890円〕
〔日本人の食事摂取基準［2020年版］〕〔第一出版〕〔2，916円〕

■ 備考
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。

応用栄養学実習Ⅱ

(11239)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：健専２年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
川　俣　幸　一

■ 授業の概要

応用栄養学Ⅰ・Ⅱで学んだ各ライフステージの生理現象や生活をふまえ、より良く生きるための栄養とそれに適した献立について、実際に献立調理、観察、試食などを行う。本実習での対象期は、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、妊娠期、成人期、老年期、災害時とする。また応用栄養学実習Ⅰで学んだ栄養管理の方法を踏まえて、各ライフステージに適した献立作成などを行いながら、栄養補給計画の前提となる考え方を教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・各ライフステージに適している献立がどのように作成されているかを理解できるようになる。		0.2			0.4		0.2	0.2	
・各ライフステージに適した栄養管理の考え方と方法を総合的に理解できるようになる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　新生児期・乳児期栄養①（乳汁栄養）	事前学習は教科書の新生児期・乳児期の予習。事後学習としてレポート作成。ルーブリックを配付し、成績評価について説明する。
第２回　新生児期・乳児期栄養②（離乳食前期～中期）	事前学習は教科書の新生児期・乳児期の予習。事後学習としてレポート作成。
第３回　新生児期・乳児期栄養③（離乳食後期～完了期）	事前学習は教科書の新生児期・乳児期の予習。事後学習としてレポート作成。
第４回　幼児期栄養①（アレルギー：除去食・代替食）	事前学習は教科書の幼児期の予習。事後学習としてレポート作成。
第５回　幼児期栄養②（アレルギー：対応食材）	事前学習は教科書の幼児期の予習。事後学習としてレポート作成。
第６回　幼児期栄養③（アレルギー：発展調理法）	事前学習は教科書の幼児期の予習。事後学習としてレポート作成。
第７回　学童期栄養①（食育）	事前学習は教科書の学童期の予習。事後学習としてレポート作成。
第８回　学童期栄養②（行事・麺食）	事前学習は教科書の学童期の予習。事後学習としてレポート作成。
第９回　思春期栄養（貧血）	事前学習は教科書の思春期の予習。事後学習としてレポート作成。
第10回　妊娠期栄養（アセスメントに基づいた調理実習①：栄養調査を参考にした献立）	事前学習は教科書の妊娠期の予習。事後学習としてレポート作成。
第11回　運動・スポーツと栄養（アセスメントに基づいた調理実習②：BMI等を参考にした献立）	事前学習は教科書の運動・スポーツと栄養回の予習。事後学習としてレポート作成。
第12回　成人期栄養①（更年期の食事：高カルシウム食）	事前学習は教科書の成人期の予習。事後学習としてレポート作成。
第13回　成人期栄養②（更年期の食事：薬膳食）	事前学習は教科書の成人期の予習。事後学習としてレポート作成。
第14回　老年期栄養（低栄養予防）	事前学習は教科書の老年期の予習。事後学習としてレポート作成。
第15回　特殊環境と栄養（災害時の食事）	事前学習は教科書の災害時の栄養の予習。事後学習としてレポート作成。

■ 履修上の注意

応用栄養学・基礎栄養学・栄養教育論・臨床栄養学・公衆栄養学等の科目と内容的に重なる部分が多いので、それぞれの科目での学習内容と対比して理解を深めること。

■ 成績評価方法・基準

課題レポート・・・90%、受講態度・・・10%（班活動の積極性）
成績はミニテストやレポートの結果ならびに受講態度により総合的に判断します。

■ 教科書
〔応用栄養学　改訂第７版〕〔渡邊令子・他〕〔南江堂〕〔3，456円〕
その他、適宜プリントを配布する

■ 参考書
〔食品成分表〕〔女子栄養大学出版部〕〔1，512円〕
〔調理のためのベーシックデータ〕〔女子栄養大学出版部〕〔1，890円〕
〔日本人の食事摂取基準［2020年版］〕〔第一出版〕〔2，916円〕

■ 備考
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。

食生活論

(11240)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目

■ 授業の概要
労働者の健康（疾病予防・疾病）管理業務における個別・集団栄養教育活動の実務経験を生かした授業を行う。
管理栄養士・栄養士，栄養・家庭科教諭等，栄養・食に関わる専門職になるための専門教科を学修することに先だち，食の成り立ち，健康的な食生活（食生活と健康の関連），食育の推進，食と環境の関わり，食生活の歴史や文化など，その多様かつ広範な側面について，（科学的）根拠に基づき理解を深めることをねらいとする。また，それらを通じ，栄養・食に関わる専門職の役割や重要性の理解とともに，自身の健康的な食生活を営む基礎的知識・能力について教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・食生活と健康の関連について理解できる。	0.25	0.1	0.4			0.25			
・自身の食生活を見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を身につける。									
・食生活の歴史や文化とともに現状の課題について理解できる									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス，食生活の概念	事前学習は教科書の食生活の概念の該当箇所を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第２回　健康的な食生活とは	事前学習は国が普及する「健康な食事」についての情報収集を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第３回　“食生活指針”の概要	事前学習は国が策定した“食生活指針”について情報収集を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第４回　“食生活指針”による自身の食生活の見直し	事前学習は自身の日ごろの食生活について振り返りを行ってくること。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第５回　食生活と健康を考える（子ども）	事前学習は教科書の子どもの食生活に関する該当箇所(2.1)を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第６回　食生活と健康を考える（思春期・若年期）	事前学習は教科書の（思春期・若年期における）ボディイメージに関する該当箇所(2.2)を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第７回　食生活と健康を考える（成人期①“成人病”の時代まで）	事前学習は教科書の生活習慣病の概念に関する該当箇所(2.3A)を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第８回　食生活と健康を考える（成人期②生活習慣病の時代）	事前学習は教科書の糖尿病など疾病と栄養・食生活に関する該当箇所(2.3B～D)を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第９回　食生活と健康を考える（社会環境からの取り組み）	事前学習は教科書の生活習慣病の予防の取り組みに関する該当箇所(2.3E)を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第10回　食生活と健康を考える（社会環境における食環境の整備）	事前学習は自身を取り巻く食環境に関する情報収集を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第11回　食生活と安全	事前学習は教科書の食生活と安全情報に関する該当箇所(5.3～4) を読むこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。

第12回　健康・食情報を読み解くポイント	事前学習は身近に流れる健康情報について情報収集を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第13回　日本の食文化	事前学習は日本の食文化に関する情報収集を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第14回　食物の階層構造と食事バランスガイド	事前学習は食事バランスガイドに関する（復習）確認を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。
第15回　食品群・食品成分表による食事の評価	事前学習はこれまで学んだ食品群に関する知識の確認を行うこと。事後学習は配布資料、ノートにより学習内容を整理すること。

■ 履修上の注意
・日頃から健康・栄養情報を収集し、積極的に知識を深めること。
・遅刻，早退は慎むこと。遅刻３回で欠席３回とみなす。遅刻30分以上は欠席とみなす。
・印刷に使用する用紙やUSBメモリーなどは各自用意すること。

■ 成績評価方法・基準
・期末レポート（40%），課題・ミニットペーパー等（40%），受講態度（授業への参加状況・課題提出状況など：20%）で評価する。
・授業内での課題，小テスト等は当日，もしくは後日の授業内でフィードバックする。

■ 教科書
栄養科学シリーズNEXT「食育・食生活論　社会・環境と健康」（山本茂，他）講談社サイエンティフィック（2，640円）
その他，適宜資料を配布する。

■ 参考書
八訂食品成分表2023」（香川明夫）女子栄養大学出版部（1，760円）

■ 備考
・都合により授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については，授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

栄養教育論

(11241)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
小　野　真　実

■ 授業の概要
労働者の健康（疾病予防・疾病）管理業務における個別・集団栄養教育活動の実務経験を生かした授業を行う。
対象者の健康・栄養状態，食行動，食環境等に関する情報を収集・分析し，それらを総合的に評価・判定し，健康やＱＯＬの向上につながる主体的な実践力形成の支援に必要な栄養教育の理論と方法の基礎を修得を目的とする。栄養教育の目的・目標の概念をはじめとし，行動科学の理論とモデル，行動変容技法などの栄養教育のための理論的基礎と，栄養教育マネジメントについて具体的事例を通して教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・栄養教育の概念について理解できる。 ・栄養教育のための理論的基礎（行動科学理論・モデル，行動変容技法等）について理解できる。 ・栄養教育マネジメントの流れについて理解できる。	0.25 0.1 0.4 0.25

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス，栄養教育の概念	事前学習は教科書の栄養教育の概念の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第２回　栄養教育の対象と機会，栄養教育の歴史	事前学習は教科書の栄養教育の歴史の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第３回　栄養教育と食行動，行動科学	事前学習は教科書の行動科学から見た食行動変容の機序の箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第４回　行動科学の理論とモデル～個人・個人間レベル～ （刺激-反応理論，ヘルスビリーフモデル，トランスセオレティカルモデル，計画的行動理論，社会的認知理論，ソーシャルサポート，ストレスマネジメント）	事前学習は教科書の行動科学の理論・モデルの各該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第５回　行動科学の理論とモデル～集団・組織・地域レベル～ （コミュニティオーガニゼイション，イノベーション普及理論，ヘルスリテラシー）	事前学習は教科書の行動科学の理論・モデルの各該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第６回　行動変容技法と概念① （刺激統制，反応妨害・拮抗，行動置換，オペラント強化，認知再構成，意思決定バランス，目標宣言，行動契約）	事前学習は教科書の行動変容技法の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第７回　行動変容技法と概念② （セルフモニタリング，自己効力感，ソーシャルスキルトレーニング，ナッジ）	事前学習は教科書の行動変容技法の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第８回　組織づくり・地域づくりへの展開	事前学習は教科書の組織づくり・地域づくりへの展開の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第９回　栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル	事前学習は教科書の栄養教育マネジメントで用いる理論やモデルの該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第10回　栄養教育マネジメント①アセスメント	事前学習は教科書の栄養教育マネジメント（アセスメント）の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第11回　栄養教育マネジメント②目標設定，計画立案	事前学習は教科書の栄栄養教育マネジメント（目標設定，計画立案）の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。

第12回　栄養教育マネジメント③教材の選択と作成，学習形態	事前学習は教科書の栄養教育マネジメント（教材の選択と作成，学習形態）の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第13回　栄養教育マネジメント④実施	事前学習は教科書の栄養教育マネジメント（実施）の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第14回　栄養教育マネジメント⑤評価	事前学習は教科書の栄養教育マネジメント（評価）の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第15回　まとめ	事前学習は14回までのノート，配布資料の整理をしておくこと。
第16回　期末試験	事前学習は15回までのノート，配布資料の復習をしておくこと。

■ 履修上の注意

・「食生活論」，「健康管理概論」を復習のうえ，「応用栄養学」，「栄養管理論」，「臨床栄養学」との関連を理解しつつ臨むこと。
・遅刻，早退は慎むこと。

■ 成績評価方法・基準

・期末試験（80%），ミニットペーパー・小テスト（10%），受講態度（積極的な取り組み、発言、質問、課題の提出状況など：10%）で評価する。
・授業内での課題，小テスト等は当日，もしくは後日の授業内でフィードバックする。

■ 教科書

・栄養科学シリーズNEXT「栄養教育論　第４版」（笠原賀子，他）講談社サイエンティフィク（3，080円）
・管理栄養士講座「栄養教育論 第３版」（中村丁次，他）建帛社（4，180円）
その他，適宜資料を配布する。

■ 参考書

■ 備考

・都合により授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については，授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

栄養指導論

(11242)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目

■ 授業の概要

労働者の健康（疾病予防・疾病）管理業務における個別・集団栄養教育活動の実務経験を生かした授業を行う。
ライフステージ・ライフスタイル別の特性に応じた栄養教育の要点を理解の上，対象者の健康やＱＯＬの向上につながる主体的な実践力形成の支援に必要な栄養教育の理論，方法とそれらの活用について教授する。また，本講義では対象者自身による栄養・食生活上の課題解決と食行動の変容への支援の基礎となる栄養カウンセリングについて修得するとともに，具体的な事例を通して，個人・集団への栄養教育マネジメントシステムの活用について教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・栄養カウンセリングの基本，および基礎的技法について理解できる。	0.2	0.15	0.3		0.2	0.15			
・ライフステージ・ライフスタイル別の特性に応じた栄養教育の要点を理解できる。									
・各事例における栄養教育マネジメントシステムの具体的活用について理解できる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス，栄養教育の目的，対象と場（前期「栄養教育論」の復習）	事前学習は前期「栄養教育論」の復習をしておくこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第２回　栄養カウンセリングの基本	事前学習は教科書の栄養カウンセリングの基本の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第３回　栄養カウンセリングの技術	事前学習は教科書の（栄養）カウンセリングの理論と技法の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第４回　栄養カウンセリングの実施	事前学習は教科書の栄養カウンセリングの実施の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第５回　妊娠期の栄養教育	事前学習は教科書の妊娠期の栄養教育の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第６回　乳児（授乳）期の栄養教育	事前学習は教科書の乳児期の栄養教育の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第７回　幼児期の栄養教育	事前学習は教科書の幼児期の栄養教育の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第８回　学童期の栄養教育	事前学習は教科書の学童期の栄養教育の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第９回　思春期の栄養教育	事前学習は教科書の思春期の栄養教育の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第10回　成人期の栄養教育	事前学習は教科書の成人期の栄養教育の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第11回　高齢期の栄養教育	事前学習は教科書の高齢期の栄養教育の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第12回　傷病者の栄養教育	事前学習は教科書の傷病者の栄養教育の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により

	学習内容を整理すること。
第13回　障がい者の栄養教育	事前学習は教科書の障がい者の栄養教育の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第14回　栄養教育と健康づくり対策	事前学習は教科書の栄養教育に関連する生活指導の該当箇所を読むこと。事後学習はノートや配布資料により学習内容を整理すること。
第15回　まとめ	事前学習は14回までのノート，配布資料の整理をしておくこと。
第16回　期末試験	事前学習は15回までのノート，配布資料の復習をしておくこと。

■ 履修上の注意
・「栄養教育論」，「社会福祉論」，「応用栄養学」，「臨床栄養学」を復習のうえ，それらの科目との関連を理解しつつ臨むこと。
・遅刻，早退は慎むこと。

■ 成績評価方法・基準
・期末試験（70%），ミニットペーパー・課題等（20%），受講態度（積極的な取り組み、発言、質問、課題の提出状況など：10%）で評価する。
・授業内での課題等は当日，もしくは後日の授業内でフィードバックする。

■ 教科書
・管理栄養士講座「栄養教育論 第３版」（中村丁次，他）建帛社（4，180円）
・栄養科学シリーズNEXT「栄養教育論　第４版」（笠原賀子，他）講談社サイエンティフィク（3，080円）
その他，適宜資料配布。

■ 参考書
「応用栄養学」の教科書

■ 備考
・都合により授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については，授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

保健栄養学

(11243)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄

■ 授業の概要
本科目では、人間の健康面や栄養面に関する現状や問題点について、事例を交えて紹介する。具体的には、わが国の食環境やライフステージごとの特徴や問題点などを取り上げる。その上で健康・栄養教育を交えた対策について、食生活や栄養摂取の視点を交えて解説する。内容によっては、授業テーマに関する提出課題を出題し、履修者自身の立場で健康面や栄養面に関する現状や問題を把握し、それらについての対策や教育手法などを考えさせる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・①授業のテーマに関する現状や問題点を把握することができる。 ・②その対策について、様々な視点で考える習慣を身につける。 ・①、②に関して、健康面や栄養面に関する教育方法を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　健康・予防・QOLに関する栄養教育と健康教育	予習：教科書ｐ.10～11を読んでおく。復習：一次・二次・三次予防の特徴を理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第２回　わが国の食環境と栄養教育①：食生活の変化と問題点	予習：教科書ｐ.16～23を読んでおく。復習：日本人の栄養摂取状況の特徴を理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第３回　わが国の食環境と栄養教育②：食生活の改善と行動変容	予習：教科書ｐ.23～27を読んでおく。復習：日本人の食に関する課題について考える。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第４回　わが国の食環境と栄養教育③：食に関する情報へのアクセス	予習：教科書ｐ.27～32を読んでおく。復習：健康に関する情報の発信方法について考える。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第５回　わが国の食環境と栄養教育④：食品ロスを減らすための栄養教育	予習：教科書ｐ.42、60　食品ロスの関係個所を読んでおく。復習：食品ロスの原因と対策を理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第６回　健康・栄養面に関する指針の活用①：食生活指針	予習：教科書ｐ.58～61を読んでおく。復習：食生活指針の特徴を復習する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第７回　健康・栄養面に関する指針の活用②：身体活動・休養・睡眠指針	予習：教科書ｐ.63～66を読んでおく。復習：各種指針の特徴を把握する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第８回　わが国の食環境・健康面・栄養面の課題について	予習：第1回～第7回授業のポイントを確認する。復習：授業で扱った課題の対策を考える。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第９回　乳幼児健診での栄養教育	予習：教科書ｐ.151～153を読んでおく。復習：乳幼児健診での栄養教育などについて、母子保健事業も交えて理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第10回　成人期の健康・栄養面の問題と行動変容①：特定保健指導による行動変容	予習：教科書ｐ.48、特定健康診査・特定保健指導、156　生活習慣病ハイリスク集団を読んでおく。復習：特定保健指導の初回面接の内容とポイ員とを確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第11回　成人期の健康・栄養面の問題と行動変容②：ストレスとその対処方法	予習：第6回～7回の内容を確認する。教科書ｐ.58～66を読んでおく。復習：食生活を交えてストレス対処方法を考える。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第12回　持続可能な開発目標（SDGｓ）とその取り組みについて	予習：教科書ｐ.84～85を読んでおく。復習：SDG

	ｓの17のゴールと関連する取り組みについて理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第13回　日本栄養士会による健康・栄養教育について	予習：教科書ｐ.44～45を読んでおく。復習：日本栄養士会による健康・栄養教育について理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第14回　諸外国の健康・栄養問題①：現状と課題	予習：教科書ｐ.32～37を読んでおく。復習：諸外国の健康・栄養問題の現状と課題について理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第15回　諸外国の健康・栄養問題②：対策と栄養教育	予習：教科書ｐ.81～90を読んでおく。復習：諸外国の健康・栄養問題の対策と栄養教育について理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第16回　期末試験	学習した内容全体を復習する。

■ 履修上の注意

①遅刻は、始業時から15分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。
②都合により、授業の順序を変更する場合もある。
③自習（事前・事後学修の内容）の具体的な内容（教科書、プリントなどの資料の該当箇所など）については、授業の際に詳しく説明する。
④本科目は卒業必修科目である。

■ 成績評価方法・基準

・期末試験（60%）、提出課題（30%）、受講態度（10%）で成績評価を行う。
※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業中の私語や、授業と関係ない行為を行うなど、受講態度に問題のある場合、状況に応じて減点する。
・提出物、試験については、後日フィードバックを行う。

■ 教科書

〔公衆栄養学〕〔荒巻礼子ほか〕〔化学同人〕〔2，600円〕

■ 参考書

なし。授業内で適宜紹介する。

■ 備考

質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

栄養情報処理演習

(11244)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（30 + 15）
対象学科：健専２年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目

■ 授業の概要

労働者の健康（疾病予防・疾病）管理業務における個別・集団栄養教育活動の実務経験を生かした授業を行う。
栄養管理プロセスにおいて，栄養評価（アセスメント）を適切に行うために必要な収集情報の整理やまとめ，処理手法，それらを用いた各種レポート等作成・表現方法の修得について教授する。本演習では食事調査による栄養計算アプリケーションソフトを用いた食事摂取量の測定（栄養素摂取状況）等の実践的情報処理手法とともに，それらを活用した具体的な表現方法等を身につけることをねらいとする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・栄養評価に必要な情報を収集・整理できる。			0.15		0.2		0.3	0.15	0.2
・食事調査の結果についてまとめることができる。									
・演習に用いた各種ソフトを活用できる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、研究倫理	新OA室での作業方法とパソコン基本操作の復習
第２回　プレゼンテーションソフトの基本と活用	PowerPoint操作の復習と学修内容の確認。
第３回　栄養計算ソフトの活用①栄養計算基本操作	Excel操作の復習。
第４回　栄養計算ソフトの活用②食事調査演習（24時間思い出し法）	24時間思い出し法の復習。
第５回　栄養計算ソフトの活用③食事調査内容の整理（栄養計算前の処理）	前回修得内容の確認。
第６回　栄養計算ソフトの活用④栄養計算結果表の作成	前回操作の反復と修得内容の確認。
第７回　栄養計算ソフトの活用⑤栄養評価票の作成	前回操作の反復と修得内容の確認。
第８回　栄養計算ソフトの活用⑥栄養評価方法のまとめ	前回操作の反復と修得内容の確認。
第９回　教材作成（パンフレット）	Word操作の復習。提案レシピ2品の検討・準備。
第10回　健康・栄養情報収集の方法	主な統計資料の確認。
第11回　収集情報の整理	情報収集分野やキーワードの検討。
第12回　質問紙調査票の作成方法	Word操作の復習と学修内容の確認。
第13回　表計算ソフトの活用①データ入力と集計（表作成，ピボットテーブル等）	Excel操作の復習と学修内容の確認。
第14回　表計算ソフトの活用②データ処理・分析（ヒストグラム，代表値等）	前回操作の反復と修得内容の確認。
第15回　表計算ソフトの活用③分析ツールの活用（平均値の比較・独立性の検定）・まとめ	学修内容・提出課題の振り返り。

■ 履修上の注意

・「統計学」を復習のうえ，臨むこと。
・「情報基礎学」履修のうえ，基本的なPC操作に慣れておくこと。
・遅刻，早退は慎むこと。30分以上の遅刻で欠席とみなす。遅刻３回で欠席１回とみなす。
・印刷に使用する用紙やUSBメモリーなどは各自用意すること。
・課題提出は指定された期限（授業内含む）を厳守すること。
・担当教員，助手が作業サポートを行うため，座席は指定範囲内に着席のこと。
・授業時間中は集中して臨むこと。

■ 成績評価方法・基準

・課題提出（80%），受講態度（授業への参加状況，課題提出状況など：20%）
・提出された課題等は確認後，後日フィードバックする。

■ 教科書

栄養科学シリーズNEXT「公衆栄養学実習」（金田雅代，他）講談社サイエンティフィク（2，860円）
その他，適宜資料配布。

■ 参考書

八訂食品成分表（香川明夫）女子栄養大学出版部（1，760円）

■ 備考

・都合により授業計画の順番等を変更することがある。

・質問等については，授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

栄養指導論実習

(11245)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（45 + 15）
対象学科：健専３年
授業形態：実習　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
髙　橋　睦　子

■ 授業の概要

労働者の健康（疾病予防・疾病）管理業務における個別・集団栄養教育活動の実務経験を生かした授業を行う。
本実習は，「栄養教育論」，「栄養指導論」，「応用栄養学」等で修得した基礎的知識および技術について，ライフステージ別に個人・集団に対する栄養教育のロールプレイングを通して，より理解を深め，栄養教育における管理栄養士としての専門性を身につけるものである。対象者の特性に応じた栄養教育マネジメント（栄養アセスメント，教育計画の立案，実施，評価，改善）の一連のシステムを，実習（グループワーク中心）を通して実践的に修得することをねらいとする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・ライフステージ・ライフスタイル別の特性に応じ，解決すべき栄養課題を明確にできる。 ・個人・集団に対する栄養教育をマネジメントシステムに沿って実施できる。 ・栄養教育に必要なコミュニケーション能力を身につけることができる。 ・グループ内で協力し合って，作業を進めることができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス，コミュニケーション演習，対象集団の実態把握のための情報収集	事前にライフステージ・ライフスタイル別の特性について復習。
第２回　対象集団の実態把握およびアセスメント	事前に収集情報を整理。
第３回　集団栄養教育の課題の明確化と目標設定	明確化した課題を目標設定に展開。
第４回　集団栄養教育計画の立案	栄養教育計画立案の検討。
第５回　集団栄養教育の指導案および教材作成	指導案の検討，教材の適切性確認。
第６回　集団栄養教育の予行演習，見直し	発表内容の確認。
第７回　集団栄養教育のロールプレイング，振り返り	改善案への展開。
第８回　対象者（個人）の栄養アセスメント，課題の明確化	事前に個人の課題を事前に読み込む。
第９回　食事調査の実践（24時間思い出し法）	事前に食事調査方法の復習。
第10回　栄養カウンセリングの演習	事前にカウンセリングの基礎的技法を復習。
第11回　個人に対する栄養教育計画の立案	個人の優先課題が適切かの確認。
第12回　個人に対する栄養教育の教材作成	指導案の内容は目標に沿っているかの確認。
第13回　個人に対する栄養教育のシナリオ作成	カウンセリング等の技法の確認。
第14回　栄養カウンセリングのロールプレイング予行演習，見直し	シナリオが計画・指導案に沿っているか確認。
第15回　栄養カウンセリングのロールプレイング，振り返り	改善案への展開。

■ 履修上の注意

・「栄養教育論」，「栄養指導論」，「栄養情報処理演習」，「栄養管理論」，「応用栄養学」，「臨床栄養学」を復習のうえ，それらの科目および「公衆衛生学」，「公衆栄養学」との関連を理解しつつ臨むこと。
・グループワーク中心のため，欠席，遅刻，早退は厳に慎むこと。遅刻３回で欠席１回とみなす。授業開始後30分以上の遅刻は欠席とみなす。
・実習内容によっては，授業時間外での作業が必要となる場合もあるため，各自積極的に，かつ班内で協力のうえ，臨むこと。
・印刷に使用する用紙やUSBメモリーなどは各自用意すること。

■ 成績評価方法・基準

・課題レポート（50%）・受講態度（授業への参加状況、課題提出状況など：50%）＊ルーブリックで評価
・提出された課題等は確認後，後日フィードバックする。

■ 教科書

・管理栄養士講座「栄養教育論 第３版」（中村丁次，他）建帛社（4，180円）
・栄養科学シリーズNEXT「栄養教育論　第４版」（笠原賀子，他）講談社サイエンティフィク（3，080円）
その他，適宜資料を配布する。

■ 参考書

「栄養情報処理演習」の教科書・配布資料，「応用栄養学」の教科書

■ 備考

・都合により授業計画の順番等を変更することがある。

・質問等については授業内および終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付ける。

臨床栄養学Ⅰ

(11246)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
髙　橋　　文

■ 授業の概要

本科目では、病院および高齢者施設における管理栄養士としての実務経験を生かし、臨床栄養学に対する基礎的な知識の修得に加え、傷病者および要介護者の病態や栄養状態の特性に基づいた、適切な栄養管理ができることを目的に講義を行う。内容については、臨床栄養学の意義と目的について理解し、栄養アセスメント、計画の作成、実施、評価に関する栄養管理の考え方について指導を行う。加えて、食物と薬剤の相互関係、疾患および病態に対する栄養食事療法についても指導を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・傷病者への適切な栄養管理を実施するための、基本的な病態の知識を修得できる。	0.2		0.5		0.3				
・栄養アセスメント、栄養管理計画の作成、実施および評価の方法について理解できる。									
・個々人に適した栄養食事療法のあり方を理解できる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、臨床栄養学の意義と目的	（基礎編）第1章（p12～19）を予習・復習する
第２回　医療・福祉・介護と臨床栄養	（基礎編）第2章（p20～39）を予習・復習する
第３回　栄養スクリーニングとアセスメント（SGA・ODA）	（基礎編）第3章（p40～51）を予習・復習する
第４回　栄養アセスメント（臨床診査）	（基礎編）第4章（p52～60）を予習・復習する
第５回　栄養アセスメント（臨床検査）	（基礎編）第4章（p60～63）を予習・復習する
第６回　栄養アセスメント（身体計測・栄養・食事摂取調査）	（基礎編）第4章（p63～69）を予習・復習する
第７回　栄養アセスメント（栄養）	（基礎編）第4章（p69～74）を予習・復習する
第８回　栄養ケア計画	（基礎編）第5章（p75～85）を予習・復習する
第９回　食事療法栄養補給の方法	（基礎編）第6章（p86～109）を予習・復習する
第10回　薬と栄養・食事の相互関係	（基礎編）第7章（p110～121）を予習・復習する
第11回　栄養教育	（基礎編）第9章（p130～146）を予習・復習する
第12回　モニタリングと評価、栄養ケア記録	（基礎編）第8章（p122～129）・10章（p147～156）を予習・復習する
第13回　肥満症、低栄養の栄養食事療法	（疾患別編）第1章（p24～31）を予習・復習する
第14回　代謝系疾患の栄養食事療法	（疾患別編）第1章（p15～20）を予習・復習する
第15回　症例からみる栄養食事療法（ディスカッション）	症例の内容をまとめておく

■ 履修上の注意

講義に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。

■ 成績評価方法・基準

・小テスト80%、受講態度20%（積極的な態度、目的意識）を総合的に判断して評価する。
・小テストは、教科書および講義で行った基本的な内容から出題し、テスト終了後解説を行う。

■ 教科書

臨床栄養学（基礎編）第3版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2700円+税〕
臨床栄養学（疾患別編）第3版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2800円+税〕

■ 参考書

なし（適宜プリント配布）

■ 備考

・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

臨床栄養学Ⅱ

(11247)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
髙　橋　　文

■ 授業の概要

本科目では、臨床栄養学Ⅰで学修した基礎的な栄養管理の手法に加え、さらに多様な疾患に対する栄養治療を行うための実践能力を身につけることを目的に、病院栄養士としての実務経験時の事例を交えながら講義を行う。各疾患における治療ガイドラインを基に、病態、症候、治療に対応した適切な栄養食事療法の指導を行う。さらに、栄養食事療法の効果に対する客観的な観察に加え、疾患ごとの栄養食事療法の基本的な知識を基に、臨床栄養学実習および臨床栄養指導論へ実践的な応用に結びつけることを目的とする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
・各疾患における、病因・病態、臨床検査値および治療全般について説明できる。	0.2		0.5		0.3				
・各疾患および病態における栄養管理法を理解できる。									
・各疾患および病態に対応した、適切な栄養食事療法の選択ができる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、代謝疾患・栄養障害の栄養食事療法	（疾患別編）第1章（p20～38）を予習・復習する
第２回　内分泌系疾患の栄養食事療法	（疾患別編）第6章（p106～118）を予習・復習する
第３回　消化器疾患の栄養食事療法	（疾患別編）第2章（p40～54）を予習・復習する
第４回　肝臓・胆嚢・膵臓疾患の栄養食事療法	（疾患別編）第3章（p55～69）を予習・復習する
第５回　循環器疾患の栄養食事療法①（高血圧・動脈硬化）	（疾患別編）第4章（p70～76）を予習・復習する
第６回　循環器疾患の栄養食事療法①（心疾患・脳疾患）	（疾患別編）第4章（p76～82）を予習・復習する
第７回　腎臓疾患の栄養食事療法①（慢性腎臓病）	（疾患別編）第5章（p83～94）を予習・復習する
第８回　腎臓疾患の栄養食事療法②（糖尿病性腎症、人工透析）	（疾患別編）第5章（p94～105）を予習・復習する
第９回　呼吸器疾患、血液疾患の栄養食事療法	（疾患別編）第8（p139～146）・9章（p147～159）を予習・復習する
第10回　運動器系疾患、免疫・アレルギー疾患の栄養食事療法	（疾患別編）第10章（p160～171）・11章（p172～187）を予習・復習する
第11回　がん（ターミナルケア）、周術期の栄養食事療法	（疾患別編）第13章（p198～214）・14章（p215～223）を予習・復習する
第12回　摂食・嚥下障害の栄養食事療法	（疾患別編）第16章（p234～253）を予習・復習する
第13回　小児疾患、妊産婦・授乳婦の栄養食事療法	（疾患別編）第18章（p261～279）・19章（p280～293）を予習・復習する
第14回　高齢期疾患の栄養食事療法	（疾患別編）第20章（p294～303）を予習・復習する
第15回　症例からみる栄養食事療法（ディスカッション）	症例の内容をまとめておく

■ 履修上の注意

講義に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。

■ 成績評価方法・基準

・小テスト70%、課題レポート10%、受講態度20%（積極的な態度、目的意識）を総合的に判断して評価する。
・小テストは、教科書および講義で行った基本的な内容から出題し、テスト終了後解説を行う。
・課題レポートは、評価基準表（ルーブリック）を用いて評価し、後日添削して返却する。

■ 教科書

臨床栄養学（基礎編）第3版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2700円+税〕
臨床栄養学（疾患別編）第3版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2800円+税〕

■ 参考書
なし（適宜プリント配布）

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。
・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

臨床栄養指導論Ⅰ

(11248)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
髙　橋　　文

■ 授業の概要

本科目では、実際に栄養指導に携わってきた経験を生かし、臨床現場における基本的な疾患についての栄養教育および栄養食事指導法について学修することを目的に講義を行う。臨床栄養指導は、傷病者の個人または集団を対象とするもので、必要に応じた適切な栄養食事指導が実施できるよう、疾患だけではなく年齢・性差・生活状況なども考慮し、栄養食事指導を行わなければならない。そのため、模擬栄養食事指導および媒体などを作成し、栄養食事指導をどのように進めていくのか、また、患者の立場においてはどのような指導が理解しやすいかなどの指導を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・栄養食事指導を行うための、知識および方法の基礎について理解できる。 ・傷病者が正しい知識と行動を起こすことができるための、栄養食事指導の方法および技術の修得ができる。 ・疾患および病態に応じた、栄養食事指導計画書を立案できる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　医療における管理栄養士の役割	チーム医療について調べる
第２回　栄養食事指導の種類と特徴	栄養食事指導の種類についてまとめる
第３回　保険診療と栄養教育	診療報酬（栄養関連）についてまとめる
第４回　診療記録の見方・書き方	診療記録の書き方についてまとめる
第５回　自分の栄養カルテを作成する①基礎データ・問題リスト	基礎データ・問題リストをまとめる
第６回　自分の栄養カルテを作成する②食事調査・初期計画	食事調査・初期計画を作成する
第７回　栄養食事指導のための情報収集	情報収集の内容をまとめる
第８回　栄養食事指導法の紹介	栄養指導内容をまとめる
第９回　情報収集方法（グループワーク）	情報収集の方法をまとめる
第10回　食事の聞き取り調査（グループワーク）	食事調査内容をまとめる
第11回　肥満症の栄養食事指導について	肥満症について復習する
第12回　症例検討と栄養食事指導計画書の作成	症例検討内容をまとめる
第13回　模擬栄養食事指導①（媒体・資料作成）	栄養食事指導媒体を作成する
第14回　模擬栄養食事指導②（プレゼンテーション）	栄養食事指導方法についてまとめる
第15回　模擬栄養食事指導②（プレゼンテーション）	栄養食事指導方法についてまとめる

■ 履修上の注意

・講義に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。
・疾患については臨床栄養学Ⅰ・Ⅱで学んでいるため、復習をしておく。また、栄養食事指導を行う際の多様な場面や背景について考えておくこと。

■ 成績評価方法・基準

・演習（ルーブリック）40%、小テスト20%、受講態度10%（積極的な態度、目的意識）、課題30%
（提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。）を総合的に判断して評価する。
・小テストは、教科書および講義で行った基本的な内容から出題。テスト終了後テストの解説を行う。
・課題は、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

栄養アセスメントに役立つ 臨床検査値の読み方考え方 ケーススタディ 第3版〔奈良信雄〕〔医歯薬出版〕〔2700円+税〕
臨床栄養学（基礎編）改定第2版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2700円+税〕
臨床栄養学（疾患別編）改定第2版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2800円+税〕

■ 参考書

なし（適宜プリント配布）

■ 備考

・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。
・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

臨床栄養指導論Ⅱ

(11249)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
髙　橋　　文

■ 授業の概要

本科目では、臨床栄養指導論Ⅰと同様、実務経験を生かした媒体作成および模擬栄養指導などを行い、症例検討における事例から、適切な栄養食事指導の方法について学修する講義を行う。疾患だけではなく年齢・性差・生活状況なども考慮した栄養食事指導を行うため、臨床栄養学Ⅰ・Ⅱで学修したことをふまえ、栄養食事療法を必要とする患者の状態に合わせた献立を作成できるよう指導を行う。併用して学修している身体計測についても傷病者の状態を把握し、その患者に適した食事内容について説明できるよう指導を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・傷病者が正しい知識と行動を起こすことができるための、栄養食事指導の方法および技術の修得ができる。 ・疾患および病態に応じた栄養指導計画書を立案できる。 ・栄養指導計画書に基づいた栄養食事指導ができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　肥満症の栄養食事指導について（ディスカッション）	症例検討内容をまとめる
第２回　糖尿病の栄養食事指導について	糖尿病について復習する
第３回　糖尿病の栄養食事指導について（ディスカッション）	症例検討内容をまとめる
第４回　高血圧の栄養食事指導について	高血圧について復習する
第５回　高尿酸血症の栄養食事指導について	高尿酸血症について復習する
第６回　鉄欠乏性貧血の栄養食事指導について	鉄欠乏性貧血について復習する
第７回　鉄欠乏性貧血の栄養食事指導について（ディスカッション）	症例検討内容をまとめる
第８回　心臓疾患の栄養食事指導について	心臓疾患について復習する
第９回　腎臓疾患及び透析療法の栄養食事指導について	腎臓疾患及び透析療法について復習する
第10回　肝臓疾患の栄養食事指導について	肝臓疾患について復習する
第11回　高齢期疾患の栄養食事指導について	高齢期疾患について復習する
第12回　配布用リーフレット作成	担当する疾患の内容をまとめる
第13回　模擬集団栄養食事指導媒体作成（グループワーク）	栄養食事指導媒体および資料を作成する
第14回　模擬集団栄養食事指導（プレゼンテーション）	栄養食事指導方法についてまとめる
第15回　模擬集団栄養食事指導（プレゼンテーション）	栄養食事指導方法についてまとめる

■ 履修上の注意

・講義に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。
・疾患については臨床栄養学Ⅰ・Ⅱで学んでいるため、復習をしておく。また、栄養食事指導を行う際の多様な場面や背景について考えておくこと。

■ 成績評価方法・基準

・演習（ルーブリック）40%、課題30%（提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。）、小テスト20%、受講態度10%（積極的な態度、目的意識）を総合的に判断して評価する。
・小テストについては、教科書および講義で行った基本的な内容から出題。テスト終了後テストの解説を行う。
・課題については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

栄養アセスメントに役立つ 臨床検査値の読み方考え方 ケーススタディ 第3版〔奈良信雄〕〔医歯薬出版〕〔2700円+税〕
臨床栄養学（基礎編）改定第2版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2700円+税〕
臨床栄養学（疾患別編）改定第2版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2800円+税〕

■ 参考書

なし（適宜プリント配布）

■ 備考

・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。
・ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。
・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

臨床栄養学実習Ⅰ

(11250)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（45 + 45）
対象学科：健専３年
授業形態：実習　学期：前期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
髙　橋　　文

■ 授業の概要

本科目は、治療食の献立作成および食事提供を行ってきた経験を生かし、臨床栄養学Ⅱで学修した栄養食事療法を基に、疾患別の献立作成について指導する。一般食の食品構成および献立作成の基礎から、疾患別の治療食献立への展開方法について学び、作成した献立を調理し供食を通じて評価と検討を行う。献立作成には疾患についての知識が必須であり、調理実習ではグループで行うため、コミュニケーションが必要とされる。この一環の流れを通して、治療食の特色を学び、多様化する病態に対応できる実践能力とチームとしての役割について修得する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・治療食の種類および特徴について理解し、説明できる。	
・疾患および病態に応じた適切な治療食の献立作成ができる。	
・献立表を基に、調理、盛付、供食を行い、治療食の評価ができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、臨床栄養学と食事療法について	第1章（p2～12）を予習・復習する
第２回　一般治療食と特別治療食について、食品構成と献立作成	第1章（p13～22）を予習・復習する
第３回　一般治療食の献立作成	第2章（p25～44）を予習・復習する
第４回　エネルギーコントロール食について、糖尿病食品交換表の活用方法	第3章（p45～52）・4章（p84～97）を予習・復習する
第５回　エネルギーコントロール食の献立作成，調理実習の説明	グループ内で献立表・材料・作業工程等を確認する
第６回　調理実習（一般治療食）	調理実習の内容をまとめておく
第７回　塩分制限食について，調理実習の説明	・第3章（p68～75）・4章（p107～117）を予習・復習する ・グループ内で献立表・材料・作業工程等を確認する
第８回　調理実習（塩分制限食）	調理実習の内容をまとめておく
第９回　脂質コントロール食（献立作成）について，調理実習の説明	・第3章（p62～67）・第6章（p173～181）を予習・復習する ・グループ内で献立表・材料・作業工程等を確認する
第10回　調理実習（エネルギーコントロール食）	調理実習の内容をまとめておく
第11回　たんぱく質コントロール食（献立作成）について，調理実習の説明	・第3章（p62～67）・第5章（p125～135）を予習・復習する ・グループ内で献立表・材料・作業工程等を確認する
第12回　調理実習（脂質コントロール食）	調理実習の内容をまとめておく
第13回　特殊治療食（低たんぱく食）の試食、調理実習の説明	グループ内で献立表・材料・作業工程等を確認する
第14回　調理実習（たんぱく質コントロール食）	調理実習の内容をまとめておく
第15回　嚥下調整食および食事介助について	第8章（p221～224）を予習・復習する

■ 履修上の注意

・調理実習の際には清潔な調理衣（白衣・調理ズボン）を着用し、身支度・衛生管理を徹底すること。
・献立作成および栄養価計算等を行うため、食品成分表、電卓を持参すること。
・実習に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。

■ 成績評価方法・基準

・課題60%（提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。）、実習態度（ルーブリック）40%を総合的に判断して評価する。
・課題提出については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書
臨床栄養学実習書 第12版〔玉川和子 他〕〔医歯薬出版〕〔2700円+税〕
臨床栄養学実習 フローチャートで学ぶ臨床栄養管理３訂〔中村富予 他〕〔建帛社〕〔2800円+税〕
糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版〔日本糖尿病学会〕〔文光堂〕〔900円+税〕

■ 参考書
なし（適宜プリント配布）

■ 備考
・都合により、授業計画の順番等を変更することがある
・ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。
・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

臨床栄養学実習Ⅱ

(11251)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（45 + 45）
対象学科：健専３年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
髙　橋　　文

■ 授業の概要

本科目は、今まで学修した臨床栄養学の知識を医療機関等で実践するため、疾患および病態に応じた、適切な栄養管理が実施できる実践能力を修得する実習である。身体計測の実技を中心に種々のアセスメント指標より、傷病者の病態および栄養状態の特徴を把握し、適切な栄養補給法の選択および栄養管理計画書の作成方法について、実務経験を生かした指導を行う。さらに、疾患別の症例検討を実施し、病態生理を理解したうえで、個々人に適した栄養食事療法を行うため方法よび技術を修得する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・身体計測の目的や意義について理解し、正確に計測ができる。 ・傷病者の病態や栄養状態に基づいた、適切な栄養補給法 の知識を修得できる。 ・症例検討を実施することにより、実践に活かすための手法を修得できる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、栄養スクリーニングと栄養アセスメント	実習1（p1～6）を予習・復習する
第２回　身体計測実習の説明	実習2（p7～14）を予習・復習する
第３回　①身体計測、②症例検討（慢性心不全、2型糖尿病、非代償性肝硬変、慢性腎不全）	・実習8（p46～53）を予習・復習する ・自身の測定データをまとめておく
第４回　①身体計測、②症例検討（食物アレルギー、褥瘡、クローン病、慢性閉塞性肺疾患）	・実習8（p54～62）を予習・復習する ・自身の測定データをまとめておく
第５回　①身体計測、②症例検討（直腸癌、進行胃癌、摂食嚥下障害、血液透析）	・実習8（p63～73）を予習・復習する ・自身の測定データをまとめておく
第６回　体成分分解装置を用いた測定結果の説明、栄養パラメータの算出	自身の測定データをまとめておく
第７回　栄養アセスメント	実習3（p15～18）を予習・復習する
第８回　栄養補給法の種類と選択	実習4（p19～21）を予習・復習する
第９回　経腸・静脈栄養剤の投与および管理	経腸栄養剤の種類をまとめておく
第10回　栄養管理計画書の作成	実習5（p22～28）を予習・復習する
第11回　栄養管理プロセス・栄養診断を取り入れたSOAP記録	実習7（p35～42）を予習・復習する
第12回　症例検討①（各グループ）	各疾患の病態生理について復習する
第13回　症例検討②（各グループ）	各疾患の病態生理について復習する
第14回　症例発表と評価①	症例検討内容をまとめておく
第15回　症例発表と評価②	症例検討内容をまとめておく

■ 履修上の注意

・身体計測の必要性について調べておく。
・実習に関する内容についてはノート等にまとめておくこと。

■ 成績評価方法・基準

・課題60%（提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。）、受講態度（ルーブリック）40%を総合的に判断して評価する。
・課題提出については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

臨床栄養学実習 フローチャートで学ぶ臨床栄養管理３訂〔中村富予 他〕〔建帛社〕〔2800円+税〕
臨床栄養学（基礎編）改訂第2版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2700円+税〕
臨床栄養学（疾患別編）改訂第2版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2800円+税〕

■ 参考書

なし（適宜プリント配布）

■ 備考

・都合により、授業計画の順番等を変更することがある。

・ルーブリック評価については、第1回目の授業で説明する。

・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

公衆栄養学

(11252)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄

■ 授業の概要
公衆栄養学は、日常の生活圏である地域や市町村、都道府県、国などの住民レベル、学校や職域などの様々な集団に所属する人々を対象に、健康面や栄養面の現状を把握し、問題点の改善、健康の維持・増進、疾病の予防をはかることを目的とする。その際、食生活や栄養面の観点から検討を行う。本講義では、以上の内容に関する事項として、地域住民や各種集団の健康・栄養に関する現状や問題点、関係する法規や政策、公衆栄養活動の流れ等について解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・公衆栄養活動に関連する法規を理解する。 ・公衆栄養活動の企画から評価までの流れを理解する。 ・公衆栄養活動を展開するために必要な知識や考え方を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　公衆栄養の概念	予習：教科書ｐ.2～4を読んでおく。復習：公衆栄養の意義や目的、生態系やコミュニティとの関連について理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第２回　公衆栄養活動	予習：教科書ｐ.4～13を読んでおく。復習：公衆栄養活動について、日本の歴史や現在の課題について確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第３回　日本の栄養行政	予習：教科書ｐ.40～45を読んでおく。復習：行政の体制、保健所や市町村保健センターの役割について理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第４回　公衆栄養関連法規①：　地域保健法、健康増進法	予習：教科書ｐ.46～47を読んでおく。復習：地域保健法や健康増進法の要点を確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第５回　公衆栄養関連法規②：　食育基本法、その他の関連法規	予習：教科書ｐ.47～50を読んでおく。復習：食育基本法をはじめ、授業で扱う法規の要点を確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第６回　日本の管理栄養士・栄養士制度	予習：教科書ｐ.50～54を読んでおく。復習：栄養士法が扱う内容について確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第７回　国民健康・栄養調査	予習：教科書ｐ.54～58を読んでおく。復習：調査の目的、実施について、ポイントを理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第８回　ミニテスト 公衆栄養マネジメント・アセスメント	第1回～第7回の授業内容の修得状況を点検する。 予習：教科書ｐ.114～116を読んでおく。復習：公衆栄養活動の進め方について確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第９回　健康・食生活の危機管理と食支援①：　災害発生時の食支援の公衆栄養活動における調査方法流れ	予習：教科書ｐ.139～142を読んでおく。復習：災害発生時の食支援の流れを確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第10回　健康・食生活の危機管理と食支援②：　震災発生時の行政栄養士の役割について	予習：教科書ｐ.139～142を読んでおく。復習：震災発生時の行政栄養士の役割を理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第11回　公衆栄養活動における調査方法	予習：教科書ｐ.119～121を読んでおく。復習：調査方法の特徴を理解する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第12回　公衆栄養活動における目標設定	予習：教科書ｐ.121～126を読んでおく。復習：

	目標設定、優先順位の決め方について確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第13回　公衆栄養活動の評価	予習：教科書ｐ.126～129を読んでおく。復習：公衆栄養活動の評価の具体例を交え、理解を深める。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第14回　栄養疫学	予習：教科書ｐ.92～99を読んでおく。疫学を復習の上、受講する。復習：個人内変動、個人間変動、総エネルギー調整栄養素摂取量について確認する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第15回　公衆栄養プログラムの展開	予習：第8回～第14回のポイントを確認しておく。復習：これまでの授業で学習したことを交えて復習する。（※）「履修上の注意」③を参照のこと。
第16回　期末試験	第8回～第15回の授業内容の修得状況を点検する。

■ 履修上の注意

①遅刻は、始業時から15分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。
②都合により、授業の順序を変更する場合もある。
③自習（事前・事後学修の内容）の具体的な内容（教科書、プリントなどの資料の該当箇所など）については、授業の際に詳しく説明する。
④本科目の単位を取得できないと、「公衆栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。
⑤本科目は卒業必修科目である。

■ 成績評価方法・基準

・ミニテスト（40%）、期末試験（50%）、受講態度（10%）で成績評価を行う。
※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業中の私語や授業と関係ない行為を行うなど、受講態度に問題のある者は状況に応じて減点する。
・提出物、試験については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

〔公衆栄養学〕〔荒巻礼子ほか〕〔化学同人〕〔2，600円〕

■ 参考書

なし。授業内で適宜紹介する。

■ 備考

質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受付ける。

公衆栄養学実習

(11253)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（45 + 15）
対象学科：健専３年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄

■ 授業の概要

本実習では、「公衆栄養学」で学習した内容をもとに、保健所や市町村保健センターの行政栄養士、地域での健康・栄養活動に携わる管理栄養士や栄養士が扱う健康や栄養に関する事業を中心に、公衆栄養活動を展開する上で必要な知識や手法を教授する。具体的には、公衆栄養活動の企画から評価までの一連の流れ、地域住民へのポピュレーションアプローチの実際などを扱う。
本実習の内容は、公衆栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱでの実践活動に結びつくものである。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・公衆栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。 ・ポピュレーションアプローチについて理解する。 ・公衆栄養活動の企画から評価までの流れを理解する。	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　公衆栄養活動とは？　（１）保健所、市町村保健センターの役割	教科書ｐ.44を復習しておく。公衆栄養活動の現場の役割について、事例で扱った内用を確認する。
第２回　公衆栄養活動とは？　（２）行政栄養士の役割	教科書ｐ.42　表3.1より行政栄養士の役割を復習しておく。課題を通じて、行政栄養士の役割を理解する。
第３回　健康問題に関する状況判断の実際	状況判断の際、自分の考えを発表することと同時に、他の人の考えをじっくり聴くことが大事であることを理解する。状況判断の際、さまざまなものの見方、考え方があることを理解する。
第４回　地方自治体の健康増進計画について	教科書ｐ.68～74　健康日本21（第二次）、ｐ.77　都道府県健康増進計画を復習の上、受講する。都道府県が抱える健康問題について、課題と対応を検索する。そのうえで、対策について考える。
第５回　地方自治体の公衆栄養・公衆衛生活動の実際	第1，2，4回の実習内容とあわせて、理解を深める。実習で扱う事例を通じて、活動の展開で必要な点を検討する。
第６回　食生活改善に関する実習　（１）課題の提示、事業の企画	教科書「第5章」を復習しておく。第6回以降に共通する内容である。 実習を通じて、PDCAサイクルの「計画」について扱う内容を確認する。
第７回　食生活改善に関する実習　（２）企画書・栄養教育用リーフレットの作成	第6回の作業状況を確認する。復習として、企画書とリーフレットの作成に必要な公的情報の内容を点検する。
第８回　地域住民の健康増進に関する活動　（１）課題提示、情報検索	地域住民の健康課題の対策について考える。復習として、各自が考えた活動内容が、実現可能なものであるかを確認する。
第９回　食生活改善に関する実習　（３）企画書の説明・栄養教育の準備	第7回の作業状況を確認する。復習として、企画書の内容と栄養教育の内容、リーフレットの内容に矛盾がないか振り返る。
第10回　食生活改善に関する実習　（４）企画書の説明・栄養教育、評価	第9回の内容を確認する。復習として、PDCAサイクルの「実施」で必要なことの確認を行う。
第11回　食生活改善に関する実習　（５）企画書、栄養教育の見直し、修正作業	第10回の内容を確認する。復習として、PDCAサイクルの「評価」について重要な点を確認する。
第12回　地域住民の健康増進に関する活動　（２）発表、まとめ	第8回の作業内容を確認する。復習として、発表で気づいたこと、他の人の発表から学んだこと、自分の考えに生かせる点などを確認する。

第13回	食生活改善に関する実習	（６）企画書、栄養教育用リーフレットの修正作業、説明・発表の準備	第11回の作業状況を確認する。復習として、企画書の内容と栄養教育の内容、リーフレットの内容に矛盾がないか振り返る。
第14回	食生活改善に関する実習	（７）企画書の説明・栄養教育（2回目）、評価	第13回の内容を確認する。復習として、PDCAサイクルの「実施」で必要なことの確認を行う。
第15回	食生活改善に関する実習	(8) 企画書、栄養教育（2回目）の振り返り、まとめ	第14回の内容を確認する。復習として、2回めの「評価」で良かった点、改善すると良くなる点を確認する。

■ 履修上の注意

①遅刻は、始業時から30分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。
②内容によっては実習時間外、集中講義期間等に行うものもある。
③新型コロナウイルス感染症の状況、台風の接近や地震の発生など、やむを得ない場合、遠隔授業で行う場合もある。
④本科目の単位を取得できないと、「公衆栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱ」を履修できない。
⑤本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格、栄養士免許を取得できない。

■ 成績評価方法・基準

・グループワークでの作業状況（40%）、提出物（50%）、受講態度（10%）で成績評価を行う。
※受講態度については、①遅刻が多い、②実習と関係ない行為を行うなどの問題がある場合、状況に応じて減点する。
・提出物については、後日フィードバックを行う。

■ 教科書

〔公衆栄養学〕〔荒牧礼子ほか〕〔化学同人〕〔2，600円〕

■ 参考書

なし。授業内で適宜紹介する。

■ 備考

質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日、時間は掲示で確認）にて受付ける。

地域栄養活動演習Ⅰ

(11254)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（30 + 15）
対象学科：健専４年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄

■ 授業の概要

本演習では、「公衆栄養学」や「公衆衛生学」等で学習した人間の生活圏である地域、市町村、都道府県のレベルを中心に、そこで展開される「地域栄養活動」に関して、以下の点を扱う。
【１】地域における健康面や栄養面、食生活に関する事例や課題より、現状や問題点を把握する。その上で、対策や関連する政策などについて、食生活や栄養摂取、栄養改善の視点から検討する。
【２】後期の大学祭において、本演習に関する内容の展示・情報発信を行う。その企画、準備を行う。
【３】「地域栄養活動」に関連する時事問題について解説する。

■ 授業の到達目標

・地域が抱える健康・栄養に関する課題の対処方法、解決方法を身につける。
・地域栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　「食生活改善に関する実習」の振り返り	「公衆栄養学実習」で扱った「食生活改善に関する実習」を振り返り、活動を展開する際に必要な社会資源などについて確認する。
第２回　地域栄養活動の企画①：大学祭での展示・情報発信について	過去に行った活動をもとに、発信すべき情報や内容を検討する。
第３回　若年者への食に関する情報発信①：事例紹介	授業で扱った事例について、活動を行う上での課題、検討すべき点を考える。
第４回　地域社会における健康・栄養に関する現状と問題点の把握	教科書ｐ.66～76　健康日本21（第二次）を復習しておく。授業を通じて、日本の健康・栄養に関する現状と問題点について復習、確認する。
第５回　地域栄養活動に必要な社会的源、マンパワーについて	教科書ｐ.126～128　地域社会資源、プログラムに関連する関係者・機関の役割について復習する。授業内容より、各種マンパワーの役割、栄養士や管理栄養士との関わりについて学習する。
第６回　地域栄養活動の企画②：大学祭での展示・情報発信の内容について	第2回～第5回の授業内容を踏まえ、ポピュレーションアプローチにつながる内容を検討する。
第７回　公衆栄養・公衆衛生関係の時事問題①：SDGsの17のゴールについて	教科書ｐ.84～85でSDGsの17のゴールが扱う内容を復習しておく。授業を通じて、SDGｓの事例と17のゴールとの関係、今後の課題等について考える。
第８回　公衆栄養・公衆衛生関係の時事問題②：健康面、栄養面に関する最新情報の紹介	授業で扱った事例を通じて、今後の課題や対策等について検討する。
第９回　地域栄養活動の企画③：大学祭での展示・情報発信の内容の確認	第6回授業の内容を振り返り、発信する情報の信用性、問題点などを確認する。
第10回　日本栄養士会「全国栄養士大会」への参加①：ガイダンス	大会の開催の目的を確認し、管理栄養士・栄養士が現場で活動する際に必要な知識、情報などを把握する。
第11回　日本栄養士会「全国栄養士大会」への参加②：オンライン講演の受講	講演内容より、管理栄養士・栄養士が活動する際に必要な知識、情報などを修得する。
第12回　若年者への食に関する情報発信②：地域栄養活動の展開事例	教科書「第6章」を読み、公衆栄養プログラムの展開について確認する。授業での事例を通じて、地域栄養活動の展開方法について理解を深める。
第13回　若年者への食に関する情報発信③：ニュースペーパーの内容検討	情報発信源となるニュースペーパーの内容について考える。
第14回　地域栄養活動の企画④：大学祭での展示・情報発信の準備	第9回授業の内容をもとに、発信する情報のまとめ方、発信方法の問題点を確認する。

第15回　地域栄養活動の企画⑤：大学祭での展示・情報発信の準備・確認	第14回授業で取り組んだ内容について、内容の確認、改善点の対応を行う。

■ 履修上の注意

①遅刻は、始業時から15分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。
②状況等により、授業の順序を変更する場合がある。
③内容によっては授業時間外、集中講義期間等に行うものもある。
④本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格を取得できない。

■ 成績評価方法・基準

・提出物（課題、ミニットペーパー等）（60%）、受講態度（40%）を総合して、成績評価を行う。
※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③演習中に演習とは関係ない行為を行うなど、問題のある者は、状況に応じて減点する。
・提出物については、後日フィードバックを行う。

■ 教科書

〔公衆栄養学〕〔荒牧礼子ほか〕〔化学同人〕〔2，600円〕

■ 参考書

なし。授業内で適宜紹介する。

■ 備考

質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受付ける。

地域栄養活動演習Ⅱ

(11255)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（30 + 15）
対象学科：健専４年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄

■ 授業の概要
本演習では、「公衆栄養学」、「公衆衛生学」、「地域栄養活動演習Ⅰ」等で学習した人間の生活圏である地域、市町村、都道府県のレベルを中心に、そこで展開される「地域栄養活動」に関して、以下の点を扱う。
【１】地域における健康面や栄養面、食生活に関する事例や課題について対策を検討し、その内容を大学祭において展示・情報発信する。
【２】「地域栄養活動」に関連する時事問題について解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・地域が抱える健康・栄養に関する課題の対処方法、解決方法を身につける。②	
・地域栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　地域栄養活動の展開①：大学祭での展示・情報発信の内容確認、準備	地域栄養活動演習Ⅰで学習した内容を踏まえ、活動の実施について検討する。具体的には、大学祭での展示・情報発信を検討し、準備する。
第２回　健康づくりに関する普及・啓発活動①：キャッチコピーの作成	作業を通じて、健康に関する情報発信の効果的な方法について考える。
第３回　健康づくりに関する普及・啓発活動②：キャッチコピーの発表、まとめ	発表を通じて、健康に関する情報発信のポイントを学習する。
第４回　地域栄養活動の展開②：大学祭の会場の設営	会場設営を通じて、効果的な展示・情報発信を考える。
第５回　地域栄養活動の展開③：大学祭会場での展示・情報発信	来場者への対応、来場者の反応より、健康や栄養に関する情報発信の効果、改善点などを把握する。
第６回　地域栄養活動の展開④：大学祭での活動の振り返り、評価	大学祭での活動を振り返り、活動全体の評価を行う。評価を通じて、今後対応すべき点を検討する。
第７回　日本栄養士会「全国栄養士大会」振り返り	各自が修得した内容を共有し、管理栄養士・栄養士に必要な知識、情報などについて考える。
第８回　若年者への食に関する情報発信①：ニュースペーパーの作成	「地域栄養活動演習Ⅰ」で企画したニュースペーパーの作成を通じて、第三者が理解しやすい情報について模索する。
第９回　国民健康・栄養調査①：最近の動向について	授業を通じて、日本人の栄養面、健康面の現状について把握、確認する。
第10回　国民健康・栄養調査②：所得との関連性	授業を通じて、日本人の健康面や栄養面、食生活と所得との関係について理解する。
第11回　若年者への食に関する情報発信②：ニュースペーパーの発表、講評（１）	発表、講評を通じて、各自ニュースペーパーの内容の長所、改善点を把握する。
第12回　若年者への食に関する情報発信③：ニュースペーパーの発表、講評（２）（第11回授業のつづき）	発表、講評を通じて、各自ニュースペーパーの内容の長所、改善点を把握する。
第13回　各種組織・団体による地域栄養活動の展開について①：食品関係の企業・団体	教科書.126　地域社会資源を復習しておく。授業で取り上げる事例より、食品関係の企業・団体による活動の展開について理解する。
第14回　各種組織・団体による地域栄養活動の展開について②：健康関係の企業・団体	教科書.126　地域社会資源を復習しておく。授業で取り上げる事例より、健康関係の企業・団体による活動の展開について理解する。
第15回　地域栄養活動の今後について	学習した内容をもとに、地域栄養活動の今後について考える。

■ 履修上の注意
①遅刻は、始業時から15分以内とする。それを越えた場合は原則「欠席」とする。ただし、通学時の事故等、やむを得ない理由の場合は考慮するので、必ず教員に申告すること。
②内容によっては授業時間外、集中講義期間等に行うものもある。
③状況等により、授業の順序を変更する場合がある。
④本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格を取得できない。

■ 成績評価方法・基準
・提出物（課題、ミニットペーパー等（60%）、受講態度（40%）を総合して、成績評価を行う。
※受講態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③演習中に演習とは関係ない行為を行うなど、問題のある者は、状況に応じて減点する。
・提出物については、後日フィードバックを行う。

■ 教科書
〔公衆栄養学〕〔荒牧礼子ほか〕〔化学同人〕〔2，600円〕

■ 参考書
なし。授業内で紹介する。

■ 備考
質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受付ける。

給食管理学

(11256)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鴫　原　美智子

■ 授業の概要

健康増進法に定める特定給食施設の給食管理の意義・目的を理解し、栄養・食事アセスメントできるよう食事計画の基礎を学び、衛生面から総合的なマネジメントできる能力を養うことを目的とする。特定給食施設における利用者の身体の状況、栄養状態、生活習慣などに基づいた食事の提供に関わる栄養・食事管理について理解し、大量調理の特性を踏まえた生産管理が説明できる。小中学校・学校給食センターでの学校栄養職員としての経験を生かし、給食管理・衛生管理等において、実態を踏まえた指導を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・給食施設を運営するための基礎知識を、栄養士・管理栄養士業務に応用できる知識・技術として活用できる。 ・給食施設が所属する組織について運営管理方法について理解する。 ・衛生管理するたために知識を身につけ、臨地実習につなげる。	0.3 0.1 0.3 0.1 0.2

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス　給食管理の概念	教科書の第1章p2～13予習・復習する。
第２回　栄養・食事管理①：栄養・食事管理の概念、栄養・食事アセスメント	教科書の第3章p30～32を予習・復習する。
第３回　栄養・食事管理②：栄養・食事計画、栄養・食事計画の実施	教科書の第3章p33～49を予習・復習する。
第４回　給食の品質：給食の品質の標準化	教科書の第4章p52～62を予習・復習する。
第５回　給食の安全・衛生①：安全・衛生管理の概要、給食の安全・衛生の実際	教科書の第6章p122～136を予習・復習する。
第６回　給食の安全・衛生②：事故・災害時対策、大量調理施設管理マニュアル	教科書の第6章p139～147を予習・復習する。 大量調理施設管理マニュアルを熟読する。
第７回　施設・設備管理：生産施設・設備設計、食事環境の設計と設備	教科書の第7章p152～174を予習・復習する。
第８回　施設別給食管理①：病院 ミニテスト	教科書の第9章p190～197を予習・復習する。
第９回　施設別給食管理②：高齢者・介護保険施設	教科書の第9章p198～204を予習・復習する。
第10回　施設別給食管理③：児童福祉施設	教科書の第9章p205～209を予習・復習する。
第11回　施設別給食管理④：障がい者施設	教科書の第9章p210～211を予習・復習する。
第12回　施設別給食管理⑤：学校給食	教科書の第9章p212～223を予習・復習する。
第13回　施設別給食管理⑥：事業所給食	教科書の第9章p224～226を予習・復習する。
第14回　施設別給食管理⑦：事業所給食、外食・中食・配食 ミニテスト	教科書の第9章p227～228を予習・復習する。
第15回　まとめ　給食における評価と改善	教科書の内容をまとめ復習する。

■ 履修上の注意

給食経営管理業務に必要なマネジメント能力等を身につけるため、講義と演習を組合せて行う。
知識・技能理解のために小テストと課題、演習を必要に応じ実施する。

■ 成績評価方法・基準

受講態度（授業への積極的参加状況など）50%、課題（ノート）30%、ミニテスト20%で評価。課題の未提出、ミニテスト欠席の場合は評価しない。ミニテストについては後日で返却し、復習する。課題については、後日フィードバックを行う。

■ 教科書

［給食経営と管理の科学］［井川聡子ほか］［理工図書］[3，300円]

■ 参考書

〔給食経営管理用語辞典〕〔日本給食経営管理学会監修〕〔第一出版〕[2，750円]［調理のためのベーシックデータ第6版］［女子栄養大学出版］[2，200円]、［日本人の食事摂取基準（2020年版）］［第一出版］[3，080円]、［日本標準食品成分表八訂版］［女子栄養大学出版部］[1，650円]

■ 備考
質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

給食経営学

(11257)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鴫　原　美智子

■ 授業の概要

特定多数人に対して栄養・食事管理に必要な知識と、給食業務を円滑に管理・経営するための基本な知識と技術（方法）について，小中学校・学校給食センターでの学校栄養職員としての経験を生かし講義する。また、栄養・食事管理およびサービスを運営するために必要な資源や情報とそれをマネジメントするために必要な生産（調理）の理論や手法について理解し、活用できるように解説する。：給食施設における特定多数の人々の栄養管理を，効率的かつ効果的に継続して実施していくためのシステムおよびマネジメントについて，経営管理の理論に基づき習得する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・栄養･食事管理及びサービスを運営するために必要な資源や情報とそれをマネジメントするために必要な生産（調理）の理論や手法について理解し、活用できるように解説する。 ・給食経営管理業務に必要なマネジメント能力等を身につける。 ・給食を運営する上で必要な知識や技術を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス　給食の経営管理の概念①：経営管理の概念、給食とマーケティング	教科書の第2章p16～予習・復習する。
第２回　給食の経営管理の概念②：給食経営と組織、給食経営管理の評価	教科書の第2章p22～予習・復習する。
第３回　給食の生産①：原価、食材	教科書の第5章p66～予習・復習する。
第４回　給食の生産②：生産（調理と提供）	教科書の第5章p87～予習・復習する。
第５回　給食施設の特徴と管理栄養士の役割・関連法規①特定給食施設に関わる法規	教科書の参考資料P234～を予習・復習する。
第６回　給食施設の特徴と管理栄養士の役割・関連法規②	教科書の参考資料P146を予習・復習する。
第７回　給食の人事・事務①：給食業務従事者の雇用形態、教育・訓練、能力開発、能力評価	教科書の第8章p178～を予習・復習する。
第８回　給食の人事・事務②：給食業務で必要な帳票名やその役割、記入項目	教科書の第8章p187～を予習・復習する。
第９回　給食の安全・衛生①：安全・衛生の概要	教科書の第6章p122～を予習・復習する。
第10回　給食の安全・衛生②：給食施設のHACCPシステム、大量調理施設衛生管理マニュアル	教科書の第6章p129～を予習・復習する。
第11回　給食の安全・衛生③：事故・災害時対策 ミニテスト	教科書の第6章p139～を予習・復習する。
第12回　給食のシステム①　給食システムの種類と特性	教科書の第１章p6～予習・復習する。
第13回　給食のシステム②　トータルシステムとサブシステム	教科書の第１章p7～予習・復習する。
第14回　給食の生産③：給食の原価、損益分岐点、	教科書の第5章p70～予習・復習する。
第15回　まとめ　給食における評価と改善	教科書の内容をまとめ復習する。

■ 履修上の注意

管理栄養士としての企画力、マネジメント能力、適切な評価などに適応できるよう積極的に学び、自ら考えながら受講すること。

■ 成績評価方法・基準

受講態度（授業への積極的参加状況など）50%、課題30%、ミニテスト20%で評価。課題の未提出、ミニテスト欠席の場合は評価しない。ミニテストについては後日で返却し、復習する。課題については、後日フィードバックを行う。

■ 教科書

［給食経営と管理の科学］［井川聡子ほか］［理工図書］[3，300円]

■ 参考書

〔給食経営管理用語辞典〕〔日本給食経営管理学会監修〕〔第一出版〕[2，750円]

［調理のためのベーシックデータ第6版］［女子栄養大学出版］［2，200円］
［日本人の食事摂取基準（2020年版）］［第一出版］［3，080円］
［日本標準食品成分表八訂版］［女子栄養大学出版部］［1，650円］

■ 備考
質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

給食管理実習Ⅰ

(11258)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（45 + 45）
対象学科：健専２年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：必修
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鴫　原　美智子

■ 授業の概要
特定給食施設の基準に基づき、学内で学んだ栄養学、調理学、衛生学などの基礎知識を活かして、学生・教職員を対象とした100食以上の給食の運営方法、計画のたて方、栄養・食事管理、作業管理、衛生管理、品質管理、事務管理、大量調理、評価までをPDCAサイクルに準じて実施し、給食に関する知識及び技能を習得することを目的とする。小中学校・学校給食センターでの学校栄養職員としての経験を生かし、給食管理・栄養指導・衛生管理等において、実態を踏まえた指導を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
		0.1	0.1	0.1	0.2		0.4	0.1	
・特定給食施設における給食の運営・給食経営管理能力を身につける。 ・給食運営のPDCAサイクルについて基礎的な内容を理解し、対象集団の食事の計画と提供のための技能を身につける。 ・栄養面・安全面・経済面を統合したマネジメントを理解し自ら実行できる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　第１回 オリエンテーション 実習の意義・目的・内容・日程・役割分担、給食業務の流れ	［給食管理・経営管理実習の手引き］Ｐ．６～Ｐ．３０を熟読してくること
第２回　第２回 食事管理：対象集団の栄養アセスメント、給与栄養目標量、食品群別荷重平均成分表の作成 大量調理マニュアルテスト	次週まで完成品で持参すること
第３回　第３回 献立計画：栄養食事計画に基づいた献立作成 作業計画：調理行程・調理作業計画の作成 試作：実際に調理したものを評価し、実習に備える	次週まで完成品で持参すること
第４回　第４回 衛生管理・品質管理計画：試作、検討、各種書類作成 材料管理：食材料の購入計画書作成	次週まで完成品で持参すること
第５回　第５回～第１２回 ○食事提供サービス ・栄養士班・調理師班・衛生班に役割を分担し、業務を交代で実習する。 ・栄養士班役割：検収、調理指導、味付け決定、盛り付け指導、指導媒体の作成、点検表の記録、材料費の算出、帳票整理など。掲示用献立表作成、アンケート用紙作成、アンケート集計。終了後、実際に調理作業従事した立場から、評価を行う。 ・調理師班役割：栄養士班の指示に従い、下処理、裁断、調理、供食サービス、後片付け、清掃、食器洗浄作業などを行う。終了後、実際に調理作業従事した立場から、評価を行う。 ・衛生班の役割:大量調理マニュアルに従って、後片付け、清掃を行う。実際に従事した立場から、評価を行う。	・大量調理施設衛生管理マニュアル、授業時配布の資料、教科書の内容を完全に習得してくること。 ・グループ内で献立表・作業工程表を確認し、シュミレーションをしてから実習に臨むこと。 ・積極的に他者とコミュニケーションをとり、スムーズな実習を行うこと。
第６回　第13回 報告会準備（反省、評価、まとめ）、施設・機器管理：機材の整備	実習プリントのまとめをしっかり行い、実習内容の理解を深め、報告会に臨むこと。
第７回　第１４回 報告会（反省、評価、まとめ）	実習プリントのまとめをしっかり行い、実習内容の理解を深め、報告会に臨むこと。
第８回　第１５回 期末テスト・給食実習について（学外講師）	大量調理マニュアル及び予定献立表・作業工程表・作業動線図、その他帳票について理解を深めてくこと。

■ 履修上の注意
①食品構成表・給与栄養目標量から季節ごとの献立作成・栄養価計算ができること。
②大量調理施設衛生管理マニュアルを完全に習得していること。
③グループ内で報告、連絡、相談をしっかり行い、常にコミュニケーションを図ること。
④プリント等を事前に配布するので、各自ファイリングし、実習に活用できるようにしておく。

■ 成績評価方法・基準
期末試験（30%）、学習意欲及び積極的な態度（30%）、課題提出（10%）、実習プリント完成度（30%）
※提出物は時間厳守とし、未提出の場合は評価の対象としない。授業態度不良、期末試験欠席の場合、単位は認めない。
・課題、実習プリントは、後日添削して返却する。・期末テストについては、解答を授業中にフィードバックする。

■ 教科書
［給食管理・経営管理実習の手引き5版］［西川貴子他］［医歯薬出版］[2，310円]
［給食経営と管理の科学］［井川聡子ほか］［理工図書］[3，300円]

■ 参考書
〔給食経営管理用語辞典〕〔日本給食経営管理学会監修〕〔第一出版〕[2，750円]
［調理のためのベーシックデータ第6版］[女子栄養大学出版］[2，200円]
［日本人の食事摂取基準（2020年版）］［第一出版］[3，080円]
［日本標準食品成分表八訂版］［女子栄養大学出版部］[1，650円]

■ 備考
質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

給食管理実習Ⅱ

(11259)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（45 + 45）
対象学科：健専２年
授業形態：実習　学期：後期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鴫　原　美智子

■ 授業の概要
特定給食施設でのフードマネジメントに必要な管理栄養士としての知識や能力を実践することで修得することを目的とする実習である。小中学校・学校給食センターでの学校栄養職員としての経験を生かし、給食管理・栄養指導・衛生管理等において、実態を踏まえた指導を行う。対象者に合った給食を１００食以上の提供をするため、グループ別に役割を分担し給食運営を行う。「栄養・食事管理」「大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生管理」「作業管理」「原価管理」「施設・設備管理」などを実践で学ぶ。実習の計画（Plan）から、実施（Do）、検証（Check）、改善（Act）に至るすべてを学生自身が進める。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連								
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
		0.1	0.1	0.1	0.2		0.3	0.1	0.1
・給食の運営に必要な知識・技術・資質に気づき、管理栄養士の責務としてそれらの必要性が理解できる。 ・大量調理機器の取り扱い、大量調理の方法、衛生管理の実際について理解し、食事サービスや喫食時の栄養教食事サービスや喫食時の栄養教育を実践し、評価ができる。 ・物資の購入計画から管理、原価計算等を実践し、給食経営の実際について分かる。									

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　食事計画：対象者・喫食者数の把握	教科書Ｐ．６～Ｐ．３０を熟読してくること
第２回　食事計画：食品構成表の作成、予定献立表の作成	次週まで完成品で持参すること
第３回　栄養教育計画：栄養教育媒体・アンケート調査内容計画の作成 衛生管理計画：各種帳票作成・大量調理マニュアルに関するテスト	次週まで完成品で持参すること
第４回　品質管理計画：各種帳票作成 食材料の発注、計画内容の確認、計画発表	次週まで完成品で持参すること
第５回　調理供食サービス①各班による献立および作業工程・発注　衛生管理・指導媒体の検討	・食品構成表・給与栄養目標量から献立作成ができること。 ・授業時配布の資料、教科書の内容、「大量調理施設衛生管理マニュアル」を完全に習得してくること。 ・グループ内で献立表・作業工程表を確認し、自ら動けるようにしてくること。
第６回　調理供食サービス②各班による献立および作業工程・発注　衛生管理・指導媒体の検討	・食品構成表・給与栄養目標量から献立作成ができること。 ・授業時配布の資料、教科書の内容、「大量調理施設衛生管理マニュアル」を完全に習得してくること。 ・グループ内で献立表・作業工程表を確認し、自ら動けるようにしてくること。
第７回　調理供食サービス③各班による献立および作業工程・発注　衛生管理・指導媒体の検討	・食品構成表・給与栄養目標量から献立作成ができること。 ・授業時配布の資料、教科書の内容、「大量調理施設衛生管理マニュアル」を完全に習得してくること。 ・グループ内で献立表・作業工程表を確認し、自ら動けるようにしてくること。
第８回　調理供食サービス④各班による献立および作業工程・発注　衛生管理・指導媒体の検討	・食品構成表・給与栄養目標量から献立作成ができること。 ・授業時配布の資料、教科書の内容、「大量調理施設衛生管理マニュアル」を完全に習得してくる

		こと。 ・グループ内で献立表・作業工程表を確認し、自ら動けるようにしてくること。
第９回	調理供食サービス⑤各班による献立および作業工程・発注　衛生管理・指導媒体の検討	・食品構成表・給与栄養目標量から献立作成ができること。 ・授業時配布の資料、教科書の内容、「大量調理施設衛生管理マニュアル」を完全に習得してくること。 ・グループ内で献立表・作業工程表を確認し、自ら動けるようにしてくること。
第10回	調理供食サービス⑥各班による献立および作業工程・発注　衛生管理・指導媒体の検討	・食品構成表・給与栄養目標量から献立作成ができること。 ・授業時配布の資料、教科書の内容、「大量調理施設衛生管理マニュアル」を完全に習得してくること。 ・グループ内で献立表・作業工程表を確認し、自ら動けるようにしてくること。
第11回	調理供食サービス⑦各班による献立および作業工程・発注　衛生管理・指導媒体の検討	・食品構成表・給与栄養目標量から献立作成ができること。 ・授業時配布の資料、教科書の内容、「大量調理施設衛生管理マニュアル」を完全に習得してくること。 ・グループ内で献立表・作業工程表を確認し、自ら動けるようにしてくること。
第12回	調理供食サービス⑧各班による帳票の書き込み、アンケート集計　仕上げ	・食品構成表・給与栄養目標量から献立作成ができること。 ・授業時配布の資料、教科書の内容、「大量調理施設衛生管理マニュアル」を完全に習得してくること。 ・グループ内で献立表・作業工程表を確認し、自ら動けるようにしてくること。
第13回	給食の情報処理と事務管理（クックチルの給食、災害時の給食、冷凍食品の流通）	実習のまとめをしっかり行い実習プリントを仕上げ、実習内容の理解を深めること。
第14回	報告会（反省、評価、まとめ）	実習のまとめをしっかり行い実習プリントを仕上げ、実習内容の理解を深めること。
第15回	期末テスト・給食実習について（外部講師）	大量調理マニュアル及び予定献立表・作業工程表・作業動線図、その他帳票について理解を深めておくこと。

■ 履修上の注意

①指示されて行動するのではなく、自ら考えて行動できること。
②グループ内もしくはクラス内で報告、連絡、相談をしっかり行い、常にコミュニケーションが図れること。
③調理時は実習で定めた服装（非汚染地域・汚染地域を区別）、衛生については大量調理施設衛生管理マニュアル通りとする。体調管理には十分留意すること。実習当日、下痢・嘔吐・吐き気・手指にけが等ある場合は速やかに担当教員に申し出ること。
④分からないことは必ず確認し、勝手な行動はしないこと。

■ 成績評価方法・基準

・大量調理施設衛生管理マニュアルミニテスト（30%）、学習意欲及び積極的な態度（30%）、課題提出（10%）実習プリント完成度（30%）　授業態度不良、課題およびプリント未提出、大量調理施設衛生管理マニュアルミニテスト欠席の場合、単位は認めない。
・課題、実習プリントは、後日添削して返却する。

■ 教科書

［給食管理・経営管理実習の手引き5版］［西川貴子他］［医歯薬出版］[2，310円]
〔改訂新版　大量調理〕〔殿塚婦美子〕〔学建書院〕[2，970円]

■ 参考書

〔給食経営管理用語辞典〕〔日本給食経営管理学会監修〕〔第一出版〕[2，750円]
［調理のためのベーシックデータ第6版］[女子栄養大学出版]［2，200円］

［日本人の食事摂取基準（2020年版）］［第一出版］[3，080円]
［日本標準食品成分表八訂版］［女子栄養大学出版部］[1，650円]

■ 備考
質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。
食物アレルギーがある場合は担当教員まで速やかに申し出ること。

健康栄養学総合演習Ⅰ

(11260)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：健専３年
授業形態：演習　学期：前期　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鴫　原　美智子　　栗　山　孝　雄　　髙　橋　　文

■ 授業の概要

・3年次における給食管理臨地実習Ⅰ・Ⅱをおこなうための事前指導の授業である。
・校外実習や臨地実習の目的・目標・実習内容・実習の心構え・事前学習　等を教授する。
・実習記録の記入のしかた、適切な文章表現、社会人としての話し方、マナーについて教授する。
・実習施設の栄養士・管理栄養士の講義では、各給食施設の概要や実習に必要な知識などを説明する。
・さまざまな給食施設における栄養士・管理栄養士の職務について教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・実習に必要な知識や技術が身につくようになる。 ・給食施設の特徴を理解できるようになる。 ・給食施設の管理栄養士・栄養士の業務と役割を理解できるようになる 。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　実習の目的・目標・実習内容・準備・心得・態度（全教員）	授業のポイントを復習し、理解する。
第２回　実習関係の書類、日誌の記入方法について（全教員）	授業のポイントを復習し、理解する。
第３回　会話表現①：話し方・挨拶の基本、敬語の使い方、自己紹介の仕方（全教員）	授業のポイントを復習し、理解する。
第４回　会話表現②：社会人としての話し方、栄養指導での話し方、電話のマナー（全教員）	授業のポイントを復習し、理解する。
第５回　文章表現①：文章作成上の留意事項、基本的な書き方（全教員）	授業のポイントを復習し、理解する。
第６回　文章表現②：実習日誌の書き方、礼状の書き方、レポートの書き方、給食だよりの書き方（全教員）	授業のポイントを復習し、理解する。
第７回　実習施設の概要、実習内容の確認（全教員）	施設の概要、実習に必要な知識の整理、研究課題について予習、復習を行う。
第８回　施設事例①：障がい者施設の実際と栄養士の職務（学外講師）（全教員）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる。 ・講話をレポートにまとめ次週に提出する。
第９回　施設事例②：高齢者施設の実際と栄養士の職務（学外講師）（全教員）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる。 ・講話をレポートにまとめ次週に提出する。
第10回　施設事例③：自衛隊給食の実際と栄養士の職務（学外講師）（全教員）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる。 ・講話をレポートにまとめ次週に提出する。
第11回　施設事例④：事業所給食の実際と栄養士の職務（学外講師）（全教員）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる。 ・講話をレポートにまとめ次週に提出する。
第12回　施設事例⑤：委託給食の実際と栄養士の職務（学外講師）（全教員）	・施設の給食の目的、関連法規を理解してくる。 ・講話をレポートにまとめ次週に提出する。
第13回　実習のねらいや課題、疑問等の事前準備　（全教員）	授業のポイントを確認する。
第14回　実習のまとめと資料作成　（全教員）	学内で学習したことと、臨地実習で経験したことを結び付け、今後の課題を検討する。
第15回　報告会準備（全教員）	学内で学習したことと、臨地実習で経験したことを結び付け、今後の課題を検討する。

■ 履修上の注意

①本科目は、給食管理臨地実習Ⅰ・Ⅱの事前学習、事後学習の役割も担う。
②各実習の実習目的、目標と関連法規を理解してから授業に臨むこと。
③臨地実習の事前準備、事後のまとめに重要な演習であるため真剣に取り組むこと。
④遅刻・無断欠席がないよう注意する。
⑤施設事例の特別講義を欠席した場合は、病気の罹患や入院等、やむを得ない事由でない限り、実習を辞退したものとみなす。
　なお、やむを得ない事由で欠席する際は、必ず教員または助手室に連絡を入れること。

■ 成績評価方法・基準
・出欠状況と受講態度（質問など積極的な態度、目的意識、遅刻、無断欠席、受講中に居眠りしない等）50%、提出物（決められた日時まで必ず提出すること。未提出の場合は、評価の対象としない。）50%などにより総合的に評価する。
・提出物については、後日フィードバックする。

■ 教科書
〔臨地実習テキスト〕〔大学オリジナル〕〔無料〕
[管理栄養士・栄養士になるための　国語表現]〔田上貞一郎〕〔萌文書院〕〔1，944円〕

■ 参考書
なし。適時紹介する。

■ 備考
質問等については、各授業の担当教員に授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で受付ける。

健康栄養学総合演習Ⅱ

(11261)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：健専３年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄　　川　俣　幸　一　　髙　橋　　文　　鴫　原　美智子

■ 授業の概要

本演習では、これまでに学習した健康の維持・増進、食生活の現状や栄養摂取状況の把握と改善などに関する内容を踏まえ、人間の健康面や栄養面の課題の把握、確認、対応について扱う。具体的には、人間の健康面や栄養面に関する課題を提示し、情報検索や意見交換などを交え、まとめる技法を教授する。本演習を通じて、管理栄養士が業務を行う上で必要な能力、技術の獲得を目指す。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・健康や栄養に関する調査、測定、教育の方法を身につける。 ・栄養評価や栄養教育に関する能力、技術を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：演習内容の説明（全教員） 健康面・栄養面の課題①　臨床栄養学：課題提示（髙橋）	ガイダンスで、演習で扱う課題について解明すべき点を検討する。臨床栄養学に関する課題の提示を受け、これまでに学習した内容の確認、知識の整理を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第２回　健康面・栄養面の課題②　臨床栄養学：情報検索（髙橋）	予習：臨床栄養学に関する課題について情報検索を行う。復習：授業内容を確認し、課題解決への流れ、疑問点を確認する。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第３回　健康面・栄養面の課題③　臨床栄養学：まとめ（髙橋）	予習：前回までの学習内容を確認する。復習：授業内容を確認し、理解したこと、今後の課題を確認する。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第４回　健康面・栄養面の課題④　応用栄養学：課題提示（川俣）	応用栄養学に関する課題の提示を受け、これまでに学習した内容の確認、知識の整理を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第５回　健康面・栄養面の課題⑤　応用栄養学：情報検索（川俣）	予習：応用栄養学に関する課題について情報検索を行う。復習：授業内容を確認し、課題解決への流れ、疑問点を確認する。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第６回　健康面・栄養面の課題⑥　応用栄養学：まとめ（川俣）	予習：前回までの学習内容を確認する。復習：授業内容を確認し、理解したこと、今後の課題を確認する。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第７回　健康面・栄養面の課題⑦　栄養教育論：課題提示（小野	栄養教育論に関する課題の提示を受け、これまでに学習した内容の確認、知識の整理を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第８回　健康面・栄養面の課題⑧　栄養教育論：情報検索（小野）	予習：栄養教育論に関する課題について情報検索を行う。復習：授業内容を確認し、課題解決への流れ、疑問点を確認する。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第９回　健康面・栄養面の課題⑨　栄養教育論：まとめ（小野）	予習：前回までの学習内容を確認する。復習：授業内容を確認し、理解したこと、今後の課題を確認する。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第10回　健康面・栄養面の課題⑩　公衆栄養学：課題提示（栗山）	公衆栄養学に関する課題の提示を受け、これまでに学習した内容の確認、知識の整理を行う。なお

	、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第11回　健康面・栄養面の課題⑪　公衆栄養学：情報検索（栗山）	予習：公衆栄養学に関する課題について情報検索を行う。復習：授業内容を確認し、課題解決への流れ、疑問点を確認する。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第12回　健康面・栄養面の課題⑫　公衆栄養学：まとめ（栗山）	予習：前回までの学習内容を確認する。復習：授業内容を確認し、理解したこと、今後の課題を確認する。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第13回　健康面・栄養面の課題⑬　給食経営管理論：課題提示（鴫原）	給食経営管理論に関する課題の提示を受け、これまでに学習した内容の確認、知識の整理を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第14回　健康面・栄養面の課題⑭　給食経営管理論：情報検索（鴫原）	予習：給食経営管理論に関する課題について情報検索を行う。復習：授業内容を確認し、課題解決への流れ、疑問点を確認する。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第15回　健康面・栄養面の課題⑮　給食経営管理論：まとめ（鴫原）	予習：前回までの学習内容を確認する。復習：授業内容を確認し、理解したこと、今後の課題を確認する。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。

■ 履修上の注意

・本科目は、管理栄養士養成課程の必修科目である。単位が取得できないと管理栄養士国家試験受験資格を取得できなくなる。

・開講時期の都合上、3年次で単位が取得できない場合、管理栄養士国家試験受験資格の取得は困難になる。

・都合により、担当教員の順序、授業内容が変更となる場合がある。

（※）授業で扱う内容については、担当教員からの指示をもとに予習、復習を行う。

■ 成績評価方法・基準

・授業態度50%、提出物50%等により、総合的に評価する。

※授業態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業に関係のない行為がみられるなど、態度に問題のある場合、状況に応じて減点する。

・提出物は、後日フィードバックを行う。

■ 教科書

なし。配布資料を準備する。

■ 参考書

授業内で適宜紹介する。

■ 備考

質問は担当教員の授業時間内、またはオフィスアワーで受け付ける。

健康栄養学総合演習Ⅲ

(11262)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（30 + 15）
対象学科：健専４年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄　　川　俣　幸　一　　髙　橋　　文　　鴫　原　美智子

■ 授業の概要

本演習では、これまでに学習した健康の維持・増進、食生活の現状や栄養摂取状況の把握と改善などに関する内容を踏まえ、人間の健康面や栄養面の課題の把握、確認、対応について扱う。具体的には、人間の健康面や栄養面に関する課題を提示し、事例や情報検索などを交え、対応するための技法を教授する。本演習を通じて、管理栄養士が業務を行う上で必要な能力、技術の獲得を目指す。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・健康や栄養に関する調査、測定、教育の方法を身につける。 ・栄養評価や栄養教育に関する能力、技術を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（全教員） 健康面・栄養面の課題と対応①　臨床栄養学：課題提示（髙橋）	ガイダンスで、演習で扱う課題について解明すべき点を検討する。臨床栄養学に関する課題の提示を受け、これまでに学習した内容の確認、知識の整理を行う。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第２回　健康面・栄養面の課題と対応②　臨床栄養学：情報検索（髙橋）	予習：臨床栄養学に関する課題について情報検索を行う。復習：授業内容を確認し、課題解決への流れ、疑問点を確認する。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第３回　健康面・栄養面の課題と対応③　臨床栄養学：まとめ（髙橋）	予習：前回までの学習内容を確認する。復習：授業内容を確認し、理解したこと、今後の課題を確認する。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第４回　健康面・栄養面の課題と対応④　栄養教育論：課題提示（小野）	臨床栄養学に関する課題の提示を受け、これまでに学習した内容の確認、知識の整理を行う。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第５回　健康面・栄養面の課題と対応⑤　栄養教育論：情報検索（小野）	予習：栄養教育論に関する課題について情報検索を行う。復習：授業内容を確認し、課題解決への流れ、疑問点を確認する。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第６回　健康面・栄養面の課題と対応⑥　栄養教育論：まとめ（小野）	予習：前回までの学習内容を確認する。復習：授業内容を確認し、理解したこと、今後の課題を確認する。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第７回　健康面・栄養面の課題と対応⑦　公衆栄養学：課題提示（栗山）	公衆栄養学に関する課題の提示を受け、これまでに学習した内容の確認、知識の整理を行う。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第８回　健康面・栄養面の課題と対応⑧　公衆栄養学：情報検索（栗山）	予習：公衆栄養学に関する課題について情報検索を行う。復習：授業内容を確認し、課題解決への流れ、疑問点を確認する。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第９回　健康面・栄養面の課題と対応⑨　公衆栄養学：まとめ（栗山）	予習：前回までの学習内容を確認する。復習：授業内容を確認し、理解したこと、今後の課題を確認する。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第10回　健康面・栄養面の課題と対応⑩　応用栄養学：課題提示（川俣）	応用栄養学に関する課題の提示を受け、これまでに学習した内容の確認、知識の整理を行う。なお

		、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第11回	健康面・栄養面の課題と対応⑪　応用栄養学：情報検索（川俣）	予習：応用栄養学に関する課題について情報検索を行う。復習：授業内容を確認し、課題解決への流れ、疑問点を確認する。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第12回	健康面・栄養面の課題と対応⑫　応用栄養学：まとめ（川俣）	予習：前回までの学習内容を確認する。復習：授業内容を確認し、理解したこと、今後の課題を確認する。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第13回	健康面・栄養面の課題と対応⑬　給食経営管理論：課題提示（鴫原）	給食経営管理論に関する課題の提示を受け、これまでに学習した内容の確認、知識の整理を行う。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第14回	健康面・栄養面の課題と対応⑭　給食経営管理論：情報検索（鴫原）	予習：給食経営管理論に関する課題について情報検索を行う。復習：授業内容を確認し、課題解決への流れ、疑問点を確認する。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第15回	健康面・栄養面の課題と対応⑮　給食経営管理論：まとめ（鴫原）	予習：前回までの学習内容を確認する。復習：授業内容を確認し、理解したこと、今後の課題を確認する。なお、具体的な内容については」履修上の注意」（※）を参照のこと。
第16回	試験	学習した内容を確認、復習のうえ、受験する。

■ 履修上の注意

・本科目は、管理栄養士養成課程の必修科目である。単位が取得できないと管理栄養士国家試験受験資格を取得できなくなる。

・都合により、担当教員の順序、授業内容が変更となる場合がある。

（※）授業で扱う内容については、担当教員からの指示をもとに予習、復習を行う。

■ 成績評価方法・基準

・授業態度20%、試験80%により、総合的に評価する。

※授業態度については、①遅刻が多い、②提出課題の提出期限を守らない、③授業に関係のない行為がみられるなど、態度に問題のある場合、状況に応じて減点する。

・試験は本試験のみ。追試験、再試験は疾病の罹患、入院、震災などの被災など、やむを得ない状況以外は行わない。

・提出物は、後日フィードバックを行う。

■ 教科書

なし。配布資料を準備する。

■ 参考書

授業内で適宜紹介する。

■ 備考

質問は授業時間内、またはオフィスアワーで受付ける。

給食管理臨地実習Ⅰ

(11263)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 45）
対象学科：健専３年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択　栄（必）・管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鴫　原　美智子

■ 授業の概要

小中学校・学校給食センターでの学校栄養職員としての経験を生かし、以下の点を教授する。
・事前に実習担当教員が実習施設と日程調整を行い、十分に協議し施設ごとの課題や実習内容を調整する。
・事前学習では実習に関する心構え、社会人として常識的な行動をとるように指導する。
・実習に必要な専門知識や技術の確認・助言を行う。
・受託給食会社が運営する施設で実習する場合は、委託側と受託側の関係を理解させる。
・学生が実習施設の栄養士・管理栄養士と事前に打ち合わせを行い、可能な範囲で給食経営管理に関する実習を行う。
・実習先からの課題、自主研究については、事前準備時に指導を行う。
・実習終了後のまとめを行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・栄養士が果たす専門領域に関する基本的な能力を養う。 ・知識・技能・態度及び考え方の総合的能力を身につける。 ・栄養の指導や給食の運営を行うために必要な能力を養う。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　第１回 ガイダンス	・応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学など関連分野の教科書及び臨地実習マニュアルを熟読する。
第２回　第２回 実習配属先との事前打ち合わせ	・応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学など関連分野の教科書及び臨地実習マニュアルを熟読する。
第３回　第３回～第１４回 事前訪問：事前に施設を訪問し実習計画を確認する。 自主研究の計画書を作成し、指導を受ける。 実習内容： ①給食全般のマネジメントの理解と特定業務を深く探求する。喫食者訪問、調理作業の分析、食材の管理、栄養士業務の分析、衛生管理、調理従事者への教育、食事のオーダーリングシステム、経営分析を通して課題を発見し、問題解決を検討する。なお具体的な内容は各施設の実習計画に沿って実施する。 ②日々のねらいや学んだこと、課題、疑問などを実習記録に記入し、考察するとともに評価表で自己評価する。	・実習施設の対象者、給食の意義・特性、関係法規を把握したうえで、実習施設の栄養士・管理栄養士の指導のもと、十分準備を行う。 ・実習先からの事前課題に取り組む。 ・実習の振り返りと報告会の準備。
第４回　第１５回 実習のまとめと報告	

■ 履修上の注意

・実習先に通う方法について、自家用車の使用は原則認めない。無断で使用した場合、実習の即刻中止、単位取得無効とする。
・清潔な調理衣（白衣・調理ズボン）を着用すること。
・マニキュア、イヤリング、ピアス、つけまつ毛、ネックレス、指輪、香水等の使用は認めない。
・実習先では施設スタッフとして、対象者に接すること。
・給食経営管理実習報告には、自分の発表以外においても聴講し、最後の発表まで参加すること。

■ 成績評価方法・基準

実習態度（巡回担当者および配属先の担当者からの報告など）50%、提出物の内容30%（提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。）、実習報告20%などを総合的に評価する。

■ 教科書

［給食経営と管理の科学］［井川聡子ほか］［理工図書］[3，300円]

■ 参考書
適宜プリント配付

■ 備考
質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

給食管理臨地実習Ⅱ

(11264)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（45 + 45）
対象学科：健専３年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鴫　原　美智子

■ 授業の概要

小中学校・学校給食センターでの学校栄養職員としての経験を生かし、以下の点を教授する。
・事前に実習担当教員が実習施設と日程調整を行い、十分に協議し施設ごとの課題や実習内容を調整する。
・事前学習では実習に関する心構え、社会人として常識的な行動をとるように指導する。
・実習に必要な専門知識や技術の確認・助言を行う。
・受託給食会社が運営する施設で実習する場合は、委託側と受託側の関係を理解させる。
・学生が実習施設の栄養士・管理栄養士と事前に打ち合わせを行い、可能な範囲で給食経営管理に関する実習を行う。
・実習先からの課題、自主研究については、事前準備時に指導を行う。
・実習終了後のまとめを行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・管理栄養士が果たす専門領域に関する基本的な能力を養う。 ・知識・技能・態度及び考え方の総合的能力を身につける。 ・栄養の指導や給食の運営を行うために必要な能力を養う。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　第１回 ガイダンス	・応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学など関連分野の教科書及び臨地実習マニュアルを熟読する。
第２回　第２回 実習配属先との事前打ち合わせ	・応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学など関連分野の教科書及び臨地実習マニュアルを熟読する。
第３回　第３回～第１４回 事前訪問：事前に施設を訪問し実習計画を確認する。 自主研究の計画書を作成し、指導を受ける。 実習内容： ①給食全般のマネジメントの理解と特定業務を深く探求する。喫食者訪問、調理作業の分析、食材の管理、管理栄養士業務の分析、衛生管理、調理従事者への教育、食事のオーダーリングシステム、経営分析を通して課題を発見し、問題解決を検討する。なお具体的な内容は各施設の実習計画に沿って実施する。 ②日々のねらいや学んだこと、課題、疑問などを実習記録に記入し、考察するとともに評価表で自己評価する。	・実習施設の対象者、給食の意義・特性、関係法規を把握したうえで、実習施設の栄養士・管理栄養士の指導のもと、十分準備を行う。 ・実習先からの事前課題に取り組む。 ・実習の振り返りと報告会の準備。
第４回　第１５回 実習のまとめと報告	

■ 履修上の注意

・実習先に通う方法について、自家用車の使用は原則認めない。無断で使用した場合、実習の即刻中止、単位取得無効とする。
・清潔な調理衣（白衣・調理ズボン）を着用すること。
・マニキュア、イヤリング、ピアス、つけまつ毛、ネックレス、指輪、香水等の使用は認めない。
・実習先では施設スタッフとして、対象者に接すること。
・給食経営管理実習報告には、自分の発表以外においても聴講し、最後の発表まで参加すること。

■ 成績評価方法・基準

実習態度（配属先の担当者からの報告など）50%、提出物の内容30%（提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。）、実習報告20%などを総合的に評価する。

■ 教科書

［給食経営と管理の科学］［井川聡子ほか］［理工図書］[3，300円]

■ 参考書
適宜プリント配付

■ 備考
質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

臨床栄養学臨地実習Ⅰ

(11265)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 15）
対象学科：健専４年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
髙　橋　　文

■ 授業の概要

本科目では、病院および高齢者施設栄養士としての実務経験を生かし、実習の計画および指導を行う。事前教育として実習に関する準備も含まれ、実習先の指導管理栄養士から説明を受け、実際の臨床における管理栄養士の仕事を把握できるよう指導する。また、実習施設に関する機能性および特色についての調査、臨地実習先との連絡調整など、充実した実習とするための具体的な事前準備について指導を行う。実習終了後には、事後教育指導として、担当教員や巡回教員への終了報告、実習のまとめ、報告会の準備および発表を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・臨床栄養学、臨床栄養指導論、臨床栄養学実習などで学んだ知識・技術を、実際の臨床現場で実践することができる。 ・臨地実習を通して、社会で実践していくために必要な自己管理能力、社会的倫理観、および責任感を修得することができる。 ・臨地実習で得た知識や、講義を通して得たものを伝えるプレゼンテーション能力を修得することができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　1.ガイダンス	臨床栄養学、臨床栄養指導論、臨床栄養学実習、応用栄養学の復習をする
第２回　2.実習配属先との事前打ち合わせ	実習先の要求する提出物の準備・作成、ならびに実習先への交通手段について調べる
第３回　3.～11. 実習：病院または老人保健施設で行う ・施設における栄養食事療法、運営管理業務について ・栄養管理全般について ・傷病者の栄養指導・教育について ・チーム医療における管理栄養士の役割および活動について ・衛生管理、危機管理の実際について	・医療施設について調べる ・実習施設について調べる ・栄養管理について復習する ・栄養指導について復習する ・チーム医療における管理栄養士について ・危機管理について復習する
第４回　12.実習担当教員および巡回教員への終了報告	実習先の状況説明ができるようまとめておく
第５回　13.実習のまとめ、報告会の準備	実習で得た知識と経験を整理する
第６回　14.臨床栄養学臨地実習報告会での発表	実習内容をまとめ、発表の準備をする
第７回　15.臨床栄養学臨地実習報告会の聴講	他施設における管理栄養士の役割について理解する

■ 履修上の注意

・臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学指導論Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。
・家政特別講義Ⅳを履修すること。
・定められた時間数（45時間）を実習しなければ、単位の取得は認められない。
・本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受検資格を取得できない。
・実習前の生活および学習態度に問題があり、指導後も指示に従わないなどの問題行為がみられた場合には実習を取り止めることがある。
・実習先では施設スタッフとして、施設職員や患者・入居者に接すること。
・臨地実習報告書には、自分の発表以外においても聴講し、最後の発表まで参加すること。

■ 成績評価方法・基準

実習態度50%、提出物の内容30%（提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。）、実習報告20%などを総合的に評価する。
※実習態度：巡回担当者および配属先の担当者からの報告など

■ 教科書

臨床栄養学（基礎編）改訂第2版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2700円+税〕

臨床栄養学（疾患別編）改訂第2版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2800円+税〕
臨床栄養学実習書 第12版〔玉川和子 他〕〔医歯薬出版〕〔2700円+税〕
臨床栄養学実習 フローチャートで学ぶ臨床栄養管理〔中村富予 他〕〔建帛社〕〔2600円+税〕
糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版〔日本糖尿病学会〕〔文光堂〕〔900円+税〕

■ 参考書
なし（適宜プリント配布）

■ 備考
質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける

臨床栄養学臨地実習Ⅱ

(11266)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（45 + 15）
対象学科：健専４年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
髙　橋　　文

■ 授業の概要

本科目では、病院および高齢者施設栄養士としての実務経験を生かし、実習の計画および指導を行う。事前教育として実習に関する準備も含まれ、実習先の指導管理栄養士から説明を受け、実際の臨床における管理栄養士の仕事を把握できるよう指導する。また、実習施設に関する機能性および特色についての調査、臨地実習先との連絡調整など、充実した実習とするための具体的な事前準備について指導を行う。実習終了後には、事後教育指導として、担当教員や巡回教員への終了報告、実習のまとめ、報告会の準備および発表を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・臨床栄養学、臨床栄養指導論、臨床栄養学実習などで学んだ知識・技術を、実際の臨床現場で実践することができる。 ・臨地実習を通して、社会で実践していくために必要な自己管理能力、社会的倫理観、および責任感を修得することができる。 ・臨地実習で得た知識や、講義を通して得たものを伝えるプレゼンテーション能力を修得することができる。 ・これまでに獲得した知識・技能などを総合的に活用し、新たな課題に取り組むことができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　1.ガイダンス	臨床栄養学、臨床栄養指導論、臨床栄養学実習、応用栄養学の復習をする
第２回　2. 実習配属先との事前打ち合わせ	・実習先の要求する提出物の準備・作成をする ・疑問点について確認をする
第３回　3.～11. 実習：病院または老人保健施設で行う ・施設における栄養食事療法、運営管理業務について ・栄養管理全般について ・傷病者の栄養指導・教育について ・チーム医療における管理栄養士の役割および活動について ・衛生管理、危機管理の実際について	・実習施設について調べる ・栄養食事療法について復習する ・栄養管理について復習する ・チーム医療における管理栄養士について復習する ・実習先のチーム医療の特徴についてまとめる ・危機管理について復習する。
第４回　12. 実習担当教員および巡回教員への終了報告	実習先の状況説明ができるようまとめておく
第５回　13. 実習のまとめ、報告会の準備	実習で得た知識と経験を整理する
第６回　14. 臨床栄養学臨地実習報告会での発表	実習内容をまとめ、発表の準備をする
第７回　15. 臨床栄養学臨地実習報告会の聴講	他施設における管理栄養士の役割について理解する

■ 履修上の注意

・臨床栄養学Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学指導論Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学実習Ⅰ・Ⅱの単位を修得していること。
・家政特別講義Ⅳを履修すること。
・定められた時間数（45時間）を実習しなければ、単位の取得は認められない。
・本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受検資格を取得できない。
・実習前の生活および学習態度に問題があり、指導後も指示に従わないなどの問題行為がみられた場合には実習を取り止めることがある。
・実習先では施設スタッフとして、施設職員や患者・入居者に接すること。
・臨地実習報告書には、自分の発表以外においても聴講し、最後の発表まで参加すること。

■ 成績評価方法・基準

実習態度50%、提出物の内容30%（提出期限を厳守すること。未提出の場合には評価の対象とはしない。）、実習報告20%などを総合的に評価する。
※実習態度：巡回担当者および配属先の担当者からの報告など

■ 教科書
臨床栄養学（基礎編）改訂第2版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2700円+税〕
臨床栄養学（疾患別編）改訂第2版〔本田佳子他〕〔羊土社〕〔2800円+税〕
臨床栄養学実習書 第12版〔玉川和子 他〕〔医歯薬出版〕〔2700円+税〕
臨床栄養学実習 フローチャートで学ぶ臨床栄養管理〔中村富予 他〕〔建帛社〕〔2600円+税〕
糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版〔日本糖尿病学会〕〔文光堂〕〔900円+税〕

■ 参考書
なし（適宜プリント配布）

■ 備考
質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

公衆栄養学臨地実習Ⅰ

(11267)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（45 + 15）
対象学科：健専４年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄

■ 授業の概要

本実習では、保健所や市町村保健センターに所属する行政栄養士の役割や業務について、保健所または市町村保健センターに赴き、学習する。具体的には、以下の内容を扱う。
【１】実習前に、本学実習担当教員が実習日程や課題の確認を行い、実習に必要な知識や技術の確認、助言を行う。
【２】実習施設の行政栄養士やスタッフが、地域住民の適正な栄養管理と健康実現を目指すための政策や手法を教授する。
【３】実習終了後に、本学実習担当教員が終了後のまとめに関する指導、助言を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・保健所や市町村保健センターの行政栄養士の役割を理解する。 ・地域住民への栄養や健康に関する情報発信の方法を習得する。 ・公衆栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	「公衆栄養学」や「家政特別講義Ⅳ」で扱った栄養行政、保健所と市町村の役割、行政栄養士の業務と役割について復習しておく。
第２回　実習配属先との事前の打合せ	配属先の管理栄養士より、実習のスケジュール、持ち物、事前課題等の説明がある。教わった内容について理解する。
第３回　事前学習の確認と指導	実習先（保健所、市町村）の特徴、組織、管理栄養士の役割について調べ、実習ノートにまとめる。 事前課題に取り組む。
第４回　実習：保健所または市町村で行う	施設の特徴、ならびに管理栄養士の業務と役割を確認する。
第５回　【１　保健所で実習を行う場合】	保健所の役割を理解する。
第６回　（１）保健所スタッフによる講話：保健所の業務・役割について、スタッフの業務・役割について	「家政特別講義Ⅳ」の保健所栄養士による特別講義の内容を復習しておく。そのうえで、実習先の組織ごとの業務・役割を確認する。
第７回　（２）保健所栄養士による講話：保健所栄養士の業務、役割について	「家政特別講義Ⅳ」の保健所栄養士による特別講義の内容を復習しておく。そのうえで、実習先の行政栄養士の業務・役割について理解を深める。
第８回　（３）保健所活動の実際：保健所栄養士が係る広域的・専門的な業務の実際	保健所栄養士の実際の活動を理解する。
第９回　【２　市町村で実習を行う場合】	市町村の役割を理解する。
第10回　（１）市町村スタッフによる講話：市町村の業務、役割について、スタッフの業務・役割について	「家政特別講義Ⅳ」の市町村栄養士による特別講義の内容を復習しておく。そのうえで、実習先の組織ごとの業務・役割を確認する。
第11回　（２）市町村栄養士による講話：市町村栄養士の業務、役割について	「家政特別講義Ⅳ」の市町村栄養士による特別講義の内容を復習しておく。そのうえで、実習先の行政栄養士の業務・役割について理解を深める。
第12回　（３）市町村活動の実際：市町村栄養士が係る地域的・一般的な業務の実際	市町村栄養士の実際の活動を理解する。
第13回　実習後のまとめ	学習した内容全体を復習する。
第14回　公衆栄養学臨地実習報告会での報告	実習内容をまとめ、報告の準備をする。
第15回　公衆栄養学臨地実習報告会の聴講	公衆栄養活動の実際を理解する。

■ 履修上の注意

①公衆栄養学、公衆栄養学実習の単位を取得していないと、本実習は履修できない。
②家政特別講義Ⅳを履修すること。

③本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格を取得できない。
④実習以前の生活態度や学習態度に問題があり、指導しても良くならない場合は、実習を取り止めることがある。その点を十分注意すること。
⑤実習の配属先ならびに実習の時期は、他の実習の実施時期、履修者の学習状況を参考に、担当教員が実習施設の担当者と協議して決定する。
⑥実習先では学生ではなく、施設のスタッフとして施設職員や地域住民と接することになる。態度や言葉遣い、振る舞いに気を付けること。。
⑦新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、現場での実習が中止となる場合がある。その場合はオンライン（リモート）実習や学内実習等で対応する。
⑧公衆栄養学臨地実習報告会は、自分の報告がない会にも出席し、他施設の実習内容について学習する。

■ 成績評価方法・基準
・実習態度（50%）、提出物の内容（30%）、実習報告（20%）などをルーブリックを用いて、総合的に評価する。
※実習態度とは遅刻・早退の状況、巡回担当者の報告、配属先の担当者からの報告などを指す。
・提出物については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書
〔臨地実習テキスト〕〔大学オリジナル〕（※）「家政特別講義Ⅳ」で配布
〔公衆栄養学〕〔荒牧礼子・今井絵理〕〔化学同人〕〔2，600円+税〕（※）「公衆栄養学」教科書として購入済み
〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔田中貞一郎ほか〕〔萌文書林〕〔1，800円+税〕
（※）「健康栄養学総合演習Ⅰ」教科書として購入済み

■ 参考書
なし。授業内で適宜紹介する。

■ 備考
・実習の事前指導、事後指導に関する質問等については、オフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受付ける。
・実習現場での質問等については、実習配属先の管理栄養士が対応可能な時に質問する。

公衆栄養学臨地実習Ⅱ

(11268)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（45 + 15）
対象学科：健専４年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択　管栄（必）
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄

■ 授業の概要
本実習は、「公衆栄養学臨地実習Ⅰ」を履修した者のみが履修できる。
本実習は、「公衆栄養学臨地実習Ⅰ」とは異なる施設に赴き、現場の行政栄養士の役割や業務について学習する。具体的には、以下の内容を扱う。
【１】実習前に、本学実習担当教員が実習日程や課題の確認を行い、実習に必要な知識や技術の確認、助言を行う。
【２】実習施設の行政栄養士やスタッフが、地域住民の適正な栄養管理と健康実現を目指すための政策や手法を教授する。
【３】実習終了後に、本学実習担当教員が終了後のまとめに関する指導、助言を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・保健所や市町村保健センターの行政栄養士の役割を理解する。 ・地域住民への栄養や健康に関する情報発信の方法を習得する。 ・公衆栄養活動を行う際に必要な知識や技術を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス	「公衆栄養学」や「家政特別講義Ⅳ」で扱った栄養行政、保健所と市町村の役割、行政栄養士の業務と役割について復習しておく。
第２回　実習配属先との事前の打合せ	配属先の管理栄養士より、実習のスケジュール、持ち物、事前課題等の説明がある。教わった内容について理解する。
第３回　事前学習の確認と指導	実習先（保健所、市町村）の特徴、組織、管理栄養士の役割について調べ、実習ノートにまとめる。 事前課題に取り組む。
第４回　実習：保健所または市町村で行う	施設の特徴、ならびに管理栄養士の業務と役割を確認する。
第５回　【１　保健所で実習を行う場合】	保健所の役割を理解する。
第６回　（１）保健所スタッフによる講話：保健所の業務・役割について、スタッフの業務・役割について	「家政特別講義Ⅳ」の保健所栄養士による特別講義の内容を復習しておく。そのうえで、実習先の組織ごとの業務・役割を確認する。
第７回　（２）保健所栄養士による講話：保健所栄養士の業務、役割について	「家政特別講義Ⅳ」の保健所栄養士による特別講義の内容を復習しておく。そのうえで、実習先の行政栄養士の業務・役割について理解を深める。
第８回　（３）保健所活動の実際：保健所栄養士が係る広域的・専門的な業務の実際	保健所栄養士の実際の活動を理解する。
第９回　【２　市町村で実習を行う場合】	市町村の役割を理解する。
第10回　（１）市町村スタッフによる講話：市町村の業務、役割について、スタッフの業務・役割について	「家政特別講義Ⅳ」の市町村栄養士による特別講義の内容を復習しておく。そのうえで、実習先の組織ごとの業務・役割を確認する。
第11回　（２）市町村栄養士による講話：市町村栄養士の業務、役割について	「家政特別講義Ⅳ」の市町村栄養士による特別講義の内容を復習しておく。そのうえで、実習先の行政栄養士の業務・役割について理解を深める。
第12回　（３）市町村活動の実際：市町村栄養士が係る地域的・一般的な業務の実施	市町村栄養士の実際の活動を理解する。
第13回　実習後のまとめ	学習した内容全体を復習する。
第14回　公衆栄養学臨地実習報告会での報告	実習内容をまとめ、報告の準備をする。
第15回　公衆栄養学臨地実習報告会の聴講	公衆栄養活動の実際を理解する。

■ 履修上の注意
①公衆栄養学、公衆栄養学実習の単位を取得していないと、本実習は履修できない。

②公衆栄養学臨地実習Ⅰを履修していないと、本実習は履修できない。
③家政特別講義Ⅳを履修すること。
④本科目の履修者は、本科目の単位を取得できないと、管理栄養士国家試験受験資格を取得できない。
⑤実習以前の生活態度や学習態度に問題があり、指導しても良くならない場合は、実習を取り止めることがある。その点を十分注意すること。
⑥実習の配属先ならびに実習の時期は、他の実習の実施時期、履修者の学習状況を参考に、担当教員が実習施設の担当者と協議して決定する。
⑦実習先では学生ではなく、施設のスタッフとして施設職員や地域住民と接することになる。態度や言葉遣い、振る舞いに気を付けること。
⑧新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、現場での実習が中止となる場合がある。その場合はオンライン（リモート）実習や学内実習等で対応する。
⑨公衆栄養学臨地実習報告会は、自分の報告がない会にも出席し、他施設の実習内容について学習する。

■ 成績評価方法・基準
・実習態度（50%）、提出物の内容（30%）、実習報告（20%）などをルーブリックを用いて、総合的に評価する。
※実習態度とは遅刻・早退の状況、巡回担当者の報告、配属先の担当者からの報告などを指す。
・提出物については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書
〔臨地実習テキスト〕〔大学オリジナル〕（※）「家政特別講義Ⅳ」で配布
〔公衆栄養学〕〔荒牧礼子・今井絵理〕〔化学同人〕〔2，600円（※）「公衆栄養学」教科書として購入済み
〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔田中貞一郎ほか〕〔萌文書林〕〔1，800〕
（※）「健康栄養学総合演習Ⅰ」教科書として購入済み

■ 参考書
なし。授業内で適宜紹介する。

■ 備考
実習の事前指導、事後指導に関する質問等については、授業終了時またはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）にて受付ける。
実習現場での質問等については、実習担当の管理栄養士が対応可能な時に質問する。

学校栄養指導論

(11269)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鴫　原　美智子

■ 授業の概要

栄養に係る教育を実践するための基礎的知識および技能について指導する。すなわち、近年の社会的背景、家庭環境の急激な変化による児童生徒の食に関する課題を把握し、食に関する指導の重要性や、栄養教諭としての使命や役割についてと、児童生徒の心理や発達段階を踏まえた上での指導案の作成、教材づくりについて指導する。最終的に、指導案作成、献立作成、模擬授業等の演習を通して、栄養教諭に求められる基本的な実践技能を教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・学校給食の目標や、栄養や衛生管理の重要ポイントについて具体的に説明することができる。 ・食教育に相応しい学校給食の食事内容〔地場産物、郷土料理等〕を理解し、献立作成ができる。 ・各教科および特別活動等における授業づくり、学習指導案作成し、授業を展開することができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、栄養教諭制度・栄養教諭の職務内容	栄養教諭についてまとめておく。
第２回　学校給食の意義・役割・現状	学校給食法を読んでおく。
第３回　学校給食の食事内容・衛生管理	学校給食法を読んでおく。
第４回　学習指導案作成の基本 指導案作成の意義、書き方の基礎・基本について	既存の指導案を読む。
第５回　給食の時間の指導　指導案作成・教材研究	指導案・教材を完成させる。
第６回　給食の時間の模擬授業	模擬授業の練習をする。
第７回　家庭科 栄養教諭の専門性を生かした指導の進め方について	食に関する指導の手引き　家庭科を読む
第８回　体育（保健） 心身の健康の保持増進、生涯を通して安全な生活が送れるよう食教育との関連性について	食に関する指導の手引き　体育（保健）を読む
第９回　特別活動「学級活動」 学級活動の目標と食に関する指導とを関連について、栄養教諭の支援の在り方について	食に関する指導の手引き　特別活動を読む
第10回　道徳 道徳教育の目標を基に、自己の生き方について考えを深める食育の在り方について	食に関する指導の手引き　道徳を読む
第11回　生活科 教科の目標を考慮した食に関する指導の進め方について	食に関する指導の手引き　生活を読む
第12回　指導案作成・教材研究について（各自教科領域を選択）	既存の指導案を読む
第13回　教科領域の指導案検討	指導案・教材を完成させる。
第14回　模擬授業	模擬授業の練習をする。
第15回　模擬授業評価・科目まとめ	授業評価・まとめを完成させる。

■ 履修上の注意

来年度の栄養教育実習にむけて、テキストや学習指導要領を読み、対象者に合わせた指導案を考える。教材研究や模擬授業など実践を主体とした授業とする。模擬授業に向けて各自教材の準備や練習をする。

■ 成績評価方法・基準

指導案、レポートなど提出物50%、受講態度50%で評価。模擬授業の未実施、未提出レポートがある場合は評価しない。レポートは後日添削して返却する。課題については授業中にフィードバックを行う。

■ 教科書

〔食に関する指導の手引き（第二次改訂版）〕〔文部科学省〕〔健学社〕〔1，300円〕

〔小学校学習指導要領（平成29年告示）〕〔東洋館出版社〕〔217円〕

■ 参考書
授業で随時紹介する。

■ 備考
質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

学校食育概論

(11270)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鴫　原　美智子

■ 授業の概要

食に関する指導計画立案への参画、他の教職員との連携協力による食に関する指導力を教授する。また、生活習慣病、食物アレルギー、スポーツ栄養等に個別に対応する能力を取得し、給食の時間における食に関する指導や家庭・地域との連携・調整方法を学び、食に関する指導の基礎および応用について修得を指導する。併せて、児童・生徒を取り巻く社会的背景、課題や問題点などを理解し、栄養教諭として使命、役割、食に関する指導の専門性についても教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・学校における食の指導の全体計画や指導案作成に必要な知識と技術を身につける。 ・他教科と連動した食に関する指導方法を修得する。 ・各教科および特別活動等の目標や特質、食に関する指導の意義、および内容が理解できる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、栄養教諭の配置・身分・職務、学校給食の意義	栄養教諭についてまとめておく。
第２回　食育基本法・食育推進基本計画の推進	教科書を読む　P1～P25
第３回　学校・家庭・地域が連携した食育の推進	教科書を読む　P26～P34
第４回　食に関する指導に係る全体計画の作成① ・食に関する指導に係る全体計画の作成の必要性 ・全体計画作成の手順及び内容 ・具体的な全体計画のイメージ	教科書を読む　P35～P49
第５回　食に関する指導に係る全体計画の作成② ・栄養教諭の役割 ・特別支援学校における食に関する指導に係る全体計画の作成及び指導上の留意点 ・具体的な全体計画のイメージ（特別支援学校）	教科書を読む　P50～P73
第６回　各教科等における食に関する指導の展開　総論	教科書を読む　P74～P76
第７回　各教科等における食に関する指導の展開　社会・理科・生活科	教科書を読む　P77～P102
第８回　各教科等における食に関する指導の展開　家庭科	教科書を読む　P103～P119
第９回　各教科等における食に関する指導の展開　体育・保健体育	教科書を読む　P120～P130
第10回　各教科等における食に関する指導の展開　道徳	教科書を読む　P131～P143
第11回　各教科等における食に関する指導の展開　総合的な学習の時間	教科書を読む　P144～P156
第12回　各教科等における食に関する指導の展開　特別活動	教科書を読む　P157～P217
第13回　給食時間の時間における食に関する指導	教科書を読む　P218～P233
第14回　個別的な相談指導の進め方	教科書を読む　P234～P251
第15回　学校における食育の推進の評価	教科書を読む　P252～P261

■ 履修上の注意

来年度の栄養教育実習にむけて、テキストを熟読して受講する。

■ 成績評価方法・基準

受講態度50%　出席30%　レポートなど20%
提出されたレポートは、後日、添削して返却する。

■ 教科書

〔食に関する指導の手引き（第二次改訂版）〕〔文部科学省〕〔健学社〕〔1，300円〕
〔小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説　総則編〕〔文部科学省〕〔東洋館出版社〕〔325円〕

■ 参考書

適宜プリント配付

■ 備考
質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

セミナーⅠ

(11271)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：健専３年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄　　川　俣　幸　一　　健康栄養学専攻教員

■ 授業の概要
本科目は、3年次の管理栄養士国家試験対策の一環として開講する。これまでに修得した管理栄養士国家試験を突破するために必要な知識を基本に、模擬試験の受験を通じて、修得した知識の確認と弱点の把握、克服を目指す。具体的には、以下の内容を扱う。
①管理栄養士国家試験の出題分野（科目）の過去問を題材に、修得の必要がある点を教授する。
②出題分野（科目）ごとに出題範囲、頻出事項について解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・国家試験受験に必要な知識を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　社会・環境と健康（伊藤）①公衆衛生学	予習：公衆衛生学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第２回　社会・環境と健康（伊藤）②健康管理概論	予習：健康管理概論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第３回　社会・環境と健康（伊藤）③まとめ	予習：前回までの授業で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第４回　臨床栄養学（高橋）①臨床栄養学	予習：臨床栄養学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第５回　臨床栄養学（高橋）②臨床栄養指導論	予習：臨床栄養指導論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行うなお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第６回　臨床栄養学（高橋）③まとめ	予習：前回までの授業で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第７回　人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（中尾、鈴木）①解剖生理学	予習：解剖生理学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第８回　人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（中尾、鈴木）②生化学	予習：生化学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第９回　人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（中尾、鈴木）③まとめ	予習：前回までの授業で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第10回　栄養教育論（小野）①栄養教育論	予習：栄養教育論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「

	履修上の注意」（※）を参照のこと。
第11回　栄養教育論（小野）②栄養指導論	予習：栄養指導論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第12回　栄養教育論（小野）③まとめ	予習：前回までの授業で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。
第13回　給食経営管理論（鴫原）　①給食の運営	予習：給食の運営に関する内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第14回　給食経営管理論（鴫原）　②給食管理	予習：給食管理に関する内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第15回　給食経営管理論（鴫原）　③まとめ	予習：前回までの授業で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の確認と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第16回　模擬試験	出題科目ごとに知識の修得状況を確認する。学習が不十分な箇所を把握し、学習する。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。

■ 履修上の注意

・管理栄養士国家試験受験を希望する者は履修すること。

・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席や遅刻がないように注意すること。

（※）授業で扱う内容については、担当教員からの指示をもとに予習、復習を行うこと。

■ 成績評価方法・基準

・平常点50%（ミニットペーパーや課題等の提出状況および学習の進捗状況を総合的に判断する）、模擬試験50%で評価する。

（※）模擬試験は1月下旬ころ～２月中に実施予定。

・提出物等は、後日フィードバックを行う。

■ 教科書

〔管理栄養士国家試験　問題集〕（大学より配布予定）

〔クエスチョンバンク2024〕〔メディックメディア〕（7月発売予定）

■ 参考書

各授業で使用した教科書などの教材（各担当の教員が指示する）。

■ 備考

質問等は、各授業の担当教員が授業終了時やオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で対応する。

セミナーⅡ

(11272)

単位（総授業時間数＋自習時間）：1（30 + 15）
対象学科：健専４年
授業形態：演習　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄　　健康栄養学専攻教員

■ 授業の概要
本科目は、4年次の管理栄養士国家試験対策の一環として開講する。これまでに修得した管理栄養士国家試験を突破するために必要な知識を基本に、模擬試験の受験を通じて、修得した知識の確認と弱点の把握、克服を目指す。具体的には、以下の内容を扱う。
①管理栄養士国家試験の出題分野（科目）の過去問を題材に、修得の必要がある点を教授する。
②応用問題のように、出題分野（科目）を横断する内容の問題について、特徴や要点を説明する。

授業担当：専攻教員（鈴木、伊藤、佐藤、中尾、栗山、川俣、小野、鴫原、高橋、八巻）、外部講師

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・国家試験受験に必要な知識を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（栗山、川俣）	各自、学習目標を確認する。そのうえで科目ごとの進捗状況、弱点の把握と克服を行う。
第２回　模擬試験①（栗山、川俣）	出題科目ごとに知識の修得状況を把握する。点数が取れていない分野については、誤った点を確認し、弱点を克服する。
第３回　問題解説（鈴木）①基礎栄養学	予習：基礎栄養学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第４回　問題解説（伊藤）②公衆衛生学	予習：公衆衛生学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第５回　問題解説（佐藤）③食品学各論	予習：食品学各論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第６回　問題解説（中尾）④解剖生理学	予習：解剖生理学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第７回　模擬試験②（栗山、川俣）	前回の模擬試験を越える成績（点数、偏差値）を目指す。出題科目ごとに知識の修得状況を把握する。点数が取れていない分野については、誤った点を確認し、弱点を克服する。
第８回　問題解説（栗山）⑤公衆栄養学	予習：公衆衛生学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第９回　問題解説（川俣）⑥応用栄養学	予習：応用栄養学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第10回　問題解説（小野）⑦栄養教育論	予習：栄養教育論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。

第11回　模擬試験③（栗山、川俣）	国家試験の合格ラインを越える成績（成績点数、偏差値）を目指す。出題科目ごとに知識の修得状況を把握する。点数が取れていない分野については、誤った点を確認し、弱点を克服する。
第12回　問題解説（鴫原）⑧給食経営管理論	予習：給食経営管理論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第13回　問題解説（高橋）⑨臨床栄養学	予習：臨床栄養学で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第14回　問題解説（八巻）⑩食品学総論	予習：食品学総論で学修した内容を確認する。復習：授業内容を確認し、知識の整理、弱点の把握と補強を行う。なお、具体的な内容については「履修上の注意」（※）を参照のこと。
第15回　模擬試験④（栗山、川俣）	国家試験の合格ラインを越える成績（点数、偏差値）を目指す。出題科目ごとに知識の修得状況を把握する。点数が取れていない分野については、誤った点を確認し、弱点を克服する。

■ 履修上の注意
・毎回、積極的に出席しなければ授業の内容は身につかない。欠席がないように注意すること。
・模擬試験の開催日時、問題解説の内容については、掲示で連絡する。
（※）授業で扱う内容については、担当教員からの指示をもとに予習、復習を行う。

■ 成績評価方法・基準
・平常点50%（平常点は、ミニットペーパーや課題等の提出状況および学習の進捗状況などを総合的に判断する）、模擬試験の結果50%を総合的に評価する。
・提出物や模擬試験は、後日フィードバックを行う。

■ 教科書
〔管理栄養士国家試験　問題集〕※3年次に配布済み
〔クエスチョンバンク2023〕〔メディックメディア〕※3年次に購入済み

■ 参考書
各授業で使用した教科書などの教材（各担当の教員が指示する）。

■ 備考
質問等は、各授業の担当教員が授業終了時やオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で対応する。

家政特別講義 I

(11273)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年
授業形態：講義　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
八　巻　美智子　　ブシャー　シルベ

■ 授業の概要
管理栄養士の使命及び社会における役割や活動分野について理解させる。管理栄養士としての基本的な態度を身につけさせると共に食品、調理、栄養等に関する基礎知識及び食の安全や衛生を含む食生活について学習し、日常生活においても実践できるようにする。栄養士・管理栄養士の仕事について、総合的に理解出来るよう指導する。また、付随する内容において１年次から学生生活を円滑に過ごすための作業やグループワーク等を必要に応じて行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・栄養士・管理栄養士の役割について理解出来る ・食と健康の関わりについて理解出来る ・栄養士・管理栄養士の活動内容について理解出来る	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス(ブシャー・八巻)	新入生ガイダンスの講話の内容を復習しておく。
第２回　学生生活で必要なこと（マナー・授業）(ブシャー・八巻)	教科書２章の内容及び本学での修学形態についてまとめておく。
第３回　学生生活で必要なこと（専門科目の理解）(ブシャー・八巻)	教科書２章や学生便覧を読み、カリキュラム等について確認しておく。
第４回　栄養士・管理栄養士について（仕事）(ブシャー・八巻)	教科書１章をよく読み、栄養士等の業務や活動の内容についてまとめておく。
第５回　栄養士・管理栄養士について（資格取得）(ブシャー・八巻)	教科書１章をよく読み、資格や国家試験の内容について理解する。
第６回　食生活について（食事バランスガイド）(ブシャー・八巻)	教科書３章をよく読み、自身の食生活について見直す。
第７回　レポートの書き方（作成方法）(ブシャー・八巻)	教科書８章をよく読み、レポート作成について内容をまとめておく。
第８回　レポートの書き方（情報収集）(ブシャー・八巻)	教科書８章をよく読み、情報収集時の要点についてまとめておく。
第９回　これまでの振り返り	第1回～第8回の内容を復習し、理解できていない点を確認し、学習する。
第10回　安全な食事について(ブシャー・八巻)	教科書６章をよく読み、衛生管理についてまとめておく。
第11回　栄養と食品のかかわり(ブシャー・八巻)	教科書４章をよく読み、栄養摂取に関する点を確認する。
第12回　食生活について（歴史）(ブシャー・八巻)	教科書３章をよく読み、食生活の歴史と栄養士の仕事について理解する。
第13回　人体の構造と働きについて(ブシャー・八巻)	教科書５章をよく読み、各臓器の役割等についてまとめておく。
第14回　食育・ボランティア活動について(ブシャー・八巻)	学内外での食・栄養に関する活動やボランティア等の取り組みについて理解する。
第15回　前期内容のまとめ	第10回～第14回の内容を復習し、理解できていない点を確認し、学習する。あわせて、前期に学習した内容を振り返る。
第16回　1年次後期の学修目標の確認(ブシャー・八巻)	学修ポートフォリオに記入する内容を通じて、自身の学修状況、学習目標を確認する。
第17回　衛生管理と安全管理(ブシャー・八巻)	教科書ｐ.59～62、ｐ.66～68をよく読み、衛生管理について復習、確認する。
第18回　栄養士の１日について(ブシャー・八巻)	教科書１１章をよく読み、職域による違いについてまとめておく。
第19回　臨地実習・校外実習について(ブシャー・八巻)	教科書１０章をよく読み、実習毎の特徴と違いについてまとめておく。

第20回　これまでの振り返り	第16回～第19回の内容を復習し、理解できていない点を確認し、学習する。
第21回　家政特別セミナー（卒業生による講話）の聴講（前半）	講話前半の重要な点をまとめる。
第22回　家政特別セミナー（卒業生による講話）の聴講（後半）	講話後半の重要な点をまとめる。質問内容についても記入出来るよう整理しておく。
第23回　家政特別セミナー（卒業生による講話）のまとめ(ブシャー・八巻)	講話を聴講して理解したこと、感想をまとめる。
第24回　学修状況の中間評価	学修ポートフォリオの後期中間評価を記入し、自身の学修状況を確認する。
第25回　課題研究発表会について(ブシャー・八巻)	本学での課題研究発表会の趣旨や歴史（前年度の状況等）について理解する。
第26回　課題研究発表会の聴講	抄録をよく読み、実際の発表内容についてまとめておく。
第27回　課題研究発表会の聴講（続き）	抄録と発表内容を踏まえ、質疑の内容について整理し、まとめておく。
第28回　課題研究の意義とまとめ(ブシャー・八巻)	質疑応答を含めた全体の概要と感想について、レポートにまとめる。
第29回　後期内容のまとめ(ブシャー・八巻)	第20回～第28回の内容を復習し、理解できていない点を確認し、学習する。あわせて、後期に学習した内容を振り返る。
第30回　一年間を振り返って(ブシャー・八巻)	抱負と今後の課題について振り返り、自己評価を行う。

■ 履修上の注意
・授業計画は、やむを得ず変更する可能性（講義の順番が前後したり、内容を一部調整したりする場合等）があります。
・後期の「家政特別セミナー」、「課題研究発表会」は、通常の授業とちがう日時や場所での開催となります。掲示などで情報を確認して下さい。
・新入生ガイダンス、前期の「スタディスキルズ」でも関連する内容を扱います。あわせて理解してください。
・詳細はプリント等で説明します。

■ 成績評価方法・基準
・授業態度（参加状況など）：５０％、提出物（ミニットペーパーなど）：５０％で評価します。
・提出物が未提出の場合は、評価の対象外とします。
・フィードバックとして、提出物は適宜、確認・返却します。

■ 教科書
めざせ！栄養士・管理栄養士 まずはここからナビゲーション 第3版［小野章史　編著、第一出版、定価　2，200円（税別）］

■ 参考書
学生便覧（令和5年度版）の他、必要に応じて紹介します。

■ 備考
質問等は、授業終了後またはオフィスアワーにて受け付けます。

家政特別講義Ⅱ

(11274)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄　　鴫　原　美智子

■ 授業の概要

将来、食と栄養の専門家である管理栄養士・栄養士として働くために必要な知識や情報、技術や能力の取得を目指す。具体的には、以下の内容を行う。
①学外研修として施設見学を行い、実際の業務内容や衛生管理等を学習する。
②臨地実習報告会を聴講し、現場で必要な知識や技術について理解する。
③家政特別セミナー、課題研究発表会を通して、管理栄養士・栄養士を目指すために必要な知識や情報および技術を教授する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・管理栄養士・栄養士となるために必要な知識と技術・態度を身に着ける	
・管理栄養士・栄養士の業務内容について理解できる	
・自己の将来に必要な知識・情報・技術および態度について理解できる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	管理栄養士に必要な資質を考える。
第２回　学外研修（第２回～第６回まで連続して実施）	施設研修での質問を考えて臨む。見学のレポートを書いて提出。
第３回　学外研修（第２回～第６回まで連続して実施）	施設研修での質問を考えて臨む。見学のレポートを書いて提出。
第４回　学外研修（第２回～第６回まで連続して実施）	施設研修での質問を考えて臨む。見学のレポートを書いて提出。
第５回　学外研修（第２回～第６回まで連続して実施）	施設研修での質問を考えて臨む。見学のレポートを書いて提出。
第６回　学外研修（第２回～第６回まで連続して実施）	施設研修での質問を考えて臨む。見学のレポートを書いて提出。
第７回　課題研究発表会の聴講（第７回～第９回まで連続して実施）	課題研究発表会を聴講して理解したこと、感想などを提出する。
第８回　課題研究発表会の聴講（第７回～第９回まで連続して実施）	課題研究発表会を聴講して理解したこと、感想などを提出する。
第９回　課題研究発表会の聴講（第７回～第９回まで連続して実施）	課題研究発表会を聴講して理解したこと、感想などを提出する。
第10回　家政特別セミナーの聴講	セミナーを聴講して理解したこと、感想などを提出する。
第11回　臨地実習報告会の聴講	臨地実習報告会を聴講して理解したこと、感想などを提出する。
第12回　臨地実習報告会の聴講	臨地実習報告会を聴講して理解したこと、感想などを提出する。
第13回　臨地実習報告会の聴講	臨地実習報告会を聴講して理解したこと、感想などを提出する。
第14回　臨地実習報告会の聴講	臨地実習報告会を聴講して理解したこと、感想などを提出する。
第15回　まとめ、今後の学習に関する説明	これまでの授業で修得したことを確認する。

■ 履修上の注意

（１）開講日程は、Google Classroom、掲示等で連絡する。
（２）授業計画は、順番が変更となる場合もある。その場合も、（１）の方法で連絡する。
（３）学外研修は、夏休み中、または授業のない日（土曜日、補講日、集中講義期間）に実施することもある。実施日程が決まり次第、（１）の方法で連絡する。

■ 成績評価方法・基準

課題レポート・・・90%、受講態度・・・10%（学外講師や上級生から謙虚に学ぶ姿勢）

■ 教科書
なし

■ 参考書
なし

■ 備考
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する。

家政特別講義Ⅲ

(11275)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鴫　原　美智子　　栗　山　孝　雄　　髙　橋　　文

■ 授業の概要

給食管理臨地実習の終了後のまとめと報告、4年次の公衆栄養学臨地実習、臨床栄養学臨地実習を実践するための準備を行う。
具体的な内容は、次の通りである。
（１）給食管理臨地実習の終了後のまとめと報告を通じて、施設ごとの給食管理に関する理解をさらに深め、必要な知識や技術が確認できるよう教授する。
（２）4年次における公衆栄養学臨地実習、臨床栄養学臨地実習を実践するため、必要な知識や技術について教授する。

■ 授業の到達目標　　学位授与の方針との関連

①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

・報告会を通じ、お互いの経験を共有できる。
・課題に対する解決方法を立案できる。
・管理栄養士、栄養士に必要な知識と技術を理解できる。

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　給食管理臨地実習　報告会①：学校	実習を振り返り、報告の準備と練習を行う。 聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第２回　給食管理臨地実習　報告会②：給食センター	実習を振り返り、報告の準備と練習を行う。 聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第３回　給食管理臨地実習　報告会③：障害者福祉施設	実習を振り返り、報告の準備と練習を行う。 聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第４回　給食管理臨地実習　報告会④：事業所	実習を振り返り、報告の準備と練習を行う。 聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第５回　給食管理臨地実習　報告会⑤：自衛隊	実習を振り返り、報告の準備と練習を行う。 聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第６回　公衆栄養学臨地実習　ガイダンス	保健所、市町村の管理栄養士の役割を復習する。
第７回　公衆栄養学臨地実習に必要な事柄について	実習を行う際に必要となる知識を確認し、理解する。
第８回　公衆栄養学臨地実習　報告会の聴講①：保健所	医療機関の管理栄養士の役割を復習する。
第９回　臨床栄養学臨地実習に必要な事柄について	実習を行う際に必要となる知識を確認し、理解する。
第10回　公衆栄養学臨地実習　報告会の聴講①：保健所	聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第11回　公衆栄養学臨地実習　報告会の聴講②：市町村	聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第12回　臨床栄養学臨地実習　報告会の聴講①：医療機関	聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第13回　臨床栄養学臨地実習　報告会の聴講②：医療機関	聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第14回　給食管理臨地実習　報告会⑥：介護福祉施設	実習を振り返り、報告の準備と練習を行う。 聴講した内容を施設ごとに復習し、理解する。 今後の課題を考える。
第15回　4年次の臨地実習にむけて	今後の実習の目標を考える。 実習に必要な知識、技術を学習する。

■ 履修上の注意

・3年次の校外実習・臨地実習のまとめと報告、4年次の臨地実習の事前準備となる授業のため、積極的な姿勢で取り組むこと。
・遅刻や無断欠席がないよう注意する。
・受講態度に問題のある者（居眠り、私語など）は、状況に応じて注意、指導する。状況によっては減点、評価対象から外す（不合格）となる場合もある。

■ 成績評価方法・基準
・受講態度50%（積極的な態度、目的意識、遅刻・欠席の状況）、提出物50%（内容、提出期限の順守）
・提出物は、適時フィードバックを行う。

■ 教科書
〔臨地実習テキスト〕〔大学オリジナル〕〔無料〕
〔管理栄養士・栄養士になるための国語表現〕〔田中貞一郎ほか〕〔萌文書林〕〔1，800円+税〕

■ 参考書
なし。適時紹介する。

■ 備考
質問等については、各授業の担当教員が授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）で受付ける。

家政特別講義Ⅳ

(11276)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄　　高　橋　　文

■ 授業の概要

公衆栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱ、ならびに臨床栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱの実習前、ならびに実習後に必要な事項を教授する。具体的な内容は、次の通りである。

（1）実習前の授業　①実習施設の特徴、管理栄養士・栄養士の業務や役割について解説する。実際に、実習施設の管理栄養士による特別講義も行う。②実習を行うために必要な準備、注意事項などについて説明する。③事前課題に関する指導、助言を行う。

（2）実習後の授業：実習のまとめ、実習報告について、適宜指導、助言を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・実習先の施設の特徴を理解できるようになる。 ・実習先の管理栄養士の業務、役割を理解できるようになる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：実習の目的・目標の説明（栗山、高橋）	予習：公衆栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱ、ならびに臨床栄養学臨地実習Ⅰ・Ⅱのシラバスを熟読する。復習：実習の目的・目標を確認する。
第２回　保健所栄養士の業務と役割（栗山、保健所栄養士）	予習：栄養行政と保健所の役割について確認する。復習：保健所栄養士の業務と役割について確認し、レポートにまとめる。
第３回　市町村栄養士の業務と役割（栗山、市町村栄養士）	予習：栄養行政と市町村の役割について確認する。復習：市町村栄養士の業務と役割について確認し、レポートにまとめる。
第４回　病院栄養士の業務と役割（高橋、病院栄養士）	予習：病院栄養士に関する内容について確認する。復習：病院栄養士の業務と役割について確認し、レポートにまとめる。
第５回　老健施設栄養士の業務と役割（高橋、老健施設栄養士）	予習：老健施設栄養士に関する内容について確認する。復習：老健施設栄養士の業務と役割について確認し、レポートにまとめる。
第６回　実習施設に関する注意事項の説明（栗山、高橋）	授業内容を復習し、実習施設ごとの注意事項を理解する。そのうえで、どのような態度で実習に臨むかを考える。
第７回　実習関係の書類、日誌の記入方法について（栗山、高橋）	実習の目的・目標を確認のうえ、書類や日誌の記入に関する要点を理解する。
第８回　実習施設の特徴の把握（栗山、高橋）	実習施設の特徴を配属施設のホームページ等で調べる。調べた内容を、実習ノートにまとめる。
第９回　実習施設ごとの事前課題の確認（栗山、高橋）	実習先に事前課題の問合せを行う。事前課題の内容を理解したうえで、実習担当教員と打ち合わせを行う。
第10回　事前課題の作業・打合せ（栗山、高橋）	事前課題をまとめる。教員から指示を受けた箇所の修正を行う。
第11回　事前課題の作業状況の確認・打合せ（栗山、高橋）	事前課題の内容を見直し、実習担当教員の確認を受ける。
第12回　事前課題の発表練習（栗山、高橋）	発表条件を確認の上、練習を行う。
第13回　臨地実習のまとめ（栗山、高橋）	実習を振返り、要点をまとめる。
第14回　実習報告の内容確認・打合せ（栗山、高橋）	報告内容を検討する。
第15回　実習報告の準備（栗山、高橋）	実習報告会の準備として、スライドと配布資料の作成に取り組む。

■ 履修上の注意

・公衆栄養学と臨床栄養学の臨地実習を履修する者は、本科目を履修すること。

・臨地実習の一環として、実習配属先の管理栄養士による特別講義を行う。受講して、実習の準備を行う。
・積極的な姿勢で学習に取り組むこと。
・実習課題によっては、授業時間外に作業を行うこともある。

■ 成績評価方法・基準
・受講態度50%（積極的な態度、目的意識、遅刻状況）、提出物50%（内容、提出期限の順守）※ルーブリックで評価
・提出物、事前課題は、適時フィードバックを行う。

■ 教科書
臨地実習テキスト〔大学オリジナル〕〔無料〕

■ 参考書
管理栄養士・栄養士になるための国語表現〔田中貞一郎ほか〕〔萌文書林〕〔1800円+税〕
（※）「健康栄養学総合演習Ⅰ」履修者は購入済み

■ 備考
質問等については、各授業の担当教員に授業終了時あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示等で確認）
で受付ける。

課題研究　令和2年度入学生

(11277)

単位（総授業時間数＋自習時間）：６（180 + 90）
対象学科：健専３年・健専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鈴　木　裕　行

■ 授業の概要
食品・栄養学分野でこれまでの学習を基にしての課題発見、課題解明に関連する資料や文献の調査、課題を解明するための研究方針の立案・必要とされる実験技術の習得・実験実施、実験や調査で得られたデータの解析と整理・図表化、得られた結果からの考察を行う。さらに、それらをまとめた論文執筆、さらにスライドプレゼンテーションを作成し、最終的に発表会でのプレゼンテーションを実施する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・これまでの学修を基に課題発見できる ・課題解決のための研究方法を立案し実行できる ・研究成果を取りまとめた論文を作成し、プレゼンテーションができる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　第1～5回：テーマ選定	自身の持つ問題意識を関連の文献・資料を検索し熟読することで深め、具体的な研究課題（テーマ）を考える。
第２回　第6～37回：研究指導	・課題を解決するための研究（実験・調査）方法を、先行研究を参考にして設定する。 ・実験・調査を実施して得られたデータを整理し、図表に取りまとめ、データから考えられる事をまとめる。
第３回　第38・39回：課題研究発表プレゼンテーション作成	・課題・一連の研究方法・得られた結果・考察を論文にまとめるとともに、簡潔に説明するスライドプレゼンテーションを作成する。
第４回　第40回：課題研究発表	・課題・一連の研究方法・得られた結果・考察を論文にまとめるとともに、簡潔に説明するスライドプレゼンテーションを作成する。
第５回　第41～43回：課題研究論文作成	・課題・一連の研究方法・得られた結果・考察を論文にまとめるとともに、簡潔に説明するスライドプレゼンテーションを作成する。
第６回　第44・45回：課題研究発表ポスター作成	・課題・一連の研究方法・得られた結果・考察を論文にまとめるとともに、簡潔に説明するスライドプレゼンテーションを作成する。

■ 履修上の注意
研究テーマに関連する文献を数多く熟読して研究方針の立案、論文作成の参考にする。
（２単位分を３年次後期・４単位分を４年次通年で実施する）

■ 成績評価方法・基準
論文、プレゼンテーション、研究への取り組み・・・評価の割合等、詳細はルーブリック参照
成績評価に関しては、授業はじめにルーブリックを提示する。
提出物・提示案等に対するフィードバックとして、その都度、授業内で添削・コメント等を行う。

■ 教科書
無し（適宜、資料を配布する）

■ 参考書
これから研究を始める高校生と指導教員のために、酒井聡樹、共立出版、2，600円＋税

■ 備考
3年後期～4年通年、オフィスアワーは掲示・配布資料参照。

課題研究　令和2年度入学生

(11278)

単位（総授業時間数＋自習時間）：６（45 + 90）
対象学科：健専３年・健専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
佐　藤　靖　子

■ 授業の概要
3年次では、興味のある食品について関連する研究論文を検索し、食品に対する情報を収集させ、研究テーマを決定させる。また、研究しようとする食品の組織構造を見るための標本作成を行う。
4年次では、決定した研究内容について、食品の標本を作製し、光学顕微鏡による観察資料の評価を行う。研究結果を討論しながら目的・方法・結果のまとめ方および考察能力の向上を目指す。さらに、研究成果に対するプレゼンテーション力を身につけられるよう指導する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・1.研究に関連する情報の収集ができる	
・2.実験計画・実施ができる	
・3.結果に対する考察力、プレゼンテーション力を身につける	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　１ガイダンス：目的など	研究目的を達成できるよう準備する
第２回　２～６ テーマの選定および情報収集	研究目的を達成できるよう準備する
第３回　７～10　基礎実験計画	研究目的を達成できるよう準備する
第４回　11～15　基礎実験	研究目的を達成できるよう準備する
第５回　16～34　研究指導	研究目的を達成できるよう準備する
第６回　35～39　論文作成	研究目的を達成できるよう準備する
第７回　40～42　プレゼンテーション準備	研究目的を達成できるよう準備する
第８回　43　研究発表	研究発表準備と自己評価を行う
第９回　44　論文提出	論文提出の準備をする
第10回　45　ポスター作成	ポスターを作成する

■ 履修上の注意
研究課題の情報収集を行う．　欠席連絡は速やかに行い特に実験に支障が無いようにする。

■ 成績評価方法・基準
受講態度50%、論文・プレゼンテーション50%
計画・実験の前後に十分な話し合いを行い、学生の理解度を確認しながら進めていく。
課題提出期限の厳守、プレゼンテーション準備、発表態度およびポスター制作の取り組みにより評価する。

■ 教科書
なし

■ 参考書
ガイダンスにて紹介する

■ 備考
3年後期～4年通年
質問等は、授業終了時またはオフィスアワー（日時は掲示を確認の事）に受け付ける

課題研究　令和2年度入学生

(11280)

単位：６
対象学科：健専３年・健専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
栗　山　孝　雄

■ 授業の概要

本研究では、衛生学、公衆衛生学、公衆栄養学分野に関連する研究テーマを扱う。これらの学問分野の中で、近年社会的に取り上げられることの多い食品ロス、持続可能な開発目標（SDGｓ）などを中心に、研究テーマを設定する。研究を行う際には、教員と履修者で意見交換の上、具体的な研究テーマを設定する。その上で、履修者が設定した研究テーマに取り組むための研究方法、論文の執筆、発表方法等について教授する。なお、研究成果は、課題研究発表会と課題研究展等で報告する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・研究テーマを設定し、研究を展開する能力を身につける。 ・研究に関する情報や文献を収集し、内容を吟味する力を身につける。 ・論文をまとめ、研究発表する力を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　1～5　テーマの選定	研究テーマに関する情報を収集する。 具体的な研究テーマを検討する。
第２回　6～34　研究の実施と指導	自主的に研究を進める。 研究指導を通じて、作業状況の確認、検討を行う。
第３回　35～40　発表準備：　発表原稿作成、発表の練習	発表すべきをまとめる。 所定時間内での発表する技術を習得する。
第４回　41　研究発表	発表の要点、質疑応答の対応を確認する。
第５回　42～43　論文修正、提出	論文を見直し、適宜修正を行う。
第６回　44～45　ポスター作成	研究報告をポスターにまとめる。

■ 履修上の注意

・研究テーマは教員より提示される。その内容について、学生と相談のうえ、テーマを決める。
・研究テーマに関する情報や論文などを積極的に収集する意欲が必要である。
・データを集計、処理するためのパソコン操作能力が必要である。
・研究テーマの設定と研究発表、論文やポスターの作成は個人ごとに行う。
・研究の実施時間は、教員と履修者で相談のうえ、決める。そのため、時間割の時間外で行う場合もある。

■ 成績評価方法・基準

・研究態度（30%）、研究発表（20%）、論文の内容（50%）を総合して、成績評価を行う。
・提出物については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

なし。

■ 参考書

適宜紹介する。

■ 備考

3年後期～4年通年

課題研究　令和2年度入学生

(11281)

単位：６
対象学科：健専３年・健専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
川　俣　幸　一

■ 授業の概要
スポーツ栄養学分野または応用栄養学分野、薬と栄養（登録販売者等）の分野において自ら学び、そこから湧き出たリサーチクエスチョンの解決を目指す。研究の充実を図るため、最初の半年は共通の特別講義として統計学の基礎を学ぶ。加えてJ-stageかcinii、pubmedなどにて文献を検索し、興味のある分野の最新論文の読み合わせ会も行う。知識が身についたところで、それぞれ個人の研究課題を実践するため、一人あたり一箇所の研究フィールドにて全国レベル（論文発表レベル・学会発表レベル）を前提とした研究活動を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・課題発見、研究計画の立案・実施、集計作業などを通じて情報処理能力を高める ・発表会でのプレゼンテーション、課題研究の論文提出を通じて総合能力を高める	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（3コマ）	事前学習として、おおまかで良いので自分のやりたい事を頭の中で整理してきて下さい。
第２回　統計学講義（10コマ）	事前学習は配布プリントの予習。事後学習としてレポート作成。
第３回　スポーツ栄養学特別講義（3コマ）	事前学習は配布プリントの予習。事後学習としてレポート作成。
第４回　文献勉強会（3コマ）	事前学習は配布プリントの予習。事後学習としてレポート作成。
第５回　研究指導（20コマ）	事前学習はそれぞれのテーマの文献整理。事後学習として結果集計・考察のドラフト作成など。
第６回　課題研究発表の準備（3コマ）	事前学習は結果集計。事後学習としてパワーポイントの原稿作成。
第７回　課題研究論文の作成（3コマ）	事前学習は結果集計。事後学習として論文作成。

■ 履修上の注意
研究活動では全員がフィールドに出て学外の第三者から学びますが、その全てが信頼関係に基づいています。研究室内では、礼儀や礼節、親や教員・先輩への感謝の気持ち、真摯に学ぶ態度を何より大切にしています。したがって1-2年次の出席状況、応用栄養学分野の成績、課題研究発表会の参加状況、教員へのこれまでの態度などを鑑みた上で、学生の履修（入門）をお断りする場合があります。
第一希望の研究室に入門できるよう、真面目で礼儀正しい学生生活をお送りください。

■ 成績評価方法・基準
課題研究発表会の内容・・・30%
課題研究論文の内容・・・30%
取り組み状況・・・40%
提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。

■ 教科書
なし

■ 参考書
なし

■ 備考
3年後期～4年通年。
質問については、授業時間内またはオフィスアワーにて対応する

課題研究　令和2年度入学生

(11282)

単位（総授業時間数＋自習時間）：６（180 + 90）
対象学科：健専３年・健専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
八　巻　美智子

■ 授業の概要
食品学や栄養学分野に関連する学修を基礎として研究課題についてテーマを決め、文献調査方法、研究方法、実験技術などについて指導する。研究課題達成の為にはどのような文献調査が必要で、またどのような実験方法を用いるのがベストなのかについて検討しながら進める。さらに得られた結果のデータを解析、考察し、論文作成を実施する。また、スライドプレゼンテーションの作成とよりよいプレゼンテーションについて指導し、ポスター作製（作成）を実施する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・研究に関する情報や文献を収集し、理解する能力を修得する。 ・実験技術の修得 論文をまとめ、研究発表する能力を身に付ける。 ・自ら学び研究する意義を見出す。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　第1回：研究ガイダンス文献調査方法	事後：文献調査方法を理解する
第２回　第2回：文献調査方研究テーマについて	事後：テーマに関することについて調べる
第３回　第3回：研究テーマについて	事後：テーマに関することについて調べる
第４回　第4回：実験計画	事後：研究計画について自分なりに考える
第５回　第5回～第15回 基礎実験(実験技術修得)	事前、事後：実験技術を修得できるよう努力する
第６回　第16回～第37回 研究指導	事前、事後：研究について理解する
第７回　第38回～40回 論文作成	事前、事後：論文作成を行う
第８回　第41回～第42回 研究発表会準備(パワーポイント作成)	事前、事後：発表会準備を行う
第９回　第43回 研究発表	事後：発表会の反省会、論文の修正などを行う
第10回　第44回 論文修正	論文修正とポスター作成を行う
第11回　第45回 ポスター制作	ポスター作成
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

■ 履修上の注意
自ら進んで研究に取り組む意欲が必要。無断欠席はしない。教員等からの指導やアドバイスに従う事。状況によっては時間割の時間外で行う場合がある。

■ 成績評価方法・基準
研究態度（50%）、研究発表（25%）、論文の内容（25%）を総合して成績評価を行う。課題等については研究中にフィードバックをする。

■ 教科書
課題研究内容に応じて指示します

■ 参考書
必要に応じて紹介します

■ 備考

質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワー（曜日時間は掲示で確認）に受け付けます。

3年後期～4年通年

課題研究　令和2年度入学生

(11283)

単位（総授業時間数＋自習時間）：６（180 + 90）
対象学科：健専３年・健専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
髙　橋　　文

■ 授業の概要

本研究では、病院および高齢者施設における管理栄養士の実務経験を生かし、臨床栄養学分野に関連した課題研究を行う。
これまでの臨床栄養学で修得した専門知識・技能を総合的に活用しての研究テーマ設定、および研究に必要な文献などを熟読し知識の整理と理解力を深める。研究テーマを基に研究計画を立案し調査・試験などを実施する。そして、データ収集・分析より得られた結果は多角的な視点で考察を行う。最終的な成果は研究論文としてまとめるとともに発表会でのプレゼンテーションを実施する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・研究課題を設定し、研究の目的を明確にする	
・研究計画に従い、データの収集、分析ができる	
・研究結果を考察し、論文としてまとめることができる	
・研究内容についてわかりやすく発表することができる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　1. ガイダンス	興味のある研究テーマについて調べる
第２回　2. ～5.　研究テーマの決定・情報取集	課題研究について情報収集する
第３回　6. ～10.　研究計画の検討・立案	研究方法などについて計画を立案する
第４回　11. ～31.　文献検索、データ収集・分析、研究指導	文献資料を収集し、課題に取り組む
第５回　32. ～38.　論文作成	研究成果を論文にまとめる
第６回　39. ～41.課題研究発表準備	パワーポイントを使用し、発表の準備をする
第７回　42.　課題研究発表	プレゼン資料を完成させる
第８回　43.　課題研究論文修正、提出	論文を完成させる
第９回　44.　課題研究展準備	ポスター作成の準備
第10回　45.　課題研究展	研究内容を確認する

■ 履修上の注意

・日頃から研究に関する情報収集を行い、積極的に研究に取り組む意欲が必要である。
・統計を使用する場合もあるため、学修しておく。
・研究および論文を作成することによって、何を学び、今後どのように活かしていくのかを考える。

■ 成績評価方法・基準

・課題研究に取り組む態度30%、研究発表20%、論文の内容50%を総合的に判断して評価する。
・提出物については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書

なし

■ 参考書

適宜紹介する

■ 備考

・3年後期～4年通年
・質問等については、オフィスアワー以外でも受け付ける。

課題研究　令和2年度入学生

(11284)

単位（総授業時間数＋自習時間）：６（90 + 180）
対象学科：健専３年・健専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
伊　藤　常　久

■ 授業の概要
本研究では、健康科学や保健学、公衆衛生といった健康・医療・福祉分野に関する研究テーマを扱う。これらの学問分野で社会的な課題や潮流となっている事柄（子ども食堂、健康・体力づくり、食品ロス、SDGs、環境問題、ヘルスプロモーション等）を中心に研究課題を検討する。研究の際には、履修学生と教員で話し合いの上、具体的な研究テーマを設定し、それに取り組むための研究方法や論文作成、発表方法等について授業を進める。なお、研究成果は、課題研究発表会と課題研究展等で報告する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・テーマを設定して、研究を展開する能力を身につける。 ・研究に関する文献や資料、必要な情報を収集して内容を吟味する能力を身につける。 ・論文をまとめ、発表する力を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　1～6　テーマ選定	研究テーマに関する情報を収集する。 具体的な研究テーマを検討・決定する。
第２回　7～35　研究の実施	自主的に研究を進める。 研究の進捗状況の確認、及び検討を行う。
第３回　36～40　発表準備	発表内容をまとめる。 口頭で発表する技術を習得する。 質疑応答の準備をする。
第４回　41　研究発表	研究の概要と要点を発表する。 質疑応答に対応する。
第５回　42～43　論文修正、提出	論文の手直し、修正等を行う。
第６回　44～45　ポスター作成	研究内容をポスターにまとめる。

■ 履修上の注意
課題研究は1年半にわたる授業のため、取り組み方によって学びの成果が変わってくる。是非、主体的・積極的に向き合うことで専門的な知識・技術を修得する共に研究の面白さや楽しさを見出して欲しい。

■ 成績評価方法・基準
課題研究発表会の内容25%、課題研究論文の内容：35%、研究への取り組み状況：40%。
提出されたレポート等は確認し、後日フィードバックする。

■ 教科書
なし。

■ 参考書
適宜指示する。

■ 備考
3年後期～4年通年
質問については、授業時間内やオフィスアワーにて対応する。

課題研究 令和2年度入学生

(11285)

単位（総授業時間数＋自習時間）：６（180 + 90）
対象学科：健専３年・健専４年
授業形態：演習　学期：通年　必・選：選択
家政学部　家政学科　健康栄養学専攻科目
鴫　原　美智子

■ 授業の概要
給食経営管理、栄養疫学に関連する研究テーマを扱う。学校給食の実務経験をいかし、給食関連、学童の食に関する問題について、栄養・食生活・生活環境を総合的に調査し、その中で自分自身の興味ある項目を取り上げ、課題を検討していく。研究方法、文献検索など、論文の執筆、発表方法に必要な内容について教授する。なお、研究成果は、課題研究発表会、課題研究展等で報告する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・研究テーマを設定し、研究を行うことができる。 ・研究についての文献検索、内容の吟味ができる力を養う。 ・論文としてまとめ上げ、発表する能力を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　1.ガイダンス	興味のある分野についてまとめておく。
第２回　2～5.研究課題の検討	文献検索、情報収集を行う。
第３回　6～10.調査内容検討、調査の実施	課題研究についての計画を立案する。
第４回　11～35.研究の実施、解析、まとめ	データベース作成、解析し、これらから結果を読み考察する。
第５回　36～40.発表準備	発表に向けて、要点をまとめる。
第６回　41～45.論文、ポスター作成	論文，ポスター作成の方法を学びながら、作成する。

■ 履修上の注意
・データベース作成・文献検索・データ解析にあたり、パソコンでの操作が必要である。
・積極的に研究し、データを活用できるよう自主的に取り組む。
・状況によっては、時間割の時間外で行う場合もある。

■ 成績評価方法・基準
・研究態度（50%）、研究発表（20%）論文の内容（30%）を総合して、成績評価を行う。
・提出物については、適宜フィードバックを行う。

■ 教科書
なし

■ 参考書
適宜紹介する。

■ 備考
3年後期～4年通年

教 職 に 関 す る 科 目

教育原理

(19801)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・健専２年・服専１年・服専２年・美表１年・美表２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
教職に関する科目
山　口　刀　也　　山　沢　智　樹

■ 授業の概要

本講義では第一に、教育の本質を理解するために教育の目的や意味、家庭教育や学校教育等の基礎理念を整理する。第二に、日本と諸外国における教育の起源や歴史、思想について、子ども観や教育観の変遷を手掛かりに検討する。第三に、とりわけ日本の戦後教育が直面してきた諸課題から、今日の教育理念について検討する。また、教職に向けた各自の子ども観や教育観の“変化”や“再認識”等の諸相について、受講状況等に鑑みながら設けるレポート発表やグループ討論の機会を通じて、確かめていく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1.教育の本質・目的・概念に関する基礎的な知識を習得する。	
・2.教育の歴史的変遷や現代社会における教育課題を理解する。	
・3.日本と諸外国の教育思想について理解する。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション	（事前）シラバスの確認、学習内容を見通す。 （事後）配布資料を読む。
第２回　教育の本質と意義：教育とは何か	（事前）辞書等で「教育」について調べ、オリジナルな説明を準備する。 （事後）配布資料を読む
第３回　教育の目的と目標	（事前）教育の意義とは何か考える。 （事後）配布資料を読む。
第４回　教育の歴史①教育のはじまり	（事前）事前の配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第５回　教育の歴史②子どもの発見	（事前）辞書等で「子ども」について調べ、オリジナルな説明を準備する。 （事後）配布資料を読む。
第６回　教育の歴史③教育をめぐる場と内容	（事前）辞書等で「学校」について調べ、オリジナルな説明を準備する。 （事後）配布資料を読む。
第７回　教育の思想①発達とは何か	（事前）辞書等で「発達」について調べ、オリジナルな説明を準備する。 （事後）配布資料を読む。
第８回　教育の思想②公教育の組織と制度	（事前）事前の配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第９回　教育の歴史④近代以前の日本における学び	（事前）事前の配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第10回　教育の歴史⑤日本における公教育制度の成立	（事前）明治維新前後の日本史について、若干の復習しておく。 （事後）配布資料を読む。
第11回　教育の思想③生涯にわたる多様な教育、学習の機会	（事前）学校以外での学びの機会について、身近な例について調べる。 （事後）配布資料を読む
第12回　戦後教育改革①現代における教育理念	（事前）太平洋戦争敗戦後以降の日本史について、若干の復習しておく。 （事後）配布資料を読む。
第13回　戦後教育改革②現代における教育制度	（事前）関係する国、都道府県、市区町村等の教育行政組織について調べる。 （事後）配布資料を読む。
第14回　教育に関する歴史的課題と今日的課題	（事前）課題レポートを完成させる。 （事後）配布資料を読む
第15回　まとめと試験	（事前）講義内容を振り返り、試験に備える。

（事後）試験問題について、解答例、出題意図について配布資料で確認する。

■ 履修上の注意
・本科目は教職科目の一つであるため、教員免許取得に向けて真摯な姿勢（Ex.教員として勤務することになった際の責務を自覚するetc.）で受講することを強く求める。
・配布資料が多いので、ファイリング等して失くさないようにすること。
・毎回の課題の提出をもって出席と扱う。期限を過ぎてからの提出は、出席確認として受領するが、平常点としての「加算」はしない。

■ 成績評価方法・基準
・平常点（毎回の課題への取り組みと内容）40%、レポート30%、試験30%
・毎回の課題については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。
・提出されたレポートは、授業内で使用する。
・試験については、解答例、出題意図等の解説を配布することでフィードバックとする。
その他、詳細についてはオリエンテーションで説明する。

■ 教科書
適宜、講義資料を配布する。

■ 参考書
〔教育思想史〕〔今井康雄編〕〔有斐閣アルマ〕〔2，200円〕
〔よくわかる教育原理〕〔汐見稔幸ほか編著〕〔ミネルヴァ書房〕〔2，800円〕
〔アクティベート教育学01教育原理〕〔木村元・汐見稔幸編著〕〔ミネルヴァ書房〕〔2，000円〕
〔子ども白書2022〕〔日本子どもを守る会編〕〔かもがわ出版〕〔2，800円〕
〔教育〕〔教育科学研究会編〕〔旬報社〕〔990円〕※月刊雑誌

■ 備考
・本科目の履修及び単位修得に関する事項について詳しくは、1回目のオリエンテーションで説明する。
・質問等については、授業の開始前及び終了後に講義室で直接、あるいはメール、Google classroom（授業時に連絡）上などでも受け付ける。

教職概論

(19802)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専１年・服専１年・美表１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
教職に関する科目
大　迫　章　史　　吉　田　　実

■ 授業の概要

教師という職業（教職）の意義・職務・課題について学修を進め、自分の将来の進路として、教職を選択することの適否について考えることができるようになること、これを授業の目的とする。

(1)教職に対する社会的期待（教職観）がどのような変遷を辿って今日に至っているのか、(2) 教職に関する法制や制度がどのような仕組みと構造になっているのか、(3) 教職の現実を教員が実際に出くわすと思われる場面を想定しながら理解できるようにする。以上を学修内容とする。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・(1) 教師という職業の変遷について、その概略を理解できるようになる。 ・(2) 教師という職業に関する法制や制度について、その概略を理解できるようになる。 ・(3) 教師という職業の実際について、その難しさも含めて理解できるようになる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス（大迫・吉田）	シラバス等の熟読。
第２回　教師のしごとの実際（VTR併用）（吉田）	教師の仕事へイメージをもつ。レジュメの振り返り。
第３回　教職観の変遷：聖職者　⇔　労働者　⇔　専門職（吉田）	教師のあり方を考えておく。レジュメの振り返り。
第４回　専門職としての教師：他の専門職との比較（吉田）	専門職について考えておく。レジュメの振り返り。
第５回　公教育と教師：公共的使命、身分保障と服務（吉田）	教師の役割を考えておく。レジュメの振り返り。
第６回　教師の職能成長：研修をめぐる諸問題（吉田）	研修について調べる。レジュメの振り返り。
第７回　カリキュラム編成と教師（大迫）	カリキュラムを調べる。レジュメの振り返り。
第８回　授業づくりと教師（大迫）	学習指導案について調べる。レジュメの振り返り。
第９回　子どもの権利と教師（大迫）	子どもの権利条約を調べる。レジュメの振り返り。
第10回　児童・生徒の懲戒（１）：教育作用としての懲戒（大迫）	懲戒を調べる。レジュメの振り返り。
第11回　児童・生徒の懲戒（２）：とくに体罰をめぐって（大迫）	体罰について調べる。レジュメの振り返り。
第12回　受講者の報告（被教育体験）とグループ討議①：いま教師に求められる力量について（大迫）	自らが教育を受けてきた経験を振り返り、文章等にまとめる。
第13回　受講者の報告（被教育体験）とグループ討議②：いま教師に求められる力量について（大迫）	自らが教育を受けてきた経験を振り返り、文章等にまとめる。
第14回　「チーム学校」という考え方（大迫）	組織で働くことを考える。レジュメを振り返る。
第15回　「教員文化」をめぐる諸問題（大迫）	教員文化について調べる。レジュメの振り返り。
第16回　最終試験（大迫・吉田）	

■ 履修上の注意

私語等は厳に慎むこと。パソコン等も使用しないので、原則机上には出さないこと。携帯電話等もカバン等にしまうこと。課題等の提出期限はを厳守すること。

■ 成績評価方法・基準

毎回講義後の小テスト(30%)、10回の授業終了時に提示する小レポート（20%）、最終試験（50%）。小テストは受験後、解答・解説を公開する。レポート・試験については講義内で講評等を行う。

■ 教科書

教科書は指定しない。講義は、担当者が配布するレジュメにもとづき進める。

■ 参考書

教職概論第5次改訂版　佐藤晴雄　学陽書房　2640円　その他の参考書は授業内で随時紹介する。

■ 備考

（1）資格要件に関する情報　⇒　教育職員免許状の取得に必要な授業科目です。

（2）特別な配慮を要する学生に対する扱い　⇒　申し出て下さい。

（3）オフィスアワー　⇒　質問等については、授業終了時あるいはメール、GoogleClassroom等で受け付けます。

教育制度論

(19803)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年・服専３年・美表３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
教職に関する科目
山　口　刀　也　　山　沢　智　樹

■ 授業の概要

本講義では学校中心とする教育制度について主に、以下３点から考える。第一に、日本と諸外国の教育制度を原理的、歴史的、構造的に検討する。第二に、今日における教育制度を構成している教育関係の法規や、教育制度を実行に移す主体としての教育行政の仕組みについて、日本国憲法が規定する教育を受ける権利の保障という観点から検証する。その際、近年の学校教育と教育政策における課題と関連付けて考察する。第三に、学校と家庭、地域との連携ないし協働に関する意義を、学校における安全確保に関する側面も含めて検討する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・1.教育に関する制度的な基礎知識を習得する。 ・2.社会と学校教育の結びつきを理解し、教育政策の動向を理解する。 ・3.学校と家庭及び地域との連携および学校安全への対応に関する知識を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション：制度の意味と学ぶ意義	（事前）シラバスを確認し、学習内容を見通す。 （事後）配布資料を読む。
第２回　日本国憲法と教育制度	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第３回　教育行政の地方分権	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第４回　一般行政と教育行政	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第５回　教育行政の民主化	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第６回　学校設置と学校管理	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第７回　学校評価	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第８回　教員をめぐる制度①身分保障と専門性	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第９回　教員をめぐる制度②労働条件	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第10回　学校安全と教育条件	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第11回　開かれた学校づくりと参加	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第12回　参加と共同による学校づくり	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第13回　教育内容をめぐる制度	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第14回　近年の教育制度をめぐる状況	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）配布資料を読む。
第15回　まとめと試験	

■ 履修上の注意

・本科目は教職科目の一つであるため、教員免許取得に向けて真摯な姿勢（Ex.教員として勤務することになった際の責務を自覚するetc.）で受講することを強く求める。
・配布資料が多いので、ファイリング等して失くさないようにすること。
・毎回の課題の提出をもって出席と扱う。期限を過ぎてからの提出は、出席確認として受領するが、平常点としての「加算」はしない。

■ 成績評価方法・基準
・平常点（毎回の課題への取り組みと内容）40%、レポート30%、試験30%
・毎回の課題については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。
・提出されたレポートは、授業内で使用する。
・試験については、解答例、出題意図等の解説を配布することでフィードバックとする。
その他、詳細についてはオリエンテーションで説明する。

■ 教科書
適宜、講義資料を配布する。

■ 参考書
〔未来を創る教育制度論［改訂版］〕〔川口洋誉・中山弘之編著〕〔北樹出版〕〔2，200円〕
〔事例で学ぶ　学校の安全と事故防止〕〔添田久美子・石井拓児編著〕〔ミネルヴァ書房〕〔2，400円〕
〔教育小六法2023年版〕〔勝野正章ほか編〕〔学陽書房〕〔2，800円〕

■ 備考
・本科目の履修及び単位修得に関する事項について詳しくは、1回目のオリエンテーションで説明する。
・質問等については、授業の開始前及び終了後に講義室で直接、あるいはメール、Google classroom（授業時に連絡）上などでも受け付ける。

教育心理学

(19804)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年・服専２年・美表２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
教職に関する科目
宮　前　　理

■ 授業の概要
教師として児童・生徒を指導する上で必須の心理学の知見を学ぶ。パーソナリティ、知能（認知）、発達段階と遺伝要因・環境要因の関わり方に注目した発達理論、また動機付け等に関する学習理論を教授する。理解を深めるために知能検査を紹介する。学級集団の理解と学級集団づくりにおける教師の役割について、いじめ、不登校、発達障害、生徒指導と危機管理などの学級集団に関わる諸問題を教師の具体的な教育活動に関連付けながら教授する。

■ 授業の到達目標　　学位授与の方針との関連

①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

・1　児童生徒の発達過程の特徴と手がかりとなる理論を理解できる。
　2　動機付け等の学習理論の基礎を理解できる。
　3　学級集団づくりと学級で生じる諸問題について理解できる。

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　授業の概要説明	教育心理学の意義と課題、学習内容を確認する
第２回　発達の理論	発達段階等についてまとめる
第３回　パーソナリティと適応	テキストの該当部分を熟読する
第４回　パーソナリティ形成における遺伝と環境の要因	配布資料の該当部分を熟読する
第５回　知能（認知）の発達理論	テキストの該当部分を熟読する
第６回　知能（認知）検査	テキストの該当部分を熟読する
第７回　学習の理論と動機付け	配布資料の該当部分を熟読する
第８回　学級集団と教師の役割	配布資料の該当部分を熟読する
第９回　学級集団の理解と学級集団づくり	テキストの該当部分を熟読する
第10回　学級集団の諸問題　不登校/いじめ	テキストの該当部分を熟読する
第11回　学級集団の諸問題　発達障害(1)発達障害とは	テキストの該当部分を熟読する
第12回　学級集団の諸問題　発達障害(2)発達障害支援	テキストの該当部分を熟読する
第13回　学級適応支援と特別支援教育	テキストの該当部分を熟読する
第14回　学級集団の諸問題　危機管理	テキストの該当部分を熟読する
第15回　まとめと試験準備	配布資料、テキストの該当部分を復習し試験に備える

■ 履修上の注意
第一回目に注意事項を説明します。

■ 成績評価方法・基準
試験７０％、レポート課題３０％で評価をします。
試験、レポート課題についてはフィードバックを行います。

■ 教科書
下記の教科書を講義の第一回目までに必ず購入しておいてください。
[心理臨床の育み]［宮前理編著］［八千代出版］[2000円＋税］ ISBN 978-4-8429-1772-6C3011

■ 参考書
講義時に指示します。

■ 備考
受講人数の事情その他の理由で授業計画の順序や内容を修正する場合があります。
質問は講義時やオフィアワーで受付けます。オフィスアワーでの質問等は事前にメール予約してください。

特別支援教育

(19805)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（15 + 30）
対象学科：健専３年・服専３年・美表３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
教職に関する科目
大瀬戸　美　紀

■ 授業の概要
通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の抑制及び心身の発達を理解する。 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 ・障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション：特別支援教育に関する制度の理念や仕組み	当該科目の授業内容や計画について理解する。
第２回　特別支援学校の教育	テキストを読み、予習・復習をする。
第３回　介護等体験の実際	テキストを読み、予習・復習をする。
第４回　障害のある児童生徒との関わり方①（視覚障害、聴覚障害）	テキストを読み、予習・復習をする。
第５回　障害のある児童及び生徒との関わり方②（肢体不自由、病弱）	テキストを読み、予習・復習をする。
第６回　障害のある児童及び生徒との関わり方③（知的障害、発達障害）	テキストを読み、予習・復習をする。
第７回　障害のある子供の保護者に声当事者の声	テキストを読み、予習・復習をする。
第８回　障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応	テキストを読み、予習・復習をする。
第９回　期末試験	

■ 履修上の注意
授業への取り組み（受講態度や発言など）を高く評価します。また、グループワークの際に積極的に話し合いに加わるなどの態度についても評価の一助にします。

■ 成績評価方法・基準
受講態度（２０％）、グループワークへの参加態度（２０％）、期末試験（６０％）で総合的に評価します。

■ 教科書
〔特別支援学校における介護等体験ガイドブック　新フィリア〕
〔全国特別支援学校長会　全国特別支援教育推進連盟　編著〕〔ジアース教育社〕〔1400円〕

■ 参考書
〔演習・保育と障害のある子ども〕〔野田敦史・林恵　編〕〔みらい〕〔2300円〕

■ 備考
質問等については、授業終了時やオフィスアワーに受け付けます。

教育課程論

(19806)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年・服専２年・美表２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
教職に関する科目
山　沢　智　樹

■ 授業の概要

本講義では、教育課程に関する種々の理解と、その編成に関する諸問題について扱う。そのため、学びやカリキュラム、教育課程に関する諸理論、日本における学習指導要領の制度的性質や内容、各学校段階における教育課程編成の原理、カリキュラム・マネジメント等の近年における関連動向について、関連資料の読解も交えながら理解する。また、より広く学校教育を取り巻く昨今の状況についても、学びやカリキュラム、教育課程、学習指導要領に関する視座から検討する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1. 学校教育において教育課程が有する意義を理解する。	
・2. 教育課程編成の原理及び方法を理解する。	
・3. カリキュラム・マネジメントの意義を理解する。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　教育課程の社会における役割と機能	（事前）教育課程について調べて予習する。 （事後）配布資料などを確認して復習する。
第２回　教育課程の基本構造	（事前）教育課程の基本構造について調べて予習する。 （事後）配布資料などを確認して復習する。
第３回　学習指導要領の位置づけと教育課程編成の目的	（事前）学習指導要領の制度について調べて予習する。 （事後）配布資料などを確認して復習する。
第４回　学校における教育課程と授業の指導計画	（事前）学校における教育課程と授業の指導案について調べて予習する。 （事後）配布資料などを確認して復習する。
第５回　教育課程編成の原理	（事前）教育課程編成の原理について調べて予習する。 （事後）配布資料などを確認して復習する。
第６回　学習指導要領の変遷	（事前）教育課程の歴史について調べて予習する。 （事後）配布資料などを確認して復習する。
第７回　現行学習指導要領の特質	（事前）学習指導要領の特質について調べて予習する。 （事後）配布資料などを確認して復習する。
第８回　教科横断的な教育課程とカリキュラム・マネジメント	（事前）カリキュラム・マネジメントについて調べて予習する。 （事後）配布資料などを確認して復習する。
第９回　教育評価とカリキュラム評価	（事前）教育評価とカリキュラム評価について調べて予習する。 （事後）配布資料などを確認して復習する。
第10回　教育課程と学校経営	（事前）これまでに学んだ事を配布資料で中心に復習する。 （事後）配布資料などを確認して復習する。
第11回　教育課程を考えるには	（事前）教育課程の編成方法について調べて予習する。 （事後）配布資料などを確認して復習する。
第12回　教育課程、教育をめぐる今日的課題①教科学習の領域	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）レポートの準備。
第13回　教育課程、教育をめぐる今日的課題②教科外活動の領域	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）レポートの準備。
第14回　教育課程、教育をめぐる今日的課題③学校と社会	（事前）配布資料を読んでくる。 （事後）レポートの準備。

第15回　まとめと試験	（事前）講義内容を振り返り、試験に備える。 （事後）試験問題について、解答例、出題意図について配布資料で確認する

■ 履修上の注意
・本科目は教職科目の一つであるため、教員免許取得に向けて真摯な姿勢（Ex.教員として勤務することになった際の責務を自覚するetc.）で受講することを強く求める。
・配布資料が多いので、ファイリング等して失くさないようにすること。
・毎回の課題の提出をもって出席と扱う。期限を過ぎてからの提出は、出席確認として受領するが、平常点としての「加算」はしない。

■ 成績評価方法・基準
・平常点（毎回の課題への取り組みと内容）40%、レポート30%、試験30%
・毎回の課題については、次回の授業の冒頭でフィードバックする。
・提出されたレポートは、授業内で使用する。
・試験については、解答例、出題意図等の解説を配布することでフィードバックとする。
その他、詳細についてはオリエンテーションで説明する。

■ 教科書
適宜、講義資料を配布する。

■ 参考書
〔中学校学習指導要領（平成29年3月告示）〕〔文科省〕〔東山書房〕〔326円〕
〔高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）〕〔文科省〕〔東山書房〕〔758円〕
〔食に関する指導の手引（第二次改訂版）〕〔文科省〕〔健学社〕〔1，300円〕
＊学習指導要領と食に関する指導の手引きは、文部科学省のウェブサイトからダウンロードすることも可能
〔子ども白書2023〕〔日本子どもを守る会編〕〔かもがわ出版〕〔2，800円〕
〔教育〕〔教育科学研究会編〕〔旬報社〕〔990円〕※月刊雑誌

■ 備考
・本科目の履修及び単位修得に関する事項について詳しくは、1回目のオリエンテーションで説明する。
・質問等については、授業の開始前及び終了後に講義室で直接、あるいはメール、Google classroom（授業時に連絡）上などでも受け付ける。

道徳教育の指導法

(19807)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年・服専３年・美表３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
教職に関する科目
後　藤　　篤

■ 授業の概要
道徳教育は学校の教育活動全体を通して進められるものであるが、その要となるのが「特別の教科　道徳」（以下、道徳科）である。本授業では、道徳教育の理念・歴史に関する学習を通じて、現代における実践的課題を理解するとともに、その課題解決に向けて実践されている「道徳科」の指導法、教材研究や目標・評価のあり方について検討していく。受講者たちと、よりよい道徳教育実践を探求していくための基盤を確認していきたい。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・道徳教育の理念や歴史をふまえて、学校における道徳教育の目標と内容を理解している。 ・児童・生徒の発達に合わせた道徳科の指導方法と指導計画について理解している。 ・道徳科の特性に合わせた指導法と学習評価のあり方について理解している。 ・倫理学、心理学などの知見をふまえて、道徳や道徳性について考察することができる。 ・現代日本における道徳教育の実践的課題を見据えて、道徳科の教材研究、指導案作成ができる。	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　はじめに―本授業の目的・内容・方法について	事後：プリントに示した本時の授業の流れについて理解する。
第２回　道徳とは何か、道徳性とは何か―徳倫理学・義務論・功利主義	事後：配布資料（スライドを含む）を精読する。
第３回　道徳教育の歴史（戦前）教育勅語と国定修身教科書	事前：配布資料（一次資料）を精読する。 事後：配布資料（スライドを含む）を精読する。
第４回　道徳教育の歴史（戦後）教育基本法と初期社会科	事前：配布資料（一次資料）を精読する。 事後：配布資料（スライドを含む）を精読する。
第５回　学習指導要領の改訂と道徳教育	事前：レポート課題文献（「道徳教育化そもそも物語」）を精読する。 事後：配布資料を用いて振り返りを行う。
第６回　道徳教育の現代的課題―学習指導要領(2017)「特別の教科 道徳」	事前：レポート課題を作成し、提出する。 事後：配布資料を用いて振り返りを行う。
第７回　道徳教育の方法（１）授業実践分析（読み物教材を用いた授業方法）	事前：読み物教材（「卒業文集最後の二行」（中３））を読み、授業方法を考える。 事後：授業内で扱った映像資料を振り返る。
第８回　道徳教育の方法（２）授業実践分析（社会問題を扱った授業方法）	事前：授業で対象とする（「防災道徳」授業の取り組み１、２）を読んでおく。 事後：授業内で扱った映像資料を振り返る。
第９回　道徳教育の方法（３）中断読み・モラルジレンマの授業提案	事前：教材（「ダン」をどうする？（小６））を精読し、授業を構想してみる。 事後：配布資料（スライドを含む）を精読する。
第10回　道徳教育の指導案作成（１）道徳科の指導計画	事前：指導計画作成に関する配布資料を読む。 事後：指導案を作成する教材を選んでおく。
第11回　道徳教育の指導案作成（２）教材研究・授業設計	事前：グループ内で分担した教材研究を進める。 事後：授業内容に基づき、指導案作成を進める。
第12回　道徳教育の指導案作成（３）道徳科の特性と学習評価について	事前：ねらいに基づき、指導案作成を進める。 事後：授業内容の視点から指導案を改善する。
第13回　模擬授業・授業改善（１）ねらいと中心発問の検討	事前：指導案を完成させ、模擬授業の準備をする。 事後：授業内容（ねらいと中心発問の検討）の視点から指導案を改善する。

第14回　模擬授業・授業改善（２）発問・展開の検討	事前：指導案を完成させ、模擬授業の準備をする。 事後：授業内容（発問・展開の検討）の視点から指導案を改善する。
第15回　総合討論、まとめ	配布資料（スライドを含む）を精読する。

■ 履修上の注意

・授業内では、適宜ワークショップを取り入れるので、積極的な参加を期待したい。
・提出物及び毎時のシャトルペーパーを忘れずに提出すること。

■ 成績評価方法・基準

毎時のシャトルペーパー15％、レポート課題15％、指導案作成30％、期末レポート40％、計100％（合計60％以上で合格）。指導案作成は、グループ内での模擬授業も含めて評価の対象とする。毎時のシャトルペーパーとレポートについては、後日添削して返却します。

■ 教科書

〔中学校学習指導要領(平成29年告示)解説　特別の教科　道徳編〕〔文部科学省〕〔教育出版〕〔156円＋税〕
を購入しておくこと。
授業前には、適宜スライドに加え、資料を配布する。

■ 参考書

〔悩めるあなたの道徳教育読本〕〔神代健彦・藤谷秀編著〕〔はるか書房〕〔1，800円＋税〕
〔道徳教育のキソ・キホン　道徳科の授業をはじめる人へ〕〔相沢伸幸・神代健彦編〕〔ナカニシヤ出版〕〔2，000＋税〕
〔史料　道徳教育を考える［４改訂版］〕〔波本勝年他編〕〔北樹出版〕〔1，800円＋税〕

■ 備考

質問等は授業終了時オフィスアワーで受け付ける。

特別活動及び総合的な学習の時間の指導法

(19808)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年・服専２年・美表２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
教職に関する科目
須　藤　由　子

■ 授業の概要

特別活動及び総合的な学習の時間の目標，内容，教育課程における位置付けや意義，設立された歴史的背景、変遷等について，学習指導要領の解説書や講師の体験談を通して理解する。学習内容としては，実践事例から題材の見つけ方や取り上げ方を具体的に理解する。学習方法としては，集団活動，話合い活動の方法，テーマ学習，横断的な学習等の意味や生徒の実態に応じた指導・支援の在り方について実践的に理解する。学習指導案の作成と発表を行い，実践的指導力を身に付ける。

教諭として公立小学校で3年間、公立中学校で21年間、11年間の管理職、2年間の教育行政での経験を講義内容に生かす。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・１．総合的な学習の時間及び特別活動の意義や教育課程における位置付け，目標や内容について具体的に理解することができる。 ・２．総合的な学習の時間及び特別活動の具体例を題材に，生徒の実態に応じた指導・支援の在り方を考え，表現できる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　特別活動の目標と内容を理解する。	解説書特別活動編 Ｐ11～Ｐ19を読んでくる。
第２回　特別活動の歴史と変遷を理解する。	解説書特別活動編 Ｐ5～Ｐ10を読んでくる。
第３回　学級活動の目標と内容・指導の在り方を理解する。	解説書特別活動編 Ｐ40～Ｐ44を読んでくる。
第４回　学級力シートの作成と分析方法を理解する。	事前に配布された資料を読んでくる。
第５回　学校行事の目標と内容・指導の在り方を理解する。	解説書特別活動編 Ｐ92～Ｐ93を読んでくる。
第６回　生徒会活動と部活動の意義と指導の在り方を理解する。	解説書特別活動編 Ｐ74～75、109～Ｐ112を読んでくる。
第７回　年間指導計画の作成と内容の取扱いの配慮事項を理解する。 学習指導案を作成する。	解説書特別活動編 Ｐ113～Ｐ124を読んでくる。
第８回　学習指導案の発表をする。	指導案を完成してくる。
第９回　総合的な学習の時間の背景と実践上の課題を理解する。	解説書総合的な学習の時間編 Ｐ1～Ｐ7を読んでくる。
第10回　総合的な学習の時間の目標と意義を理解する。	解説書総合的な学習の時間編 Ｐ9～Ｐ13を読んでくる。
第11回　総合的な学習の時間の教育課程への位置付けを理解する。	解説書総合的な学習の時間編 Ｐ18 ～Ｐ22を読んでくる。
第12回　総合的な学習の時間の計画・実践・評価のプロセスを理解する。	解説書総合的な学習の時間編 Ｐ120 ～Ｐ124を読んでくる。
第13回　SDGsを取り上げながら総合的な学習の時間の内容を理解する。	SDGsについて目的や内容を事前に調べてくる。
第14回　各自の課題の設定と探究を通し総合的な時間を体験する。	課題の設定と追究しレポートの原案を作成してくる。
第15回　各自の発表を通して総合的な学習の時間の理解を深める。	自分のレポートを完成してくる。
第16回　試験	

■ 履修上の注意

■ 成績評価方法・基準

・小論文（20%），期末試験（50%），講義中の議論への貢献度合い（30%）を総合して評価する。
・授業中に発表する機会があります。発表後その場でコメントします。

■ 教科書

〔中学校学習指導要領解説　特別活動編〕〔文部科学省〕〔256円＋税〕

■ 参考書

参考資料

〔NEW学級力向上プロジェクト：小中学校のクラスが変わる　学級力プロット図誕生！〕〔今宮信吾、田中博之編著〕〔金子書房〕〔1，980円〕

■ 備考

質問は授業中及び授業後も受け付けます。東北生活文化大学高等学校入試広報室にいます。

教育方法論（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。） (19809)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専２年・服専２年・美表２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
教職に関する科目
清　水　禎　文　　松　尾　　広

■ 授業の概要

教育方法に関する基本的な概念や視点を確認し、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育方法を理解し、実践できるようにする。

また教育を行う上での必要な情報通信技術の知識・技能を学び、情報機器活用方法を身につける。

■ 授業の到達目標　　学位授与の方針との関連

①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

・教育方法の基本的な理論と実践を理解する。
・教育の目的に適した教育方法・指導技術を理解し、身につける。
・情報通信技術の活用の意義を理解し、指導法を身につける。

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション・教育方法・技術を学ぶ意義 （担当：清水）	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第２回　教育方法、技術の理論　教授から学習へ （担当：清水）	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第３回　教育方法の前提としての教授＝学習環境 （担当：清水）	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第４回　「資質・能力」と「主体的・対話的で深い学び」 （担当：清水）	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第５回　授業の構成要素と学習指導案 （担当：清水）	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第６回　教育内容・教材と効果的な教育方法 （担当：清水）	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第７回　学習評価の理論と方法 （担当：清水）	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第８回　現代社会におけるICTの役割、教育へのICT活用 （担当：松尾）	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第９回　主体的・対話的、個別最適な学習へのICT活用 （担当：松尾）	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第10回　ICTを活用した学習指導 （担当：松尾）	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第11回　遠隔・オンライン教育による学び （担当：松尾）	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第12回　ICTを活用した校務の推進 （担当：松尾）	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第13回　情報活用能力の育成 （担当：松尾）	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。

第14回　情報モラル・情報セキュリティ （担当：松尾）	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第15回　学校におけるICTの在り方 （担当：松尾）	事前学修：講義資料を読んでくること（90分）。 事後学習：ワークシートと課題に取り組むこと（90分）。課題はClasseoomに提出すること。
第16回　定期試験	

■ 履修上の注意

Google Classroom を使用します。講義資料やワークシート、参考文献等は事前にアップします。各自ダウンロードして、予習、復習をしてください。

■ 成績評価方法・基準

レポート課題20%、試験80%

■ 教科書

授業の中で資料（プリント）を配布する。

■ 参考書

〔中学校学習指導要領（平成29年度告示）〕〔文部科学省〕〔326円〕
〔高等学校学習指導要領（平成30年度告示）〕〔文部科学省〕〔666円〕

■ 備考

質問等については、授業終了後受け付ける。

生徒指導の理論と方法Ａ（進路指導の理論及び方法を含む。）

(19810)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専３年・美表３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
教職に関する科目
福　島　朋　子　　佐々木　　晃

■ 授業の概要

一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、適切かつ組織的に生徒指導を進めていくための資質、能力を身につけるための知識や考え方などについて講義する。生徒指導の理論と生徒指導にかかる今日的課題を理解し、望ましい生徒指導の進め方を学修する。生徒指導に関する多くの具体的な事例をケーススタディとして学びあい、そのために必要な知識・技能の習得を図ることを目指す。進路指導（キャリア教育含む）の意義・理論・指導の在り方についても取り上げる。

中学校勤務経験を有する教員が、実際の教育現場に必要とされる、望ましい生徒指導のあり方、および方法、教育効果について解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・１）生徒指導・生徒指導の意義や原理を理解する。 ・２）生徒指導・生徒指導における集団指導・個別指導の進め方を理解する。 ・３）学修した内容を活用して新たな問題への対応策を考えることができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション 生徒指導の意義と課題（福島）	生徒指導提要第１章第１節を読む
第２回　教育課程における生徒指導の位置づけ　（福島）	生徒指導提要第１章第２節を読む
第３回　集団指導と個別指導の方法原理　（福島）	生徒指導提要第１章第４節を読む
第４回　進路指導の意義と課題　（福島）	資料（参考書第２章）を読む
第５回　キャリアカウンセリングの考え方　（福島）	資料（参考書第２章）を読む
第６回　キャリア教育の視点とカリキュラムマネジメント　（福島）	資料（参考書第２章）を読む
第７回　生徒理解と生徒指導・進路指導①：生徒理解の方法　（福島）	生徒指導提要第３章を読む
第８回　生徒理解と生徒指導・進路指導②：発達の理解　（福島）	生徒指導提要第３章を読む
第９回　生徒指導・進路指導の指導体制　（佐々木）	生徒指導提要第３章を読む
第10回　校則・懲戒・体罰等に関する法令の理解　（佐々木）	生徒指導提要第３章を読む 12に関する資料を踏まえて発表準備する
第11回　個別の課題を抱える児童生徒への指導（1） ：暴力行為・いじめへの対応　（佐々木）	13に関する資料を踏まえて発表準備する 生徒指導提要第４章を読む
第12回　個別の課題を抱える児童生徒への指導（2） ：不登校への対応　（佐々木）	14に関する資料を踏まえて発表準備する 生徒指導提要第１０章Ⅱを読む
第13回　個別の課題を抱える児童生徒への指導（3） ：SNSや性に関する課題・児童虐待への対応　（佐々木）	生徒指導提要第１１章を読む
第14回　生徒指導・キャリア教育と家庭・地域との連携　（佐々木）	生徒指導提要第３章を読む
第15回　まとめ　（佐々木）	課題レポートを作成する

■ 履修上の注意

教員を目指す者としての自覚を持って講義に臨んで下さい。

■ 成績評価方法・基準

授業内の課題とレポート（70%）、発表会での発表内容（30%）
授業内課題については、授業中にフィードバックします。
レポートについては、解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとします。

■ 教科書

［はじめて学ぶ生徒指導・進路指導］［広岡義之］［ミネルヴァ書房］［2，376円］
［生徒指導提要］［文部科学省］［298円］
［生徒指導提要（改訂版）］［文部科学省］

■ 参考書

［カウンセリングを教育に生かす］［宮前理編著］［八千代出版］［2，160円］

■ 備考

１）都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。

２）質問等については授業終了時に受け付けます。

教育相談

(19811)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年・服専３年・美表３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
教職に関する科目
宮　前　　理

■ 授業の概要
現在、学校現場で多くの教員が出会い苦慮している諸問題と対応のあり方について教育相談という観点から講義する。いじめ、不登校、非行、発達障害、LGBT、自殺などについて具体的な事例を取り上げながら概説し、そこから教員として理解しておかなければならない課題と教員としての対応方法を教授する。また「カウンセリング」の基本的な理論を論じ、演習を取り入れながらその具体的手法を指導する。また教育相談の進め方と組織的取り組みの重要性を論じる。

■ 授業の到達目標　　学位授与の方針との関連
①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

・１　学校現場で生じる諸問題を理解する。
　２　学校現場における教育相談の意義と理論を理解する。
　３　教育相談の具体的手法と組織的取り組みを必要性を理解する。

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　講義概要の説明と諸注意 教育相談の意義と学習課題	教育現場における教育相談の意義について理解する
第２回　教育相談に関わる心理学の諸理論	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第３回　児童生徒理解の方法（テスト法、観察法、面接法など）	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第４回　「不登校」問題の理解と対応	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第５回　「いじめ」問題の理解と対応	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第６回　「非行」問題の理解と対応	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第７回　「発達障害」問題の理解	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第８回　「発達障害」問題への対応	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第９回　「LGBT」問題の理解	配布資料を熟読しておくこと
第10回　「LGBT」問題への対応	配布資料を熟読しておくこと
第11回　「自殺」問題の理解と対応	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第12回　カウンセリングの基礎理論	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第13回　カウンセリングの基礎技法	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第14回　教育相談の進め方	テキストの当該部分を熟読しておくこと
第15回　教育相談と組織的取り組みの重要性	テキストの当該部分を熟読しておくこと

■ 履修上の注意
講義の１回目に諸注意を伝えます。

■ 成績評価方法・基準
レポート課題の提出３０％、最終試験７０％で評価します。レポート課題についてはフィードバックを行います。

■ 教科書
下記の教科書を講義の第一回目までに購入しておいてください。
[心理臨床の育み]［宮前理編著］［八千代出版］［2000円＋税］ ISBN 978-4-8429-1772-6C3011

■ 参考書
講義時に指示します。

■ 備考
質問は演習時やオフィスアワーで受付けます。オフィスアワーでの質問等は事前にメール予約してください。
講義内容が一部変更になる場合があります。

教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む。）

(19820)

単位：５
対象学科：服専４年・美表４年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択
教職に関する科目
宮　前　　理　　山　口　刀　也　　山　沢　智　樹

■ 授業の概要

中学校教諭一種免許状の取得を目指し、3週間程度の教育実習と学内での事前・事後指導を行う。事前指導では、学校現場における実習に向けて必要な準備や心構えの確認、事前学習における課題を確認する。実習受入校では、実習先の教員の指導の下、生徒の観察、対応、教材研究等に取り組む。実習校においてその他、教員による講義の受講、個別指導、観察実習、授業実習等を行う。事後指導では、実習期間中に観察・体験することのできた学校現場の様子をレポートにまとめるための、体験や実践の振り返りを行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1.実習先の指導教員等の実施する授業について、視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。 ・2.学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解できる。 ・3.実習校の教育課程並びにそれらを実施するための組織体制について理解することができる。 ・4.生徒の実態等を踏まえて、学習指導要領を参酌した学習指導案を作成し、実践することができる。 ・5.学習指導に必要な諸技術を実地に即して身につけ、適切な場面で情報機器を活用することができる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　事前指導①（講義） 教育実習とは何か	（事前）これまでの教職課程での学修を振り返る。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第２回　事前指導②（講義） 教育実習の準備と心構え	（事前）実習校についての情報収集を行う。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第３回　事前指導③（講義） 実習受入校に関する事前研究	（事前）実習前に確認が必要な事項について確認しておく。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第４回　事前指導④（講義） 学校現場におけるICT活用	（事前）実習における自身の実践課題を考える。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第５回　教育実習（15日間程度）実習先の教員の指導の下、生徒の観察、対応、教材研究等に取り組む。その他、教員による講義の受講、個別指導、観察実習、授業実習等を行う。	（事前）翌日の実習で必要な準備に取り組む。 （事後）1日の実習で学んだことを日誌にまとめる。
第６回　事後指導①（講義） 教育実習を終えて	（事前）実習に関する資料を整理する。 （事後）レポート作成に向けて体験したことを整理する。
第７回　事後指導②（講義） 教師を取り巻く課題	（事前）レポートの主題について考える。 （事後）レポート作成に取り組む。
第８回　事後指導③（講義） 学校を取り巻く課題	（事前）レポートの構成について考える。 （事後）レポート作成に取り組む。
第９回　事後指導④（講義） 教育実習の経験を綴る	（事前）レポートを読み直し、加筆修正を行う。 （事後）教育実習レポートを仕上げる。

■ 履修上の注意

・本科目は教職科目の一つであるため、教員免許取得に向けて真摯な姿勢（Ex.教員として勤務することになった際の責務を自覚するetc.）で受講することを強く求める。
・教育実習Ⅰは、中学校教諭一種免許状取得に向けたものである。
・事前・事後の学修について、上記の内容のほかに実習先からの課題が課されることもある。受入学校・教員の指示に従うこと。

■ 成績評価方法・基準

・事前・事後指導の受講状況と課題への取組み状況10%
・実習校による評価、『教育実習日誌』への記載内容等70%
・教育実習レポート20%

■ 教科書
ガイダンス等で配布された資料等を携帯すること。

■ 参考書
なし。

■ 備考
・教育実習へ向けた個別指導の機会を積極的に活用すること。
・事前指導への取組み状況によっては実習を取りやめることがある。

教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む。）

(19821)

単位：３
対象学科：服専４年・美表４年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択
教職に関する科目
宮　前　　理　　山　口　刀　也　　山　沢　智　樹

■ 授業の概要

高等学校教諭一種免許状の取得を目指し、2週間程度の教育実習と学内での事前・事後指導を行う。事前指導では、学校現場における実習に向けて必要な準備や心構えの確認、事前学習における課題を確認する。実習受入校では、実習先の教員の指導の下、生徒の観察、対応、教材研究等に取り組む。実習校においてその他、教員による講義の受講、個別指導、観察実習、授業実習等を行う。事後指導では、実習期間中に観察・体験することのできた学校現場の様子をレポートにまとめるための、体験や実践の振り返りを行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1.実習先の指導教員等の実施する授業について、視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。 ・2.学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解できる。 ・3.実習校の教育課程並びにそれらを実施するための組織体制について理解することができる。 ・4.生徒の実態等を踏まえて、学習指導要領を参酌した学習指導案を作成し、実践することができる。 ・5.学習指導に必要な諸技術を実地に即して身につけ、適切な場面で情報機器を活用することができる	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　事前指導①（講義） 教育実習とは何か	（事前）これまでの教職課程での学修を振り返る。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第２回　事前指導②（講義） 教育実習の準備と心構え	（事前）実習校についての情報収集を行う。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第３回　事前指導③（講義） 実習受入校に関する事前研究	（事前）実習前に確認が必要な事項について確認しておく。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第４回　事前指導④（講義） 学校現場におけるICT活用	（事前）実習における自身の実践課題を考える。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第５回　教育実習（10日間程度）実習先の教員の指導の下、生徒の観察、対応、教材研究等に取り組む。その他、教員による講義の受講、個別指導、観察実習、授業実習等を行う。	（事前）翌日の実習で必要な準備に取り組む。 （事後）1日の実習で学んだことを日誌にまとめる。
第６回　事後指導①（講義） 教育実習を終えて	（事前）実習に関する資料を整理する。 （事後）レポート作成に向けて体験したことを整理する。
第７回　事後指導②（講義） 教師を取り巻く課題	（事前）レポートの主題について考える。 （事後）レポート作成に取り組む。
第８回　事後指導③（講義） 学校を取り巻く課題	（事前）レポートの構成について考える。 （事後）レポート作成に取り組む。
第９回　事後指導④（講義） 教育実習の経験を綴る	（事前）レポートを読み直し、加筆修正を行う。 （事後）教育実習レポートを仕上げる。

■ 履修上の注意

・本科目は教職科目の一つであるため、教員免許取得に向けて真摯な姿勢（Ex.教員として勤務することになった際の責務を自覚するetc.）で受講することを強く求める。
・教育実習Ⅱは、高等学校教諭一種免許状取得に向けたものである。中学校教諭一種免許状と両方の取得を目指す場合は、教育実習Ⅰを受講登録すること。
・事前・事後の学修について、上記の内容のほかに実習先からの課題が課されることもある。受入学校・教員の指示に従うこと。

■ 成績評価方法・基準
・事前・事後指導の受講状況と課題への取組み状況10%
・実習校による評価、『教育実習日誌』への記載内容等70%
・教育実習レポート20%

■ 教科書
ガイダンス等で配布された資料等を携帯すること。

■ 参考書
なし。

■ 備考
・教育実習へ向けた個別指導の機会を積極的に活用すること。
・事前指導への取組み状況によっては実習を取りやめることがある。

教職実践演習（中・高）

(19812)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専４年・美表４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
教職に関する科目
宮　前　　理　　山　口　刀　也　　山　沢　智　樹

■ 授業の概要

教職課程の総まとめとして、中学・高校の教科教育の教員として求められる基本的な資質・能力を育む。介護等体験、教育実習をはじめ、教職専門科目の学習成果を踏まえ、教科指導、生徒指導、教育方法、学級経営に関する諸問題について講義と討議を行う。また教職経験者（ゲストスピーカー）による現在の学校教育の諸問題について幅広い指導を受ける。教育実習時の指導案の見直しなど研究授業等を再検討した上で教育実習報告会で発表する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1.教育に対する使命感、責任感、規範意識を養い、教育的愛情をもって職務を遂行することができる。	
・2.生徒理解を基盤として適切な生徒指導や学級経営ができる。	
・3.学習指導の基礎的理解・基本的方法を習得する。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　履修上の諸注意　（宮前、山沢）	既習の教職専門科目や教育実習等を振り返り、教職に関する学習課題を考える
第２回　教職課程履修科目の確認と省察等（宮前、山沢 ）	既学習した教職専門科目を復習しておく
第３回　教職の意義、教員の使命、教員の職務等について（討議、検討）（宮前、山沢）	「教職概論」の講義内容を復習すること
第４回　教育実習における教科指導の諸問題（ロールプレイングを含む）（宮前、山沢）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第５回　教育実習における生徒指導の諸問題（ロールプレイングを含む）（宮前、山沢）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第６回　教育経験者による講義（主として生徒指導、学級経営について）（宮前、山沢）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第７回　教育経験者による講義（主として教科指導、道徳教育について）（宮前、山沢）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第８回　教員間、保護者、地域の人々との連携・協力のあり方（講義）（宮前、山沢）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第９回　学校をめぐるの昨今の状況（講義）（宮前、山沢）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること
第10回　教育実習報告会の開催に向けて：目的・目標の検討（宮前、山沢）	教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること
第11回　教育実習報告会の開催に向けて：報告内容の検討（宮前、山沢）	教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること
第12回　教育実習報告会の開催に向けて：環境整備、必要機材の検討（宮前、山沢）	教科指導、生徒指導に関する教育実習時の諸問題を把握しておくこと
第13回　教育実習報告会の発表資料の作成（宮前、山沢）	関連資料を読んでおくこと
第14回　教育実習報告会の予行（宮前、山沢）	発表資料を作成し発表リハーサルを実施すること
第15回　教育実習報告会（発表）と教員の講評（宮前、山沢）	発表を振り返り、講評で指摘された点を検討すること

■ 履修上の注意

１回目に履修状の注意と授業の進め方について説明する。

■ 成績評価方法・基準

授業への参加状況（発言、発表、討議の状況）３０％、課題への取組み３０％、実習報告会の発表４０％によって総合的に評価する。課題については授業で講評を行う。

■ 教科書

授業前に資料を配布する。

■ 参考書

〔中学校学習指導要領（平成29年告示）〕〔文部科学省〕
〔高等学校学習指導要領（平成30年告示）〕〔文部科学省〕
〔中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総則編〕〔文部科学省〕
〔高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説総則編〕〔文部科学省〕
※いずれも文部科学省webサイトよりpdfファイルで入手可能
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm

■ 備考

質問等は授業終了後やオフィスアワーで受け付けます。受講人数等の事情により授業計画の修正を行う場合があります。

生徒指導の理論と方法Ｂ

(19813)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
教職に関する科目
福　島　朋　子　　佐々木　　晃

■ 授業の概要

一人ひとりの生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、適切かつ組織的に生徒指導を進めていくための資質、能力を身につけるための知識や考え方などについて講義する。生徒指導の理論と生徒指導にかかる今日的課題を理解し、望ましい生徒指導の進め方を学修する。生徒指導に関する多くの具体的な事例をケーススタディとして学びあい、そのために必要な知識・技能の習得を図ることを目指す。
中学校勤務経験を有する教員が、実際の教育現場に必要とされる、望ましい生徒指導のあり方、および方法、教育効果について解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・１）生徒指導・生徒指導の意義や原理を理解する。 ・２）生徒指導・生徒指導における集団指導・個別指導の進め方を理解する。 ・３）学修した内容を活用して新たな問題への対応策を考えることができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション　（福島）	生徒指導提要第１章第１節を読む
第２回　生徒指導の意義と課題　（福島）	生徒指導提要第１章第１節を読む
第３回　教育課程における生徒指導の位置づけ　（福島）	生徒指導提要第１章第２節を読む
第４回　教科･道徳･総合的学習の時間･特別活動と生徒指導　（福島）	生徒指導提要第２章を読む
第５回　集団指導と個別指導の方法原理　（福島）	生徒指導提要第１章第４節を読む
第６回　教育相談と生徒指導　（福島）	生徒指導提要第５章第1節を読む
第７回　生徒理解と生徒指導・進路指導①：生徒理解の方法　（福島）	生徒指導提要第３章を読む
第８回　生徒理解と生徒指導・進路指導②：発達の理解　（福島）	生徒指導提要第３章を読む
第９回　生徒指導の指導体制　（佐々木）	生徒指導提要第３章を読む
第10回　校則・懲戒・体罰等に関する法令の理解　（佐々木）	生徒指導提要第３章を読む 12に関する資料を踏まえて発表準備する
第11回　個別の課題を抱える児童生徒への指導① ：暴力行為・いじめへの対応　（佐々木）	13に関する資料を踏まえて発表準備する 生徒指導提要第４章を読む
第12回　個別の課題を抱える児童生徒への指導② ：不登校への対応　（佐々木）	14に関する資料を踏まえて発表準備する 生徒指導提要第10章Ⅱを読む
第13回　個別の課題を抱える児童生徒への指導③ ：SNSや性に関する課題・児童虐待への対応　（佐々木）	生徒指導提要第11章を読む
第14回　生徒指導と家庭・地域との連携　（佐々木）	生徒指導提要第3章を読む
第15回　まとめ　（佐々木）	課題レポートを作成する

■ 履修上の注意

教員を目指す者としての自覚を持って講義に臨んで下さい。

■ 成績評価方法・基準

授業内の課題とレポート（70%）、発表会での発表内容（30%）
授業内課題については、授業中にフィードバックします。
レポートについては、解答例をまとめたレジュメを配布することでフィードバックとします。

■ 教科書

［はじめて学ぶ生徒指導・進路指導］［広岡義之］［ミネルヴァ書房］［2，376円］
［生徒指導提要］［文部科学省］［298円］
［生徒指導提要（改訂版）］［文部科学省］

■ 参考書

［カウンセリングを教育に生かす］［宮前理編著］［八千代出版］［2，160円］

■ 備考

1）都合により、授業計画の順番等を変更することがあります。

2）質問等については授業終了時に受け付けます。

栄養教育実習事前事後指導

(19822)

単位（総授業時間数＋自習時間）：１（15 + 30）
対象学科：健専４年
授業形態：講義　学期：通年（前）　必・選：選択
教職に関する科目
宮　前　　理　　山　口　刀　也　　山　沢　智　樹

■ 授業の概要

栄養教諭一種免許状の取得を目指し、1週間程度の栄養教育実習に向けた学内での事前・事後指導を行う。事前指導では、学校現場における実習に向けて必要な準備や心構えの確認、事前学習における課題を確認する。事後指導では、実習期間中に観察・体験することのできた学校現場の様子をレポートにまとめるための、体験や実践の振り返りを行う。

■ 授業の到達目標

・1.栄養教諭の役割と職務内容を実地に即して理解できる。
・2.生徒の実態等を踏まえて、栄養指導案を作成し、実践することができる。
・3.栄養指導に必要な諸技術を実地に即して身につけ、適切な場面で情報機器を活用することができる。

学位授与の方針との関連

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

■ 授業計画

	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　事前指導①（講義） 栄養教育実習とは何か	（事前）これまでの教職課程での学修を振り返る。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第２回　事前指導②（講義） 栄養教育実習の準備と心構え	（事前）実習校についての情報収集を行う。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第３回　事前指導③（講義） 実習受入校に関する事前研究	（事前）実習前に確認が必要な事項について確認しておく。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第４回　事前指導④（講義） 学校現場におけるICT活用	（事前）実習における自身の実践課題を考える。 （事後）実習に向けた準備を進める。
第５回　事後指導①（講義） 栄養教育実習を終えて	（事前）実習に関する資料を整理する。 （事後）レポート作成に向けて体験したことを整理する。
第６回　事後指導②（講義） 教師を取り巻く課題	（事前）レポートの主題について考える。 （事後）レポート作成に取り組む。
第７回　事後指導③（講義） 学校を取り巻く課題	（事前）レポートの構成について考える。 （事後）レポート作成に取り組む。
第８回　事後指導④（講義） 栄養教育実習の経験を綴る	（事前）レポートを読み直し、加筆修正を行う。 （事後）教育実習レポートを仕上げる。

■ 履修上の注意

・本科目は教職科目の一つであるため、教員免許取得に向けて真摯な姿勢（Ex.教員として勤務することになった際の責務を自覚するetc.）で受講することを強く求める。
・事前・事後の学修について、上記の内容のほかに実習先からの課題が課されることもある。受入学校・教員の指示に従うこと。

■ 成績評価方法・基準

・事前・事後指導の受講状況と課題への取組み状況30%
・栄養教育実習レポート70%

■ 教科書

ガイダンス等で配布された資料等を携帯すること。

■ 参考書

なし。

■ 備考

・栄養教育実習へ向けた個別指導の機会を積極的に活用すること。
・事前指導への取組み状況によっては実習を取りやめることがある。

栄養教育実習

(19823)

単位：１
対象学科：健専４年
授業形態：実習　学期：通年　必・選：選択
教職に関する科目
宮　前　　理　　山　口　刀　也　　山　沢　智　樹

■ 授業の概要

栄養教諭一種免許状の取得を目指し、1週間程度の教育実習を行う。実習受入校では、実習先の教員の指導の下、生徒の観察、対応、教材研究等に取り組む。実習校においてその他、教員による講義の受講、個別指導、観察実習、授業実習等を行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1.実習を通して、学校教育全般に関する理解と教職としての専門性の認識を深める。 ・2.授業参観や実践授業を行うことにより、教材研究や指導技術の具体的方法を理解する。 ・3.各種活動を通して児童・生徒と直接触れ合うことにより、栄養教諭に求められる役割を理解する。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　教育実習（5日間程度）実習先の教員の指導の下、生徒の観察、対応、教材研究等に取り組む。その他、教員による講義の受講、個別指導、観察実習、授業実習等を行う。	（事前）翌日の実習で必要な準備に取り組む。 （事後）1日の実習で学んだことを日誌にまとめる。

■ 履修上の注意

・本科目は教職科目の一つであるため、教員免許取得に向けて真摯な姿勢（Ex.教員として勤務することになった際の責務を自覚するetc.）で受講することを強く求める。
・栄養教育実習は、栄養教諭一種免許状取得に向けたものである。
・事前・事後の学修について、上記の内容のほかに実習先からの課題が課されることもある。受入学校・教員の指示に従うこと。

■ 成績評価方法・基準

・実習校による評価、『教育実習日誌』への記載内容等80%
・教育実習レポート20%

■ 教科書

ガイダンス等で配布された資料等を携帯すること。

■ 参考書

なし。

■ 備考

・教育実習へ向けた個別指導の機会を積極的に活用すること。
・事前指導への取組み状況によっては実習を取りやめることがある。

教職実践演習（栄養教諭）

(19814)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：健専４年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
教職に関する科目
宮　前　　理　　山　口　刀　也　　山　沢　智　樹

■ 授業の概要

教職課程の総まとめとして、学校給食をはじめとする食育に関する講義と討議から栄養教諭として求められる基本的な資質・能力を育む。栄養教育実習をはじめ、教職専門科目の学習成果を踏まえて、教科指導、生徒指導、教育方法、学級経営に関する諸問題について講義と討議を行う。また教職経験者（ゲストスピーカー）による現在の学校教育の諸問題について幅広い指導を受ける。栄養教育実習時の指導案や研究授業等を再検討した上で栄養教育実習報告会で発表する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1. 教育に対する使命感、責任感、規範意識を養い、教育的愛情をもって職務を遂行することができる。 ・2. 学校給食をはじめ食育に必要な基本的知識・技術を指導できる。 ・3. 学校という教育機関の一員として他の教職員と協力して職務を遂行できる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　履修上の諸注意（宮前、山沢）	既習の教職専門科目や教育実習等を振り返り、教職に関する学習課題を考える
第２回　教職課程履修科目の確認と省察等（宮前、山沢）	既学習の教職専門科目を復習しておく。
第３回　栄養教諭の意義、教員の使命、教員の職務等について（講義）（宮前、山沢）	「教職概論」の授業内容を復習すること。
第４回　食育に関する諸問題（学校給食を中心に）について（講義）（宮前、山沢）	授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。
第５回　学校給食の歴史と実情、給食指導について（講義）（宮前、山沢）	授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。
第６回　教育経験者による講義（主として生徒指導、学級経営について）（宮前、山沢）	授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。
第７回　教育経験者による講義（主として教科指導、道徳教育について）（宮前、山沢）	授業内容に関する課題を期限までに提出すること。
第８回　教員間、保護者、地域の人々との連携・協力のあり方（講義）（宮前、山沢）	授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。
第９回　学校をめぐる昨今の状況（講義）（宮前、山沢）	授業内容に関する課題を出すので期限までに提出すること。
第10回　栄養教育実習報告会の開催に向けて：目的・目標の開催（宮前、山沢）	教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること。
第11回　栄養教育実習報告会の開催に向けて：報告内容の検討（宮前、山沢）	教育実習の状況についての報告と研究授業学習指導案を提出すること。
第12回　栄養教育実習報告会の開催に向けて：環境整備、必要機材の検討（宮前、山沢）	教科指導、生徒指導に関する教育実習時の諸問題を把握しておくこと。
第13回　栄養教育実習報告会の発表資料の作成（宮前、山沢）	資料を読んでおくこと。
第14回　栄養教育実習報告会の予行（宮前、山沢）	発表資料を作成すること、発表リハーサルを実施すること。
第15回　栄養教育実習報告会（発表）と教員の講評（宮前、山沢）	発表を振り返り、講評で指摘された点を検討すること

■ 履修上の注意

１回目に履修上の注意と授業の進め方について説明する。

■ 成績評価方法・基準

授業への参加状況（発言、発表、討議の状況）３０％、課題への取り組み３０％、実習報告会の発表４０％によって総合的に評価する。課題については授業で講評を行う。

■ 教科書
授業前に資料を配布する。

■ 参考書
〔食に関する指導の手引き：第二次改訂版〕〔文部科学省〕

■ 備考
質問等は授業終了後やオフィスアワーで受け付けます。受講人数等の事情により授業計画の修正を行う場合があります。

家庭科教育法Ⅰ

(19815)

単位（総授業時間数＋自習時間）：４（60 + 120）
対象学科：服専３年
授業形態：講義　学期：通年　必・選：選択
教職に関する科目
佐　藤　郷　美　　石　川　り　か

■ 授業の概要
学校現場における教員・教育行政・校長職等の実務経験をいかし、家庭科教育における教育目標，育成を目指す資質・能力や学習指導要領に示された家庭科教育の学習内容（A家族・家庭生活，B衣食住の生活，C消費生活・環境）について，背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに，様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法とともに学習指導案の作成や模擬授業を通して，指導技術の向上を図る。
テーマ　～家庭科教育の理解と指導技術の向上を目指して～

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・家庭科教育に関する学習指導要領に示された目標や内容を身に付ける。 ・家庭科教育に関する具体的な学習指導理論を身に付ける。 ・家庭科における具体的な授業場面を想定した授業設計を身に付ける。	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　家庭科教育とは　家庭科で育てる資質・能力について （担当：佐藤郷美）	学習指導要領の基本方針を読む
第２回　家庭科教育の歴史とその変遷 （担当：佐藤郷美）	家庭科教育の変遷について調べる
第３回　家庭科教育の意義とその展望 （担当：佐藤郷美）	最近のニュース等で家庭科記事の収集
第４回　小学校における家庭科教育の内容について （担当：佐藤郷美）	小学校での学びのまとめ
第５回　中学校における家庭科教育の内容について （担当：佐藤郷美）	中学校での学びのまとめ
第６回　高等学校における家庭科教育の内容について （担当：佐藤郷美）	高校での学びのまとめ
第７回　ホームプロジェクト・家庭クラブと技能検定 （担当：佐藤郷美）	教科書関連部分を読む
第８回　教科，道徳及び総合的な学習などとの関連・教育課程 （担当：佐藤郷美）	学習指導要領，関連部分を読む
第９回　情報機器の操作と活用 （担当：佐藤郷美）	学習指導要領，関連部分を読む
第10回　学習指導計画①　作成の意義，留意点，等 （担当：佐藤郷美）	学習指導要領，関連部分を読む
第11回　学習指導計画②　年間指導計画案と題材指導計画案 （担当：佐藤郷美）	学習指導要領，関連部分を読む
第12回　学習指導案の作成（その形式と留意点） （担当：佐藤郷美）	今までの家庭科授業の学びのまとめ
第13回　学習指導過程の作成①（導入・展開） （担当：佐藤郷美）	指導案の作成
第14回　学習指導過程の作成②（展開・終結） （担当：佐藤郷美）	指導案の作成
第15回　学習指導案過程の作成に関するまとめと試験 （担当：佐藤郷美）	今までの学びの復習
第16回　家庭科教育に関する施設・設備の必要性と管理運営 （担当：石川りか）	学習指導要領、関連部分を読む
第17回　学習指導方法①　学習類型と指導形態（中学校） （担当：石川りか）	学習指導要領、関連部分を読む
第18回　学習指導方法②　学習類型と指導形態（高等学校） （担当：石川りか）	学習指導要領、関連部分を読む

第19回	学習指導方法③　実験・実習の指導と家庭科の特質 （担当：石川りか）	学習指導要領、関連部分を読む
第20回	家庭科教育における教材研究①（中学校）　教材作成上の留意点 （担当：石川りか）	家庭科食と衣の教材調べ
第21回	家庭科教育における教材研究②（高等学校）　教材作成上の留意点 （担当：石川りか）	家庭科食と衣の教材調べ
第22回	家庭科教育における教材研究③　教材づくりと授業の実際 （担当：石川りか）	教材づくりと発表準備
第23回	評価について　評価方法とその実際 （担当：石川りか）	評価について調べる
第24回	学習指導案の作成　（前段・本時の指導） （担当：石川りか）	学習指導案の題材を決め、本時の指導を構想する
第25回	学習指導案作成発表 （担当：石川りか）	学習指導案づくりと発表準備
第26回	模擬授業①　主に導入 （担当：石川りか）	模擬授業の準備、まとめ（導入）
第27回	模擬授業②　展開 （担当：石川りか）	模擬授業の準備、まとめ（展開）
第28回	模擬授業③　板書・学習用プリント （担当：石川りか）	模擬授業の準備、まとめ（板書・学習プリント作成）
第29回	模擬授業④　まとめの工夫 （担当：石川りか）	模擬授業の準備、まとめ（まとめの工夫）
第30回	これまでの学習のまとめと試験 （担当：石川りか）	これまでの学びをまとめる

■ 履修上の注意

自主的・意欲的に受講し、指示された提出物は期限を守ること。

■ 成績評価方法・基準

講義と共に実践的・体験的な学びに対する真摯な取組を重視する。
講義への取組状況　30%　試験　30%　提出課題及び模擬授業　40%
課題等については、授業中にフィードバックをします。

■ 教科書

家庭科教育法 改訂版　　佐藤文子・川上雅子共著　高陵社書店　2，000円＋税
中学校　教科書　技術・家庭（家庭分野）　開隆堂　643円
高校　教科書　家庭基礎（令和４年度版）　明日の生活を築く　開隆堂　535円
※授業ごとに適宜必要なプリントを配布する。

■ 参考書

小学校学習指導要領解説　家庭編　東洋館　95円
中学校学習指導要領解説　技術・家庭編　文部科学省/編　教育図書　82円
高等学校学習指導要領解説　家庭編　文部科学省（著）288円

■ 備考

・都合により、授業計画の順番を変更することがあります。
・質問等については授業終了時に受け付けます。

家庭科教育法Ⅱ

(19816)

単位（総授業時間数＋自習時間）：４（60 + 120）
対象学科：服専４年
授業形態：講義　学期：通年　必・選：選択
教職に関する科目
石　川　り　か

■ 授業の概要
家庭科教育法Ⅰで学んだ内容をさらに深めながら、学校教育において家庭科を学ぶ意義と学校段階間のつながりを踏まえた中学校「技術・家庭」の家庭分野及び高等学校家庭科の授業実践力の修得を目指す。
そのための学習計画・指導法・学習評価・教材研究の進め方・教材教具の作成等演習を重視して、総合的・実践的な学習能力と態度を育成する。また現代を生きる力を養成するための家庭科教育の望ましい指導の在り方について理解を深める。高等学校家庭科教員の経験を生かして、アクティブラーニング形式で授業を進めていく。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・中学（高等学校）家庭科学習指導要領を理解した上で指導案を計画し、それに基づいた模擬授業を実践できる知識・技能を持って、実践し学習評価することができる。 ・中学（高等学校）家庭科学習指導要領を理解した上で教材研究・教材教具を作成し、充実した授業内容にするよう努力できる。 ・家庭科教育の歴史的背景を踏まえながら、今後の教科の方向性についても真摯に取り組むことができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：年間予定 教育実習確認　模擬授業実践計画	シラバスの確認　中学・高等学校学習指導要領の示す家庭科教育についてまとめる
第２回　教育実習：教育実習事前指導　①シラバス	中学・高校それぞれの授業の『年間計画』について調べてまとめる。
第３回　教育実習：教育実習事前指導　②教材研究・指導案	教育実習で行う学校の（中・高）の教材研究・指導案を調べてまとめる。
第４回　教員採用試験にむけて①・指導細案作成方法	前回の教材研究・指導案をさらに深める。
第５回　模擬授業実践に向けて（教材研究の要点）	教材研究についての資料を集めて、具体的に教材を作成し、次回提出。
第６回　情報機器の操作と活用法	情報機器についての操作と活用方法について、具体的な活用方法を調べまとめる。
第７回　模擬授業Ⅰ：模擬授業実践①（導入の工夫・展開の山場）	模擬授業内容のタイムテーブルを作成
第８回　模擬授業Ⅰ：模擬授業実践②（まとめと板書の工夫）	模擬授業内容のポイントをまとめ、板書すべきことをまとめる。
第９回　模擬授業Ⅰ：模擬授業実践③（評価の工夫）	学習評価についてまとめる。
第10回　模擬授業Ⅰ：模擬授業実践④（教材教具の工夫と掲示）	模擬授業内容の教材教具について作成し、次回発表できるように準備。
第11回　教育実習のまとめ：教育実習の反省・評価・まとめ	模擬授業内容についてアンケート用紙を作成。
第12回　教育実習研究授業実践発表会・評価（中学校）	教育実習研究授業内容について、自分で授業の準備をし、授業する①
第13回　教育実習研究授業実践発表会・評価（高校）	教育実習研究授業内容について、自分で授業の準備をし、授業する②
第14回　模擬授業実践の反省・評価　教員採用試験に向けて②	教員採用試験に向けての準備・集団面接練習
第15回　指導案・授業構成　まとめ　試験	前半のまとめ 夏季休業中の『課題』説明
第16回　学習指導計画：体験・実習・実験学習指導法	学習指導計画表の作成 課題確認
第17回　実践学習指導①：実践学習の進め方（保育・福祉分野）	体験学習授業時の注意・進め方・工夫
第18回　実験・実習学習指導の進め方①：食物分野	食物分野の実習・実験の例をレポートにまとめる
第19回　実験・実習学習指導の進め方②：衣生活分野	衣生活分野の実習・実験の例をレポートにまとめ
第20回　模擬授業の計画：模擬授業指導案作成（食物・衣生活分野）	模擬授業指導案作成（食物・衣生活分野）
第21回　模擬授業Ⅱ（食物分野）：実験学習指導①	授業内容のタイムテーブルを作成・導入
第22回　実験学習指導②（展開の工夫・山場・板書）	学習プリントの作成　実習教材作成・試作・レポ

	ートを作成し提出する。
第23回　実践学習指導②（食物）	日本の食文化　『マイ箸』製作　感想レポートを提出
第24回　実践学習指導③（被服　基礎）	被服製作
第25回　実践学習指導④（被服　応用）	被服製作
第26回　実践・実験学習指導（実習・学習プリント）	中学・高校それぞれに対応する学習プリントの作成　提出
第27回　模擬授業Ⅲ（視聴覚教材の活用）	視聴覚教材を活用した授業実践
第28回　模擬授業Ⅳ（各種パンフレットの活用）	各種パンフレットを使用した授業実践
第29回　家庭科教育の変遷と歴史	家庭科教育の変遷について確認
第30回　これまでのまとめ　今後の家庭科教育の方向性	模擬授業Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの感想をレポートにまとめる

■ 履修上の注意

・受講は、自分が授業を行うことを想定し指導する実践的指導を身につけるためにも、教科書（小学・中学・高校）・学習指導要領の精読を心掛ける。

・家庭科の内容は多岐にわたり、日々変化している内容もあります。生きること、生活すること、社会の動きに常に敏感で好奇心を持つ。さらに、日常生活を楽しみながら理論的に考え実践する態度や意欲が重要です。

■ 成績評価方法・基準

講義への取り組み状況40%　試験30%　模擬授業の実践30%（学習指導計画案、指導技術、態度等）

■ 教科書

〔新家庭科教育法〕〔池﨑喜美恵・仙波圭子・青木幸子・小林陽子・野上遊夏・室雅子　共著〕〔学文社〕〔2，970円〕
〔中学校　教科書　技術・家庭（家庭分野）（令和３年度版）〕〔開隆堂〕〔680円〕
〔高校　教科書　家庭基礎（令和４年度版）明日の生活を築く〕〔開隆堂〕〔535円〕
※授業ごとに適宜必要なプリントを配布する。

■ 参考書

家庭科教育法Ⅰで使用したものを継続使用する
〔小学校学習指導要領解説　家庭編〕〔東洋館〕〔95円〕
〔中学校学習指導要領解説　技術・家庭編〕〔文部科学省／編　教育図書〕〔82円〕
〔高等学校学習指導要領解説　家庭編〕〔文部科学省（著）〕〔288円〕
〔高校　教科書　家庭総合（令和４年度版）明日の生活を築く〕〔開隆堂〕〔733円〕
〔新版授業力ＵＰ　家庭科の授業〕〔伊藤葉子編著〕〔日本標準〕〔2，000円〕

■ 備考

・やむを得ない事由により、欠席することが事前にわかっている場合は必ず申告すること。
・授業終了時に質問を受け付けます。
・レポートの提出は次回提出を原則とするが、都合により当日の提出となることもある。
・提出されたレポートは、後日添削して返却する。
・都合により、授業計画の順番を変更することがあります。
・実験実習を行う場合、それに伴う諸経費を徴収することもある。

美術科教育法Ⅰ

(19817)

単位（総授業時間数＋自習時間）：４（60 + 120）
対象学科：美表３年
授業形態：講義　学期：通年　必・選：選択
教職に関する科目
横　山　美喜子

■ 授業の概要
中学校美術科・高等学校美術科の教員が身に付けるべき教育理念についての理解を図る。学習指導要領における美術科の目標と内容及び、学習指導要領に基づく年間指導計画の意味について理解を図る。授業を展開するための基礎的な指導理論や、表現及び鑑賞の幅広い活動における創造的な技能を育成する指導方法の修得を図る。実務経験を生かし、より具体的な教材研究や模擬授業に関する指導を行い，４年次での教育実習に向けての準備としていきたい。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・中学校美術科・高等学校美術科の教員が身に付けるべき教育理念について理解する。 ・学習指導要領における美術科の目標と内容及び、学習指導要領に基づく年間指導計画の意義について理解する。 ・題材における教材としての価値を把握し、具体的授業を想定した授業計画を立てて、学習指導案の作成を行う。 ・授業を展開するための基礎的な指導理論に基づき、指導する上での留意点を理解し，模擬授業を通して学習指導案の具体的実践を体験し，授業改善の視点を理解する。 ・４年次での教育実習における基本的・実践的な学習指導方法の基礎を養い、創造的・造形的視点での授業が展開できる力を身に付ける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション，１年間の講義を通して、身に付けるべきことを知る。	配布されたレジュメによく目を通し，ファイリングを始める。
第２回　教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則といった法律に示された学校教育の理念を理解する。	学校教育の理念について，講義内容を理解・把握する。
第３回　学習指導要領について①（学習指導要領とは何か）	レジュメを熟読しておく。
第４回　学習指導要領について②（中学校美術科と小学校図画工作科）	レジュメを熟読しておく。
第５回　学習指導要領について③（中学校美術科の目標について）	学習指導要領及びレジュメを熟読しておく。
第６回　学習指導要領について④（中学校美術科の内容について）	学習指導要領及びレジュメを熟読しておく。
第７回　教科書について①（教科書の在り方）	取り上げた題材に関わる中学校美術の教科書の内容及びレジュメを熟読しておく。
第８回　教科書について②（授業を考えよう）	教科書会社の資料などを熟読しておく。
第９回　学習指導案について①（指導案の様式と内容）	指導案のそれぞれの項目とその内容についてレジュメを熟読しておく。
第10回　学習指導案について②（指導案を書く） ・題材について　・題材の評価規準	レジュメを熟読し、時間内に書ききれなかった部分を書いておく。
第11回　学習指導案について③（指導案を書く） ・指導計画　・本時の指導	レジュメを熟読し、時間内に書ききれなかった部分を書いておく。
第12回　学習指導案について④（指導案を書く） ・ICTの活用　・ギガスクールについて	レジュメを熟読し、時間内に書ききれなかった部分を書いておく。
第13回　学習指導案について⑤（指導案の完成・提出）	模擬授業の準備を始める
第14回　模擬授業について① ・模擬授業の実践のために指導案の内容をより具体的に深める。	中学校美術の学習を思い出しながら、授業の構想を練る。
第15回　模擬授業について② ・全員が行う模擬授業のグループ分け。授業日の決定	中学校美術の学習を思い出しながら、授業の展開を考える。
第16回　模擬授業１ ・グループ内全員で、互いの授業を見合う。	模擬授業のリハーサルをしておく。
第17回　模擬授業２ ・ポスターセッション方式で、他のグループの授業も見て、検討会に参加する。	模擬授業のリハーサルをしておく。
第18回　模擬授業３（全体で模擬授業を振り返る。）	全員の指導案に目を通しておく。

第19回	「鑑賞」の指導案作成① ・「表現」と「鑑賞」の指導案の違い	中１～３の教科書をよく読み、鑑賞の題材から自分が授業を行いたい題材を選んでおく。
第20回	「鑑賞」の指導案作成② ・美術と道徳について	前回以上のよい指導案を目指して準備を始める。
第21回	「鑑賞」の指導案作成③ ・例となる実際の授業の概要を知る。	授業で使用する資料や参考作品について考える。
第22回	「鑑賞」の指導案作成④ ・例となる実際の授業のポイントを知る。	授業の中で自分なりの工夫はできないか考える。
第23回	「鑑賞」の指導案完成	全員の指導案に目を通しておく。
第24回	模擬授業４ ・グループ内の全員で短い時間の模擬授業を行う。	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
第25回	模擬授業５ ・グループの代表者の授業を全員で受け、検討会を行う。	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
第26回	高等学校の指導要領について① ・芸術科（美術）と美術科の違い　・中学校美術科との違い	高校の美術の授業の内容を振り返る。
第27回	高等学校の指導要領について② ・芸術科（美術）の目標と内容	指導要領の抜粋を熟読しておく。
第28回	芸術科（美術）の教科書について	高校の教科書のの抜粋を熟読しておく。
第29回	芸術科（美術）の指導案について	中学校美術科の指導案の様式と比べておく。
第30回	１年間の授業のまとめと教育実習に向けて	配布された全レジュメのファイリングを確認する。

■ 履修上の注意

・講義時に適宜配布するレジュメを順次ファイリングしていき，受講の際は必ず持参すること。

・自主的，意欲的に受講し，講義中は進んでメモを取るなど自己の学修の積み重ねに努め，提出物は期限厳守で提出すること。

■ 成績評価方法・基準

レポート・提出物（学習指導案他）（25%）、模擬授業（25%）、受講態度（25%）、試験（25%）

・提出されたレポート等は，後日添削して返却する。

・模擬授業演習は，授業でのフィードバックと紙面による講評を行う。

■ 教科書

〔中学校学習指導要領解説　美術編〕〔平成29年告示　文部科学省〕〔115円〕

〔高等学校学習指導要領解説　芸術編〕〔平成30年告示　文部科学省〕〔495円〕

その他、授業毎に適宜，テキストに代わるプリント（レジュメ）を配布する。

■ 参考書

〔中学校美術科教科書〕〔日本文教出版〕〔1，000円前後〕，〔中学校美術資料集〕〔秀学社編〕〔790円程度〕

■ 備考

質問等については，授業終了時に受付けます。

美術科教育法Ⅱ

(19818)

単位（総授業時間数＋自習時間）：４（60 + 120）
対象学科：美表４年
授業形態：講義　学期：通年　必・選：選択
教職に関する科目
横　山　美喜子

■ 授業の概要
美術科教育法Ⅰの学修をふまえ、美術科教員としての実践力を高めることをねらいとする。指導案の作成においてはより具体的に、教材の分析や生徒の実態の把握、指導法の工夫を行い、現場に即した内容となるよう指導していく。模擬授業の展開にあたっては、グループの中で互いに授業を見合い、意見を交換し合うなどして、授業の内容をより深めていけるよう指導する。実務家教員であることを生かし、美術指導における「指導と評価」のあり方や美術教育の意義やねらいについて、自己の考えを具体的にもつことができるように指導していきたい。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・美術科における効果的指導力の向上を目指し、学習指導要領の全体構造を理解、把握する。 ・生徒の発達段階における思考力や学力等の実態を考慮した授業計画を立案できる。 ・美術科の特性に応じた教材の選択や情報機器の活用法について理解し、自己の授業設計に活用していくことができる。 ・美術科の指導理論の理解、把握の下に学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業の実践を充実させることができる。 ・美術科における学習の評価について理解し、授業計画に取り入れて活用することができる。 ・美術教育の持つ意義と目標を理解し、そこから学校現場における実践感覚を育み、自己の指導力の向上に努めることができる。	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション。年間の学修計画を知り、見通しをもつ。	配布されたレジュメによく目を通し，ファイリングを始める。
第２回　教育実習に向けて①（実習校の概要、美術科の年間指導計画を知り、中心授業の内容について考える。）	実習校のHPなどから、学校の概要について調べておく。
第３回　教育実習に向けて②（授業の三要素について）	実習校でのオリエンテーションでわかったことを整理しておく。
第４回　教育実習に向けて③（学習指導案の書き方を確認する。）	美術科教育法Ⅰの復習と確認を行う。
第５回　教育実習に向けて④（指示された中心授業に関する指導案を作成する。）	授業で使う資料や参考作品などの教材研究を進める。
第６回　教育実習に向けて⑤（学校現場の状況と実習生に対する一般的な対応について伝える。）	美術の授業以外での留意点なども確認する。
第７回　実習報告①（実習全般の様子と中心授業の内容を報告及び他の受講者との質疑応答）	報告に備えての準備を行う。 他の受講者の指導案を熟読しておく。
第８回　実習報告②（実習全般の様子と中心授業の内容を報告及び他の受講者との質疑応答）	報告に備えての準備を行う。 他の受講者の指導案を熟読しておく。
第９回　実習報告③（実習全般の様子と中心授業の内容を報告及び他の受講者との質疑応答）	報告に備えての準備を行う。 他の受講者の指導案を熟読しておく。
第10回　指導案の作成①（指導案の振り返りを行う。教材研究を深め生徒の実態をさらに詳しく把握する。）	指導対象の生徒を想定しておく。
第11回　指導案の作成②（実習を終えた段階でのより現場に沿った指導案を作成する。）	指導の流れを想定しておく。
第12回　指導案の作成③（ICTの活用を工夫する。）	指導上の技術について考える。
第13回　指導案の作成④（指導案の完成・提出）	間に合わない場合は課題とする。
第14回　指導案の振り返り①（チェックされた内容を確認し、より良い形にする。）	さらに工夫できる点はないか考える。
第15回　指導案の振り返り②（具体的な指導の場面を想定し、さらに内容を深める。）	さらに工夫できる点はないか考える。
第16回　模擬授業①（提出した指導案に基づいた授業と検討会の実施）	自己の模擬授業の準備や練習を行う。

第17回	模擬授業②（提出した指導案に基づいた授業と検討会の実施）	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
第18回	模擬授業③（提出した指導案に基づいた授業と検討会の実施）	他の受講者の授業を見て自分だったらどうするか考える。
第19回	教育技術に関するチェックシートに沿って、自分の授業を振り返る。	これまでの授業についても振り返る。
第20回	指導案の作成①（まだ作っていない領域の指導案を考える。）	最後の指導案作成の題材を選択する。
第21回	指導案の作成②（道徳との関連について考える。）	道徳と美術のこれまでの指導案における関連を振り返る。
第22回	指導案の作成③（カリキュラムマネジメント、SDGsなど現代的課題と美術との関連を生かした授業について知る。）	現代的課題と美術のこれまでの指導案における関連を振り返る。
第23回	指導案の作成④（指導案の提出、完成）	間に合わない場合は課題とする。
第24回	模擬授業①（提出した指導案に基づいた授業と検討会の実施）	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
第25回	模擬授業②（提出した指導案に基づいた授業と検討会の実施）	自己の模擬授業の準備や練習を行う。
第26回	模擬授業③（提出した指導案に基づいた授業と検討会の実施）	自他の模擬授業から学んだことを振り返り，美術科の指導の基本やポイントについてまとめておく。
第27回	年間指導計画の作成について①（指導要領から）	指導要領における年間指導計画に関する記述を熟読しておく。
第28回	年間指導計画の作成について②（教科書会社の資料から）	教科書会社の資料における年間指導計画に関する記述を熟読しておく。
第29回	年間指導計画の作成について③（中学校美術科の全学年の年間指導計画を作成する。）	自校独自のものとなる要素（地域性や行事との関連など）について考えておく。
第30回	１年間の振り返りと美術教師としての心構えについて	配布された全レジュメのファイリングを確認

■ 履修上の注意

・講義時に適宜配布するレジュメを順次ファイリングしていき，受講の際は必ず持参すること。

・自主的，意欲的に受講し，講義中は進んでメモを取るなど自己の学修の積み重ねに努め，提出物は期限厳守で提出すること。

■ 成績評価方法・基準

レポート・提出物（学習指導案・年間指導計画他）（25%）、模擬授業（25%）、受講態度（25%）、試験（25%）

・提出されたレポート等は，後日添削して返却する。

・模擬授業演習は，授業でのフィードバックと紙面による講評を行う。

■ 教科書

〔中学校学習指導要領解説　美術編〕〔平成29年度告示　文科省〕〔115円〕

〔高等学校学習指導要領解説　芸術編〕〔平成30年度告示　文科省〕〔495円〕

＊上記2点は３年次に購入のものを継続使用

＊その他、授業毎に適宜，テキストに代わるプリント（レジュメ）を配布する。

■ 参考書

〔中学校美術科教科書〕〔日文出版〕〔1，000円前後〕，〔中学校美術資料集〕〔秀学社編〕〔790円程度〕

＊３年次に購入のものを継続使用

■ 備考

質問については，授業終了時に受付けます。

工芸科教育法

(19819)

単位（総授業時間数＋自習時間）：４（60 + 120）
対象学科：美表３年
授業形態：講義　学期：通年　必・選：選択
教職に関する科目
瀬　戸　典　彦

■ 授業の概要
①人間、教育、学校、芸術の定義と関係性について考察を促す。②教育の意味及び、教育における芸術科の役割について教授する。③「高等学校学習指導要領解説　芸術（音楽　美術　工芸　書道）編　音楽編　美術編」に表記された「工芸」の目的とその特長について理解を促す。④工芸科における教材開発能力を育成する。⑤模擬授業の実践をとおして、学習指導案作成の経験値と授業実践力の向上を図る。⑥人間、教育、学校、芸術、工芸科の可能性について示唆を与える。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・高等学校教育における工芸科の意味と重要性について説明できる。 ・学習指導要領解説（工芸科）に示された教科の目的と内容を理解する。 ・人間本質の凝縮に基づき、学習・授業・学校の役割と在り方について考察する。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　オリエンテーション　工芸科教育の現状と可能性について	ワークシート、「工芸科は必要か？」による復習
第２回　人間と教育について①林竹二の教育論をとおして	ワークシート、「林竹二の何がすごいか？」による復習・予習
第３回　人間と教育について②授業の役割　教師の役割	ワークシート、「林先生が伝えようとしたこと」による復習・予習
第４回　人間と教育について③芸術教育と工芸科の役割について	ワークシート、「林竹二が工芸の先生だったら」による復習・予習
第５回　人間と教育について④シュタイナー教育の原点をとおして（子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性について）	ワークシート、「シュタイナー教育の原点」による復習・予習
第６回　人間と教育について⑤能動的学習の意味と工芸科における応用について	ワークシート、「学びと遊びの関係について」による復習・予習
第７回　教育と表現教育・国家と経済と精神性に関する考察をとうして	ワークシート、「教育と国家のあり方について」による復習・予習
第８回　鑑賞教育の意味とあり方について	ワークシート、「工芸科教育に鑑賞は必要か？」による復習・予習
第９回　鑑賞教育と道徳教育についてビアジェの「三つの山問題」をとおして	ワークシート、「ピアジェが伝えようとしたこと」による復習・予習
第10回　工芸科における社会的視点について①バウハウスに至るまで	ワークシート、「バウハウス前夜」による復習・予習
第11回　工芸科における社会的視点について②バウハウスのコンセプト	ワークシート、「グロピウスの夢」による復習・予習
第12回　工芸科における社会的視点について③バウハウスにおける実験	ワークシート、「イッテンとシュレーマーの何が面白いか」による復習・予習
第13回　工芸科における社会的視点について④バウハウスの遺産・製品デザインに与えた影響をとおして	ワークシート、「マリアナ・ブラントの何が凄い」による復習・予習
第14回　工芸科における社会的視点について⑤バウハウスの遺産・建築デザインに与えた影響をとおして	ワークシート、「シカゴの街並みはどこから？」による復習・予習
第15回　工芸科における社会的視点について⑥バウハウスの遺産・教育に与えた影響をとおして	ワークシート、「反アカデミズムという考え」による復習・予習
第16回　学習指導要領解説「改訂の意図」について	ワークシート「高等学校教育の中の芸術科の中の工芸科の位置と役割」による復習・予習
第17回　学習指導要領解説（工芸科）における工芸Iの位置づけについて-「工芸I」(文部科学省認定済教科書)の概要について	ワークシート、「芸術科の中の工芸科の中の『工芸I」による復習・予習
第18回　学習指導要領解説（工芸科）における工芸IIの位置づけについて-「工芸II」(文部科学省認定済教科書)の概要について	ワークシート、「芸術科の中の工芸科の中の『工芸II」による復習・予習
第19回　学習指導要領解説（工芸科）における工芸IIIの位置づけについ	ワークシート、「芸術科の中の工芸科の中の『工

	て	芸III」による復習・予習
第20回	「工芸I」(文部科学省認定済教科書)の具体的応用について	ワークシート、「指導要領が示唆する『工芸I」の題材とは」による復習・予習
第21回	「工芸II」(文部科学省認定済教科書)の具体的応用について	ワークシート、「指導要領が示唆する『工芸II」の題材とは」による復習・予習
第22回	工芸IIIの具体的展開について学習指導要領解説（工芸科）に沿って	ワークシート、「指導要領が示唆する『工芸III」の題材とは」による復習・予習
第23回	学習指導要領解説（工芸科）に即した評価方法について	ワークシート、「評価、どうする？」による復習・予習
第24回	学習指導要領解説（工芸科）における「A表現」に係る学習指導案の作成	指導案作成（A表現に係る）
第25回	学習指導要領解説（工芸科）における「A 表現」に係る模擬授業の実践と振り返り	模擬授業準備（A表現に係る）
第26回	学習指導要領解説（工芸科）における「B 鑑賞」に係る学習指導案の作成について（授業における情報機器等の効果的活用方法を含む）	指導案作成（B鑑賞に係る）
第27回	学習指導要領解説（工芸科）における「B鑑賞」に係る模擬授業の実践と振り返り（授業における情報機器等の効果的活用方法を含む）	模擬授業準備（B鑑賞に係る）
第28回	学習指導要領解説（工芸科）における「共通事項」に係る学習指導案の作成について（授業における情報機器等の効果的活用方法を含む）	指導案作成（「共通事項」に係る）
第29回	学習指導要領解説（工芸科）における「共通事項」に係る模擬授業の実践と振り返り（授業における情報機器等の効果的活用方法を含む）	模擬授業準備（「共通事項」に係る）
第30回	工芸科の可能性と応用について （発展的な学習内容に関する探求と授業実践の事例をとおして）	ワークシート、「1年で感じたこと、学んだこと」

■ 履修上の注意
やむを得ず遅刻／欠席する場合は、事前連絡を原則とする。
遅刻・欠席の扱いについては、初回授業時に確認する。
模擬授業は、Google Meetを介して行うこととする。

■ 成績評価方法・基準
ワークシート：60%（フィードバックを行う）　　指導案：20%（フィードバックを行う）　　模擬授業：20%（フィードバックを行う）

■ 教科書
高等学校学習指導要領解説　芸術（音楽　美術　工芸　書道）編　音楽編　美術編（データ版：無料）

■ 参考書
〔工芸I〕〔工芸II〕〔日本文京出版株式会社〕

■ 備考
オフィスアワー：2時間/１週（曜日/時間については、初回授業の際に連絡する）
コロナウィルス感染拡大等の影響により当該シラバスに沿った授業の継続が困難となった場合は、シラバスを変更する。

博 物 館 に 関 す る 科 目

生涯学習概論

(19901)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専１年・美表１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
博物館に関する科目
伊　藤　　優

■ 授業の概要
社会教育の歴史を辿りながら、生涯学習の全体像を明らかにする。また、「生涯教育論」やリカレント教育の思潮、生涯学習の多様な内容や方法、学習プランニング、プログラムの様々なあり方を解説することにより、生涯学習の基礎的理論を示す。その上で、生涯学習を推進する多様な主体の役割を示すとともに、社会教育施設の社会的位置付けを明らかにする。学習成果の活用支援・学習情報の提供・生涯各期の教育課題を通して、生涯学習の現代的な課題と今後の展望を示す。（社会教育施設実務者が担当）

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・1. 生涯学習に関する歴史・方法・計画・課題等の基礎的知識を習得する。	
・2. 「生涯学習社会」における社会教育施設の役割を検討する思考を身につける。	
・3. 学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：講義の進め方・生涯学習のあり方	身近にある様々な生涯学習に関する情報や、社会教育施設を確認しておく
第２回　生涯学習と社会教育の歴史①（近代から現代）	身近にある様々な生涯学習に関する情報や、社会教育施設を確認しておく
第３回　生涯学習と社会教育の歴史②（現代）	身近にある様々な生涯学習に関する情報や、社会教育施設を確認しておく
第４回　「生涯教育論」	生涯教育論の概要を調べる
第５回　リカレント教育	リカレント教育の概要を調べる
第６回　生涯学習と学校教育	生涯学習と学校教育の相違を調べる
第７回　生涯学習の方法と内容	身近な社会教育施設の学習プログラムと社会教育関連団体を調べる
第８回　生涯学習と社会教育の計画	身近な社会教育施設の学習プログラムと社会教育関連団体を調べる
第９回　学習プログラムの編成	身近な社会教育施設の学習プログラムと社会教育関連団体を調べる
第10回　生涯学習関連行政の仕組み	身近な社会教育施設の学習プログラムと社会教育関連団体を調べる
第11回　生涯学習と社会教育施設	博物館等の役割と機能を調べる
第12回　生涯各期の教育課題	少子高齢化社会の課題を調べる
第13回　学習成果の活用支援	学習成果の活用の意義を調べる
第14回　学習情報提供と学習相談	学習情報の事例を調べる
第15回　講義のまとめ　「生涯学習社会」の課題	これまでの学修内容を復習する
第16回　試験	

■ 履修上の注意
意欲的な学修姿勢を重視する。生涯学習に関する情報に日常的に留意すること。

■ 成績評価方法・基準
事前事後学修含む受講態度（30%）、試験（70%）で評価する。試験については、解答例を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書
〔生涯学習概論　第２次改訂版〕〔佐藤晴雄〕〔学陽書房〕〔2，750円〕

■ 参考書

必要に応じて講義中に資料を配布する

■ 備考
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。

博物館概論

(19902)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専１年・美表１年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
博物館に関する科目
伊　藤　　優

■ 授業の概要
導入として、博物館の多面的な魅力を伝える。また、ICOM規約や博物館法に依拠しながら、博物館の定義・目的・分類等の概要を示す。博物館機能の資料収集・整理保管、調査、展示、教育の特色と役割を詳述しながら、そこにみられる多様な課題も示す。さらに、博物館の歴史を辿り、日本における現状を示し、関係法令や文化政策、地域社会との関係性を解説する。これらを通して、博物館や学芸員が担うべき社会的役割の全体像を示す。（歴史系博物館学芸員が担当）

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・1. 博物館の目的・機能・社会的役割等に関する基礎的知識を習得する。	
・2. 博物館や学芸員の役割を知り、直面する多様な課題を検討する思考を身につける。	
・3. 学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：講義の進め方・博物館の概要	自身のこれまでの博物館体験や、身近な博物館施設を確認する
第２回　身近な博物館（ＳＭＭＡ、歴ネット等）	自身のこれまでの博物館体験や、身近な博物館施設を確認する
第３回　博物館の定義・目的	ICOMを調べる
第４回　博物館の分類・施設・設備	博物館法を調べる
第５回　博物館の機能①（資料収集・整理保管）	博物館データベースを調べる
第６回　博物館の機能②（調査研究）	博物館研究紀要等を調べる
第７回　博物館の機能③（展示）	博物館展示情報を調べる
第８回　博物館の機能④（教育普及）	博物館教育プログラムを調べる
第９回　博物館史①（欧米の博物館）	欧米と日本の博物館情報を調べる
第10回　博物館史②（日本の博物館）	欧米と日本の博物館情報を調べる
第11回　博物館の現状	欧米と日本の博物館情報を調べる
第12回　博物館関係法令と政策	社会教育法、文化財保護法を調べる
第13回　市民と博物館	博物館ボランティアを調べる
第14回　地域社会と博物館	まちづくりと博物館を調べる
第15回　講義のまとめ　博物館・学芸員の課題とこれから	これまでの学修内容を復習する
第16回　試験	

■ 履修上の注意
意欲的な学修姿勢を重視する。積極的に博物館を訪問すること。
自習（事前・事後学修）の詳細は講義中に示す。

■ 成績評価方法・基準
事前事後学修含む受講態度（30%）、試験（70%）で評価する。試験については、解答例を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書
必要に応じて講義中に資料を配布する。

■ 参考書
なし

■ 備考
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。

博物館経営論

(19903)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専３年・美表３年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
博物館に関する科目
笠　原　信　男

■ 授業の概要
博物館は学校の生徒・学生だけでなく、一般の青少年や成人をも対象にした教育活動を行う、社会教育施設の一つである。博物館経営論では、博物館が社会教育施設として、そのあるべき姿を見定めながら、設立の使命や目的を実現し、どのように博物館組織を運営するか、について教員のこれまでの経験に基づいて解説する。具体的には、博物館の設置者・学芸員・利用者など、様々な視点から、博物館経営についての基本的な考え方・知識・動向を、それぞれの講義テーマに合わせて、時に図・表・写真等の資料・データを用いて解説する。また、博物館を訪れて、経営論の観点から実地の学習も行う。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨
・１．博物館経営についての基本的な考え方・知識を学ぶことができる。 ・２．博物館を多角的に観覧・考察する姿勢を身に付けることができる。 ・３．社会教育施設としての博物館の地域社会への役割を学ぶことができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　博物館と博物館学及び博物館経営論	博物館を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第２回　博物館の設置と使命	設置と使命を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第３回　博物館経営の考え方	経営論的思考を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第４回　博物館の経営手法	経営手法を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第５回　博物館の運営方針	運営方針を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第６回　博物館の組織	組織を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第７回　博物館の中長期計画と予算	中長期計画等を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第８回　博物館の広報活動と来館者サービス	広報を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第９回　博物館の危機管理	危機管理を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第10回　博物館経営の実際（１）現地学習（施設の構造）	訪問先の博物館の施設情報を調べ、訪問後に作成するレポートに活かす。
第11回　博物館経営の実際（２）現地学習（展示活動等）	訪問先の博物館の諸活動を調べ、訪問後に作成するレポートに活かす。
第12回　経営論から見た博物館の展示活動	展示活動を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第13回　経営論から見た博物館の教育普及活動	教育普及活動を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第14回　経営論から見た博物館の資料管理、調査研究活動	資料管理等を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第15回　経営論から見た市民参画と地域社会との連携及びまとめ	地域との連携を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

■ 履修上の注意
資格科目のため欠席のないよう望む。

■ 成績評価方法・基準
・受講態度（２０％）（学ぼうとする意欲〔発言・質問・メモ〕等で総合的に判断します）とレポート（８０％）で評価しま

す。
・レポートは最終講義で、記述内容の要点をまとめたレジュメを用いて、フィードバックします。

■ 教科書
なし

■ 参考書
〔新時代の博物館学〕〔全国大学博物館学講座協議会西日本部会〕〔芙蓉書房出版〕〔2，090円〕

■ 備考
・現地学習は訪問先の博物館の事情等の都合により、授業計画の順番を変更することがあります。
・ルーブリック評価については第１回目の授業で説明します。
・質問等については授業終了時に受け付けます。

博物館資料論

(19904)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年・美表２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
博物館に関する科目
菊　地　逸　夫

■ 授業の概要

本科目は学芸員資格取得における文部科学省令の定める博物館に関する科目「博物館資料論」である。
授業では、文化財と博物館の関わりや博物館における資料の意義と資料の活用方法について学ぶもので、学芸員に必要な博物館資料に関する基礎知識(博物館資料の収集・整理・保存などに関する知識や技術、調査研究の意義や内容)について講座を通して理解・習得する。また博物館資料に対する理解を深めるため、実物資料(浮世絵や絵画資料)から歴史を読み取る演習を行う。

■ 授業の到達目標　　学位授与の方針との関連

①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

・博物館資料の基礎的な知識を身に着ける。
・博物館資料の整理・保存・活用や文化財について理解できる。
・博物館資料の基本的な取り扱いを理解できるようになる。

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス　授業の概要説明	これまで見学した博物館の特徴を理解する
第２回　博物館資料とは	配布資料から資料の意義や種類を復習する
第３回　博物館資料の収集	資料収集の意義や目的についてまとめる
第４回　文化財と博物館	文化財と博物館の関係についてまとめる
第５回　文化財の種類と身近な文化財	県内の指定文化財について調べておく
第６回　埋蔵文化財について	県内の遺跡や貝塚・古墳について調べておく
第７回　博物館とコレクション資料	博物館とコレクション資料の関係をまとめる
第８回　博物館資料の管理	博物館資料の管理用法についてまとめる
第９回　資料の公開・展示	資料の展示や公開の意義についてまとめる
第10回　博物館資料の保存と修復について	資料の保存・修復についてまとめる
第11回　博物館におけるレプリカについて	レプリカの意義についてまとめる
第12回　博物館資料の取り扱いや資料の輸送	博物館資料の取り扱いについてまとめる
第13回　鏡の資料化(拓本と資料カードの作成)	拓本から資料カードを作成する(レポート)
第14回　美術資料の見方①(絵巻や絵画から歴史を読む)	資料から読み取れる内容をまとめる(レポート)
第15回　美術資料の見方②(浮世絵から歴史を読む)	資料から読み取れる内容をまとめる(レポート)

■ 履修上の注意

資格教科であるため出席を重視する。レポートの提出は必須。

■ 成績評価方法・基準

授業に対する意欲と姿勢(特に出席状況は重視)50%、レポート50%

■ 教科書

なし

■ 参考書

なし

■ 備考

・授業の際に資料を配布する。
・質問等については授業終了時に受け付ける。

博物館資料保存論

(19905)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年・美表２年
授業形態：講義　学期：前期　必・選：選択
博物館に関する科目
及　川　　規

■ 授業の概要

文化財は貴重な“国民的財産”であり，それを後世に伝えることは，博物館の重要な責務である。本授業では，文化財が現在に守り伝えられてきた歴史を振り返りながら，博物館資料を将来にわたって保存し，活用できるようにするための，温度・湿度，光，空気，生物などの保存環境管理や考古資料をはじめとする博物館資料の保存処理の方法についての基礎的知識・技術を学修する。
それらについて，担当者が長年歴史博物館で当該業務に従事した経験を生かして，実際の資料保存活動を例示しながら，現状の課題や問題点も含めて解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・①博物館における資料保存について基礎的知識を獲得できる。 ・②資料の保存・展示環境および収蔵環境を科学的に捉えることができる。 ・③またそれらに基づいて，実際に資料を良好な状態で保存していけるなどの基礎的なスキルを身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　博物館における資料保存の意義	後:意義について自分で考えをまとめる
第２回　資料保存の歴史・体系	前:文化財保護法の概要を調べる
第３回　資料劣化の要因と対策1ａ （温・湿度:基礎・影響・測定）	後:温度湿度の基本と測定法を復習する
第４回　資料劣化の要因と対策1ｂ（温・湿度:管理と制御）	後:温湿度の管理・制御法を復習する
第５回　資料劣化の要因と対策2(光)	後:光の影響とその管理について復習する
第６回　資料劣化の要因と対策3ａ （生物:生物被害の概要と調査）	後:加害生物例と調査法について復習する
第７回　資料劣化の要因と対策3ｂ（生物:生物被害の対策）	後:IPMと生物被害の対処法について復習する
第８回　資料劣化の要因と対策4ａ（空気質:影響と調査）	後:汚染因子の種類と影響について復習する
第９回　資料劣化の要因と対策４ｂ（空気質:管理と対策）	後:空気汚染の対策について復習する
第10回　資料の輸送	後:輸送における影響とその対策を復習する
第11回　資料の防災	後:災害･防犯対策について復習する
第12回　資料の科学的調査	後:科学的調査の特性･方法について復習する
第13回　資料の保存処理	後:出土遺産の保存処理法について復習する
第14回　資料保存の総合演習	前:これまでの学修事項を項目ごとに整理しておく
第15回　本講義のまとめと博物館資料保存における最近の話題	後:資料の保存と活用について各自の考えをまとめる

■ 履修上の注意

要点をまとめた資料を配布するが，ポイントだけでなく，疑問に思ったこと，さらに詳しく知りたいこと，自分のアイディア等をメモするなど，より主体的な取り組みに努めること。

■ 成績評価方法・基準

授業期間中に実施する課題[テスト･レポート](60%)，取組み状況[学習意欲，質問，ミニットペーパー等](40%)等から読み取れる授業目標の達成度について総合的に評価する(課題については観点ごとの配点を授業時に明示する)。ミニットペーパーについては授業内でフィードバックを行う。

■ 教科書

使用しない。講義前にプリントを配布する。

■ 参考書

[博物館資料保存論]　[石﨑武志]　[講談社]　[2，200円]

■ 備考

・配布された資料はファイルして以降の授業にも携帯すること。
・都合により，授業計画の順番等を変更することがある。
・質問等については授業前あるいは終了時に受け付けます。

博物館展示論

(19906)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専３年・美表３年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
博物館に関する科目
笠　原　信　男

■ 授業の概要
展示は博物館が行う事業の中で、中核に位置づけられており、その内容は博物館の社会的な評価にも多大な影響を与える。そのため、展示には多面的な知識や多角的な技術が求められることを踏まえ、博物館展示論では、博物館の展示を制作者の視点でアプローチするのに必要な観点を提示しながら、展示を企画し、運営するのに必要な事項を教員のこれまでの経験に基づいて各講義で説明する。大きくは、展示の理論、展示の技術、展示の装置の３つに分けて進め、展示の役割・歴史等、展示の企画の立て方、展示の道具等の概要を、それぞれの講義テーマに合わせて、時に図・表・写真等の資料・データを用いて解説する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・展示を通して博物館の基本的な考え方・知識を学ぶことができる。 ・展示を通して博物館を多角的に観覧する姿勢を身に付けることができる。 ・展示を通して社会教育施設としての博物館の役割を学ぶことができる。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　展示の理論１ー博物館における展示の役割	展示の役割を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第２回　展示の理論２ー展示の歴史	展示の歴史を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第３回　展示の理論３ー展示の諸類型、視点と運用	展示の諸類型等を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第４回　展示の理論４ー生涯学習・学校教育と展示	生涯学習・学校教育と展示を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第５回　展示の理論５ーユニバーサルミュージアムと展示	ユニバーサルミュージアムを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第６回　展示の理論６ー展示の評価	展示の評価を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第７回　展示の技術１ー展示のプロセス(企画から撤収)	展示のプロセスを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第８回　展示の技術２ー動線計画	展示の動線計画を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第９回　展示の技術３ー展示環境(リスクマネージメント等)	展示環境を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第10回　展示の技術４ー照明	展示の照明を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第11回　展示の技術５ー解説システム	展示の解説システムを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第12回　展示の技術６ーグラフィック	展示のグラフィックを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第13回　展示の技術７ー国宝・重要文化財の展示	国指定文化財の展示を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第14回　展示の装置１ー展示ケース	展示ケースを参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。
第15回　展示の装置２ーレプリカとジオラマ及びまとめ	レプリカ等の役割を参考書等で学習し、配付資料で復習し、基本的な考え方をまとめる。

■ 履修上の注意
資格科目のため欠席のないよう望む。

■ 成績評価方法・基準
・受講態度（２０％）（学ぼうとする意欲〔発言・質問・メモ〕等で総合的に判断します）とレポート（８０％）で評価します。
・レポートは必ず提出してください。
・レポートは最終講義で、記述内容の要点をまとめたレジュメを用いて、フィードバックします。

■ 教科書
なし

■ 参考書
［博物館展示論］［黒澤 浩］［講談社］［2，640円］

■ 備考
・都合により授業計画の順番等を変更することがあります。
・ルーブリック評価については第１回目の授業で説明します。
・質問等については授業終了時に受け付けます。

博物館情報・メディア論

(19907)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専２年・美表２年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
博物館に関する科目
清　水　　有

■ 授業の概要
博物館における情報・メディアの活用は、コンピュータ等の進展に伴う情報技術革新により、その意義はますます重要となっている。博物館の生涯教育・学習に占める意義が、社会的に評価されるにつれ、博物館には教育施設として、また情報を発信する基地としての役割が期待されている。一方学芸員には、情報やメディアに関する専門的な知識のみならず、それに関わる基礎的な能力を身につけることが必要といえる。本科目では、博物館学芸員としての経験を基礎とし、情報・メディアの意義と活用方法、その目的について学習する。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
・博物館における情報・メディアの意義と目的について深く理解し論じること。 ・現在の博物館・美術館を実践的に体験理解し、研究を行う素地を作ること。 ・メディアを通じてその使用方法を正しく理解し正確で道徳的な利用ができること。	①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　イントロダクション１　美術館・博物館とは何か。	自身の興味のある美術館・博物館について、様々な角度からリサーチをおこなっておく
第２回　イントロダクション２　現代の多様な館（せんだいメディアテークの場合）	当該の館の意義についてリサーチをおこなっておく
第３回　メディア概論（正しい情報発信等）	普段の生活の中から、情報やメディアがどのように活用されているかを観察し、情報メディアとは何かを考える
第４回　メディア論史（マーシャル・マクルーハンとそれ以降のメディア論）	事後は自身の興味のあるメディア論についてのリサーチをする
第５回　メディアの諸相　新聞/雑誌	情報やメディアがどのように活用されているかを観察する
第６回　メディアの諸相　インターネット/テレビ・ラジオ	情報やメディアがどのように活用されているかを観察する
第７回　メディアの諸相　写真/映画	情報やメディアがどのように活用されているかを観察する
第８回　メディアの確認考査と振返り（用語）	情報やメディアがどのように活用されているかを観察する
第９回　博物館概論	事後は自身の興味のある美術館・博物館についてリサーチをする
第10回　博物館の歴史　（第４世代型ミュージアムについて）	事後は自身の興味のある時代に建設された美術館・博物館についてリサーチをする
第11回　国内の博物館の現状１　展示とメディア　広報計画	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ、発信できるか自分なりに考える
第12回　国内の博物館の現状２　展示とメディア　動員計画	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ、発信できるか自分なりに考える
第13回　国内の博物館の現状３　展示とメディア　教育普及	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ、発信できるか自分なりに考える
第14回　国内の博物館の現状４　展示とメディア　アーカイブ	博物館の意義や魅力をいかにしてとらえ、発信できるか自分なりに考える
第15回　博物館情報・メディア論全体の確認考査	振返りの中から、理解を深める為に、よく復習を行う

■ 履修上の注意
各自、博物館や美術館での見学とレポート提出が必要です。

■ 成績評価方法・基準
学習意欲を含む授業態度40%、課題レポート30%、論文テスト30%

■ 教科書
講義の中でそのつど資料を配布します。

■ 参考書
講義の中でそのつど資料を配布します。

■ 備考
質問等については授業終了時に受け付けます。

博物館教育論

(19908)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専１年・美表１年
授業形態：講義　学期：後期　必・選：選択
博物館に関する科目
伊　藤　　優

■ 授業の概要
現代社会において博物館教育が求められている実情を、歴史的・社会的背景をもとに示す。また、博物館教育の特徴と可能性を学校教育・市民活動・生涯学習との関連から解説する。これらを踏まえた上で、博物館の諸活動にみられる教育プログラムの形態や方法を具体的に挙げ、教育プログラムの特色を館種別に紹介する。博物館教育には様々な課題も見出されることから、その解決の方策に対する理解を深める。（歴史系博物館学芸員が担当）

■ 授業の到達目標

学位授与の方針との関連
①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

・1. 学芸員に必要な博物館教育の基礎的知識を習得する。
・2. 博物館教育の多様な課題を知り、その解決方策を検討する思考を身に
　つける。
・3. 学修した情報を整理・要約・伝達する技術を習得する。

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス：講義の進め方・博物館教育の概要	博物館概論の学修内容を復習しておく
第２回　博物館教育の諸形態①（展示を中心とした教育プログラム）	展示関連の教育プログラムを調べる
第３回　博物館教育の諸形態②（展示以外の教育プログラム）	展示以外の教育プログラムを調べる
第４回　博物館での学び①（博物館教育と学校教育）	博物館教育と学校教育の相違を調べる
第５回　博物館での学び②（博物館利用者を理解する基礎理論）	構成主義的な博物館教育を調べる
第６回　博物館の教育活動①（教育プログラムの立案）	博物館教育プログラムの実際を調べる
第７回　博物館の教育活動②（教育プログラムの実施）	博物館教育プログラムの実際を調べる
第８回　博物館の教育活動③（ワークシートについて）	博物館教育プログラムの実際を調べる
第９回　博物館の教育活動④（ユニバーサルデザイン）	ユニバーサルデザインの事例を調べる
第10回　ギャラリートークの事例	ギャラリートークの意義を調べる
第11回　ワークショップの事例	ワークショップの意義を調べる
第12回　美術館・文学館・歴史博物館・大学博物館の教育プログラム	大学博物館の意義を調べる
第13回　博物館教育とボランティア	ボランティアとＮＰＯを調べる
第14回　博物館教育とさまざまな連携	学社連携・地域連携の意義を調べる
第15回　講義のまとめ　博物館教育の課題とこれから	これまでの学修内容を復習する
第16回　試験	

■ 履修上の注意
意欲的な学修姿勢を重視する。積極的に博物館教育プログラムに参加すること。
自習（事前・事後学修）の詳細は講義中に示す。

■ 成績評価方法・基準
事前事後学修を含む受講態度（30%）、試験（70%）で評価する。試験については、解答例を配布することでフィードバックとする。

■ 教科書
必要に応じて講義中に資料を配布する。

■ 参考書
なし

■ 備考
都合により、授業計画の順番等を変更することがある。質問等については、授業終了時に受付ける。

博物館実習Ⅰ（学内・見学実習を含む。）

(19909)

単位（総授業時間数＋自習時間）：２（30 + 60）
対象学科：服専３年・美表３年
授業形態：演習　学期：通年（前）　必・選：選択
博物館に関する科目
菊　地　逸　夫

■ 授業の概要
東北歴史博物館の学芸職員として教育活動(企画・展示)・研究(考古学)・資料保全を行ってきた経験をもとに、学芸員として必要な幅広い知識と基礎的な技術を身に着けさせる。
具体的な内容は、「資料の取り扱いに対する心構えや基本的な取り扱い方法(修復等も含む)、梱包の方法を身に着けるための講義や実習」「展示のできるまでを学び、模擬的な展示を企画する学習」「博物館で行われている教育普及活動(教育プログラム)を実践や講義を通して学び、自らプログラムを企画する学習」の以上３点で、これらの一連の学習を通して学芸員としての基本的知識・技術を習得する。

■ 授業の到達目標　学位授与の方針との関連

①　②　③　④　⑤　⑥　⑦　⑧　⑨

・資料の取り扱いの基礎的な技術を身に着ける。
・模擬的な展示を企画する力を身に着ける。
・博物館での教育普及活動(教育プログラム)を企画できるようになる。

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス　授業の概要説明	
第２回　博物館資料の取り扱いについて(考古資料の梱包)	配布資料を読み、取り扱いについて復習する
第３回　災害から展示物を守る(地震への対応)	県内の地震災害の歴史を調べておく
第４回　刀剣の見方と取り扱い(手入れ方法)	配布資料を読み、取り扱いについて復習する
第５回　資料の撮影について(資料写真の撮り方)	カメラの基本的な取り扱いを予習する
第６回　特別展について(特別展の紹介)	配布資料で特別展示ができるまでを復習する
第７回　シナリオ作成、資料選択の方法、展示プランについて	自分が関心のある展示を考えておく(事後)
第８回　展示のプラン作成、企画書作成	展示のシナリオをまとめておく(事後)
第９回　博物館の教育普及活動の紹介	博物館の教育普及活動について調べておく
第10回　教育プログラム実践①(縄文土器についての説明)	土器作りの知恵についてまとめておく
第11回　教育プログラム実践②(土器作りの実践)	実践した内容をまとめる(レポート)
第12回　博物館の教育普及活動の計画(企画書作成)	活動プログラムを企画(企画書)
第13回　レプリカの製作	レプリカの活用の意義について調べておく
第14回　文化財の修復(考古資料)	授業後修復資料を完成させる。
第15回　文化財の修復(紙資料)	古文書などの修復方法について調べておく

■ 履修上の注意
資格教科であるため出席を重視する。企画書の提出は必須。

■ 成績評価方法・基準
授業に対する意欲と姿勢50%、レポート(企画書)50%

■ 教科書
なし

■ 参考書
なし

■ 備考
授業の際に資料を配布する。資料の手配等の都合により、授業順は変更する場合がある。
質問等については授業終了時に受け付けます。

博物館実習Ⅰ（学内・見学実習を含む。）

(19910)

単位（総授業時間数＋自習時間）：（45 + 30）
対象学科：服専３年・美表３年
授業形態：演習　学期：通年（後）　必・選：選択
博物館に関する科目
落　合　里　麻

■ 授業の概要

本授業では学内実習と見学実習を行う。学内実習では、学芸員課程で学んだ理論や知識を踏まえ、作品・資料を扱う際に必要となる知識や技術を実習形式で修得させる。博物館資料の収集、整理、保管、調査研究、資料の扱い、展示などの基本事項を教授した上で、一人一人に実践させる。見学実習では、博物館の展示室とバックヤードの見学を行い、利用者と学芸員（企画、管理する側）の双方の立場から博物館の活動を理解させる。現職の学芸員の話を聞き、博物館の現状と問題点について考察させる。

■ 授業の到達目標	学位授与の方針との関連
	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
・学芸員養成教育において学んだ知識・技術や理論を総合的に活用し、社会で自律的に活動できる能力を身につける。	

■ 授業計画	自習（事前・事後学修の内容）
第１回　ガイダンス、4年次の館園実習に関する説明	便覧の学芸員資格の頁をよく読んでおく
第２回　顕彰館と短大資料室の見学、額装の吊り方（説明）	希望する実習先について調べる 額装の展示位置の計算方法について復習する
第３回　額装の扱いと吊り方（実践）	展示方法について復習する
第４回　古美術品と箱の扱い、紐の掛け方	紐の掛け方を復習し、習得する
第５回　古美術品（陶磁器、漆器、金工品）と箱の扱い	素材ごとの扱いの基本を復習する
第６回　外部講師による授業　表具の歴史（講義）	表具の歴史について復習する
第７回　外部講師による授業　掛軸の扱い（実践）	掛軸を掛け方・しまい方を復習する
第８回　古美術品（御物袋、仕覆）の扱い 着物の扱い	緒の結び方、着物の畳み方を復習する
第９回　作品・資料の調査と整理（講義、実践）	調査時の心得について復習する
第10回　作品・資料の調査と整理　顕彰館の資料の調査①（撮影、画像処理）	掛軸の各部の名称と種類について復習する
第11回　作品・資料の調査と整理　顕彰館の資料の調査②（PCで入力）	日本画の画材や技法について復習する
第12回　作品・資料の調査と整理　顕彰館の資料の調査③（作品・資料カード完成）	作品・資料カードの文章をまとめ、内容の不備や誤字・脱字がないか確認する
第13回　掛軸の箱を制作する①（説明、掛軸の採寸、計算）	制作手順について復習する
第14回　掛軸の箱を制作する②（仕上げ）	箱に番号と写真を貼って完成させる
第15回　掛軸を顕彰館に収蔵し、15回の授業のまとめを行う	実習生記録を清書し、提出する

■ 履修上の注意

・授業内で4年次の館園実習の実習先選定と実習生記録の作成を行う。
・県外の博物館・美術館で見学実習を行う。日時については授業内で指示する。

■ 成績評価方法・基準

授業の取り組みに対する意欲と姿勢（40%）、見学レポート（30%）、実務実習評価（30%）で評価する。

■ 教科書

特に定めない。各単元でプリントを配布する。

■ 参考書

〔博物館資料取扱いガイドブック〕〔日本博物館協会〕〔ぎょうせい〕〔2，750円＋税〕
〔日本画用語事典〕〔東京藝術大学大学院文化財保存学日本画研究室〕〔東京美術〕〔3，500円＋税〕
他、授業内で紹介する。

■ 備考

授業計画の順番を変更する場合がある。質問等については、授業内あるいはオフィスアワーに受け付ける。